前田日明総帥、"アブダビ""KOK"を語りまくる!

25
2000

紙のプロレス RADICAL

「長州力への返答」! &
4・7ゴールデン・タイムで
破壊王と最後の激突!
小川直也

"vsグレイシー戦"突破!
次なる"どデカイ"照準は?
田村潔司

自叙伝出版記念&
『PRIDE・GP』決勝大会進出記念
スペシャル対談実現!!
石川雄規 vs 小路晃

4・7飯塚高史戦にテイクオフ!
UFOの特攻隊長、爆進!!
村上一成

5・1『PRIDE・GP』決勝トーナメント進出!
本誌初降臨! 巻頭ロング・インタビュー!!
藤田和之

世紀の一戦まで、あとわずか!
ヒクソン戦間近の船木誠勝に
ヨガを通してA浜口がエール!

WWF特集再び!
『紙プロAMERICAN』
「語ろう、ザ・ロック!」

「J-CUP」&「デビュー10周年」
を語りまくりますよ〜!
ザ・グレート・サスケ

エンセンが本誌に大激怒!!

今号も座談会ロマンを突き進みます!!
田村vsヘンゾ戦で立ち昇った
「UWF」とは何か?

"考える野獣"よ、
「新プロレス」へ突き進めーッ!
格闘ロマン、続行ーッ!!

青春の大発見シリーズ第2弾! 必読!
堀辺正史骨法創始師範が
『PRIDE』で起こった
革命的事件を大発見!

本誌独占取材!
ミスター高橋&藤原喜明&ドン荒川
新日本プロレスリング・セキュリティー
「ボディガード養成講座」
秩父合宿ルポ

「日本プロレスリング協会」旗揚げ!
どーするどーなる?
「プロレスリング」復興大計画発覚!

紙のプロレスRADICAL NO.25
前田日明プロデューサー本格デビュー!!

発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

本書は、石川雄規からの「**挑発状**」である。

「ザマァミロッ!!　読まない奴がバカなんだッ!!」(byイカレ社長)

情念

〜夢一途なり〜

石川雄規著

書いて 書いて 文字書いて
裸になったら見えてきた
本当の自分の姿
(アントーイ石川)

いよいよ3月25日発売!!
(一部地域によっては発売日が異なります)

**『紙のプロレスRADICAL』誌上で約2年半続いた、ドラマチックな自叙伝的連載エッセイに大幅加筆十書き下ろし！
さらに創作劇場も歴史的インタビューもある、『読まなっかたら、墓を掘り起こして骨壷に糞を入れられる』という情念の新刊！
発売がどんなに遅れても笑いながら歩こうぜ!!**

石川雄規
情念
ユウキが一番！
アントニオ猪木

これも期待！　特別ベルト文
アントニオ猪木

四六判ハードカバー
定価1619円十税

何としても手に入れたい!! という情念溢れるアナタに送る通販方法
定価¥1700十宅急便送料¥500を現金書留で㈱ダブルクロスまで送ってください
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
㈱ダブルクロス　「情念固め」係まで　㊣03-3403-5188

発売：ワニマガジン社　発行：ダブルクロス
問い合わせ：03-3403-5188(ダブルクロス)

「新プロレス」へ突き進めーーッ!!

よーし、

"猪木イズム"を携えた『思考する野獣』誕生ーーッ!!

5・1『PRIDE・GP』間近!!
エンセンを破り、
アブダビ・コンバットを
2階級制覇した
〝霊長類最強の男〟を迎撃!!

KAZUYUKI FUJITA

目の前のニンジンに パッと飛びつける プロレスラーが いてもいいと思う!

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

聞き手/山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影/森“モーリー”鷹博
photographs by Morry

藤田和之

本誌初降臨!!

1・30『PRIDE・GP』1回戦で、ハンス・ナイマンを破り決勝トーナメントへと駒を進めた藤田和之。次なる敵は"霊長類最強の男"マーク・ケアー! 一気にバーリ・トゥーダーとしてのステップを上げることができるのか――ん? バーリ・トゥーダー? すんまそん。藤田はれっきとした「プロレスラー」でした。勝手に言わせてもらうと、前号で提唱した「新プロレス」(仮称)の旗手として、藤田は、どんなに険しい道でも、笑って行くつもりなのである。そーゆーわけで、藤田のプロレス観、ケアー戦、猪木さんの話を聞きたいと思い、本誌初のロング・インタビューを試みたというわけだ。そもそも藤田和之とはどんな男なのか。藤田和之の大いなる可能性に触れるべく、行きますかーッ!(アントン調)。

――いきなりですけど、藤田さんって非常に不気味ですよね(笑)。なにかこう、鬱蒼と茂る草むらの向こうから観察されてる感じがしますよ。

藤田　どんな草ですか?

――やっぱジャングルですかね。野獣だけに(笑)。

藤田　いや、観察なんかしてないですよ(笑)。

――まあ今日は、そういう意味で非常に怖い気もするんだけど、どんなに道は険しくても笑って行きますんで、よろしくお願いします(笑)。

藤田　あ、はい。

――今、身体のほうはどうなんですか?

藤田　大丈夫ですよ。お陰さまで。

――扁桃炎というのは、どういう症状?

藤田　扁桃腺が炎症起こすことですね。

――あ、そのまんま(笑)。

藤田　ただノドが塞がれちゃって、苦しくなっちゃう。ボク、去年も入院してたんだけど、手術できなかったんですよ。

――1月30日前は、オーバーワークで左太ももが肉離れを起こしてしまったんですよね。

藤田　あれは、シアトルから日本に帰ってきて試合直前にやっちゃったんですよ。今はもう大丈夫です。体調的にはもう万全ですね。

――では、大ブレイクした(ハンス・)ナイマン戦を振り返ってみたいんですけど。

藤田　エ! 大ブレイクなんてしてないですよ!

――あれを大ブレイクと言わないなら、なにが大ブレイクなんでしょう(笑)。

藤田　でも環境が変わったりとかはしてないですからね(淡々と)。

――そう言うあたりが大物の片鱗ですよね。

藤田　大物じゃないッスよ!(笑)。

――いや、でもシロウト目に凄いなと思ったのが、初のバーリ・トゥード(以下VT)なのに、相手にプレッシャーをまったくかけられてないというか、かけられてもそれを跳ね返してるところなんですよ。

藤田　まあ、何も知らなかったからですよ(淡々と)。

――予備知識がない分、逆に思い切っていけたということですか?

藤田　そうですね。持ってるもんないし(微笑)。

――また(笑)。

藤田　いや、VTに対して持ってるものがないってことですよ。だから、自分が持ってるものでやらなきゃ負けちゃう。……まあ、でも……。

――何ですか!?

藤田　なにも考えてなかったですよ！

――ズコッ！　そう言えるところが精神力の強さでしょうね。シロウト目から見ると（笑）。

藤田　ボクもシロウトですよ（微笑）。

――そんなシロウトいません（笑）。で、ドームでは、精神力の強さを見せてくれた人が光りましたよね。藤田選手しかり、アレク選手しかり。それは、アマレス時代に培ったのか、それともプロレスで培ったものなのか、どっちですか？

藤田　プロレスのときは、アマレスのときのプレッシャーを体験したことが自分の経験として活かせてたし、今度の『PRIDE』では、プロレスでたくさんの人の前で闘えたこととか、いろんなタイプの選手と闘えたことが活かせたし、まあ、アマレスとプロレスの両方の経験を活かせたと思いますね。まあ場数踏んでいきゃあ、なんとかなるもんですよ。だから、そんなに屁理屈並べてもしょうがないですからね（笑）。

――ガハハハ。ところでナイマンという選手は、実際に肌合わせてみてどうでした？

藤田　う〜ん、顔が怖い！　そう思ったから、試合中に目ェそらしちゃいました（笑）。

――ナイマンも藤田さんの顔は怖かったと思いますよ（笑）。

藤田　二人して、このあたり（胸のあたりを指さす）を見てたんじゃないですかね（笑）。でも、そんなもんですよ。視線はフッと合わせただけ（笑）。

――ところで、猪木さんは、『PRIDE』に藤田さんが出陣する際に、「みんながジェラシーを抱くような輝き方をしてほしい」って言ってましたけど、実際ジェラシー抱いてる人は多いでしょうね。

藤田　困りましたねェ。どんなイジメに逢うんですかね？（笑）。

――ガハハハ。今回は「してやったり」っていう感じですか？

藤田　そこまでは考えないですよ。ただ一所懸命やった結果というだけですから。

――「おいしいところ持っていけたなぁ」とか？

藤田　自分を出せて良かったたっていうのはありますね。新日本プロレスにいたときは、そういう自分の個性を出しきれてなかったと思うんですよ。もし出しきれてれば、『PRIDE』に出ようなんて考えなかったと思いますから。それで、そう思ってからいろいろあって『PRIDE』に出れることになったという感じですね。

KAZUYUKI FUJITA

――藤田さんが入場する前にビジョンでは、〝猪木イズム、最後の継承者〟と流れました。そう言われてることにはどう思いますか？

藤田　最後の……。この後にはもういないんですか？（笑）。遺伝子が最後なのか、猪木さんが最後なのか、どっちなんでしょうかね？

――どっちも最後じゃたまりませんね（笑）。

藤田　でも、そういう部分で期待されてるっていうのは、やっぱり雑誌とか見るとヒシヒシと感じますね。

――そういえば、藤田さんが猪木さんと一番最初にスパーリングをやったとき、猪木さんが「遠慮すっこたぁねえよ。本気で来い！」って言って、藤田さんがタックルをパッと決めたという話を何かで読んだんですよ。その続きはどうなったんですか？

藤田　続きですか？　タックルにバーンと入ったら、猪木さんが「うん」って頷いて（笑）。

――頷いた！　なんか禅問答みたいですね（笑）。

藤田　でも、ホントそうですよ。猪木さんっていう人は、自分が興味を持たないと自分から寄っていかないんですよ。いっくらボクが猪木さんに近づきたいと思っても、猪木さんがボクに興味がなかったら、あの人は絶対に近づいてこないですから。だから、そのスパーリングをやることによって、ボクに興味を持ってくれたと思ってますね。

――その後に関節の極め合いとかはやったんですか？

藤田　極め合いといっても、スパーリングっていうのは指導ですからね。こう来たらこう返すんだっていうのは教わりましたけど。

――猪木さんの身体は柔らかいですか？

藤田　ああ、柔らかいですね。暖簾（のれん）に……なんでしたっけ？

――腕押し、ですか。

藤田　そうです。

――糠に釘？（笑）。

藤田　そうですね。あ、でも猪木さんは糠臭くはないですけど（笑）。

――そのときオーラは感じました？

藤田　ありましたね。やっぱりカリスマ性を持った人ですし、接すれば接するほど深い人だなあと思いますよ。

――ズバリ言って、猪木さんの言ってることって理解できますか？

藤田　理解してる人なんていないんじゃないですか！

――ガハハハ！　言い切りますね！

藤田　あまりにも大きすぎるから。

――藤田さんは最初はどうだったんですか？

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

藤田　全然わかんないッスよ（キッパリ）。

——ガハハハ！　グーですね！

藤田　一応、ひとつひとつに頷くんだけど、わかんないですよ。だってプロレスの世界に入門して、右も左もわからないのに、いきなり「プロレスとは……」っていう話をされても、全然わからない。いきなりここまで話してくれてるのかあ？っていう感じですね。後で自分で気づけっていうことなんですかね。

——猪木さんがよく使う"気づき"ってことでしょうかね。藤田さんは、猪木さんの好奇心のアンテナに非常にひっかかったんでしょうね。

藤田　そうなんですか？

——いや、ボクに聞かれても（笑）。

藤田　なんで興味を持たれたのかなあ……。

——佐山（聡）さんも藤田さんの話をよくしてましたよ。

藤田　そういえば、（ナイマンに勝った後）佐山さんのところに電話したんですけど繋がらないんですよね。ナイマン戦が終わった後に、藤波（辰爾）社長とか長州（力）さん、坂口（征二）さんとかお世話になった人に電話したんですけど、佐山さんだけ繋がらなかったんですよ。

——じゃあ、まだ報告はしてない。

藤田　そうですね。でもよく考えたら、佐山さんは会場にいたんですよね。後でパンフレット見て気がついたんですけど（笑）。

——佐山さんは特別立ち会い人ですからね。佐山さんには最初はどういう印象を受けました？

藤田　格闘技に対しての技術的なところ、それこそ猪木さんじゃないですけど、ものすごく深いことを言うから、そのときは全然わからなかったんだけど、今になって「あー、こういうことだったのかぁ」とわかることが多いですね。ボクらより、何年も先に着いてますからね。

『PRIDE』では、プロレスとアマレスの両方の経験を活かせたと思いますね

——藤田選手は、割と自分で決めた枠を頑固に守りぬくタイプなのかなと勝手に思ってたんですよ、最初は。身体も岩のようだし（笑）。でも、佐山さんに聞くと全然違うって言ってましたね。

藤田　猪木さんほど自由じゃないですけどね。行動は自由だと思うんだけど、発想は、とてもじゃないけど、あそこまでいかないですね（笑）。

——どちらかというと行動で示すほうなんですね。

藤田　そういう方面で勝負するつもりで新日本を離れようと思ったわけだから。みんな一所懸命、自分のキャラを作ってるじゃないですか。自分の個性を活かさないとなって思って。でもそんな時間も発想もないから、行動することで示すことが、ボクの個性になるかなと思ったんですよ。立ち合いのインパクトというか。自分のキャラクターを作るにはどうしたらいいかなあって考えて、「あ、やめることだ」って思って（笑）。

——ダイレクトだ！（笑）。

藤田　だって、わかりやすいじゃないですか！　一所懸命アピールするよりも、考えてることが伝わるし。

——それも猪木イズムのうちですよね。"感じたら走り出せ""風穴を開けろ"という（笑）。

藤田　でも、猪木イズムには必ず横に止める人間がいますから（笑）。

——走り過ぎないように（笑）。きっと藤田さんもそのうち周りから止められるようになりますよ。

藤田　ボクが動いたら猪木さんに止められましたから（笑）。

——ガハハハ。

藤田　それは冗談ですけど。最近雑誌にも載ってますけど、リングスの話とかも実際にあったんですよ。でも、猪木さんに「リングスに上がるのは自由だけど、そこだけにこだわるんじゃなくて、自分の立場をフリーにして、もっと大きなフィールドで動けるほうがお前にとっていいんじゃないのか？」ってことを言われたんですよ。具体的にリングスがいいとか悪いとかそういう話じゃないですよ。

——「ひとつのものにこだわる必要はねえじゃねえか」ということですかね。

藤田　はい（微笑）。

——ちょっとここでプロレスのことを振り返りたいんですけど、96年11月にデビューして、藤田さん自身がいちばん印象に残ってる試合ってなんですか？

藤田　印象に残った試合？　あ、デビュー戦。というか、デビュー戦が終わった後ですね。

——終わった後。なんでですか？

藤田　いやホッとしたから。

——ズコッ！

藤田　それ以外は特にないですね。試合に関しては。後はもう同じぐらいですね。あと何かありましたっけ？

——ドン・フライ戦とか、去年の山崎（一夫＝引退）さんと組んで、石川雄規＆アレクサンダー大塚組とやったやつとか。

藤田　あー、あれはボクも思い出深いですね。

——石川＆アレクが、あの当時の新日本にはない色で試合をしたし、藤田さんの強さも際だったと思うんですよ。

藤田　いやあ、あれはボクの強さじゃなくて、山崎さんの扱いのうまさじゃないですか。ボクをうまく動かしてくれて、最後に山崎さんがピシッと決めてくれたし。山崎さんが後ろにいてくれたから、ボクも思いきっていけたし。そういえば、プロレスに上がったばっかりのときに、山

崎さんに相談したことあるんですよ。「山崎さん、この世界でやってけますかねえ？　全然自信ないッスよ」って。そしたら「お前みたいなのがいちばん合ってるよ」って言われて（笑）。

――なまじアマレスで実績があるばかりに、逆に自信がなくなっちゃう？

藤田　アマレスとプロレスの違いっていうのは、やっぱりバンプ、受け身を取る取らないっていうところなんですよ。アマチュアの人間は必ずそこでカベにぶつかるんですよ。

――プロレス入りする前は、闘魂クラブに入ってましたよね。馳（浩）さんに誘われたんですよね。

藤田　そうですね。「ウチのアマチュアでやってみないか」って言われて。

――闘魂クラブにいた頃からプロレス入りっていうのは考えてたんですか？

2000年1月30日――。『PRIDE・GP』の1回戦にその勇姿を現した"思考する野獣"は、蹴りをかいくぐり、肉弾タックルから落ち着いて袈裟固めを極めた。相手は元リングス・オランダのハンス・ナイマン。喧嘩屋のプレッシャーを跳ね返したふてぶてしさには、日本人バーリ・トゥーダーにはあまり感じられない風格が漂っていた

KAZUYUKI FUJITA

藤田　それは全然考えてなかったです。

――あ、考えてない。じゃあ、その当時に至近距離から見たプロレスをどう思ってたんですか？

藤田　いや、見たことないんですよ。入るって決まったときに、1回だけ後楽園ホールに見に行きましたけど、そのときにカシンさんの、まだ当時はマスクを被ってなかったですけど、試合を見て「俺の昔から知ってる人じゃない」って思って（笑）。で、カシンさんがトップロープに昇ったんですよ。後にも先にもそのときだけだったっていう。それは印象に残ってますね。

――去年、猪木さんは、藤田さんのどこが魅力なのか、今の新日本にはそれが見えてないって言ってたんですよね。藤田さん自身はそういうことを思ってました？

藤田　いや、新日本のプロレスは面白いですよ。みんな個性が強いし。ただ、その中で自分がどういうキャラを出していくかっていうことなんですよ。入った当時は夢中だったからわかんなかったんだけど、周りが見えてくるようになると、どの選手も自分のカラーを打ち出そうとして苦労してるじゃないですか？　そのなかで、自分のカラーをどう出していこうかっていうのは考えましたね。

――新日本というワクの中にいたらできないプロレスもあるんだっていうことは思ってた？

藤田　やっぱりプロレスって広いもんですからね。あっちのカラーがよくて、こっちのカラーがダメという、そういう部分では分け隔てないです。もちろん新日本だけがプロレスじゃないし、外からいろんなエッセンスを吸収して新日本に戻るっていうのもいいのかなあと思ってますね。実際に戻れるかどうかはわからないですけどね。

――そういう意味で小川直也選手が新日本のリングに上がってきて、刺激になったんじゃないですか？

藤田　それは小川選手に限らないですよ。いろんなものが刺激になってます！　橋本（真也）さんだってそうだし。

――ランディ・サベージも？

藤田　は？

――今年の1月4日のドームに来た"マッチョマン"です（笑）。

藤田　ああ、あの人とは挨拶程度しかしてないですからね。でも、あの人どこ見てるのかわかんないんですよ。ラリってるんですかね？（笑）。

――知りません（笑）。そのサベージみたいな、いわゆるアメリカン・スタイルの人も、藤田さんには刺激になるんですか？

藤田　いやぁ、すごく面白いですよ。ボク、これはダメとかっていうのはないですよ。いろんなカラーがあるのはいいことだと思いますし。そういう中で自分はどういうやり方でやるのかっていうのがいちばん大事だと思ってますから。

――『PRIDE』が終わった後に永田（裕志）選手が面白いことを言ってたんですよ。

藤田　何を言ってたんですか？

――「藤田は目の前にニンジンがあると燃えるタイプ」だって。

藤田　ハッハハハ！

――「でも、プロレスラーっていうのは、自分の目の前にニンジンがあるのをイメージして向かっていく職業だから、あいつはもうプロレスに戻ってこないんじゃ

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

ないかっていう気がする」っていうようなことを言ってましたね。

藤田　永田さん、うまいこと言いますねえ（笑）。いやあ、さすがですねえ。

──どうですか？　この言葉は。

藤田　おっしゃる通りですよ。ホンット感心しますよ。ボクもそういう風にうまくしゃべりたいですね（笑）。

──だから、キャラ作りっていうのは、目の前にニンジンをイメージする作業ですよね。でも藤田さんの場合は、さっき行動で示すって言いましたけど、ニンジンをイメージする前に身体が先に動いちゃうというか（笑）。

藤田　だから、その辺でもボクは分け隔てがないと思いますね。別にニンジンをイメージできなくても、目の前のニンジンにパッと飛びつけるプロレスラーがいてもいいと思うし。だから、なんのテーマがなくてもいいんじゃないかなぁと思うんですよ。目の前にあるものに食いついていっても！

──食いつくことがテーマ（笑）。

藤田　そうですね。逆にテーマを持たないのがテーマというか。

──それは見事な空き家を突きましたね！

藤田　やべ〜、またみんなになんか言われそうだ（笑）。

──『PRIDE』に出る前に、「本当にプロレスもVTも一緒なのかどうか確かめたい」って言ってましたよね。率直なところ、終わってみてどう思いました？

藤田　と言う前に、VTっていうのはプロレスとどう違うかを考えないといけないですよね。VTとは何か？　という答えはまだ出ないですよ。ここで簡単に答えても、ボクよりそういう試合にたくさん出てる人たちに失礼ですから。というか、当初はそういうテーマでやってましたけど、今は、ボクはVTじゃなくて、『PRIDE』に出たと思ってますから。

──『PRIDE』ルールの試合に出たということですか。

「プロレス」って広いもんですからね。あっちのカラーがよくて、こっちのカラーがダメという分け隔てはないです

藤田　ルールがあるわけだし。だから今はVTっていうことについてどうこうっていうのは言えないですね。

──昔は〝プロレスこそ最強の格闘技である〟っていういうイメージがありましたけど、もうそう言ってるだけじゃ守りきれない時代になってると思いますか？

藤田　いや、そんなことないですよ。何が最強なのか……いろんな〝最強〟がありますからね。

──〝最強〟にも種類があると。じゃあ藤田さんは時代が動いてるなっていう感触はあります？

藤田　そうですね。だから実際K−1なりなんなり、いろんな格闘技が出てきて、ボクも『PRIDE』に出て……あれ？　質問なんでしたっけ？

──ガハハ。ボクも忘れました。じゃあ、例えば『PRIDE』ルールでの試合は、藤田さんの中では「プロレス」の範疇に入りますか？

藤田　競技としては一緒じゃないですけ

ど。『PRIDE』にもプロレス的な要素は大切なものだと思いますよ。ボクだけじゃなくて、他の人も『PRIDE』に上がったら面白いと思いますし、そういう人がプロレスに戻ったりとか。プロレスの受け皿は広いですからね。

――『PRIDE』の入場のときは、「ワールド・プロレスリング」の次期シリーズ予告のときに流れる曲がかかりましたよね。あれは藤田選手のセレクト？

藤田　（非常に小さい声で）違います。

――プロレスファンは単に試合だけを見てるんじゃなくて、その選手の歴史とか、所属している団体の歴史も含んで見るんで、そういう意味では、あれはすごく贅沢でしたね。

藤田　なるほどね。でも正直言うと、あの曲はタイミングが掴めなくて、いつ入ったらいいのかなって思いましたけどね（笑）。

――確かに出のタイミングは掴みづらそうですね（笑）。

藤田　次の入場はなにか仕掛けを考えますから楽しみにしておいてください。

――宣言（笑）。小川選手からはどういう影響を受けましたか？　考え方でも技術的なことでもいいですけど。

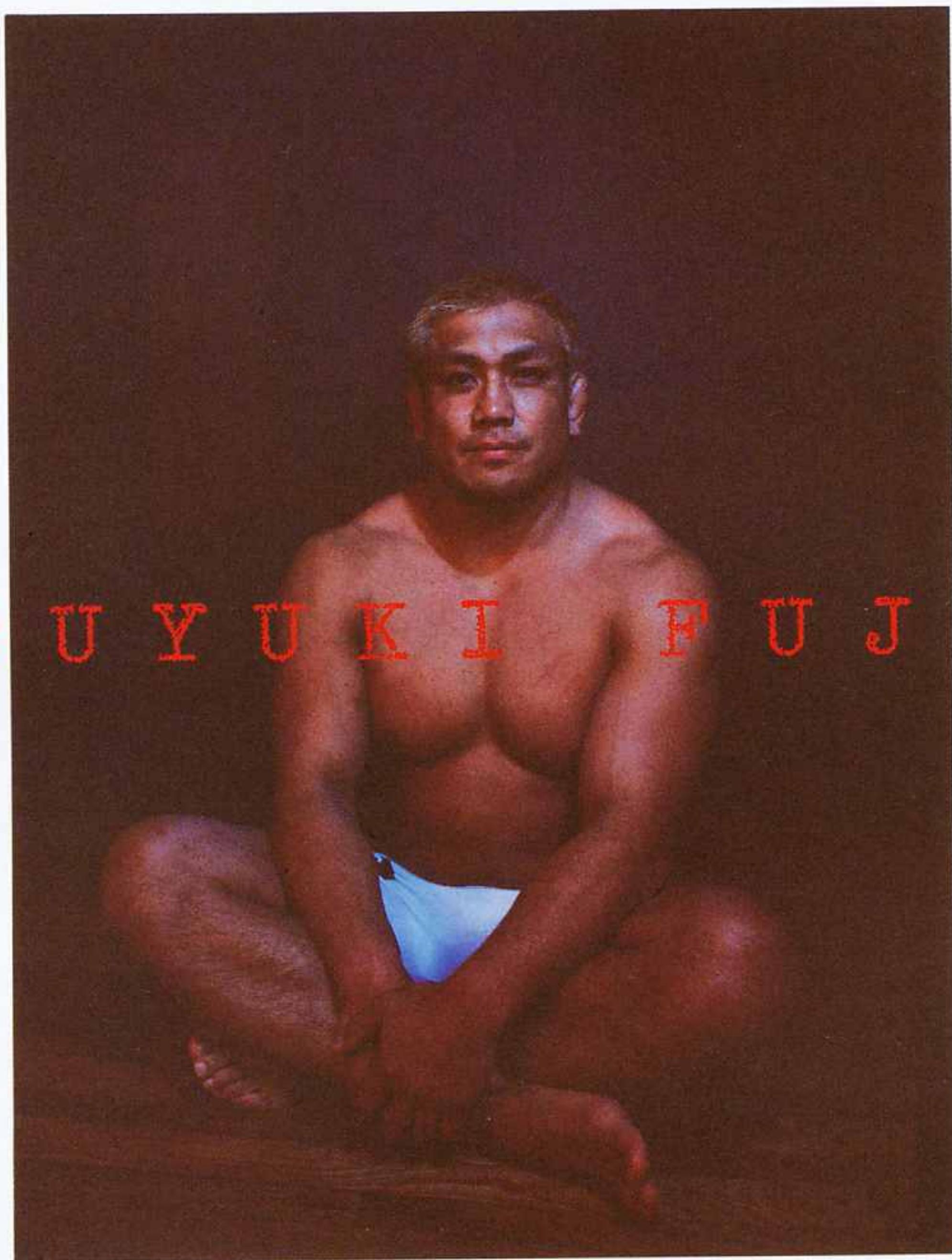
藤田　やっぱり根底に猪木さんっていうのがありますし、いちばん猪木さんと接してたわけですから、やっぱりボクに落としたものってありますよね。ボクがもっと早く猪木さんと行動してたら、ボクももっと早く行動してたのかなあとか思いますから。でも逆に、新日本の本隊やってたからこそ、一応巡業からなにから、ひと通り経験させてもらえて、今の考え方に辿りついたのかなとも思いますけど。

――じゃあ、デビューして濃密な3年間だった。

“霊長類最強”に勝って“ほ乳類最強”。次はハ虫類、その次は両生類とでもやりますか

KAZUYUKI FUJITA

藤田　そうですかねえ。ケガでけっこう休んでましたけど（笑）。

――ズコッ！　なぜそこで自分で自分を落とす（笑）。

藤田　だって「お前休んでばっかりいたじゃねえか！　この高給取り」とかツッコまれるかもしれないし（笑）。実際によく休んでましたからね。「新日本のなかの唯一のU系」とか言われてましたから（笑）。ファイト・スタイルじゃなくてライフ・スタイルがU系というか（笑）。

――ライフ・スタイルがU系（笑）。

藤田　ってカシンさんに、すごいトンチの効いたこと言われました（笑）。

――ところで、5・1の決勝トーナメントの初戦はマーク・ケアーが相手ですよね。そのマーク・ケアーがアブダビで＋99キロ級と無差別級の2階級で優勝しましたね。

藤田　あ、そうなんですか。（しばらくトーナメント表を見る）でもマーク・ケアーが勝ってくれてすごい嬉しいですよ。だって『PRIDE』の前に負けちゃったら意味ないじゃないですか！　それに、アマレスがベースの選手がこうやって活躍しれくれれば、やっぱりレスリングの基礎っていうのはフリーファイトの基本だと示せるし。見た目だけだったら打撃のほうに目がいくんだろうけど、レスリングの重要性をこうやって実証してくれるのは単純に嬉しいですよ。

――この結果を聞いて俄然やる気が出てきました？

藤田　（息を吸い込んで）そうですね！　そういう意味で、ボクとマーク・ケアーの試合はレスリングの重要性をみんなに知らしめることができるような試合をしたいですね。

――率直に言って、闘うことは楽しみなんですか？　それとも不安ですか？

藤田　決まった以上はイヤだとは言えませんからね。どうですか、やりたいですか？

――は？　ボクですか？　ジャンケンぐらいだったらやってもいいです（笑）。でも楽しみな部分もあるんじゃないですか？

藤田　それはありますよ。やる以上はああいう選手とやったほうがいいですしね。

――藤田さんの名言があるじゃないですか。「自分が勝てば彼らは過去形、自分が負ければ彼らが自分の未来形」っていう。

藤田　そうなんですか？

――自分が言ったんじゃないですか（笑）。ことごとく忘れますねえ（笑）。

藤田　ハッハッハ。しかしよく見てますねえ。

――ボクは知られざる藤田和之研究家ですから（笑）。トーナメント1回戦の相手がマーク・ケアーというのはトーナメントのこと考えるとイヤでしょ？

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

藤田　でも、今回決勝トーナメントに出てる人はみんなイヤな相手ですよ。

——でも実際打撃系の選手のほうがやりやすくないですか?

藤田　イヤですよ！　打撃は痛いですから。やってみますか?

——またか。死んでもイヤです（笑）。

藤田　ホントいいですよね。やってみてくださいよ（笑）。

——ガハハハ。見てるほうは無責任ですからね。でもトーナメントは、パチンコに例えて、1回当たれば連チャンでいける可能性があるって言ってましたよね。

藤田　たしかにマーク・ケアーで当たれば〝確変〟いけそうですよね（笑）。

——そうなると2回戦の相手が小路晃とマーク・コールマンの勝者になりますけど、どっちがイヤですか?

藤田　どっちもイヤです！　どっちもタイプが違うから。わかりやすく言うと小路選手はしつこいタイプだし、コールマンはスパーンと持っていくタイプですから。マーク・ケアーはなんでしたっけ?

——〝霊長類ヒト科最強の男〟ですね。

藤田　じゃあそれにボクが勝って〝ほ乳類最強の男〟になって、次は爬虫類とでもやりましょうか。その後は両生類ともやって（笑）。

——〝両生類最強の男〟っていいですね！（笑）。

藤田　両生類だから、オスだかメスだかわかんないかもしれないけど（笑）。

——反対側のブロックは誰が来るのがイヤですか?

藤田　みんなイヤですけど、桜庭（和志）さんとはやってみたいですね。

——桜庭vs藤田なんて、トーナメントじゃもったいないカードですよ。

藤田　つまり桜庭さんにホイスに勝ってほしいっていうことなんですけど。まあ桜庭さんは勝ちますよ！　なんかいろいろ技を考えてるみたいですよ（笑）。

——〝炎のダスキン〟っていうのは聞きましたけどね。（ホイスに〝炎のコマ〟をかけると、ホイスは道着を着てるのでダスキン状態になるという荒技）

藤田　いや、もっとすごいのがあるみたいですよ（微笑）。

——桜庭さんなんかは、同じ日本人や一緒に練習した仲間の顔面は殴りたくないっていうことを言いますけど、藤田さんはどうですか?

藤田　でも単純に競技として考えたら構わないですよ。じゃあボクシングはできないってことになりますよね。それはしょうがないですよ。自分で選んだ道ですから。

——この間のドームで、勝ち上がった8人が試合後にリングに上がりましたよね。そのときにビビッと来た選手っていなかった?

藤田　みんなもうリラックスしてたからなぁ。そういえばボク、マーク・ケアーと肩組んで写真撮ってるんですよね（笑）。コールマンとも握手してるし。そういえばボク、コールマンにサバ折りやられたほんですよ！　試合終わってから話してたときに。もちろん冗談だったんだけど、すげェ痛かったんですよ（笑）。

——ガハハハハ。やっぱりコールマンも考えるより先に行動するタイプですか（笑）。

藤田　とりあえずタップしたんですけど（笑）。「まいった」っていう英語が出てこなかったから。

——「ギブアップ」ですよ！（笑）。

藤田　あ、そうか（笑）。

——ホイスっていうのは間近で見てどう思いましたか?

藤田　うーん、ピンとこないですねえ。

——藤田選手はよくグレイシーの選手はピンとこないって言ってますよね。なんでなんですか?

藤田　なんかみんながいろいろ言うけどねえ……ボクはやっぱりコールマンとかケアーのほうがピンとくるし、実際にそのふたりとグレイシーはやってない。だったらボクとしてはあいつらとやったほ

PUTIT HISTORY

【96・11・1／広島グリーンアリーナ／vs永田裕志戦】超アマレス戦士として注目されたデビュー戦。口から血を滴らせながら、タックル、水車落としなどで攻めたが、最後は逆エビに固められた。プロの険しい道が始まった

【97・8・2／両国国技館／vsドン・フライ戦】G1 3連戦の間に組まれた異色の異種格闘技戦ではアマレス＆佐山聡に仕込まれた総合テクで随所に光る場面を見せた。試合後にオーちゃんが乱入。フライと乱闘を展開し、猪木さんまでが脱兎の如くやってきた興奮の一戦！

【99・4・10／東京ドーム／藤田＆山崎一夫vs石川雄規＆アレクサンダー大塚戦】さしずめ現在なら夢の顔合わせ。石川社長をタックルから入り軽々と斬って落とした殺人投げにドームがどよめいた。見てみィ、この顔！

【00・1・4／東京ドーム／vsキモ戦】高速弾丸タックルでキリキリ舞いさせ、最後はキモの〝肝っ玉〟を蹴り上げて反則負け。この一戦を機に新日本から飛び出し、藤田はどんなに険しい道でも笑っていく覚悟を決めた

うがやりがいがありますよ。やっぱりニンジンはデカいほうがいいから！　食べがいがある。食べかけて残しちゃいけないですけどね。

——なるほど！　最近猪木さんとはなにか話しましたか？

藤田　最近は話してないですね。試合終わった次の日から入院しちゃいましたから。

——猪木さんとはフランクに話せるんですか？

藤田　はい。話はするんですけど、大きすぎて、広すぎて、深すぎて、高すぎて、たま〜に意味がわかんないときがありますね。

——猪木さんの話でこれだけは忘れられないっていうのはありますか？　エピソードとかでもいいんですけど。

藤田　いろいろありますけどね。多すぎて思い出せないくらいですよ。ボクは猪木さんが現役の時、いちばん最後に付き人をやらせていただいたんで。その頃から猪木さんには気を遣っていただいてましたからね。

——気を遣ってっていう言葉で思い出したけど、アメリカで、藤田さんが車を運転してたらしいんですよ。けっこう飛ばしたのか道を間違え続けたのかわからないけど、あきれた猪木さんが「代われ、運転」って言って、結局猪木さんが運転したっていう話を佐山さんが大笑いしながらしてましたよ。

藤田　ホントですか？　もう忘れましたよ！　ボク都合がいいから（笑）。

——〝忘れる才能〟ですね（笑）。ところで、これから藤田選手はアマレスをベースにしてやっていくのか、それともプロレスラーとしてやっていくのかっていうところなんですけど。

藤田　やっぱりプロレスラーという看板を背負ってやっていきます！

——でも、格闘技の側にいくと、〝プロレス〟っていう看板を外したがる人もいるじゃないですか。

藤田「プロレス」というものの範疇が広いっていうのと同じように、「プロレスラー」というものの範疇もまた広いんだっていう考え方をすれば、別に嫌う必要はないですから。

「プロレス」の範疇が広いのと同じように「プロレスラー」の範疇もまた広いんですよ

——はっはー。今日いろいろ話を聞きましたけど、藤田さんも非常に深いですね。

藤田　深くないっスよ。当たり前のことしか言えませんし。

——それでは最後に！　ズバリ聞きますけど、ひと言で言うと〝猪木イズム〟とはなんですかーッ!?

藤田　ひと言じゃ言えません（キッパリ）。猪木イズムというものは、言葉で表せるものじゃなくて、実際にアントニオ猪木という人に触れて体感するものだと思います。

——敢えてひと言で言うなら、〝道はどんなに険しくても、笑いながら歩こうぜ〟ということですかね？

藤田　いや、今は笑えないですよ。今はホントにシャレになんないぐらい練習してるんですから。

——オーバーワークにならないように気をつけてください（笑）。桜庭さんも前回はオーバーワークだったらしいですからね。

藤田　そうなんですか？

——その桜庭さんは藤田さんから見るとどういう人ですか？

藤田　単純に面白い。雲みたいな人ですよね。あっち行ったりこっち行ったりして、たまに雨降らせたり、雷落としたりして。

——あ、それは桜庭さんをうまく表してますよ。藤田さんも自分のペースをしっかり持ってるように見えますね。

藤田　そうですね。試合のときはやっぱり自分のペースを守らなきゃいけないんだけど、同時にあらゆるペースにも対応しなきゃいけないと思うんですよ。そのためにはいろんな人と練習することが大事ですよ。

——じゃあ、ホントに最後に！　これからプロレス界はどうなっていくと思いますか？

藤田　……（かわいらしく、小声で）そんなの知りません。わかるわけないじゃないですか！

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

——こうなっていけばいいとかは？

藤田　プロレスから『PRIDE』のようなものに出ていくのもいいけど、『PRIDE』に出てるような選手も、今後はプロレスというもっともっとワクの広い世界に参戦して、いろんな選手と闘って、プロレスがもっともっと広くて深いものになっていくといいと思いますよ。そういう夢を叶えるものとして「プロレス」という〝場〟があってほしいですね。

——そういえば、今日、藤田さんには初めてインタビューするんですけど、『紙のプロレス』という雑誌は読んだことありますか？

藤田　はい。なんかプロレスというものを愛してくれる人たちの側に近い雑誌だと思いますよ。リアルというか。井戸端会議のような。

——ウチは井戸端会議でしたか！

藤田　いや、なんていうか、プロレスの試合を見た後に、お酒でも飲みながら好きな人が集まっていろいろ話してる感じに近いものがありますよね。面白いですよ。

——実にうれしいですね。でも、こう見えてもウチはプロですから！

藤田　あ、いろいろ言う人はいるみたいですけどね（含み笑い）。

——ズコッ！　では、5・1期待してます！　押忍（敬礼）。

【3月6日／六本木アートセンターにて収録】

ここで一つ！（1・30の藤田調）。確かに藤田和之は寡黙な部類に入るのかもしれない。炎上してしゃべるタイプではないし、微に入り細に入り説明タイプでもないし、強烈な自己主張もしない。どこか桜庭チックな話の切り返しの見事さや話をスカしていく藤田の話の面白さは〝その場の空気〟込みなのである。そういった空気まで読者に伝わるかどうかは若干不安ではあるのだが、藤田が朴訥と話すひと言ひと言の向こうには壮大で広い何かがあるような気がする。これからいくつもの大舞台&修羅場をくぐる度、あるいはニンジンをゲットしていくごとに、それは藤田の〝言葉〟となって蓄積されていくに違いない。そのときの話が、今から非常に楽しみなこと、この上なし！　である。

いま目の前にある〝霊長類最強の男〟というデカいニンジンを前にして、そのニンジンに飛びつく跳躍力を身につけるべく、3月12日、藤田は猪木さんとともに、パラオへと旅だっていった。さらに〝猪木イズム〟の奥義に触れて帰ってくることを期待したいものだ。

〝猪木イズム〟を携えた『思考する野獣』は、5・1ドームでどんな闘いを突き刺してくれるのか。どーですか？　行きますかーッ（やっぱりアントン調）。

KAZUYUKI FUJITA

UWFの興行をやらなきゃいけないなと思ってます！

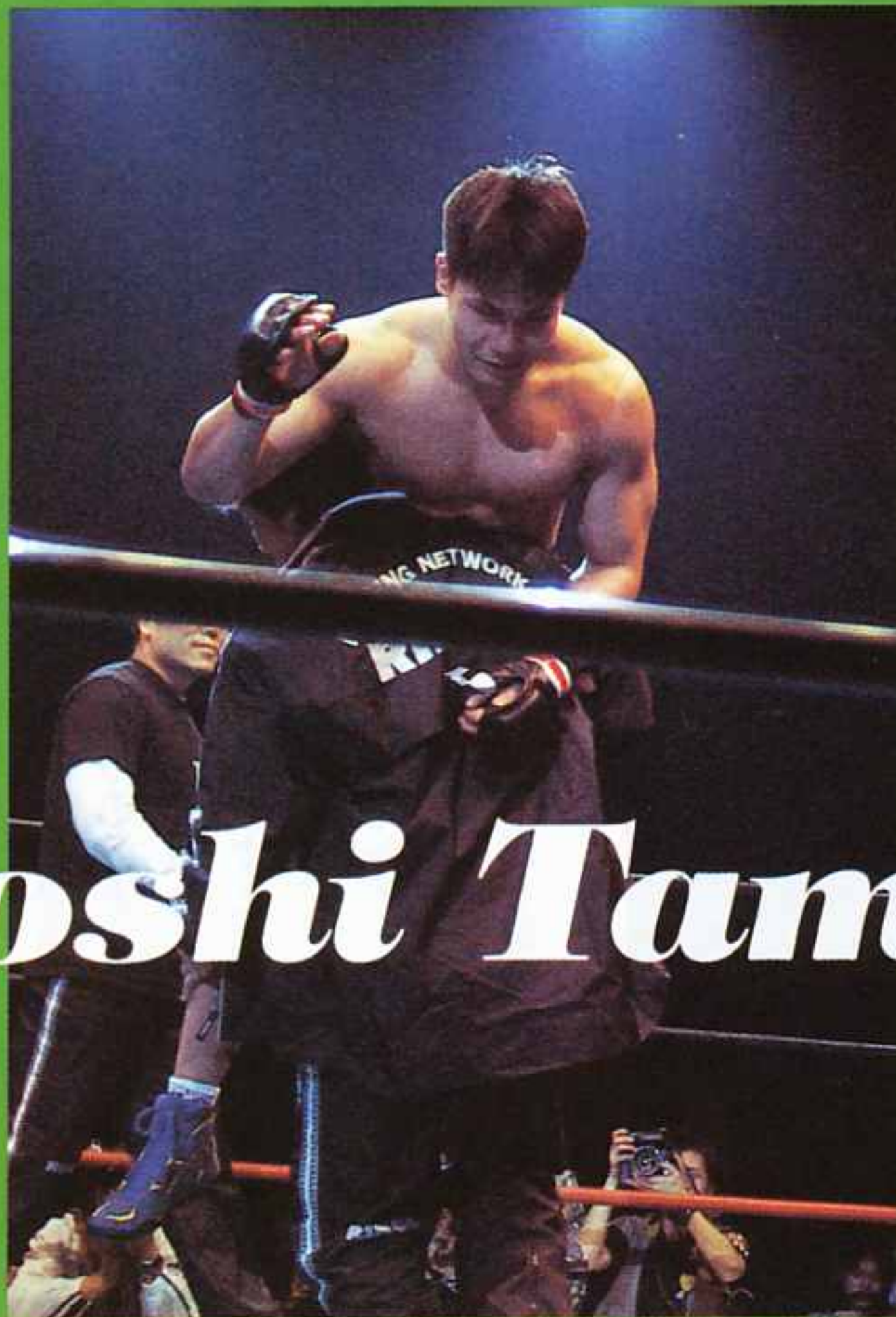
THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gantsu Horie

聞き手／チョロ
interview by Choro

撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

田村潔司

Kiyoshi Tamura

2·26KOKトーナメント準々決勝で、判定ながら見事ヘンゾ・グレイシー討伐を果たした田村潔司。田村は惜しくも優勝は逃したものの、対ヘンゾ戦ではファン&関係者のあらゆる期待や思い入れ、そしてUWFのテーマまで一身に背負い込み、なおかつ最高の結果を出してくれた。
そんな田村と本誌チョロは前号の田村インタビューで重大な約束をしていたのだった。その約束とは――?「ヘンゾに負けたら田村を丸坊主!」「田村が勝ったら10万円を払う!」という苛酷なものだったのだ!「前向きに検討してみます」と自分の懐具合も顧みずに無謀な賭けに挑んだチョロだったが……結果はご存知の通り田村の勝ち! さあどうするチョロ!? どうする田村!?

やったぜタムちゃん!

見事、グレイシー討伐を果たした田村を、アイドルグループはりMON!ワールドにご招待!!

ガンツ　もうヘンゾ戦から10日以上経ってますけど、田村さんはヘンゾ（・グレイシー）戦のビデオは見ましたか？

田村　見ましたよ。でもボクはＷＯＷＯＷは入ってないんですよ（笑）。

ガンツ　え⁉　入ってないんですか（笑）。勝利者賞かなんかで早く入れてもらった方がいいですよ（笑）。

田村　そうだ、勝利者賞で入れてもらおう！　いつも友達にビデオを撮ってもらってるんですよ。

ガンツ　チャンピオンが自分の試合をダビングしてもらってどうするんですか（笑）。でもアブダビの王子ももう見てるらしくて、王子に言わせると「ヘンゾに勝った田村という男は凄い！」ってことで田村さんは気に入られているみたいですよ。

田村　え？　王子さんにですか？

ガンツ　そうみたいですよ。それで王子はヘンゾのことを気に入ってて、ヘンゾのお父さんが「柔術の大会を開きたいんだけど」という相談を王子に持ちかけたら「これを使いなさい」って三千万円ぐらいポンッとくれたらしいですよ。

田村　（ビックリして）マジっスか⁉　えっ、ホントマジで？　凄いッスねぇ。

ガンツ　だから、アブダビで田村対ヘンゾをやったら20万ドル以上の賞金を出してくれる可能性もありますよ（笑）。

田村　へぇ～、面白いですね。アブダビって金の延べ棒を貰えるんですよね。

ガンツ　去年から金の延べ棒制度はなくなったみたいなんですけど、グレイシー狩りは世界の大ニュースなんですよ！

田村　ふ～ん、そうなんですかね。それは勝ち負けのことでね。負けたことを考えると表を歩けないし、出れないし、そういう心境ですよね。だから……選手だから闘わなきゃいけないんですけど、よく試合をやったなって感じです。ホントは気持ち的にはいいんですけど。勝つと負けるとじゃ天国と地獄なんでね。

Kiyoshi Tamura

ガンツ　偉業を成し遂げたという実感はないですか？

田村　全く。全然ないです（キッパリ）。もう過去のことですから。ヘンゾに勝ったっていうことは素晴らしいことだと思うんですけど、プロ野球とかサッカーとかに比べてそういう目で見てくれる人は少ないじゃないですか。サッカーに例えればブラジルチームに勝ったということですからね。そういう意味では格闘技は全然認知されてないじゃないですか。

ガンツ　号外が出るぐらい大騒ぎしたいですよね（笑）。

田村　そこが悔しいですよね。もっともっと格闘技がいい意味で注目されればいいですね。ヘンゾに勝った後に外も歩けないぐらいに知名度が上がってくれないとね（笑）。どんだけ凄いことをやっても周りの人が認めてくれないと凄いことにならないですからね。でもボクはあまり有名になりたい気持ちはないんです。

チョロ　それは困りましたね（笑）。

田村　まあ都合のいい時に有名人で、都合が悪い時には無名人がいいですね（笑）。初代タイガーマスクだって、佐山さんがマスクを脱いだらわからないじゃないですか。だからボクの顔の下に本当の顔があればいいんですけどね（笑）。

ガンツ　でも田村さんは良くも悪くも等身大っていう感じで捉えられてるところはありますよね。

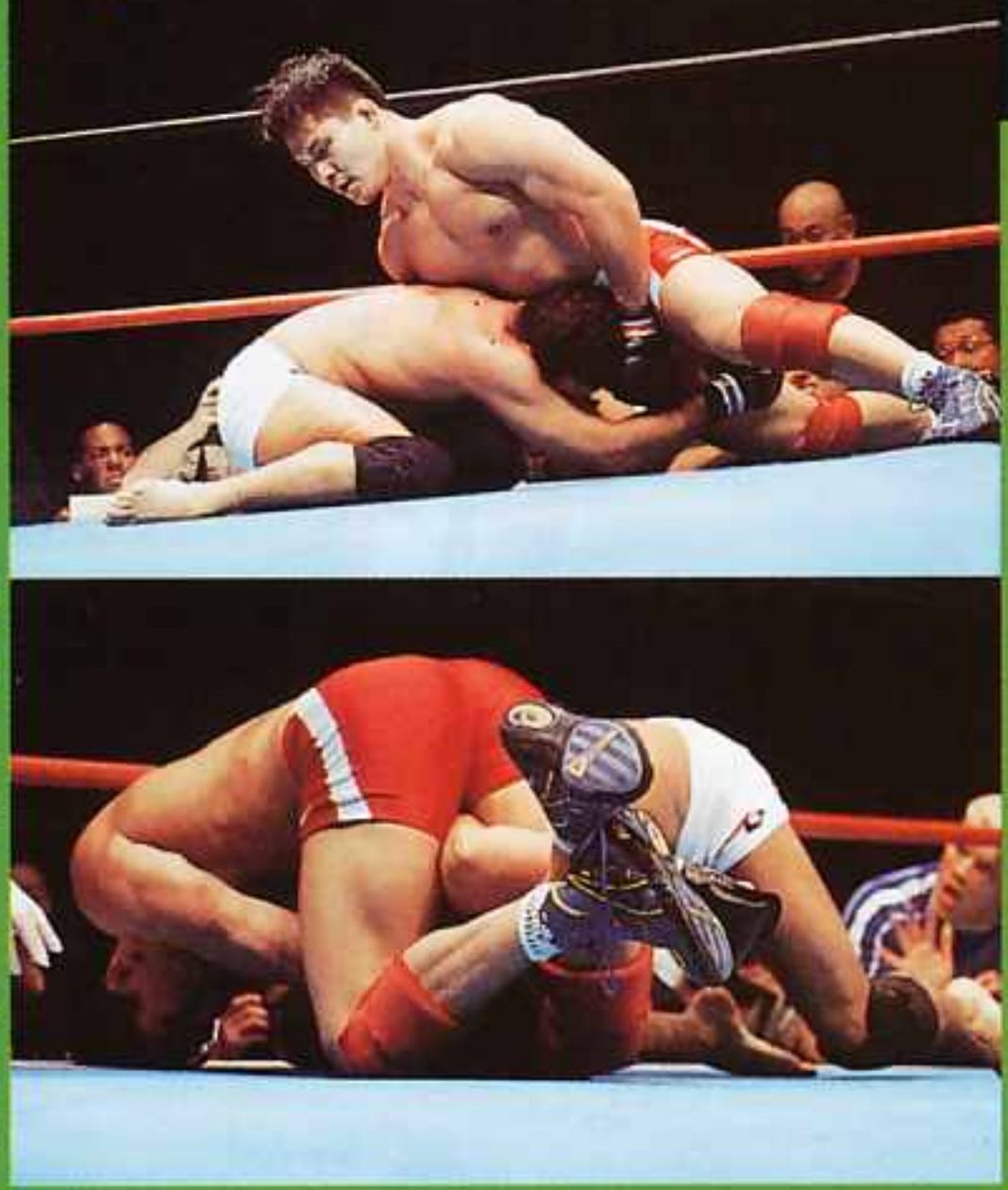
田村　いや、いろんな顔がありますよ。二重、三重……六重人格ぐらい！（笑）。

チョロ　六重人格もあるんですか！

田村　友達と会ってる顔とか、ジム生と接してる顔とか、試合してる顔とか、いろいろありますよ。でも社長業とかをやってると結構コロコロ変わりますよ。前田（日明）さんだって、やっぱり使い分

2・26ヘンゾ・グレイシー戦ちょこっとREVIEW

Uのテーマで入場してきた田村。これで観客は一気にヒートした。Uを背負った、その男伊達にグッとくるが、SRS・DXの谷川さんは呑気にも〝山ちゃんのテーマだ〟と一言。谷川幻想はU幻想をも凌駕する

出た、ヘンゾの卍固め！　って違うだろ！　ヘンゾのフロントネックロックでしたぁ。ズコッ！　この試合中もっとも危険だったシーンだ。田村はほとんどタップしそうになったというほど厳しいものだった

ヘンゾのタックルをことごとく潰す田村（上）。1ラウンドのネックロックをシノギ切った田村はグラウンドの攻防を優位に展開させ、最後の最後で出した技が腹固め（下）。不十分ではあったが、この技を仕掛けにいっただけでも最高だ。Uスタイルを守りぬいたと言われる由縁である

ボクはUWFでやってきた本当の基本的なスタイルは無くしたくないんです！

けてるでしょう。社長になると大変ですよ。……なんか話が逸れてますね（笑）。

チョロ　ですね（笑）。ヘンゾ戦にUターンしますけど、一部マスコミで田村さんの勝ち方について批判的なことを書いてるところもありましたけど。

田村　それは人の捉え方ですからね。グレイシー系が好きなファンはそう見ちゃいますし、ボクを好きなファンは逆に見ますから。ホントに中立の立場で発言をしてくれる分にはこっちも反省します。だけどどっちかに偏った発言をするようだと、また違った話になってきますから。実際に自分は判定で勝ったんですけど、一本勝ちで勝っても文句を言うヤツは言いますからね。

ガンツ　確かにそれはそうですね。

田村　勝ったことは勝ったことで評価してもらったらいいんですけど、ボクもヘンゾに劣ってるところはありますから。それは自分でも分かってるんで、そういうダメな部分を練習して、文句を言わせないような勝ち方をすればいいだけなんで。だからマスコミの人とかも中立な立場でモノを言って下さい。

ガンツ　はい、わかりました。リングスはリングスUSA設立とか、今まで以上にワールドワイドな活動になっていくと思うんですよ。田村さんは海外での試合とかに興味はありますか？

田村　海外での試合は出たいですけど、無意味にやってもしょうがないですから。ボクは国内をもっと固めていきたいと思います。日本でも格闘技をやる人の人口が増えればもっと注目されるじゃないですか。だから体がちっちゃい人でも試合が出来るような組織というか環境をつくらなきゃいけないと思うんですよ。

ガンツ　格闘技のキャパを広げるというか、底辺拡大ですね。

田村　そうそう。まぁ、海外とかよそに出るというのは簡単なことなんですよ。ボクはこれまでリングスを盛り上げるということでやってきたんです。それが、よそに出るとホントに個人的な闘いになりますから。前田さんもリングスを10年やってきて、コロッとルールを変えて「今までリングスでやってきたことって何？」っていうのがありますよね。ボクは……UWFでやってきた本当の基本的なスタイルは無くしたくないんです（キッパリ）。まあKOKとは似てると思うんですけど、グローブをつけない本来のUWFスタイル。本当の総合のちゃんとしたルールを作ってやりたいなと思ってるんです。今までボクはそういうスタイルを崩さないで頑張ってきたんで、ボクはUWF、リングスの田村潔司で頑張りたいですけど……よそに出るのは本当の個人的な闘いになるから、出たいような出たくないような……複雑ですね。

ガンツ　UWFスタイルの試合を残していくっていうのは興味深いですね。それはUWFスタイルの興行を自分でやるということですか？

田村　……（熟考）。やります、やります。やりたいです。

ガンツ　え⁉　具体的になにか動き始めてるんですか？

田村　う〜ん……いや、全然何もないです。全然ないですけど、そういうスタイルの試合、寝技系だとアブダビとかコンバット（レスリング）ってあるじゃないですか？　総合のそういう試合があってもいいんじゃないかな思ってるんです。でも今はそれは発想だけであって、でもやらなきゃいけないのかなと思ってます。

ガンツ　それは期待したいですねぇ。

田村　でもね、UWFの大会って言うとまたボスが「おい、聞いてないよ！」ってなるんで（笑）。そこは慎重にやりたいんで、その話はまた後日ということで（笑）。

ガンツ　楽しみしてます。今、その話を聞いてパッっと頭に浮かんだのは藤波さんの無我みたいになるんじゃないのかなとも思ったんですけど。無我よりもっとグローバルな感じですよね。

田村　そうそう、そうです。でも無我みたい形もいいような気もするんですよね。まぁ、リングスのためにですよ。やることやったら引退すればいいし（笑）。引退してリングスを卒業すればいいわけですから。

ガンツ　田村さんの中でゴールに向かってるっていうのはあるんですか？

田村　……う〜ん、自分に凄い時間がないんですよ。自分の練習とジムの仕事と自分の仕事をやらなきゃいけないんで、もう一杯一杯なんですよ（笑）。だから一日36時間あれば選手として練習に専念して、ジムを指導して仕事をやって、それで自分のやりたいことをやる時間が取れるんですけどね。

（ここで突然、はりMON！登場）

田村　（あまりの勢いに驚き）うわっ！

THIS IS A PEN
THIS IS MY STYLE 2000

田村の身に一体何が!?

田村の身に一体何が!?　キミは、こんなに驚いた表情の田村を見たことがあるか？　ここまで田村を追い込んだ女の子はいったい誰だ？　急いで次のページをめくれ！　どうなる田村？

いつ何時、誰の挑戦でも受ける!?

見てみ! 4人娘に囲まれた田村の顔! しかしさすがはチャンピオン、状況を把握すると余裕の田村トークが炸裂した! 【撮影協力】『イタリアンパブレストラン・ガーデンカップ』東京都港区南青山3・1・30住友生命ビルB1F★営業時間★AM11:00〜PM11:00(土日、祭日:休業)☎03・3405・1062

はりMON! こんにちわ〜ッ! (全員揃って)こんにちわ〜ッ!! 自己紹介します! 私達は元気のない方、頑張ってる方を応援します。二十四時間元気をデリバリ〜〜! 田村選手、グレイシーに勝ったねっ。ファイファイファ〜〜イッ!! おめでとうございま〜〜す! (拍手) パチパチパチパチ。
田村 な、何なんですか(笑)。
はりMON! イエ〜〜イ〜! 大・成・功ーッ!
田村 (困惑した表情で)な、何が大成功なんですか? (笑)。
モッチー 内田有紀でぇ〜す! (笑)。
さおり 遠藤久美子でぇ〜す! (笑)。
田村 なんじゃそりゃ(笑)。な、何をやってる方たちなんですか(笑)。
みお 一応、こう見えてもアイドルで〜す。
田村 アイドル!? 何のアイドル?
はりMON! (声を揃えて)私達はアイドル歌手でぇ〜す!
田村 グループ名は?
はりMON! はりMONでぇ〜す!
田村 えっ!? (声が裏返って)は、はりもん? いつデビューしたの?
モッチー 去年の7月でぇ〜す。私たち、4人姉妹なんですよ!
田村 えっ!? 4人姉妹? ホ、ホントの姉妹なんですか?
あすか 腹違いなんですぅ〜(笑)。
田村 コラッ! (笑)。
はりMON! キャハハハハハハ!
田村 (プロフィールを見ながら)えっ〜と、さおりちゃんは誰ですか?
さおり ハイ、さおりですぅ!
田村 (顔をパッと見て、プロフィールを確認して)あぁ〜、泣き虫ね。
さおり キャハハハハハ、ハイ!
田村 え〜と、モッチーは?
モッチー (手を挙げて)ハイ!
田村 あぁ、モッチーはしっかり者ね。
モッチー ハイッ! 私は長女でリーダーです!
田村 みおちゃん?
みお はい!
田村 あすかちゃん?
あすか ハイッ!

Kiyoshi Tamura

田村 (プロフィールを見て)き、機関銃mouth!? 何それ?
あすか 私は機関銃マウスなんですぅ。うるさいみたいですぅ〜。沈黙がダメなんですよぉ。笑っちゃうんですよ。田村さんもそうですかぁ?
田村 沈黙は嫌だよねっ! (可愛らしく)なんか沈黙ってイヤだよねぇ。
チョロ 田村さん、おっさんみたいですよ(笑)。
田村 (チョロ&ガンツを指さして)君達には沈黙でもいいんだよ!! (笑)。
チョロ まぁ、田村さんはリング上でも沈黙は嫌いますからね。
田村 ……(沈黙)。ふぅ〜〜ん(笑)。ハァ〜、でも君たちはオレのこと知らないでしょ?
あすか (モッチーを指差し)でもこの子が凄〜いプロレス好きでぇ、雑誌とかいっぱい持ってるんですよ! プロテインとかも買って飲んでるんですよ。
モッチー プロテイン? それ、間違ってるぅ(笑)。
一同 キャハハハハ!
モッチー 私、田村さんの大ファンで、会えるって言われてぇ〜、昨日の夜は寝れなかったんですぅぅぅぅぅ!
田村 (嬉しそうに)アッハッハッハッ! いつからプロレス好きなんですかぁ?
モッチー あのぉ〜1年前くらいからですぅ(照)。1年前くらいに、バトラーツさんの応援に行ったんですよぉ。それからプロレスにハマってたんですぅ〜〜。
田村 へぇ〜、バトラーツさんで……。それで、リングスはいつから見てるんですか?
モッチー (申し訳なさそうに)雑誌とかは前から見てたんですけど、でもウチはWOWOW引いてないんですぅ。
田村 コラッ! (笑)。
あすか さっき、裏でこっそり聞いてたんですけど、田村さんだって持ってないじゃないですかぁ!
田村 アハハハ! 聞いてたの(笑)。
モッチー 早く有名になってアンテナ買いますぅ。
田村 ボクのファンなんですか?
モッチー ハイ! 雑誌でちゃんと情報収集してるんですよぉ〜。
田村 (すかさず)嘘ばっかり!! (笑)。
モッチー も〜〜う、昨日からドキドキしてたんですからぁ(スネる)。
はりMON! キャハハハハハハ!
田村 でも、ボクが臼田(勝美)選手でも眠れなかったの?
一同 アハハハハハ!

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

MOCCHI（長女）
特徴：しっかり者
血液型：A型
身長157／B79／W56／H82
趣味：自分探し、
目的無しのドライブ
マッサージ&健康ランド
特技：関節技、菓子作り、剣道、ピアノ

SAORI（次女）
特徴：泣き虫
血液型AB型
身長140／B75／W53／H70
趣味：ジャズダンス、観光
特技：一輪車、スケート、ことわざ
恥：大衆浴場の排水口に
吸い込まれた事

ASUKA（四女）
特徴：機関銃mouth
血液型A型
身長153／B80／W57／H83
趣味：作詞（現在DEMOテープ作成中）
特技：コジコジ等のアニメキャラのものまね
散髪、部屋の模様替え（テーマ付き）

MIO（三女）
特徴：いつものんびり
血液型AB型
身長183／B84／W56／H88
趣味：飼育、ファッションショー、
蜜集め（つつじ）
特技：ピアノ、調音、あぐらで縄跳び
バレエ、日本舞踊

モッチー　田村さんっておもしろいんですねっ（笑）。田村さんのインタビューとか読んでると、堅いことばっかり言ってるじゃないですかぁ？

聞き手&リングス広報M氏大爆笑！

モッチー　ずっとマジメな方なのかなぁ～って思ってましたぁ（笑）。

田村（すかさず）なに？　おっちゃんはマジメじゃないってこと？

モッチー（困って）ち、違うんですけどぉ～。

田村　でも、ここでボクが（カッコつけて）「あっ、どうも」なんて、それはそれで嫌でしょ？

モッチー　そんなの困りますぅ。

田村　それが、ここで、さっき言った6重人格になるんです！

はりMON!　ワァ～～～！　田村さん、おもしろ～～い！（笑）。

田村　ハッハッハッ。君たちも10日後にはボクよりブレイクしてるかもしれないからね!!　「田村ぁ？　フンッ」って扱われるかもしれないですし。

モッチー　も～～う、田村さぁ～ん♥　そんなことあるわけないですぅ～～。

田村　売れても天狗にならないように！（笑）。

さおり　ハッハッハッ、クシュン（くしゃみをする）。

田村　コラッ！（笑）。

はりMON!　キャハハハハハハハ！

田村　おっちゃん、ええこと言ってるねんぞぉ～！（笑）。（さおりちゃんに向かって）花粉症なの？　泣いてるみたいだよ（笑）。

さおり　田村さんに泣かされたみたいですぅ～～。私、アレルギーも持っていて2度おいしいんですぅ。

はりMON!（すかさず）おいしくないっ！

田村　ツッコミ早いねぇ（笑）。でも君ら

の名前ってどういう意味なの？

はりMON！（声を揃えて）はりきってるんだモン（MON）の略でぇ～す！

田村（関心しながら）はぁ～～～、なるほど！　でも、さっきボクにやってくれたテンションで、売ってるキャラなんですか？

はりMON！（声を揃えて）私達は元気をデリバリーしてま～～す！

田村　大変だねぇ～（笑）。

さおり　そ～んなに体張ってないから、大丈夫でぇ～す！

一同　ガハハハハハ！

田村　えっ!?　これから体張っていくわけなの？（笑）。

はりMON！　はぁ～～い！（笑）。

田村　はぁ～、でも、まだこれからだからねぇ～。芸歴は？

みお　私が一番長いでぇ～す！

田村（花粉症で涙目のさおりちゃんに向かって）前はなにかやってたんですか？

さおり　前はぁ～、インディーズアイドルで歌ってましたぁ～（ウルウル）。

あすか　凄いんですよぉ～！　インディーズの女王だったんですぅ。キャハハハ！

田村　それで彼女は？

あすか　はぁ～～い！　準ミス・ヤングマガジン97のあすかでぇ～す！

田村　あすかさんはやっぱり、そのミス・ヤングマガジンの何万人からか選ばれたわけなんですよね。

あすか　何万人？（笑）。はぁ～～い！　そうなんですぅ。

田村　で、リーダーは？

モッチー　私は芸歴は1年半くらいなんですぅ。この前はサウスポーっていうアイドルグループをやってましたぁ。バトラーツ両国（98・11・23）に出させてもらったんですけどぉ～、石川（雄規）社長さんに、関節技を教えてもらいましたぁ～。だから、特技は関節技なんですぅ。

田村　へぇ～、何の技を教えてもらったんですか？

モッチー　なんかぁ、脇の下に手を入れる技ってなんですぅ？

チョロ　それは関節技じゃないような気がしますけど（笑）。

田村　ねぇ（笑）。

モッチー　田村さんっ、私たちのことどう思いますかぁ？

田村（笑いながら）ん～～～、どうなんですかね、芸能界って。逆に素直過ぎてもダメじゃないですか？

さおり　田村さぁ～ん♥　やっぱり、カワイイだけじゃ生き残れないんですかぁ～～？

田村　アハハハ！　まあ喋りもできないとね。まぁ、頑張って下さい！

見てみ、この笑顔！　今回ほど田村が表情豊かにインタビューに答えてくれたこともなかっただろう。大・成・功！（はりMON!風）

はりMON！　じゃあ、今度この格好で会場に行きま～す！

田村　いや、その格好では来なくていいから（笑）。

モッチー　ホント、試合見にいきたいですぅ。

田村　ホントに見に来るんですかぁ？

はりMON！　行きま～す！　田村さんこれからも、ファイファイファ～～イ！　ワァ～～!!（自ら拍手）パチパチパチ。

（はりMON！嵐のように退場）

田村　アァ～～、もうテンション切れた（苦笑）。はぁ～～、あの人たちは一体なんですか（笑）。いやぁ～～、しかしまぁ、今の心境は一仕事終えたって感じですわ（笑）。このあとインタビューやるの？

ガンツ　もちろんです！（笑）。これからは、毎回何かが起こる田村インタビューにしましょうか（笑）。

田村　アレ？　これって何の雑誌でしたっけ？

チョロ『紙のプロレス』です！　田村さんいろいろあったからってそれはないですよ（笑）。話は戻りますけど、ヘンゾが「判定は１００％正しい」って言ってたのが、4日後には、「やっぱりあれはドローだった」と言ったらしいんですけど、それについてはどう思います？

田村　あっ、そうなんですか？　もう何でもいいです。結果が出てるわけですから。またそうやって煽ってどうする！（笑）。

チョロ　いやいやいや（笑）。「今度はバーリ・トゥードでやりたい」って言ってたじゃないですか。田村さんも機会があったらって言ってましたけど、この間の試合内容を見ると顔面パンチありでも十分いけそうな気がしたんですけどね。

田村　いや、顔面パンチがあるとまた違いますからね。それは何とも言えないです。でもあんまり「顔面パンチだったらいけますよ」とかやってないのに言ってもしょうがないですからね。これはこれでリングスの興行としても盛り上がったし、ヘンゾ・グレイシーに勝ったということで丸く納めたいです。以上！（笑）。

チョロ　確かに文句を付ける方が間違ってますよね！　姑息な勝ち方だって言ってる人達もいますけど、全然姑息な勝ち方ではなかったですからね（ここでガンツの携帯が鳴る。しかも着メロはＵＷＦのテーマ）。

田村　あれっ、ＵＷＦのテーマじゃないですか？

チョロ　ＵＷＦのテーマといえば、田村さんの入場はあの曲で盛り上がりに拍車を掛けましたよね。

田村　う～ん……そういうことをすることによって、今までＵＷＦを応援してくれた人たちに恩返しというか、ファンの人たちがいろんなことを感じてもらえればいいわけですから。そう思ってくれる人のために僕はやったんです（キッパリ）。今まで12年間ＵＷＦに絡んできた人たちのために限定でやったわけです。

チョロ　船木さんがそれを聞いて「次のヒクソン戦は新日本のテーマで入場します」って冗談で言ってたらしいですね（笑）。

田村　あぁ～、なるほど。

チョロ『週プロ』じゃないですけど「Ｕはお前だ」っていうか、ＵＷＦ＝田村潔司っていうのがあれでみんなにも深くインプットされましたよね。

田村　いやいや、ボクはそんなにこだわりはないです。周りが決めてくれればいいですから。ただボクはＵＷＦは好きなんで。垣原（賢人）と試合が終わってから久しぶりにしゃべったんですよ。ケガをしてる

THIS IS A PEN

THIS IS MY STYLE 2000

船木さんにはお世話になってますから頑張ってもらいたいです

Kiyoshi Tamura

っていうんでちょっと心配して、連絡したんです。UWFを語る人が少なくなってるから凄い寂しい……と。やっぱり同士みたいなヤツがいてくれたら同じ気持ちになりますよね。

チョロ 高山（善廣）さんはあまり語ってくれないんですかね（笑）。

田村 アッハッハッハ！ だから人それぞれでいいんですよ。高山は高山でインターの思い出とかがあると思うから。ボクと垣原は1年違いですけど、同時期に苦しい思いとか楽しい思いとかをしたんです。高山とかは時代が違いますから。やっぱりUWFというその時の時代に生きた仲間というのを垣原とかはこだわりを持ってると思う。こだわってないようでこだわってると思うんでね。その頃の絆っていうのは何年経っても深いですよ。

ガンツ ファンも同じですよね。あの曲であの頃のことを思い出したっていう。それで盛り上がったって感じがありましたよ。

田村 まんまと作戦に引っかかりましたね（笑）。

ガンツ どっぷりと引っかかりましたよ（笑）。今回はグレイシー対UWFの3連戦とか5連戦って言われてたじゃないですか。田村さんがあのテーマを使って勝ったということは道が出来た気がしますね。

田村 道？ なんの道ですか？

ガンツ 今までは、個々に別れてた感じがあったんですよ。船木（誠勝）、桜庭（和志）、田村が全部別の方向を向いていたと思うんですよ。その道が繋がったような気がするんですよね。

田村 へぇ〜、でも船木さんは大変ですよね。

ガンツ 桜庭さんに続いて田村さんも勝ったんで、船木さんには相当なプレッシャーがかかりますよね。

田村 そうでしょうね。だから一回、桜庭でコケてくれると船木さんはやりやすいですよね（笑）。桜庭も勝っちゃって、船木さんが負けたら立場がないですからね。でも個人的に船木さんには、昔からお世話になってますから頑張ってもらいたいです。

チョロ 前に田村さんに話を聞いたときは「船木さんは勝つんじゃないですか」って当たり前のような顔で言ってましたけど。他の雑誌等では……。

田村 「負けろ」って言ってますよね（笑）。……ボクの中では船木対ヒクソンが大将戦という考え方なんで、……だからボクが感じてるプレッシャーよりも数倍のプレッシャーが重くのしかかってくると思いますから。ボクは選手の立場として『週プロ』と同じことを言えば、「負けても船木さんは船木さんで変わらないんだから」と。多分負けたらボロクソに言われると思うんですよ。結局試合をする人にしか、自分がどれだけプレッシャーを感じてどういう思いで試合をしてるのかは分からないですから。ボクはやった人間として、変わらない目で見たいですね。ちょっとでもリラックスしてくれればいいと思います。そういう意味で「負けろ、負けろ」（笑いながらつぶやく）。

チョロ アハハハハハ！ 桜庭さんとホイスの対戦はどういう気持ちなんですか？

田村 でも桜庭はホイラー（・グレイシー）に勝ってるからまだいいんじゃないですか。

チョロ 「負けろ、負けろ」と？（笑）。

田村 いやいや（笑）、それは頑張って欲しいですよ。でも最終的には船木さんですからね。桜庭は真ん中ですから、ちょっと難しい立場ですよね。

ガンツ プレッシャーという点では田村さんが入場してきた時には、もの凄く気合いが入ってるとか緊張してるとかそういう感じはなくて、自然体で入場してきた感じがしてるんですが、あの時の精神状態はどんな感じだったんですか？

田村 いや、自然体。入場する前になると覚悟を決めなきゃいけないんで、そこで戦闘モードに入っちゃうんです。だから自然体で闘いに挑もうかなと。前日とかは今回は試合をやりたくなかったです。逃げだしたい感じで、できれば高阪とかに代わって欲しいって心境だったんです。でも入場前になると気持ちはスパッと切り替わりましたね。

チョロ 滑川（康仁）さんに聞いたんですけど、ヘンゾ戦の後で引き上げてくるときに「俺のことを好きになってくれよ」って言ったみたいですね（笑）。

田村 ボクは嫌われてるんで、「好きになってくれ」と（笑）。

チョロ あんな素晴らしい試合を見せられたら好きになりますよね。

田村 いやぁ、滑川だけは分からない（笑）。まあボクはみんなに嫌われてるつもりで接します！ この世界ってその人の前ではいいことを言ってても影ではボロクソに言いますよね。「俺のことをそう思ってたんだ」ってガッカリするより、元々ボクは嫌われ者だからって思ってた方が気が楽じゃないですか？

ガンツ そうですね（笑）。さて、グレイシー越えを果たした田村さんの今後はどうなっていくんでしょうか？

田村 いや、もういいっス。

チョロ トーナメントが終わってからは、ずっとそんな感じですけど、内心では次なるステップを考えてるんじゃないですか？

桜庭戦ですか？ボクは全然オッケーですよ！

田村　いや、もういいッス（笑）。

チョロ　アハハハ。今度の4月の大会は田村さんは出るんですか？

田村　出されると思う（笑）。

チョロ　出されますか（笑）。

田村　まぁ、これからは、今までの型にとらわれずにやりたいと思います。グレイシーに勝ったら、昔のイメージだったら飛び抜けてたじゃないですか。でも今は上山（龍紀）とやっても一本取れるか取れないかっていう状況ですから。だから変に強いってイメージをつけられるのが嫌なんですよ。極端に言ったらコンバットレスリングとかを一般の人に混じってやってみたりとか、そういうのをやってみたいなぁって思いますね。

ガンツ　アマチュアの大会とかにも出てみたいということですか？

田村　はい。アブダビの予選とかにもですね。でも極端に言ったらですよ！　出るとは言ってないです（笑）。そういうのも出てみたいっていう気持ちもありますけど、イメージも大切じゃないですか。ボクはリングスのチャンピオンっていう形がありますから、その辺の葛藤がありますね。一般の無名な選手でも強い選手っていうのが腐るほど……ヘタしたらボクより強い選手が実際にいますから！　こうやって雑誌とかで扱ってもらって凄いっていうイメージになられるのが嫌なんですよ。

ガンツ　ファンからしたら、もっと飛び抜けた存在になって、もっと業界を底上げして欲しいんでしょうけどね。

田村　どうやったらいいですか？

ガンツ　えっ？　夢のある闘いに出ていくというか。

田村　あぁ～、よそに出ろということですか？

ガンツ　よそじゃなくてもいいんですけどね。ゴング（808号）に「田村『PRIDE』参戦か⁉」と出てましたけどね。

田村　はぁ～？（広報に向かって）実際に『PRIDE』とかに出ていいんですか？

広報M氏　前田社長がいいって言えば大丈夫なんじゃないですか？

田村　ふぅ～～ん。

ガンツ　この流れで一夜限りの第3次UWFみたいになったら盛り上がりますよね。U系の大物が一同に揃ったら最高ですよね。

田村　そうですね。『PRIDE』とかにも出たいですよ。まあ今は団体の契約選手ですから、勝手なことは出来ないんでね。

ガンツ　でも契約システムが変わるみたいな話もありますよね。

田村　えっ⁉　あぁ～、プロモーション化ね。

ガンツ　これからは田村さんの望んでた形になるんじゃないですか？

田村　うん、そうですね。でもこうなると逆に厳しくなりますよね。生き残りをかけてやるわけですから。ボクは別にいいんですよ。今までやってきたことを捨てて、他の試合に、例えば新日本にでも出れば食って行けるんでね。新日本、『UFC—J』、『PRIDE』とかに出れば、それはそれで成り立つ話なんで。夢の闘いでやりたいっていう願望と、それとは別に格闘技界を盛り上げていかなきゃいけないんで、そのきっかけみたいな立場になれればと思います。後に続くことが出来る闘いが出来るんであれば、それは自分のためじゃなくてこれからの人のためにやりたいなと思います。

チョロ　高阪さんなんかは闘う場所じゃなくて、闘いたい相手がいるところに出ていきたみたいなことを言ってますよね。田村さんが今後闘いたい相手というと誰になるんですかね。ファンが一番望んでるのはやっぱり桜庭さんだとは思うんですけど。

田村　いや、ボクは全然オッケーですよ！　望むんであれば。逃げも隠れもしませんし、それをやることで誰かがもうかるとかそういう話でなければ。だから桜庭とボクにお金が入って、プロモーターの人にお金が入る。そういうシステムであれば、逃げも隠れもしません。でも桜庭がノーといえば終わる話なんですよね。

チョロ　桜庭さんと田村さんの関係は平成のBI砲、馬場さんと猪木さんと言う人がいますよね。昔は同じ団体にいて、違う団体に移って、どちらも自分を高めていって、それがまた交われればそれは凄いというところまできてますよね。

田村　アハハハハ。なるほどね。でも実際のところは難しいですよね。桜庭がフリーになって、ボクもフリーになって「さあ、やろうか」っていうのは簡単ですけど、上の人に筋を通したり、立てなきゃいけない部分もありますからね。その辺

『週プロ』の田村インタビューで山本喧一選手が「◯マ◯ン」と表記されているのを見て笑う田村。田村がヘンゾに勝って以来、この◯マ◯ンのホームページ掲示板には書き込みが殺到していた。これからどうなる？

Kiyoshi Tamura

24時間元気をデリバリーする『はりMON!』は4月から関西テレビでレギュラー出演決定。毎週火曜深夜0:30の『BAT—FACTORY』でハリキリまくりだ！　また4月12日『トラチョコミニアルバム｜だって女の子だMON!』がリリース

じゃないですかね、一番の問題は。

チョロ　昔は後輩だったとはいえ、今はもちろんライバル意識はありますよね。

田村　でも、桜庭はもう4年ぐらい離れてますから、だから後輩は後輩でしょうけど、あれだけ活躍をしてるわけなんで、う～ん、昔は後輩だなっていう目で見てたんですけど、今は凄いなと思いますね。

チョロ　ヘンゾ戦でのフロントネックロックで「グレイシーが相手だからタップしなかったけども、違う相手だったらタップしてたかも」って言ってましたけど、例えば相手が桜庭さんだったら当然タップはしてないですよね。

田村　うん！　出来ないですね（キッパリ）。

ガンツ　この試合がさっき言ってた、UWFを復活させる大会に繋がっていったら夢がある話ですね。

田村　まあ、人の考えは違うんでね。そうなれば一番いいんですけど、ボク一人じゃ出来ないんで、いろんな人の協力がないと出来ない話なんで難しいですよ。

チョロ　ロシアのことわざにも「倒してない熊の毛皮を分けるな」ってありますからね（笑）。

田村　アハハハハ！　詳しいですね（笑）。よく知ってますね。

チョロ　田村さんもロシアに詳しいみたいですからね（笑）。

田村　ちょっとだけね（笑）。でももう選手が自由に団体を選べる組織がいいですよね。ボクはリングス所属で『ＰＲＩＤＥ』も出るし、『コロシアム２０００』も出たいし。これからはひとりひとり選手が一国一城という、そういう気持ちでやらないと生き残っていけないと思うんですよ。必要な選手だけ契約を結べばいい話ですから。要は頑張った選手が活躍して、頑張らない人は活躍できないって図式が自然と出てくると思うんで。リングスもそういう方向性みたいなものを話し合わないとみんなバラバラになりますからね。ファンの人は、社長が、リングスが何をやりたいのか凄く不安だと思うんですよ。そういうとこを選手もボクも把握してないと、ついていける部分とついていけない部分がありますからね。だから一回、目線をボクらの目線に下げて頂いて、リングス選手会で話し合いたいですね。

チョロ　ＫＯＫが大成功して、今はリングスは飛躍のチャンスですからね。期待が大きいだけに、逆に不安を持ってる人も多いでしょうね。金原（弘光）さんにいつまで経っても高田道場移籍の噂が消えないとか（笑）。

田村　アハハハハハ！　なんで移籍になるんですかね。ハッキリ言ってあいつが高田道場に入るのは性格的に99％ないです！　いろいろ言いたいこともあるんですけどね（笑）。

チョロ　それを聞いたら全国の金原ファンも安心するでしょうね（笑）。

田村　あっ、思い出した！　10万円は？（手を差し出し）早く10万円！　『ファイト』は試合が終わったその場でくれましたよ！　ボクと約束した記者が自腹でくれましたよ。それもボクが坊主になることはいいからって、ホントの気持ちでくれたんですよ。やっぱり違うわ『ファイト』は（笑）。

チョロ　ボ、ボクももちろん払いますよぉ。正直な話、ボクも田村さんが勝って嬉しかったんですけど、もし負けたらバリカンを持って坊主にしたと思うんですよ（笑）。

田村　なにぃ！　めちゃめちゃムカツクな（笑）。

チョロ　やっぱり男の約束なんで払わなきゃいけないんですけど、ボクはいろいろと借金がありまして……。

田村　なんの借金なの？

※ここで、チョロの貧乏自慢が永遠と続き、最後はキャットファイトのファイトマネーで返済していくと宣言するチョロ。

チョロ　ボクも男ですから約束は守りますよ。一気に全額は払えないですけど、分割でお支払いします（と言って封筒を渡す）

田村　（封筒を開けて）2、2万と4ドル？（笑）。もういいよ！　いいですよ！　そんな話を聞かされたらね、貰えるモノも貰えないッスよ（苦笑）。じゃあ、これから取材の度になんかうまいモノを食わせて下さいよ！

チョロ　はい、わかりました。ありがとうございますぅ（涙目）。田村さんも『ファイト』も男らしいッス！　はりＭＯＮ！じゃないけど、これからも、ファイト、ファイト、ファイト、ファイト！（笑）。

【3月8日、東京・南青山『GARDEN～CUP』にて収録】

チョロの弱火劇場 ～10万円支払ぇま編～

ガンツ、チョロを裏切る！　10万円の話を忘れていた田村に、わざわざ『紙プロ』前号を見せて思い出させる。

「10万円くれ！」恐れていた事態に、お地蔵さんのように固まるチョロ。ちなみに「お自動さん」はよく利用する。

観念したチョロ。お金を入れた封筒を田村に渡すが、チョロの姑息な性格を知る田村は懐疑の眼差し。

注目の封筒の中身は、１万円札２枚と１ドル札４枚。何のトンチもきいていないが、これがチョロの用意できる限度額なのだ。

その後、チョロの情けないエピソードを聞かされまくった田村はご覧の表情。

4・20 RINGS代々木第2体育館（18:30開始）

田村潔司 vs　X
アンドレィ・コピィロフ vs　X
ヴォルク・ハン vs ボビー・ホフマン
山本宜久 vs ジェレミー・ホーン
金原弘光 vs レナート・ババル
坂田亘 vs ブランドン・リー
滑川康仁 vs アリスタ・オーフレイム

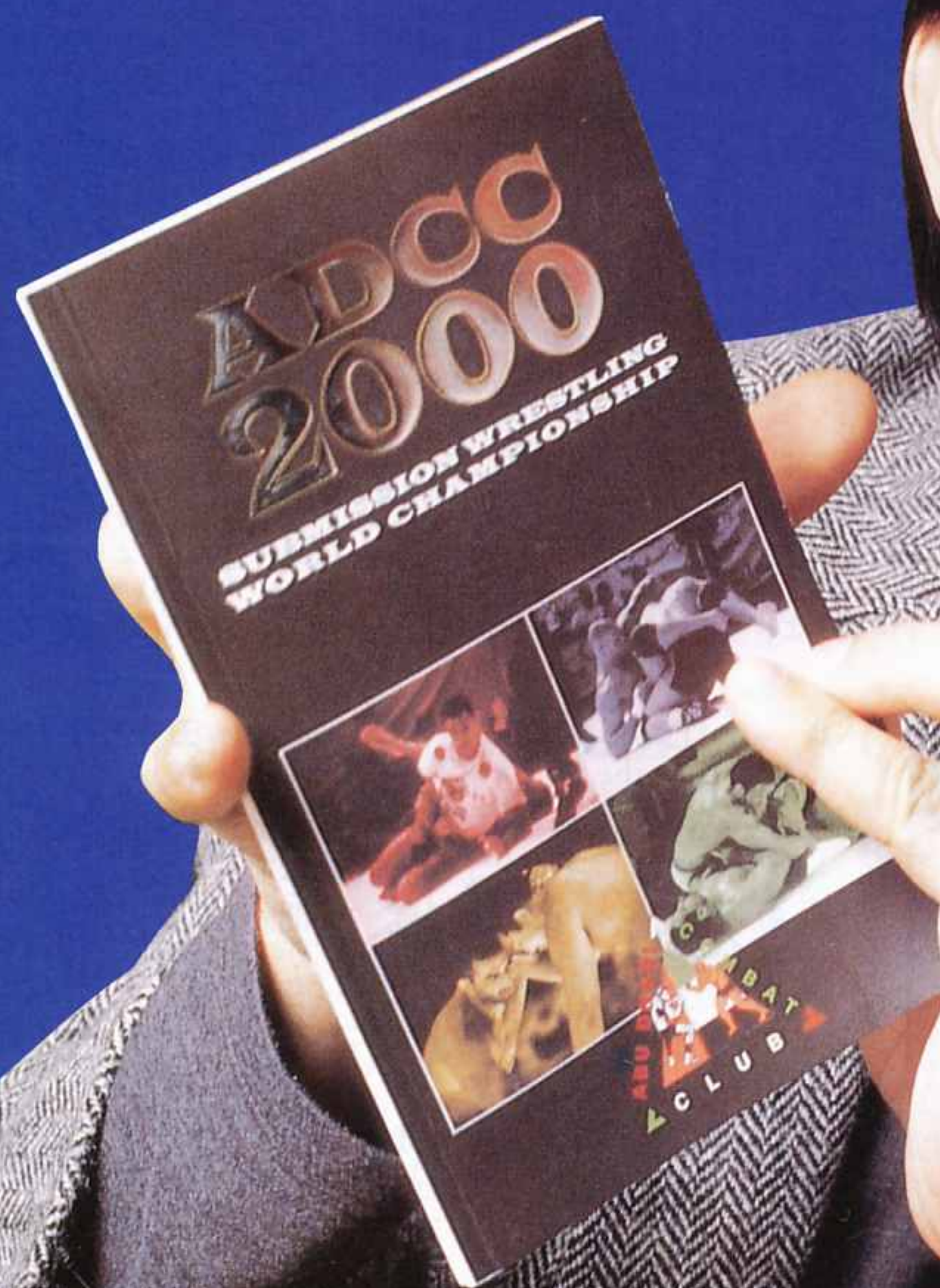
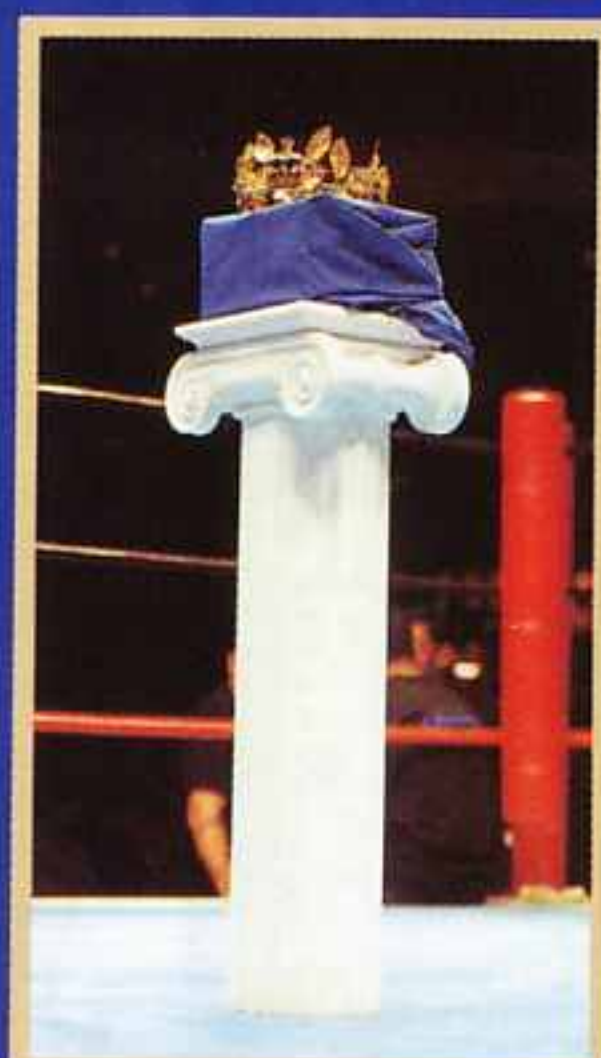
ＫＯＫの大成功を受けて、全試合ＫＯＫルールで行われる今大会。豪華カードが出そろった。注目の田村、コピィロフのカードはまだ発表になっていないが、田村はアイブルと対戦する可能性もあり、コピィロフは『アブダビ』で金原を１回戦で破り、98キロ以下級で優勝したヒカルド・アロマとの対戦が噂されている。正式発表を待ちたい。

チケットは3月26日よりプレイガイド等で発売。

田村がUWFにこだわったのは、「男の子の宿命」ですよ

AKIRA MAEDA

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影&試合写真／森"モーリー"鷹博
photographs by Morry
撮影／豊田裕（P31）
photographs by Yutaka Toyoda

前田日明【リングス総帥】

“アブダビ”“KOK”“田村の勝利”を語り倒す!!

「賞金50万ドルやで、50万ドル!」とブチ上げたKOKトーナメントは大成功のうちに幕を閉じ、アブダビ王子との第一次接近遭遇も果たした日明兄さん。その兄さんに「アブダビ」「KOK」「田村潔司」「UWF」「今後のリングス」「ルール」「最強を追求することとゲーム性」などについて語りまくってもらった、膠着なしのジス・イズ・ロング・インタビュー!

前田　(実に嬉しそうな顔で)なんかさ、山口君の部屋からさ、錆びたバイブレーターが出てきたらしいじゃん(笑)。

——ゲッ! なんで知ってるんですか!……吉田豪から聞いたんですか?

前田　そう(笑)。

——く、くっそ～、あの金髪鬼、余計なこと言いやがって!

前田　『錆びたバイブ』って歌にあったやん?

——ズコッ! それは『錆びたナイフ』ですよ!!(笑)。

前田　それ、奥さんに見つかったらしいやんけ(笑)。

——思いっきり見つかりました(笑)。もう6～7年前の話ですよ。

前田　バイブレーターはいいんだけど、なんで錆びてたかっていうのが問題だよ。水で錆びたのか、粘液なのか、それが問題ですよ。でしょ?(笑)。

——でも、あれはUWFのせいですよ!

前田　なんで?

——UWFのことを調べようと思って、山のように積んである『週プロ』の中から、カミさんに資料を探してもらってるうちに、その裏に隠してあった紙袋を「これ、なぁに?」って開けられちゃったわけです。そしたら隠してたバイブが出て来ちゃった(笑)。そこに隠してたの、すっかり忘れてたんですよ。

前田　クックック。一瞬凍った?

——フリーズ! ストップ・ドント・ムーブですよ。

前田　なんて言ったの?

——「これ、なぁに?」って怖い目で言われて、「友だちの結婚式の二次会のビンゴで当たったんだよ」っていうまで、たぶん20秒ぐらいかかりましたね(笑)。

前田　「なんで錆びてるの?」って言われなかった?(笑)。

——非常に言われました。「もらったときにフザけてビールに浸けたりして遊んだから」って、言い訳にならない言い訳してましたね。

前田　クックック。アホやなぁ。

——さ、バイブの話はともかく!(笑)、前田さん、アブダビってどんな国ですか?

前田　アブダビはね、他宗教が認められてるんだよ。イスラム教徒が95パーセントぐらいいるんだけど、他も認められてる。でもね、イスラム教の信者の女性を好きになった場合は、イスラム教徒にならないと結婚できない。

——ジス・イズ・アブダビ・ルール(笑)。王子とはけっこうしゃべったんですか?

前田　しゃべった、しゃべった。

——ボクは“王子”って、どんな人種かハッキリ想像つかないんですけど、どんな人ですか?

前田　俺も想像つかなかったけど、なんかね、気のいい人みたいだったよ。

——威張り散らしたりとか、そういうことはない?

前田　ない。格闘技が大好きなさ、日本の昔の大金持ちが浮世絵師の誰それを応援したとか、そういう感じだよね。

——いろんな格闘技の映像を見てるみたいですね。(アレキサンダー・)カレリンの大ファンだって聞きましたよ。

前田　あ、ホント。

——だから、カレリンと闘った前田日明もまたリスペクトするっていうことで、VIP待遇で貴賓席に座らせたっていう話を聞きましたね。その貴賓席で座ってる写真を見ましたけど、前田さん、緊張してませんでした?

前田　そうそう(笑)。だって周りがみんな王族やで! オシッコ行くにも王族の前通らなきゃいけないからさ(笑)。

——「お控えなすって」って通るわけにもいかないですからね。王子とどんな話をしたんですか?

前田　いろいろ面白い話はできたよ。アブダビ・コンバットとリングスはこれからも関わっていくと思うよ。

——今年は金原(弘光)選手が出たんですけど、山本(宜久)選手はインフルエンザで欠場してしまいましたね。

前田　肺炎になりかかって、入院してたの。バカタレが。熱が出たら休めばいいのに、練習どんどんやるからさ。

——「山本さんはアブダビ出場が決まってから、以前よりサンドバッグを蹴り始めた」ってTKが言ってましたね(笑)。

前田　しょーがない奴だね、まったく(笑)。まぁ、TKのネタでしょうけど。

——金原選手の試合はどうでした?(98キロ級1回戦でヒカルド・アローナに判定負け)

前田　金原はね、半分観光気分で行ってるんだよ。ほんでさ、前日にマッチメイクが決まって、相手がアローナっていう、(アントニオ・ロドリゴ・)ノゲイラが言うには「いまブラジルのナンバー1の奴」らしいんだよ。だから「勝ったら賞品出すから。金無垢のロレックス買ってやるから」って言ったらさ、一瞬目が燃えたんだけど、会場行ったらアイツさ、「前田さん、誰が金の延棒持ってるんですかね?」とか言って全然試合に集中してないんだよ。

——金の延棒!(笑)。

前田　勝てないよ、そんなこと言ってたら。ルールもよくわかってないしさ。まぁ俺たちもわかってないんだけどさ。しょうがないよ、あれは。

——結構、細かいルールみたいですね。

前田　バック取ったら何点で、スイープ

なんとアブダビでは、王族しか座ることのできない貴賓席で観戦するというグローバルな勇姿を見せた日明兄さん。心なしか、緊張しているかのように見えるところが、これまた素敵である

したら何点とかさ。

――場外に出たら、マイナス何点とかあるみたいですね。

前田　アマチュア・ルールだよね。あのルールだったら、（アンドレィ・）コピィロフとかに行かしたほうが、勝てると思う。でもね、判定の部分で「おかしいな」っていうのが、けっこうあったね。王子様は割と中立で見てるんだけど、ジャッジメントする人間が王子様を気にしすぎて、「この人は王子様のお気に入りだから」っていうんで有利に判定したりだとか、そういうのがちょっとあったね。

――大山裁定じゃないけど、アブダビ王子裁定みたいのはなかったんですか？

前田　なかったね、それは（笑）。

――今回は「行ってよかった」って思いますか？

前田　面白かった。今回、イスラムの連中といろいろ話してて、俺、イスラム教はわかるね。イスラムだったらなってもいいなって気がしたね。

――前田日明イスラム入信（笑）。それはまた、なぜですか？

前田　筋が通ってるんだよ。中世を近代化したみたいな感じだね、イスラムは。結局、儒教的なんだよね。でね、アブダビはいまはそうじゃないんだけど、極端な例で言えば、他人のモノを盗ったら手首から先は切断。

――せ、切断。

前田　あと、人を殺したら死刑。どうやるかって言ったら、刀で首をバッサリ。

――バ、バッサリ！　要するに人の道に逸れたことは、やっちゃいけないと。

前田　鞭打ちとかもあるしね。

――それって、だいぶ前の話じゃないんですか？

前田　いまでもあるよ。サウジアラビアなんか、いまでも他人のもん盗ったら手首から先、切断やで。アブダビはもうなくなったけど。

――「儒教的」っていうのは、どういうことなんですか？

前田　あのね、凄い話があるんだよ。ある中東のロイヤルファミリーが一般の娘と不倫したんだって。で、娘がお父さんにそのことを言ったらしいんだよ。そうしたら、そのお父さんは「あなたは娘と結婚してくれるんですよね？」ってロイヤルファミリーに聞いた。でも、ロイヤルファミリーは「いや、立場的にそれはできない。そのかわり償いとして100万ドル払う」と答えた。そうしたらその娘のお父さん、どうしたと思う？

――じ、自殺したんですか？

前田　そのロイヤルファミリーの髪の毛をガッと鷲掴みにしてね、ナイフで首をビュッと斬ったんだって。

――ゲ!!　その場で？

前田　そう。でね、普通ロイヤルファミリーに、一般の人がそういうことをしたら死刑でしょ。でもね、イスラムの法に則ったら、それは正しいことだっていうんで、そのお父さんは無罪。だから、天に背くか背かないかってことなんだよ、イスラムは。ロイヤルファミリーよりもなによりも神様なわけ。「お天道様が見てるんだよ」みたいな感覚なんだよね。「天誅」とか、そういうのと同じだよ。「天に代わって成敗してやる！」とかさ。

――セーラームーンだ（笑）。

前田　それは「月に代わってお仕置きよ」やんけ。

――あ、月でしたか（笑）。街の人々も、なんとなくそういう佇いはあるんですか？

前田　そうだな、みんな礼儀正しいし。なんか、アブダビの人と話してると懐かしい気がするんだよね。あとね、アブダビは無税！　医療費無料！　教育費無料！　電気・水道・ガス無料！　でね、アブダビの純粋な国民って、30万か何十万かしかいないんだよ。その他に国外から労働者がやってきて300万人ぐらい人がいるらしいけどね。アブダビの純粋な国民には、国から土地をくれる。

――と、土地をくれる！

前田　そう。で、そのもらった国民が、「僕はここにビルを建てて商売したいんです」って言ったら、お金をくれる。ほんでね、アブダビの純粋な国民が難病になったとするやん。その難病が「どこそこの国のなんだか大学のナントカ研究所のナントカ博士しか治せない」ってなったら、そのための旅費とか、家族が看病する金とか、国が全部出してくれるらしいで。凄いでしょ？

――は〜、なんで出すんですか？

前田　わかんない！

――ガハハハハ！　キッパリ。でも、それは凄ェなぁ。

前田　みんな「封建制度は悪い」とか言うけど、封建制度が最初に目指したのは、そういう国なんだよ。それからね、面白いのは、土地があっても誰にも売れない。唯一譲れるのは家長が決めた息子。相続しか譲れない。もしお父さんが遺言もなにも残さずに死んで、家に同じぐらいの男の子が二人いる場合はどうするかって言ったら、誰も勝手に財産を使えないように、一回それは国の預かりになる。で、裁定が入る。普通、一般的な裁定としては、男が二人いて、お父さんの財産を使うときは、その二人のサインがないと動かせない。それなら丸く収まるやん。だから微に入り細に入り、そういうことが一切合切イスラムの法で決まってるわけやね。ロイヤルファミリーはイスラムの法を執行する人なんだよ。だから、ロイヤルファミリーでさえも、イスラムの中枢の偉い人に帰依してるんだよ。

「男の子の宿命」を背負ってヘンゾ戦に挑んだ田村。武道館は「男の子の心意気」を感じ大爆発！　これで図らずも「UWF」という概念が再浮上してきた。田村は日明兄さんから金無垢のロレックスを貰えたのか？　次号、詳報！

AMAEDA

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

—イスラム恐るべし（笑）。そういえば、前田さんがアブダビから帰国したとき空港で、「目についた選手は?」って聞かれて「そういうことを言うと、すぐ引っ張られるから言わない」って言ってましたよね（笑）。

前田　みんな、俺に憧れてるからね（笑）。だから俺の真似をするんだよ。多分ね、そいつら俺の写真飾ってるよ。本棚に俺の本とかズラーッと並んでてさ、ビデオ見てセ●ズリこいてんだよ。

—なにが悲しくて前田さんのビデオ見てセ●ズリこかなきゃいけないんですか（笑）。

前田　俺が「いいな」って言う選手を使うことで前田日明と一緒になったような気になってんだよ。そういうヤツが増えてきて、ちょっと困ってるアキラ君であった（笑）。そいつらは愛情の出し方が幼いからさ。幼い男の子が「好き」って言えないで「お前なんか嫌いだ!」とかよく言うやんけ。この業界、みんなそうだからね。素直になれば、「いい子いい子」って頭でも撫でてやるのに。

—ガハハハ! それで思い出しましたけど、『SRS・DX』（3／23号）の座談会は見ましたか?

前田　なんだっけ?

—ターザン山本が中心になって「ヘンゾ・グレイシーに勝った田村の勝ち方はセコい」とか、「リングスもリングス・シンパが暖かく見守ってる場所でだんだんインディー化してきてる」みたいなこと言ってるんですよね。これも歪んだ愛情なんでしょうか?

前田　あのね、山本はしょうがないよ。チ●ポ勃たへんやんけ!

—ガハハハ! あ、そういうこと（笑）。

前田　言ってることも、チ●ポが勃ってない! まず糖尿を治してから言いなさい。あいつのオシッコはたぶん甘いで。

—ゲ! へんなこと想像させないでください!（笑）。

前田　ガハハハハ。

—取りあえずその話題は置いといて、田村vsヘンゾ戦は、見てて胃が痛かったって言ってましたね。

前田　そうやね。

—単刀直入に言うと、「よくやった」って感じですか?

前田　そうやね、そんな感じ。

—またやけに淡泊ですね（笑）。大会後にも「トーナメントでは負けたけど、ヘンゾに勝ったから花マルでしょう」って言ってましたよね。田村選手のどういう部分を評価してるんですか?

前田　まず、いきなりフロントチョークで追い詰められたでしょ。普通ならあれでほぼ極まったよね。あれ、実際よく凌いだよ。普通、そっからパニックになるんだけど、反対に落ち着いたからね。

—前田さんから見て、田村選手に感じる凄みってどういうとこですか?

前田　ちゃんと結果出したでしょ。そこがよい子。

—ガハハハ。そこがよい子。

前田　素直だけど0点取ってくるよりも、ヤンチャ坊主だけどテストで100点取ったほうが可愛いやんけ、親も。「ヤンチャなほうが可愛い」って言うやん。

—意外にも、田村さんっていうのは、前田さんから見るとヤンチャなんですか?（笑）。

前田　ヤンチャ。アホなオッサンがさ、自分の言葉に酔って遠くを見たりするやん。田村は自分の態度に酔って遠くを見るからね。「俺って凄い」って感動して。

—「遠くを見つめる田村であった」（笑）。田村選手は、敢えてなのか当然のことなのかわからないけど、「UWF」っていうものにこだわりましたよね。ボクが一番面白かったのは、「どんどんこだわればいいんですよ。大いにけっこうなこと」「いろんなものにこだわって、自分のプライドの上に乗っかって"俺は世界一だ!"って言わないとダメ」っていう大会後の前田さんのコメントなんですよ。バーリ・トゥードも出てきて、「いまさらUWFだなんだって、時代遅れだよ」みたいなことも、けっこう言われてましたからね。

田村は自分の経験を愛したってことでしょ 自分のモノサシで勝負したんだよ

AKIRA

前田　でもUWFがなかったら、いまのバーリ・トゥードなんて誰も理解できなかったよ。みんな、UWFに教えてもらったんだよ。なにを偉そうなこと言ってんだよってなるよ。つまりね、田村がやったことは、自分の経験を愛したってことでしょ。人間、どんな偉い人であろうと、どんなバカな人であろうと、自分の主観で勝負するしかないんだよ。自分の主観とか感覚っていうのがモノサシなんだよ、モノサシ。そのモノサシ自体も信用できなくなったら、生きてる価値がないし、生きれないんだよ。そういう人の人生って、自分の人生じゃないんだよ。自分の感覚に自信が持てないヤツは、誰の役にも立たへんよ。役に立とうと思ったら、自分の主観を元にするわけでしょ？　誰かがやったのを真似してやったって、ダメですよ。ヘタレは二番煎じしかできないんだよ。

――「柔術が出たら、アホみたいに柔術やって、アマチュアがよかったらアマチュアやって」って言ってましたよね。その点、田村選手は、自分の立脚点にこだわったっていうことが凄いですよね。

前田　「男の子の宿命」ってそういうことなんだよ。

――「男の子の宿命」！

前田　そう。男性ホルモンが正常に働くと自然にそうなるんだよ。

――あ、わかった！　前田さんがよく言う「寂しいオカマ」って、「男の子の宿命」を背負ってないということを言いたかったわけですか（笑）。

前田　俺がふだん何気なく言ってることには、全部意味がある（と遠くを見つめる前田であった）。その「寂しいオカマ」っていう真の意味もね、誰にも理解されないんだよ、みんな自分のモノサシ持ってないから。

――で、田村選手の勝ちにも、ターザン山本はケチつけてるんですよ。「ガイ・メッツァー現象」ってわかります？

前田　つまんない試合のことでしょ。でもね、それは選手のせいじゃないんだよ！　マッチメイカーとか、主催者の責任であってね、そういう試合をさせたくないんだったら、そうさせないようなルールを作って、そうさせないようなマッチメークをすればいいだけの話やんけ！　誰も自分のやってることに責任持たないから、そうなっちゃうんだよ。選手の能力だけに頼ってるわけでしょ？　甘えてるだけだよ、選手に。

――マッチメイカーや主催者がってことですか。

前田　いくら「頼むから、いい試合してな。ボール投げたら取って来るんだよ」って言ってもさ、選手は闘犬の犬みたいに「ウ～ッ」って唸ってね、試合で頭いっぱいなんだよ。「ボールを投げるから取って来い」って言われてもわかれへん。「ウ～ッ」ってなってんだから。だったら、「ウ～ッ」ってなってても大丈夫なようなルールを設定して、マッチメイクしてやればいいだけの話やんけ。そこに責任持てば、打率と一緒で、いい試合が一割だったのが、三割になる。一割の打率が、そうすることによって三割になれば、単純にグッドマッチが三倍に増える。

――プロとして責任を持ったマッチメイクが望まれるわけですね。

前田　そう。いま、寂しいオカマがマッチメイクしてるとこいっぱいあるで。「お願い、アタイのために頑張って～。いい試合してね～。アタイ、ギャラいっぱいあげたじゃない、どこの団体よりも～」ってね。

――ウ～ッ。

前田　寂しいオカマは自分のこと「アタイ」って言うでしょ。たぶん、誰かさんも、自分のこと「アタイ」って言ってるで。

――でも田村選手の試合が「ガイ・メッツァー現象」っていうのは、ズバリ言って言いがかりですよ。ターザンのほうがアルツハイマー現象起こしてますね（笑）。田村選手は、タックルを切ってカウンター狙ってるだけじゃなくて、バックは取ってるし、マウントは取ってるし、あれだけ動いてますからね。あれはドローだったっていう意見だったらまだわかりますけどね。

前田　簡単な話なんだよ。枠とルールを決めて、場所を決めて、駒を揃えてやってるわけでしょ。それが嫌だったら来なきゃいいし、選手だって勝てないと思ったら試合しなきゃいいんだし。ヘンゾだってさ、「グラウンドの顔面打撃がないと、どうのこうの」って言うからさ、「グレイシーって顔面打撃ナシになると、ホントは弱いんだってみんなが言ってるよ」って言ったらさ……。

――ガハハハ！　汚い（笑）。

前田　そしたら「そんなことはない。俺は証明できる」って言うから、「ホント？　みんな、そう言ってるよ」「いや、そんなことはない！　グレイシーは技術があるんだ」「ホント？」って感じで詰めていったんだよ（笑）。

――タチ悪いな（笑）。前田流ハード・コミュニケーション交渉術ですね（笑）。でも、そこでムキになるファイターじゃないとダメなんでしょうね。

前田　そういうヤツじゃないと、強くなれないんだよ。ヘンゾは面白いよ。記者会見のとき、英語とポルトガル語のどっちで答えるのか聞いたら、「英語で答える」って言うからさ、「ユー・アー・ナイス・インテリジェンス！」って言ったら、ニヤッとしてたな。「俺は英語もしゃべれるんだぜ、エッヘン」っていう顔してたで（笑）。

――前田さんから見て田村vsヘンゾの試合内容っていうのはどうでした？

前田　あのルールで、田村は「まず勝たなきゃ」って考えてやってたから、あれでいいんだよ。ちゃんと見せ場もあったし。

――ターザンは「前田日明はネットワー

オーソドックス・スタイルと言われるグレコをベースに優勝を成し遂げたD・ヘンダーソン。田村が「UWF」にこだわったように、ダンも「レスリング」にこだわった。次はカレリンと共にシドニー五輪だ！

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

クで世界的な広がりのある、開放された世界をやろうとしてるのに、作り上げた現場の世界は、閉じられた世界だ」っていう問題提起をしてますね。

前田　閉じてるとか開いてるとか、イザこれからという時に、女の子の股の前で悩んでるハナタレ小僧じゃあるまいし。だから、バカなこと言うなって。どんな人間にも理想があんねん。理想っていうのは縦軸の世界。現実が横軸の世界。でね、ちょっとでも高いところに交差点があるっていうのが、努力してる人間の世界だよ。例えばな、第一次UWFの『無限大記念日』（84・7）の頃に『KOKトーナメント』やって、誰が見に来る？　誰もわかんないでしょ。「なんや、それ？」っていう世界やんけ。あのときは格闘技なんて言ってたけど、いま見ると笑っちゃうような世界でしょ。でも、それはちょっとでも高いところに交差する点を持っていくための過程なんだよ。少しでも、総合格闘技としてみんなが食っていけるような世界にするっていう理想に近づくためにね。あんときは「なんでロープに飛ばないんだ」「なんでブレーンバスターやらないんだ」「なんでニールキックやらないんだ」って、そういう次元だったからさ。でしょ？　だから、状況とタイミングに合わせたルールなり、そういうことを考えていかないとダメなんだよ。だから、バーリ・トゥードとかその世界にいる選手を含めて、いろんなものを取り込んでいける世界にするために進化させていかなきゃならないでしょ。俺はいつも「ルールっていうのは進化していって、改正があるよ」って言ってるやんけ。

——UWFの頃から考えれば、もの凄い勢いでエスケープの数もどんどん減ってますからね。

前田　エスケープを入れないと、見てる人が関節技を理解しない。でも、「短い試合じゃ物足りない」とかさんざん文句言われる。だから試合を伸ばすためのルールはどうしたらいいかってなるわけでしょ。やってるほうは大変ですよ。だからみんな壊れちゃうんだよ。

——それは、興行論を主体に考えたルール設定ですよね。今日、ホイス（・グレイシー）が記者会見やったらしいんですよ。

前田　出ないの？

——いや無制限ラウンドにしないと出ないということらしいですね。こうなるとラウンド無制限という枠のルールですね。逆に、こういう興行全体のことを一切考えない流派っていうものが出てくると、「勝負にかける精神は、こっちこそ本物！」っていう風潮が出てきちゃうんですよね。ちょっと前までそうだった。でも選手の持ってるポテンシャルを見ていけば、その人間が本物かどうかっていう興味はあるけど、ルールに本物かどうかっていうのはないような気がするんですよ。

前田　日本美術と西洋美術とどっちがきれいかっていうのと同じ話なんだよ。アホらしい。

——だから、前田さんとはルールの問題は何度も話しましたけど、試合の〝ゲーム性〟っていうのがそこでまた引っかかってきてるんですよね。〝何でもあり〟こそ、最強を決める果たし合い的な空気も実際ありますからね。

「金的、目突きあり」をウチでやっても、それはゲームなんだよ

AKIRA MAEDA

前田　あのね！　例えば、「金的突きあり、目突きあり」っていうのをリングスでやったとしても、それはゲームなんですよ！　現実の殺し合いはどうかって言ったら、その場で決着つかなければ、恨んだヤツが大挙して乗り込んで来るかもわかんないからね。でしょ？　そういうのが本当の殺し合いだよ。抹殺しちゃうんだから。

——そういうことを考えの範疇に入れて、常に試行錯誤している前田日明の方向性を『SRS・DX』の連中はヨシとしてるんですよね。それはボクもそうなんですよ。でも、ルールをキチンと決めてスポーツ化、メジャー化していくことと、そういう前田さんの持ってる根っこの部分とが矛盾を起こしてるとターザンは言う。田村選手なんかがスポーツマン化すればするほど、格闘家としての根っこの部分が見えにくくなってると。

前田　だから、まず山本はキンタマに針を打ってもらって、チ●ポ勃つようにしなきゃダメだね。それからね、この『SRS・DX』は、コイツら、いつも確信犯なんだよ。

——でしょうね（笑）。

前田　後出しジャンケンばっかりやんけ。ほんでね、今回、シアトルの清原の件も勝手に載せて、俺、巨人軍に怒られたって言ったでしょ。あれも前もって言ったんだよ、「ダメだよ」って。でも俺らがシアトルから離れたらパッと乗り込んでいって勝手にやってるでしょ？　謝ればいいと思ってるんだよ。1回、2回って続いたから、これからは念書取ろうと思ってるんや。今度そういうことがあったら、

谷川の頭坊主にして、頭に"グレキュー"って刺青入れてもらうとかさ（笑）。

——ガハハハ！　それぐらいだったら、喜んでやりそうですね（笑）。

前田　頭のうしろにオ○コのマーク書いて、「私のオ○コに突っ込んで」っていうメッセージを貼らしてもらうとか、そういうのをやらんと、アイツらわからんよ、アホだから。

——それやったらわかるかっていうと違うでしょうけどね（笑）。『SRS・DX』に掲載されたマーク・ケアーのステロイド問題の記事も怒ってましたね。

前田　あんなん関係ないやんけ！「打つとこ見たのか？」って話でしょ。見てもいないのに、ジャーナリスト面してこの業界をわざわざ貶めて、一体誰が得すんねん。

——話を戻すと、ボクが田村選手を凄いと思ったのは、自分の土台にプライドを持ってるってことですよね。ヤマケンの問題があったりとかして、「UWFなんてもう古い」なんて、やいのやいの言われてるときに、自らあのUWFのテーマ曲で出ていって、それでちゃんと結果を出すっていうのは、ホントに前田さんの言う「男の子」って感じがしますからね。

前田　俺、あのとき聞いて「あ、これが『UWFのテーマ』だったのか」って思ったね（笑）。

——ズコッ！（笑）。なんで大将が忘れてんですか！　あれ、山ちゃんも使ってましたよ。

前田　あ、ホント？

——だから、サダハルンバは「あれぇ～？」田村選手は山ちゃん（山崎一夫＝引退）を背負って出て来てんのかなぁ？」と、実に寝ぼけたこと言ってましたけどね（笑）。

前田　あれは極楽トンボだね（笑）。

——でも、その極楽トンボが『「最強」の追求と『ゲーム性』』という問題提起をしてるんですよね。「多くの格闘家はこのテーマに向き合うことで悩んでいる。嘉納治五郎、大山倍達、そして前田日明。KOKで一番面白かったのは、そんなテーマが浮き彫りになったことだ」と書いてます。

前田　いや、言わんとしてることはわかるんだよ。でもね、リングで闘ってる人間が云々って言う前に、こいつらは人間をナメてるんだよ！

——人間をナメてる？

前田　人間の可能性っていうのをナメてる！　極端に言えば、谷川が見てる前で、妊娠してる奥さんを強姦させて、腹カッ捌いて、胎児を引きずり出して足でグチャグチャに踏みつけるとかしたらね……。

——きょ、極端すぎますよ！（笑）。

前田　そういうことになったら、谷川だって普段持ってない感情が沸き起こって最強のマーダーになる可能性だってあるんだよ。

——マ、マーダー！

前田　それは「まぁだだよ」って感じだけどね。へっへっへ。

——ダ、ダジャレですか（笑）。

前田　そういうのは、あいつには永遠に訪れないかもわかんないけどさ、それが人間の可能性ってことだよ。それがわかってないんだよ。

——「人間の可能性をナメてる」。いい言葉だなぁ。

前田　自分らも含めた人間の可能性をナメてる。それでいつまでもメルヘンチックなミーチャン、ハーチャンなんだよ。だから、田村の可能性も他の選手の可能性も見えない。それだけですよ。なんとかグランプリは、完成された人間か下り坂の選手ばっかりでしょ。可能性を持った未完成のものがいちばん面白いんだよ。

——「リングスシンパたちが田村の勝利で満足してるっていう環境が引っ掛かる」とも言ってますね。

前田　あのな、「UWFシンパ」ってよく言うけど、いままでUWF見た人、何人いるんだよ？　こういう状況になって、UWFをライブで見たことあって、それからズーッとついて来てる人って、全体のファンの何パーセントいるわけ？　半分以上いると思う？　いないでしょ？　そういうふうにチョッカイ出さないと、そいつら飯食えないからそう言ってるだけでしょ。自分の土俵に引きずりこもうと商売やってんだからさ。「いい子いますよ、お兄さん、寄ってらっしゃい」っていう、やり手ババアと一緒やんけ。

——やり手ババア。また古いですね（笑）。

前田　で、実際に連れ込んだら、凄いオババハンでも抱かしてさ。「金取ったらこっちのもん」っていうのと一緒でしょ。

——いま、なんか図らずもリングスvs『PRIDE』っていう対立概念が出来てて、だからこそ、リングス・シンパや前田信者が「KOKには、なんとか成功して欲しい」と思ってると。でも「真の前田シンパ」を名乗る『SRS・DX』の人たちは、それがインディー的世界に見えるらしんですね。だから弾かれた感じを受けるらしいんですよ。でも、ボクは、いままでのリングスファンとは質の違うファンが来てると感じたんですけどね、武道館には。

前田　こないだ、谷川に「ウチの悪口言ってるらしいね」って言ったら、「いや、そんなこと言ってないです、すいません」みたいになるんだよ。山本のオッサンも、以前、ホントに引きずり回してやろうかと思ったら、「ボクは前田さんのファンなんです」って人づてに言ってきたりな。なんか、人の頭叩いといてさ、「コノヤロー！」って言って振り向いたら、「すいませ～ん」って言われてるようなもんだよね。だから俺も「これは俺じゃなくて、俺の手が悪いんだ」とか言って、小突いてやろうかと思うね（笑）。

——ガハハハ！「俺の手が悪いんだ」（笑）。だから、これを言うんだったら去年の代々木大会（99・10・28）か大阪大会（12・22）のあとに言えばよかったんですよね（笑）。

前田　（葉巻に火を点けながら）どーでもええわ。

——ボクは、リングスだとか『PRIDE』だとか関係なく、個人を見ていきたい派ですからね。「前田日明の本質を見よ」って言うことには賛同できるんです

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

よ。でもいかんせん点でしか見てないんですよね。

前田　点でしか見てないよ。

―田村選手のことも点でしか見えてないんですよ。だから田村がヘンゾに勝って喜んでる連中のなかに入ると、追いてけぼりを喰ったような感じになるんでしょうね。

前田　何度も言うように、俺が言ってるのは、理想と現実の交差する点をいかに高くするかっていうことだから。ウチのルールってさ、どれぐらい変遷があった? いつも理想と現実をクロスさせるところから始めるわけでしょ。いまだったら膠着するってことをファンが理解できるとこまで、まだまだ行ってないし、そういう部分で選手を闘わせるよりも、こっちのルールのほうが面白いからやらせてるだけの話ですよ。それがプロモーターだよ。誰もそれを考えてないからね。こいつらはね、切り取った場面でしか見れないんだよ。ふだん見に来ないヤツに限ってそういうこと言うしね。

―でも、KOKルールは、やるほうはシンドイでしょうね(笑)。

前田　シンドイ!　俺だったら「いち抜〜けた」って言ってるね(笑)。

―いち抜けしますか(笑)。ところで、KOKで一番「いいな」って思った選手は誰ですか?

前田　「一番いいな」って言うより、さっき、柔術だなんだって話あったじゃない。結局ね、(カール・)ゴッチさんってなにかって言ったら、グレコローマンのレスリングの技術を大事にしながら、サブミッションと融合させていったんだよね。で、KOKも蓋開けてみたら、グレコローマンの選手が優勝したやん。グレコローマンって、向こうではオーソドックス・スタイルって言うんだよね。やれ柔術がいい、なにがいいって騒いでも、やってみたらグレコローマンだったっていうさ。元の場所に帰ってるやんけ、ってね。あれは不思議な感覚だったね。もし(ダン・)ヘンダーソンが110キロあったら、グレコの限界かって思うけどさ。あの体重(90キロ)で勝ったんだから。体重差がどうのこうのっていうのもあったけど、結果はそう出たってことだからね。彼のオーソドックス・スタイルがいままで活かされる場がなかった。それを活かすことができたら、面白いことになるんじゃないかって言ったのはこういうことだったんだよ。だから、柔術にこだわるヤツはこだわればいいし、レスリングにこだわる人はこだわればいい。田村は自分の経験にこだわったっていうだけですよ。みんな、あっちフラフラこっちフラフラしないでね。吸収できるものは吸収して、なおかつ、自分の経験の上にプライドを持たないとね。そのプライドに対して、とやかく言うのは間違いなんだよ。俺は正直言って、いまはUWFが勝とうが、(リングス・)ジャパンが勝とうが、柔術が勝とうが、どーでもいいんだよ。俺のいまの仕事はそういうことじゃないからね。

AKIRA

「アブダビではコビィロフみたいなのが勝てるかもしれない」と言わせたアンドレィは、KOKで大ブレイク!　武道館のノゲイラ戦ではジャッキー・チェンをも凌ぐ酔拳殺法も披露した。「男の子」だぜ、コピ!

言わんとしてることはわかるけど こいつらは人間の可能性をナメてる

―糸井重里さんが、「前田日明の再デビュー」を見たと言ったのは、そういうことでしょうね。KOKはプロモーターとして、充実感を味わいましたか。

前田　そうだね、味わったね。交渉とか面白かった。

―で、さっきちょっと言いかけた『強さ』の追求と、『ゲーム性』っていうことなんですけど。

前田　「ゲーム性」っていう言葉は俺が教えてやったんやないけ!　みんなにわかりやすく言うために「ゲーム」って使ってるのに、「わかった!　ゲーム=遊びだ!」みたいに勘違いしてね。なにを言ってんだ、お前は?ってなるよ。

―それは前田さんが常に、ずっと言ってることなんですよね(笑)。

前田　俺が全部教えて、3年ぐらい経ってやっとわかってさ、わかったらアホの顔して「ゲーム性、ゲーム性」って言ってね、やっぱりわかってないやんけって。

―「スポーツ化されればされるほど、一方でルールの中での勝ち方が進化している」と。これを指してターザンは「田村選手の勝ちは判定狙い」と言ってるわけです。前田さんもよく言ってましたよね。「柔道でも、大昔は殺し合いだったのが、近代スポーツ化していって、その中で忘れられたものがある」って。つまり、そういうことをテーマとして話したいということなんでしょうね、好意的に捉えれば(笑)。

前田　昔、UWFのポスターで「進化するバトル」っていう意味のポスター作ったことあるんだよ。ウチらが言ってるのは、そういうことなんだよね。進化するバトルなの。ルールは、そのときの状況を体現してる枠なんだよ、枠。

―そのときの状況を体現してるっていうところが重要ですね。つまり、ルールで縛らなければ縛らないほど、「果し合いに近い」という幻想があると思うんです

よ。だから、「KOKみたいなゲーム性の高い格闘技じゃ真の決着は見れない」っていう考え方を持っちゃう人たちもいるんでしょうね。

前田　それを言うんだったら、なんでアマレスラーが違うルールで勝てるの？　柔術家が勝てるの？ってなるやんけ。KOKは柔術のルールと全然違うやん。でも、その場所や競技で最高のヤツっていうのは、なにをやっても対応できるんだよ。本当の強者っていうのは。でしょ？

――ボクシングだってゲームですからね。でもモハメド・アリのように見てる人の細胞を叩き起こす人は出てくるんだもんなぁ。

前田　じゃあボクサーは弱いかっていったら、とんでもないでしょ。「総合系にボクサーが出ても勝てるわけない」とか言うけど、超一流のボクサーが出てないっていうだけの話やん。ミドルクラスの凄いパンチの早いヤツが出てきたら、カーンと鳴ったらパンパーンで終わりだよ、ヘタすると。アホがさ、バーリ・トゥードでは、マウント取られたら、なんにもできない言ってたでしょ。そんときも俺言ったやん。「アホか。そんなバカなことがあるわけないじゃないか」って。でしょ？　マウント取った瞬間にさ、敵に足が4本ぐらい生えてきて、『デビルマン』のデーモン一族みたいになるんだったら逃げられないよ。そんなのどこにおんねん？「マウント取られたらこうやって逃げれる」みたいなのは、いっぱいあるわけ。そういうとこでも人間の可能性をナメちゃいけないんだよ。人間の可能性を枠にはめちゃいけない。いまんとこ、人間にできないのは死んだら、生き返れないっていうことだけでね。

田村にロレックスをやる！金無垢やで、金無垢！

――でもクローン人間がありますからね（笑）。

前田　科学の力を駆使すればね。科学の力を借りれば、俺だって女になれる（笑）。でね、ルールっていうのは、レギュレーションなんだよ。俺が作るルールはレギュレーション。どういうことかって言うと、F―1には、毎年カテゴリーがあるでしょ。「エンジンは何cc以下で」って。そういうのをやろうとしてるんだよ。無制限にしたら、なんでもできるよ。原子力ロケットエンジンとか積んでさ。

――ガハハハ！　まさに科学の力ですね。

前田　そうしたら金があるヤツが勝つんだよ。でも、プロモーターとして、なんでもOKじゃなくてね、なにを見せればいいかって言ったら、みんなポテンシャルは間違いなく持ってるんですよ。それをどう見せるかの問題でしょ。

――そのポテンシャルっていうのは、人間としての底力がなきゃ伝わらないですよね。テクニックが優れてるだけじゃ伝わらない。

前田　究極の闘いを見たいって言うんだったら、なんとか組対なんとか組で抗争してる事務所に入っていって見とけって。そっちのほうが面白いよ。間違いなく負けたほうは死ぬんだから。

――なかなか見れないですね、それは（笑）。

前田　格闘するのは1対1だけだと思ったら、大間違いだよ。普通は5対1とか、そういうもんなんだから。1対1でも相手が武器を持ってるかもしれないし、何が起こるかわからないからね。

――だから、前田さんのそういう思考性とか方向性を異常に好きな人が「田村選手のゲーム的な闘いの中に凄みが見えない」ってなっちゃうんでしょうね。だから、さっき、前田さんから見た田村さんの凄みってどういうところなのかなぁと思って聞いてみたんですよ。

前田　田村に凄みがあるとしたら、枠を作って「これでやれ」って言ったら、ちゃんとやって結果を出すところ。与えられた枠の中で最高のものを生み出す努力をしてるというところだよ。その努力がリング上から見えない人間は、そいつが努力してないっちゅーことやね。

――なるほど。ところで、盛り上がったKOKのあとのリングスは今後はどうなっていくんですか？

前田　ワールド・ネットワークも完成したから。あとはワールド・タイトル、ワールド・ランキングの設立やね。リングス・ブラジルも今度設立したらいろいろあるし。5月にロシアに行くし。あとオーストラリアとオランダがあるから、面白いのいっぱい出るんじゃない。いい選手を見つけてきたいね。

――確かに、前田さんが連れてくる選手は、ホント面白いですからね。人間の可能性バリバリですよ。ルールはKOKルールを変遷させていくんですか？

前田　いまはね。KOKルールだって、ワールド・ネットワークになったら、各国から要望が上がるから。「こうしよう、ああしよう」って。だからルールもどんどん変わっていくと思うよ。ほんで、見てる人の鑑定眼を養ったうえで、顔面打撃をありにするとか、それはいいと思うよ。俺らは選手に給料払って、食わしていかなきゃいけないしね。やるからには、いいステイタスでいいギャラを払ってや

りたいし。でないと、いい選手が入ってこないからね。要するに人間なんだよ。

――例えば、こないだ5分2Rだったじゃないですか。2Rで決着がつかないときは、延長でグラウンドの顔面ありとか、そういうふうにはならないんですか？

前田　可能性はあるんじゃない。そういう状況になったら、やるだけですよ。リングスはバシバシやっていくよ。

――でも、ホントKOKは面白かったなぁ。とかいうと、また「山口はリングス・シンパだ」とか言われるんですよ、ネットの気持ち悪いヤツらに（笑）。俺が前田日明に奢ってもらったことがあるか！

前田　1回あるやんけ!!

――……あ、すいません。焼肉奢ってもらいました（笑）。

前田　谷川なんかトンカツ奢ってやったで。

――トンカツ（笑）。

前田　谷川の顔見たら、トンカツのイメージあるやん。

――嫌なトンカツだなぁ（笑）。そういえば、田村選手にロレックスを贈ったそうですね！　めちゃくちゃ高いヤツを！

前田　あいつ、まだ電話かけてこない。いらないんやったら、俺がするよ。

――拗ねないでください（笑）。

前田　自分の金使って買ってんのにさ。拗ねちゃうよ。

――留守電かなんかに入れといたんですか？

前田　「電話くれ」って言ってんのにさ。金無垢だよ、金無垢！

――前田さんのポケットマネーですか？

前田　当たり前やんけ！　会社にそんな金あらへんわ。

――ガハハハ。どーするどーなるロレックス！　アブダビに出た日本勢で「男の子！」と思った選手はいないですか？

前田　そうだなぁ。今回はあんまり日本勢が出てなかったからね。

photographs by Yutaka Toyoda

次は俺が王子やんけ！（どこの）

AKIRA MAEDA

――しかも今回はほとんどが一回戦負けでしたからね。

前田　今回、日本人選手が研究されてたね。

――では最後に。王子としゃべったことで、一番印象的なことは？

前田　別れ際に、パッと寄ってきて、「今回は来てくれてありがとう。今後、私の国に関することで、どんな問題でも困ったことがあったら言ってくれ、力になるから」って言ってたね。

――実に「男の子」ですね、王子は！（笑）。

前田　「男の子」は宿命を背負うんですよ、宿命を。

【3月13日／東京・渋谷リングス事務所にて収録】

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

アブダビコンバット2000

やってきました。年に一度の格闘技の祭典。年一度の王子の道楽。
穴を掘ったら、燃える水がでたっぺよ。金持ち息子が催した、超人オリンピックを見に、
行ってきました、地の果てUAE。メッカの方角を向きながら、お読みくださいまし！

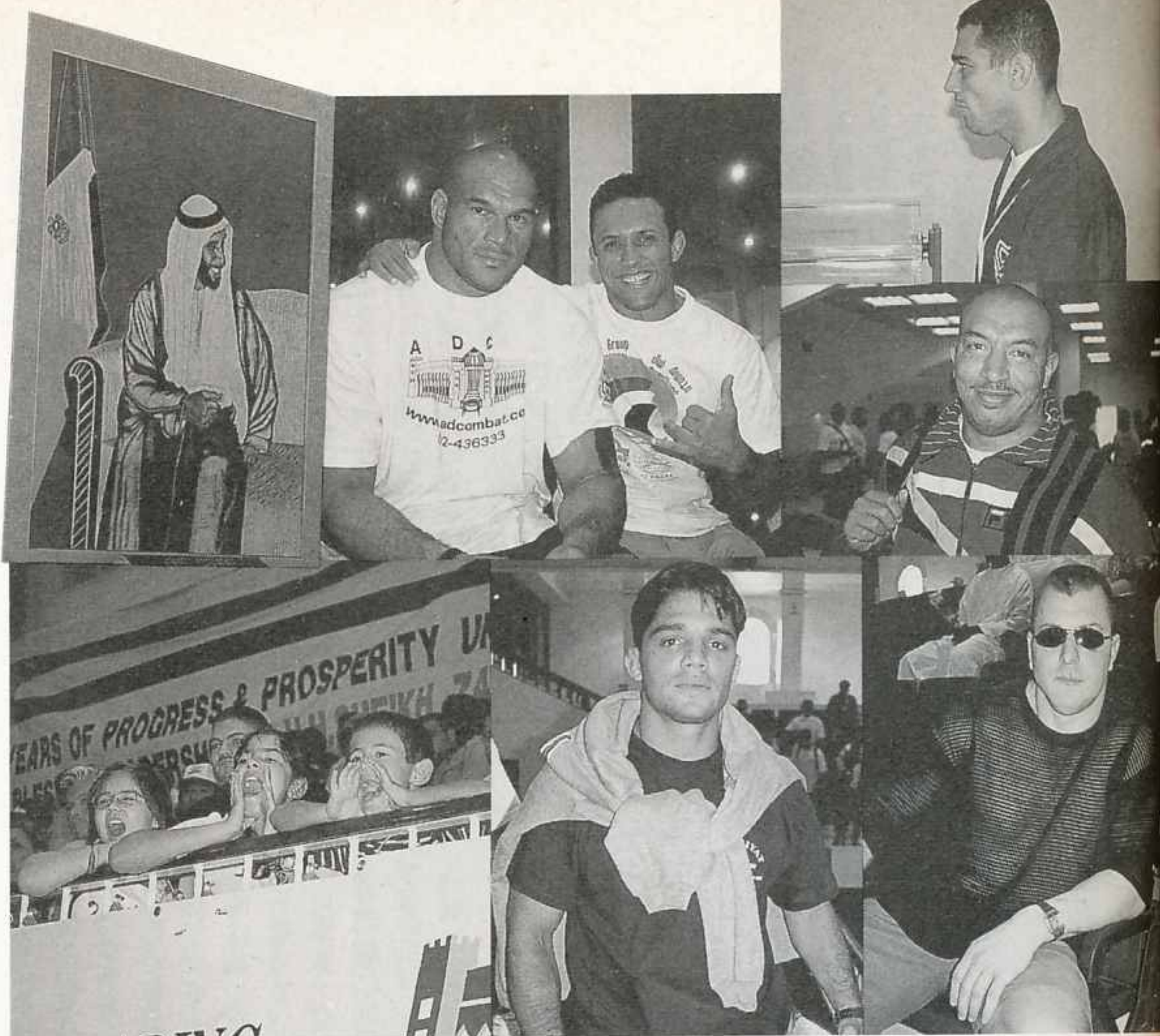
ココ

本誌『ザ・検証』や『バカサイ』などで
絶賛執筆中の“アブダビだけに
ブタがお嫌いな”椎名基樹入魂！
いい日アブダビ紀行文!!

3月1日～3日■アラブ首長国連邦・
サブミッション・ワールド・チャンピオンシップ

ようこそ
アブダビへ

文・写真／椎名基樹
text & photographs by Motoki Shiina

『紙プロ』の豚（坂井伸行23歳）から、突然電話がかかって来て、「ブヒ～ッ　椎名さんアブダビに行きませんか？　ブヒ～ッ」と、言う。俺は、すぐに事態が飲み込めず、「う～ん、お金がないから行かない……」と答えた。すると、豚は「ブヒ～ッ、そうじゃなくて、ウチが出しますから、取材に行きませんか？　ブヒ～ッ」と、何やら嬉しいことを、ブヒブヒッ言っている。俺は「ヤッター」と心で叫び、「行きます」と即答。かくして、俺のアブダビ・コンバット行きが決定した。それは、出発の3日前だった。

それにしても、この不景気&せち辛い世の中で、随分嬉しいことをしてくれるじゃねえか、『紙プロ』。俺は「わ～い、『紙プロ』にお呼ばれしちゃった～」などと、能天気&マスコミボケ全開で浮かれた。しかし、それが大甘の考えだと知るのに時間はかからなかった。相手が『紙プロ』だと考えれば、これから俺の身に降りかかる出来事を簡単に想像できたろうが、その時はアブダビに行ける嬉しさで、冷静な自分を見失っていた。

とにかく、俺は「『紙プロ』さんありがとう、ルンルン」などと言いながら、出発までの準備に取り掛かった。締め切りの原稿を流し込み、休まざるをえない、仕事先に謝りの電話を入れた。しかし、前から決まっていた、遊びの約束はキッチリ守った。電話をもらった次の日からの俺の行動は、川崎球場で草野球（取り壊される川崎球場の最後から2番目の試合！）→そのままAM3時まで泥酔→仮眠→ファミ通主催のWE4（サッカーゲーム）の大会に参加（もちろん個人的に）→リングス・武道館大会と、バカ&収入の少なさ丸出しのスケジュール。しかも、田村（潔司）がUのテーマで出てきたもんで、ボロボロと大泣き！

その武道館大会で、『紙プロ』と最終的な打ち合わせをすることになっており、田村が（レナート・）ババルに負けた時点で、バックステージに向かう（プレスパス無し）。そして、山口編集長に会ったのだが、編集長は「いいな～、アブダビ～。俺も行きてえなあ」などと、代表取締役とは思えない呑気な発言を繰り返すのみ。ここで初めて、俺は「アレ？」と思ったのだ。

マスコミボケの俺は、豚か編集長のどちらかと、アブダビに行くと思っていたのだ。しかし、良く考えてみれば、編集長が行くなら、俺が行

日光浴をする、エムコ・バドゥール。これから、寝技するって人が、日焼けだなんて……。

One of star twins dead

'Gold' Kin dies at 107 of heart failure in her sleep in Nagoya

Tokyo (Reuters)
The centenarian dynamo Kin Narita, who charmed millions as one of the world's oldest twins, died at the age of 107 of heart failure yesterday at her home in the central Japanese city of Nagoya.

Kin, the older twin, and her sister Gin Kanie, gained national and international fame for their beaming smiles, enormous vitality and shared longevity.

"Kin died in her sleep. After living all those years, she just wanted to live a little bit longer and become the oldest person in Japan," grandson Yukio Narita told reporters. Kin came down with the flu last week but met her sister on Friday for the taping of a TV programme, he said.

The twins said the simplicity of their lives, their reliance on each other and frequent walks as they grew older contributed to their extraordinary health.

Kin had been in exceptional form on her August 1, 1999, birthday when she and her sister appeared, wielding pink shovels, at a tree planting ceremony in the northern city of Sapporo.

"Kin" and "Gin" mean gold and silver in Japanese and the pair were born into a farming family in a central Japan town near Nagoya on August 1, 1892. They lived in separate homes in Nagoya.

Fame did not come to the twins until they turned 99. They were "discovered" by local politicians who visited them on Japan's Respect for the Aged Day on September 15, and they were designated national treasures in 1991.

The charismatic pair had appeared on numerous commercials, game shows, news programmes and even graced the pages of *People* magazine. They recorded a "granny rap" record that vaulted up the Japanese pop charts for their 100th birthdays.

Kin had 11 children, 11 grandchildren, seven great-grandchildren and one great-great grandchild.

Kin Narita (right) and her twin sister Gin Kanie photographed last year at their home in Nagoya. Kin means gold and Gin means silver, in Japanese. – Picture: Reuters

向こうの有力紙の一面を飾ったという、我らが、きんさんの死。猪木が送った、お悔やみのポエムは報道されたのだろうか？

く必要など全然ないのは、当たり前園さんの言う通り。で、最終的な打ち合わせってのも、「じゃあ、気を付けて」という、ありがたいお言葉をいただいたのみ。呆気に取られつつ、打ち合わせを終了し、俺は豚といっしょに、ババルvsダン・ヘンダーソンの決勝戦を見つめながら、初めてこの旅行の内容を質問してみた。「俺、誰と行くの？」、「二人です」。それはいい。一人ってのも気楽でいい。でも、その次がいけない。「あと、言い忘れちゃったんですけど、ホテルがどうしても取れなくて3人部屋なんですよ」と豚。え〜！　先に言ってよ〜！　協調性がない俺は、他人と3人部屋など、もっとも苦手。だいたい31歳にもなって3人部屋が嬉しけりゃ、そりゃホモだ。そして、よくよく話を聞いてみれば、要するにアブダビ・コンバット観戦ツアーにツアー客として参加するとのこと。アブダビのツアーは人が集まってないらしく、俺を含めたその3人がツアー参加者の全部だというのだ。俺は「ヒャ〜」と思いつつ、即座に諦めを入れ「アブダビに行けるんだ、笑ってよ、俺」と自分に言い聞かせた。とにかく、出発まで明日1日しかない。急いで準備に取り掛かろう。

次の日、真っ先に向かったのは病院。これからの飛行機＆3人部屋を考えると、何がなくともハルシオンだけは、手に入れたかったのだ。俺、絶対眠れねえ。そして、もう何年も服を買っていなかった俺はコ○キ同然の汚さだったので、服を買いに行った。いやしくも、『紙プロ』代表で行くのだ、王子様の前で恥じはかけぬ。で、買った洋服が結局ジャージ！　成田エキスプレスを予約し、写真フィルムを買い準備ＯＫ。明日出発だ。

成田空港。旅行を共にすることとなった2人と初対面。23歳と29歳の男子。チェック・インして、旅行会社の人の話を聞く。俺は行く先のUAEについて何も調べておらず、位置さえも分からない。家に送られて来た旅行日程では、成田→シンガポール→ドバイ→（車で）アブダビとなっているが、わかっているのは成田→シンガポールが6時間ということだけだ。シンガポール→ドバイの飛行時間を旅行会社の人に聞くと、「12時間くらいかなあ……」などと言う。ふざけんな！　12時間あれば、楽々日本からヨーロッパまで行けるじゃねえか！　本当にこいつ旅行会社の社員なのか？　俺はビックリして、急いでガイド本を買いに走った。結局、日程は6時間のフライト→空港で7時間の待ち→7時間のフライト→2時間の車ということが判明。気が遠くなる。

ハッキリ言って、俺が自分で旅行予定を組めば、もっと楽で楽しい日程にできるね。まあ、もろもろ面倒臭い人もいるだろうから、ツアーはありがたいだろうけど、俺は払ったわけじゃねえけど、23万円も取って、フライト時間もわからないじゃあ、ダマされた気分になるよ。専門誌には何も書いてないけど、アブダビ・コンバットの入場料は無料。会場は「アブダビ・スポーツ・アカデミー」とか言ってた。「アブダビ・コンバットというレスリングの試合を見たい、会場は競馬場のあるとこ」とかなんとか言えば、タクシーで行ってくれるはず。

アラビア文字って、右から左に読むんだって。これが活字になってるなんて不思議。みんな書けるのも不思議。

少しカチンときたので、旅行会社の人に軽く悪態ついて、出国手続きへ。そこで成田名物・出国＆帰国カード（何でこんなの書かなきゃならないの？　早期撤廃を求む！）の記入もままならない、我が旅のパートナー2人を見て、少し憂鬱になる。何せツアー参加者は3人だけ。当然・ツアコンなんてつかない。「こいつら大丈夫かよ」と思う。まあ、いいけど。

今回、利用した飛行機はシンガポール・エア。シンガポール・エアの評判の良さは常々聞いていたので楽しみにしていた。そしたら、驚いたね、スチュワーデスの美しさ！　さらに制服のセクシーぶり！　アジアっぽいプリントのボディコン・ワンピースですよ。で、靴はかわいいサンダル！　長いフライト、心がなごみますよ。あと、エコノミーでも一人一台液晶のモニターが使用できて、映画ビデオやゲームが楽しめるんだけど、そのゲームが全部任天堂！　スーファミのゲームだけど、久々にF—ZEROでエキサイト。さらに、ゲームの中に「高橋名人の冒険島」を発見。高橋名人がスケボーに乗って、石斧を投げる姿に大爆笑！　外人はどう思う？

やっと、シンガポール到着。この時点でクタクタ。でも、ここで7時間待たなければならぬ。しかし、シンガポールの空港はアジアの中継点らしく、俺が知ってる中では、オランダのスキポールと双璧の大きさ＆設備の充実ぶり。シャワーまで浴びれるんですよ、コレが。お金も日本円が使える。なにはともあれ、喫煙室に直行。7時間ぶりのタバコ、生きてて良かった。そこで、この旅、最初の千年灸を足にすえる。白人

ット2000

のババアがじっと見ていたので「マイ　レッグ　ウォント　スモーキング　トゥー」とカタカナでギャグを言うと、「フンッ」とラフィン・ノーズ。は、恥ずかしい（G・馬場 in スーパースター列伝）。メシ食いつつ、買い物しつつ、何とか7時間やり過ごした。シンガポール→ドバイの飛行機は、満員。しかも、いよいよ乗客の中東色が強くなり、ヒゲ率高し。ヒゲのむさ苦しさと、フライトのキツさにクジけそうになるが、そんな時はスチュワーデスさんを凝視。それにしても、飛行機は辛い。ドバイには夜着いた。着陸前窓から見た街の光は煌々と美しい。さすが、石油産出国。翼よあれがドバイの灯だ。

ドバイの空港はすごく変わっていて、入国審査に向かう道のりに、でっかいアラビアン・ランプやら水差しやらが展示してある。とにかく、変わった所に来ちゃったもんだ。しかし、変わってようが何だろうが、もう飛行機に乗らなくていいんだという安心感で一杯だった。しかし、その安心感を吹き飛ばされるまで、さほど時間はかからなかった。入国審査でいきなり捕まってしまった。ビザがないというのだ。

UAEに入国するには、ビザが必要だ。そのことは、出発前にわかっていた。その手続きのため、あのノブタの指示で夜中にコンビニに走り、パスポートのコピーを取ってFAXしたり、書類に何やら書き込んだりしたのだ。で、ノブタは「ブヒ〜ッ、これで大丈ブーッ」などと、豚語で言っていたのだ。でも、俺宛には何の書類も送られて来なかったので、前日に本当に大丈夫なのか、確認の電話をしたにもかかわらず、結局この始末だ。ノブタのやることは、いつもでもこうだ。何でもすぐに途中で放り出す。これは帰国後わかったのだが、俺のビザのコピーはノブタが大事に所有していたとのこと。そんなに俺が好きなのか？　豚！

とにかく、ドバイに着いていきなり、別室に呼ばれて、お説教。当然、俺の英語力では手に負えず、シンガポール・エアのお姉さんをつかまえて交渉してもらう。結局、パスポートを没収され、変な紙を渡され1時間後に解放。しかし、いきなり不安材料を抱えてしまった。俺のパスポートは、本当に返ってくるのだろうか？　旅行中ずっとこのことが気になるだろう。よほど、俺が不安な顔をしていたのか、シンガポール・エアのお姉さんが「大丈夫よパスポートは返ってくるわよ」みたいなことを言ってくれた。俺は強がって「あのパスポートはフェイクだ」と答えると、少し笑ってくれた。

待たせた2人に詫びを言って、車でアブダビに向かう。もう、家を出発してから丸一日以上経っている。でも、これが最後の移動だ。暗闇の中を車で飛ばす。最高に良い道路だが、

50 Dirhams
S.No. 03016
Retain
Watch
Win
AUDI TT COUPE
March 3 Raffle
3RD WORLD SUBMISSION WRESTLING CHAMPIONSHIPS

会場で一枚1500円で売られていた、高級車クジ。すごい確率だ。当然、買うも見事外れた。

THIS IS A PEN

THIS IS MY STYLE 2000

アブダビコンバ

道の両脇が真っ暗で何も見えない。運転手さんに聞くと、右が海で、左が砂漠だという。ライトアップされた巨大なモスクが、時々浮かび上がった。アブダビの街に着いた時はもう日が昇っていた。聞いたことがない鳥の声が聞こえてくる。さっきまで砂漠の中にいたのに、朝の光に姿を現したアブダビの街は、横浜のランドマークタワー周辺を思わせる、テクノシティーぶり。斬新デザインの高層ビルの中を、美しく舗装された道路が縫っている。その道路に沿ってフェニックスが秩序よく植えられていて、南国の花が咲き誇っていた。王子！　レスリングの大会なんか開いてる場合じゃないですぜ。F1呼びましょうよ、F1。公道サーキットですよ、この街。

ホテルに着いたのは朝の7時。ちょうど、1泊した朝って計算だ。とにかく、部屋に入って足を伸ばして、寝転びたい。3人部屋ってことで覚悟していたが、やっぱりベットの1つはエクストラ。お金を出して遊びに来た人達に失礼だから、俺はエクストラ・ベットを選んだ。朝食がインクルードだというので、とにかくメシを食い、シャワーを浴び寝ることにする。すると、29歳男子の方が、なぜかキック・ボードを持って来ており、今から滑ってくるという。気は確かか!?　どうぞ、行ってらっしゃい。俺はとにかく、ハルシオンをビールで飲んで、ベットに入った。今日の2時、車が迎えに来るという。少し眠れそうだ。

寝ぼけたまま、会場に向かう。この辺はよく覚えていない。会場はホテルから車で10分くらいのところにあった。競馬場やゴルフ場などもある、巨大施設。王子、すげえよ、お前。しかし、クタクタに疲れて、まだオネムだった俺だが、会場入った途端吹き飛んだね。見渡す限りのスター、スター、スター。ヘンゾだ！　ホイラーだ！　ケアーだ！　ヒカルドだ！　テイトだ！　マチャドだ！　とにかく、いつも遠くで見ている選手たちが、平気で真横に座って、バナナなんぞバカ面で食っていやがるのですよ。会場はちょうど、学校の体育館くらいの大きさ。そこに、マットが3面ひいてある（このマットも、一枚にしつらえたすごく良い物）。下のフロアーを囲むように、そんなに大きくないスタンド席があり、大体1500人位座れるだろうか。そのスタンド席の一部が、ちょうど天覧相撲で陛下が座るボックス席のようになっており、そこに王子様一族が座っている。椅子などの調度はアラビア趣味の金キラキンだ。その金キラキンの中に、ひときわデカイ、スーツ姿の男が座っている。誰だ！　そうだ、前田日明だ。格闘王meets石油王。格好良過ぎるぜ！　でも、思わず笑ってしまったぜ。

こうなると、小学生の頃、カメラ片手にタイガーマスクを追いかけて、会場を走り回っていた血が騒ぎ出し、豆（ニセ）記者に大変身。フッと横を見ると、頭が尖んがった、座っているがひときわデカイ、ものすごい怖い顔の男がいる。そうだ、ヒカルド・モラエスだ。その横に座っているのは、ヘンゾ・グレーシー。こんな2ショット、めったに撮れない。ヒカルドは怖いが、意を決して撮影のお願い。すると、ヘンゾがメチャクチャ爽やかにOK。カメラを向けると、ヘンゾが、まだ大魔神のような表情をしていたヒカルドと肩を組み、「笑えよ」というように胸をポンッと叩いた。するとヒカルドは、はにかむようにニッコリ。そこで、初めて俺は気づいた。ヒカルド・モラエス、すげ～可愛い。

ヒカルド・モラエスはアーセナルのカヌーのような奴なのだ。『紙プロ』読者は、ほとんどサッカーには興味が無いだろうから恐縮だが、カヌーはナイジェリアのサッカー選手。現在、イギリスのチーム・アーセナルのエース・ストライカーだ。カヌーは身長197センチを誇り、ズバ抜けた身体能力を持つ。そして、悪く言えば、少しオツムが弱く、良く言えば子供のように天真爛漫な男だ。本当のところはわからないが、ヒカルドはこのカヌーに似ているような気がする。とにかく、このうまく笑えないヒカルドに、俺はいきなり心を持っていかれてしまった。

そして、ヘンゾのスマートぶり、兄貴ぶりにも感心した。ヘンゾは、元不良のやることとやりつくした、スマートぶりが良く出ている。さすが、33歳にして高校生の子供がいるだけある。この大会中、ヒカルドのカヌーぶり、ヘンゾの兄貴ぶりは、随所に見られたのだった。

大会は3日に渡って行われたのだが、一日目のこの日は開会式とアラビアNO.1を決めるための予選が行われたのみだ。俺が会場に着いた時は、すでに開会式は終わっていた。（どうなってんだ？　このツアー）。さらに、この日、王子がトリンガー付きの軍用ヘリで登場したと聞き、それが見れなくて非常に残念。ある意味それがこの大会のメイン・イベントだったかも。

その日の日程を全て終了し後、日本選手団はマットの一面を使って練習を始めた。そこで、初めて桜井“マッハ”速人選手と、対面。実は恥ずかしながら、俺はたったの半年間だけ、木口道場に通ったことがあり、マッハとは面識があったのだ。だから、この旅が決まった時、久々にマッハと話せることを、密かに楽しみにしていたのだ。俺に気が付きマッハから話かけてくれた。「どうしたの？　椎名さん」。俺は嫌な予感はしたのだが、マッハに嘘は言えないと思い「一応取材に来たの。『紙プロ』で」と答えると、マッハの表情は、みるみる曇り空。「それは困るなあ。『紙プロ』は。俺、プロレスラーじゃないからさあ」という。俺は思わず「わかってるよ、そんなこと」と言う。俺はスゲー悲しかった。プロレスラーだとかそうじゃないとか、そんなことどうでもいいよ。ただ、読者のみなさんにわかって欲しいのは、マッハは単に「俺はプロレスラーじゃない」と言っただけなのだと思う。マッハの言葉はいつもシンプルだ。もちろん、マッハはプロレスラーじゃない。シューターに決まってる。でも、前のマッハにそんな意識もなかったはずだ。単に強く成りたいだけ。闘うのが好きなだけだった。マッハにそんなこと言わせてるのは誰だ？　前

カフェテリアに用意された食い物。これは、サラダのみ。うまかった。

王子をリフトアップし、今まさにテイク・ダウンを奪おうとする、マリオ・スペーヒー。

ホテルのタオルをまとい、セコンドに付く、マリオ・スペーヒー。

応援団のドラムにのりのりだった、夢枕先生。おやじが「ダンス」というと必ずする「GO GO」のポーズも披露。が、しかし、応援団に前を塞がれてしまい、長時間何も見えぬはめに。

に『紙プロ』の青空道場で「注目する選手は？」と聞かれ、「桜井速人。総合格闘技を変えると思う」と答えたことを、俺はすごく自慢に思っていたのに、マッハの思わぬスケールの小さい発言に、その自信も少し揺らぐ。

ハッキリ言うけど、今時プロレスも格闘技も、その対決の図式なんてのもねえじゃねえか。あるのは、ライターやらなんやら、選手の取り巻きが、はした金奪い合ってギャンギャンわめいてるだけだろ？　アブダビにもいっぱいいたけどよお。本当、嫌になるよ。

そんなこんなで、日本選手団のスパーリングを見ていたのだが、ひじょ～に気になる男を発見！　その名も烏合会・矢野卓見。別枠で特集したので、詳しくは書かないが、この男、服装がまず素晴らしい。普段着が骨法・堀辺師範のコスプレなのだ。そして、試合用スパッツのケツには「エセ骨法」の文字。烏合会は、骨法を脱退した人達が作ったグループだ。道場は持っていない。彼の意図はわからぬが、俺には、骨法に対するアンビバレントな感情があるように思えた。とにかく、明日の本番は矢野選手に注目しよう。

会場から引き上げるため、僕たち3人は迎えの車を待った。しかし、待てど暮らせど（暮らしてないが）来やしねえ。そうこうしているうちに、ガンジーのような白の長シャツ&ザ・シークのような白布を頭にまとった、典型的なアラビアンファッションの男が俺に絡んで来た。年は二十歳くらいか。試合を見て興奮したらしく、ファイティング・ポーズを取ってかかって来いってな調子だ。「お前がブルース・リー。俺がジャッキー・チェンだ」などと言っている。「なにを、このアラブのカッペ」。俺もファイティング・ポーズ。すると今度は中学生くらいの子供がやって来て、挑発してくる。こいつがまたナジーム・ハメドそっくりな、典型的なアラブの生意気面。俺はカチンと来て、ノーガード&棒立ちで、そいつに向かってツカツカ歩く。小僧ビビッて後ずさり。だけど、すぐに向かって来る。別れ際「バイバイ」というと、その小僧、ただニヤリッと笑って、「何言ってんだ、平民」とでも言いたげな態度で、何も言わず引き上げる。UAEのアラブ人の人口は15％に過ぎず、残りはインドやパキスタンの移民だという。その15％は、みな石油を握り、大金持ちだそうだ。宣言します、日本の電力は2000年より全て原子力に転換。石油は一滴も買いません！

結局、一向に迎えの車が来ないので、側にいたヤツに、悪いがタクシーを呼んでくれというと、バスに乗ってけという。さっきの小僧が乗り込んだ、アラブ人満載のバスだ。ビビッていたら、そいつらの上の人（つまりアラブ人）が、いつまでこの日本人ここにいるつもりだ、とっとと車で乗っけてけ～と怒鳴る。この国は身分制度がハッキリしている。大会開催中、会場で便所掃除しているヤツは一日中便所を掃除していた。そして、最後の方はさすがにイライラしてか、便所係同士大ゲンカを始め、用を足しに来たファイターをビビらせてたりした。

その車でついでなので、ホテルに帰らず、スーク（市場）地区に行ってもらった。メシを食いに出たのだが、結局レストランを見つけられず、シシカバブを食った。それがメチャウマ。特に付け合わせで出てきた、カブの漬物最高！　値段は多分100円とか200円くらいじゃねえかな。

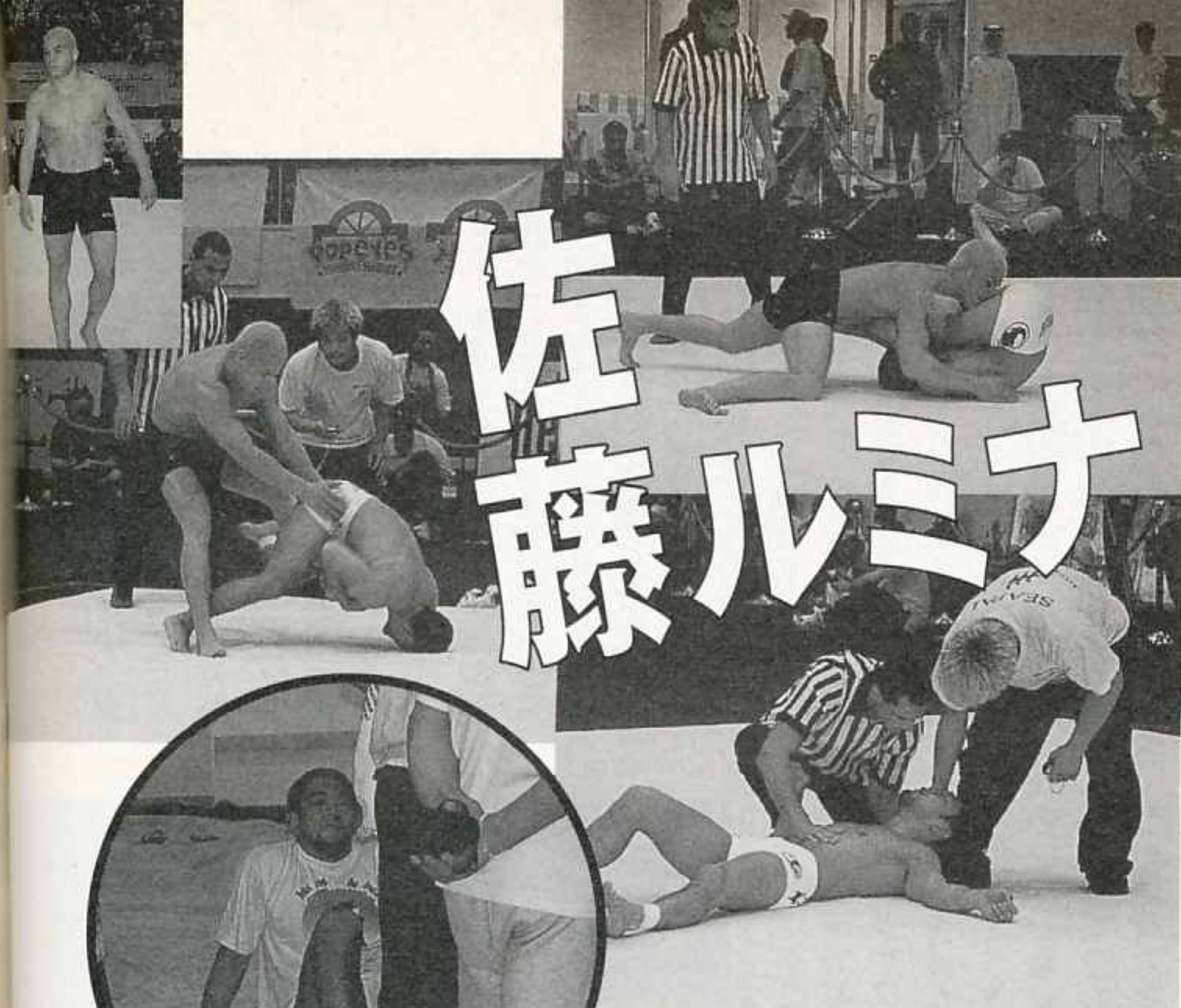
で、帰って寝たわけだが、僕の隣のベットの29歳男子のイビキが壮絶なのが、判明。何やら鼻を2回折ったことがあるということ。読者のみなさん、鼻を折った人と寝る時は耳栓を用意した方がいいっスよ。その爆音はもちろん、それが実に不定期なのだ。止んだと思うと、突然レイブ・オン。今まで聞いたことがないイビキ音だった。ハルシンを飲んだがまったく寝付けず。

○イビキ（寝付きの良さ　30秒）●睡眠薬

眠い目こすって、朝飯を食いにいく。今日の出発時間は11時だ。日本のマスコミの人が、「今日は準決勝までやるから、夜中の12時近くになるじゃないか」と言っている。しっかり食っておこう。11時から12時って半日じゃん。王子、あんた狂ってるよ。

2日目の会場は、本番だけあって熱気が違う。盛り上げ役の応援団が、アラビアン・ドラムをボコボコ叩いて、Jリーグで流行した「オ～レ～　オレ　オレオレ～」ってな曲を合唱し、踊りまくっている。試合はこのアラビアン・ドラムが鳴り響く中、ムエタイ状態で行われるのだ。もっとも、ムエタイほど不気味な音楽ではないけど。

スタンドの選手が控える一角では、みんな部活の大会状態。チームでそれぞれ場所を陣取り、出番を待ってくつろいだり、声援を送ったりしている。ただ、部活状態といっても、それが皆、スター選手なのだ。何か変な感じだが、スポーツライクですごくいい雰囲気だ。大会の雑用は、お揃いのオレンジのポロシャツと紺のパンツ、白のスニーカーで決めた、女子高生が務める。それが、また可愛い。と、いうか美人で色っぽい。みんなビッチリ上手に化粧して、近くによると甘～い香水の香り。おじさんそれだけで、満足だったよ！

そして、特筆すべきは、会場にあるカフェテ

佐藤ルミナ

（写真左）開始早々、ティトの足をフックした、ルミナ。ティトはニヤリ笑い「なかなかやるじゃん」。（写真右縦2枚連続）ティトを上四方で固める。と、いつのまにか、落ちていた、ルミナ。ギロチンチョーク？（写真丸囲み）試合終了後、バックステージで呆然とする、ルミナ。

マーク・ケアー

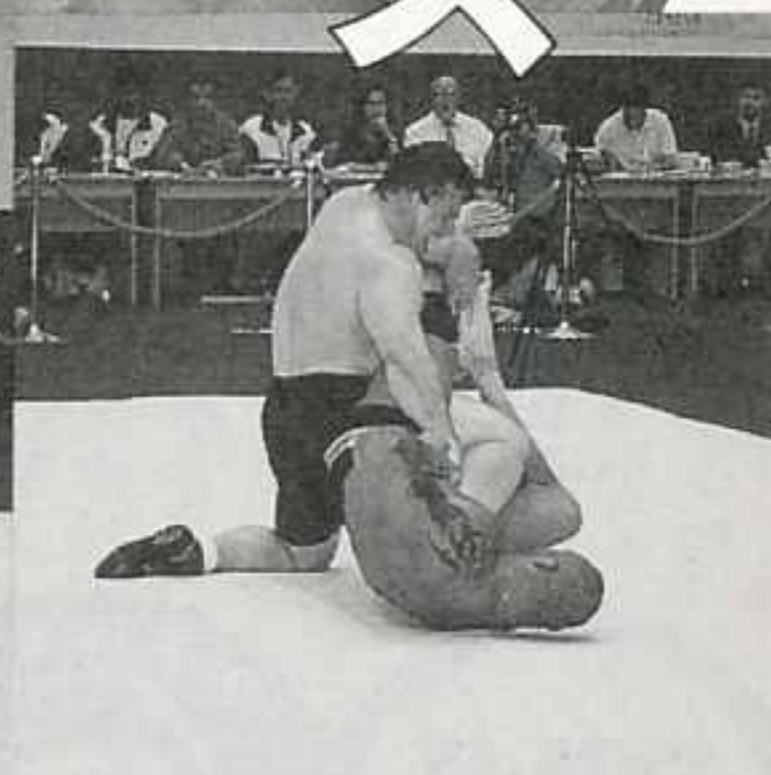
（写真上）ふっと外に出てみたら、炎天下の中、一人黙々とダッシュをこなしていた、カメラを向けると、こっちに向いてくれた。ケアー。こんな選手誰もいない。ステロイドがどうの、ビーチクパーチクうるせえ奴がいるが、ケアーのアスリートとしての意識は、他の選手と全然違うと思う。（上から2番目）ケアーと対戦したアンソニー・ネツラー。師匠エンセンの雪辱だ。しかし、ものすごいジャーマンをくらってしまった。しかし、ネツラーは大健闘だ。（上から3、4番目）無差別級で、ルミナと同じ階級でありながら、判定までもつれ込んだレオ・ビエイラ。その後、大人気になり女子高生にサイン攻めとなる。うらやましい！

ット2000

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

リアのバイキング方式のメシだ。コレはプレスパスがあれば自由にいつでも食っていいのだ。と、言っても俺といっしょのツアー客の2人も、パスをもらっていたから、いらっしゃい状態なのだ。時間ごとに、ロースト・ビーフ。チキン。中華。よくわからないが、おいしいもの。数種類のパスタ。ご飯。ものすごい種類のサラダ。見たことないような、デザート。山のようなサンドイッチが運び込まれてくるのだ。もちろん飲み物は、言えば何でも出てくる。2日目以降は結局俺は、メシ代を一銭も使わなかった。ごちそうさま、王子。あんた、素晴らしいよ。

カフェテリアのテーブルにはナイフとフォークのセットが、きれいに並べられているのだが、大会の後半になるとバラバラになり、特にフォークがなくなってしまう。フォーク1本でメシ食えるもんね。ある時、晩飯を食おうと、俺はフォークを探して歩いた。そして、4、5人の白人のグループが座るテーブルにフォークを発見。「使っていい?」と聞き、フォークをゲットし立ち去ろうとすると「どうぞ、どうぞ」と日本語が聞こえる。顔を向けると、声の主は何とイリューヒン・ミーシャ! ミーシャは「このテーブルで食ってけ」と言っている。俺は昔、日本でVTが始まったばかりの頃、有明のシュート・ボクシングの大会で、ミーシャ・コールを巻き起こした程の、ミーシャファン。嬉しかったねえ。でも、まったく顔を上げられず、黙々と食ったでありますよ、俺は。

メシと女子高生の話ばかりでは、なんなので、大会2日目で印象に残った試合を解説していこう。まずは、オープニング・マッチ。ホイラーvsバレット・ヨシダ。バレット・ヨシダの可愛さは尋常じゃないね。写真で見た、大戦中の日本人の子供のよう。日本兵・花くまゆうさく先生が夢中になるのも、納得。試合の方は、俺はバレットが勝ったと思った。下からホイラーをバッチリ、コントロール。それから、ヒカルド・アローナ(ブラジル/柔術)vsカリーム・バーカレフ(ロシア/サンボ)。この試合は、大会唯一の荒れた内容となった。差し手が張り手気味に入ったことに怒った、バーカレフが前蹴り&ロング・フックの張り手を出す(当たらず)。審判が止めに入り大騒ぎ。興奮したバーカレフはスタンドにファック・サイン。これで、彼は荷物も持たずに、そのまま国外追放となってしまった! 王子の前であんなことして、死刑にならないだけましだと、みんな言っていた。もしかしたら、ミッドナイト・エキスプレス状態かも、とも。怖い! 怖すぎる!

アローナ選手は結局、98キロ以下級優勝。この選手は絶対、日本やアメリカのVT界で頭角を表すはず。乱闘の時一瞬見せた打撃の構えは、ヒクソンのような完全柔術型だった。体重的にも、桜庭の次の相手はこいつか?

日本勢の中で唯一、2回戦に駒を進めた、日本人・若林次郎。1回戦も1本勝ちを収めた。2回戦はホイラー。決めさせなかった。カメラを向けると目を伏せてしまう。シャイな人で、思わず応援してしまった。(写真1番上) 1回戦で敗退したマッハ。久しぶりに再会した模様は本文を読んでくださいまし。

Japan

ヒカルド・モラエス

今大会ベストバウトは間違いなく、このヒカルド・モラエスvsマーク・ロビンソン。セコンドに「ヒカルド! 聞いているのか!」と子供のように怒鳴られながら、最後はまったく言うことを聞かず、アキレスでねじあげて激勝。しかし、規格外の大きな体は心肺機能に負担が大きいらしく、試合後バックステージで大の字。ドクターから酸素吸引を受ける。ケアーとの対戦を楽しみにしていただけに残念。

ティト・オーティズ

明るいキャラクターで会場を沸かせた、ティト。やはりスター性は一番。勝利の後、王子に深々おじぎし、アブダビ・コンバットTシャツを掲げ、ウイニング・ラン。本当、要領いいやつ。そのチャッカリぶりもプロ意識の表れだろう。

昨年、大活躍した日本選手団だが、今年は若林次郎選手と、アンソニー・ネツラー選手以外は1回戦負けと奮わず、残念。特に、去年インフルエンザで欠場し、今年ようやく参加できた、王子のお気に入り、佐藤ルミナ選手が負けてしまったのは、残念。試合時、ルミナ選手は、セコンドのマッハに何度も何度も時間を聞くなど、集中しきれてないように感じた。

そして、スーパー・サイヤ人、マッハまでが1回戦で負けてしまったのは、ショックだった。試合は明らかにマッハが押していたようにみえたが、不可解な判定だった。しかし、不可解ではあるが、試合の後の日本選手団の抗議の仕方はいただけなかった。金髪でやせっぽちの、明らかにマスコミの人間が、血相を変えて飛び出してきた。勝負の世界だから、勝敗にこだわるのは当然だろう。しかし、この大会はスポーツマンシップ溢れる、アマチュアの大会なのだ。これがプロの大会ならば、観客の後押しが加わり、判定が覆ることもあるだろう。当のマッハ一

アブダビコンバ…

グレーシーなんていらねえ！ フリーファイト ニューエイジ達

ヒカルド・アローナ（ブラジル／柔術）

今大会もっとも輝いた、男。若干22歳。この写真は、乱闘となった試合の後のもの。エキサイティング　ファイティングというと、「サンキュー」とニッコリ。ナイスガイ。

－88kg級優勝
1回戦　vs金原弘光×（10分・16ポイント）
2回戦　vsカリーム・ルレカフ×（15分・アドバンテージ）
準決勝　vsティト・オーティス×（15分・アドバンテージ）
決　勝　vsジェフ・マンソン×（20分・2ポイント）

人が、さすがに、アマチュア・スポーツの舞台で活躍しただけあって、笑いながら「いいから、いいから」と言って、みんなをうながしていた。（後で「残念だったね」と声をかけると、「大丈夫だから」と、意味はわかりにくいが、気持ちは伝わる、実にマッハ的な返事。素敵過ぎ！）。

そして、何と言ってもみっともなかったのは、抗議をしている者がマスコミの人間だという点だ。それは、明らかにフライングだ。そんなことをしている国は、他にどこにもない。最終日の無差別級に佐藤ルミナ選手が出場したわけだが、当初、日本人の名前はなかった。それは、マッハ戦の時の抗議が主催者側の心象を悪くしたからだという。要するに、行儀が悪いのだ。

マスコミのやつらが引率者になって、大集団で行動する日本選手団は、他の外国の選手たちに比べ、正直言って農協の団体旅行のように見える。実にひ弱だ。俺が写真を撮っていても「何だよ、お前。あっち行けよ」という雰囲気をすぐに作り出す。俺はこの会場でずっと居心地が悪い思いをしていた。何か取られそうか？ お前らマスコミは、選手と対等でなきゃならないはずだろ？ どうして選手とそんなに近くにいられるんだ？ メシの種なら他で探せよ。

話が暗くなったので、明るい話をひとつ。実力者、マシオ・フェイトーザに微差で敗れた、宇野薫選手。試合後、両腕をキューピーのように広げてからおじぎする、いつものポーズを王子席に向かってしたのだが、その時王子がビクッと反応したのを、俺は見逃さなかったね。きっと王子は「あっこいつ、俺をアラーだと思ってる！」と感じたに違いないのだ。王子、あんたズーズーシーよ。注目の矢野選手は別枠を設けたので、読んでください。

PM11時。2日目の日程も全て終了。また帰りの足がないと嫌なので、同じホテルの日本人のカメラマンにバスに乗せてくれるよう、頼む。すると「ちょっと俺ではわからないんで」ってことでリーダーのカメラマンの人に言ってくれた。よく、日本の格闘技の大会に見かける、バンダナをした、おじさんだった。「う～ん。人数が決まってるから、補助席だったら空いてるんじゃないかなあ……」という。俺は何度も礼を言ってバスに乗る。補助席でなく、普通の席が空いていた。すると、バンダナが点呼を始める「1、2、3……19、20」小学生の遠足だ。俺は仕様がなく数字を叫ぶ。すると、バンダナ「昨日17人だったから、今日は3人増えて20人　OK」だって。待てよ、ジジイ。だったら何で補助席だなんて言ったんだよ！　これは、後でわかったのだが、このバスは主催者側が用意したバスだとのこと。だったら、俺たちにも乗る権利、最初からあるじゃん！　「ありがとう」返せ！　おい、ジジイ、お前50越えてるんだろ？　仮に自分たちのバスでも、空いてたら「乗ってく？」くらい言うのが普通じゃねえのか？　いい年して恥ずかしくねえのかよ！　本当、日本のマスコミのやつらには、大人が一人もいねえ。「バンダナにロクな奴無し」という俺の持論がまた証明されたよ。

3日目の出発は2時。少し余裕があるの。UAEまで来て、格闘技ばかりじゃ癪なので、水着を買ってプールで泳ぐ。しかし、その日は、風が強くメチャクチャ寒い。無理して日光浴するも、デップリとした腹の肉の鳥肌があまりにも、不細工ですぐにやめた。

大会3日目は、全ての階級の準決&決勝。そして、無差別級。2つのマットどちらを見ても、ティトvsアルバレスヘンゾvsジアン・マチャドケアーvsヒーガン・マチャドなど夢の対決が続出。どこを見ていいのかわからない状態。その中で一番は、やはり99キロ以上&無差別を制した、マーク・ケアー。ケアーは他のやつらとは、どこか違う。物静かで、とにかくアスリートとして、すごい存在感だ。そのケアー。ヒカルド。ティト。ティトvsルミナなどは、別枠を設けたので、それを見てください。

全ての日程が終わり、表彰式。そして、みなさんご歓談タイム。みんな晴れやかで、実にすがすがしく話している。女子高生たちが選手と写真を撮って、大騒ぎしている。微笑ましい。プロ興行じゃあこうはいかない。俺の仕事も終わりだ。さあ、日本に帰ろう。たった4泊だけど、もうちょっと日本が恋しい。飛行機は辛いが、比較的帰りは楽に感じるものだ。

それにしても、いろいろ嫌なこともあったけど、やっぱ来て良かった。こんな体験、もう2度できないかもしれない。ありがとう、王子。ありがとう、『紙プロ』。

ドバイ空港。俺は別室にいる。目の前には、刑務所の面会室のようなアクリル・ガラスがある。その向こうに、ガンジー&ザ・シークのアラビア野郎が悠々とたばこを吹かしている。「お前のパスポートなんてないよ～」と言ってるようだ。俺はキレかかりブツブツ言いながら、舌打ちし、首を振っている。パスポートを探すのが面倒になった、アラビア野郎は、怒鳴りつけて下っ端に押し付ける。何もかも俺が見てきた、この国のシステムだ。イライラする俺を見て、下っ端が逆ギレする。「なぜ新しいビザを取らなかったんだ！」。俺はキレて怒鳴ろうとするが、無理に押さえて、不細工に柔らかい表情を作る。アラビアン・ルールの中でどうしようと、俺の負けは目に見えている。こうなりゃドッシリ構えたる。ああ、それにしても、俺がこうしている間、あの『紙プロ』の豚は、無駄メシを食い、やけ酒をあおり、惰眠をむさぼっているだろう。俺はギリギリのところで、自分を押さえつつ「あのバカ、帰ったら、どうしてくれよう」と考えている。

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

…ット2000

矢野卓見

見よ、この風貌。カッコいいだろ。いきなり側転で飛びつくなど、奇想天外が戦法で会場を沸かせた、矢野選手。何度も腕を伸ばされたがその度にエスケープ。そして会場は大喝采。この試合で寝技で客を沸かすのは、極めるよりむしろ、エスケープにあると実感（『KOK』のギルバート・アイブルのように）。その人気は、後でアラビア人が稽古を付てくれと、お願いに来たほど。芝生の上で稽古をつける。矢野選手の考えは正に風車の理論。極められたら、力を抜いてしまい、関節の余裕を作り逃げてしまうのだ。サブミッションにマッスルは入らない、しかし、勇気は必要だ。そん意見にアラビア人も関心。

やのたくみ■昭和45年1月3日生。主な格闘歴は柔道1年。骨法3年。前号の花くま先生入魂のアブダビ予選原稿でも登場した大注目選手。今回は初のアビダビということで、“エセ骨法”というニューコスチュームを新調し、家を出る時から“エセ堀辺先生”で挑んだ。そして、アブダビのホテルのエレベーターで、いきなりホイラー・グレイシーから「お前、本当に逃げるのうまいな」と言われ、ホイラーはオレのことをなめてるのだろうか……「キミの方がうまいじゃん」とカチンときている、趣味はおもちゃ集め（ヒーロー物）というキュートな烏合会大将。

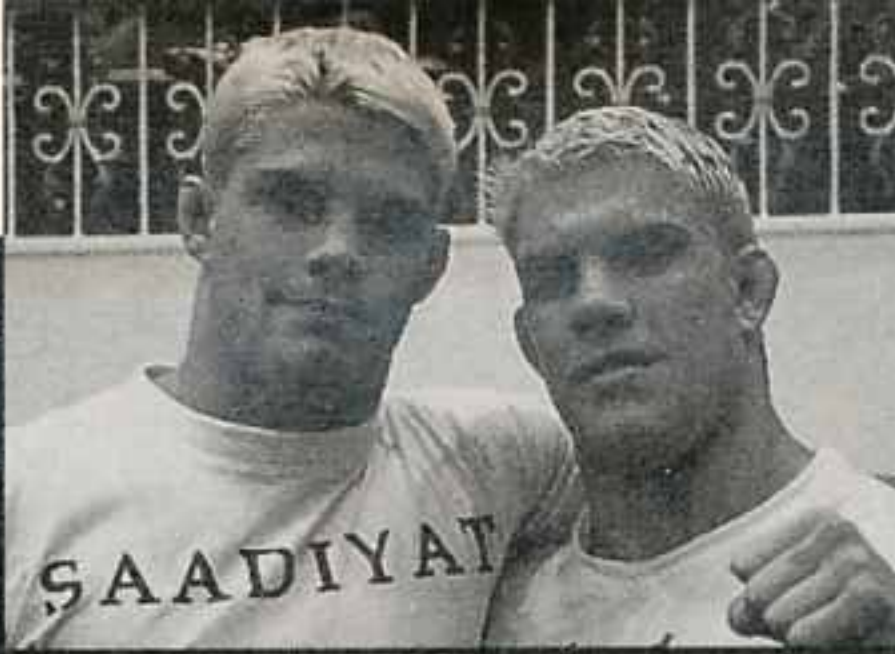
マーク・ロビンソン
（南アフリカ／相撲）

ヒカルド・モラレスと激闘を演じた。現在、ハンマーハウスで、マーク・コールマンの元修行中。プライドで第2の相撲キャラとして、どうだろう？（突然ですがスモーでごわす!!相撲と聞いたら黙っちゃいられないばい！　今度S相撲アリバイに登場して欲しいでごわす!!）

+99kg級
1回戦　vsリー・ハスデル×（10分・2ポイント）
2回戦　vsヒカルド・モラエス○（12分50秒・一本）

リコ・ロドリゲス
（アメリカ／柔術&レスリング）

ケアーといっしょにチームを組んでいた。しかし、ケアーと共に、99キロ以上級の決勝に。地味だが体格に恵まれ、素材はピカイチ。

+99kg級　準優勝
1回戦　vsカーロス・バヘッド×（10分・10ポイント）
準決勝　vsホドリゴ・ノゲーラ×（3分2秒・一本）
決　勝　vsマーク・ケアー○（20分・8ポイント）
無差別級
1回戦　vsデニス・ホールマン×（10分・5ポイント）
2回戦　vsショーン・アルバレス○（9分1秒・一本）

アルメイダ兄弟
（ブラジル／柔術）

右が無差別で3位入賞した、ヒカルド・アルメイダ。リングスKOKトーナメントでヘンゾのセコンドについた記憶がある人も多いのでは？　とにかく、ヘンゾの弟子はカッコいい奴、多し。金髪柔術兄弟。

−98kg級
1回戦　vsマット・ヒューズ○（10分・ポイント−1）
無差別級3位
1回戦　vsジョシュ・バーネット×（1分3秒・一本）
2回戦　vsマーク・ケアー○（10分・3ポイント）

ホドリゴ・メディロス
（ブラジル／柔術）

ピーター・アーツに少し似た、長身。この写真はティトに負けた直後。写真をお願いすると、このポーズ&笑顔。しかし、撮り終わると、露骨にプイっとソッポ。その態度買った！　お前たいな奴はティトみたいな奴に負けたら悔しいのわかるよ。俺もお前側の性格だからよお。

無差別級
1回戦　vsホベルト・マガーヘス×（10分・10ポイント）
2回戦　vsティト・オーティズ×（15分・2ポイント）

スーパーファイト　○マリオ・スペーヒー（判定）ホベルト・トラヴェン×

+99kg級　マーク・ケアー
- リー・ハスデル（オランダ）
- マーク・ロビンソン（南アフリカ／相撲）
- カーロス・クライトン（ブラジル）
- ヒカルド・モラエス（ブラジル／BJJ）
- カーロス・バヘット（ブラジル／BJJ）
- リコ・ロドリゲス（USA／BJJ）
- ホドリゴ・ノゲーラ（ブラジル）
- ショーン・アルバレス（ブラジル／BJJ）
- ピート・ウィリアムス（USA／シュートファイティング）
- エムコ・パドゥール（オランダ／柔術）
- ジョゼ・マリオ・マスコード・クイローガ（ブラジル）
- ヒーガン・マチャド（ブラジル／BJJ）
- イゴール・カフォリオフ（ウクライナ）
- アンソニー・ネッツラー（ニュージーランド／修斗）
- ジョシュ・バーネット（USA）
- マーク・ケアー（USA／レスリング）

-87kg級　サウロ・ヒベイロ
- ロベルト・マガーヘス（ブラジル）
- マニュエル・ガルシオ・ネイト（ブラジル／VT）
- 大山利幸（日本／サンボ）
- ヒカルド・リボーリオ（ブラジル／BJJ）
- ジョルジ・マカコ・パティーノ（ブラジル／BJJ）
- カール・ウエバー（ニュージーランド／サブミッションレスリング）
- エミール・カチャトリャン（ウクライナ／サブミッションレスリング）
- イーゲン井上（USA／BJJ）
- アートゥー・ドゥジハソフ（ウクライナ／サブミッションレスリング）
- フラヴィオ・アルメイダ（ブラジル／BJJ）
- マルコス・コルヴァル（ブラジル／BJJ）
- アレキサンダー・サフコ（ベラルーシ／レスリング）
- 竹内出（日本／修斗）
- デイブ・メネー（USA／サブミッションレスリング）
- ジェリー・ボーランダー（USA／サブミッションレスリング）
- サウロ・ヒベイロ（ブラジル／BJJ）

-65kg級　ホイラー・グレイシー
- ヘイナルド・ヒベイロ（ブラジル）
- アレキサンドレ・フランク・ノゲーラ（ブラジル／ルタ・リーブリ）
- ルシアーノ・ヘンリク・ロカ（ブラジル）
- ジョー・ギルバート（USA／サブミッションレスリング）
- トロイ・ウォー（USA／サブミッションレスリング）
- アレクサンダー・ブラフスキ（ロシア／サンボ）
- 矢野卓見（日本／骨法）
- アレキサンドレ・ソカ（ブラジル／BJJ）
- アンソニー・ハムレット（USA）
- 阿部裕幸（日本／サブミッションレスリング）
- マイカ・マーム（フィンランド／サブミッションレスリング）
- ジョン・ホーキ（ブラジル／BJJ）
- マットリュー・ハミルトン（USA／BJJ）
- 若林次郎（日本／サンボ）
- バレット・ヨシダ（USA／修斗）
- ホイラー・グレイシー（ブラジル／BJJ）

無差別級　マーク・ケアー
- デニス・ホールマン（USA）
- リコ・ロドリゲス（USA／BJJ）
- カーロス・バヘット（ブラジル／BJJ）
- ショーン・アルバレス（ブラジル／BJJ）
- 佐藤ルミナ（日本／修斗）
- ティト・オーティズ（USA／レスリング）
- ホベルト・マガーヘス（ブラジル）
- ホドリゴ・メディロス（ブラジル／BJJ）
- ビトー・シャオリン・ヒベイロ（ブラジル／BJJ）
- ジェフ・モンセン（USA）
- ジョシュ・バーネット（USA）
- ヒカルド・アルメイダ（ブラジル／BJJ）
- アントニオ・ニーノ・シェンブリ（ブラジル／BJJ）
- マイク・ヴァン・アースデイル（USA／レスリング）
- レオ・ヴィエイラ（ブラジル／BJJ）
- マーク・ケアー（USA／レスリング）

-98kg級　ヒカルド・アローナ
- ロスティスラフ・ボリシェンコ（ウクライナ／サブミッションレスリング）
- ティト・オーティズ（USA／レスリング）
- ムリーロ・ブスタマンチ（ブラジル／BJJ）
- マイク・ヴァン・アースデイル（USA／レスリング）
- 金原弘光（日本／リングス）
- ヒカルド・アローナ（ブラジル／BJJ）
- カリーム・バーカレフ（ロシア／サンボ）
- アントニオ・ニーノ・シェンブリ（ブラジル／BJJ）
- トラビス・ルター（USA／BJJ）
- ホドリゴ・メデイロス（ブラジル／BJJ）
- エウジーニョ・フェンテス・エストラーダ（キューバ／レスリング）
- ジェフ・マンソン（USA／パンクレイション）
- アレキサンダー・クリソストモ（ブラジル）
- ジェレミー・ホーン（USA／サブミッションレスリング）
- マット・ヒューズ（USA／サブミッションレスリング）
- ヒカルド・アルメイダ（ブラジル／BJJ）

-76kg級　ヘンゾ・グレイシー
- テニス・ホールマン（USA／パンクリエーション）
- ヘンゾ・グレイシー（ブラジル／BJJ）
- イスラエル・アルバカーキ（ブラジル／ルタ・リーブリ）
- 桜井マッハ速人（日本／修斗）
- アライストス・アレクサンドリデ（ウクライナ）
- カーロス・マチャド（ブラジル／BJJ）
- 宇野薫（日本／修斗）
- マルシオ・フェイトーサ（ブラジル／BJJ）
- ボブ・シャーマー（USA／コンバット）
- レオ・ヴィエイラ（ブラジル／BJJ）
- ビトー・シャオリン・ヘビイロ（ブラジル／BJJ）
- 佐藤ルミナ（日本／修斗）
- マイク・バーネット（USA／サブミッションレスリング）
- 八隅孝平（日本／修斗）
- マルシオ・バルボサ（ブラジル／ルタ・リーブリ）
- ジアン・マチャド（ブラジル／BJJ）

アブダビコンバ…

アブダビ、最悪!!

金原弘光

アブダビはねぇ、飛行機が最悪！（怒）。あれだけ日本人選手いたのに、行きも帰りもオレ1人だけ経由が違ったんですよ。帰りなんて、2時間くらいおきにボンベイ、バンコク、香港まで行ったんですよ！　3都市ですよ3都市!!　もう、気が狂いそうでしたよ。さすがにこの時ばかりは、リングスを辞めようと心に誓いましたね（笑）。（※実はチケットを用意したのはリングスではないことが判明）

それで、試合もヒドイんですよ。本当にヒドイ!!　絶対に、お金を払ってまで見たいと思う大会じゃないですね（キッパリ）。だから、『紙プロ』はアブダビの特集なんて組まないほうがいいんじゃないですか？（笑）。だってね、スーパーファイトって言うけど、試合開始から手の探り合いで終了なんだから。仕掛けたらお互いリスクを背負うから、な～んにもしないんですよ。信じられます？　ルールをよく研究してますよ、ブラジル人は。（※ここで、ブラジル人の研究成果を分析しまくりの為、大幅省略）結局、極めにもいかないから、やっててこんなにつまんないのは初めてでしたよ！　そんなので、「うわぁ、勝った！」なんてバカみたいだと思いませんか？　マッハ（桜井速人）だって、ずーっと上になってたけど下になってた選手が勝ったし。（佐藤）ルミナとか、勝負に出た選手はもったいないですよね。闘いには勝ってるけどルールに負けてますから。このルールだったら、間違いなく（グロム・）ザザと藤田（和之）選手が1番強いですよ!!　う～ん、やっぱり何回考えても訳わかんないです（笑）。ジャッジもグレイシーびいきだし、オレらUWF系は極めに行くのがモットーだから！　こんな大会練習にもならない（笑）。「アイツを倒してやる！」とかいう武道精神があるやつなんていないんですよね。アブダビは試合でも練習でもないし、スポーツというより、まさにゲーム！　そういえば、ヘンゾ（・グレイシー）が、同部屋会議やってたんですよ（笑）。なんか秒殺したらお金が出るらしいっていうんで。それでヘンゾの試合は始まったら、すぐ秒殺！　あれは凄いですよね。

あと、面白いなぁ～と思ったのは「That's my hobby!」（訳 私の趣味です）って王子様が言ってたらしいんですよ。まぁ、アブダビって王子様の趣味で選手はお金が欲しいっていう大会だからいいんですかね？（笑）。でも、ホント前田さんが王子様席に座ったのにはビックリしましたよ！　それでいきなり前田さんが「無差別級も出ろ！」ってオレに言うんですよ。この前のリングスオランダ大会でヒザ壊してるから「歩くのも痛いんですよ」って言ったら、「お前は全然根性なしや!!」って。ちょっとわかって欲しかったなぁ～（笑）。本当にもう、当分海外は行きたくないです（笑）。考えたら、オレってエリート商社マンみたいですよね？　まぁ、勝ってから言えって感じなんですけどね（笑）。

①どすこ〜い!! わしは『タモリ倶楽部』に出演するでごわす！

by スモーノブ

紙のプロレス RADICAL

2000 No.25 CONTENTS

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

No.25 Main-Event

Radical American

No.25 Semi-Final

Radical Fight

Scandal & Scoop

Specal Novels

Columns

Another

RADICAL特製ピンナップ

"PUNK" RACE NOT DEAD
MISFITS &渡辺大介（パンクラス）

RADICAL予告編ポートレート

大和魂は本当に不発だったのか!?
エンセン井上、スモーノブをボコボコに!?

⬇どすこ～い!! わしは『タモリ倶楽部』に出演するでごわす！　by スモーノブ

Art Director
出田さん● San Ideta

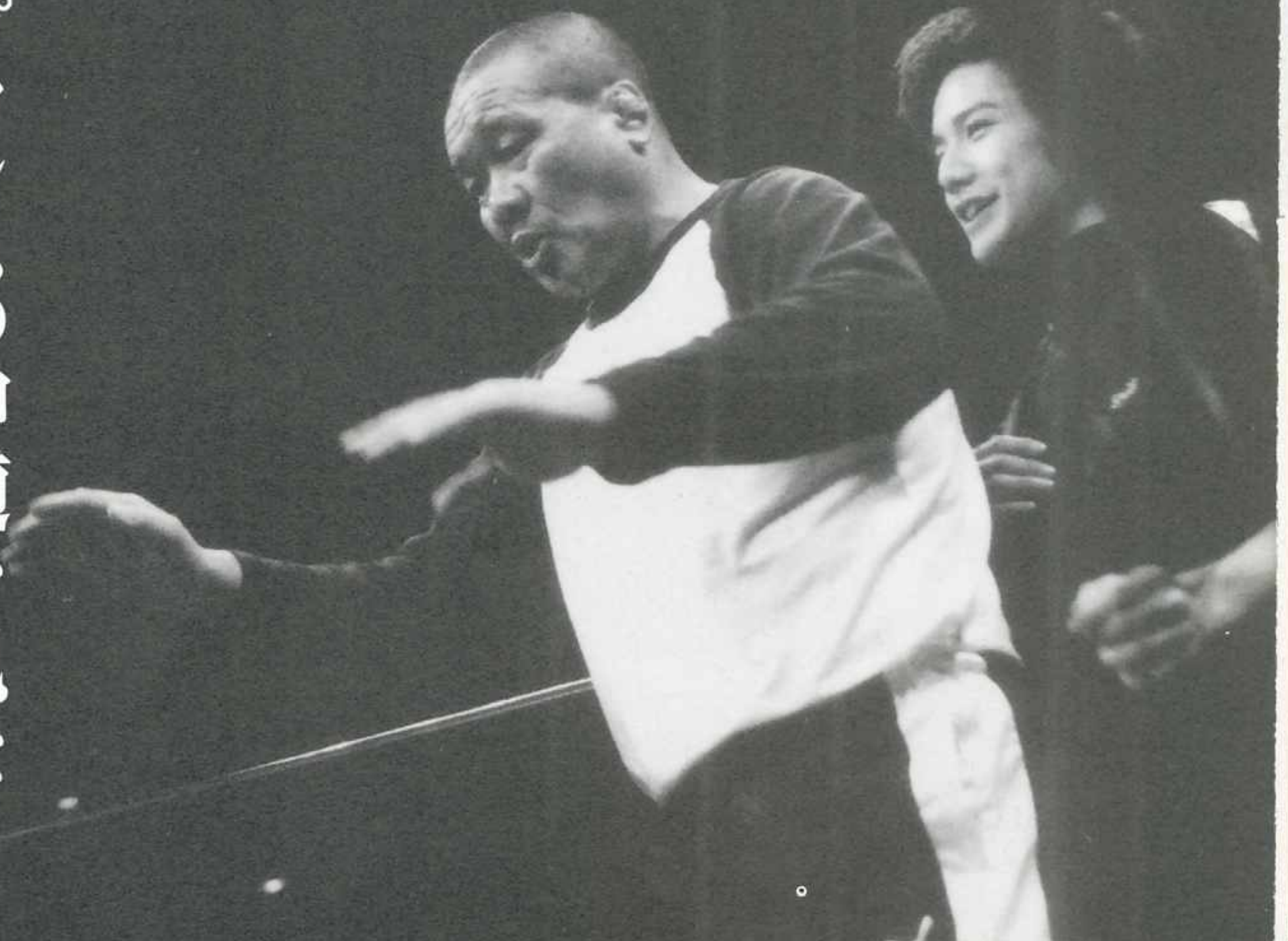
Design
Two Three
ヒサくん● Kun Hisa
マツ● Matsu
村松さん● San Muramatsu
セッキー● Sekky
グッチー● Gutty

Saotome no jimusho
トメオ● Tomeo
ハナエ● Hanae

Cover Model
藤田和之● Kazuyuki Fujita

Cover Photo
森モーリー鷹博● Takahiro"Morry"Mori

※RADICALとは何か？「根源的」、「根本的」って意味なんじゃーッ!!

3・11にプロレスの神髄を見た

「俺は人をビックリさせることが好きなんでね。ンムフフフ」と猪木さんはよく言う。

3月11日、「第2回メモリアル力道山」——ボクは、またしても猪木さんにビックリしてしまった。この調子で行けば、一体いつまで猪木さんにビックリさせられ続けるのかわかったもんじゃない。

いろんな団体が集結し、〝日本プロレス界の祖〟である、力道山を偲ぶビッグ・イベントがこの日は開催されていた。

オーちゃんと破壊王の謎のタッグ結成、そのオーちゃんと天龍の初顔合わせ、新皇帝戦士の飛来、安生洋二の〝前田襲撃事件後の復帰戦〟、石川雄規vs佐野なおきという地味ながらも玄人受けする一戦、ジャニーズJr.の〝タッキー〟こと滝沢秀明の君が代斉唱など話題には事欠かなかった。

木戸&安田組vs平田&剛という、やけに渋みたっぷりのタッグマッチのあと、休憩を挟んで、場内には、故・馬場さんの歌う「満州里小唄」がフルコーラスで流れた。もちろん、あり日のこもった肉声のテープである。

そしてこれが終わると、館内にプロレス会場では聞いたことのないような、「グンギャ〜〜〜ッ!!」という黄色い歓声が轟き、2度と見られないスペシャル・エキシビション・マッチ「アントニオ猪木vsタッキー・3分1本勝負」の始まりが告げられた。

まず特別レフェリーの藤原組長がボディガードとして先導しつつ、あのタッキーが入ってくる。そして猪木さんの入場だ。ここでも、これから始まるのがエキシビション・マッチだとは思えないエネルギーをはらんだ「イノキ・コール」が送られた。これは息子の年よりも若い人気スターを相手に、はたして猪木さんがなにを見せてくれるのか、爆発的な期待感がそうさせているのだ。

かつて、我々は、猪木さんの対戦相手が誰であれ、「今日はどんな試合運びをするのだろう」とあれこれ想像力を働かせた。それが心地よかったのだ。

つまり、我々は試合ではなく〝猪木さん〟を見に行っていたのである。

猪木さんのなにを見に行ってたのか、この〝試合〟が進むにつれて徐々にわかってきた。

選手のコール時、タッキーにブーイングが飛んだ。リングアナに「試合時間は3分でいいですか?」と聞かれると、なぜか猪木さんは「無制限!!」と元気よく答えた。最高である。

さすがに相手は名うてのジャニーズだけに、華をもたせる、ファン感謝デー的な展開になるんじゃないかという一抹の不安もあった。

しかし、猪木さんはまたも見事に裏切ってくれたからたまらない。

レフェリー・チェックのときに、いきなりタッキーに張り手を見舞うアントン!

ゴングが鳴った直後、リング中央に飛び出し、両手を広げて威嚇するアントン。

いきなりスライディングのアリキックを見舞うアントン。

さらにマウントからの張り手、鉄拳制裁を食らわす大人気ないアントン。

組長がたまらず体当たりで猪木さんを吹っ飛ばしタッキーをフォローすると、「余計なことするな」という気迫で組長を睨みつけるアントン。怖々とロープの外へ逃げる組長。

コーナーでタッキーをかばう組長に「どけ、この野郎!」と鬼の形相で絶叫するアントン。

そして、タッキーとの手四つに押されて〝見せる〟と、まさかのWリスト・アームサルトまで繰り出すアントン!

とにかく、いちいち最高だ。相手はアイドルだぞ、いいのか、アントン!

とうとう押されていたタッキーの逆襲が始まった。蟻も殺せぬアリキックに倒れて〝見せた〟アントンは、エルボードロップを見舞われ、カウント3つ入れられてしまった。もちろん組長の早いカウントのヘルプ付きだ。

ズバリ言って、まさに、凄いものを見た。

人気アイドルとのエキシビション。

一歩「右」に落ちれば、「コミックショー」になり、一歩「左」に落ちれば大惨事となる。

組長との絡みなどは一歩間違えば「右」に転がってコントになってしまう。実際、三流レスラーがこれをやればそうなっていただろう。

「左」に転んで、アイドルが技を受け損なっ

アントンの〝怪エネルギー〟大爆発!!

たらどうなっていたのか。芸能界のさる人物が、試合が終わったあと控室の通路で、「ジャニーズにあんなことしちゃダメだよ~。猪木さんはどこまで本気かわからないでしょ? ドラマの撮影中なのに顔面ブン殴ってさぁ。苦情がきたらどーすんの? オーちゃんTV界から干されちゃうよ~」と苦笑いしていた。

しかし、いつ何時でも、アントニオ猪木は、ボーダーラインの上をギリギリで綱渡りする。「右」でも「左」でもどちらかに落ちたほうがラクなのにも関わらず。

〝生真面目〟でもなく〝不真面目〟でもなく、〝クソ真面目〟に自分と向き合うアントニオ猪木──。

その姿を見て、アリーナは、この日いちばんのバツグンの盛り上がりを見せた。

客席を見渡すと、明らかに、ビギナーというには知りすぎて、マニアというには薄すぎる客層が大挙して観戦に来ていた。たま~に、本当に力道山の冥福を祈りに来たような老夫婦もみかけた。つまり、この日は「大衆」が来ていたのである。

力道山は、尋常ではないエネルギーをもって、プロレスを「大衆娯楽」として根付かせた。その力道山のメモリアルに、大衆に向かってエネルギーを突き刺したのは、やっぱりアントニオ猪木だった。

かつて〝プロレスの味方〟は、「プロレスは勝ち負けではない。強弱を競うものだ」と書いていた。

その強弱とは、おそらく〝ヒト〟としての「エネルギー」の強弱のことなのだ。

我々はこの「エネルギー」をもらいに、そしてアントニオ猪木の「綱渡り」な生き方を見に、これまで何度も何度も会場に足を運んでいたのである。

プロレスは〝総合人間力〟を競う場である。どれだけ「綱渡り」の闘いができ、どれだけ「エネルギー」を照射できたかで強弱は決まる。

ズバリ言って、エキシビションだとか、そんなことは関係ねえんです! 誰がなんと言っても、2000年3月11日現在のベストバウトはこの試合なのである。VIVA!アントン!

（文／ノビー）

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT

KING of KINGS

前田、田村、KOKトーナメントで

「UWF」が立ち昇った

座談会

構成／坂井ノブ（亡霊）
text by Nobu Sakai

KOKトーナメント大爆発

前田日明プロデュース大成功

田村、グレイシーに快勝!!

それは、10月のリングス代々木大会直前のルール・ミーティングの際に起こった。「ブレイクが早いのは何故なんだ？」、「顔面打撃を認めろ！」と、要望をガンガンと出してくるガイジン選手たち。そのとき、

それは、10月のリングス代々木大会直前のルール・ミーティングの際に起こった。「ブレイクが早いのは何故なんだ?」、「顔面打撃を認めろ!」と、要望をガンガンと出してくるガイジン選手たち。そのとき、前田はドン! と机を叩いて一喝した!
「ディス・イズ・ジャパニーズ・ルール!」
他人の声に惑わされることなく、最後まで自分を貫いた者だけが輝いた今回のKOKトーナメント。そこから立ち登ってきたのは、手垢にまみれ、使い古され、誰もが時代遅れだと思っていた「UWF」という概念だった。
さあ、今回の座談会は、KOKルールで膠着なしのスピーディーな構成で全6ページでお送りします!

THIS IS MY STYLE 2000
THIS IS A PEN

山口 オイ、担当のノブ！ お前、今日のテーマは何なんだよ?

ノブ 何にも考えてません！

山口 ガハハハ！ 考えとけ、ボケ！

ノブ まあ、大変盛り上がったKOトーナメント、そしてアブダビコンバット、さらには『PRIDE.GP』の問題点も振り返りつつ……。

山口 それは前号でやっただろ!?

豪 そっとしといてやれよ（笑）。お前が考えてない分は、大型新人のガンツがちゃんと考えてるから大丈夫だよ。ガンツは仕事の出来る男だからね。

ガンツ まかせてください！ 今日も「前田日明の帰国日程が変わりました」っていうプレスリリースを持って、変更になったのも気付かずに誰もいない成田に行ってきましたからね（笑）。

山口 ガハハ！ お前もバカか? なんで、ウチにはバカばっかりかね（笑）。

ガンツ でも、往復の時間で非難轟々の『SRS－DX』のKOK座談会をたっぷり読んだから、大丈夫です！

山口 オーケイッ!! あそこじゃ「田村の勝利は是か非か?」とかピントはずれなことを言ってるらしいね。

豪 その前に『ファイト3月9日号』でも「田村のファイトぶりはPRIDE．GPのガイ・メッツァーに酷似していた」ってターザン（山本）が書いてたんですよね。「オレだけが、あの試合を冷静に語れる」って口ぶりで。これを読んだ読者が、ウチの編集部に電話してきて「何言ってんスか、あの人は!?」って怒ってるから、「『SRS』に電話して下さい」って言っておきましたけどね（笑）。

山口 ガハハハハ！ まあ、ターザンはウチの所属選手じゃねえですから（笑）。「田村＝ガイ・メッツァー」って、さっぱりわかんないな。あの試合は、膠着してないだろ。

豪 でも、「田村は自分から攻めていかなかった」らしいですよ、ターザンによると（笑）。

山口 何言ってんだ、あのオヤジ（笑）。バックも取ったし、マウントも取ったし、攻めたよな。腹固めまで狙ってたんだぞ。UWFのテーマ曲で入ってきた時点で攻めてるよ（笑）。まあ、ひとことで言えば「言いがかり」みたいなもんだろ（笑）。

豪 試合が終わってドローかなっていう気はしたけど、まあいいんじゃない? 延長になったとしても、田村が勝ちそうだと思える流れだったからね。だからターザンに「冷静に見たらドローでしょ」って言ったら、「そうなんだよ。あの試合はドローなんですよ！」って言い出して（笑）。

山口 ガハハハハ！

豪 「雑誌だと言い切った方が目立ちますからね」って話を合わせたら、「そういうことなんだよォォ！」ってひとりで炎上してましたよ（笑）。

山口 あのオヤジ、全然冷静じゃねえじゃん（笑）。自分では「客観的」とか書いてたけど（笑）。

ガンツ （鼻息荒く）あの試合を冷静に見てる時点で間違ってるんですよ!!

豪 いや、オレも結構、冷静に見てたんだけど（笑）。だいたい、お前は熱くなり過ぎなんだよ！

山口 ガンツは泣きながら試合見てたからね（笑）。

豪 まあ、入場は泣けたけどね。そのターザンの論調に思いっきり乗ったのが『SRS－DX』の座談会ですね。

これだけは言わせろ Showと俺たちを同列に並べるな！（山口）

山口 「田村の勝利は是か? 非か?」って表紙のコピーに打ってたけど、あの座談会は「前田日明は是か? 非か?」ってことしか論じてないよ。田村のことは、ほとんど語っていないから。看板に偽りありだね（笑）。

豪 嘘、大袈裟、誤解を招く表現、と。

山口 あと、もうひとつだけ言っておきたいことがある！

ガンツ ほう！ いったい何ですか?

山口 このサダハルンバ谷川って野郎がさ、「今回は『紙プロ』の山口編集長とか、中村カタブツ君とか、吉田豪ちゃんとかとも話したけど、ほとんどがいまのShowみたいな考え方が多いんですよ」って、書きやがったんだよ！ これは、オレとShowが同じ考え方をしていると受け取られかねないじゃねえかよ。これは悪いのはShowじゃないから（笑）。悪いのは全部、サダハルンバ谷川！ 何だったら、今度『SRS－DX』の座談会に乗り込んでもいいよ！

豪 おお！ そこまでしますか?

山口 ウチの座談会に呼んでもいいよ。お互いのプライドがルールだ！

豪 「Showみたいな考え方」っていうのは「UWFのテーマで入場して、UWFの技術を使って勝ったからいい」っていうことなんですよね。でも、ボクが会場で谷川さんと話したのは、「谷川さん、ブーイングが飛んでましたよ」ってことだけですから。それなのに「ボクと山口さんとクマクマンボには声援が飛んでた」って自分で言ってるし（笑）。

山口 そもそもオレは、自分に子供が生まれても「優（ゆう）」って名前になんかしねえですよ！ 発行人の柳沢忠之が「批判はダメですけど、侮辱はダメです」って言って座談会を始めてるんだけど、これはハッキリ言って侮辱だよ！ オレとShowを同レベルで並べやがって（笑）。ことと次第によっては訴えるし、罰金20万円で済むんだから後ろから殴るよ（怒）。ボクが言いたかったのは、それだけだね。

座談会出席者

山口日昇■ご存知、本誌鬼畜編集長。プロレスラーにメシ（キャバクラは除く）をおごってもらったことは、前田日明に焼き肉をたった一度奢ってもらっただけという、プロレス業界には珍しいストイックな男。というか、嫌われてる? いろんなところに敵が多い。

吉田豪■本誌スーパーバイザー。最近はターザン山本の3本の指に入る友人となったり、『マガジンBang』で月一ベースで前田日明に会ってインタビューをしたりと大忙し。最近の日課はインターネット上での『紙プロ』人気投票チェック（本人はもちろん第1位）。

坂井ノブ■本誌デブ。「飲む、食う、寝る」しか能のない、仕事の出来ないグウタラ・デブ。この座談会の司会でもあるのだが、途中から肉の置物と化す。

松澤チョロ■無意味な弱火ギャグと、突然発する奇声と、中田英寿のキラーパスのようなこじつけを生き甲斐とする姑息な男。結局、前号で田村と約束した10万円は払わずじまい。

堀江ガンツ■本誌大型新人。無駄なプロレス知識は編集部一豊富。いつも表面上は笑顔だが、腹の中は真っ黒。熱狂的リングスファンで、田村vsヘンゾ戦では涙が止まらなかった。

豪　Ｓｈｏｗはいくら落としてもいいけど、「『紙プロ』＝Ｓｈｏｗ」とした上で、落とされちゃ困りますよねぇ。

山口　落とし方に美学が感じられないな（笑）。そもそもサダハルンバは入場時にＵＷＦのテーマ曲を聞いて、「あれぇ、田村は山ちゃんを背負うの？」って言ってたわけだし（笑）。

ノブ　『ＳＲＳ―ＤＸ』での田村の語られ方には、何か言いたいことはないですか？

豪　オレたちは「ＵＷＦの技術で田村が勝ったからいい！」って思ってるわけじゃないし、Ｕの技術なんか知らねえですよ。

ガンツ　今回の田村には高田（延彦）vsヒクソン（・グレイシー）ほどのプレッシャーはかかってなかったはずなんですよ。結構気軽に見れたはずだったのに、田村がわざわざ思い入れを持たせるようにしたのがね……だったら、乗るしかないでしょう！

豪　本人もＵを背負うのは嫌だろうけど、なのにここまで腹を括ったっていうのは凄いよね。

ガンツ　あの勝ちは判定でも意味はありますよ。一本勝ちしてくれたら、もっと嬉しかったでしょうけどね。

山口　まあ、オレは今回の田村勝利は完璧に「是」なんだよ。田村がダメだなんて全然思わなかったし、逆に田村の凄味は見えたと思うね。

豪　いつも大人しく観戦してるボクにまで、足を踏み鳴らさせましたからね。

山口　今回のＫＯＫトーナメントは、前田がルール・ミーティングのときに、ルールに難癖つけてくるガイジン選手に、「ディス・イズ・ジャパニーズ・スタイル！」って机を叩いて一喝したことから始まってるわけだよ。そういう自分の芯とか考え方を曲げずに通す人をオレたちは見たいんだよ。で、田村も「ＵＷＦスタイルを守る」って言ったときはファンや関係者から集中砲火を浴びたでしょ。「もう時代が違う」とか言われてさ。でも、田村は今回たった1人で勝った。

ガンツ　（深く頷きながら）ホントにそうですね！

山口　プロとして、自分のスタイルを貫き通すのをリング上から見せたんだから、凄いよね。あのヘンゾにヘッド・スプリングまでやらせたんだぞ。ある意味、田村の望むスタイルにヘンゾを付き合わせたわけでしょ（笑）。

ガンツ　田村はいつも通りのスタイルのままでしたからね。

山口　それは凄いことですよ。『ＳＲＳ―ＤＸ』の座談会では、「田村の凄味が見えない」とか「猪木、前田の凄味に比べると……」って、頭の腐りきったことを言ってるけどさ（笑）。

豪　それぐらいはいいじゃないですか（笑）。

山口　時代性をまったく見てないよ！　「どこまでいっても、アントニオ猪木と前田日明だ」っていう論調には、オレも乗れるんだよ。「それと比べて、田村の凄味が見えない」っていうのは違う問題だと思うんだよね。

ガンツ　今回、ヘンゾが田村に判定負けした試合後に「今回の試合はスポーツであり、ゲームだから」って発言しましたよね。田村の勝利が「グレイシー超えとは言えない」っていう論調の人たちがいる原因は、その発言に集約されてるんじゃないですかね？

ノブ　「ゲームだからダメ」っていう論調はよくわからないですね、ボクは。

豪　ゲーム性があったから、ＫＯＫは面白かったわけだからね。問題山積みだけど、ＯＫでしょ。

チョロ　まあ、田村がヘンゾに勝った試合で興行が終わってたら、最高でしたけどね。

豪　ターザンは「ＵＷＦシンパやリングスシンパ、前田信者が集まって、よそ者をはじき出すような空間になってるのが問題だ」って言ってますけど、ＵＷＦシンパ以外のファンを巻き込んだから、武道館が埋まったんでしょ。

山口　オレもＵＷＦのテーマ曲がかかるまで「ＵＷＦがどうのこうの」なんて考えてなかったもん。田村が、自分のテーマを闘いを通して突き刺したってことが凄いんだよね。しかも、リングス・ジャパン勢で1人しか残ってないんだから。そのプレッシャーの中で、自ら十字架を背負って、それでも勝つんだから。その精神力の凄味は見ていかないと、「じゃあ、誰が凄いんだ？」って話になるじゃん（笑）。

チョロ　前田が試合後に「ＵＷＦにこだわるのは大いに結構！　ムキにならないと進化はない！」って言ってましたよね。話を聞いたら、ダン・ヘンダーソンがいちばんムキになって優勝する気で、ルール・ミーティングからムキになってたらしいですからね。

山口　今回の大会は、糸井重里さんも「前田日明の再デビュー戦ですよ」と言ってたらしいね。だから、ダン・ヘンダーソンに思い入れを持ってない人も最後まで見てたんじゃないの？

チョロ　（得意げに）ボクもＫＯＫ前夜祭の予想大会で優勝候補に挙げてましたからね。

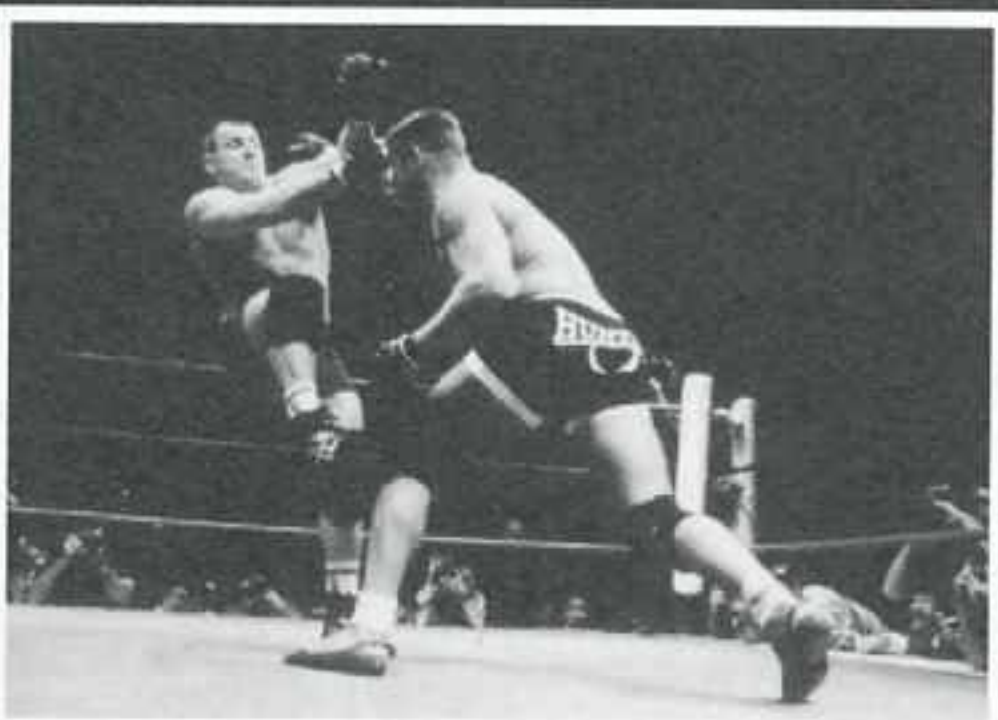
山口　見事に当てたな、お前！　た

Uを背負うのは嫌だろうけど、腹を括ったのは凄い！（豪）

インターネットでも論議が爆発した『SRS-DX』No.18のターザン山本、サダハルンバ谷川、Show氏による巻頭座談会の波紋は驚くほどデカい

PLAY BACK
2.26KOK TOURNAMENT

- ① レナート・ババル / イリューヒン・ミーシャ
- ④ 田村潔司 / ヘンゾ・グレイシー
- ③ アンドレイ・コピィロフ / アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ
- ② ギルバート・アイブル / ダン・ヘンダーソン
- ⑥ ①勝者 / ④勝者
- ⑤ ③勝者 / ②勝者
- ⑦ ⑥勝者 / ⑤勝者

レナート・ババルvsイリューヒン・ミーシャ

延長戦40秒
腕ひしぎ十字固め
○レナート・ババル

昨年の『KOK』Aブロック予選でリングス勢でただ一人生き残ったミーシャ。サンボ幻想の発端を作った男に観客の寄せる期待は高かったのだが、惜しくも一本負け。ババルの打撃に完全にペースを崩されたのが敗因だ。ミーシャ、もっと打つべし！

だ、田村には約束の10万円払えよ（笑）。会社からは金出さないから。
ノブ　厳しいですね。
山口　当たり前だろ、ボケ！　それと、この際だからハッキリ言っておく！　ウチもリングス寄りの雑誌とか言われてるけど、別にウチはリングス派でも何でもないから。リングスがどうなろうと、『PRIDE』がどうなろうと知ったこっちゃないよ。オレは前田とか、田村とか、桜庭とか、個人を見たいだけだから。
ガンツ　田村が勝ったら、何だか船木vsヒクソンも見たくなりましたね（笑）。
ノブ　前田がエールを送ったり、船木が合宿張ったりで、少しずつ盛り上がってますよね。
豪　でも、田村がヘンゾに勝ったことで、みんな心が広くなったよね（笑）。
ガンツ　まあ、単純に「船木のひとり勝ち」っていう状況だけは、受け入れにくいでしょうからね。
豪　船木がUWFのテーマ曲で入場して、みんな泣くかどうかって問題だよね。たぶん、UWFファンからはブーイングは飛ぶでしょ（笑）。
山口「新日本プロレスのテーマで入場します」って言ってたらしいぞ（笑）。でも、桜庭vsホイラー、高田vsホイス、田村vsヘンゾ、これから行われる桜庭vsホイス、船木vsヒクソンと、Uvsグレイシーが一本の線でつながってるんだよ。奇しくもいま再び、UWFにスポットが当たってるね。

THIS IS A PEN
THIS IS MY STYLE 2000

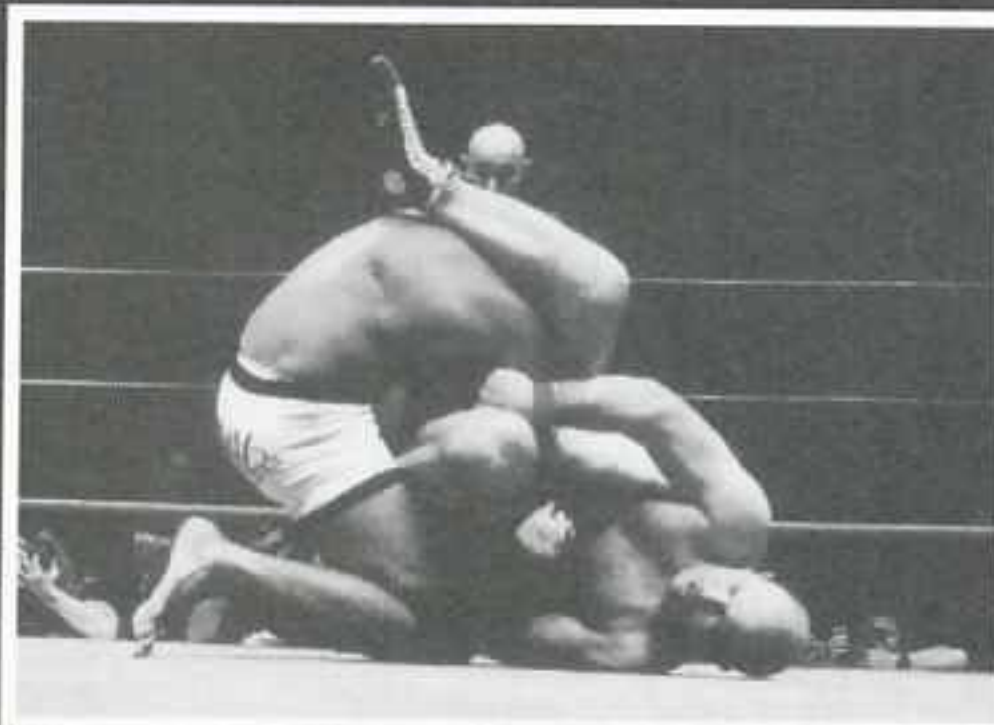
豪　『紙プロ』もU系雑誌って言われていますね。
山口　何でだろう？　別にこだわってねえのにな。新日本だろうが、リングスだろうが、みちのくだろうが、優劣はまったく付けてないつもりなんだけどね。取材できない団体はあるけどさ。だいたい、U系ってどこまでを指すの？　『PRIDE』も入るのかな。
豪　まあ、もともと高田のための興行だったわけですからね。
山口　その流れからいくと、バトラーツはUWFなんてものは背負えないということで、「B系」って言い出したり、パンクラスの船木誠勝が「UWFは関係ありません」って言ったりしたでしょ？　時代がUWFをどんどんはじき出していって、でもまた時代が1周してUWFに戻ってきてるんだよ。
ガンツ　UWFって、いわゆる純プロレスが真剣勝負に移行するための道なのかもしれないですよね。P系は、その道を通らずに一気に格闘技になっちゃったんですよ。だからUじゃない。
チョロ　道ってことで考えると、Pは「PARKING（＝駐車）」だから止まっちゃうのかな（笑）。Uは、Uターンして何度も戻ってくるんですよ！
山口　出た、チョロのこじつけ！
豪　失礼だな！　つまりPは止まりっぱなしってことか（笑）。
山口　P系というよりも、パンクラスとか修斗とか、グレイシーの技術を学んだ団体はU系じゃなくて、グレイシーのG系なんだよ。
豪　つまり一回リセットするってことですよね？　Uインターはキングダムになったときにリセットしてますけど、キングダムの試合に出なかった高田だけはG系になりきれなかったわけですよね。だからU系を背負っちゃったんですよ。G系の最たるものである修斗は、もともとU系だったのが、最初のバリ・ジャパでリセットされたわけだし。

ノゲイラvsヘンダーソン戦の判定は大きな課題を残した。「さらに（1−0）の際は引き分け判定では？」という疑問も残った。

山口　93年にアルティメット大会を境に、U系の勢力がガクンと落ちていったよね。それ以降はU系vsG系の闘いが続いてて、それがネジくれ曲がった形で噴出したのが前田襲撃事件だったと思うよ。
ガンツ　田村はまだU系ですよね。
山口　う〜ん、田村の凄さはUWFって三文字にこだわるとか、U系の技を使うっていうよりも、自分の土台を大事にしてることだよね。どんなにバッシングされようが、時代から弾き出されても、その土台を元にしていろんなことにアクセスしていくからね。その凄味が見えるよね。前田と田村は、その土台を絶対に崩さないっていうことだよね。高田なんか崩されっぱなしじゃん（笑）。Uが出来たらU系、グレイシーが来たらG系……。
豪　新日からオファーが来たら新日にも上がるし（笑）。
チョロ　田村が言うところの「高田さんは相手の土俵で闘ってる」ってことですよね。
山口　こっちは「早く高田の土台

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT
～KING of KINGS～
$200,000.00
WINNER PRIZE
RINGS

見事、初代KOKキングに輝いたのは格闘技界のアラン・ドロンことダン・ヘンダーソンだった（もしくは、はらたいら）。

アンドレイ・コピィロフvsアントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ

判定1−0
○アンドレイ・コピィロフ

サンボ幻想不発だったが、味がありすぎるその闘い方で人気爆発の予感のコピィロフ。1ラウンドに高度なグラウンド技を展開したと思えば、第2ラウンドは見事なグロッキーぶりを見せつける。コピィロフ幻想は高まるばかりだ。

ギルバード・アイブルvsダン・ヘンダーソン

判定3−0
○ダン・ヘンダーソン

アイブルは凄かった。ヘンダーソンがいくら極めてても強引に抜いて何事もなかったように攻めていく。しかも試合後は負けた腹いせに会場のガラスをぶち破るが、何事もなかったようにリングガールにパツキンを口説く。ビンビンの男の子だぜ！

を見せてくれよ」って焦るわけだよ。まあ、あの順応性が面白いっていえば面白いんだけど……まあ、はしょって言っちゃえばUWFの実体なんて、ないんだよ。常にいろんなところにアクセスしていくわけだからね。

豪　U幻想って、きっとNWA幻想と同じなんでしょう。プロレスって、いつもファンを幻想で引っ張っていきますよね。昔はNWA幻想で引っ張ってきて、それがUWF幻想になって、グレイシー幻想になっていくという。だから、常に幻想をつくっていかないとダメなんですよ。『PRIDE』もKOKも、それを否定したグレイシー幻想vsUWF幻想のぶつかり合いだったから面白かったじゃないですか。

山口　田村vsヘンゾ戦は画期的だったよね。いままでのG系はどこまでいってもアマチュアだったわけだよ。「魅せる」という部分はまったくなかったよね。それがU系と交わることによって、前号で暫定的に使った「プロコン」をヘンゾが吸収しつつ、面白い試合を見せてくれたでしょ。だから、U系とG系がリンクしてホントに違うものが出来そうな予感はあるよね。だから、従来のプロレスはホントに終わりなんじゃないか？

豪　前号で「今年は新日がキーポイントになるよ」って言ったばっかりじゃないですか！

山口　あっ、そうか（笑）。まあ、人間の考えは日々変わっていくから。

チョロ　新日とG系が交わって、いまうまくいってるわけじゃないですか？

ガンツ　……G系と交わったっけ？

チョロ　新日とGK……『●ン●』の●沢編集長。ウヒャヒャヒャ。

山口　ホントにバカだな、お前は（笑）。

豪　巻頭座談会に、『ハガキ劇場』レベルのギャグはいらねえんだよ！　もっと深みを出せよ、深み！

山口　ウチもU系雑誌とか言われてるんだったら、うまくG系を取り込んで、従来のプロレスをまったく扱わない雑誌にしてもいいかなぁと思ってる。

豪　『格通』の「プロレスラー、始めました」宣言に対抗して、ウチは「プロレスラー、やめました」ですか（笑）。でも、プロレスラーは面白いですよ。

山口　そりゃそうだよ。今年は巨大な幻想を持った新日本が、U系やG系の世界に足を踏み込んできわけだから、面白くなるはずなんだよ。だから……この先、どうなるんだろう？

豪　ま、猪木さんにしかわからないでしょうね。

山口　う〜ん……この座談会の結論もないな。どうすんだよ、デブ！

豪　お前が何にも考えてないから、こういうことになるんじゃねえかよ！

今年はUvsグレイシーが一本の線でつながってるんだよ（山口）

ノブ　……すいません。

山口　ったく、ムカつくなぁ（怒）。まあ、こんなこともあろうかと、オレはしっかり結論まで考えてるんだよ。

豪　おおっ！　さすが、インターネットの『紙プロ』人気投票第4位だけのことはありますね（笑）。

山口　うるせえな、金髪鬼！　自分が1位だからって（笑）。

ノブ　で、どんな結論なんですか？

山口　モノマネ歌合戦ってあるじゃん？　モノマネタレントって、実際の歌手よりも歌唱力や芸があったりする場合ってあるでしょ。

豪　誇張してわかりやすいですからね。

山口　清水アキラなんて、デフォルメ技術も歌唱力もメチャクチャあるわけだよ。なんか、オレはみちプロにはモノマネ番組と同じ臭いを感じちゃうんだよ。ストロング・スタイルというものを本流だと仮定するならば、その本流よりも見せ方を心得ちゃったんだよ。みちプロの人たちのエンターテイメント性もプロレスの生き残る道だと思うんだよね。

豪　つまり、会長が言いたいのはサスケ＝清水アキラということですね。両者とも下品だし（笑）。

山口　まあ、プロレス界の淡谷のり子が長州力だろうね。

豪　ダハハハ！　「真面目にやれ」と怒られて（笑）。

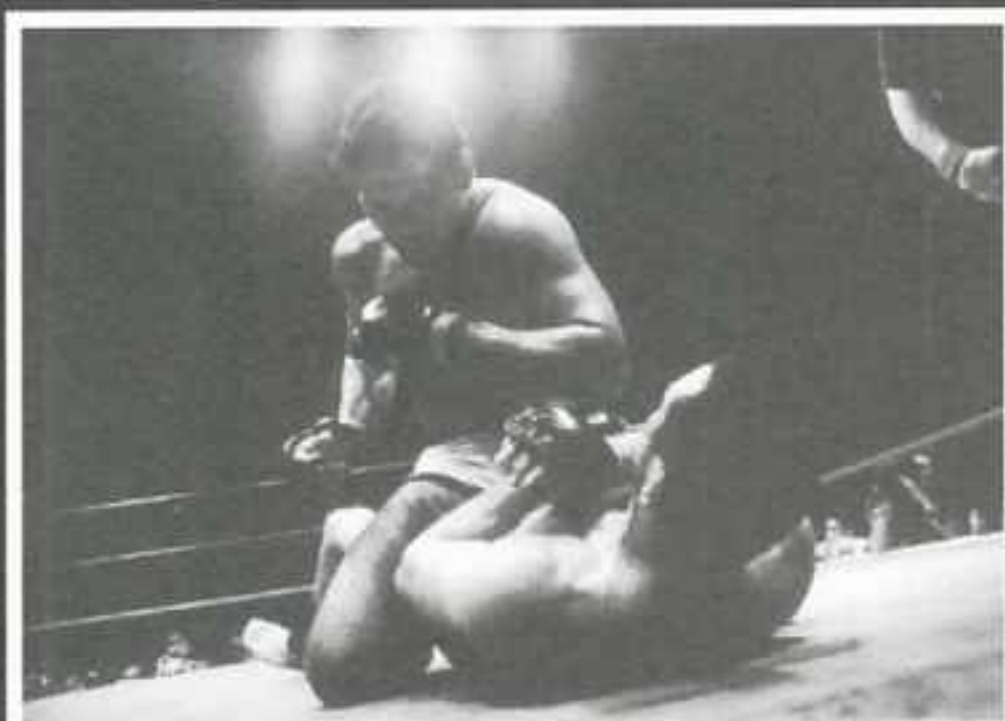
山口　だけど、モノマネは瞬間視聴率で45％はじき出しちゃったりするわけだよ。本流である淡谷のり子とか大御所の北島三郎の歌を聴いたことある若い世代なんて、圧倒的に少ないわけだよ。プロレスもそうな

UWFvsグレイシー　炎の5番勝負

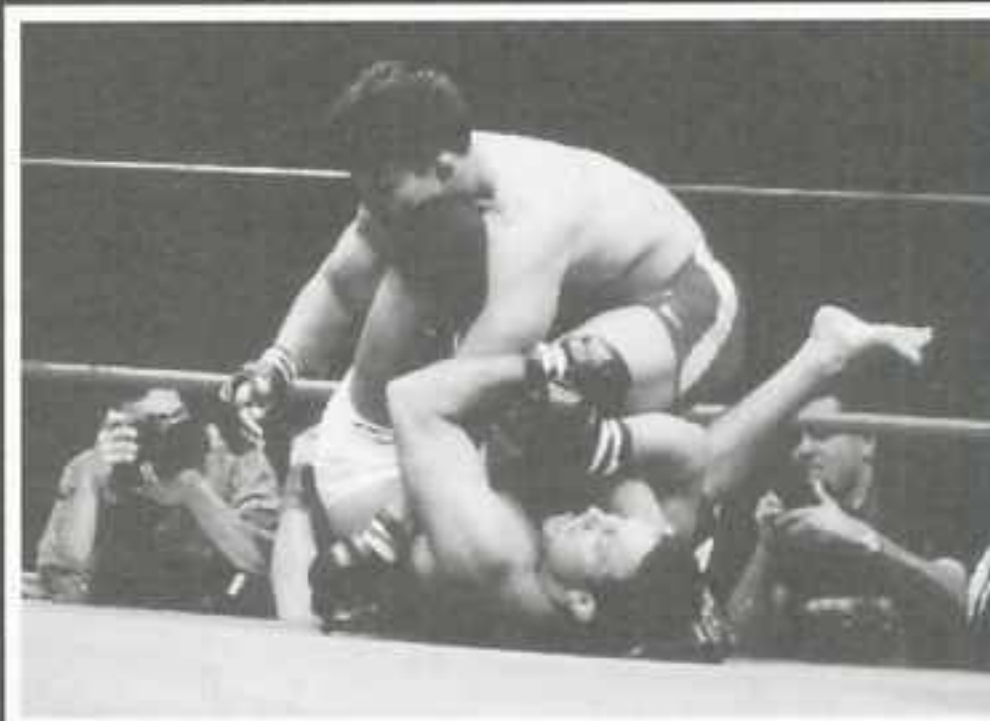
VS
VS
VS
VS
VS

問題発生か!『UFC24』でヘビー級選手権が中止に!

米ルイジアナ州・レイクチャールズ・シビック・センターで『UFC24』が開催された。ヘビー級選手権は昨年の『UFC-J』で来日したペドロ・ヒーゾとケビン・ランデルマン。だが、ランデルマンが試合直前に控え室で負傷し、試合中止に。またも『UFC』の舞台裏で事件発生かと思ったら、どうやらランデルマンったら転んで失神しただけみたい。さすまじいバカだ。UFCちょっといい話でした。ほかの主な試合はメネーがイハに勝利。

アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラvsダン・ヘンダーソン

判定（延長）2－1
○ダン・ヘンダーソン

試合前日、浅草キッドさんがノゲイラとサウナであってブツを目撃したらしい。あそこもやっぱりミノタウロだった様子。試合はヘンダーソンと真っ向勝負し、打撃でも寝技でもほぼ互角かそれ以上。KOK唯一判定にブーイングが飛んだ試合。

田村潔司vsヘンゾ・グレイシー

判定3－0
○田村潔司

Uスタイルを守った！　頑固な意地を貫き通した！　そしてこれ以上ないプレッシャーを背負い切った！　いい試合だった。ヘンゾも、田村の技を利用してグラウンドを展開させようと狙ったし、負けても文句はいわなかった。グレイシーいちのいい人。

を見せてくれたでしょ。だから、U

豪　『格通』の「プロレスラー、始

山口　清水アキラなんて、デフォル

少ないわけだよ。プロレスもそうな

りつつあるね。

豪　猪木もそうなんですよね。春一番を通して知ったりするっていう（笑）。逆に、淡谷のり子が怒る気持ちもわかるんですよね。「それを本物だと思われたら困る」っていう。

山口　そうそう（笑）。じゃあ、いま「本物のプロレスって何なの？」って言ったら『PRIDE』なのかKOKなのか……ふとそんなことを考えてしまった今日この頃だね（笑）。サスケが、もしかしたらバーリ・トゥードやったら強いかも知れないっていう幻想だって、「モノマネ歌合戦であれだけ実力を発揮してる清水アキラが、本格的にロックをやったらどうなるんだろう？」っていう興味と一緒だよ（笑）。

豪　清水アキラは、いつ何時も清水アキラですからね（笑）。

山口　まあ、今回前田日明プロデューサーがやろうとしてることは、シンプル・イズ・ベストで「歌だけで勝負しろや」ってことでしょ（笑）。そこにアイブルとかが、いままでに聞いたこともないような歌唱法で歌っちゃったりして（笑）。

豪　やっぱり前田みたいにドカンと言い切れる人がいないとダメだね。

山口　じゃあ、司会者！　お前も前田日明みたいにドカンと締めてみろよ！

ノブ　う～ん……どう……しますか？

山口　もういい！　オレの中での結論は見えたから。ニューミュージックでも、モノマネ番組でも、演歌だろうが何でもいい。オレは実力者が好き！　実力とかキャリアのない人は、スタイルにこだわるんだよ。田村が「Uを守る」って言ってるけど、「UWFの試合スタイルそのもの」を守ろうとしてるとは思えないもん。他のジャンルも認めてるよね。

ノブ　Uにこだわりながら、サンボの出稽古に行ったりしてますからね。

豪　すでに田村の試合は違うスタイルですよね。最後まで後生大事にUWFスタイルを守ってたのは前田だけですよ（笑）。ボクは、そんな前田にプロフェッショナルな自意識を感じますけどね。

チョロ　「こだわるのは大いに結構！」って前田は言ってましたよね。

山口　だけど、実力がないのにこだわってる人がいっぱいいるじゃん！　この業界でもさ。こだわることにこだわるのはよくないいよ。

豪　会長はこだわりがあるんですか？

山口　オレは面白い雑誌を作ること！

豪　発売日を守って出すことは？

山口　そんなにこだわってないね（笑）。そりゃ生活していかなきゃいけないから、前田みたいに「月一回興行をやらなきゃいけないんや」っていう部分はなきにしもあらずだけど（笑）。

チョロ　ボクは月1回の興行じゃケガも治りまへんわ（笑）。

山口　あ～あ、ウチの会社には田村みたいなヤツはいないのか（笑）。オレも早く前田みたいに引退したいよ。豪ちゃんは、スタンス的にTKだな（笑）。

ノブ　やっぱり田村はリングスの生え抜きじゃないですからね。外から来るんじゃないですか？　ボクらは山本宜久とか成瀬みたいな立場ですね。

豪　ダハハハハ！　お前はたしかにヤマヨシっぽいもんな。いま、逆風だし。

山口　誰だよ、ウチの田村は？

豪　原タコヤキ君ですよ。

山口　新生UWF（＝『紙プロ』本誌）が分裂して、Uインター（＝『格闘パンチ』）を経て、新日との対抗戦（＝『SRS—DX』）には参加せず……確かに田村っぽいよなあ。

豪　それは納得いかないなぁ（笑）。この座談会の結論がそれでいいのか？

山口　原タコヤキ君は是か？　非か？　セメント座談会を読めぇぇぇえ！って（笑）。ま、笑えりゃ何だっていいよ。

【2000年3月8日、ダブルクロスにて収録】

真の実力者は何をやっても人を唸らせてしまうもの。そんな"格闘・清水アキラ"よ、出てこーヒッ！

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

次号予告

本誌独占詳報！　田村は前田総帥から金のロレックスをもらえたのか？／4・7新日・ゴールデンタイム放映詳報／直前大特集！『PRIDE. GP』に熱狂せよ——『紙のプロレスRADICAL NO.26号』は4月22日（土）堂々発売！

緊急告知その1　『紙プロ』プロデュース バトラーツ4周年記念 全員集合Tシャツ　発売決定!

BATTLARTS

バトラーツの旗揚げ4周年を記念して、『紙プロ』プロデュースのTシャツを作りました！　同じデザインでカワイイジャケットのパンフを作ったので、そちらも是非買ってみて下さい。お3月25日、バトラーツ・北海道・札幌テイセンホール大会より発売開始！値段は￥3500！　サイズはチビ、M、Lと3種類！　バトラーツの各会場やチャンピオン東京＆大阪店、『紙プロ』通販にて購入可能です。通販方法はP151を参照して下さい。実物はマジでカワイイので、チェックしとけ！

緊急告知その2　第2回 暗闇プロレス道場、開催決定!

4月24日（月）19:00開演予定
ロフト・プラスワンに集合だ!

今回のKOKトーナメント前夜祭として行われた『紙プロ』プロデュースの居酒屋トークイベント『暗闇プロレス道場』が開催されます！　今回も超大物ゲストが多数来襲予定！　期待以上の内容で、皆さんを心地よい異次元空間に誘います！　ちなみに、今回のプロデュースも、前回と同じく松澤チョロ！　期待してチョンマゲ（ヤ●カク調）。

ダン・ヘンダーソンvsレナート・ババル

判定1－0
○ダン・ヘンダーソン

ノゲイラとの試合でヒザを痛めたヘンダーソンだが、それをものともせず、ババルに拳を振るい、タックルも決める。だが、ババルの方も意地で打撃を返し、死力を尽くす。二人ともヘロヘロのわりにはダレた試合をせず、ヘンダーソンが激闘を制した。

レナート・ババルvs田村潔司

判定－0
○レナート・ババル

ヘンゾ戦で力を使い果したといわれる田村だが、決して内容は悪くなかった。延長戦になってもおかしくはなかっただろう。体重20キロ差を考えればと、言う必要もないくらい試合は寝技も打撃も互角といってもいいだろう。

ピンナップ裏のスケジュールで、UFC—Jのスケジュールが、4月17日になっていましたが、4月14日で正式決定しました。

青春の大発見シリーズ

日本武道傳骨法　創始師範

堀辺正史の活字バーリ・トゥード講座

特別テーマ

「新プロレス」は是か非か？

山本さん、あなたはド素人なんですよ

本日の講議

・プロレス新約時代とは何か？
・「PRIDE」で起きた革命的事件とは何か？

黒船が再度襲来！　前号で大好評だった「堀辺師範の活字バーリ・トゥード講座」。第2限目を迎えた今回は『SRS・DX』で偶然同じような講座を開いたご存知ターザン山本が、「オレがじゃべらなきゃダメですよオオオ〜！」と臨時講師として急遽参加。したがって今回は「狂気のW講師」でお届けします。

セメント対談ですよオオオオ〜！

その他のド素人

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

構成＆撮影／堀江ガンツ
text & photograraphs by Gunts

合うこと。これがポイントですね。

契約を破棄したいというファンも続出しまし

「世紀の一戦」高田vsヒクソン戦は「世紀が変わる一戦」だったんです

——では先生、前回の続きなんですけど、今日は『SRS・DX』の講師である山本さんも来てますんで、「命懸けのW講義」ということでご教授お願いします（笑）。

堀辺　では、ここにいるド素人を対象に、わかりやすく説明していきましょう（笑）。

——ターザンもド素人と（笑）。

山本　あ！　先生、メモまでしてきてるよォ！　これはセメントですよォォ！

堀辺　（冷静に）では、今日まず最初に話さなくてはならないのは、「プロレス新約時代」とはなにか、ということです。これを理解しないと現代の「新プロレス」っていうのは理解できないんです。プロレス新約時代には3つの要素があるんです。

——3つですか！

堀辺　まず一つは、UWFがファンと約束した「プロレスを真剣勝負にする」という契約が成就する時代であるということ。これが新約時代の最大のキーワードなんです。

——それが一つ目。

堀辺　二つ目は、かつてないほどファンがプロレスラーの真剣勝負を見たがってる時代であるということ。そして三つ目は、プロレスラーと格闘家という異教徒が交流し、激突する時代であること。この三つが揃って初めて、「プロレス新約時代」ということです。

——これが新プロレスの意味ですね。

堀辺　そうです！　それで、この新約を成就するには二つの条件が必要なんですよ。

——さらに二つ！　それはなんですか？

堀辺　まずプロレスファンだったら誰でも知っている、G・馬場さんの「プロレスのリングで行われるものは、すべてプロレスである」という名言を覆すことです。この名言を覆さない限りは、UWFがプロレスファンと交わした「真剣勝負をする」という約束は成就しないんですよ。

——じゃあ、逆に言えば「プロレスのリングで行われていることはプロレスではない」というとこに持っていかねばならないということですね。

堀辺　そう。それともう一つは中立のリングで、徹底して勝負にこだわる異教徒としての格闘家とプロレスラーが試合をするということが大切なんです。このふたつの条件が噛み合うこと。これがポイントですね。

——山本さん、食べてばっかりいないで、何か話すことないんですか？

山本　モグモグ…、ボクは今日は聞き役ですよォ、（店員に向かって）山芋とコロッケちょうだい！

——先生、ほっといて続けて下さい。

堀辺　だから、さっき言った二つの条件を満たしたのがヒクソンvs高田戦ですよ。グレイシー一族という徹底した勝負ゴリゴリという一族とUWFの第一世代の人間が真剣勝負をしたから「新約時代」が到来したんです。

——例えば、ヤマケンが出てもダメなんですね？

堀辺　そう。UWFの第一世代がこれをやるから意味がある。近藤有己とか、そういう若い選手が出てきてヒクソンとやったからといって、新約時代は到来しないんですよ。だからヒクソンvs高田戦は「世紀の一戦」と呼ばれましたよね、これの本当の意味はプロレスの旧約時代を終わらせて、新約時代を切り開いたという、つまり文字どおり「世紀」が変わる一戦だったんですよ。

——「世紀の一戦」ではなくて、「世紀が変わる一戦」だったと（笑）。

堀辺　だからね、これで前回言った「なぜ高田延彦が新しいプロレスの神か」っていうことの意味がよくわかると思います。新世界を築いた神が高田延彦なんですよォ。

——なるほど。でもその高田延彦が負けて、契約を破棄したいというファンも続出しましたけどね（笑）。

堀辺　だからね、神様である高田は、もう闘わなくてもいいんですよ。神様は早く神棚にしまった方がいいんです（笑）。

——ダハハハ！　確かに神様は神棚にいるものですよね。「もういっちょ」とか言わなくていいわけですね（笑）。

堀辺　そうなんですよ、「新プロレス」はイエス・サクラバたちに任せて神棚で見守るべきなんですよ（笑）。そしてその新約時代なんですけど、「新プロレス」には五つの条件があるんです。

——今度は五つ！（笑）。

堀辺　これが揃わないと「新プロレス」とは言わないんですよォ。

——それはなんですか？

堀辺　まず、真剣勝負であること。次に何でもあり、もしくは総合格闘技であること。そして普通の人間を超えた肉体を持ってなくてはならない、つまりヘビー級であること。4つ目はゴージャスなイベント空間であること。そして5つ目が大衆娯楽性、誰が見ても楽しめるわかりやすさです。この5つの条件が揃ったものが「新プロレス」と言うんですよ。どれが欠けてもプロレスの発展ということにはならないんです。つまり『PRIDE』はいまのところこの条件を満たしてるので新プロレスということになりますね。

——そろそろどうですか山本さん、いまのを聞いて。

山本　いやね、ものすごくわかりやすい言葉で全部まとめることができる。

——もうまとめますか（笑）。

山本　一番重要なことは馬場さんの世界が終わりを告げたということですよ！　馬場さんは格闘技と交わらないことでプロレスを守ろうとしたんだけど、これだけみんな『PRIDE』やVTに出るということは、馬場さんのプロレス哲学や理論というのは過去の栄光の中に終止符を打ってしまったというこ

ターザン山本【たーざん・やまもと】本名・山本隆司（やまもとたかし）　1946年4月26日、山口県岩国市生まれ。元・『週刊プロレス』『格闘技通信』編集長。現・葛飾の素浪人、詩人、大道芸人。“平成の定義王”として本誌のほか『SRS・DX』『激本』などで活躍。最近ではTV、ラジオ、舞台でも才能を発揮し、54歳にして狂い咲き中である。著書は「G・馬場二つの心」（同文書院）ほか多数。

堀辺正史【ほりべせいし】1941年茨城県水戸市生まれ。日本武道傳骨法創始師範　50年間にわたる試行と命懸けの求道の末に、98年武者相撲、骨法98手、骨法柔術という「倒」「打」「極」を極める武道制試合のシステムを完成。『PRIDE・1』ではTV解説を務めるなど格闘技・武道評論の第一人者でもある。ターザンとは『週プロ』誌上で長期の対談連載を行っていた。著書は「骨法の完成」（二見書房）など多数。

イエス・サクラバとボブチャンチンが一大技術革命を起こしたんです

とですよォォ！

堀辺 ズバリ言って旧約なんですよ！

山本 だから馬場さんは、完成された古い形のプロレス哲学としては最高の王国を築いたんだけども、違う文明に攻められたら一気に滅びたアステカ帝国みたいなモンですよ！

――馬場さんはアステカ帝国！

山本 馬場さんのプロレス哲学が終わったということは、つまり「プロレス」が終わったということですよォ～！

堀辺 まさにその通りですよ。旧約プロレスが終わりを告げたんです。

山本 もう一つ、先生の発言を要約してキーワードをひと言でいうと、つまり「八百長」なんですよ！

――八百長！ 先生、ド素人らしい意見が出てしまいました（笑）。

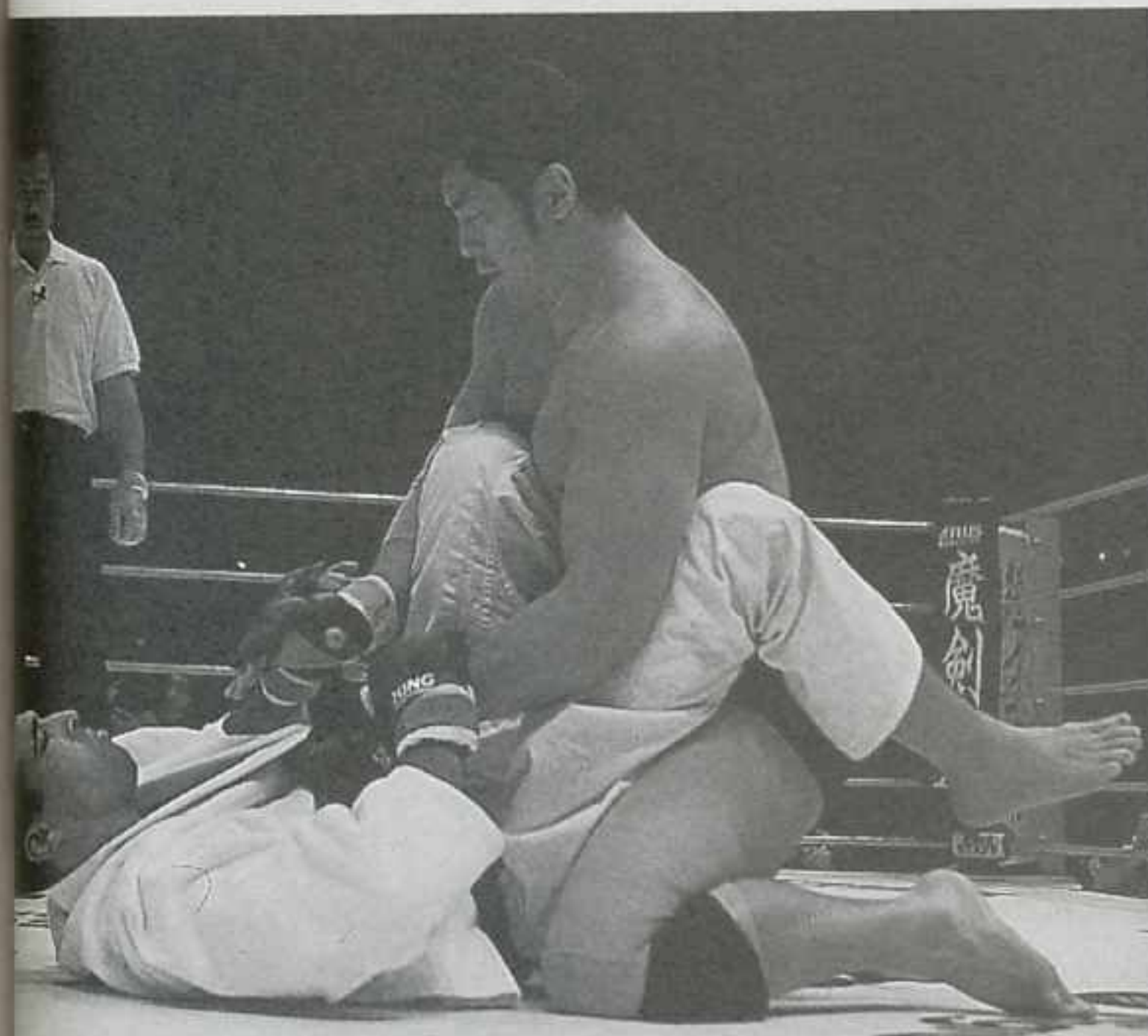
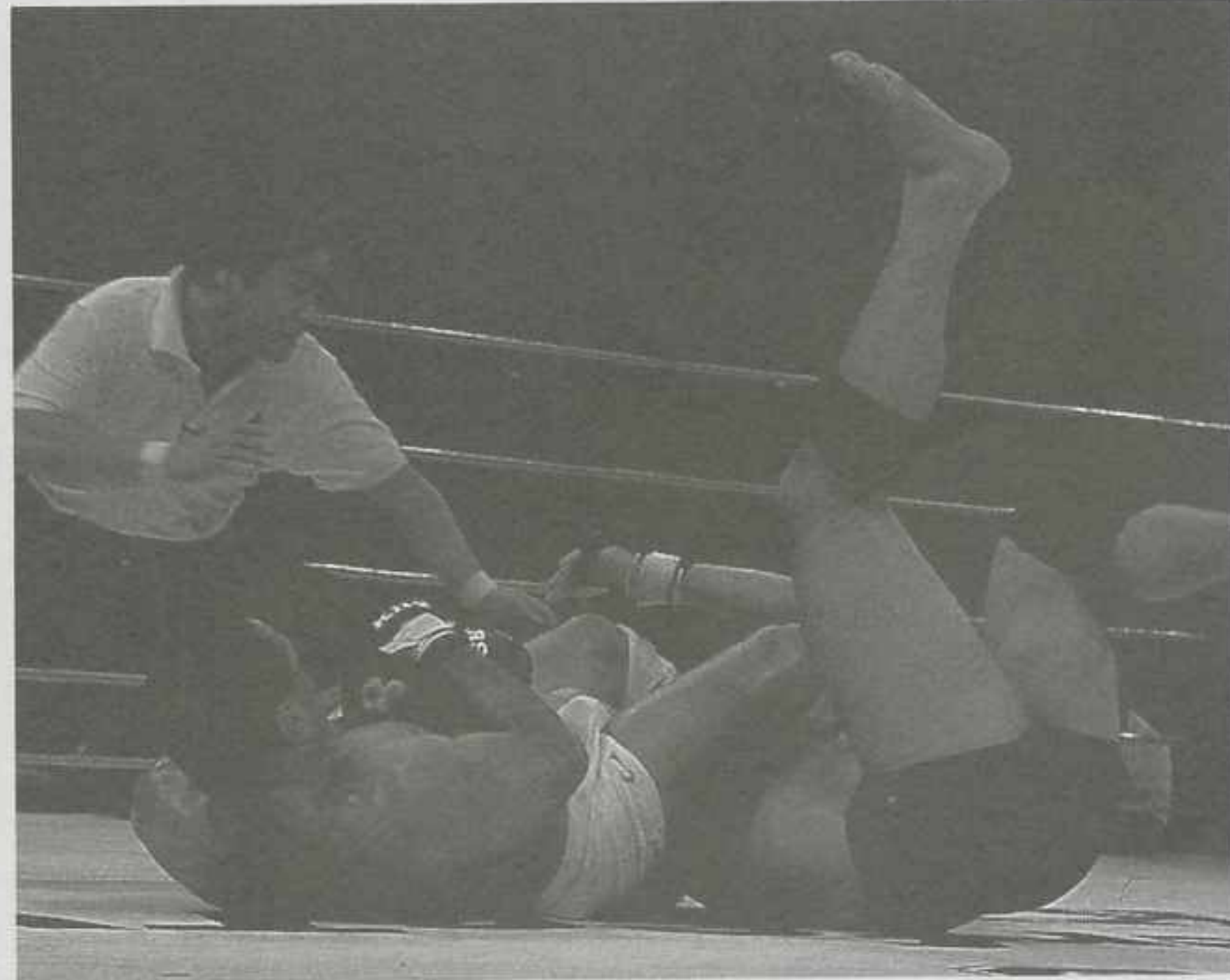
山本 ちょっと待て！ つまりね、昔はプロレスと格闘技は点でしか交わらなかったわけ。猪木さんが格闘技戦をやるとか、ごく僅かなところでしか交わらなくって、点だからそんなに大きくはならなかったけど、いまや怒涛の如く、両者が交じわう一大戦場と化してるわけですよォ！ それはどういうことかと言うと、プロレスが格闘技と関わったら、絶対に格闘技界は八百長と言われるんですよ。つまり格闘技側は「真剣勝負」という御旗を掲げて攻め込んでくるわけですよ！それでプロレス側は「八百長」という十字架を背負って闘うわけです。だからこの闘いは「八百長」というキーワードの中で闘いが行われるので、プロレス側としたら勝ち続けない限りはその十字架を払いのけられないわけですよ！ これはもう大・八百長戦争ですよォ～！ 八百長と言い切る格闘家と、八百長と言われてる者との大戦争が関ヶ原で行われるわけですよォ～！

堀辺 そこで大切なのはね、ヒクソンvs高田戦で高田が負けたことによって、八百長じゃなかったことが逆の形で見事に証明されたんですよ。そうすることで真剣勝負のプロレスというUWFの契約が初めてここで成就されたんですよ。あそこでヘタに勝ったら「疑惑」になるんですよ！「プロレスだから、また変なこと仕組んだんじゃねえのか～」って言われるんです。だからあそこで高田が負けたことによって、本当に真剣勝負の時代を切り開いたっていうことが証明されたんです。それが証明されたからこそ、内側からも外側からも高田は叩かれたんですよ。

――逆に言えば真剣勝負がこれから主流になるようなきっかけを作ったから叩かれたんですね。

堀辺 まさにそうですよォ～！ だから『PRIDE』は、そういうUWFが主張したことが成就した「新プロレス」なんです。そういう風に見ることによって、『PRIDE』がなんなのかということが理解できる。じゃあ、なぜ東京ドームにあれだけのプロレスファンが熱狂して詰めかけてるのか。もう、昔のプロレスでは満足しない時代に突入したんです！ ファンが「新プロレス」を求めてるんですよ！

山本 だけどボクは『PRIDE』が格闘家だけでやってもリアリティがないと思う。そこにプロレスが入って、八百長であるかどうかという十字架を背負ったものが出てきたことによって、大いなる現代性を帯びてくるということですよ。格闘家だけでやったら、真剣勝負の人間が真剣勝負やってるんだから面白くないけど、そこに十字架を背負った人間が来るから、めちゃめちゃダイナミズムが生まれるんですよォォォ～！

――ズバリ言うと、さらし者がいないとダメなんですね（笑）。

こちらがホイスがよく見せる「G戦法」のサブ戦術。相手がミスしない限り勝てないが、負けることもないという戦術。ホイスは5・1でサク相手にこれで勝負か。

堀辺師範が「G戦法」のメイン戦術というヒクソンのスタイル。グラウンドになった時の強さは、さすがだが、スタンドでの第一次接点で苦戦することが多くなったのも事実。

山本 アハハハハ！ そうですよォォォ！ 山口さんひどいこと言うねぇ！（笑）。

――ガハハハハ！ ボクは山本さんの言いたいことを言っただけですよ（笑）。

山本 ボクは八百長というネガティブな概念が存在することによって、真剣勝負の御旗を持って登場する人間をそのキーワードで心理的にシュートしてるところがあると思うんだよ。そこにものすごく色気を感じるんだよ。

――はあ～、もうちょっとわかりやすく言って下さい（笑）。

山本 だから真剣勝負の御旗を持っている連中は正しいんだけど、十字架を背負った人間が来たことによって、ある恐れとか、こいつに負けたらとか、自分の中にもそういうものがあるんじゃないかとか、そういうものが錯綜するわけですよォ～！

堀辺 そうなんです。格闘家の人たちは「プロレスラーは八百長じゃねえか、このフェイク野郎！」って言うわけです。でもそのフェイク野郎に負けたらどうなります？ 立場ありますか？ ないでしょ？

――そうですね、逆に格闘家も十字架を背負うことになりますね。

堀辺・山本 （まったく同時に）だからフェイク野郎と……。

――ち、ちょっと発言はお一人ずつお願いします（笑）。

山本 先生！ 俺が先に言いますよォ！ フェイクというか、異教徒と関わることによって、自分の存在さえも脅かされてしまうわけよ。だから格闘家の方も怖いワケよ！ だからホントは格闘家は格闘家だけでやってきゃいいわけよ！ 異教徒のプロレスラーがいることで、アイデンティティーを揺さぶられるワケよ！

――ほほ～、じゃあ裏を返せば、格闘家もいままで「馬場プロレス」をやっていたということですね。

山本 そうだよォ！「馬場格闘技」ですよォ！

――「馬場格闘技！」（笑）。要するに「格

闘技内格闘技」ですね。
山本　だから閉じてるときは、価値観が純粋化、絶対化するわけ。文明というのは交流があるでしょ、交流するときにその化学反応が起こるわけですよォ〜！
堀辺・山本　（まったく同時に）新しいものが生まれるんです！
—ガハハハハ！　いま、格闘技の専門家とド素人の声がハーモニーを奏でてしまいました（笑）。
堀辺　だからまさに「新プロレス」が『PRIDE』で起きたんです！
山本　異なるものがぶつかって未知なるものが誕生するんですよォォ〜！
—つまり『PRIDE』は文明を感じさせるからメジャーだっていうことですね。
堀辺　そうです。新しいものを形成しつつある場であり、プロレスと格闘技という二大分野を最も集約し、リードしてるんです。つまり時代を動かしてるんです！
山本　これはお互いポジティブなものとネガティブなものの両方を持っていて、それがぶつかったとき、核分裂が起こるわけですよォ〜！　そうしたらもの凄いエネルギーがバンッ！　と出てくるはずだから、『PRIDE』にはその期待感があるんですよォ！
堀辺　じゃあ、そろそろ次の大切なことをいいですか。いま『PRIDE』でね、革命的な事件が起きてるということです。
—いよいよ前号で予告していたやつですね。
堀辺　そうです。現金書留はまだ送られてきてませんけどね（笑）。いま『PRIDE』で一大技術革命が起きてるんです！　この大事件を話すためには、VTにおけるグレイシーの戦法とはなんだったかっていうことを、ド素人にでもわかるように説明しないとこの本論に入れないんです。略して「G戦法」！
—G戦法！（笑）。

「プロレス新約時代」を切り開いた“父なる神”高田延彦はすでに満身創痍。神棚から「新プロレス」を見守る時期にきているのか。

堀辺　柔術の「G」をとってG戦法です！
—先生、柔術は「J」ですよ（笑）。
堀辺　あ、グレイシーの「G」でした（笑）。グレイシーはいろんな格闘技がある中で、VTで勝てる方程式を唯一持ってたんですよ。だからあのホイスの見事な勝ち方っていうのが続いたわけですね。この勝ち方を一言で言うと「倒」「打」「極」。これが彼らの戦法なんです。
—UWFは「打」「投」「極」でしたが、グレイシーは「倒」「打」「極」ですか。
堀辺　簡単に言うと、レスリングのタックルで倒し、マウントを取ってパンチを叩き込んで、最後は絞めか関節を極める。ここで重要なのはタックルをいち早く導入したことと、寝技で打撃を出すという格闘競技としては誰もやってなかったことを使ったことです。
—スポーツ競技としては誰もやってなかったわけですね。
堀辺　そうです。これがグレイシー最善の戦法であり、メイン戦術なんですよ。そしてこれが一番うまいのがヒクソンなんですよ！　だからこそホイスとか、他のグレイシーがヒクソンが一番強いと言うんですよ。理想形態が一番実行できるからこそ一族の中からも、一段違う存在として尊敬を集められるんです。
—セオリーを体現できるわけですね。
堀辺　そうです。これに対して、ホイスがやってるのは、グレイシーの“ベター戦術”なんです。
—ベストじゃなくベター。
堀辺　そう、サブ戦術なんです。わかりやすく言うと「倒」「極」なんです。引き込んで下になって極める。これがホイスなんです。だからグレイシー柔術は複雑のように見えるけれども、この二つの戦法を中心としてるんですよ。こうやって見ていくと、VTにおける必勝パターンがわかりましたよね。で、VTで勝ちだした選手はみんなこれの真似なんです。
—ヒクソン戦法か、またはホイス戦法ですね。
堀辺　でもグレイシーが提示した方程式で勝っている限りは本当の意味での勝利ではないんです。そこで実は『PRIDE』で技術革命が起きつつあるんです。それを起こしたのは二人いるんです。ひとりはボブチャンチン、そしてイエス・サクラバですよ！
—ボブチャンチンとサクですか。
堀辺　具体的に話していきます。この新技術の理想形は「打」「倒」「打」なんですよ。
—今度は「打」「倒」「打」ですか。
堀辺　殴って、倒して、また殴るんです。ボブチャンチンvsアレク戦がそうなんですよ。まず打撃で追い込んで、追い込まれたアレク

K戦法

イエス・サクラバ ボブチャンチン のVT新戦術

ベスト・メインの戦術

例：イゴール・ボブチャンチン

打 → 倒 → 打

- 打：・ノックアウト ・追い込みタックルを誘う
- 倒：カブってテイクダウン
- 打：倒れている相手をKO

ベター・サブの戦術

例：イエス・サクラバ（VSホイラー）

打 → 倒 → 極

- 打：・追い込みタックルを誘う
- 倒：カブってテイクダウン
- 極：サブミッション

G戦法

グレイシーのVT必勝方程式

ベスト・メインの戦術

例：ヒクソン・グレイシー

倒 → 打 → 極

- 倒：タックルによるテイクダウン
- 打：マウントパンチ
- 極：マウントからのサブミッション

ベター・サブの戦術

例：ホイス・グレイシー

倒 → 極

- 倒：引き込み
- 極：ガードからのサブミッション

これからのVTは、関節技なんか使ってる暇はないんですよォ！

がタックルに行くんですよ。

——ド素人にわかりやすく言うと、アレクのタックルはクリンチということですね。

堀辺　そう、だから打撃で追い込んだときにタックルがくるんだから、ボブチャンチンにはいつタックルが来るかわかるんですよ。そしてタックルがきたらガブる。ガブって上になったらまた殴る。これでアレクはボコボコにされたんですよ。こうしてグレイシーが出さなかった新戦術が生まれつつあるんです。これを「K戦法」って言うんですよ。

——今度は「K戦法」！

堀辺　「K」っていうのは、カラテとかキックとかカンフーとか骨法とか、打撃系の必勝パターンなんです。「G戦法」に対抗して、打撃系の格闘技から新しいVTの方程式がいま提示されつつあるんですよ！　これが大革命なんです！　そして桜庭。桜庭選手はこの「K戦法」のサブ戦法を使ったんです、ホイラー戦で。あの試合は、打撃を打つとホイラーが嫌がってタックルに来る、タックルに来たらガブる、この「打」「倒」を何度も繰り返したんですよ。そうしたらホイラーは、ホイスのサブ戦術をとってきたんです。自分から倒れて「来い」という。

——ホイラーはグレイシーのベスト戦法が通用しないからサブ戦法を使ったんですね。

堀辺　そうです！　ところがイエス・サクラバはさすがに神の子だから、感性がいいわけですよ。桜庭はホイラークラスになると、一歩間違えたら下から極められることが自分でわかってるんですよ。わかってるからつきあわないで、倒れた相手に立った体勢から打撃を加えていったんです。そして一瞬の隙を見てアームロックを極めたんです。それで「打」「倒」「極」になったんです。こういう形でいま『PRIDE』には技術革命が起きてるんです！　わかります？

——ハイ、先生、よくわかりま～す。

堀辺　ウチが目指しているのもこれなんですよ。全局面打撃「骨法98手」ですよ！

——はっは～、なるほど。桜庭選手はさすがに金的は狙いませんけどね（笑）。

堀辺　つまりね、VTでブン殴って、蹴っ飛ばして勝てる時代が来るんですよ！　これからは関節技とか絞め技なんか使ってる暇はないんですよ！

——使ってる暇がない！（笑）。

堀辺　そういうことがいま起きつつあるんです。だから大切なのは、この「K戦法」でグレイシーに勝ったら、グレイシーにトドメを指すことになるんです。「我々の戦術を盗んだだけだ」とは2度と言えないんです。もうグレイシーはやってほしい！「打」「倒」「打」でホイスをボコボコにして勝ってほしい！　そこまでいったときにグレイシーを本当の意味で完膚なきまでに叩きのめしたことになるんです！

山本　先生！　ボクが一番思うのは、もっともっと『PRIDE』のリングにプロレスラーが出て行くべきだと思う。出ていかなければ、不戦敗というか、やらずして負けたというか、八百長の十字架を背負ったままなんですよォ！　巡業してる場合じゃないんですよォォォォ！

堀辺　だから藤田が出たことは、新日本が動いたという点で価値があると思いますね。出たということは、新日本プロレスが旧約プロレスだけじゃダメだと決断を出したということなんですよ。

山本　だからぁ、国が軍備を整えて安全保障に向かうように、プロレス界もしなくてはならないのに、まったくやってないよね。それはやられちゃうよね。だから一致団結して格闘技という外敵に向かうべきなんですよォォォォ！　プロレス界は軍国主義にしなきゃダメですよォォォォ！

——ガハハハハ！　軍国主義（笑）。でもさっき山本さんが「馬場プロレスが終わった」と言ったじゃないですか。ド素人のボクに言わせると、これは「長州プロレスも終わった」ということなんですよ。

堀辺　アハハハ！　それはまったくその通りですね（笑）。

山本　いやホント、長州と馬場さんはソックリなんですよ。

——ド素人のボクは、馬場プロレスの継承者は長州力だと思うんですよ。

山本　だから馬場哲学というまったく違うものによって、新日本内部を支配しようとしたのが長州ですよ！

——「プロレスのリングで行われることはすべてプロレスだ」というのと「オレの目の黒いウチはVTをやらせない」というのはソックリですよね。

山本　だから馬場さんがかつて発言したことを、いま長州という名前に置き換えるとみんな当てはまるよ！

——長州力は今年の始めに「猪木さんと勝負する」って言ったじゃないですか。あれは形を変えた馬場vs猪木戦争ですよ。

山本　いや、だから猪木vs馬場とかUWFvs新日本とか様々な対立があったけど、最大のぶつかり合いは「真剣勝負」と「八百長」ですよ！　いまはそれが大爆発している時代ですよ！

——それはホントかウソかということですか？

山本　いや、それを超えた世界ですよ！　最後は何がリアリティがあるかですよ！

——ちょっと話はそれますけど、そういうのを含めて田村vsヘンゾは面白かったですね。『SRS・DX』という雑誌はつまんなかったって書いてましたけど（笑）。さっきの八百長と真剣勝負という話で言えば、桜庭はプロレスラーながら八百長というのは完全に払拭できてますけど、田村はヤマケンの発言

「サブ戦術」ながらあまりにも完璧な桜庭の闘いぶり。堀辺師範も「桜庭選手は毎試合ごとに技術革命が行われている」と大絶賛。ホイスの無敗神話も風前の灯火か。

堀辺師範が一大技術革命というボブチャンチンの「K戦法」のメイン戦術。強豪柔術家であるブエノもグラウンドにさえ持ち込めずにKOされた。グレイシー相手でも結果は同じか。

なんかもあって十字架を背負って闘ってましたからね。

山本　でも、判定で決まるのはいけないよ。判定というジャッジメントをすると、この八百長か真剣勝負かというものの真の意味での審判にはならないよ。判定は悪ですよォォ！

堀辺　でも、田村がUWFのテーマで入場してきたのは評価できますよ。なぜなら、あれは賭けだから。あの曲かけて負けちゃったらね、ものすごいヤバイわけよ（笑）、だからUWFのテーマ曲をかけてきた田村の心意気ってうのはわかったね。

山本　ボクはねえ、田村の闘い方は減点法の闘いが一番うまいと思う。そういう闘いで一番減点が少ないのが田村ですよ！　桜庭とはそこが違うよ。

堀辺　田村は一歩一歩上がっていく努力家なんですよ。桜庭は常識を超えた飛躍がありそうな、そういう意味では天才型だと思いますよ。だから努力家の田村は今回みたいなルールでずっとやっていったら、相当強くなりますよ。

山本　そう、あれは減点法だから！

堀辺　だからKOKルールで桜庭が向かっていったら、桜庭は田村に敗れると思う。なぜなら桜庭の自由な発想使えないから。KOKはわかりやすく言うと数学なんですよ。数学っていうのは答えが決まってるんですよ。だから努力家の田村に合ってるんです。天才型の桜庭には合わないんですよ。決まり切ったことをやると、彼は飽きると思う（笑）。

山本　桜庭はKOKはやってても面白くないと思うよ。寄り道したくなりますよォ！

堀辺　私に言わせると、リングスのKOKっていうのは、ひとことで言うと「新プロレス」にはなれないんですよ。

山本　なれませんよォォ！

堀辺　格闘技になってしまうんです。でも格闘技に突き進んでしまうと、ダイナミズムが失われるんです。

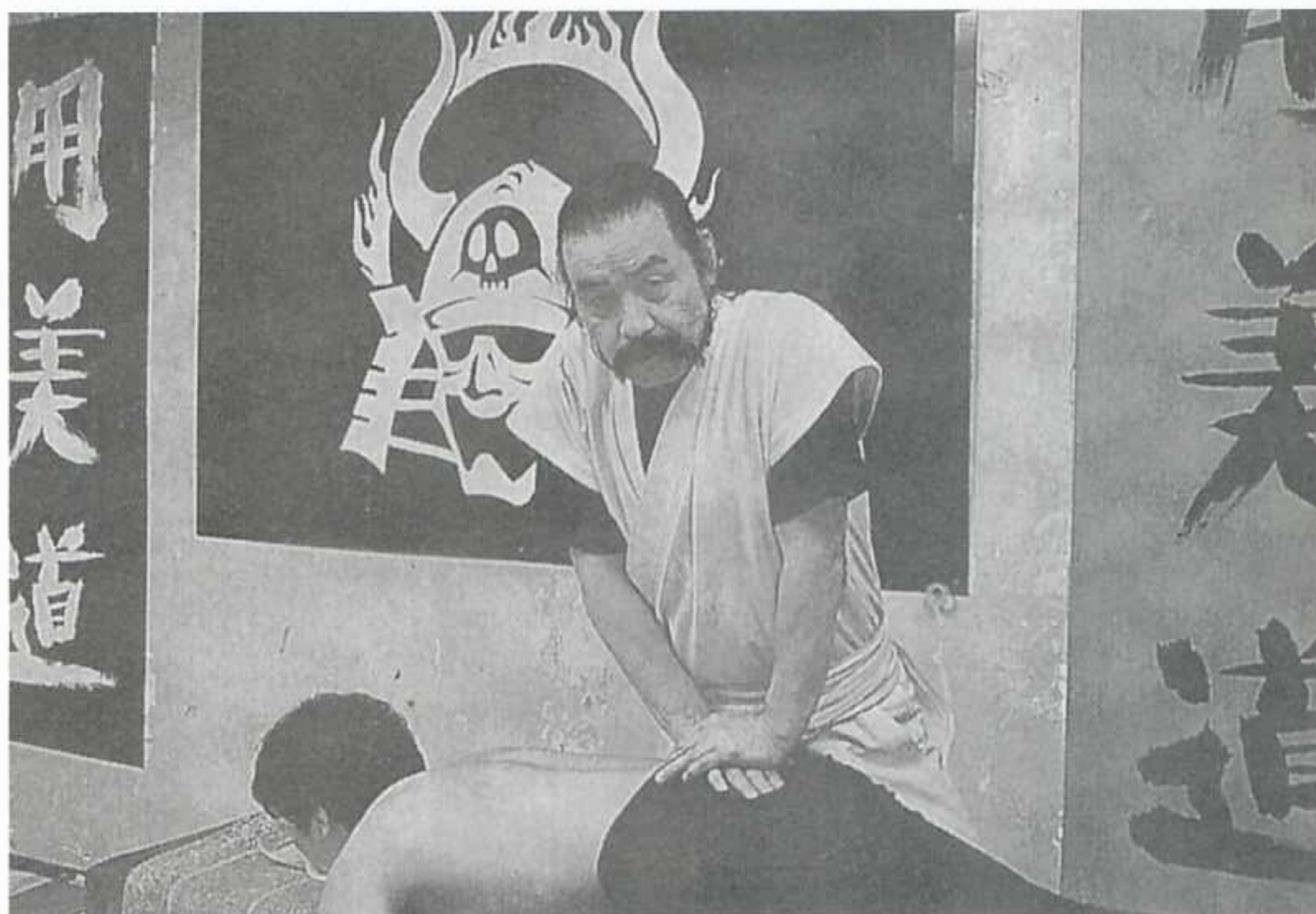
山本　パンクラスになりますよォ！

堀辺　スポーツライクになりすぎたらプロレスっていうものを背負わなくなるんですよ。異形なものを見る。これがプロレスの根本ですよ。だからVTが相応しいんですよ。異形なものですよ！　流血ですよォ！

――流血ですか（笑）。

堀辺　そうですよ。「新プロレス」っていうのは、ルールが決まっていても、ときたまルールを破るような格闘家が生まれたときに本物になるんですよ。

――また物騒ですね（笑）。

堀辺　噛みつきをする選手が出てきてほしいんですよ。それもホントの噛みつきですよ！　噛みついた振りをして血が出るのではなく、頬の肉を噛みちぎらなきゃダメなんですよ！　なぜなら真剣勝負だから。

―いや、先生は物騒なことを話すとき、本当に嬉しそうに話しますね（笑）。
堀辺 この反則が犯されたときに、旧約プロレスは全部崩壊しますよ！（嬉しそうに）だってVTで頬の肉を噛みちぎって、頬骨が見えてたりしたらもう終わりですよ（笑）。（さらに嬉しそうに）ブッチャーやシンの伝説も完全に崩壊しますよ（笑）。
―でも、ブラッシーのときみたいに、ショック死する老人が出てきますよ（笑）。
山本 だからぁ、VTが出てきたらいままでのプロレスラーという存在は、もう成り立たなくなる。重要無形文化財になると思う。
堀辺 その通りですよ、山本さん。
山本 だってオレは桜庭の活躍を見ても、こういう人がプロレスラーとは言えないもん。だからプロレスラーというものが、現代では成り立たなくなって、それを一番成り立たせてたのは馬場さんですよ。
―そうなると、話としてはすべて一番最初の話に戻ってきますね。やっぱり馬場プロレスというか、馬場的なプロレスが終わりを告げたということですか。
山本 だから馬場さんがVTに手を出さなかったのは、初めからこうなることがわかってたんだよォ、あの人は頭いいから。だからプロレスは馬場さんで終わりですよォォ。
―そうなると、猪木さんっていうのは何なんですか？ 何なんですかっていうのもヘンだけど（笑）。
山本 猪木さんは馬場さんになれなかったんだよォ！
堀辺 私はさっきの理論で言うと、猪木は予言者なんですよ。猪木はモーゼなんですよ！
―サクのイエスに続いて、猪木さんはモーゼ！（笑）。
堀辺 あの異種格闘技戦というのは、日本においては、「馬場的プロレスはダメになるんだよ」ということで、アリやルスカとやって、「こういうものが未来のプロレスなんだよ」っていうことを予言していたんですよ。その予言を実現しようとしたのがUWFなんだから。そしていまやUWFが新プロレスになったんですよ。
―巨大な橋渡しですね。
堀辺 そうです。だから彼は予言者だったんです！
山本 だから、猪木さんは、馬場さんが何もしないので、プロレスラーに新たなる付加価値を生もうとしてぇ……墓穴を掘った人ですよ！（笑）。
―ガハハハハ！
堀辺 そう、それを言っちゃあ終わりだけどね（笑）。それもまた真実（笑）。
山本 ものすごい付加価値を生もうとして、アリやルスカと闘ったりして、様々なあらゆる努力をして、プロレスの付加価値をものすごく高めようとしたんだけども、大・墓穴を掘ったんだよォオォオ！（笑）。
堀辺 でもその墓穴からUWFも『PRIDE』も生まれたんですよ。
山本 そう、だから本人は墓穴だったけれども、結果的にジャンルとしてのプロレスがグレードアップしてるんですよォ！
堀辺 だからさっきの理屈で言うと、歴史は個人的にはどうでもいいんです。猪木は馬場を超えたいがためにあれをやっただけに過ぎないんですよ。でも結果は新しいプロレスを生むきっかけになったんですよ。
山本 馬場さんのやってきたことは完全に死んで、遺跡になったわけですよ。でも猪木さんのやってきたことは現在進行形だから猪木さんの勝ちですよ！
堀辺 そう、猪木さんが格闘技界に生きてるわけ。だから『PRIDE・GP』で猪木のビデオが流れたじゃない、あれは『PRIDE』に猪木が生きてるってことですよ。
―藤田選手の入場のときですね。
堀辺 あそこにまさか馬場さんのビデオ流せないでしょ。
―ガハハハハ！ もし『PRIDE』に馬場さんの映像が流れたら、もの凄いことになりますね（笑）。先生、いまの話を聞いてて思ったんですけど、猪木さんて墓穴掘った人じゃないですか。高田延彦も墓穴掘りましたよね。
堀辺 はい、掘りました。
―墓穴掘らないと時代は変わらないですね（笑）。
堀辺 そう、墓穴掘らなきゃ変わらないんですよ。
山本 高田の墓穴は〝超〟墓穴ですよォ！
―ガハハハハ！
山本 墓穴というか、ドツボにはまったというか、肥えだめにはまったというかさぁ（笑）。
―肥えだめ！（笑）。
堀辺 でもすべて歴史は墓穴を掘って動くんですよ。だって幕末に長州藩が自分たちの力も知らないで、4カ国連合艦隊に対して攘夷を敢行したわけですよ。それで散々打ちのめされて、それで初めて外国とは何者かわかったんですよ。打ちのめされて日本が変わったんですよ。高田の敗戦と同じですよ。高田がヒクソンに敗れたから、桜庭たちが立ち上がったんですよ。
―そうですよね。
山本 だからオレに言わせれば、高田は美しい形で乗せられたんだよね（笑）。ものすごくレスラー的で讃えなきゃならんと思う。あれだけ乗せられてやるのがプロレスラーだよォオォオ！ 美しき生け贄ですよォオォ！
―ホントそうだと思いますよ。だって墓穴を掘るっていうこと自体が偉業のものですからね。世間の人は墓穴掘りませんよ（笑）。
堀辺 高田が墓穴を掘ったことによって「プロレス新約時代」を迎えたんです。「新プロレス」の時代なんですよ。だからこれからは「新プロレス」と「旧プロレス」がどう関わりを持つかという見方もできてくる。じゃあ旧は新にどういう影響を受けるか、時代のキーワードなんですよ。これを抜きにしてプロレス雑誌を作ることはできない！（ボソッと）これを私は浜部さん（『週プロ』編集長）にもホントは電話したいんですよ（笑）。
―ガハハハハハ！ 先生と浜部さんの対談は実に見たいですね（笑）。では先生、今日もいろいろありがとうございました。山本さん何か言い忘れたことはありませんか？
山本 オレはもう、腹いっぱいだよォ～！

オレたちノーフィアー

これを読んでお気づきの読者も多いかと思うが、その炎上ぶりが実にそっくりな堀辺、ターザン両先生。活字マット界のノーフィアーとしてますます暴れまくることだろう（ガンツがノーフィアーポーズの写真を撮り忘れました）。

船木誠勝VSヒクソン・グレイシー戦に夢を見よ!
第2弾

プロレスの神様
カール・ゴッチも

国プロの血を受け継ぐ
アニマル浜口も

ヨガを実践していた!!

だから船木よ
お前は
プロレスラーとして
断じて正しいーーッ!!

プロレスラー、始めました。リングスの田村潔司に密着!
格闘技通信

文・撮影/中村カタブツ君
text & photograraraphs by Katabutsukun Nakamura
スーパーバイザー/吉田豪
super visor by Go yoshida

15年前から“火の呼吸”を研究していた男
アニマル浜口
に聞いたヨガの真実!?

アニマル浜口は15年前から火の呼吸法を研究していた!!

船木誠勝が現在行ってるヨガはとにかく凄い。なにしろ、1分間に連続200回も鼻呼吸するのだ。乾くだろう、鼻。
だからなのか、〝火の呼吸〟と名付けられた。この呼吸法は内臓の各部を活性化し、スタミナがつく凄いものらしい。ただ、ここで問題なのはあまりにもヒクソンのマネをしてるだけに見えるからだ。ところが『格通』（3・23号）の船木インタビューにこんなくだりがあった。
「昔、ゴッチさんもこういう呼吸法をやってたんですよ。マッスル・コントロールと言って、腹を動かして鼻で呼吸していた記憶があります」
「ヒクソンが腹を動かしてるのを見て『ゴッチさんと同じことをしてる』と思いました」。
つまり、船木はヒクソンのマネをしてるのではなく、ゴッチイズムを染み込ませようとしてるのである、たぶん。ヒクソンがきっかけであろうとモチベーションの中にはあったのは事実であろう。

しかも同誌にはマスクマンのTシャツを着た船木の練習写真まで掲載されている。『紙プロ』編集部では、これは「エル・サタニコか、いや意外とマスカラスじゃないか」と熱く議論し、結果として「船木ってプロレス・ファンじゃねぇか」ってところに行き着いたりするのであった。
ミスター高橋のページでも紹介したが、昔から船木のことを〝一夫〟と呼んでいたドン荒川が最近船木に出会って〝一夫〟と呼んだ時も「ハイ！」と答えたというのだから、新日魂も忘れちゃいない。
結局、昔から自分はプロレスラーだと明言していた船木だったが、あまりに格闘技寄りな取材ばかりでプロレス的面に光が当てられなかっただけなのだ。
そんな最中、鼻呼吸及びヨガ的腹筋運動を15年も前から行っていたレスラーが現れた。アニマル浜口である。ゴッチイズム、国プロ魂を背負った船木のヨガに乗らずにどうする！
いったれ、一夫！（NOT・山ちゃん）

『週プロ』3・7号に掲載された船木のヨガの模様。腹筋で身体をV字状態に維持して行う火の呼吸はアニマル浜口も実践しているハードなものだ。また、船木にヨガを伝授するシリ・バド・シン師はヒクソンのヨガの師と兄弟弟子らしい。そして二人の師であるヨギ・バジアン老師がこれまた凄い。「真冬に冷水を浴びても火の呼吸をするだけで、たちどころに身体が乾いてしまう」様子。なにやらこの一戦、超人対決の様相まで呈してきた

——今日はハマさんにヨガ流の鼻の呼吸法についてお聞きしにきたんですよ。
浜口　これはホントに身体にいいんだよ！　オレは15、6年前からこの呼吸法をやってるんだけど、1分間に250回から300回ぐらいできればいいよ。
——300回ですか！　実は5月にヒクソン・グレイシーと闘う船木誠勝選手もそれと同じ鼻の呼吸法をやってるんですよ。名付けて〝火の呼吸法〟というんですけど。
浜口　火の呼吸！　う～ん、わかるなぁ。あのね、オレと（浜口）京子の場合は〝鼻フンフン〟って言えばわかるんだけど。
——はい（笑）。
浜口　その呼吸法はボクサーたちがやってたのをヒントにしたんだよ。〝鼻フンフン〟は格闘技をやってるものだったら当たり前のことなんだよ。
——当たり前ェ!?
浜口　そう！　だけど、素人がいきなりやっちゃうと貧血起こして倒れちゃうよ。
——やっぱりハードなものなんですね。
浜口　慣れだよ、慣れ。これができるようになると内臓が凄く活性化される。やっぱり、いろんなものを見たり聞いたりすることが勉強になるんですよ。オレはヒクソンを見てやったわけじゃないんだね。面白いのがね、京子がテレビでヒクソンを見た時「お父さんと同じことをやってる」って言ってたからね。
——ワハハハハ！　やっていることは一緒ですから（笑）。実は腹を出したり引っ込めたりすることもできるんですよね、ハマさんは。
浜口　そう！　結局、みんな、どうしたら強くなるかって考えてアマレスやボディビルとかやってますけどね、根元はみんな一緒ですよ。どうしたら強くなりたいかっていうね。みんな、のたうち回って考えてるんですよ。
——そうやって、のたうち回ると図らずも同じところに行き着くわけですね。
浜口　そうですよ！
——ハマさんの場合はどういうきっかけでや

見てみ、このヘコミ!! ヨガの実力はヒクソン以上か!?

り始めたわけですか。

浜口　オレの場合はボクサーが……。う～ん、あのね、ホントの理由は風邪をひいて鼻炎になっちゃったからなんだよぉ（笑）。

――ワハハハハ！　鼻炎の治療法（笑）。

浜口　笑い事じゃないんだよォ。急性の蓄膿炎になっちゃったんだよ。身体はダルいし、瀬戸際になって自分で研究したの。

――なんで病院に行かなかったんですか。

浜口　いや、直感で。

――直感（笑）。

浜口　ジャンボ鶴田選手との試合でケガして1年間休んだでしょ。その時に気功を習ったの。習ったって言っても独学だよ。だから、さっきやったように右の穴で息を吸って左の穴に抜いたりとかっていうテクニックを知ってたの。だけど、しばらくやらなくなって鼻炎になったから、いろいろ自分で考えたんだよ。もの凄く考えたんだ。鼻息健康法っていう名前をオレがつけて帳面一冊に粘膜がどうしたこうしたって書いてあるんですよ。

――ノート一冊分もですか（笑）。だけど、その独学で究極のヨガに近付いたと。

浜口　いろんなやり方をやってくうちにそうなったんだよ。だけど、きっかけは鼻炎。人間はね、にっちもさっちも、前にもいけず、後にもいけず、もうどうしようもなくなるとね、やるのよ。だから、オレはやったのよ。それが出発点。それをたまたまヒクソンがやってて、船木選手がやろうっていうんだからねぇ（笑）。

――面白いですよねぇ(笑)。で、船木選手もいまヨガで凄く活性化されているんですよ。

浜口　オレもね。まず、身体が違ってきましたよ。昔は短くチョコチョコやってたんですよ。バーベル1セットやると30秒ぐらいビョ、ビョ、ビョとやるとかね。そういうのを1日中やっていたんです。続けて30分やるとか1時間やるとかっていうのはずっと続けてましたね。あ！　もうひとつあったんだよ。数息管！　これは誰もやってないと思うんだよ。数を1から100まで数えるんだ。

――数を数えるわけですか？

浜口　（モノ凄い速さで）「いちにぃさんしぃごぉろく、いちにぃさんしぃごぉろく」って100まで数える。これも気功的要素があって自分流ですよ。これもいい。これは誰もやってないでしょ？

――はい！

浜口　これは口の呼吸法で、あることがヒントになったんだよ。これもモノ凄くいいですよ。京子も昔からやってますからね。

――そのヒントってなんだったんですか。

浜口　それはね、長州選手とタッグを組んでたからだな（ニヤリ）。

――ほぉ！

浜口　試合前の息上げの時にね、「アー」とか「オー」とか、声を出すでしょ？　あそこからですよ。これを思い切りやったのがライオンのヨガ！

――ライオンのヨガ!!　クゥ～、強そうだ。

浜口　ああいうのを自然に入れて。そうするとスタミナが凄くつくんですよ。

――ジャパンプロレスに源があったと。

浜口　長州選手もやってたね。だけど、ほかの選手はやらなかったね。オレはモノ凄く声を出してた。その時にオレなりにつかんだ方法ですよ。だから、これはモノ凄くいいね。船木選手もやった方がいいんですよ。オレも世界選手権の舞台で京子にやらせましたよ。それ！

――テレビで見たことがありますよ、それ！

浜口　これもヨガ的気功。これを一番簡単にしたのが「いちにぃさんしぃごうろく」で、大きな声で早く！　それがポイント！

――つくづく小さなことを見逃さないですね。

浜口　それは本能というかね。だから、船木選手がそこまで行ったっていうのは凄いんじゃないかな。

――それに敵がやってることをよくやり始め

この写真を見ただけでハマさんのヨガ的実力がわかると思う。まさにヒクソンばりだ。これを独学で実践して、ここまでの域に高めてしまったのだから頭が下がる。気持ち一つで身体を追い込む、さすがは気合いの男だ

ヨガの神髄はプロレスの神髄!!

たと思いますよ。

浜口　そう！　直感だ！　それじゃないとダメだ！　人生すべて勉強ですよ。オレもいろいろな本を読んだけど、東スポの広告に載っていた荒行の本も読みましたよ。

——ああ、一面の下によく広告が載ってる『我れかく荒行せり』ってやつですか。

浜口　読みましたよ!!

——抜群です、ハマさんは（笑）。改めて聞きますが、ヨガの一番の効果ってなんですか。

浜口　エネジーがわいてきますね。嗅覚というか、感性というか、見えないものが見えるというか。言葉で表わせないものが見えるというか。そういうのがヨガには多いんですね。

——毎日やることによって自分の体調も手に取るようにわかるみたいですね。

浜口　僕がね、いつも取り入れてる簡単にできる方法はね、腹筋をして身体をVの字にする。Vにしてフンフンをやるといいです。僕はしょっちゅうやってます。

——それは船木さんもやってますよ（笑）。

浜口　そうか！

——腹を動かす運動にはどんな効果がありますか。

浜口　もちろん内臓の活性化ですよ。もう一つは腹の筋肉でボンっと前に出すのもいい。力を入れたらダメですよ。ポンっと押すだけ。だからね、腹が減るんですよ。

——船木さんもおなかが空くそうです（笑）。

浜口　そうだろ！　もうね、身体が違ってくる。中の脂肪が取れるというかね。

——そこもまったく一緒です。

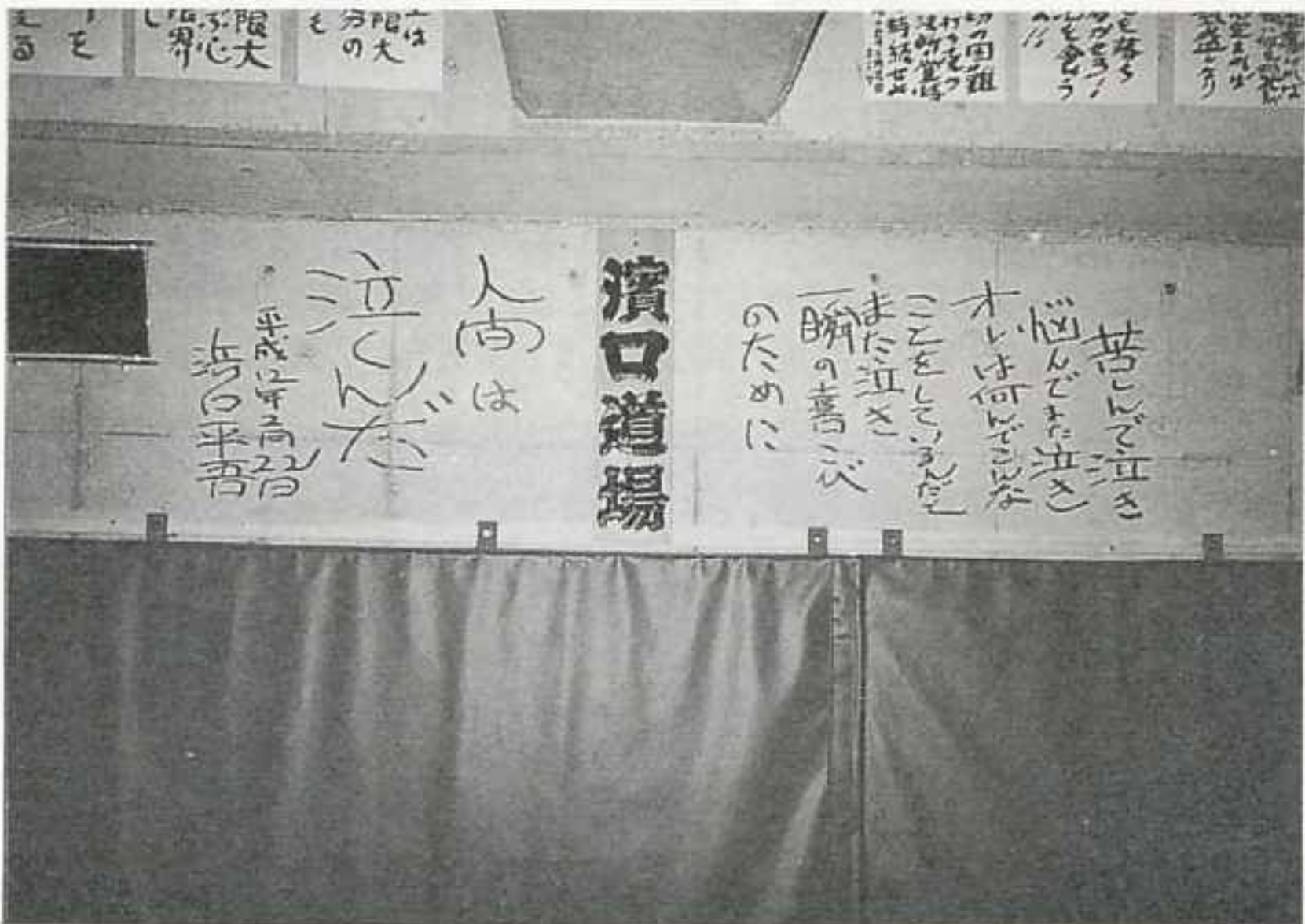
浜口　うんうん（笑）。だから、オレは血管が凄いでしょ。脇の腹筋に筋が出てるしね。普通は出ないからね。これは油抜きをしてるからだけど、ここ最近になって初めてジャンクフードというか、肉を食ったわけ（笑）。

——ジャンクフード!?（笑）

浜口　筋肉と皮の間の脂肪が燃えるんですよ。だから、オレの身体が明確になってくるわけ。なんかこう感性が研ぎ澄まされるというか。反射神経がわかるというか。だから、鼻フンフンを300回ぐらいできるということは運動能力が凄くないとダメ。オレの場合はプレートを持って鼻フンフン、スパーリングやって鼻フンフン。ヒンズースクワットで鼻フンフンなんですよ。

——凄いです！

浜口　だから、ドンドンいろんな変化ができるんですよ。なにかやりながらの鼻呼吸はキツイですよ。全然違いますよ。

——ちょっと確認したいんですが、鼻呼吸って苦しいですよね。

浜口　苦しいですよ。だけど、慣れたらなんともない。鼻っていうのがなんで苦しいかと言ったら粘膜があるからね。

——あのォ鼻が乾きませんか?

浜口　ワァハッハッハッ！　乾くよ（笑）。息自体が火を吹くような感覚になるんだよ。そういう感覚。それがコツ。京子もちょっと形になってきたね。だから、力を入れちゃいけないし、その具合が難しいですよ。

——ところで、ゴッチさんもヨガ的な練習をやってたみたいなんですよ。

浜口　それは腹を動かすヤツでしょ?

——そうです、そうです。ゴッチさんとは国際時代にお会いになってるんですよね。

浜口　ゴッチさんがハワイにいた頃、吉原社長が連れてこられたんですよ。その時ですよ。ただオレは草津さんの付き人をしてたんで、一緒に練習することはなかったんですよ。だけど、腹を動かすのはやってますね。あれは肋骨をグッと入れるんですよ。バキュームっていうんだけど、京子もできますよ。

——さすが世界チャンピオン！　京子さんは〝鼻フンフン〟もできるんですよね。

浜口　京子もドンドン吸収してるからね、すぐに30分、1時間できるようになりますよ。数えたら1分間250回できてましたよ。さっき

——ところで〝鼻フンフン〟は本にしないんですか。

浜口　本にしたって誰もやらないよ（笑）。キツイからやらないよ。なぜなら現代社会がガマンを排除する世界なんだよ。まず冷房がそうだね。暖房もそう。だから、オレのジムは冬は寒い。夏は暑いんだよ。

——ワハハハハ！

浜口　笑いごとじゃないんだよ。その証拠にインスタントじゃ選手は育たないもの。トレーニングの方法だって考えればなんでもできるんだよ。高地トレーニングとか言って外国とか行くだろ。あんなのはジムの窓を閉めきって炭酸ガスをいっぱいにすればすぐにできるんだよ。高地トレーニングしたけりゃ、窓を開けちゃダメ！

——ワハハ！　だけど、死んじゃいます（笑）。

浜口　そう！　そこまでやんなきゃダメなんだよ。極限なんですよ。初心者は窓を開けて酸素を多く取り入れるけど、上級者で強くなろうと思ったら窓を閉めなきゃなんない。だから、トレーニングは知恵なんですよ。そしてバカになんなきゃいけないんです。オレはいつも「屈辱・忍辱して雪辱と成す」って言ってるんだけどそれなんだよ！

——船木選手もいま、いい意味でバカになって練習してると思います。

浜口　そうか！　船木選手よ、バカになれ！　屈辱・忍辱して雪辱を成せェェェ！

右上の写真は新ジムとなったアニマル浜口ジムの一角で“鼻フンフン”を行うハマさん。まわりに貼られているのはハマさん直筆の心の言葉の数々。この一角はハマさんいわく「オレの書斎」であり、聖域である。右下の写真は浜口ジムの壁にハマさんが自ら書いた詩だ。このジムは汗と涙を流し切る場なのである

●アニマル浜口ジム会員募集

新ジムに移転し、スパーリングスペースが広くなったアニマル浜口ジムでは会員募集中。ボディビルのほか、アマレス、関節技などグラウンド技術習得にはもってこいの道場である。また、通常2万円の入会金が移転記念価格として絶賛半額中の1万円。いまがチャンスだ。月会費1万円。
住所・台東区浅草3-4-9　電話・03-5603-9509

●『コロシアム2000』情報

船木誠勝vsヒクソン・グレイシー戦がメインで行われる『コロシアム2000』（5・26東京ドーム）。この大会にパンクラスの近藤有己、須藤元気の参戦が決定。対戦相手は未定。また、極真会館（緑健児代表）の鈴木国博vsルシアーノ・バジレによる空手ルールの試合も組まれることが決定した。
問い合わせ先・03-3432-1682

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

エリオ・グレイシーから"キッスの世界"まで読めるのは『紙プロ』だけ!?

チュッ

No.24 ★頭打ちすぎたかアレク!!

アレクサンダー大塚ロングインタビュー&
1・30密着ドキュメント
『新プロレス』とは何か？緊急座談会
5・1ホイス狩りに王手！
桜庭和志／グレイシー討伐を公約！
田村潔司
VTの見方全て私が教えます！
堀辺正史／『柔道多重アリバイ』
守山竜介／KOK大予想大会！
中西百重
語ろう**船木VSヒクソン**座談会
『紙のプロレスAMERICAN』
ブチ抜き17ページ**WWF**大特集
ザ・グレート・サスケ×矢追純一
UFO対談

No.5 ★すべてはここから始まった!

高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
ドン荒川vs藤原喜明超過激対談！
前田日明の『人生は語らず』
世界格闘技連盟を語りたおす！
佐山聡（タイガーキング）
長井満也／**柳澤龍志**／**ディック東郷**
愚乱・浪花／**ザ・グレート・サスケ**
長与千種／**ライオネス飛鳥**／**ビクター・クルーガー**
パンクラス旧合宿所誌上大公開！

No.9 ★「アントニオ猪木・闘魂連鎖！無礼講大特集!!」

前田日明／**ザ・グレート・サスケ**
高田文夫／**春一番**／**ターザン山本**／**石川雄規**
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前インタビュー＆炸裂人生相談
日プロOB**吉村道明＆ユセフトルコ**
＆遠藤幸吉＆駿河海
『格闘家からみたプロレス！』
朝日昇★谷津嘉章／**佐野友飛**
下田美馬＆三田英津子

No.10 ★特集「灼熱の地殻変動'98」

大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談！
とにかく元気！**高田延彦**ロングインタビュー
またもや大爆発！
谷津嘉章インタビュー第2弾！
社長＆会長対談・**ザ・グレート・サスケVS**
松永高司
『紙のプレイボーイ』発進!!**ダイアナ＆宮内美穂**
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
『紙プロスーパースター列伝』
北沢幹之★冬木弘道（金村ゆきひろ＆伊藤豪）
ロングインタビュー

No.11 ★特集「格闘Viagra'98」

高田延彦vsエンセン井上
エネルギーエクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
「格闘か？芸術か？それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／**スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）**
福田雅一
★ザ・グレート・カブキ／**ダンプ松本**
★バト両国進出記念**石川雄規**
トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるSWSの真実
『S多重アリバイ』**アポロ菅原**

No.12 ★特集「格闘TEPODON!!'98」

2度目のヒクソン戦直前！
高田延彦ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ！
祭り囃子を鳴らせ!!」**浅草キッド**
人気大炸裂！『S多重アリバイ』
第2弾**アポロ菅原**
★桜庭和志／**アレクサンダー大塚**
山本喧一／**神取＆北尾**／**八木淳子**
ダンプ松本／猪木イズム世界一決定戦
石川雄規＆ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ**前田日明**『人生は語らず』
話題騒然!! What is プロ格闘家？
菊田早苗＆郷野聡寛

No.13 ★特集「四角いジャングルRADICAL」

実写版『1・2の三四郎』降臨！
アレクサンダー大塚インタビュー
『10・11 PRIDE.4』とは何か？
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
『高田VSヒクソン戦!!』
谷津嘉章・**島田裕二**・**浅草キッド**が見た
『10・11 PRIDE.4』
大反響！『S多重アリバイ』第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド／**松永光弘**
リッキー・フジ／**堀辺正史**

No.14 ★特集「格闘DREAM CAST」

前田日明独占ロングインタビュー
これが**カレリン**の発した言葉だ!!
山本美憂・聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中！**金原弘光**
RADICAL版　ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!!
『高田道場1999！』**高田延彦**／**桜庭和志**
佐野友飛／**松井大二郎**／**豊永稔**
『S多重トンパチ』第4弾　**折原昌夫**
★『虎の尾を踏む男たち '99』**小路晃**
4代目タイガーマスク／**村上一成**／**宇野薫**

No.15 ★特集1「格闘MARS ATTACKS!」

橋本戦の核心を語る
小川直也with.S.Sインタビュー
佐山聡／**4代目タイガーマスク**
UFO襲来緊急座談会
★特集2「**格闘LAST VOYAGE**」
前田日明USA特訓を直撃！
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド／**アニマル浜口親子**
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場！**SASUKE**
『語ろう**マサ・サイトー！**』
『S多重アリバイ』2連発！
佐野友飛＆**Mr.W**

No.16 ★特集1「格闘ノストラダムス'99」

エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司／**坂田亘**／**高阪剛**／**山本喧一**
村上一成／**マーク・コールマン**
石川雄規／**ザ・グレート・サスケ**
★特集2「**それぞれの旅立ち '99**」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占インタビュー
大好評！「語ろう」シリーズ第2弾！
『語ろう**ジャンボ鶴田**』
『S多重アリバイ』第7弾**石川孝志**

No.17 ★特集1「格闘MAKE JUNGLE」

UFO襲撃三昧**小川直也**インタビュー
桜庭和志／**高田延彦**／**アントニオ猪木**
豊永稔／**マグナムTOKYO**／**池田大輔**
宮戸優光
★特集2
「新生リングスBone&Blood」
前田日明／**山本宜久**／**成瀬昌由**
R・クートゥアー
★タイガー・戸口／**矢口壹琅**／**『怪物通信』**
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18 ★特集「格闘STAR WARS」

カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー／**高田延彦**
エンセン井上／**イーゲン井上**／**小路晃＆宇野薫**
格闘STAR WARS座談会
★『S多重アリバイ』第8弾**将軍KYワカマツ**
『外人さん、いらっしゃ〜い』
F・シャムロック／**G・グッドリッジ**
R・グレイシー
『怪物通信』**G・アイブル**
『闘魂猪木塾とは何か？』

No.19 ★いま一度高田延彦を注視せよ!

マーク・ケアー戦直前**高田延彦**インタビュー
リングス、パンクラスにも咆吼三昧!!**小川直也**
マット界の今後を**前田日明CEO**が激白！
『紙プロスーパースター列伝』**ドン荒川**
佐山聡／**エンセン井上**／**成瀬昌由**
TARUwith AYAKA／**宇野薫**
アレクサンダー大塚
『怪物通信』4連発！
M・ケアー＆**G・グッドリッジ**＆
E・F・ブラガ＆**G・メッツアー**
上田馬之助／**井上貴子**／**川口健次**

No.20 ★人間UFO吠えまくる！小川直也インタビュー

独占!!　公開インタビュー**前田日明**
アレクサンダー大塚
高田延彦爆炎記者会見／**佐山聡とは何か？**
『語ろう藤波辰爾』／**バス・ルッテン**
『S多重アリバイ』第10弾**ドン荒川**
滑川康仁／**カール・マレンコ**／**高阪剛**
山本宜久／**成瀬昌由**／**小路晃＆宇野薫**
ケビン・ヤマザキ／**内藤恒仁**
ティト・オーティズ
敗者『紙プロ』追放試合！
ジャイ子vsトイレの大西さん（仮）

No.21 ★恐怖のプロレス大魔王降臨！

小川直也ロングインタビュー
『紙プロRADICAL』初登場じゃあ！
大仁田厚／**前田日明**総帥激白！
本誌独占！　発見**八木淳子**
『S多重アリバイ』第11弾**鶴見五郎**
G・アイブル／**R・フィエート**
本誌先取り**B・コーラー**
桜庭和志IN青空プロレス道場
エンセン井上／**山本喧一**／**高瀬大樹**
アレクサンダー大塚／**モハメド・ヨネ**
CIMA／**田中健一**／**平直行**
コーラ・パワーズ／本誌独占**G・サスケ死す！**

No.22 ★サク、グレイシーに完勝この上なし！

桜庭和志ロングインタビュー
前田テロ事件サプライズ座談会
ヤマケン？…俺は逃げる！**田村潔司**
俺は逃がさない！**山本喧一**
スモーノブ初土俵！**大刀光**
好評につき第2弾！**田中健一**／**馳浩**／**小川直也**
ゴールドバーグ／**坂田亘**／**木村浩一郎**／**長井満也**
池田大輔／**B・コーラー＆A・ウォリアー**
佐藤耕平／**渡辺千景**
ヒクソン＆ホイラー兄弟の
「ああ言えばこう言う録」

No.23 ★道はどんなに厳しくとも笑いながら歩こうぜ!!

ホイス戦直前！**高田延彦**インタビュー
超異次元対談**大仁田厚VSエンセン井上**
つっぱれ**大刀光**
スモーノブがっぷり四つインタビュー**佐々木嘉則**
ヒクソン・グレイシー／**W・ウィリアムス**
ジャイアント馬場1周忌追悼座談会
レスラー生活10周年記念**ザ・グレート・サスケ**
★「リングス『KOK』大特集！」
襲撃事件後『紙プロ』初インタビュー**前田日明**
ヘンゾ・グレイシー他
刺青女**多和田初美**／**木口宣昭**

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151−0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11-3-702（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130-3-769154（株）ダブルクロスまで。
代金はNO.5〜NO.10=680円　NO.11〜NO.19=780円　NO.20=880円　NO.21=840円　NO.22〜NO.23=880円　NO.24=840円　送料1冊=310円　2冊=340円　3冊〜4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO" CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）

※『紙のプロレスRADICAL』創刊号から　NO.4、NO.6〜NO.8は完売しました。　サンクス。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

PART2

親切な小池書院さんから『書評の星座』へと順調に送本されてくる『クライング・フリーマン』（作・小池一夫、画・池上遼一）。ところが先日リングス事務所にうかがったところ、なぜか日明兄さん宛てにも送本されていることが発覚！ このピンポイントぶり、つくづくセンス良すぎである。そういうわけで今後も絶賛送本受付中の、ヒンズースクワットすらできない「その他大勢」の手による書評コーナー。御意見・御感想は〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉までどうぞ。

対橋本真也戦　闘魂録「反則ですか？」

（小川直也／アミューズブックス）

ちょっと遅すぎるとさえ思えるNWA王者・小川初の単行本が、遂に登場！ 柔道時代の話や安生戦などのあまり語られてこなかった部分ばかりに興味がある者としては橋本戦のみに絞った構成に弱冠の不満は残るが、構成担当が三沢本や四天王本など全日系ではすっかりお馴染みとなったロック魂の持ち主・長谷川博一先生なんだから、それだけでボクは許す。なにしろ、この本では**「ああ、この人はパンクの人なんだな」**と小川を表現しつつ「パンク＝破壊」の部分にスポットを当てていくのだから、橋本戦をテーマにするのもやむなしなのである。

そんな長谷川先生のロック魂は、小川に向けて**「同じ日に佐々木健介選手が大仁田選手と闘いましたよね。できるだけ、大仁田を射止めないようにする配慮があるのが見ていて分かったんです。場外でのパイルドライバーも机が綺麗に真っ二つに割れたりする。ああ、この日はギミックもありなんだなと想像しました」**と直撃していくことからも、容易にうかがえることだろう。

それに対して、小川は**「それは俺の範疇じゃないから分からないです」**とあっさり受け流しつつも、**「ブレーンバスターはあまり肯定したくない技なんですよ（苦笑）。技を受ける側にも、ある程度、『これは観客のために必要なんじゃないか』という気持ちがあるんじゃないかな」**だの**「ここで負けたら、『ああ、プロレスは1勝1敗の世界なんだな』と世間の人に思われるでしょ」**だのと、佐山イズムで『ケーフェイ』ばりのことを平気で口にしていくから、さすがなのだ。

かくも物騒な姿勢で1・4ドームのリングに立った小川は、**「柔道の専門家も試合を見てますからね。有無を言わさないようにしないと」**という思いから橋本を完膚無きまでに破壊すると、命知らずにもその矛先を混乱の中でリングに上がり、最後に美味しい所を奪っていった新日本の現場監督・長州力にも向けていくわけなのである。

「長州さん、近くにいたカメラマンに蹴りを入れてリングに上がってくるでしょ。さすがプロレスラー、やりますよね。でも、このカメラマン、歯が折れたらしいですよ。参っちゃいますね（笑）」

「長州さん、ガーンと殴ってきたから俺が『この野郎！』って叫んだ瞬間、掴みかかってきたじゃないですか。そこで『行け、お前ら！』って叫んだんですよ。あ、汚ねえな、人間ちょっと見えたかな、という気になりましたよ」

こうして外様（アウトサイダー）の強みで権威の象徴である新日の現場監督をあっさり否定し、10・11のタッグマッチ以降に**「マスコミが一斉に『橋本は変わった』とか『完全復活』とか翌日、書いてましたよね。まあマスコミも新日本の悪口は書けないんだろうけど」**とマスメディアすら否定してみせる小川は、確かにパンク。きっと**「ベジタリアンという人の気持ちが最近はよく分かるし。この前、『買ってはいけない』を読んだんですよ」**という呑気な発言も、左寄りなメッセージに違いない。少なくとも、菜食野郎のボクは勝手にそう受け取った！

そう、小川はパンクなのだ。しかし、そのセコンドで**「オーちゃん、もう行っちゃっていいよー！」「もうアッタマきた」「もう、やっちゃおうぜ、やっちゃおうぜ！」**と物騒なことを叫び続けていた佐山や、小川の背後で**「じゃあ坂口はできねえな、寝技」**とあっさり言い切る猪木の方が、より以上にハードコアなのも事実なのである。

なお、個人的には小川が当り前のように口にしている**「リングスの山本（喧一）選手からの挑戦」**という謎のフレーズが最もツボに入った次第。田村潔司のみならず小川にまで噛み付いていたのか、ヤマケン！ まさか本気で勝てる気なのか!? ……と思えば、もちろん正解は「山本（宜久）」なのであった。まあ、そりゃそうだ。

アントニオ猪木自伝

（猪木寛至／新潮社）

ここ数年にリリースされたプロレス本の中で最高の出来だったと断言できる、異常なまでの下ネタ爆発ぶりが実に見事だった『猪木寛至自伝』。なにしろ構成担当が、近頃は新潮社の月刊写真集シリーズで様々なアイドルに複雑な家庭環境や男関係の質問をシュートでぶつけまくっている活字アイドルの鬼・天願大介監督だったのだから、そりゃあ赤裸々なのも当前だろう。

勃起しただけで「俺は体も大きいから、あそこまで大きくなってしまった……」「これは異常だ」と若き日の猪木が大いに悩み、**「自分を慰めることも知らないので、ただただ夢精していた」**という衝撃の告白に始まり、17歳での童貞喪失告白や**「リキパレスの隣が連れ込みホテルだった」**ため**「覗いているうちに、すっかり興奮してしまい、もう我慢できなくなって渋谷の町に女を買いに走った」**という売春告白。さらには人参ジュースをジョッキで6杯飲まされた結果、**「ムスコが元気になってしまい、三日三番立ちっぱなしになってしまった」**ことまで、いちいち細かく己の闘魂棒との闘魂一人三脚ぶりをカミングアウトしていくのだから、もうたまらない。

そんな歴史的名著が、**「ジャイアント馬場の思い出、新団体UFOを熱く語る書き下ろしを加えた」「改題、大幅加筆」**（帯文&裏表紙の解説より）の文庫版で遂にリニューアル！ 大幅と言いながらも実際にはエピローグを12ページ追加しただけでしかないんだが、たとえページは少なくともその密度の濃さたるや尋常じゃないのである。

まず最初に、猪木は**「最近、プロレスを論じている中で、『あの選手は上手い』などという声を聞くことがある。ちょっと待って欲しい。私たちは職人ではない。『上手いか下手か』よりも『強いか弱いか』がテーマではなかったのか」**とブチ上げ、強さの追求を忘れていったために新日でも**「選手の甘えが芽生え」、「組織も年功序列型で攻めの姿勢を忘れるようになった」**と発言。

つまり、1・4の橋本戦で小川が暴走したのも新日を力尽くで目覚めさせるためにはやむを得なかったと言い張るわけなのであった。

「それが新日本にショックを与え、結果的に沈没を食い止めていると私は思っている」「いくらきれいな試合をしようと、どんなに技が切れようとも、ファンが新日本に期待しているのは、力道山から猪木へと伝わった『闘魂』なのだから」

これらの発言には、ボクも非常に同感である。しかし、それを証明するためにアンチ猪木を口にしているパワーファイターやアメプロ志向の選手ではなく、ただ一人だけ「闘魂伝承」を口にしていたナイスガイ・橋本を潰してしまうのはちょっといただけないというか。

それでも新日の強さを象徴する存在を潰すという強引極なショック療法によって、猪木はファンや選手に「気付き」を与えたわけなのだ。

そのくせ**「あのまま小川と闘えなければ、橋本はもう終わっていた」**というほどの仕打ちを与えておいて、再戦を組むなり橋本に対して**「馬鹿になれ／かいてかいて恥かいて／裸になったら見えてきた自分の姿」**という自作の素晴らしいポエムを贈り、猪木が橋本完全復活に向けて手助けしていったのは御存知の通り。

そう、いま思えば1・4のあの事件とは「闘魂伝承」のための儀式だったのである。たとえ人前であろうとも力道山に靴ベラで殴られてきた猪木は、「闘魂伝承」を勝手に掲げる愛弟子・橋本にも力尽くで力道山譲りの闘魂を伝承させるべく、ドームに集まった数万人の客前で屈辱を味わわせようとしたのに違いない。いや、きっとそうだ！

もちろん、橋本に屈辱を味わわせた側の小川は「師匠に殴られたことは一度もない」し「過去の実績」もある「NWA王者」、すなわち馬場役ということなのだろう。それならリング上で橋本が小川に一度も勝てず、いくら橋本が吠えたところで冷たくあしらわれてしまうのも当然の話。師匠・猪木を刺し殺したいと思えるぐらいに憎んでこそ、真の「闘魂伝承」と言えるわけなのである。

なお、ボクの読みではこれから猪木は橋本（下半身は闘魂伝承済）の相撲界入りを勝手に企んだりするはずなのだが、現実はまだそこまで行ってもいないのでそろそろ書評の話に戻すとしよう。

近頃はミネラル革命に熱中している猪木は、もちろん橋本のミネラルだって検査済とのことだ。

「不足しているミネラルを調べるため、橋本の毛髪をシカゴ大学に送ったところ、信じられない数値が出たのである。重金属をはじめとする有害物質の量が、検査出来ないほど大量に検出されたのだ。これはもう病気寸前というか、闘っていること自体が不思議なほどひどい肉体だということだ。有害物質を取り込むことによって、ミネラルのバランスが崩れ、疲れやすくなったり、精力が減退したり、いわゆるキレやすい状態になることは、もう周知の事実だ。つまり橋本はキレる寸前だったということだ。彼がもし女だったら、到底、正常な妊娠は望めないというような、恐ろしい値なのである」

あれだけ精力には自信がありそうな橋本を、デブだというだけでとうとう「精力の減退したキレやすい妊婦」呼ばわりしてしまう猪木。こうして

小川がキレて橋本を潰したことすらも相手がキレそうだったとの理由で正当防衛だと強引に主張していくから、つくづくシビレる限りなのである。
さらに、「たまたま磁力を使った画期的なモーターが開発されていることを知った。私は実現に向けて手を貸すことになった。といっても、出資をするわけではない。発明が早く世に出られるお手伝いをするのである」と、続いては飽くなき事業欲だってアピール開始!
挙げ句の果てには、「もちろん夢はそれだけではない。突然だが、今、アメリカは豆腐ブームだ。イソフラボンという重要な成分が、豆腐の中には凝縮されていて、健康食として売られている。その豆腐をパンにしようとしても、ボロボロで不味いものにしかならなかった。それをある技術で美味しいパンにすることが出来るようになった。その事業も私は手伝っている。その豆腐パンに、日本人が一番不足しているマグネシウムなどを加え、制癌作用も持つ理想のパンを作った」などと、新たなる事業・豆腐パンの魅力だってたっぷりと主張し始めるわけなのだ!
豆腐パン万歳! いますぐ新日はチャンコをやめて豆腐パンにしろ! 制癌のためには西村も豆腐パンさえ喰っておけば、万事OKだ!
とにかく勝手に闘魂伝承すべく連日連夜納豆(オメガオイル抜き)を食べ続けているボクは、豆腐パンもついでに伝承(=豆魂伝承)することをここでひっそりと宣言する次第なのである。

やまちゃんがいっちゃった!
(山崎一夫/メディアワークス)

やまちゃんがいっちゃった!
山崎一夫
去っちゃうけど、言っちゃうよ!
新日本プロレス、タイガージム、旧UWF、新生UWF、Uインター……
両刃の剣で書き尽くす、ラストメッセージ。今だから話せる爆笑秘話も満載。

いつ何時、どの団体でも派閥間の板挟みとなって誰よりも必要以上に苦労を味わってきた山ちゃんが、とうとう引退のドサクサで過激な暴露本を発表!? そう思わずにはいられない物騒なタイトルながらも、やっぱりUWF分裂時に各派閥の間を取り持つべく親切心で飛び回っているうちにUインターでの居場所がなくなったことや、他の選手とは違って前田に給料を返しに行ったことなどには一切触れることなく、酒の席での無難な暴露話ぐらいしか披露しないから、さすが山ちゃん!
結局、取材・構成が元『ゴング』の小林和朋君というだけあって、「座右の銘が『自然体』」という山ちゃんの人の良さばかりが伝わってくる、非常に心遣いに溢れた一冊なのであった。
なにしろ、「小学校に上がって、鉄棒の逆上がりが最初に出来たというのが唯一の自慢」だの、「小学校の高学年の頃、人間嫌いになったことがあるんですよ。イヌとかネコって正直に生きてるじゃないですか」だのと、子供の頃からすでにシロネコというか見事なまでに「山ちゃん」だった彼氏。
「僕は自分のことでキレるって、まずないんです。でも、自分の周りの人のことでキレることはあるんです。最近では、東京ドームの小川─橋本戦の時がそうでした。小川と、その後ろの人に対して、あの時は久々にブチキレてました。ただ、手を出して突っ込んでいけなかったのは、一宿一飯の恩義がある佐山さんが僕の前に立っちゃったからなんですけどね」
結局、たまにキレても恩人がいたためまったく動かなかったというわけなのである。さすがだ!
そんなプロレス界でも数少ない常識人の山ちゃんは、「僕らが新弟子だった頃のプロレス界は、世間の一般常識と違うところにあったような印象なんです。でも今の新日本プロレスは、一般常識の中にあるプロレス団体という気がします」と語っているわけだが、昭和新日&UWF時代の非常識な男たち思い出の数々を見るだけでも、山ちゃんの気苦労は痛いほどわかるはずだろう。
なにしろ入門早々、姉の車に乗って合宿所に入れば前田がすかさず「お姉さん。お茶飲みに行きましょう!」とナンパ開始! 「お姉さん、早く逃げなさい!」と木村健悟が気を利かせてくれたおかげでなんとか姉は助かったものの、「よくウンコをする」先輩が「酔っ払ってタクシーで帰ってきて、ズボンを下ろしながら玄関を入ってきて、広間と更衣室の間の廊下を歩いていくうちに、ボトボトボトッて3か所ぐらい」ウンコを落としがちな合宿所では、到底気が休まるわけもないのである。なお、「その先輩は今、新日本プロレスの選手会長やってますけどね(笑)」とのことなんだが……。お前、平田だろ!
それに「高田さんとか仲野信ちゃんは(ピーッ)さんにケツ触られた」とのことでストロング小林の魔の手もすぐに伸びるし、過激な仕掛人・新間寿は「お前を日体大に入れて、体操部でちょっと練習させて、二代目のタイガーマスクにする」などと無茶な仕掛けを考え出すし、「一生に一回だけストリップを観に行った」らストロングマシーンこと力抜山が最前列で手相撲してるしで、これでは気苦労の多い山ちゃんの頭が徐々に薄くなるのも当然なのだ。
かくも過酷なプロレス界で頼りになるのは、やっぱり藤波社長に決まってる。ドン荒川が「辰っつあんほどのムッツリスケベはいないんだから!」と語っていた通り、「知り合いの人がやってる店でスッポンの鍋かなんかを食わせてくれて、そのあと(ピーッ)に連れて行ってくれ」たため、山ちゃんは「あぁ、やっぱり藤波さんはいい人だ」と思ったのだそうである。そんな御主人の風俗通いについては御存知でしたか、かおり夫人!
この状況はUWFに移籍してもあまり変わらなかったようで、「たまたま最初の試合のチケットが何十分かで売り切れちゃったと。そういう部分で戦略的なアドバイスをしてくれる人がいて、いつも『何分、何十分で完売だよ』っていうのをどんどん謳っていって、チケットが余っててもそれをやっていったんです」とチケット完売神話の裏側を暴きつつ、私生活でも一枚岩だった前高山時代の暴露へと突入していくのであった。
母親が部屋を掃除したら女子のパンツが2枚出てきて正座で説教される30過ぎの前田。「酔うと、しょっちゅう絡んでて、ヤクザに絡んじゃった時は大変でした」という高田。ついでに言えば、この2人と山ちゃんが六本木で飲んでタクシーに乗っていると、渋滞して止まっているボンネットの上を踏み越えて道路を強行横断する武藤敬司。
みんな文句なしの素晴らしさだが、最も重要なのは高田ファンの女子を安生の部屋に送り込んで「ファンなんです」と言わせたらどうなるのか、それを押し入れの中から前高山&組長が観察するという、明らかに『お笑いウルトラクイズ』の「人間性クイズ」でしかないエピソードなのであった。
どう口説くのかと思えば、いきなり「マッサージしてくれ」と女子に頼み、「なんか、まぶしいなぁ」とおもむろに電気を暗くして「下手だなぁ、こうやるんだよ。そこに寝てごらんよ」と下心丸出しのマッサージを始める安生。そこで前田らが押し入れから総登場し、「『スターどっきり秘報告』、大成功!」状態のまま話は終わったようだが、できることならUWF勢はこういう楽しげな関係であって欲しいものなのである(なお、「宮戸は前田さんの空手の弟子というか、弟分みたいな繋がり」だったとの衝撃情報もあり)。
きっと山ちゃんにとっても、3人で遊んでいたこの頃がよっぽど楽しかったのに違いない。
だからこそ「僕と前田さん、高田さんの3人が1つの場に揃うのは、公の場ではUWF解散以来なのかな。金原(弘光)の結婚式のパーティーがあって、そこで本当に久しぶりに会ったんですよ。その時の雰囲気がね、みんな酔っ払ってますから、昔に戻ってすごくいい感じだったんで。1月4日(引退式)は何も心配してなかったんですけどね。前田さんを殴る奴もいねえだろうし(笑)、高田さんに野次を飛ばす奴もいねえだろうってね」と、最後に泣かせる話をしてくれるから本当に嬉しい限り。だけど、『ファイト』でさえ伏せ字にしていた金原の結婚を大々的にバラしちゃ駄目だろ。これこそ、まさに「やまちゃんがいっちゃった!」というわけなのだ。
まあ、そもそも前田が先に『SAMURAI』の武藤の番組(最高!)にゲスト出演した際、「この前、ウチの金原の結婚式でね……」と思いっきり実名でバラしていた以上、もちろん山ちゃんに罪はない。結局は山ちゃんの持論通り、「前田さんは喋り過ぎ。高田さんは喋らなさ過ぎ」というわけなのである。それでもボクは前田派だ!

最狂超プロレスファン列伝 REVENGE COUNT.4
(徳光康之/まんだらけ)

最狂超プロレスファン列伝
徳光康之
REVENGE
COUNT.4
オール新作 描き下ろし
やりすぎたー!!

これまでリリースされてきたボーナストラック付きの復刻本に続いて、とうとう誰もが無謀だと思った完全描き下ろしの新作が登場! 元『クイック・ジャパン』の赤田祐一氏も入社した『まんだらけ』出版部、つくづく恐るべしである。
まあ、どうせ完全新作といっても崩壊後の地球で『週プロ』を発掘する話や、馬場が崩御した途端に馬場派を気取りだしたエセ馬場ファンに牙を剥く話など、他誌掲載の外伝も当たり前のように収録されるのかと思えば、これがまた文字通りの無茶苦茶な3巻の続編! つまり、プロレスではなくプロ柔道が栄えたパラレルワールド編を経て、猪木対馬場がマッチメイクされたオールスター戦を前に戦争が勃発した中で東京ドームにファンが集まり開演を待つという、明らかに後先考えずに高揚感だけ高めまくった最終回から先のドラマを7年ぶりに描く、文字通りの大完結編なのだ。
この構造自体にはいまさらながら『エヴァンゲリオン』を感じずにはいられないが、仲間と開演前にプロレス話をしていて「この時間が永遠に続いて欲しいなあ」と主人公が口にするのには『うる星やつら ビューティフル・ドリーマー』を、未来に跳ばされた主人公が巨大な猪木ブロンズ像に出会うのには『猿の惑星』だって感じさせるはず。
それでも、自ら作中へと登場するなりこの作品が「アンケートは常に最下位。単行本はまったく売れず、1年ちょっとで打ち切り」だったとさんざんボヤき、この仕事のおかげで数多くのレスラーたちに出会えたことにすら愚痴をこぼしていく徳光康之先生を見る限り、やっぱりこれは『エヴァンゲリオン』の最終回&劇場版なのであった。
「会わせてもらった相手が大物であればあるほど、ひとり自室に帰り着いた時に襲いくる寂寞感。自分とその大物との人間の大きさの格差に愕然とし、自分が何物でもない矮小な存在だと痛感させられる。この虚しさ、寂寞感、自己嫌悪、お前にわかるか」
こうして内面告白した後で「オレもうプロレスファンじゃないから。この漫画描く資格ないから」と言い残すと、そこから作品は「下書きだけの未完成原稿」になっていくのだから、ちょっと『エヴァ』にも程がありすぎ。まあ、続編の発売日が2か月ばかり延期されていたことから考えると、これは物理的な時間の無さをギミックに転化させたわけなのだとボクは思う。
果たして徳光先生は本当にプロレスファンを辞めたのか否か。ネット上ではそんな議論が盛んだったようだが、「人間は必ず死ぬんだな。あのジャイアント馬場ですら死ぬんだもんな。問題は死ぬまでに何を残せるかだ。馬場が今の全日を残したように。オレたちプロレスファンは何が残せる」というシビアな台詞を読む限り、まだまだ何かやってくれそうな予感は感じられるはずなのだ。
新作の一部に登場する、「プライドGPは……対戦カードはメチャクチャ面白いのに、試合内容がつまらなかっ……た……」と言い残して水道橋界隈で倒れ込む面々を目にして「おおっ、みんなプライドGPがおもしろすぎて失神してるのかあ」と呑気に語る「プライドシリーズ主催者・森下直人ファン、怒理蒸提示円縦面都」や「有邦大学プロレス研の彦浮法図」など、新キャラを取り込んだ更なる続編の刊行をぜひとも期待したいものなのである。頑張れ、まんだらけ!

初代KOK王者は“大穴”

無軌道な時代に本物の男たちが立ち上がった!!

ストーカー殺人!?
通り魔殺人!?

SECURITY
NEW JAPAN PRO-WRESTLING

本誌独占

ミスター高橋の

新日本プロレスリングセキュリティ

ボディーガード・アカデミー秩父合宿所

徹底リポート

取材&構成／中村カタブツ君（36歳）
text by Katabutsukun Nakamura

知識&実技編

これが新日本プロレスリングセキュリティのボディーガード・アカデミー秩父合宿の全貌だアァア!!

警備の基本はやはり警棒！　これは猪木さん的にいえば闘魂棒に値する万能棒であり、新日道場的にはコシティにも匹敵する重要かつ決しておろそかに出来ないものだ。使用法は相手の攻撃をかわし、ヒジを打つのが正しいやり方。攻撃に使用すると過剰防衛とみなされかねないので皆さん、使う時にはくれぐれもヤリ過ぎに注意。身辺警護では振り出し式のモノが使いやすい。

まずはガードの基本、闘魂棒ならぬ警戒棒を使いこなせ！

真剣な表情で打突動作を繰り返す、受講生たち。ワキを締めるように狙うのはヒジだ

警戒棒の実技指導をする滝沢教官。浅間山荘事件でも活躍した猛者だ

これが両手の構え。現金輸送車を守るガードマンの基本的構えである。なにがあっても守れ

これが警戒棒術の中段の構え。このほか、ガードの体勢として両手の構えもある

1月の半ば、各専門誌にやけに気になる広告が掲載された。「ボディーガード・アカデミー第二期生募集、新日本プロレスリングセキュリティ株式会社」。なんじゃそりゃ？　しかも講師がミスター高橋ことピーター、新日道場番長の藤原喜明&ドン荒川、そしてなぜか警視庁OBと豪華かつ不思議な取り合せ。さらに黒スーツをピシっと着こなしたピーターが4人の若者を従えて、道いっぱいになって歩く写真まで載っている。これってGメンだ！　ピーターの本気がビンビン伝わってくるぜ。もう行くしかない。

　だが、その前になぜピーターが『新日本プロレスリングセキュリティ㈱』という会社を起こし、ボディーガード・アカデミーを開講しようとしたのかが気になるところ。実はピーター、新日時代からボディーガードの組織を作ろうと考えていたのだ。プロレスラーの引退後の仕事として身体の大きさと格闘技術が活かせ、なおかつ社会貢献できるのはボディーガード以外なし、という発想なのである。アントンハイセルにも通じる発想を実現可能な方向に見事に軌道修正した画期的な事業なのだ。

　そしてピーターはその事業を立ち上げるため「警備員指導教育責任者」という国家資格を取得、さらに新日退社後は大手警備会社で教育部長を1年間に渡って務めあげて必要な知識と経験を得て、ついに夢を実現させたのである。

　ちなみに「新日本プロレスリング」の名称は、ピーターの個人会社にもかかわらず、その人柄と新日本への貢献度、会社の主旨を高く評価されて特別に使用が許されている。意気に感じるというか、男の仕事とはこうありたいものである。

　さて、いよいよボディガード・アカデミーである。2月11日から13日まで秩父の山の中にある合宿所（中学校の廃校を改造したもの）で行われたこのセミナーは受講生が8人。設立間もないのだからこの人数も致し方ないが、世間の注目度は抜群。多くの雑誌はもちろん、テレビからも取材申請を受けているのである。だが、受講生の邪魔になるという理由でピーターは断り。テレビに至っては「●テレビだけどさぁ、ビデオ資料ある？」ってな具合のあまりに横柄な態度だから一発で断ったというからさすがはピーター。かつて試合をボイコットしたブルーザー・ブロディと殴り合ったという気骨は健在だ。

　そんなピーターが11日の午前10

初代KOK王者は“大穴”

昭和の香り漂う木造校舎！ まさにここは秩父版・新日道場だ!!

中学校の木造校舎を改造した館内はとても趣きがあり、歩くとギシギシなる廊下は特に懐かしさ抜群。荒川&藤原という、いまでも腕白な新日道場の元番長たちを相手に思い切り汗を流すにはうってつけの場所であろう。

男なら女風呂のノゾキぐらい当然。猪木さんも佐山聡もドン荒川も新日イズムはあふれる男たちはみな、それぞれ抜群のノゾキ・ネタを持っていたものである。男の美学は可愛げにありだ。だが、女のあとをつけたり、盗聴などのカラッとしないやり口はいただけない。そんなチンケな男たちを駆逐するテクニックがこれだ！

マルチバンドレシーバーで盗聴器の周波数を特定し、発見器で場所の特定をしていく作業をピーターが解説。受講生たちは教室内に隠された盗聴器を実際に探すわけだが、これが難しい。かなり近くまでいかないと発見器が反応しないため根気がいるのだ。プロへの道は険しいのだ。

写真がわかりづらくて申し訳ない。右は爆発物を探す様子。下は拳銃を取り上げる動作を反復練習している場面だ

ストーカー対策もこれでバッチリ！ 盗聴器発見法を伝授！

アブダビ王子もこれで安心！ 要人を守り切れ!!

クライアントのピーターを守りきれ！ だが、馴れないと目の配り方も難しい

最後はなんと言ってもやっぱりIWGPならぬVIPの警護。写真ではわかりにくいが、クライアントが乗る車の底部を鏡で確認し、ドアの隙間にカードを入れて爆発物のコードがないかを慎重に調べていく。当然、カードを突っ込んだ時に爆発しないかという疑問もわくが、それは心配ご無用。異物に触れた瞬間に手を引っ込めれば問題なしだ。要は慎重にやれということ。また、クライアントを車へ誘導する場合の目の配り方なども教えていく。そんな時、受講生の一人が急遽、暴漢役となってクライアント役のピーターを狙った。不意のことにガード役の受講生はピーターを守れず！　寂しそうに「やられちゃった」とつぶやくピーターが印象的であったが、講義はこれぐらい真剣にやらねば意味がねぇんです。教室に戻ってからはナイフ、拳銃の対処法をピーターが伝授。受講生が扱うナイフやピストルを軽々と捌くピーターに、さすがは元新日レフェリーの感を新たにしたのであった。ピーター、さばかせたらやっぱり日本一！

受講生の一人、大川君が盗聴器の探索に挑戦。ちょっと時間はかかったが見事に発見してご覧の表情だ

これが電池式の盗聴器。いまやコンセントの中に仕込んだり、ぬいぐるみの中に仕込んだりと隠し場所も高度になっている

発見器を持って盗聴器の探し方を実地に指導するピーター。床を叩きながら音を拾うなど地道な作業なのである

時、新日ジャージを羽織って教室に入ってきた。緊張する受講生を前にしてピーターは開口一番「実はこの辺りではいまだに山賊が出るんですよ」と語り始めた。

これは講義の前ふりなのか？ ピーター一流の謎かけなのか？ キョトンとする受講生たちにさらに「ウソじゃないんですよ」とたたみかけたピーターは「去年までアベックを襲って金を取っていたんですね。あとは猿が多い。猿の大群は怖いですよ。まぁ、そのぐらいここは環境のいいところですね」と笑ったのだ。どうやら緊張をもみほぐす会話だったようだが、初っ端から〝山賊〟〝猿の大群〟という言葉を聞いて、いきなり尻の穴に指を突っ込まれた感じ。まずは最初に潰すという新日道場論がここでも爆発したのである。凄いぜ！

こうなればあとはピーターのペース。ボディーガードの意義をきっちり語って、この後、警視庁OBの滝沢教官を迎えて刑法についての講義&警戒棒の実技（別項）と流れはスムーズ。当然、受講生たちは熱心にノートを取り、僕なんかにしてみれば専門的過ぎる内容にしても、受講生たちにとってみればまだまだ足りない様子。実際、受講後に話を聞いてみると「もっと刑法を知りたい」と熱く語るのだ。午後からはドン荒川の護身術講義（別項）が開講されて一日目は終了。

翌日は午前9時から講義。新日ジャージを背負って教室に入ってきたピーターは開口一番「実は私、強盗をしたことがあるんですよ」とんでもないことを言い出す。だが、これは警備会社時代の模擬訓練（ただし抜き打ち）で強盗役をしたという話なのだが、前日同様、人を引き付けるためのインパクトに趣向を凝らす姿勢はやはりプロレスに通じるのである。もちろんこの後は警報機の種類や構造、警報が入ってからの警備員の動きなどについてきっちり教授するのだから心憎いばかり。午後は盗聴器の発見法の実技（別項）を行い、2時からは藤原喜明の実技（別項）となって2日目も終了。

最終日はいよいよ要人警護の実技となる。午前中はクライアントが乗る車の安全を確保する方法（別項）、午後は対ナイフ、対ピストルのさばき方をピーター自身が講義。タイガージェットシンの試合を捌いていた時が一番充実していたと著書『プロレス、至近距離の真実』でも語っていたピーターにとって凶器攻撃をさばくのはハッキリ言ってお手のモノ。具体的にはナイフに対しては距離を取り、ピストルは一気に近付く法が安全と語る。しかし、ナイフはともかくピストルまでとは。だが、プロレスラー時代に東南アジアを一人でサーキットした男であったことを思い出し、修羅場のくぐり方が違うことを実感。

持てる知識と経験を残らず伝えようと真剣なピーターと、それに応えようとする受講生たちの姿は誰も出来ないこと、誰もやらないことを夢としてそれに挑戦するロマンにあふれていたのである。

格闘技編

受講者たちの悲鳴続出！ボディガードなら身体を張ってみろ!!
トンパチ魂を受け継げ！ 新日道場の凄味をまとった二人の強者がついに登場

このページではドン荒川＆藤原喜明という昭和新日の元祖トンパチマシンガンズが徹底教授した格闘実技講座の模様をまとめて伝えたい。

道場破りが来た時は必ず、この二人のどちらかが相手をしたという伝説の男たちがこの時に使った超実戦的な技の数々と、なにものにも後ろを見せないという精神をたたき込んだ。

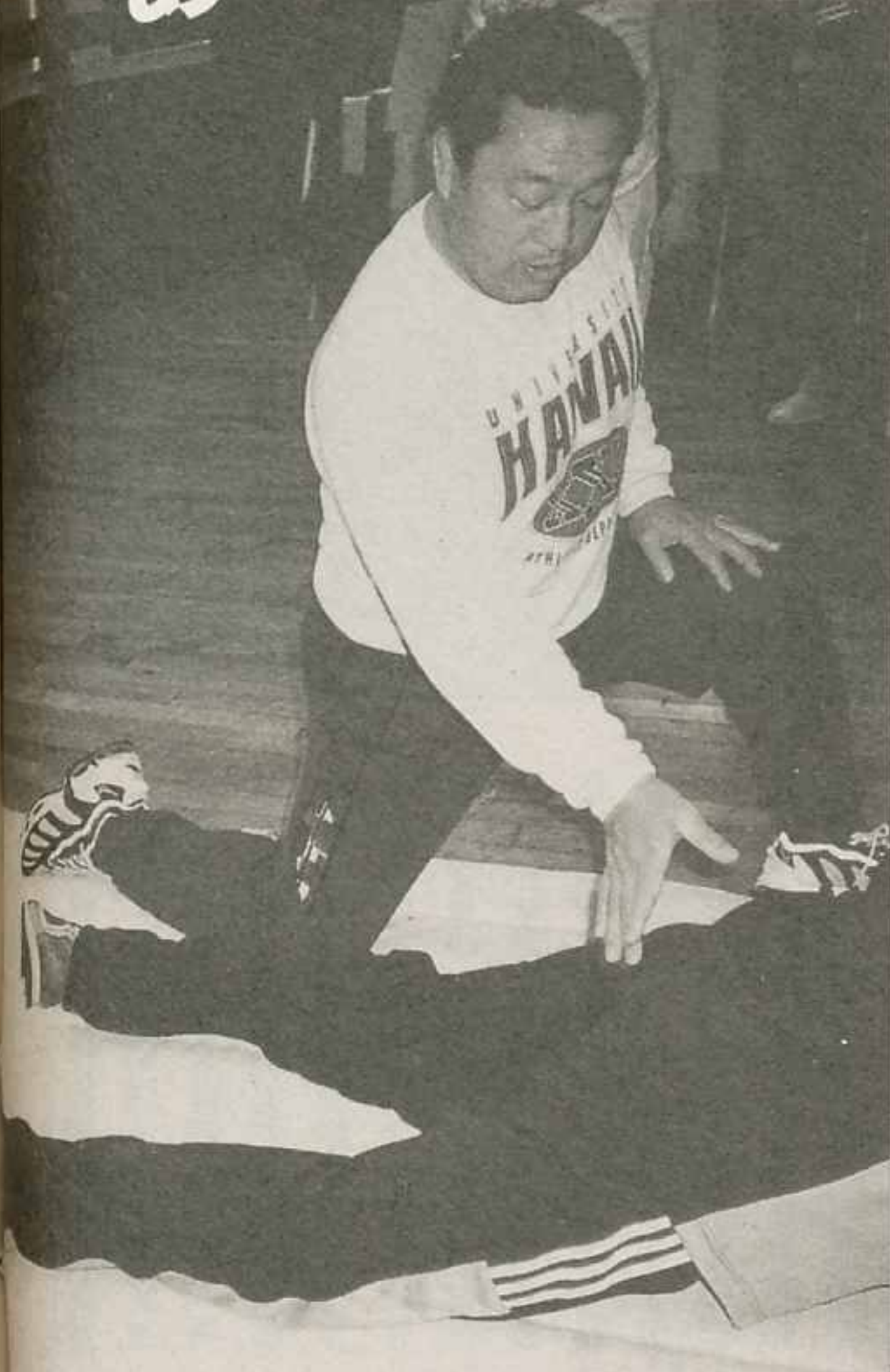
具体的には荒川が指関節などの裏技と新日式の体力増強運動を中心に教え、藤原は長年培ってきた関節技の極意を身体で伝えていく。

受講生たちはヘトヘトになりながらも、二人のシゴキにも似た可愛がりについていったのであった。

ドン荒川が新日式基礎体力養成法と、あの裏ワザを初公開！

ご覧とおり。いつでもどこでもドン荒川はお茶目である。このノリの良さで受講生は知らないうちに身体がこなれていく

ムネを出して受講生の打ちかましを受ける荒川。さすがに毎日40キロも走ってるだけのことある。ともかく頑丈だ

荒川のひょうきんぶりが爆発した講義は、この写真と上の写真を見てもらえばわかると思う。よくしゃべって元気

出たァァァァ！ カンチョウ攻撃まで実技指導の中に取り入れるドン。サービスありすぎです

2月11日　PM2:00 ドン荒川先生到着

「レスリングでは反則技になるんですけどねぇ」と言いつつも「今日はそれを教えます！」と力強く宣言した荒川先生。受講生の一人に後から羽交い締めにするよう指示し、「こういう時には」と言ったが早いか、次の瞬間に受講生の手は解かれていたのである。一体何が起こったんだ！　実は小指を逆にひねるという至極単純な技なのだが、やはり荒川。その後のバリエーションが素晴らしいというか。指を取ったままタマを蹴るのは当然で、後ろに回っての攻撃はあの尻の穴に指を突っ込む“カンチョウ攻撃”なのである。そして最後は「タマを蹴ったらタマらない」「だけどオカマだったらおかまいなし」とのダジャレでシメる大サービスぶりなのだ。もちろん差し合いからの崩しやタックルの入り方など基本的な格闘技術も伝授。最後は体力増強にはこれ以上ないというほど効果的な新日名物“ラインダンス”まで教えてくれるのだ。これは「オリンピック選手でも3分できないハードな練習」であり、「3キロ走ったと同じ」という地獄の特訓。もちろん新日道場に比べればはるかに軽いメニューではあるが、2時間みっちりの練習で受講者たちはすっかり満足気。というか、翌日までしっかり筋肉痛が残る特訓であったのだ。

これが新日名物ラインダンス。アラン・ゴエスの技をいち早く吸収していた新日はグレイシー・トレインまで会得し、体操にまでしていたのである（嘘）

【メニュー】
基礎体力（スクワット、ジャンピングスクワットの正しいやり方など）、後ろから前から羽交い締めにされた時の解き方などの護身術、差し合いの制し方、タックル、新日式基礎体力法（ラインダンスなど）

初代KOK王者は“大穴”

いまやJPWAの監督兼コーチでもある藤原喜明。その技術の蓄積はほんの一端を披露しただけなのにわかりやすくて応用技も豊富なのである

2月12日　PM2：00
藤原喜明先生が到着

昨日のドンの特訓が「笑いの中にも厳しさあり」というものであるなら、この日の藤原特訓は「厳しさの中に悲鳴あり」というもの。はっきり言ってゴリゴリいわされたわけである。「関節技の構造を教えよう」という藤原先生は受講生の一人をマットに寝かせるといきなりクロックヘッドシザーズ！　初っ端から高度な技を繰り出して度胆を抜くのだからつくづくプロレスラーである。もちろんこの日最初の悲鳴がここで聞かれたわけで、この後もアキレス腱固め、ヒザ十字、腕ひしぎなどが展開されて悲鳴が絶えることなしなのだ。ここでもポイントとなるのが指や手首の関節を極めながら相手をコントロールすることであり、護身術としての関節技がこの辺にあることを受講者たちは身体で理解していくのである。この後は質問コーナーとなり、受講生の中には自らヒザ十字やクロックヘッドシザーズをかけてもらって悲鳴を上げる勉強熱心にもほどがある強者も出現。また、三角絞めをかけられた受講生は1秒もしないうちに落ちてしまったのだから凄すぎる。

藤原自身が言う通り、2時間の間に関節技をマスターするのは当然無理なのだが、受講生たちは一つでもいいから技を身につけたいと体当たりで向かっていったのだった。

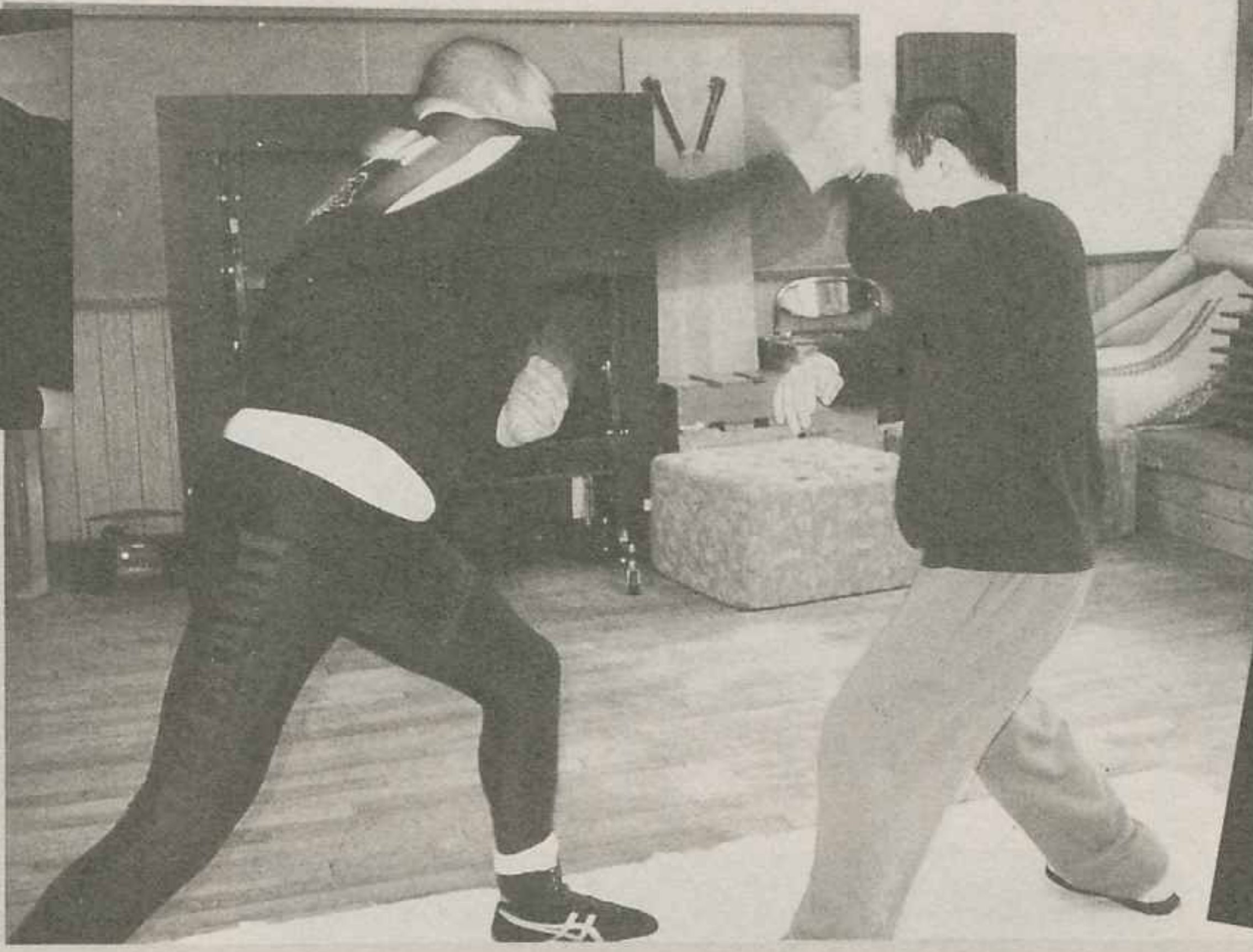
関節技は練習の時に3割ぐらいの力で極められないと実戦では使えないという。実戦の時は必死の力が出るので普段よりも力が出るのは当然。だから、練習の時に3割の力で極められる技術を身につけなければならないのだ

ねっちり＆ピッチリと関節技を極めていく藤原。足を極めれば次は手、その次は首と流れるようにしかも密着感抜群な動き。使い古された言葉であるが、芸術である。これぞ、まさに格闘芸術だ

藤原が軽くスリーパーをかけただけなのだが、受講生の顔はホントに苦しそう。だが、見ている人間はついつい笑顔になってしまうのが、こういう場面。「ガマン、ガマン、ガマン。タップはまだ早いよォー」

藤原喜明は関節技をみっちり指導。そして恐怖のスパーリングが始まった……

技の解説をしていて突然、スパーリングが始まった。藤原は空手家を習っているという受講生を相手に打撃でも圧倒。

悲鳴続出となった講座をよく表わす表情だ。身体が大きい彼は人一倍、練習台にされていた。光栄なことです

【メニュー】
裏技も含めた関節技実技、スパーリング、関節技の解説

新日本プロレスリングアカデミー・ちゃんこ大会&食事風景

今夜は無礼講!

激しくて楽しく、笑いの中にも悲鳴が交じったボディーガード・アカデミー。そんな極上のひとときを過ごした受講生たちにとってやはり夕食は楽しみだ。しかも、そこには昭和の新日イズムを伝えるドン荒川、藤原喜明がいるのだから盛り上がらないはずがない。

まずは元祖トンパチ、ドン荒川だ。やはり最初は話しにくそうにしてる受講者たち。だが、プロレスファンの一人が「こういうことを聞いたら失礼かと思うですが……」と言った途端に「あなたね、失礼なんて言っちゃダメ。そういうのはバンバン出さきゃ、もう吐け吐けって、ズボン履くんじゃないけどドンドン聞いてよ。答えるんだからさ」とフランク。これで気を良くした受講者は「新日本の選手はタックルも殴り合いもグラウンドの技術も練習してきたんですか」とズバリな質問。対するドンは「あのね、あれは練習じゃなくて喧嘩なの。道場の中でみんなで喧嘩してたのよ」と言ってイワン・ゴメスとの道場マッチの話（「確かにうまかったけど、覚えたら簡単!」）や、そのゴメスをクチャクチャにしたルスカの話を披露する。また、酒の話になると現・パンクラスの船木誠勝が泣き上戸であり、かつまたドンは普段、船木のことを〃一夫〃と呼んでいたそうだ。もちろん舟木一夫のダジャレだが、最近会った時にも「一夫!」って呼んだら「ハイ!」と返事をしたという。船木よ、新日魂を忘れてなかったじゃねえか。プロレス界を背負ってヒクソンと闘う船木のちょっといい話だ。

翌日夜は藤原喜明の登場。やはり前日同様新日時代の無頼かつ可愛げのある男たちのバカ話が爆発。中でも前田日明話はやはり抜群だ。公園で宴会中、酔った前田はピーターにそそのかされて藤原を池に突き落とし、怒った藤原は前田をボコボコに殴りつけた。だが、前田は血を吐きながら笑いだし、結局殴る方も殴られる方も笑いっぱなしだったというから、たまらなく素敵だ。さらにピーター&藤原は巨人症のオカマからのラブレターを捏造して前田に送りつけ、これを前田が真に受けてピーターに相談にきたというのだから、なんとも前田らしい。さらにちょっと泣かせる前田話をもうひとつ。Uの分裂後3年ぐらいしてから一度、藤原は前田からの電話を受けたという。藤原の実家の岩手で地震があってちょっと心配だったという内容だった。たった6秒ほどの間だったが、嬉しかったと藤原は語ったのである。

また、藤原は練習について「私は根性って言葉が大嫌い。楽しくやるように、そういう風に考えないとやり抜けない」と語り、ピーターも「根性で頑張れるのはせいぜい3年。頭の中で楽しいことを考えて、楽しい社会を作っていかないとやっていけません」と。

楽しくやるためには自分で自分を律することなのであろう。自分の身は自分で守ることにも通じ、この考え方が源流となってピーターは新日セキュリティを始めたのかもしれない。要はいかに楽しく生き抜くかなのだ。

新日道場に伝わる特製キムチちゃんこを作るピーター。一気に20人分を作ったのだが、受講生たちは何杯もおかわりしてすぐになくなってしまう

これはドン荒川の昼食風景。この後に実技講座があって小食にしているがやはり、メシを何杯もお代わりする。どこが小食なのか？

講義前に軽い昼飯を食べる藤原。おしんこ好きの藤原は山盛りのおしんこをバクバク食う。飽きないのかと思うが、その様子はみじんもなし

ちゃんこを食べては、ごはんを盛り、再びちゃんこを食べてはごはんを盛る。そして最後はちゃんこにうどんを入れて、それまでキレイにいただくのである

What a relax night

初代KOK王者は“大穴”

新日本プロレス セキュリティの**意義**とは?

こんな狂った世の中だから
自分の身は自分で守れ

混沌とした世の中に芽吹こうとしている新プロレス!

(17)　平成11年(1999年)12月23日(木曜日)　東京スポーツ

京都の小学校校庭惨殺事件

刃物持ち乱入　小2男児の首か

犯人は「酒鬼薔薇」

(19)　平成12年(2000年)2月8日

電波子ストーカー疑惑

「同じマンションに友達が住んでいるだけ」

殺しの報酬1000万円

本部長 懲戒免職

通学途中の小学生が刺され、通勤途中の女性が殺されるなど、完全に一線を越えた路上襲撃がはびこる現代。たとえ、命の危険がなくとも、お笑いタレントとカラオケに行っただけで野菜スティックを尻の穴に差し込まれてしまうのだから、まったくシュートな世の中になったものである。その一方、頼りの警察も不祥事続きで当てになりゃしない。

結局、ボディーガードを雇うことも含めて自分の身は自分で守れという世の中になってしまったのだ。

そんな中で、佐山聡が要人警護を武道という枠組みの中に組み入れて●圏道を発足させ、ミスター高橋は新日本プロレスリングセキュリティを設立して警備全般の人材の育成とビジネスを立ち上げようとしている。時代の流れに敏感に対応するプロレス界は10年先を見据えて動き始めたと言えるだろう。

実際、ストーカー撃退を専門にする警備会社もすでに何社か存在し、1日20件以上の問い合わせがあるというのだから思った以上に危険は身近。1日8万円というのがボディーガードの相場のようだが、警備会社の増加によってその単価は下げられることになり、映画の世界の出来事と思っていた身辺警護がいい意味でも悪い意味でも庶民に手が届きやすくなっていくのだろう。

いまはまだ、安全な時代ではあるが、世の中が乱れ、混乱した時こそ、ミスター高橋の出番!!

格闘技の原点回帰がこんな形で実現されてしまうのは残念に思うのだが、現状を考えればこの流れも必然といわざるえないのだ。

だが逆に格闘技が確立されることによって、その流れにくさびを打ち、世間に貢献することもできるわけである。終生、大衆に尽くすという猪木イズムの遺伝子はリングを離れても綿々と受け継がれていくのである。

プロレスと世間とのリングが新しい形で始まろうとしている。

新たなプロレスがここにも芽吹こうとしている。

そのためにもミスター高橋よ、突き進め!

次号、ピーターパワー降臨予定!

さて、次号では新日本プロレスの元レフェリーにして、外人担当のミスター高橋ことピーターが登場予定 ボディービル初代全日本チャンピオンであり、プロレスラー時代は東南アジアを一人でサーキットしたこともあるピーター 数々の外人とのエピソードや新日道場のロマンあふれる話などをたっぷりお聞かせ願いたいのである 期待してほしい

初代KOK王者は"大穴"

ダン・ヘンダーソン

リアル・アメリカン・ヒーロー

Dan Henderson

聞き手／堀江ガンツ　interview by Gunts
撮影／森鷹博　photograraphs by Morry

「それではシドニーでお会いしましょう」

田村のグレイシー狩り、コピィロフの大ブレイクなど、数々のドラマを展開し幕を閉じたKOK。この予想困難なトーナメントで、下馬評では"大穴"と言われながらも見事に優勝を果たしたダン・ヘンダーソン「リングスやUFCは趣味でありアルバイト」と公言するこの男、心はすでにシドニー五輪に飛んでいるようである。そんな帰国直前の彼をホテルの部屋で掴まえることに成功。気になる今後のプランを聞いてみた。

ボクの優勝は、ワイフですらなかなか信用してくれなかったんだよ（笑）

—優勝おめでとうございます！

ダン （ニッコリ笑って）ありがとう、本当に嬉しいよ。（『紙プロ』22号、ヘンダーソンのページを見ながら）こんなにボクを大きく扱ってくれてたっていうことは、ボクの優勝を予想してたのかい？

—と、当然です！ ……でも、本当のこと言えばまさか優勝するとは思ってもみませんでした（笑）。

ダン それは随分、見る目がないね（笑）。ボクの今までのUFCでの試合や、レスリングの実績を見れば誰が優勝するかは容易に予想できたはずだよ。

—それは失礼しました（笑）。そんなわけで僕らも急遽インタビューのオファーを出したんですけど、ヘンダーソン選手がなかなか捕まらなくて苦労しましたよ。試合後はどこへ行っていたんですか？

ダン （即座に）ロッポンギ！

—アハハ！ やっぱり六本木でしたか（笑）。かなりの量のお酒を飲まれたんですか？

ダン 優勝した晩ぐらいはね（笑）。ランディ（・クートゥアー）とトレーナーを連れて大いに盛り上がったよ（ニッコリ）。

—普段はあまり飲まないんですか？

ダン ほとんど飲まないね。身体が資本のアスリートとしては当然だろ？

—まあ、KOK出場選手の中には浴びるように飲む選手もいるようですけど（笑）。ところで六本木ではやっぱりクートゥアー選手たちに、優勝賞金でおごったんですか？

ダン いや〜、3人だけにおごるんだったら、どうってことないんだけど、偶然ブラジル人の連中に遭遇しちゃってね（笑）。

—アハハハハ！ ブラジル軍団にもおごるハメになっちゃったんですか？

ダン そうなんだ、それにあいつらは取りまきがやたらたくさんいるんだよ（笑）。しかも次の日の晩もホテルのボクの部屋まで訪ねてきてさ、とんでもない連中だよ（笑）。

—アハハハハ。それは災難でしたね（笑）。田村（潔司）選手はそうならないように事前に「優勝しても一切おごりません！」って宣言してましたよ。

ダン 彼は実にクレバーなファイターだね（笑）。

—もう奥さんには優勝を報告したんですか？

ダン ああ、優勝が決まった夜にすぐ電話したよ。でもボクが優勝したことを全然信じてくれないんだ（笑）。

—奥さんにとってもダークホースでしたか（笑）。

ダン 困ったモンだよ（笑）。でも、ワイフはボクの結果が気になって眠れなかったらしいんだ。彼女も今はすごく興奮しているよ。

—もう、プレゼントのおねだりとかはされましたか？

ダン いや、信じてくれたと思ったら、次の瞬間はもうどこに投資するかっていう話しになってたんだよ（笑）。ワイフには賞金が一番のプレゼントみたいだね（笑）。娘にはさすがにお土産がお金というわけにはいかないから、日本人形を買って帰るよ。

抜群の結束力でヘンダーソンを優勝に導いた「リングマスターズ」。盟友ランディ・クートゥアー（左）は「来年のKOKにぜひ出場させてもらいたい。ダンに賞金を独り占めさせるわけにはいかないからね。もちろん自信はあるよ」と早くも来年のKOK優勝を宣言。

—稼いだお金は妻の手に渡ってしまうのは、どこの国でも同じなんですね（笑）。ところでKOKは出場してみていかがでしたか？

ダン タフなトーナメントだったよ。特にグランドファイナルは3試合闘わなくてはならなかったから、自分をコントロールするのが大変だったね。

〜ここで部屋の電話のベルが鳴る〜

ダン またワイフからお金の話しかもしれないな（笑）。ちょっといいかい。

（ヘンダーソンが電話にでたためしばし中断）

ダン やっぱり、ワイフからだったよ（笑）。どこの銀行に預けるかとか、どこに投資するとか、そんな話ばかりさ（笑）。

—賞金はすでに奥さんの手に渡ったも同然なんですね（笑）。話がそれましたけど、グランドファイナルに残ったアメリカ人は結局ヘンダーソン選手ひとりでしたが、「国を背負う」という意識はあったんですか？

ダン オリンピックのときもそうなんだけど、国歌を聞くとやっぱりそういう気持ちになるね。

—ああ、決勝戦のときに国歌が流れましたよね。

ダン そう、国歌を聞くと自分を鼓舞することができるよ。

—会場のムードはどうでしたか？

ダン なんと言ってもファンが素晴らしいのと、あとはあんなにたくさんの観衆が集まったことに驚いたよ。あの中で優勝して祝福されたら自分が偉くなったようで最高の気分だったね。

—なんてったって「キング・オブ・キングス」、「王の中の王」ですからね（笑）。

ダン ホントに王様になった気分だよ。王冠みたいなものも被せてもらったしね（笑）。

—ああ、ウイニング・ローレルですね。

ダン いままでメダルは数え切れないほどもらったけど、あんなのは初めてだったから嬉しかったね。でもそれ以上にファンの声援が嬉しかったよ。

—一夜にしてニュースター誕生ですからね。ヘンダーソン選手はマスクもいいから、きっと人気が出ますよ。今度日本に来たら、ファンの女の子がホテルまで押し掛けてきたりして大変なんじゃないですか（笑）。

ダン イッツ・オーケー（笑）。でもファンだと思ってドアを開けたら、またブラジリアンだったりしてね（笑）。

—アハハハハ！ またおごらされちゃって（笑）。

ダン よく確認してからドアを開けないとね（笑）。

—ところでこのへんで全試合を振り返ってほしいんですけど、まず、ギルバート・アイブル戦はどうでしたか？ 腕十字やギロチンチョークを信じられないような方法で逃げられてしまいましたけど。

ダン 彼はロデオの牛みたいな男だね（笑）。あいつを捕まえられるのはレスラーかカウボーイだけだよ（笑）。だから勝因は彼の打撃より、ボクのグラウンドに引きずり込むテクニックが勝っていたっていうことかな。それにボクも打撃の練習は十分に積んできたからね、彼もボクのボクシングテクニックには驚いていたんじゃないのかい。

—ボクも試合開始早々の右ストレートには驚きましたよ。準決勝の（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラはいかがでしたか？

ダン まず驚いたのは、彼のリーチの長さ。あんなにリーチの長い選手は初めてだよ。

——アハハハハ！ ブラジル軍団にもおごる

がにお土産がお金とい

たことに驚いたよ。あ

あんなにリーチの長い選手は初めてだよ。

リングスに戻るかはルールによる
ロープエスケープはクレイジーさ

——噂によるとノゲイラはリーチだけじゃなく、下半身の方も大変な長さらしいですけどね（笑）。

ダン ハハハハ。それは見たことがないからわからないなぁ（笑）。とにかく彼のテクニック以上に身体のつくりに驚いたよ。

——では決勝戦のレナート・ババルはどうでしたか？

ダン 正直、ローキックは効いたよ。でもそれ以外は特に問題のない相手だったね。グラウンドではボクの方が勝っているし、スタンドでもパンチをかなり当てることができたからね。

——ヘンダーソン選手は準決勝ではバテバテに見えたのに、決勝で元気ハツラツなんで驚きましたよ。

ダン 元気に見せてただけでホントは決勝戦もバテバテだったさ。でも目の前に賞金がぶら下がってたからね、疲れたなんて言ってられないよ。「あと一回勝てば20万ドルだ」って身体に言い聞かせたら、あの日で一番いい動きができたよ（笑）。

——ニンジンパワー恐るべし（笑）。では、今回のKOKで闘ってみて一番強かったのは誰ですか？

ダン う～ん、みんなそれぞれ違う強さを持った選手だからね、誰が一番とはやっぱり言えないよ。

——では強さではなく、ヘンダーソン選手が一番やりにくかった選手は誰ですか？

ダン やっぱりノゲイラになるんだろうね。でも彼が他の選手より強いと言うよりも、ボク自身の問題で、ノゲイラ戦の時が一番試合の準備ができてなかったということだよ。

——2回戦で当たった金原（弘光）選手はどうでしたか？

ダン アグレッシブにどんどん攻めてくるタフで強いファイターだね。ボクが勝てたのは、彼の打撃よりボクの打撃の方が間合いとタイミングで上回っていたからだと思うよ。

——金原選手は「次にやったら絶対に勝てる。すぐにでも再戦したい」って言ってますけど、どうですか？

ダン 彼には残念だけど、すぐの再戦はムリだね。ボクはこのあと4月に全米選手権、6月にオリンピック選考会、そして9月にはもちろんシドニー・オリンピックがあって忙しいんだ。だから彼と闘うのは早くてもそのあとだよ。彼にはそれまでボクに勝てるようにトレーニングに励んでいて欲しいね。

——ということは、田村選手との夢の対決も、オリンピックが終わらないと見れないわけですね。

ダン タムラとはウェイトも近いし、いい試合になると思うよ。でもオリンピックが終わらないと何も言えないね。

——まだ五輪出場は決定はしてないわけですけど、出場する自信は当然あるわけですか？

ダン ああ、もちろんあるさ。ボクは3度も全米ナンバー1になってるんだよ、当然今回も優勝を狙うさ。

——オリンピックが終わったらリングスに戻ってきてくれるんですよね？

ダン おそらく戻ってくるだろうけど、それはミスター・マエダと話してからだね。でもひとつ言えるのは、ボクがロープエスケープのあるルールで闘うことはないということ。あれはクレイジーなルールさ。ホントはUFCルールが理想だけど、KOKルールだったらリングスで闘うことに問題はないよ。

——これからリングスはKOKルールでやっていくようですよ。

ダン リングスが世界に認められるためにも、そうしたほうが絶対いいよ。

——では来年もKOKが開催されるらしいんですけど、出場する意志はありますか？

ダン 来年はランディに任せるよ。彼もそうとう賞金が欲しいみたいだから、絶対優勝だね（笑）。ボクはセコンドでいいよ。

——そんなこと言わないで出てくださいよ！

ダン でもホントにいまはオリンピックのことしか考えてないんだ。

——来年は賞金が上がるという話しもあるんですよ。

ダン それを早く言ってくれよ（笑）。

——アハハハハ！ そうなると来年のトーナメント決勝でクートゥアー選手と闘うということもあり得ると思うんですけど、勝つ自身はありますか？

ダン もしランディと闘うようなことになったら、ボクは棄権するよ。それかコイントスで勝敗を決めるね。優勝賞金は山分けで（笑）。

——決勝戦がコイントスで決まったら、観客は怒るでしょうね（笑）。

ダン まあ、実際の話ランディと同じ大会に出場することはないよ。ベスト・フレンドを殴る理由なんてないしね。

——やっぱり試合と割り切っても殴れないものなんですか？

ダン まあ、殴れないって言っても、練習では毎日、思いきり殴ったり蹴ったりしてるんだけどね（笑）。でもホントにいまは、オリンピックに集中したいんで将来的なプロでの闘いは実はまだ何も考えてないんだ。

——でも、ヘンダーソン選手の試合が1年後まで見れないのはホント残念ですね。

ダン ファンにはTVでオリンピックでのボクの闘いを見てほしいよ。ボクを通じてレスリングに興味を持ってくれたら嬉しいね。

——考えてみたらヘンダーソン選手やクゥートゥアー選手、アレキサンダー・カレリン選手がシドニーにでたら、すごく興味がわきますね。それでは、是非オリンピックに出られるように頑張って下さい！

ダン ありがとう、来年また会おう！

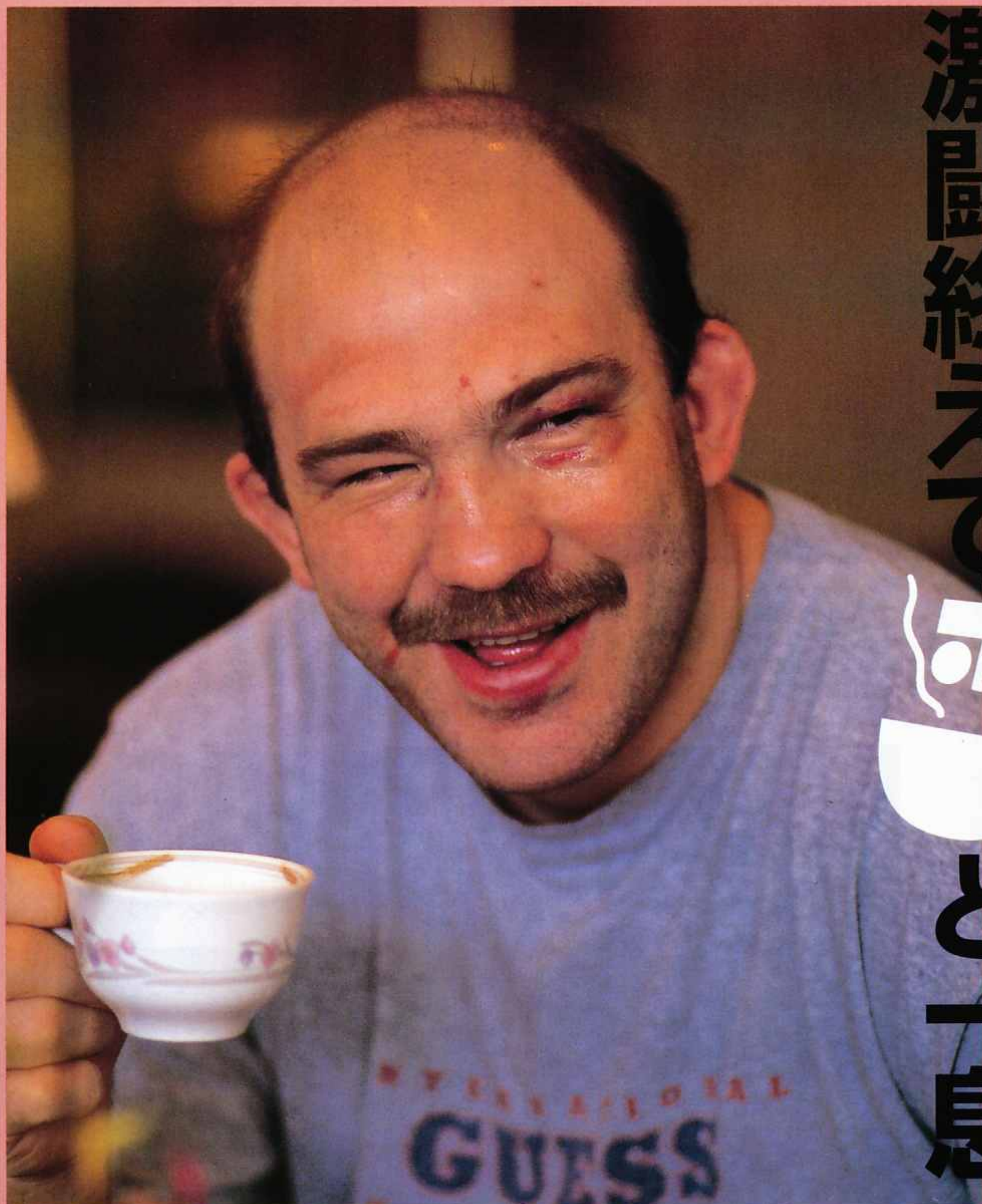
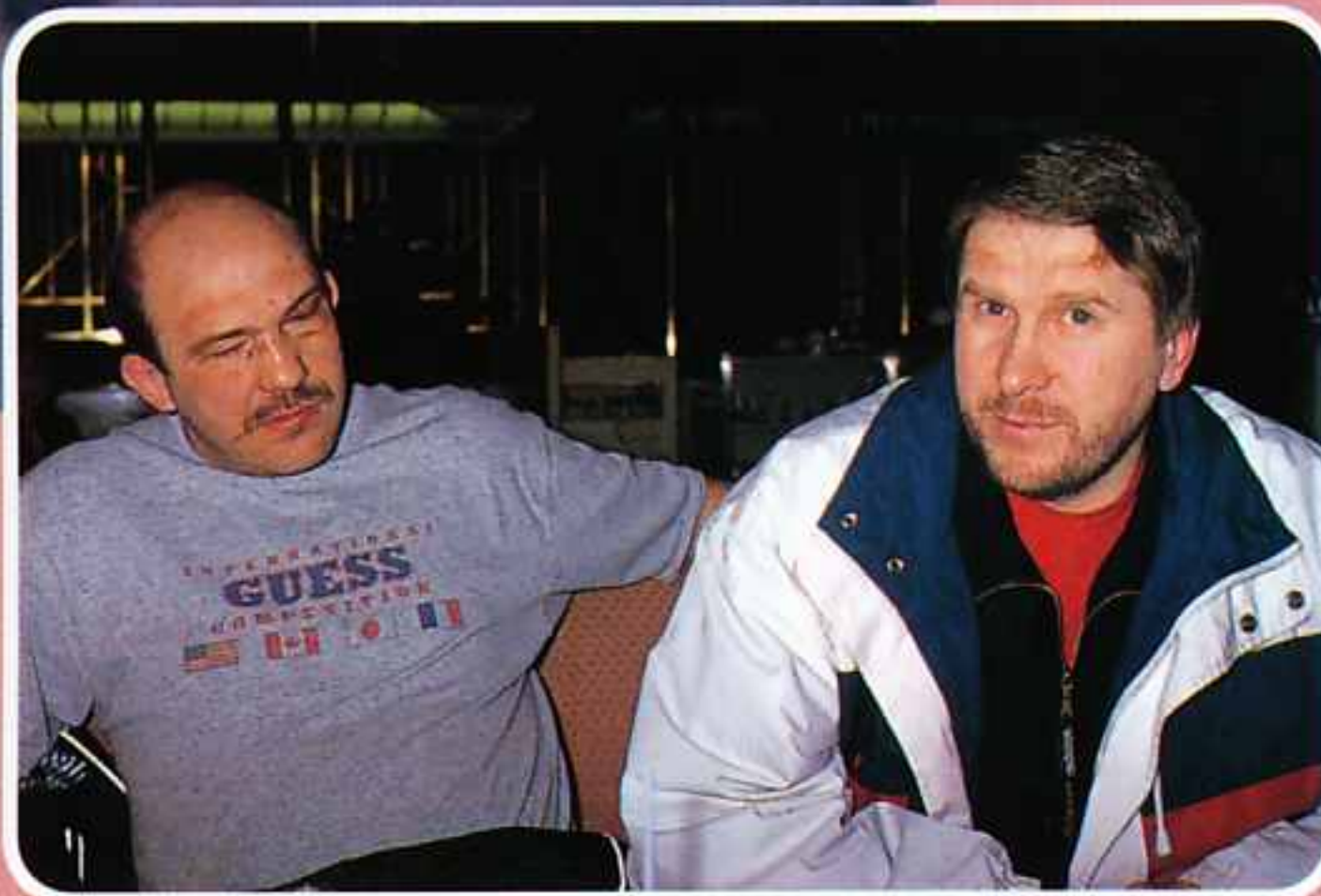
【00年2月29日都内某ホテルにて収録】

P L O F I L E

ダン・ヘンダーソン　1970年8月24日、アメリカ・カリフォルニア州出身。身長180cm、体重90kg。グレコローマン・レスリング82キロ級で、バルセロナ、アトランタ、と2度オリンピックに出場。VTでも97年にブラジル・オープンファイト優勝、98年には強豪アラン・ゴエスらを破りUFCミドル級トーナメント優勝し、現在フリーファイト無敗。はらたいらに似ている。

リングス ロシア勢続々登場!!

2・26KOK激闘終えてホッと一息

この取材は当時、ミーシャとコピィロフのダブル・インタビューの予定であったのだが、ハンが乱入したり、ズーエフがやってきたりと非常に面白い流れになってしまったので急遽コピィロフを主役にロシアの生活などについても聞いてみました〜。

第1部　ミーシャ&コピィロフ
KOKの闘いを語るはずが…

第2部　ズーエフ&コピィロフ
ロシアンビジネス頂上対談

聞き手／中村カタブツ君
interview by Katabutsukun Nakamura

撮影／斉藤ユーリ
photograraphs by yuri Saitou

リ・ン・グ・ス ロシアンティールーム

〜傷だらけの男たちが集う朝のティータイム〜

オハヨォーゴザイマス

第1部
2月26日、リングス『KING of KINGS』の激闘を終えたコピィロフとミーシャ。昨年の同大会予選ではサンボ人気が爆発して注目された二人だが、残念ながら今回はともに1回戦負けとなってしまった。このインタビューはその激闘の翌朝、まだ顔の傷跡も生々しい中で、KOKやロシアでの生活などを聞こうと思っていたのだ。だが、コピィロフがいい意味でも悪い意味でもあまりにも凄すぎたのである。

——飲み物は何にしますか。

ミーシャ　僕はコーラです。

コピィロフ　オレはビール！

——いきなりですねぇ（笑）。

コピィロフ　ロシアなら、今頃はウィスキーとウォッカを混ぜて飲んで、水の代わりにシャンペンで口をすすいでいる時間だ（ニヤリ）。

——さすがはロシア人って感じですねぇ（笑）。

ミーシャ　あのぉ全部、冗談ですよ（笑）。

——は？

コピィロフ　クックック。コーヒーとコーラ、そしてケーキを食べていいか。

——はぁ？　わかりました？

（ここで突然、いきなり朝から元気なハンさん登場）

ハン　オハヨォーゴザイマース!!（元気良く）

——あ！　おはようございます！　ハンさん、いまからミーシャさんとコピィロフさんにインタビューするんですけど、一緒に入っていただけませんか。

ハン　オレはいまから妻と食事するんだよ！（元気）

——それじゃあ一つだけ、昨日のミーシャさんの試合はどうでしたか。

ハン　（力強く）非常に悪い！　あんなのはミーシャじゃないぞ。あれだけ練習してきたのに、なんで試合であんなに固まってしまったのか、まったくわからん。昨日はミーシャのブラック・デーだった。もういいか？　それじゃあ、オレは食事に行くから（笑）。アリガト、ゴザイマシタァー!!

（と言って元気良く去っていくハン）

コーヒーとコーラ、そしてケーキを食べていいか？（コピィロフ）

——えーと……ハンさんはこう言ってるわけですが、ミーシャさん的にも同じ思いですか。

ミーシャ　……ハン先生の言う通りです。普段の力が出せなかったんですが、その理由がまったくわからないんです。おそらく20万ドルのプレッシャーがかかり過ぎたんでしょう。どうしても手に入れたかったんですよ。

コピィロフ　おととい、二人も女を抱くからだな（笑）。

——ええ！　ホントなんですか!!

ミーシャ　うそです（微笑）。

——はぁ？

ミーシャ　（淡々と）スポーツというのは急な上り坂があって下り坂があるんです。たぶん、昨日は下り坂だったんです。

コピィロフ　試合の前が一番の絶頂期（笑）。

——ワハハハハ！　そういうコピィロフさんも2ラウンド目はスタミナ切れしてましたね（笑）。

コピィロフ　オレも欲に負けたってところだな。だけど、オレの欲は女だ（笑）。

——ミーシャさん、コピィロフさんっていつもこうなんですか。

ミーシャ　コピィロフさんは誰に対しても変わらないよ（微笑）。

コピィロフ　（一切かまわず）だいたいオレが負けたのはミーシャのせいだ。ドアの外でミーシャと女の声を聞いてたんで寝れなかったんだァ。ミーシャが一人でも女を譲ってくれたら、すっきりして勝てたんだがなぁ。グッフフフフ！

ミーシャ　うそですよ（微笑）。

——ワハハハハ！　だんだんわかってきました（笑）。

ミーシャ　僕も次は試合前に女性と過ごさないようにします（笑）。

——ミーシャさんまで何を言い出すんですか（笑）。

コピィロフ　実はミーシャは男好きなんだぜ（笑）。

ミーシャ　男でも女でも、これからは一人にします（微笑）。

——あ～あ（笑）。

コピィロフ　男一本でいけ（笑）。そういうヤツをロシアの隠語でブルーっていうんだ。そういえば、ハンがこの前、クラブを開業したんだが、その店の名前がブルーシュリンプっていうんだ。ヤツも好きだな。グッフフフ！

——朝からコピィロフさんが暴走してます（笑）。念のためにミーシャさんに聞きますけど、ハンさんがクラブを開業したっていうのは本当なんですか。

ミーシャ　ウソですよ（微笑）。

——もうインタビューになりません（笑）。そろそろホントのことを言ってくれませんか。

コピィロフ　うん？　実は緊張で試合前の二日間は寝れなかったんだ。

——え！　コピィロフさんほどの百戦錬磨の強者がですか。

コピィロフ　いまはもう年に2、3回しか試合をしてないだろ。普段は仕事をして、その合間にトレーニングしてるんだけど、それは試合に出るためのトレーニングじゃない。オレはミーシャと違って、ああいうルールにも慣れてないしな。だから、昨日は昔やってたことを思い出しながら、試合してただけなんだ。

——昔のことを思い出しながらって（笑）。凄すぎますよ、それは！

コピィロフ　5年前の調子だったら、苦もなく優勝してるな（ニヤリ）。

——昨日の1ラウンド目の攻防は非常にスリ

リ・ン・グ・ス
ロシアンティールーム

リングでしたからね。ミーシャさんも善戦しましたが残念でした。

ミーシャ　今回が最後じゃないことを期待するしかないです。

――ところで、ミーシャさん、左目の黒アザは大丈夫ですか。

ミーシャ　大丈夫。痛くないです。

コピィロフ　痛くないだろうけど、そこを押すとシリが痛くなるはずだ（笑）。

――また、おふざけモードになっちゃった（笑）。

ミーシャ　昨日の試合疲れが出てきました。もう部屋に戻ってもいいですか。

――じゃあ、最後に。今後はボクシングとかに力を入れていく気持ちはありますか。

ミーシャ　自分なりに結論を出してますから、それを実行するだけです。ですが、実行する前にそれをオープンにしたくはないんです。

――では今回、なぜグローブをつけたんですか。

ミーシャ　去年のトーナメントでアメリカの選手と闘った時に顔面パンチでイエローカードをもらいました。今回はそういう間違いを犯さないように最初から付けただけのことです。

――ところで勝った場合の賞金の使い道は何か考えていたんですか。

ミーシャ　ロシアには取らない前のクマの毛皮を計算してはいけないということわざがありますので、それは考えたりはしません。

――たしかにそうですけど、なにかあったんじゃないんですか。

ミーシャ　ロシアには「予測は味方にならない」ということわざもあります。そういうことは考えないようにしてるんです。

――真面目な方ですね、コピィロフさんとは大違いですね（笑）。

コピィロフ　だけど、ミーシャは両刀使いだぜ（笑）。

――また、まぜっ返すか、この人は（笑）。

第2部

ここで試合疲れの出たミーシャは部屋に戻り、入れ替わるようにズーエフがやってきた。ズーエフと言えばリングス引退後、ビジネスで成功し、いまや大富豪になっているという話だ。コピィロフもまた、いくつもの会社を経営し、ビジネスマンとしても伸び盛り。ということで、ここからは急遽、ロシアのビジネスについて二人の成功者に話を聞いていこう。共産主義から資本主義へと移行したばかりのロシアではまだまだ経済も成長期。終戦直後の日本の闇市以上の鉄火場をくぐり抜け、ビッグマネーを掴み取った男たちの凄味とコクの一端に迫ってみたい。

――さて、コピィロフさんにしてもズーエフさんにしても故国ロシアで成功された方ですので、ロシアのビジネスについていろいろお聞きしたいんです。まずはお二人のお仕事を教えてください。

ズーエフ　会社を持ってるというのではなくて株を持ってるんだね。私が株を持ってる会社は100以上はあるでしょう。

コピィロフ　オレは石油会社を経営している。そのほかには製薬会社にパン工場も持ってるな。

――どちらも凄いですねぇ。どういうきっかけでビジネスを始めるようになったんですか。資金的なこととか。

コピィロフ　資本金を含めて、すべてロシアで稼いだんだ。ソ連が崩壊した直後は一攫千金で稼げるシステムになってたからな。

――なんていうか、博打経済みたいなものですかね。日本ではコピィロフさんはＶＩＰの用心棒をしていたっていう噂があったんですが。

コピィロフ　それは保険会社をやっていた時の話だよ。非鉄金属の会社を対象にした保険会社をやっていて、それで稼いだ金をいろんな会社に注ぎ込んだんだ。成功したのもあれば失敗したのもある。当時の金で70万ルーブルぐらい損した時もあるんだな（笑）。

――勝負しますねぇ（笑）。

コピィロフ　ロシアには最近こんなことわざがあるんだ。「何が起こるかわからないからこそロシア」っていうヤツだ。一攫千金もあれば、一瞬にして貧乏にもなる国なんだ。それにロシアとビジネスをしようとしている外国人は非常に詐欺師が多いんだ。ロシアの法的な基盤もおかしいし、金をだましとっても罰がない。裁判所に訴えても、実行力がなくて起訴しても20年も30年もかかるんで嫌んなるな。

――そうすると、やっぱり腕力も必要になっ

アンドレイ・コピィロフ：187センチ、115キロ。90年サンボ重量級ロシアチャンピオン、91年サンボ重量級ソ連諸民族大会チャンピオンなど多くのタイトルを持つ凄腕のサンビスト。昨年のＫＯＫで対戦相手を次々と秒殺してサンボ幻想をよみがえらせた立役者。35歳とは思えないその風貌と熟した闘いぶりで、ＫＯＫ本戦では負けたものの人気は上がるばかり

イリューヒン・ミーシャ：180センチ、91キロ。33歳。ボォルク・ハンの弟子であり、積極的にバーリトゥードの試合に出ていくコマンド・サンボの使い手。第1回アブソリュート大会で優勝し、第2回は準優勝となったもののあのイゴール・ボブチャンチンを破っている実力者。バーリトゥードだろうとリングスルールだろうと、どんなルールにも対応する柔軟さが魅力だ

マフィアの方が怖がってるかもしれないよ（微笑）ズーエフ

てくるんですか。

コピィロフ　必ずしも、そうじゃあない（ニヤリ）。

──必ずしも（笑）。う〜ん、ビジネスの楽しさってなんですか。

コピィロフ　それはズーエフのような男らしい男と知り合いになれる点だな（笑）。

ズーエフ　ふっふっふ。

──では難しさは？

ズーエフ　法律がまだ整備されていないことが挙げられるね。例えば、1ルーブルを稼いだとしよう。それに対する税金は1ルーブル12カペイカになるんだよ。馬鹿馬鹿しいだろう？

──働かない方がいいじゃないですか。

ズーエフ　その通り。真面目に働くことがとても難しいんだよ。だから、どうしてもヤミ経済が発達してくる。だが、間違っていても法律は法律だからね。だから、それに触れないように、そしてマフィアたちにも口を挟ませないように仕事をしていかなければならないんだ。だけど、それは逆に法律にも守ってもらえず、マフィアとも対立する可能性もあるんだね。

──細心の注意が必要なんですね。

ズーエフ　そして大胆にだね。いまはもうだいぶ変わってきてるが、かつては先進国の企業では稼げないような金額を一瞬にして稼げることもあったし、逆に騙されて大金を一瞬にして無くしたこともあったね。実は日本とのビジネスで騙されたことがあったんだよ。あるビジネスマンと工作機械購入の取引を結んだんだ。こちらは前払いで金を振り込んだんだが、振り込んだ時点で、そのビジネスマンは倒産を発表して、事実上、納品不能になってしまったんだ。あれは計画的倒産だったね。

──ひどい話ですね。

ズーエフ　気がついた時には会社もなければ、そのビジネスマンも存在しないような状況になってしまったんだ。国内の場合でも、そんなことは多かったね。だから、私にしてもコピィロフにしてもスポーツ的な繋がりによって自分たちのビジネスを守っていかなければならなかった。そういう繋がりは頼りになるし、信用もできるんだね。みんなで集中してやればいくらでも壁を突破することはできるんだ。そこが我々の強みだね。

──自分たちの身は自分たちで守ると。ロシア国内だとマフィアとの闘いみたいなものもあったんですか。

ズーエフ　あったね。

──それはどんな闘いだったんですか。

ズーエフ　そうだねぇ。あまり口にはしたくないな。ただ、もし、あの日本のビジネスマンがマフィアと取引してあんなことをしたら、彼は林の中に連れていかれてアイロンを押しつけられていたかもしれないね。彼は2分もしないうちに金のありかをしゃべり出すだろう。それが彼らのやり方だね（微笑）。

──怖いですねぇ。

コピィロフ　もしくは溶接機を尻に突っ込まれるんだぜ。グッフフフ！

──始まった（笑）。

ズーエフ　ふっふっふ。ロシアの場合には裁判所にしても暴力にしても本当の解決にはならないんだよ。以前は暴力で解決した部分もあったが、最近はもう違う。政府の組織でFFBというものがあり、これはアメリカのFBIみたいなものなんだが、そういう組織が問題の解決に乗り出すようになってきてくれているんだよ。

──例えば、お二人が命の危険を感じることはあるんですか。

コピィロフ　もちろんだな（笑）。昔、二人組の強盗がオレを狙ってきたけど、彼らは墓地に入ることになったけどな（笑）。

──溶接機を尻に突っ込んで（笑）。

コピィロフ　そう。だけど二人目になったらオレがスタミナ切れ（笑）。

──ワハハハハ！　ノゲイラ戦みたいに（笑）。

ズーエフ　実際のところ、我々自身は毎日命を狙われていると言っていい。マフィアとかそういうものではなく、強盗たちは常に金持ちを狙っているんだよ。マフィアに対してはあまりもう問題視していない。我々の場合はすでに大きなビジネスを立ち上げてきてるし、バックにはスポーツマンの人脈がサポートしてくれてるからね。マフィアの方が我々を怖がってるかもしれないよ（微笑）。

コピィロフ　ズーエフの別荘には人間の頭蓋骨がいっぱい転がってるからなぁ（笑）。

ズーエフ　ふっふっふ。

──そんな静かに微笑んでていいんですか（笑）。そういえばズーエフさんの別荘ってホントに豪華なんですよね。

コピィロフ　金で出来た少年の像がションベンしてて、そのションベンがウォッカなんだぜ（笑）。

──ワハハハハ！　コピィロフさんって、怖い人かと思ってましたが、なんか別の意味で怖いですね（笑）。

ズーエフ　ふっふっふ。たぶん、昨日の試合で頭にパンチを受けて少しおかしくなってるんじゃないかな（笑）。ロシアでビジネスをする時は陽気さを出せないからね。

──酔った時のコピィロフさんってどんな風になるんですか。

コピィロフ　ギターを振り回して、みんなを殴り付ける（笑）。

ズーエフ　ハハハハ！　暴れるのはたまにだね（笑）。

──昨日の夜は飲んだりしたんですか。

ニコライ・ズーエフ：コピィロフの師匠であり、サンボ全ソ連選手権優勝経験を持つ伝説のサンビスト。現在は選手を引退し、ビジネスの世界で成功しているが、その実力はハンやコピィロフが「自分と同等かそれ以上」と絶賛。一度でいいからKOKルールで闘うズーエフが見たいものである

コピィロフ　タダだったら無限に飲むぞォ（笑）。

ズーエフ　ふっふっふ。ロシアには「ウォッカに量が多いということはない」ということわざがあるんだよ（笑）。しかし、コピィロフにしても滅多にウォッカは口にしない。口にしても仕事の上でだが、これは酔えないね。真面目な話だが、ロシアでは最近ウォッカを飲む人間が増えてきて、これは国民全体に大きなダメージを与えている。昔はロシアにもいろんな酒があったんだ。だけど、最近はウォッカしか飲まない。弱い酒を飲もうとしなくなっているんだ。

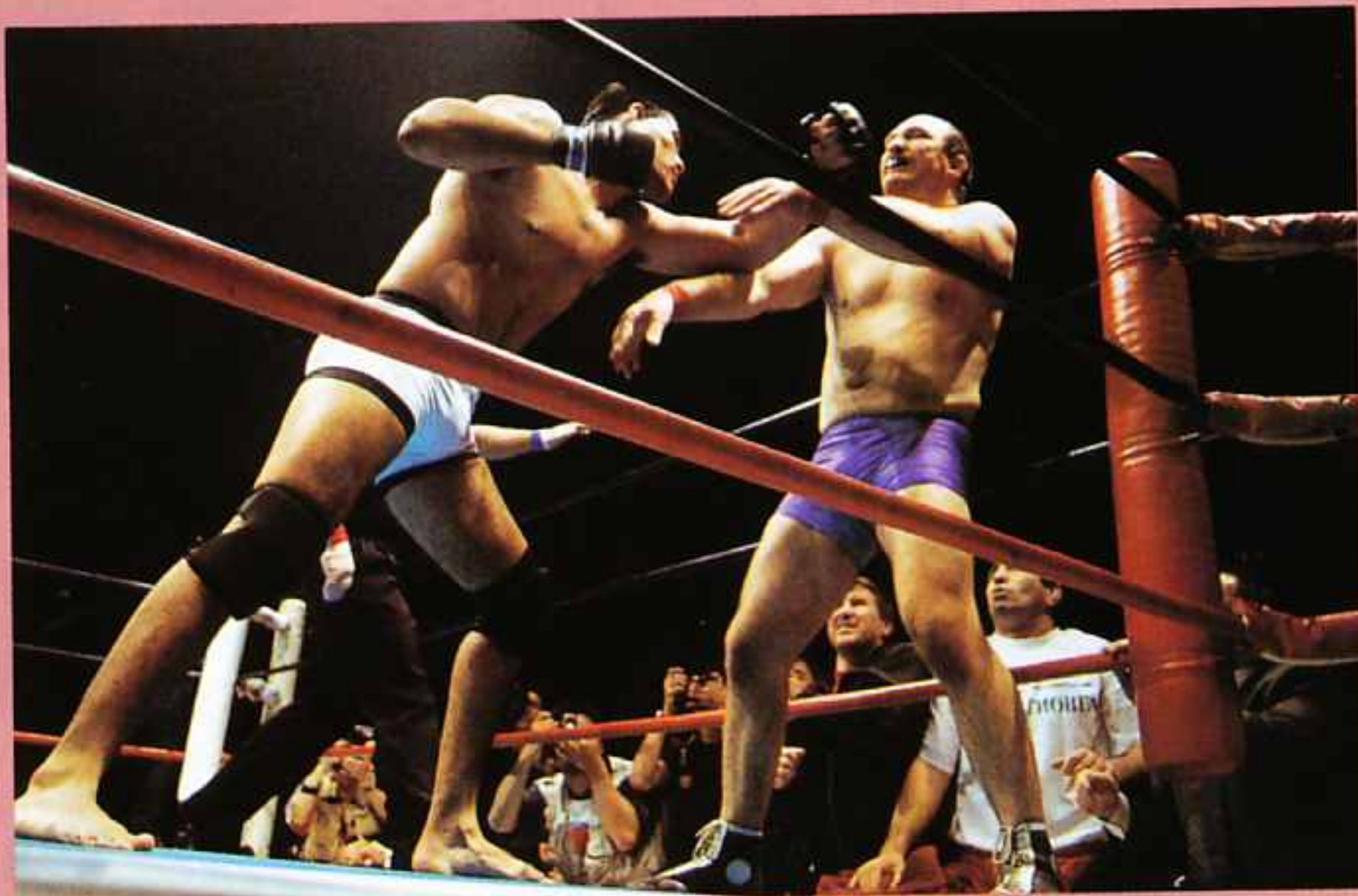
——問題山積みですね。

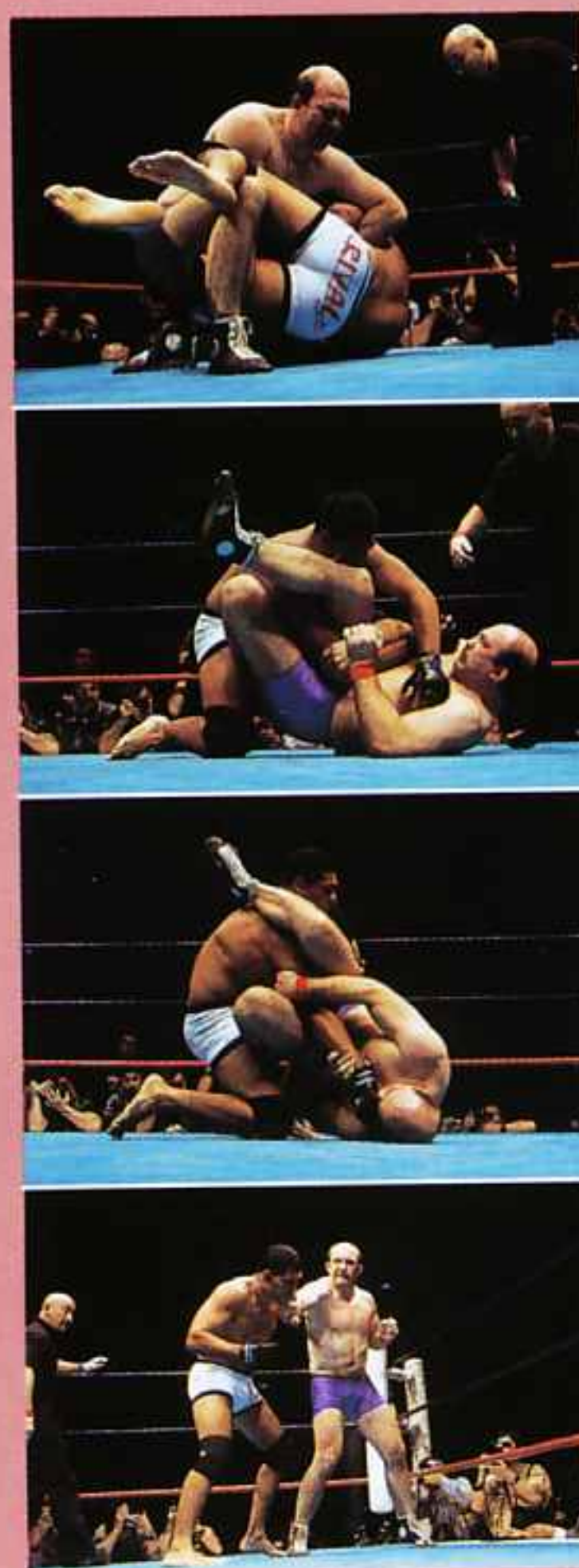
ズーエフ　そういうことだね。だから、我々のビジネスというのは自分たちのためだけにやっているわけではない。国全体のビジネスを立ち上げて人々の生活を良くするためにやってる面もあるんだね。

コピィロフ　その通りだぜ。だけど、オレはまだ選手を引退したわけじゃないしな。リングスでも頑張っていくぜ。

——また、面白い試合を見せてください！

次は頑張るぜ

2・26リングスKOKバウトレビュー

コピィロフ VS ノゲイラ

柔術の現役チャンピオンであるアントニオ・ロドリゴ・ノゲイラとサンボの強豪中の強豪、コピィロフの試合は非常に素晴らしいものだった。第1ラウンド、ノゲイラが腕十字や首絞め、ヒザ十字を狙うと、コピィロフが首を狙って切り返す。そのままヒザ十字に移行しようとして、それがダメなら腕をと、ハイレベルな寝技のコンビネーションをいかんなく発揮して盛り上がる。ところが、2ラウンドに入ると俄然両者に疲れが見え始め、特にコピィロフの疲労度は客席で見ててもあからさま。口で息するあまりのフラフラぶりで、ノゲイラがパンチで迫るとすぐに距離を取って逃げてしまう。それでもノゲイラが少しでも休む気配を見せるとドンっと掌底を飛ばすのだから油断ならない。まさにロシアの酔っ払いオヤジのような味のある闘いに観客はあったかい気持ちにさせられた。結局、判定で負けてしまったが、コピィロフのこの熟した闘いぶりに、観客は大満足したわけである。

ミーシャ VS ババル

1月にアメリカで行われたエクストリーム・ワールド・ファイトでブラッド・コーラーをKOしたババルと、去年のKOKでコーラーを破ったミーシャが対戦。

この試合はババルの打撃があまりにも光った試合であり、ババルのパンチをもらったミーシャは2度ほど尻餅をついているほどなのだ。また、その力も圧倒的でミーシャの身体を抱え上げてリング外に投げ捨てたりもする。結局、この投げ捨てでイエローカードを取られて減点。延長戦へと入る。延長戦早々、ミーシャはババルの腕を取って腕がらみに入る。だが、打撃のダメージをおっていたミーシャの抑えは甘く、これを切り返されて腕十字を取り返されてミーシャはタップという結果に終わってしまった。

今回は打撃の技術の差が歴然と出てしまったわけだが、インタビューでも語っている通り、次の対策はもうできているという。寝技の技術は申し分ないのであるから、次回の闘いにぜひ期待したい。

必読! 8ページ丸ごとザ・ロックを大特集!

紙のプロレス AMERICAN

WWF™

If you smell what the rock is cooking!!

"娯楽スポーツ界至高の男"に首ったけ!!

ザ・ロックの人気爆発! その要因を探れ!!

高木三四郎、杉作J太郎他「語ろうザ・ロック」座談会

衝撃! 日本のザ・ロックはあの高野拳磁だった!!

今世紀最後の"まだ見ぬ強豪"、大ブレイク寸前!! 日本でもファンが急増中!!

I ♥ ROCK!!

20世紀のプロレス界最後のスーパースター

ザ・ロックはこんなにカッコいい!!

ハルク・ホーガン、リック・フレアー、アルティメット・ウォリアー、ショーン・マイケルズなど、海の向こうのスーパースターはいつの時代も最高に輝いて見えたもの。そして迎えたミレニアム・イヤー。World Wrestling Federation（※）で人気&実力ともにピカーの若きスーパースターが、このザ・ロックである。今回は、全米でBBブレイク（＝ビッグ・バン・ブレイク）中&日本でも大ブレイク間近の“皆の王者”を大特集だ！　まずは、ロック様の魅力を体験したことの少ない『紙プロ』に味わっていただこう！　今回、ロックに関する原稿を書いてくれたのは元々の新日ファンから、現在はすっかりアメプロファンへと転向したモヒカンのライター山田尚宏さん（その強烈なビジュアルはP85参照）。昔の新日にはあった何かが、ロック様にはあるということがおわかりいただけるはずだ！

楽しくなければテレビじゃない！　ロックがいなけりゃＷＷＦじゃない!!　ってなワケで、やっぱりロック！　現在、世界で最も巨大なプロレス団体ワールド・レスリング・フェデレーションを代表する、いやアメプロを代表すると言ってもいいプロレスラーがこの人、〝娯楽スポーツ界の至宝〟こと、〝皆の王者〟こと、偉大なるロック様なんですわ、コレが!!

ＷＷＦと聞いて、アンダーテイカーやストーンコールドしか思い浮かばないような輩は、もう時代遅れもいいところ!!『東スポ』によると先日も、「格闘技、プロレスの他、相撲、バスケットと何でもやる」という〝ハイスクール！奇面組〟よろしくの（ある意味バーリ・トゥードな）活動方針の下に電撃結成した〝ホーリー5〟（今んとこ天龍、高田、佐竹の3人だけ）が「ＷＷＦ進出」を示唆し、その中で高田と佐竹は「アンダーテイカーとの一騎打ちを熱望」をブチ上げたらしいが、そんなのこっちからすりゃ「今の状況をわかってるのか？」ってところだ。アンダーテイカーもストーンコールドも欠場中の今、この世界一の団体を第一線で引っ張っているのは、偉大なるロック様以外の何者でもないのだ。「イフ・ユー・スメ〜〜〜〜〜ル……」（訳は下の囲みを参照）の雄叫びひとつで、全米の会場をドッカンドッカンいわせる爆発力。ブラウン管越しに見ていてもびんびん伝わってくる人気とカリスマ性。気付けばのめり込まされている、ロック様が言うところの〝妙技〟ってヤツは一体何なのか？　さあ〜、みんなで〜考えよ〜う！

ロックといってまず思いつくのは、やはりその絶妙なしゃべりである。みずからを「ロック様」と言って憚かるジャイアン的ふてぶてしさ。その上「身の程知らず、黙ってろ！」等と、身分の違いを思い知らすかのような言いぐさ。普通ならこんなイヤ味なヤツにこそブーイングなのだが、観客がそこでロック様を支持するのは何故か？　それは、ロック様というキャラクターの根底には、非常に人間的かつ頼もしい部分があるということを、何百万ものロックファンは知っているからだろう。

たとえば、マンカインドが首脳部の陰謀によりクビになりかけたとき、ロック様は全選手をまとめあげて「クビを取り消さなければ、新団体ＷＲＦ（ワールド・ロック・フェデレーション）を設立する！」と立ち上がったりするのだ。言葉や態度はキザで高飛車だが、いざ仲間がピンチの時には必ず助けに来る、言ってみればキン肉マンにおける初期テリーマン的な男、それがロック様なのだ。誰かがピンチに陥ったとき、必ずと言っていい程客席から「ロッキー！」コールが起こるのが、何よりその証拠だろう。

ロック様は、その一挙一動に不思議な力を持っているという点も忘れてはならない。入場時にコーナーへ登り、〝皆の眉〟と呼ばれるロック

THE ROCK SAYS... THE MOST ELECTRIFYING MAN IN SPORTS-ENTERTAINMENT the Rock

“ピープルズ・チャンピオン”

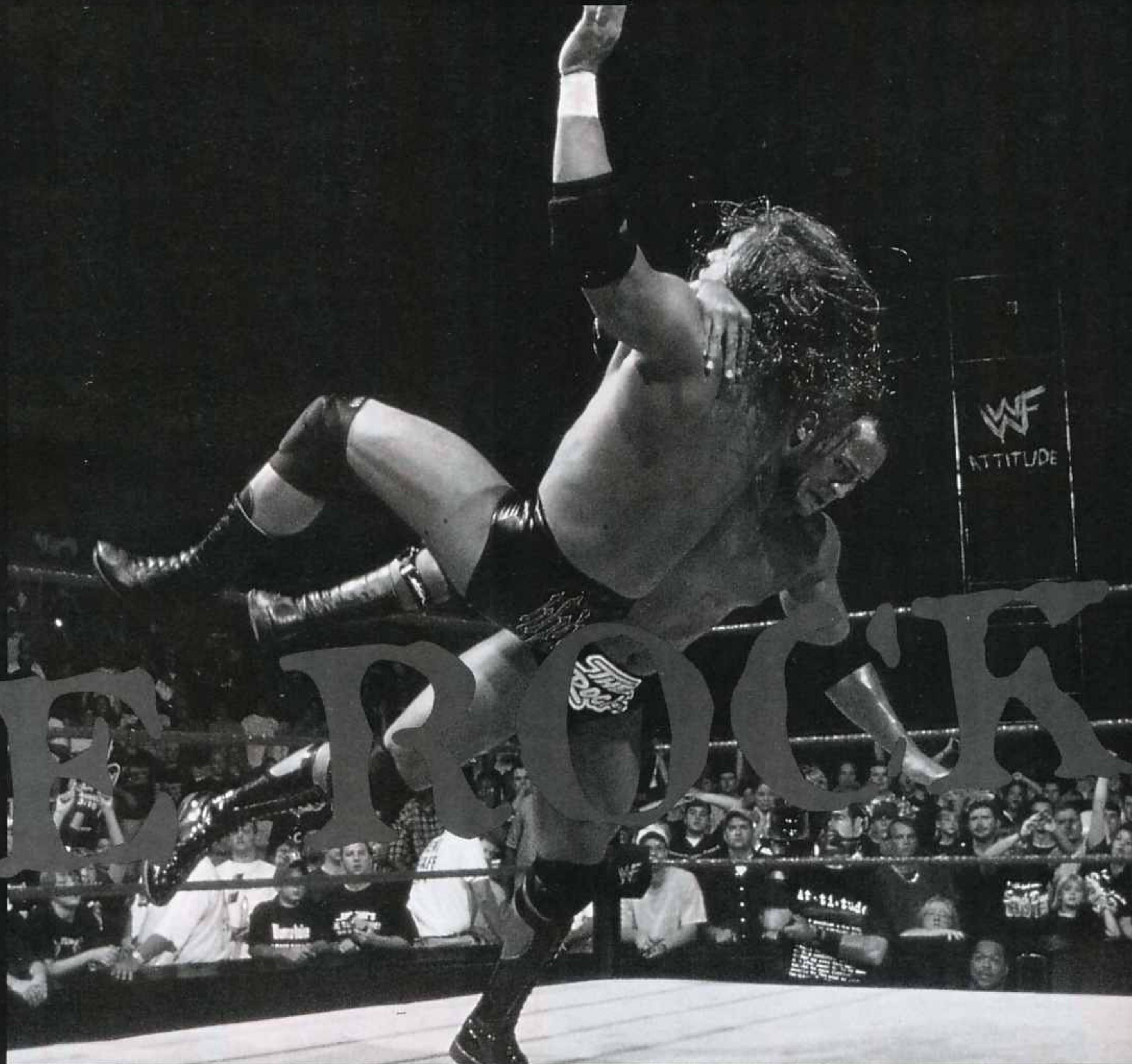
ザ・ロック

1972年5月2日、カリフォルニア出身。本名ドゥエイン・ジョンソン。若くしてWorld Wrestling Federationの頂点に君臨したスーパースターの中のスーパースター。ボキャブラリー豊富で、テンポがズバ抜けて上手いマイク・アピールでファンの心をガッチリキャッチしてスターダムにのし上がった（詳しくは隣ページの囲み記事参照）。現在は全米で人気爆発中だ。今年発売された自伝『THE ROCK SAYS…』（左の写真）もＮＹタイムズ紙のベストセラー１位を獲得。昨年、発売されたビデオもバカ売れ。昨年は2億5000万ドル（約250億円）を売り上げた世界一の団体を引っ張る牽引車だ。血統書付きの血筋の良さも見逃せない。祖父はハワイの首長（ハイ・チーフ）の末裔ピーター・メイビア、父親は往年の名レスラー、ロッキー・ジョンソンである。余談だが、流智美先生の『やっぱりプロレスが最強である』（ベースボールマガジン社）によれば、祖父・ピーターはサモアン・コネクションの首長の証であるタトゥーを下半身全部に施したため、墨が血管にまで入り込み、肝臓と腎臓を悪くして死んでしまったそうだ。ロック様の全身には、その誇り高きハイ・チーフの血が流れているのである。かなりムチャなことも平気でやってのける祖父を持ったという点も猪木に似ているといえば似ている。ちなみにロック自身は現在、すでに結婚しているようで、自伝には思いっきりキレイなワイフとの２ショット写真がデカデカと載りまくっている点も見逃せない。

©WWF ENTERTAINMENT

THE ROCK'S

様の右眉、これをクインと「への字」型に上げる様は、初めて見た人でもその独特な魅力の虜になってしまうことは必至である。

ところで、このロック様の持つ不思議な力と同じ様なオーラを出すレスラーが、我々のもっと身近なところに存在していたことに、ミリオ～ンズ（クビを横に振り読者のレスポンスを恍惚の表情で待つ）……ア～ンド・ミリオンズの『紙プロ』読者の皆様はお気づきだろうか？　〝皆の眉〟ならぬ〝皆のアゴ（？）〟こと、我らが〝燃える闘魂〟アントニオ猪木である。たとえば、ロック様が右フックで相手をいてこましているのは、アントンの鉄拳制裁にあたり、ピープルズ・エルボー前の肘パットはずしは、アントンのガウン脱ぎ&闘魂タオル投げと共通する。そしてさらに、ロック様の「Finally～」や「If you smeeeeell～」といった殺し文句は、アントンの「元気ですか～!?」や「1、2、3、ダーッ!!」と同じなのだ。こう考えると、アメリカンとストロングという、スタイルの違いこそあれど、ロック様の〝人を魅了する空間〟はアントンに非常に近いものであることがわかるハズだ。過剰に自分を演出したプロレスラーだけがたどり着ける領域に、この2人は足を踏み入れているのである。

そういえばアントンは、『メンズ・ウォーカー2月1日号』における作家・百瀬博教氏との対談の中で、奇しくもある種アメプロ肯定とも取れるこんな発言をしている。「アメリカのエンターテイメント（プロレス）は、ある意味でもの凄く心理学を勉強していて面白い。ただ、日本人がキャラクターとしてそこまでやれるかといったらやれないだろう。真似だけしても、すぐに彼らに駆逐されてしまうだろう」。ズバリ、これをやってのけてしまっているのが現在のロックであり、全盛期の猪木だったのである。客に媚びるのではなく、いつの間にか客を手のひらの上に乗せてしまう力をロック様というキャラクターは持っているのだ。気付かぬうちに魅了され、知らぬ間に皆が心の中で思い求めてしまうベビーフェイスらしからぬベビーフェイス、それこそが〝皆の王者〟ロックであり、〝ロック様の妙技〟であると言える。こんなところで「どーですか、皆さ～ん!?」と言ったところで、ロック様はきっとこう答えるに違いない。

「んなこたぁ、ロック様には関係ねえんだよ!!」

WWFグッズの商品広告だが非常に偉そうなロック様。こういう男になってみたいものだ!!

ザ・ロックの殺し文句集

ロック様の人気が爆発した要因のひとつにマイクアピールの素晴らしさが挙げられる。ここでは、そのいくつかを紹介しよう。これらのマイクアピールが始まると、観客は全日本プロレスの「キョーヘー」コールばりに会場全体で大合唱するのだ。ちなみに、同様の企画はすでに『アメリカーナ・ミレニアム』（ベースボールマガジン社）と『プロレス激本』（双葉社）で行われているので、後発の本誌は両者を比較しながら正確な日本語訳の着地点を探すという、他人のフンドシでスモーを取るようなマネをしてみたいと思う。

★殺し文句No.1
『If you smeeeeeell what the rock is cocking!!』

「ロック様の魂の叫びが聞こえるか?」（アメリカーナ・ミレニアム）
「ロック様の妙技を味わいな」（プロレス激本）

■これが、毎回マイクアピールの最後に入る正真正銘の殺し文句。2つの訳が存在するのだが、『激本』はスカイスポーツで放映されている際の字幕を基調にしたものだろう。アメリカーナはアメプロ・マスコミ界の大御所・フミ斉藤先生のテイストがかなり入った超訳だが味わい深い。

★殺し文句No.2
『Finally,THE ROCK has come back to ～!!』

「ついにロック様が●●●の地に帰ってきたぜ!」（プロレス激本）

■これでつかみはOK、観客は大爆発だ!　アメリカーナには訳も載っていなかった（それだけ簡単な英語ということだろう）。『笑点』における、林家こん平が同じ手口で「第二の故郷、●●に帰って参りました」というネタを使っている。

★殺し文句No.3
『JABRONI!!』

「とるに足らない人間、レベルの低い人間」（アメリカーナ・ミレニアム）
「負け犬野郎」（プロレス激本）

■これまた2種類の解釈がある。フミ斉藤先生は英語とスペイン語のバイリンガル説を唱え、『激本』は「JOBBERが語源」説を唱えている。まあ、ようするに相手をバカにするための単語のようだ。

（※）いわゆるWWFのことだが、最近は自然環境保護団体と混同されるのを避けるためフルネーム表記している。

LET'S TALKIN' ROCK

徹底闘論!!　スーパースターは21世紀の日本で受け入れられるのか？

語ろうザ・ロック

World Wrestling Federation（いわゆるWWF）の試合が放映されている世界の110カ国以上で、人々の熱狂的な喝采を浴びている地球上最大規模の人気を誇るプロレスラー、それが“ザ・ロック”だ 文句なくカッコいいこの男だが、果たして独自のプロレス文化を持つ日本マット界で受け入れられるのか？例によって、『紙プロ』新名物のアメプロ座談会は活字WWFプロレス”の様相を呈したグチャグチャの大乱闘となった！　さあ、急いで読め！

撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

本文構成／恒遠“おりこうさん”聖文
text by Kiyofumi"ORIKOUSAN"Tsuneto

構成／リキシ・ノブウー
text by Rikishi Nobu

TAKANO ISM?

リキシ　はぁ〜、どすこ〜い、どすこい！　ワシがスモー・ノ…もとい！　リキシ・ノブヴーでごわす。本日は『語ろうザ・ロック』ということで、みなさんに集まってもらったわけでごわす。いま、世界中のプロレス界を見渡しても、ロックほどの過剰な表現力を持って、過剰にカッコいいことをやってるレスラーはいないでごわすな？

杉J　何言ってるんですか⁉　日本にはいましたよ（キッパリ）。

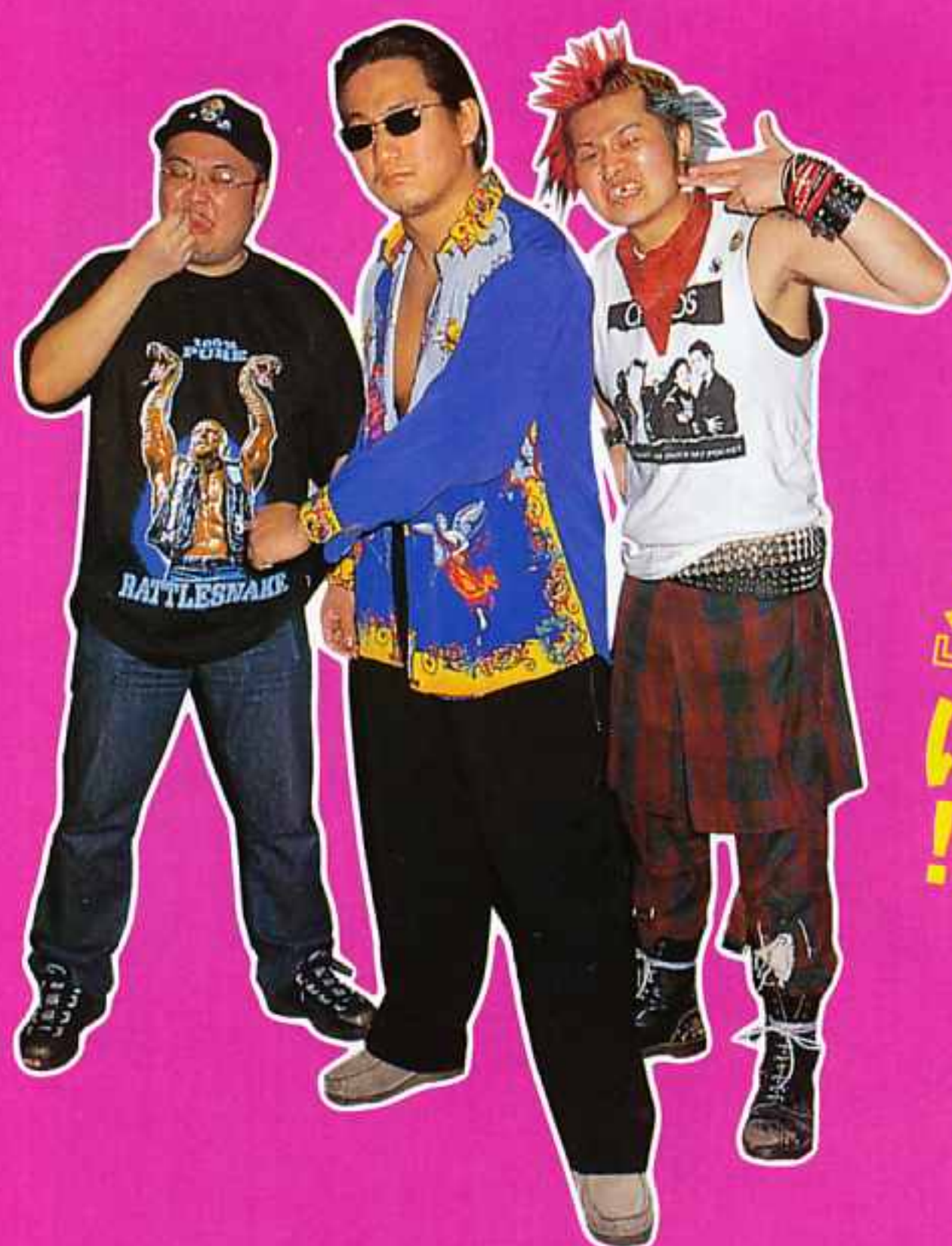
リキシ　どすこぉ〜い！（ロック風に片眉を上げながら）いた？　誰でごわすか？　もしかして、大仁田選手でごわすか？

杉J　いや、違います。高野拳磁ですよぉ！

（高野拳磁を知らないアナタはP87の囲み記事を読むでごわす！）

リキシ　なるほど！　どすこ〜い！

三四郎　（深く頷く）そうですね。

Sanshirock says…
ついに、三四ロック様がやってきたぜ！『紙のプロレス』に!!

杉J　当時の高野の表現力は、ひょっとしたらロックより上だったかもしれないですからね。あんだけマイクうまくて、お客をのせるのうまいプロレスラーはいないでしょう？　高木さんは、よく知ってると思うけど。

三四郎　ええ、自分はずっと代表（＝高野拳磁）にお世話になってましたからね。ドロップ・キックとニー・ドロップだけでお客さんがドカン！と沸くんですよ。入場テーマ曲『ターザン・ボーイ』がかかったときの、お客さんの盛り上がりはすごかったですから。

杉J　当時は〝ひとりPWC〟とか言ってたけどね、じつは高野拳磁は〝ひとりWWF〟だったんですよ（笑）。だから、もしPWCがTV中継やってたら、絶対に大ブレイクしてましたね（キッパリ）。日本で一番、TVプロレスにマッチしてましたから。で、いまの日本のプロレス界では高木三四郎、黒田哲広……高野拳磁の遺伝子を持つ元PWCの2人がエンターテイメントプロレスの申し子と言っていいんではないでしょうかね。

リキシ　かぁ〜、「高野の遺伝子」でごわすか！

杉J　これからのプロレス界は「高野の遺伝子」がリードしていくんではないのかと思うんですけどね。

三四郎　（照れながら）ハハハ！

杉J　高野拳磁は伝説になってもいいくらいの男ですよね？

三四郎　そうですね。

リキシ　高木さんにはエンターテイメント・プロレスのイニシエーションがあったでごわすね？

三四郎　自分は、代表からいろんなことを教わりましたね。「入場から全て自分を演出しろ！」って。「ドアを開けた瞬間から、自分を演出しなきゃダメなんだよ！」と言われました。

リキシ　たしかに、あの人は普通にしゃべってるときも自分を演出してたでごわす（笑）。

三四郎　テーマ曲が鳴って、自分が出るタイミングに、あの人ほどこだわった人はいないですよ（笑）。

スーザン　Oh!!　It's entertainment!!

三四郎　「俺は全世界でプロレスが出来るんだ」って言ってましたね。

リキシ　高野さんは、どこで自己演出を学んでたんでごわすかね？

杉J　やはりアントニオ猪木ですよ！

リキシ　どすこ〜い！　やっぱり猪木！　なんだか、のっけから『語ろう高野拳磁』になってしまったでごわすなぁ。

杉J　でも、日本で一番「WWFプロレス」に近い男ですから、しょうがないですよ（笑）。

リキシ　ロックといえばキザでごわすが、日本で唯一のキザなキャラクターっていうのも……。

杉J　やっぱり拳ちゃんでしょう！

リキシ　ロック風にいうなら『現代日本スポーツ娯楽界で最高にシビれる男』でごわすね（笑）。

杉J　高野は興行のパッケージにしても考えてましたね。

三四郎　ひとつの興行に、いつも何かのテーマを持たせていましたから。

杉J　全試合が終わった後に、会場で矢沢永吉の曲を延々かけたときがあったんですよ。で、矢沢の曲を使ったらね、ビデオにするとき版権が関わってくるから、「やめた方がいい」と止めたんですけど、「いいんだよ！　今日は矢沢永吉の曲を聴かせるための興行なんだから！」って（笑）。

リキシ　アハハハハ！　永ちゃんの曲のための興行でごわすか（笑）。

杉J　「今日、試合を見てもらいたいんじゃねぇんだよ、この曲をみんなに聴いて帰ってもらいてえんだ！」って言ってたからね（笑）。

スーザン　Oh,it's crazy!!

リキシ　どんなプロレスラーでごわすか（笑）。シビレるでごわすなぁ。では、YAZAWA＝ロックというところで、そろそろ、本日の大一番『語ろうロック』いくでごわす！

I♥ROCK

（ここで、店のスピーカーから突如として爆音でパンクロックが流れ、ハードコア野郎ヤマッド・ハーディーが、ハーディーボーイズよろしく頭からスライディングして取材会場の中華

登場人物紹介

高木三四郎（DDT）■PWC高野拳磁の元でプロレスラーとしての基礎と「高野拳磁の遺伝子」を叩き込まれた後に、DDTを旗揚げ。和製WWFを標榜し、自らもプロデューサー兼エースとして大活躍中！　三四ロックも大好評だ！

杉作J太郎（漫画家）■日本が誇る“ひとりWWF”高野拳磁とある時期ヒジョーに密接な場所にいたストイックなエロ事師。WWFにも造詣が深く、本誌では欠かせぬ存在だ。最近はトゥークールとゴッドファーザーとテリー・ボートライトにゾッコン。

ヤマッド・ハーディー（ライター）■強烈すぎるビジュアルで堂々の本誌初登場を飾ったパンク・ライター。『パンク天国2』（ドール）など音楽誌で執筆。もちろん昔からのプロレスファン（新日）だが最近はWWFに首ったけ。

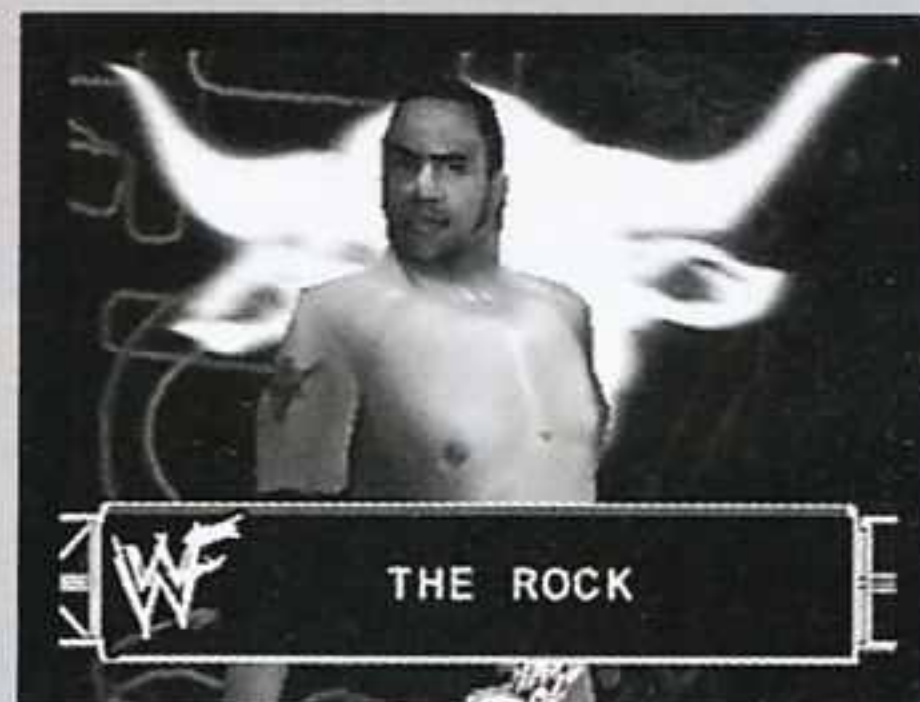
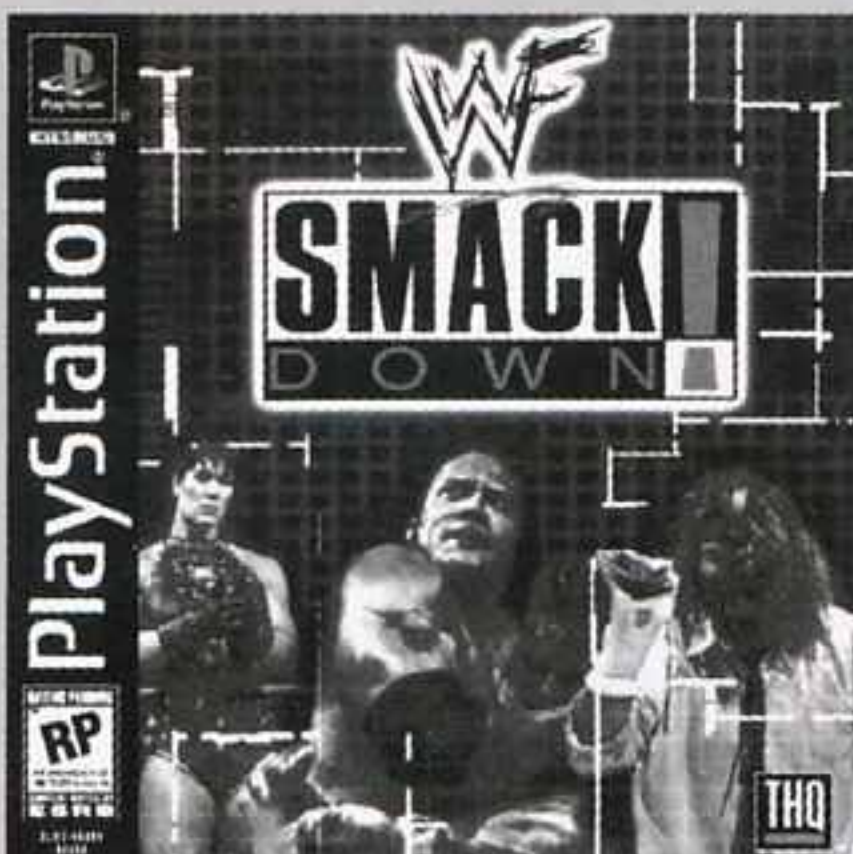
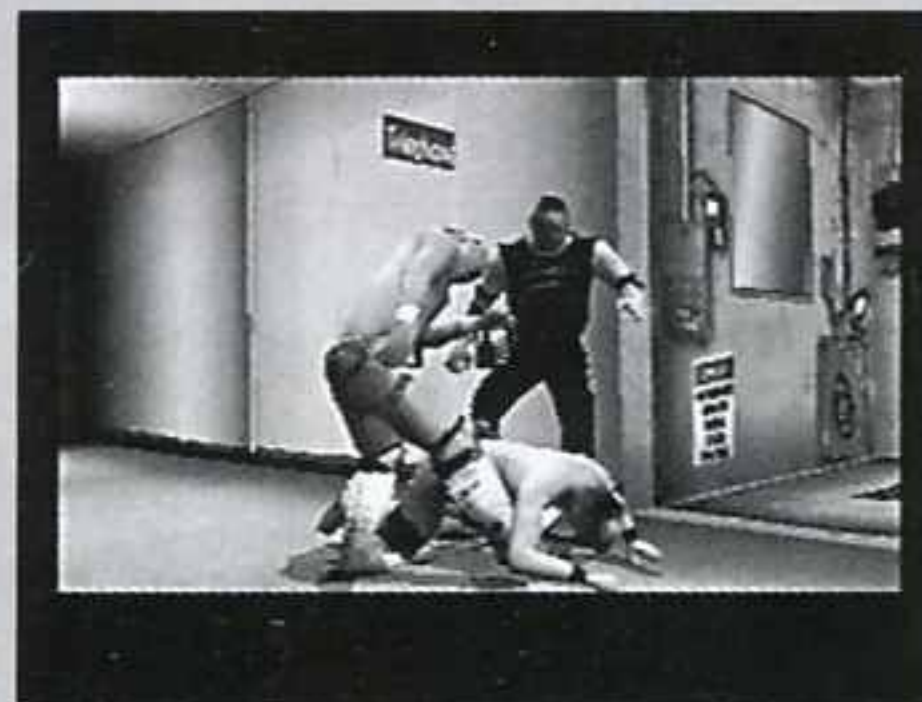
ナオミ・スーザン（マネージャー）■DDTで高木三四郎のマネージャーとしてお色気たっぷりに活躍中のザンスーちゃん。長い間海外で生活していたため、日本語は話せないが英語はペラペラ。この座談会で話していることは理解できたのか？

Yamad Hardy says…
ストーンコールドがいなくなったいま、ロック様の時代ですよ！

屋・九龍に乱入）
ヤマッド （笑顔で）遅れてすみませ～ん。
リキシ みっ、見た目は怖そうだけど、いい人でごわすな。さあ、みんな揃ったところでザ・ロックを語るばい。みなさんはザ・ロックのどんなところに惹かれたんでごわすか？
杉J （無言でシュウマイを口に運ぶ）……。
ヤマッド 僕は「WWFプロレス」を見始めたキッカケって、ロックだったんですよ。ストーン・コールドはいつもビールを飲んでラフな口調でしゃべるのに対して、ロックはキザで偉そうで、それがイヤ味なのに、気が付くと応援してるんですよねぇ。物マネしたくなる要素がすごく多いじゃないですか？ 特にマイクアピールですよね。キメゼリフの「IF YOU SMEEEEELL WHAT THE ROCK IS COOKING!!」（訳：ロック様の妙技を味わいやがれ！）とか「THE ROCK SAYS……」（訳：ロック様曰く）とかのロック節がとにかく凄い！
リキシ 高木さんはDDTのリングで"三四ロック"として、ロックのキャラクターをマネてるでごわすよね？
三四郎 あれはマネじゃないんですよ（キッパリ）。
リキシ マネじゃないでごわすか？
三四郎 自分はロック様の生き霊が取り憑くんですよ。
スーザン Oh,ITAKO?
三四郎 自分もねぇ、記憶にないんですよ、リング上でなにを喋ったかとか。時々……（ここで突如、三四郎にロックが一瞬降りて来る）。はっ！（我に返る）、今、一瞬、降りてきましたねぇ、危なかったですよ。
リキシ アハハハ！ ビックリしたでごわす。
三四郎 ちょっと気を許すと降りてきますねぇ。そうすると、失礼なものの言い方をしてしまうかもしれません。
スーザン You are dangerous!!
リキシ ちなみにロック様は勝手に降りてくるようになったんでごわすか？
三四郎 そうですね。唯一、自分が（ロックと）通信出来るんですよ。年中ロックを見てると降りてきやすいですね。もう最近はイメージしただけで、すぐ降りてくるようになりましたね。
ヤマッド ハハハハ、人格として別れちゃったんですね。
杉J （無言で酢豚を口に運ぶ）……。
ヤマッド ロックは眉毛ひとつで、観客がワーッ！ってなるのは凄いです！
リキシ マネしようと思って練習するけど、出来ないでごわす。高木さんはムチャクチャうまいばい。
三四郎 そうですか？ まあ、取り憑かれてますからね（笑）。
杉J （ロック話になった途端につまらなそうな顔をしていたのに、突然）でも、みんながマネするってのは隙があるんじゃないですかねぇ？ ホントの凄い奴になったら、お客さん付いていけないですから。
リキシ どういうことでごわすか？
杉J ビッグ・ボスマンとかあんなに長いことレスラーやってても、誰もマネしてないでしょ？ PPV（ペイ・パー・ビュー＝ビッグマッチ）になったら試合はカットされてるし（笑）。あれが、ホントのアスリートですよ！
リキシ でも、全米でロックの自伝がベストセラーになって、ビデオもバカ売れでごわすよ。日本でも『週プロ』がピンナップにしたくらいばい！
ヤマッド ストーン・コールドがいなくなって、やっぱりいまはロックの時代ですよ。テーマ曲かかっただけで、ブワーッと観客を引き付けるのはすごいですよね。入場曲もまた勇ましい感じじゃないですか！ あれがかかると、きたーッ！って感じで盛り上がるんスよ！
杉J それよりゴッド・ファーザー（左ページ参照）の方がいいじゃないですか！ あんなルックスで、大勢の金髪美女をはべらせて、マネしたくても出来ないですよ！
三四郎 ロックって、あの過剰なほどのオーヴァー・アクション、過剰なほどのマイク。あと、イヤ味っていう部分……やっぱイヤ味なキャラクターじゃないですか？ キザなロレックスの時計をして、ベルサーチのシャツを着て、尚かつそれがピッタシはまってるという。あんなキャラはいませんよ。
リキシ かっこいいでごわすね！ まぁ、日本でもああいうことが出来るキャラクターはそうそういないでごわすよね？
杉J 広川太一郎くらいですね（笑）。
リキシ どすこ～い！ プロレスラーじゃないでごわすよ（笑）。
三四郎 キャラクターも斬新だけど、試合も斬新ですよね。最初、ピープルズエルボーを観たときはショックでしたよ。「なんだこりゃ！」と

ロック様が真ん中でりりしいジャケの WWFプレステソフトのお知らせです

全米で100万本突破だ!!

今年の3月、全米で発売された、100万本の出荷が確実なメガヒット商品、それがこのWWFのプレイステーション用ソフト『スマックダウン』だ！ ドラマあり、試合あり、かっこいい映像&音楽ありでWWFの空気をそのまま詰め込んだ構成になっているのが人気爆発の要因だ。1vs1の試合中にまったくの第三者が乱入してきたり、ハンディキャップマッチが出来たりするのもWWFならでは。

【臨場感たっぷりの入場シーン】実際にあちらのTVマッチの入場シーンで、巨大スクリーン『タイタントロン』で流している選手のイメージ映像とテーマ曲をそのままゲームに移植!! オフィシャル・ゲームだから出来た嬉しい演出に脱帽せよ!!

【シーズン・モード】『RAW is WAR』や『PPV』など1年間のサーキットをシミュレーション出来る。誰の派閥に入るか、誰と抗争するかでストーリーが変わってくるのだ!! 写真はニューエイジ・アウトローズにボコられる新人レスラーのスモーノブ。

新日の闘魂烈伝シリーズを手掛ける日本一のプロレスゲーム会社YUKE'Sが制作！
日本での発売はあるのか!? アメプロ系ホームページにこのゲーム情報を書き込もう!!

みんなで巻き起こそう!!
『スマックダウン』口(くち)コミ伝説!!

あのゲームゲーム誌に先駆けて（？）次号でもさらにつっこんだこのゲームの情報も掲載します。

思いましたから（笑）。これが許されるんだったら、何がダメなんだっていうくらいに（笑）。まさか、ロープを一往復するエルボーがフィニッシュ・ホールドになるとはねぇ。（※ロープワークを一往復して勢いをつけたのもかかわらず、ピタリと止まってからエルボーを打ち下ろすという、無駄な動き満載のロック様の必殺技）。

杉J　たしかに、あの技を初めてみたときはビックリしたねぇ。「いよいよ、娯楽スポーツ界最高のときがやってきた！」って実況のアナウンサーが言うから、これはきっとすごい技だろうと思って観てたら、アレだから（笑）。

ヤマッド　しゃべりもすごいですよね。イヤ味にしゃべっても全部受け入れられちゃうし。

リキシ　三四郎さんの（相手のマイクをさえぎって）「んなこたぁ、どーだっていいんだよ！」って言うのも元ネタはロック様でごわす。

三四郎　普段ああいうことしないんですけどねぇ……（しみじみと）。

リキシ　アハハハハハ！

三四郎　ああいう日常にいないようなおかしなキャラで、高慢チキなんだけど、やることなすこと全部うまくいっちゃう……そういう人がヒーローになってるってのはいいですよね。

ヤマッド　まさに〝皆の王者〟ですよね。

三四郎　やっぱりロックは〝プロレス界の王子様〟って感じですよね。選ばれたというか、高貴な香りがするし。プロレス一家出身という、その血筋がもろに出てますね。エリート中のエリートですよ。だからカリスマ性は、どの選手よりも光ってます。人々の王者といわれるだけあって、ちょっとした動きで観客も酔っちゃいますからね。

ヤマッド　ロック様こそ娯楽スポーツの至宝ですよね。

杉J　いや〜、皆さんがそんなにロックで盛り上がってるところで、申し訳ないんですけど、ボクはロックは少し休んだ方がいいと思ってるんですよ。

リキシ　えっ〜、なぜですか？

スーザン　Why?

THE ROCK IS WATASE?

杉J　ロックは器用なタイプでしょ、器用なタイプの人って良くも悪くも見てると飽きちゃいますよね。不器用な危なっかしい人の方が飽きないんです。

ヤマット　（額に血管を浮き上がらせながら）そういうもんスかねえ？

杉J　ボクは個人的にはストーン・コールドとかケインとかの方が好きだね。東映で言えば、高倉健なんか不器用じゃないですか？　主役は不器用な方がうまく行くんですよ。いまストーリーの主軸にいるマンカインドなんか、東映でいえば川谷拓三みたいなもんだからね。ホントは主役になっちゃいけないんですよ！

ロックは器用でしょ？ 主役はストーンコールドみたいな不器用がいい
Sugive Austin said so!!

高野拳磁は早すぎた“ひとりWWF”なのか？ それともWWFが“巨大な高野拳磁”なのか？

高野拳磁——それは新日本プロレスに入門して、カルガリーで大活躍した高野俊二とは別人と考えた方がいい。ＳＷＳ崩壊後、ＮＯＷを旗揚げ前に離れ、ＰＷＣを旗揚げした頃、波瀾万丈なプロレスラー生活の絶頂期に、高野は“拳磁”として生まれ変わった。ひとりでＰＷＣを率いて、一時代を築いていく。全身に金粉を塗りたくった将軍ＫＹワカマツ（早すぎたゴールダスト？）が操る宇宙パワーと、World Wrestling Federationばりにめくるめく連続抗争を繰り広げていった。そのチープながらも強烈な演出手法と一度見たら忘れられないキャラクターの数々は、どれも秀逸なものばかり。ただ、時代を先取りしすぎたためか、結局のところＰＷＣには拳磁しか残っていない（現在は興行活動をしていない）。

ただ、この当時の拳磁が眩いばかりの輝きを放っていたのは紛れもない事実。強力な敵を前に、カルト・ヒーロー高野拳磁はいつも苦戦を強いられていた。だが、ファンは高野のマイクアピールにカタルシスを求めてやまなかった。それこそロック様顔負けのすさまじいマイクアピールの数々は、いまや伝説となっている。「オレは言われたよ、『プロレスやってどうする？』『ＰＷＣやってどうするんだ？』ってな。どうする？　どうする？　世の中どうするばっかりだ!!」、「オレをジャマしたいんだったらよ、オレの心臓を止めればいいんだよ!!」などなど、自己陶酔とクサいセリフが様になってしまう強烈な何かが拳磁からは発散されていたのだった。

そんな高野に、酔わされた観客のひとりが「拳磁、ロックだぁ〜！」と絶叫しているシーンが、『紙プロ』制作のビデオ作品『ゆきゆきて人間バズーカ』の中に収録されている。もちろん、ロック様のことではないが、どこか運命的なつながりを感じるシーンだ。

心優しい本誌は、本文中に出てくる選手を解説するぜ!! すばらしきワキ役キャラ名鑑

ゴッドファーザー■杉Ｊ大推薦のゴキゲンなオヤジ。職業・ポン引き。毎回、風俗嬢を大勢引き連れて入場する。胡散臭くて、いかがわしいケレン味のカタマリ。

© WWF ENTERTAINMENT

チャイナ■男を相手にシングルマッチも闘うマッチョ・ウーマン。クリス・ジェリコに勝ってインターコンチネンタル王座も獲得した。パッと見のインパクトは最強！

© WWF ENTERTAINMENT

リキシ・ファトゥー■ヨコヅナに続く相撲キャラ。入場の際のダンスが大ブレイク中！　サングラスにマワシという最高にクールな出で立ちで腰を振りまくる！

© WWF ENTERTAINMENT

マンカインド■右手にはめた臭いクツ下（名前はMr.ソッコ）を相手の口に突っ込むのが必殺技だ。最近は、カクタス・ジャックとしても登場している。引退間近とか。

© WWF ENTERTAINMENT

ケイン■アンダーテイカーの弟。現在は唯一心を許した友人・Ｘパック、女性マネージャー・トーリーと三角関係。特製マイクがないとしゃべれない。

スーザン　MANKIND is PIRANHA?

リキシ　なるほど。日本でもアントニオ猪木も決して器用じゃなかったでごわすからね。馬場さんは器用だったけど。

杉J　だから、ボクにとっていままでで一番面白い抗争だったのはストーン・コールドvsビンス・マクマホンなんですよ。主役のストーン・コールドが不器用で、敵役のビンスが素人のくせにもの凄く器用で。あれがベストだったんですよ！　言ってしまえば、あれが娯楽のベストの形態だったね！

三四郎　たしかに自分も、最初はストーン・コールドが降りて来てましたからね。ただ、杉作さん、いま一番輝いてるのはロックですから。

杉J　だからロックは、果たして主役になってしまっていいのかなと思いますね。ロックは僕にとっては渡瀬恒彦なんですよ。たしかに一番カッコいいんだけど二番手についてる。で、劇の途中で死んでいくみたいな感じ。

リキシ　死んじゃマズイでごわす。

杉J　いやいや、それがホントは一番カッコよかったりするんですよ、主役の健さんや鶴田浩二よりも（笑）。で、健さんが復員して来たら、渡瀬恒彦は死んでたりするんですよ。だから今、ちょっとつらいねぇ、健さんであるストーン・コールドがいないから。で、トリプルHが松方弘樹だからねぇ、松方弘樹と渡瀬恒彦が主役やってたら、世界110ケ国に放送するもんじゃなくなっちゃうからね（笑）。それはもう併映作品になっちゃうから。狭い話が余計狭くなってしまう。（さらに勢いづいて）ロックは人気があるのわかるけど、善玉になったらおかしいでしょう、あくまでもあのイヤ味なキャラは悪役だからねぇ。で、悪役としてもカート・アングルの方が上いってるでしょう。

（と、得意の東映話を交えつつ気持ち良さげに持論をアッピールしまくる杉作J太郎であったが……）

杉J　だから、いまはロックが休んだ方がロックのために……。

三四ロック　（いきなり）んなこたぁ、どーでもいいんだよ！

リキシ　どすこ〜い！　遂に降りてきたでごわす！

スーザン　Oh,Sanshirock!!

三四ロック　Finally,The Sanshirock has Come Back To Koolong（訳：ついに三四ロック様が九龍に現れた）。（店のスピーカーに向かって）ストップ・ザ・ミュージック！　俺の曲をかけろ！

（突如、中華料理店に三四郎のテーマ曲が流れ始める。更に、なぜか、ヤマッドも山田ロックへと変身！）

山田ロック　ＭｏｎｋｅｙＣｒａｐ！（訳：この糞野郎！）。この餃子をてめぇのケツにぶち込んでやる！（ロック調）。

三四ロック　ファイアー！

※かくして、突如、ロック化した二人に店外に連れ出され、ロック・ボトムをくらわされる杉作J太郎。ナオミ・スーザンは大喜びでロッキー・コール！　そして、我らがリキシ・ノブゥーはといえば、もちろんスモー・ロックになりそこね、逃げそこね。杉作ともども、二人に娯楽スポーツ史上最高にして最も屈辱的な必殺技、ピープルズ・エルボーをおみまいされたのであった。その後二人がどうなったかって？（マイクを遮りながら）んなこたぁ、どーでもいいんだよ!!

三四ロックと山田ロックがピープルズ・エルボー！

杉J＆リキシに成す術はない！

Yamadarock says この餃子をテメエのケツにぶち込んでやる!!

三四ロック＆山田ロック・イズ・クッキング！

WORLD WRITING FEDERATION

スーパースター総出演のLINE-UP

●花くまゆうさく『リングの汁』
●杉作J太郎『プロレスを見て女にモテろ』
●掟ポルシェ（ロマンポルシェ）『業☆勝ちます』
●スペースシャワーTV『マタハリ実況中継』
●わかおはるか『THE ジョージ秘宝館』
●梵婆家の店長『魁！ 裏ビデオ御開帳』
●人気者 原タコヤキ君の『紙のプロレスWEST』
●イナズマ★K『実録 最狂プロレスファン列伝 まりんこと砂原良徳さん』

表も裏もバッチリ書き倒すエンターテイメントコラム!!

イラスト◎キャプテン名倉

諸般の事情によりブナニ酒井の『もうひとつの大和魂』はお休みします。次回では復活しますのでご安心下さい。

リングの汁 RADICAL

花くまゆうさく

矢野伝説その①
棒を振りかざしせまってきたホームレスをチョークで落とす（スゲエ！）

ヘンゾが田村に負けちゃったのでヤケ酒をはじめ悪酔いし、ヘンダーソンvsノゲイラの判定でちゃぶ台をひっくり返しひと暴れ（はじめての家庭内暴力）して家出。校舎のガラスを5枚ほど割ると盗んだバイクで私は旅に出た（かなりフィクション注入）。でも前田が柔術を認める発言してたので少しホッとした。私が前田嫌だなと思いはじめた原因は「柔術の技術なんて全然たいしたことない」といつもボロクソに言いつづけてたから。

旅の行き先は松戸！　なぜなら、七帝柔道の大賀幹夫とあの修斗の植松直哉が柔術マッチで闘うからだ。この試合、松戸までやって来た甲斐のある見ごたえあるショッキングで面白かった。

まず大賀が引き込み下になる。そして見事にスイープをきめた。場内はどよめく。押さえこまれながらも落ちついている植松がそれをまた返し、もつれるように2人は場外へ。場外に人垣ができ、何も見えないので必死にのぞき込むと、すでに植松が腕十字の体勢になっている!!（人垣からのぞき込むと、そこには腕十字。まるで猪木vsウイリー！）

やっと場外ブレイクで、中央でスタンドから試合再開。下になる大賀、そこへ植松が飛びつきというより、〝飛び込み〟十字で一気にフィニッシュ！　前からそうだが、植松の攻撃のスピードや躍動感は、見る者を揺さぶるもんがあります（例えるとダイナマイト・キッドのような感じ）。まさに「植松最強！」とつぶやきたくなる試合でした。柔術の世界大会とかも出てほしいですし、今年から柔術マッチにやってきた現役学生柔道全日本王者の小室宏二とも階級同じなのでやってほしいです。修斗でも、ノゲーラや朝日らと今年中におねがいします、坂本さん。ルミナ、マッハ、宇野に続く修斗のスターは植松に決定！

そしてアブダビ。その組み合わせを見て「うえっ」とおもわず声をおもらししたですぞ。ルミナvsシャオリン、矢野vsソッカ、そしてホイラーvsバレット・ヨシダだ。このホイラーvsバレットを実現させたことだけで、もう十分である。王子、やっぱりあんたは最高だよ！　おねがいだから試合のビデオ見せてね。

さらに矢野卓見がついに表舞台に現れたのも興味深い。いままでの歴史を知れば、みなさんも興味を持つと思いますので、少し紹介します。東京で寝技系の練習していれば、自然に目や耳に入ってきた話です。

まずはターザンが力を持ち、格通に骨法がバンバン出てた時代、ときどき〝うなぎの矢野〟と異名をとった姿がひっそりと登場していた。

その後、なんらかの原因があって骨法を辞める（破門？）。しかし矢野と練習したい骨法門下生は多く、結局かなりの集団離脱となり、鳥合破門会が結成された（現・鳥合会&ワイルドフェニックス）。その鳥合って言葉はどこからきたのかと他の人に聞くと「鳥合の衆」からとの答。その「鳥合の衆」はRCの「シュー」からきたのなら、とてもうれしいエピソードだがそこまでは聞いてないので判りません。

矢野はアマ修斗へ参戦していく（私は見ていないが植松と対戦したらしい。今なら超ドリームカードだ）。そして川崎クラブチッタでの全日本アマ修斗大会に、鳥合から藤原正人が出場。当時は元骨法ということで好奇の目で見られていたが、次々と勝ち進み堂々と優勝。そして、須田匡昇の腕を破壊する衝撃のデビュー戦でプロシューターとなった。

一方、骨法はUVF大会へ出場。vsルタ・リブレでいい結果を残せず、ターザンの力が格通からなくなったこともあり、第一次骨法黄金時代の終焉となる。ちなみに、このUVF大会の会場に掘辺師範のイラストを手書きで書いたキャップやTシャツを着て矢野さんは出現しイヤガラセ？する（イラストのタッチは『週プロ』あぶ木のブルースブロディさん風）。他の会場やセミナーでもよくこのTシャツを着て登場していた。

鳥合はさまざまなアマ大会へ出場し、その名を広めていく。矢野も、菊田早苗や中井祐樹など大物とのスパーリングにより、その強さが口コミで広がっていった。鳥合の三角締めは一世風靡する。

そして、東京武道館での全日本アマ修斗大会では、優勝者こそ少ないものの、ほとんどの階級で鳥合勢は大活躍。それらの試合をコーナー後ろで腕組みし見つめる矢野の姿。まさしく今大会のMVPは鳥合であった。と同時にこの頃が第一次鳥合黄金時代のピークであったと思う。

マット界に「もし〜だったら」はキリがないが（例・もしプライドにはじめから判定があったら、菊田はヘンゾや松井に勝ってた可能性が高く、当時にちゃんと評価されていたかも？とか）、もしあの時、矢野さんが辞めずにいたら骨法は凄い集団になっていたかも？とフト考えてしまう。

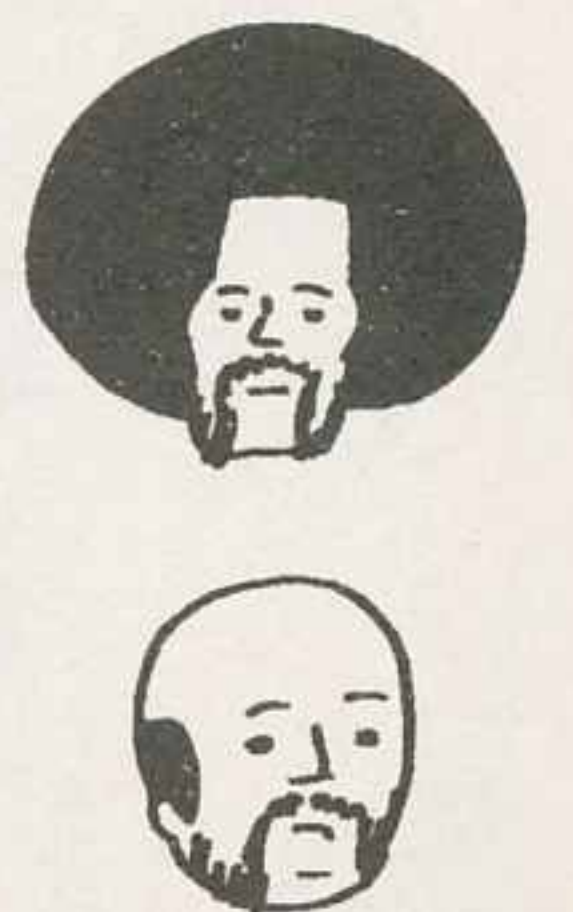
ターザンは大仁田戦へ向けて骨法に入門してみたらどうだろうか。もしターザンが大仁田にボコボコにされ、ニールセンvs山田恵一のときのように掘辺先生が立ち上がったら、掘辺先生vs大仁田という凄い展開になるのでは？　そして再び骨法に脚光が……。でも現実に、今の骨法の練習量は凄そうなので、そのうち実力でまた浮上してくれると思います。

アブダビへ推薦が決まったら、さっそく矢野さんは掘辺先生風にヒゲを生やした。まさにビジュアルファイター。王子の目に、どんな風に映ったんだろうか。

はなくま・ゆうさく■コピィロフの1回戦、2回戦、3回戦すべてに感動。僕もスタミナないけど、今年もがんばろうと勇気づけられた。

今月の10点満点

不死身のプロレス

エンターテイメント・レスリング・コラム

プロレスを見て女にモテろ!!

文・杉作J太郎

四十八手の八『ディレクTV大激震』の巻

コンドーム……じゃなくてドーモ!

ビッグサイズのコンドームが国内でも発売になったので大喜びしてる杉作J太郎がFMWの最新情報をお届けします。さて、ご存じのかたもいらっしゃるでしょうし、ご存じだとしてもあまりの事の大きさに直接当事者に聞くわけにもいかないでしょう。ディレクTVに大激震が発生しました。俺がそれを知ったのはちょうど正午ぐらいでしたか。『トゥナイト2』の収録があるので四ッ谷の放送センターに向かっていた地下鉄半蔵門線の車内だった。隣で初老の男が夕刊紙を読んでいたのだがその一面を見て馬もビックリしたのである。ディレクTV、スカパーと合併。

「ちょっと待って!」

これがテレビドラマで俺が中村雅俊さんとかだった図々しくも親父の新聞を横取りして目を丸くして読むとこだな。そしてショッキングなピアノの音かなんかで次の場面に移る。ま、俺にはそんな大胆なことできないから親父の新聞を覗き込むのがやっとだったが覗き込んでもなかなか読めるもんではないね。なにがあったんだ! 四ッ谷の駅についてすぐ、荒井昌一社長に電話を入れた。しかし荒井さんもなにも知らされておらず、事態はさっぱりわからない。放送センターに到着したら何人かの人が出来事を知っておりまして、それがただの合併ではなく吸収合併みたいなものではないかと言っていた。人によってはディレクの番組はそのままスカパーに移ると言い、人によってはディレクTVの単独放送はすべてなくなって現在ディレクを視聴してる人がそのままスカパーの視聴者として移行するのだとも言っていた。が、いずれも推測の域。詳しいことは誰も知らないのであった。

いや〜、これはえらいことであります。

放送がもしなくなったら……。それは新日本プロレスに於けるテレビ朝日、全日本プロレスに於ける日本テレビがもしもなくなったら……と考えてみれば事の重大さが理解できるだろう。今まで、テレビ局がなくなってしまったことというのは実際問題放送史上にありませんのでね。結果がどうなるかはわからんが、とにかく大変なことであるのは間違いないよ。その日は移動中に電話でいろんな人と情報交換しながら番組の収録に臨んだわけですが、ちょうどたまたまその日の内容はプロレス特集。ディレクのデの字も出さずに荒井社長の頭の薄さをからかったりしていたのですが、さっきまで別件でシリアスモードの電話をしてた人とバカ話をしなくちゃならんのは正直キツかった。でもそれが平気でできるぐらいでなければ女にはモテませんね!

ちなみにその夜、俺は前々から約束してた人気女性タレントを含む飲み会に参加したんだがいくら飲んでも気分は八甲田山。俺はブルーな気分で飲み会を終えたのであった。当然、次につながる展開とはならず、自分の未熟さを痛感したが、無理に騒いで目に涙……という雅俊さんパターンもどうかとは思う。

すぎさく・じぇいたろう■そんなわけだからブラザー島田裕二、ポン友の木目伊知郎と一緒に行く予定だった4月のレッスルマニア&ローイズウォーのアメリカツアーもここに来て俺の場合は白紙となった。行ったつもりで高級店にでも行くか!

すべての業深きプロレスラーたちに幸多かれ!

掟ポルシェ(ロマンポルシェ)の

業☆勝ちます

猪木メモリアルの巻

どどどどどーですかお客さーん!! 3・11横浜アリーナ、力道山メモリアルとは全然名ばかりの猪木のための猪木によるイノキメモリアルに行ったのか! 行ったのか、コノヤロー!! 田村がヘンゾを撃破し、小橋がベイダーに雪辱した翌週であっても、『ファイト』だけは時の流れを完全無視してニコニコ顔のアントンが表紙だったのはさすがにズッコケたが……すべては3・11猪木電撃復帰への予兆だったとは!!

ジャニーズJr.の滝沢くんとのエキシビジョンマッチは、ニンジンジュースを各ジョッキ6杯ずつ飲んで、ムスコの、というかジュニアの勃起角度で勝敗を争うという変則ルール。「やったるJ!!」と意気揚々に叫ぶ滝沢くんを前に、リキトルコで鍛えたヘソ下3寸の闘魂棒を惜しげもなく一万五千の大観衆にさらす〝燃える男根〟アントン。だが人参100%じゃあ飲みづらいだろうとの配慮でジャニーズ側が用意しミックスされたブツが「青いバナナ」だったことに猪木の表情が一変!! 「殺ったるJだとコノヤロー!! いつ何時、誰の挑戦でも受けるぞ!!」。ジャニーズの無自覚なシュートサインに突如キラー化した猪木は、滝沢くんの片腕を取るや横アリの大多数を埋め尽くすジャニーズオリキどもに見せつけるようにしてアームブリーカー一閃!! もんどり打って倒れる滝沢くん! 滝沢くんのJr.見たさに集まったオリキ達の黄色い声援が悲鳴に変わり、事の異変に気付いたジャニーズ側のセコンドのストロング金剛が猛抗議するもブレーキの壊れた猪木を止めることなど誰にも出来ない。相手が誰であれ、一度リングに上がった以上は全力で叩き潰すのが猪木。そしてついにバキッという音をたて滝沢くんの右腕がダラリとブラ下がった……。『折ったぞー!!』無効試合のゴングが乱打される中、両の拳を天に突き上げて勝ち名乗りを上げる猪木! 狂った猪木が帰ってきたのだ!! ……だが横アリの9割を占めるオリキ達が滝沢くんを潰されてダマっていようはずがない。いくらか弱い女子供とはいえ、殺意を抱き暴徒と化した一万数千人相手ではさしもの猪木も無傷で横アリを脱出することは不可能……あやうし猪木! すると猪木はやにわにマイクを握り、この非常時に唄を唄い出したではないか!! 「♪バンザ〜イ、バンザ〜イ、ああふられってフラってチュチュチュチュッ」……勝ち名乗りに見えたのは、じつはマッチの『フラレてBANZAI』の振り付けだったのだ!! 滝沢くんの兄弟子に当たるマッチの曲を勝利者テーマのボンバイエがわりに使用するということ、これは明らかなジャニーズに対する敬意の表明。さすが状況判断の天才・猪木。とっさの思いつきによる、こじつけのインプロヴィゼーションで場内をすべて味方に変えてしまったのである!!

金剛の熱意のこもった人工呼吸により奇跡的に意識を回復した滝沢くんも加わって熱唱するや、満場の横アリがBANZAIの合唱に揺れたのだった。BANZAI! BANZAI! 1!! 2!! 3!! ダーッ!! ありがとう猪木さん!! ……ということになってたらおんもしれえのにな、と思う3月4日現在であった。

おきて・ぽるしぇ■「キッスの世界」は、アイドル歌謡曲が本来持っていた「下手クソな唄を楽しむ醍醐味」を提示できるネクストレベルにつんくが突入したことを意味している。〝我妻佳代と結婚するために芸能界入りした男〟ががついに動いた!

スーザン ア
リキシ なる
決して器用
さんは器用だ
杉J だから
白い抗争だ
ス・マクマ
コールドが五
せにもの凄く
すよ！ 言
の形態だっ
三四郎 た
ールドが降
さん、いま
杉J だから
しまってい
にとっては
カッコいい
の途中で死
リキシ 死

本誌鬼畜編集長がレギュラー出演中!!

SPACE SHOWER TV の 音楽バラエティー番組 マタハリ パワフル実況中継

音楽情報バラエティなのに、月1回プロレス・コーナーがあるとっても素敵な番組、『マタハリ』。そこに本誌鬼畜編集長がレギュラー出演して、「強くて、凄くて、面白い」プロレスラーを紹介していく『押忍！ 紙プロ道場』というコーナーがある。

2月の放送では、自称「オシャレ雑誌」の本誌らしく、今回のゲストにいまや格闘技界NO．1ファッションリーダーの宇野薫（和術慧舟會）を迎えて、プロレス＆格闘技界の素敵なファッションの謎に迫ってみました。

そして今回は、素敵なお客様が来ております。なんと！ おなじみの本誌殿堂入り読者NO．001武田いづみちゃんが、切れ味抜群の愛ある毒舌＆毒筆で「押忍！ 『紙プロ』道場」をブッた斬ります！

今回のリポーターは武田いづみちゃん

音楽というジャンルとからむと、オシャレになっていくのは、いつの世も同じこと。ただし、『だんご三兄弟』にからんだ「だんごの輪島」がオシャレかどうかは、コレ別問題。

そんなわけですが、私は2月22日、スペースシャワーTVで放送中の『マタハリ』を観覧するべく、渋谷のタワーレコードへ社会科見学気分で行ってきました。

「社会科見学気分」と書きましたが、この日の裏テーマは「『紙のプロレス』がオシャレ雑誌かどうかを確認するために、ここ（渋谷）に来ました」です。そのため、『紙プロ』はおろか、プロレスや格闘技にほとんど興味ゼロの私の友達、りょうこを、晩メシをおごるなどして店外デートに連れ出すことに成功。ヤッタネ！ 皆さん、お試しあれ！（嘘）。

私は、この女を『マタハリ』内のコーナー「押忍！ 『紙プロ』道場」という空間に放り込み、観察しようと決めたのでした。

当日、「怪しい者じゃないんスけどー、美容師なんスけどー」という、どう見てもインチキエステ勧誘男につかまり、というか本当に服をつかまれ、うっとおしい思いをしながらも、なんとかりょうこと待ち合わせをし、タワーレコードへ向かいました。

放送前、一向にあたたまらない渋谷の客に対する、前説の芸人さんのいたたまれなさをぼんやり感じているうち、司会のピエール瀧さんと、小日向しえちゃんが登場。りょうこは瀧さんの赤い帽子が気になるらしく「春は赤い帽子でキマリ」などと、さっそくオシャレチェック。

それにしても、しえちゃんは、すげーカワイイッス！ 私たちはしえちゃんの強引なまでの仕切りに完全にやられてしまい、「カワイイ」を繰り返しました。ほとんど、うわ言。

いよいよ「押忍！ 『紙プロ』道場」のお時間となり、私の観察もスタート。画面に映し出される本日のゲスト・宇野薫選手の試合をだまって見守るりょうこ。しかし、この後、しえちゃんによる「〝犬殺し〝でぇ～、おなじみの『紙のプロレス』編集長・山口さんでぇ～す！」という紹介に、「えっ!? 〝犬殺し〝!?」と、かるく戦慄が走っていました。

収録後の写真だが、あいかわらずしえちゃんのテンションの高さは最高！ それに押され気味の宇野選手。この1枚の写真から収録中の様子も推して知るべし、である。

いい感じです。

この日のテーマはプロレス＆格闘技界と世間との「ズレ」。そこで、ステキなレスラー＆格闘家のファッションチェックで、ステキな「ズレ」を再確認。瀧さんの帽子だけじゃなく、長州の「ジャージ・イン・ジャージ」もチャックしろよ、りょうこ！

「宇野選手って、目がカワイイねー」

りょうこは、意外なほどすんなりと修斗や宇野選手自身、はてはアブダビコンバットのことまで飲み込めたらしく、終始、笑顔で見学していました。

コーナー終了後、聞いてみると、じつは「宇野選手が表紙の『ASAYAN』を見たし、名前も聞いたことあった」と言うので、私は修斗の浸透っぷりにあらためて驚かされました。でも、今日のテーマは「修斗はオシャレか？」ではなく「『紙プロ』はオシャレ雑誌か？」でした。よく考えたら、どうやって確認するんだ、くだらねえ！ と、思った瞬間、「『zipper』に載ってたよ、『紙プロ』。『知る人ぞ知るジャイ子Tシャツ』って」

ほんとだ（左の囲み参照）。Tシャツから火が付いたら、やっぱりオシャレ雑誌？ それはお前が決めろ（飽きたから）。

帰り道、りょうこはつぶやきました。

「あんなに宇野選手の近くに寄れたんだから、尻でも触っときゃよかったわ」

よいこは『マタハリ』観に行っても、ゲストの尻は触っちゃダメッ！ 押忍！

"りょうこ"が描きました。
どう見ても瀧さんじゃなく
外国の土産の人形です。

快挙！ 熱狂的『紙プロ』読者でもある、超人気スタイリストの伊賀大介さんが『zipper 4月号』の私物紹介コーナーでジャイ子Tシャツを紹介してくれました。伊賀さん、ごっつあんです！

↑ハリウッド・ランチ・マーケットで¥40000で購入。ジョーン・ジェットも好きだし、デザイン全て好き

↑知る人ぞ知る紙のプロレス編集部ジャイコのTシャツ。かなりお気に入り

↑ロイヤルプッシーのトートバッグ。かおりさん本人からもらいました。Tシャツも5色くらいもってる

↑赤いガムテープ、アイロン、布などはスタイリストの7つ道具。バッグにまとめて入れておきます

HOW TO WATCH マタハリ

CSチャンネル『スペースシャワーTV』にて、毎週火曜日19：00～絶賛放送中！ スカイパーフェクTVもしくはケーブルTVに加入すれば、見れる ただし、「押忍！ 紙プロ道場」は月1回なので、放送日をチェックして下さい。ちなみに、次回の「押忍！ 紙プロ道場」は3月21日に放送予定です（これが最終回！ 見逃すな）。

ジョージ高野復活への道

わかおはるかの

Mulatto Arts H.I.T

THE・ジョージ秘宝館

「ブレイブハート」の巻

ジョージさんのイトコの十座が喜んでいる。2・23キングダム北沢タウンホール大会の控え室にスゴイ選手がいて、握手してもらったそうだ。その人の名はK—1フェザー級王者の村浜武洋選手だ。スゲー見たかった。十座がうらやましい。じつは、村浜選手は今度のキングダムの九州大会に参戦するために、ジョージ高野vs M・メラッカ戦の前に会場で挨拶したんだけど、体中からオーラが出てた。そしてスゴク大きく見えた。チャンスがあればジョージさんと村浜さんの戦いを見てみたい。

と言うわけで、2・23キングダムのお話。カリスマの入江秀忠さんの団体で、ジョージ高野は久しぶりに復活しました。十座は試合後、メラッカさんに「あなたはとても勇気のある人だ」と伝えていた。本当に心から良い試合だった。ジョージさんも心から負けるもんかと試合してた。私は涙が出た。これはなんだか筋肉の戦いじゃなくて心の頑張りだ。私は女だけど、「男っていいな」って思った。プロレスがもっと好きになった。これからもプロレスを見ようと思う。

さて、キングダムのエース・入江さん（写真・左）。じつに良い選手です。ジョージさんのことをどーゆーふうに思ってるのか聞いてみた。

「伝説の頃の新日道場の出身だけあって、まだまだポジショニング中心の、現代の格闘技について行くだけの体力がありますね。勇気を持ってキングダムルールに出場する生き様は、見習うところが多いです。何でも協力したいと考えてます」だそうです。

4月22日（土）、九州小倉大会・西日本総合展示場でキングダムの試合があるので楽しみです。出場選手はとてつもなく豪華！藤原喜明、ジョージ高野、中野巽耀、村浜武洋、他。頑張れ、ジョージ高野!! 次も頑張れ、プレステ2のため（※）にーっ！

これがジョージ高野のマジメな姿だ!!

—は —で○○○

ルール説明

まんぐー だよ

←シブイ顔で神妙なおもちかと思いきや… どーやら寝てるクサイジョージ高野。でも見た目はシブイ。

（リング上）

2.23. 試合前ルール説明を聞くジョージ高野.

（※）とある試合前、十座が「勝ったらプレステ買ってくれ！」とジョージ高野に約束させられ、ジョージが勝ったため買わされたことがあった。2・23の試合では「プレステ2」を約束させられそうになったが、勝つかもしれないイヤな（？）予感がして断ったのでことなきを得た。2人はいつもこんな風。

P.S. ザ・コブラの新カタログ無料発送。コブラジムTシャツもあります。お問い合わせはムラトー・アーツ・ヒットまで。他、ジョージ高野、コブラへの質問を募集。当コラムで採用された方には、二人の寄せ書きサイン色紙をプレゼント！ 質問の宛先は紙プロ編集部内「THEジョージ秘宝館」まで。お問い合わせはコブラジムでは生徒も募集中。尚、お問い合わせは（093—619—3933）まで。

キングダム入江さんと。とても優しい方でした。次回、4／23九州大会もよろしく。

わかおはるか■ムラトー・アーツ・ヒットの命を受け、ジョージ高野のコラムを担当させられた漫画家。3／30発売「本当にあった愉快な話」では3／9UNW大会を突撃体当たり取材してます！ コブラが出るぞ！ 尚、F.S.R.はムラトー・アーツ・ヒット（03—3559—3358）に東京での連絡先を置いている。

魁！裏ビデオ御開帳

大庭敏幸（「梵婆家」店長）

第十回 船木がヒクソンに勝つ方法

いきなり結論から書いてしまうと、船木がヒクソンに勝つにはプロレス技しかないと思います。昔の映像を見ると、いかに船木が凄い素質を持ったプロレスラーだったかが、よく分かります。非常にシャープなドロップキックが印象深いですね。じつは、このドロップキックで畑浩和（引退）のアゴの骨を砕いているのです。ドロップキックで、ヒクソンをKOしてくれたら泣きますね、確実に。

プロレス技以外なら骨法技も出して欲しいです。『ギブアップまで待てない』時代の中継で、骨法を練習している船木の映像があるのですが、じつに強そうです。その上、非常にかっこいい！ いまでは、すっかり骨法を習っていたという過去を封印しているようですが、是非見たいところです。

さて、今回の最初の裏ビデオは、vsヒクソン戦を考える上で、比較対象として最も相応しい相手とのビデオです。そう、ヒクソンと二度闘った高田延彦との試合であります。昭和61年頃の千葉県の船橋で行われたシングルマッチなのですが、船木の骨法特訓と格闘センスが炸裂した試合です。

打撃のセンスは素晴らしいですね、高田とは躍動感がひと味違います。それだけでも、唸らせるだけのものはあるのですが、ここに骨法が加わるのだから鬼に金棒、船木に骨法です。『竜巻蹴り』という、トリッキーでしなやかなスピンキックで、高田を追い詰めていきます。その後、船木がキャメルクラッチで高田を捕らえたとき、高田が指を噛んで脱出した（ように見える）シーンなどもあり、見どころは満載です。マニアの間では、このキャメルが、のちにUWFで行われた船木vs高田戦の伏線になっている、ともっぱら評判になっている試合です。

Uでの試合は、試合開始早々のラッシュで、高田から疑惑の10カウントを奪ったことで有名な試合ですね。ヒクソンをスタンドの相撲状態でキリキリいわした高田が、船木の打撃技でボコボコにされる様は非常に頼もしいかぎり。やはり、ボクが愛した船木も、この輝いていた頃の船木なのです。その後、船木は藤原組、パンクラスと団体を移っていくたびに、段々と輝きが消えていっているような気がしてなりません。

しかし、最近、負けが込んでいる船木に対して「これは輪島功一の戦法ではないか？」という噂も、一部マニアの間では囁かれています。vs柳済斗戦を前に輪島が風邪のフリをして、見事に欺いたという有名な戦法に似ていませんか？ 敗因を聞かれて「風邪です」と答えたり、小路に負けたブラガに負けてしまったからvs船木戦をヒクソンがOKしたのではないかと、ボクもそう思っています。

まあ、こういう店をやっていると、船木選手に関する噂はいろいろ入ってきます。ここではとても書けないハードな内容のものばかりなので、聞きたい人はお店まで来て常連さんに聞いてみてください。まあ、ヒクソンに勝てば、アレコレ言われることもないと思うんでガンバって欲しいです。

ぼんばいえのてんちょう■新・メニュー『小川』、『STO』など、続々登場！ どんな料理かは来てからのお楽しみ。
東京都世田谷区松原1—39—16
TEL.03—3323—5629

スーザン
リキシ な
決して器用
さんは器用
杉J だから
白い抗争だ
ス・マクマ
コールドが
せにもの凄
すよ！ 言
の形態だっ
三四郎 た
ールドが降
さん、いま
杉J だから
しまってい
にとっては
カッコいい
の途中で死
リキシ 死

初代『紙プロ』編集長(ダミー)
人気者原タコヤキ君Presents

紙のプロレスWEST

目ヲ覚マシーヤ!!

出張版

第3回 2/25リングスKOK前夜祭に髙坂はんと坂田はんがきてたでぇ～ワシも東京行ったでぇ～

HARA TAKOYAKIKUN A.F.O.

AFOイラスト／井上きびだんご
illustration by Kibidango Inoue

まいどぉ～！ 今回は大阪を飛び出して、KOK前夜に東京の新宿・歌舞伎町『ロフト・プラスワン』で行われたトークライブの模様をお送りしまっせ。もちろん司会者（カリスマ）はこの原タコヤキ君でおま！ 盛り上がったでぇ～。この他にもいろんなイベントの司会を承りますので編集部までお電話くださいな。アナタの町にタコヤキ君がやって来るっちゅうねん!?

ここに一本のビデオテープがある。後に伝説となること間違いなしの『KOK前夜大予想！紙プロトークライブ』の模様を収めたモノである。

今回の「紙プロWEST」は、このトークイベントの司会を務めたボクが、ビデオを観ながら振り返ってみるとしよう！ それでは早速、VTR回転。ガチャ。

●

19：30 カタブツ君登場。前説を務める。

最近、ライターとしての力量が評価されつつあるカタブツ君だが、残念ながらトークの方はまだまだやな。なぜか「今回はチョロが頑張りました！」と、裏ではさんざんいじめてるくせに、公衆の面前ではいきなりいい人ぶるのも露骨やわぁ。

19：35 カリスマ司会者・原タコヤキ君＆リングス狂の堀江ガンツ入場。

いよ！ 待ってました！ いきなり真打ち登場！ しかし冷静に映像で観ると太ったなぁ、オレ。顔、デカッ。東京には貧乏な後輩たちがいるにもかかわらず、大阪でええもんばっかり食うてるからバチ当たったんやろか。

19：40 吉田豪入場。KOK話の前に、最近のマット界事情を語る。

吉田さん、やるなぁ。確実に笑いを取ってるわ。ファンの間でも吉田さんの仕事っぷりとキャラクターが完全に認知されているからだろう。こういう人とずっと仕事をできたのは、ボクにとって非常にプラスやったんやろうな。今なら素直になれるよ、吉田さん。しかし、よくよく観てみると凄いことに気づいてしまった。あらゆる局面で素晴らしいトスを上げているのはボクではないか！ びっくりしたぞ、おい！ 素人目には吉田さんが笑いを取っているように見えるが、おっとっと、オレの目はごまかせないぞ、オレ。試合をリードしているのは明らかにタコヤキ君。もうビデオの中の自分にうっとりである。

20：10 山口日昇入場。

……かいちょー（本誌鬼畜編集長の愛称）。いきなり某団体の某選手に噛みついてどないすんの。しかし、ボクが出て、吉田さんが出て、そんで会長が出てきて、いい感じでイベントが温まっていくのが映像を観てもよくわかる。今回はテンポが凄くいい。

20：30 大歓声の中、TK入場。

いきなりボクの顔見て、「やあカズヒロ君」とかましてきたのには参った。こんなとこで本名言うな！ タコヤキ君になりきってるのに。しかしTK、トーク死ぬほどうまいな。なんやこの話術。レスラーだから面白く聞こえるんやない。こっちが面白さを探してあげる必要がないんやもん。ただただ、聞いて笑っていればそれでいいというか。満点あげます。TKにかかると、どんな話題も爆笑の渦。あのデリケートな日明兄さん襲撃事件も、「オレ、その時、病院におったんやけど、前田さん興

ワシの司会芸もさることながらTKのベシャリと、坂田はんの強烈なひとことはオモロイでぇ。生で見えなかった人は後悔するほどの充実したライブやった

奮しすぎてオクタゴンに入って試合したと思ったもん、マジで（笑）」

と、笑わせながらもきれいにかわす。アブダビ話でも、この時点では出場予定だった山本選手について、

「あの人、決まった時から蹴ってました、サンドバッグ（笑）」（アブダビルールは打撃ナシ）

と幻想膨らむ証言を残した。

その他にも腹が裂けるほど笑った日明兄さんネタ（特にチンポ話）も全開だった。しゃべりだしたら止まらない土曜の夜の天使のように、TKは日明兄さんの幻想が爆発するようなチンポ話を次から次へと披露する。これがマジでおもろい。しっかし、TKの将来と俺の身の安全を考えて掲載を控えます。言っておくけど、それぐらい危険なネタやからな。あんまりおもろいんで話がなかなか進まへんかったもん。

「前田さんのネタはいっぱいあるんやけど、それ言うたら切腹10回では済まへん！」（TK）

21：20 VTRを観ながらKOK一回戦を振り返る。

やっとここでKOK話に。ここまでの無駄話が長いっちゅうねん！ でもそれだけトークが盛り上がっていたということだ。観る側には大好評のKOKルールに関して話を振ってみると、TKは、「選手がルールに甘えちゃいけないと思うんですよね。オレらプロだから」

と、とてもさっきまで忘年会のチンポ話喋っていたとは思えないほど冷静に語っていた。ちなみに遅れて入ってきた坂田選手にも、

「あのルール、しんどいでしょう？」

と、話を振ったが、

「しんどいに決まってんだろ！」

と一言。結局1時間半も喋りまくってくれた二人だが、ここでケツカッチン。最後に、田村vsヘンゾ戦を予想してもらうと、二人とも田村選手の勝利。ちなみに会場のお客さんの予想も田村。結果はご存じの通り！

22：00 TK&坂田選手退場。入れ替わりにカタブツ君&スモー・ノブ入場。

選手がいなくなって相撲取りの肉襦袢を着たノブじゃ代わりは務まらない。というわけで翌日のKOKの予想を、アポなしで電話して著名人に占ってもらうというコーナーが始まった。吉田豪ばりに自慢させてもらうと、これ、ボクが考えた企画である。

まずトップバッターは『SRS－DX』編集長・サダハルンバ谷川さん。が、打ち合わせ中でダメ。続いてターザンもダメ。一番つながりやすいはずの二人がダメとは意外。

続いて、『紙プロ』の「大和魂不発」の記事に激怒したエンセンに、ノブがビビリながら電話するも留守電。

次、バトラーツの島田裕二レフェリー。これはつながった。

「猪木さんですよ、は～い！」

と、いかにも島田さんな答え。ザ・グレート・サスケ社長は、

「はいはい、田村ですよ～、ええ」

と残念ながら普通のリアクション。

続いて会場から「前田！」のリクエストがあり、山口日昇が決死の覚悟でプッシュ！ 出た！

「前田さん、今、明日のKOKを盛り上げるイベントをしてるんですけど、この声が会場で流れてるんですよ」

「え、なに？」

「『笑っていいとも！』のテレフォンショッキングみたいなもんです」

「なに？ テレフォンショッピング？」

とのっけからマジボケ。ドッカンドッカンウケまくる。

肝心の予想は、

「うーん、誰かな。難しいなあ。まあ、あえて言ったらコピィロフ」

最後には、

「明日はねえ、金髪のラウンドガールが出るよ、デヘヘ」

と誰も訊いてないのに弾んだ声で告知。

続いて浅草キッドの水道橋博士は、

「優勝してほしいのは田村選手。でも、オレの通ってるジムでノゲイラの練習を見たんだけど、ノゲイラ強いわ。あとね、一緒にサウナに入ったんだけど、あそこもミノタウロスだったよ」

とプロのテクニックで場内を沸かせた。

最後はアレク。

「誰が出てるのかよくわからないですけど、田村さんかヘンゾだと思います。むはぁ」

これだけのメンツがなんでアポなしで出てくれたのか不思議だったが、とにかく3時間を超えるトークライブは全編盛り上がりっぱなしのままに終わった。ビデオで見直してもちゃんと面白いぞ、これ。というわけで、大好評にお応えして、4月24日にも同じくロフト・プラスワンで『紙プロ』主催のトークイベントやります！ みんな絶対に来てや～。

●

追記 イベント終了後、外へタバコを買いに行ったこの日のメインプロデューサー・チョロが、なんとおばさんのオカマにナンパされ、同伴喫茶で「チンポ出せ、チンポ！」とばかりに、ファックされそうになるというチン事件勃発！ オカマ相手にチョロちゃんがイッちゃった！ チンポ話の呪縛やね。

タコ兄さんの司会っぷりが見たい人は、紙プロのイベントに来てや!!

今号の5つのポイント

1 個人的に面白かったのは、吉田さんが最後に言い放った、「明日のKOKは半分くらい売り切れてます！」のセリフ。どうした吉田豪。

2 TKからイベントの感想が届いた！「これからも混乱が業界の幅をきかせて行くと言う事を認識させられた」「でもこれからはTKが別ルートから仕掛けて来ると言うにおいを残しておけたので、そう言う意味でもよかった」。これって謎かけ？

3 ついでにメールによると、なんとTKのお兄さんの名前もカズヒロということが判明！ フミさんに続いてブレイクの予感……。

4 KOK本番は、田村vsヘンゾ戦で果てたボク。メイン終了後、結果を電話で訊いてきた知人に「優勝はレナート・ババル！」と元気よく報告。

5 清志郎30周年おめでとう！ 武道館サイコーだったぜぃ！ 花くまさん的にはどうでした？

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

実録 最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K＆編集部

カンとかビンとか飛んでたじゃん 今、音楽じゃそこまで観客の心を掴めない

あらゆるところでメディアミックス、他業種交流、企業合併、業界再編が叫ばれてる今日この頃。プロ・格界もこの流れからは逃れられないはず。全女につんく、T―2000に武蔵丸、K―1に松永、とその渦はますますカオス状態だ。そんなこんなであらゆる分野で活躍しつつ、なおかつプロレス・格闘技がだーい好きって方々を紹介していくミクチャー・コーナー『ファン列』。第二回のゲストは、前回登場のエル・マロ柚木隆一郎さんともアミーゴだという、元・電気グルーヴのまりんこと、砂原良徳選手の入場です！

在籍していた電気グルーヴ離脱後、ソロ活動に向けて日々スタジオ内潜伏しているという彼。その傍らで、気になってしょうがないのがプロレスだという。まずはプロレスとの出会いから教えて。

「見始めは小学生。新日好きで良く見てた。でも、しばらくすると観るのやめちゃうんですよ、UWFやSWSが出て来てもテレビでやんなかったし」

そんな彼がプロレス熱・リターンを果たすきっかけになったのが、黒の頂点に立つ男だった！

「nWoのTシャツを持ってガンガン暴れてて、昔と全然違うからスゲーおもしれぇ〜って思ったね。蝶野のあの〝まともなプロレスナメてる感じ〟が良かった。それからはずうっと観てる」

いつからか『ワールド・プロレスリング』の録画が毎週の決まりごととなったという。

「蝶野、武藤のしゃべりで面白いトコつないで見たり、人にダビングしてあげたりしてる（笑）。凄い面白いよね。2人が言いあってた時とか、蝶野は最初っから演出って感じで喋ってんだけど、武藤は素だったりするじゃん、あれが面白くって（笑）。去年、武藤が『オレはアイツらより全ての面で上回ってる』ってことを何度も言ってたでしょ？ 人間的に全て上回ってる、ってなかなか言えないよ（笑）」

その甲斐あってか、モノマネもえらく上達してるのだ。

「『触っちゃいけないもの触ったよ、開いちゃいけないもの開いちゃったよ、ニター、おらーっ！』（武藤、激似）。大仁田もコメント面白いけど、リングの上でもうちょっとね。でもいいよ、カンとかビンとかほんとに飛んでたじゃん。あそこまで観客の感情つかむのは凄い。今どきあんな状態になるとこないでしょ。今、音楽じゃそこまで客の心つかめないよ。ライヴでもライヴじゃ無くても音楽にそんな力無い（笑）」

そんな彼にとどめの一撃をくらわしたのが、初の生観戦で観た試合、例のヤツだ。

「それまで誘われても観に行かなかったんだけど、去年の1・4になんとなく行って（笑）。そしたら、橋本vs小川戦で、オイオイこんなにやってくれるんだって、ビックリしたぁ（笑）。」

それは、さぞかし刺激が強かったことでしょう。

では、同日に行なわれれば『プライド』より新日・相模原大会を選ぶほどにプロレス党の彼にとって、昨今のプロレスと格闘技はきっぱり分けるべきと考えているんでしょうか。

「いやー、格闘技路線とか避けて通れないでしょ。プロレスもそれなりに説得力を持たないといけないもんね。分けちゃうと醒めると思う。そうなるとプロレスの胃袋がでかいトコが面白くなってくよね」

ウム、なるほどです。良いトコ突いてます。そんなまりんが、今一番好きな選手っていうのはダレ？

「永田選手。戦い方スマートでしょ。どっちも対応できると思うし。アレクとかもプロレスの胃袋デカイ人だよね。小川選手も強いんだったらバンバンやってほしいし。あとはムタはもっとメチャクチャやってもらって、手からレーザー出したり、何やっても許す（笑）」

そんな許す心も持ったプロレスを愛する彼が、近頃格闘技に押されつつあるプロレス界をさらに盛り上げるための改良点を提案してくれた。

「格闘技系とかはポスターも入場曲演出とか垢抜けてるじゃん。新日ももうちょっと垢抜けてほしいな。選手のアドバイザー的なプロデューサーも必要だよね。プロレスもやりようによったら結構良いトコまで人をつかめる胃袋を持ってるんだからさ」

さらに、ぜひともお気に入りの永田選手にやってほしいことがあるという。まりん流永田改造論だ！

「タイツが青になって結構かっこいいじゃない？だから今度ビッグ・マッチやる時、髪の毛も青くしてほしいんだよ！ 何かかぶって出て来てパッと取ったら青！ ウオーッ、強そう！ってなりそうじゃん？ 良いと思うんだよ。ぜひ読んでたらやってほしいなあ」

あっ、青？ とにかく！ 永田選手ぜひともお願いします！ 青色7バンザイ！ アディオス!!

PROFILE

No.2 砂原良徳

日本のテクノ界にその名を轟かす、電気グルーヴで、プログラマー、トラック・メイカーとして活躍した、まりんこと砂原良徳。『SHANGRI-LA』などの名曲の数々を手掛けてきただけに読者のファンも多い事でしょう。電気を離れる前からしていたソロ活動は、電気とはまた違ったサウンドを繰り広げ、日本に限らず世界規模で話題になったほど。今も彼の作品が出るたびドイツ盤がリリースされてる人気っぷりだ。そんなまりんが、思いっきしプロレス（しかも新日）ぞっこんラヴ状態というから、非常にギャップがあって良い感じである。前号で登場したEL―MALO柚木さんとは親しい間柄で、柚木さんはドン・フライ、まりんはブライアン・ジョンストンとタメというからその結びつきは奥が深い!? ドリキャスも闘魂列伝やるために買い、入りっぱなしの専用機になってるほどだ。現在は、次なる新作に向けてスタジオ隠り中。新譜のリリースは今年の秋が目標とのこと。

まりんをシビれさせた罪な男・蝶野。この調子でガンガンしゃべり倒して新たなファン層を開拓してくれ!!

「PRIDE.GP決勝トーナメント」進出記念！

「情念～夢一途なり～」出版記念！

W記念対談

この２人の関係とは？

読めばわかるさっ！ おめでと――ッ!!

強豪だらけの『PRIDE.GP2000開幕戦』にて、E・F・ブラガを破り、見事5・1東京ドームへと駒を進めた小路晃。これはめでたい！　一方の石川雄規は、『紙プロ』にて好評連載を続けた「闘いの美術館」に大幅に加筆した初の自叙伝『情念～夢一途なり～』を小社から発行。これもめでたい！　今回はめでたい記念に2人の対談をセッティングした。そう、この2人には知る人ぞ知る意外な接点があるのだ。それは何かって？　読めばわかるさっ！

司会／松澤チョロ
chairman by Choro Matsuzawa

助っ人／中村愚乱
helper by Gran Nakamura

撮影／戸成ぶつぞう
photographs by Butsuzou Tonari

【格闘探偵団バトラーーツ】
石川雄規 × 小路　晃
【和術慧舟會／A³-GYM】

（おしぼりでチンポを作り始める石川）

――いきなり何やってるんですか？（笑）。

石川　これは（藤原）組長から教えてもらったんだよ。ムフフフ（笑）。ポコチンの先の柔らかさとかね、微妙なふんわり感が難しいんだよ。それで、こっからが大変なんだよ！　ちょっと練習してみて（一生懸命、タオルでチンポを作る小路）。陰と陽ね。陽があれば陰があると（今度は女性器をおしぼりで作り始める）。理想的な形だね。ムフフフ。

小路　（悪戦苦闘する小路）いやぁ、難しいッスね（微笑）。

石川　今日は僕から小路君にプレゼントがあるんですよ。（小路に、サイン入りの『情念』をプレゼントする石川社長）。出来立てのホヤホヤで湯気が立ってるよ。これは初版限定なんだけど、二百部しか作らないらしいんだよ。ホントに迷惑な会社だよね！　発売も遅れるし、石川雄規をなめてんのかって。遅れたおかげで「まだかまだか」ってあちこちでつつかれてさぁ（苦笑）。そんなわけでこれは非常に貴重なんですよ。プレステ2か石川雄規の本かって感じだね。これを読んでエネルギーを溜めて下さい。

小路　ありがとうございます（微笑）。この本に石川社長の生き様が全部書いてあるわけですね。それは凄い楽しみです。

石川　ある意味、僕は猪木信者であるんでね、これは猪木さんへの最後のラブレターであり、卒業論文であると。

――プロレス本ってゴーストライターが多いって言いますけど、この本は、正真正銘石川社長が書かれたわけですからね。

石川　そう。初のゴーストライターなし。気もしたが…（急に険しい顔になり）そこまで言ってるのに、『●●●』の●●編集長は「山口（日昇）さんが書いてるんでしょ」だって。俺がそんなことするかい！　顔を見た瞬間に「プロレスは八百長だ」って言ってるのと同じじゃない？　失礼ですよ！

東京プロレス四日市大会で小路君と会ったんです。たまたまね（石川）

まずはビールで乾杯！　話が盛り上がってくると自然と日本酒へ。ふたりには日本酒がよく似合う。車とバイクで来た気もするが……

――それは失礼だ！　ウチの編集長はあれだけの量の原稿は書けませんから（笑）。

小路　僕も詩とか書いてるんですよ。三代目魚武（濱田成夫）さんみたいなのが結構好きで。いつか本を出したいですね。

石川　タイトルは「イルカのつぶやき」（笑）。

小路　いいッスね（笑）。

石川　いやね、村上一成がね、よくウチで練習したり試合に出てくれるんだけど、「自分は小路と同級生なんですよ」って話で盛り上がってね。「俺も知ってるんだ」って言って、「あいつは色が白いでしょ？」とか色の白い話をして笑ってたんですよ（笑）。「イルカみたいなんですよ」ってさんざん好きなことを言ってるんだよ、あの男（笑）。

――さすが場外乱闘王（笑）。さて、ここらで2人の関係を知らない人のために、その辺の話をうかがいたいと思います。

石川　あれは偶然だったんだよね。小路君は東京プロレスにいたでしょ？　それで四日市の会場だったかな？　俺はたまたま東プロの観戦に行ってたんだよ（笑）。

――たまたま四日市まで観戦に行く人も珍しいですけどね（笑）。

石川　俺も何でか知らないけどさぁ（笑）。そこで小路君に会って、チョロっと話したらとってもいいヤツでね。「じゃあ一緒に練習しようか？」って練習してね。試合前に腕立て伏せを一時間やったんだよね。

小路　凄かったです。「これがホントのプロレスラーだ！」っていう。石川社長の体力を見て、自分はホントにショックを受けました。もう筋肉痛で次の日から一週間ぐらい腕パンパンになりました（苦笑）。でも石川さんは笑いながらやってるんですよ。

石川　なんか小路を見てると笑っちゃうんだよ（笑）。そういえば自分が泊まっていたホテルが小路君とたまたま同じホテルでさぁ、2人で飲みに行ったんだよね。

小路　たまたまカラオケスナックみたいなところで会って朝まで飲みましたよね。そこで、石川さんがサザン（オールスターズ）の「旅姿七人衆」を歌ったんですけど、それを聞いた瞬間、自分は心を打たれて…。…心に染みいる何かがありましたね。

石川　ほら、あの歌って猪木さんと藤波さんの最後の試合のエンディング曲だから、「いいねぇ〜」って話をしててね。そこから話が盛り上がったんだよね。

カブキ　はい、串焼きお待ちどうさま。

――ありがとうございます。カブキさんもちょっと話に加わってもらえますか？

カブキ　いいんですか、こんな年寄りが入っても（笑）。

――いやいや、ぜひお願いします（笑）。小路さんはカブキさんにも練習を見てもらったりしてたんですよね？

小路　ロープワークとか教えて頂いて凄く勉強になりました。あとは試合後に焼肉屋さんに連れていってもらったりしましたね。その時に、館長に言えない悩みとかをカブキさんに聞いてもらってました（微笑）。

一同　アハハハハ！

カブキ　彼は真面目だったし、言われたことをパッと出来たから、「この子は伸びるんじゃないかな」って思ってましたね。

小路　あ、ありがとうございます（照笑）。カ、カブキさん、『ＰＲＩＤＥ』っていうのを御存知ですか？（微笑）。

カブキ　知ってるよ。試合は見たことないけど、「東プロにいた子が活躍してる」っていうのは聞いてたから。ただ「小路」っていう名前は聞いたことなかったからね。

小路　僕はいつも「1号」って呼ばれてましたから（笑）。

――四人じゃないんですから（笑）。

カブキ　だから、「誰だろう？」と思ってね。最初は「しょうじ」って読めなかった

W記念対談

小路晃 石川雄規

の。「こみち」とか「こうじ」とかさ。それで写真を見て「ああ知ってる」ってなったんですよ。

小路　良かったぁ（微笑）。僕がデビューしたのは青森なんですけど、カブキさんが試合が終わった後、初めてお話させてもらったんですよ。その時に控室の横にお風呂がありまして、カブキさん達が入っていて、「一緒に入ろう」って言ってくれたんですよ。「いやぁ〜、カブキさん達と、僕みたいなものが」って感じで、声を掛けて頂けたのが凄く嬉しくて「あぁ〜、なんて優しいんだ」って感動しましたね（微笑）。

カブキ　アハハハハ。まあ、インディーはね、そういう上下関係はないから。まあ全日本、新日本さんはそういうのがうるさいけど、インディーの場合は兄弟子ヅラしたって一緒だよ。みんなで頑張ってお客を入れなきゃいけないんだから。……それじゃゆっくりしてってよ。

小路　はい（微笑）。（小声で）僕はカブキさんと一度だけ対戦させてもらったことがあるんですけど、若さでガーッっと突進していったら、トラースキックで……。

一同　アハハハハ！

小路　ズバッとやられましたね（苦笑）。

——毒霧は浴びなかったんですか？

小路　いや、ないです（笑）。でもホントに勉強になりました。いい思い出です。

——小路さんは石川社長以外のバトラーツの選手とも、たまたま練習することがあったみたいですね（笑）。

小路　はい。池田（大輔）さんとか、アレク（サンダー大塚）さんとか、（モハメド・）ヨネさんとも練習をやりましたね。

石川　なんかたまたまいたんだよねぇ（笑）。面白いよ、謎めいてて（笑）。でも思い起こせば寒い時期に寒い地方での興行が多かったよね。密航組としては追っかけていくのが大変だったよ（苦笑）。まあ僕なんかは服を着て見てるからいいけど、裸の人は大変じゃないかと思いましたよ。

——ん？　意味深発言ですね（笑）。

小路　僕はいろんな選手と闘いましたけど、ブラッディ・ブルースが一番好きでした。

石川　そんなレスラーいたかなぁ？（考え込む）……あぁ〜、AとかBとかいましたよね。あれ、CとかDはいないんですか？

——AとB止まりで、Cまではいかせてもらえなかったみたいですね（笑）。

石川　そうなんですかぁ。それは残念だな（笑）。でも中身だけで言えば、D、Eぐらいまであったような気がするんだけどね。なかなか怪しいコンビでしたよね。

——まあこの辺は、ぜひ行間を読んでもらいたいですね（笑）。

石川　アッハッハッ！　そうですよね。

——小路さんは今は『PRIDE』を中心に活躍してますけど、そこでも石川社長とは、何かと顔を合わせる機会も多いですよね。

小路　カール（・マレンコ）選手と控室が一緒だった時とか、その前の『PRIDE．3』の時にも石川さんは控室まで来てくれたんですよ。あと、石川さんとは相撲もやりましたよね。

石川　『リン魂』のファイティングカジノね。（ジェラルド・）ゴルドーの次にやりたくない人間だったんだけどね（笑）。

小路　その時は石川さんが勝ったんですけど、石川さんは腰使いが凄かったです。かなりの腰使いでした（微笑）。

石川　いや、あれは絶対、俺に花を持たせてくれたんだよ。でもね、相撲は藤原さんとホンットに馬鹿みたいにやってましたよ。俺は相撲で耳が湧いたんですから。毎日200本ぐらいはやって、それからベンチプレスをなぜか500回やるとかね（苦笑）。ホントに理屈じゃないからね。ただ永遠に続けるという。昔のプロレスラーはホントにムチャだよ（笑）。ただ、そういうことをやるから昔の人って頑丈なんじゃないかなと思うんだけどね。そういうムチャなことをやりつつも体が壊れない人がプロレスラーの様な気がするんだけどな。

——小路さんは、そのようなムチャな練習は経験あるんですか？

小路　いや、自分はないッスね。ただ、青柳館長に牛丼屋で「特盛り4杯食え！」って言われたことはあります（微笑）。

石川　アハハハハ！　「特盛り4杯食え！」って、それは嫌だなぁ（笑）。メシを無理矢理食べるのが実は一番辛いのよ。

——石川社長から見て、プロレスラー時代の小路さんはどうだったんですか？

石川　小路君はね、蹴りにしてもムーンサルトにしてもホントに綺麗なんですよ。バランスがいい！　ぽってりしてて、おデブちゃんみたいだったから「どうかなぁ」と思ったら凄いんですよ。珍しいですよ、あんなに身軽なのは。あと、寝技になってマットにへばりつくと「わっ、保護色だ！」って思うくらい白くて、姿が見えなくなってましたからね（笑）。

——『巨人の星』の大リーグボール2号みたいですね（笑）。

小路　あぁ〜、僕も焼こうかなといつも思ってるんですけどね。

石川　焼かない方がいい、絶対！　白さ

いろんな選手と闘ったけど、ブラッディ・ブルースが一番好きでした（小路）

「僕は格闘技っていうのもひとつの芸術だと思います。格闘芸術と一緒で文章を書くのも自分のセンスが出ますよね」と、『情念』を熱心に読み込む小路。格闘芸術といえばアントニオ猪木。ちなみに『情念』の帯は「ユウキが一番」（byアントニオ猪木）なのである。

を極めた方がいいよ。みんな焼いてるからかえって白い方がいいよ。

小路　でも、やっぱり周りの人とかが日焼けサロンに行ってたりしてるんで。黒く焼くと筋肉が三倍増しとか周りの人が言うんですよ。

石川　でも黒くなんないんじゃない？　赤くなるだけじゃないの？

小路　なんないんです。でも、あんまり焼くと皮膚病になるから「やめなさい！」って言われたりもするんですよ（笑）。

――ところで、石川社長は常々、「人に影響を与えられるレスラーになりたい」ってことを言ってますけども、小路さんは影響を与えられたんですよね？。

小路　僕は影響を与えられた人です（笑）。

石川　でも、気が付けばそういうところは連鎖するもんでね、小路君を見てそう思う人もいるんだからね。これは、よく言ってることなんだけど、今の時代で大事なのは行間を読むことなんだよ。プロのライターっていうのは行間を読ませるんですよ。それが今はそんな技術も何もない、感性も持ち合わせないで「あいうえお」を並べただけの記号になってるんです。プロレスもそうなんだよ。それだけになっちゃってるんだよ。やっぱ行間を読ませるっていうか、見た目の技だけじゃなくて、その中に、組立の中に生まれてくる何かを伝えるようなね、それは本人の感性だと思う。俺は別に分けたかないけど、今分けられている総合格闘家とプロレスラーはそういう意味では別もんじゃないと思う。絶対シンクロしている。いろんな人に感動を与えられるかっていうのは結局そこに行き着くから。そういう意味で小路君もプロレスラーなんです。

小路　はい、その通りだと思います。

石川　プロレスラーの中に純粋格闘技とエンターテインメント格闘技が入ってる。たぶん、ホントのプロレスラーに出会ったことのない人達は、ひょっとしたらどこかでプロレスラーをナメてかかってるのかもしれないね。

小路　僕も前から言ってるんですけど、「プロレスラーはあんまり強くない」って言う人がいますけど、そんなこと言うんだったら、まず石川社長とスパーリングをやってみろって！

石川　アッハッハッハ！　そんなこと言うなよ！……でも嬉しいな、そんなに言ってくれると（照笑）。

小路　石川さんは社長で、上の方なんで難しいかもしれないですけど、『PRIDE』とかにもドンドン出て欲しいですね。

石川　気が向いたらチョットね（笑）。でも、もし俺と会わなかったらどういう道を歩んでたんだろうね。

小路　もし会わなかったら……まだマスク被ってやってたんじゃないですか。でも、石川さんと出会って「いや、プロレスはそんなものじゃないよ。もっともっと奥が深いんだよ」って教えてもらって、逆に考えたところはありましたね。

「プロレスラーは強くない」と言う人は石川社長とスパーリングしてみろ!!（小路）

石川　ひとつの引き出しだったのかもしれないね。「まだ別の引き出しもあるんじゃないか?!」ってふと気づいたのかもしれないよね。

――社長は猪木さんに憧れてプロレス界に入ったわけですけど、小路さんが社長に影響を受けたように、入ってから影響を受けた人っていうと誰になりますか？

石川　やっぱり組長ですね。さっきのタオルの芸にしてもそうだけど（笑）、凄いこだわり派なんですよ。オセロってあるでしょ？　組長は異常に強いんですよ。白だったら100%白にするんですよ。

――そこまでしないと気が済まないんですね。

石川　そう。それでゲームのボタンを潰したらしいんだけどね（笑）。すり潰すぐらいにやって、それだけのテクニックを身につけたっていうから凄いよね。俺以上にしつこい人ですよ。ホントにしつこい（笑）。でも今は、そういうことをしてると、ひょっとしたら生きていけなくなってる環境なのかもしれない。ある意味、プロレスラーはそれだけ特別な人であったんだけども、いろんな世界っていうのがどんどん広がって、小さく広くなってきたのかもしれない。昔はヒーローって言ったら王や長島だけだったのが、今は何人のヒーローがいるんですか。

――本当の意味でのスーパースターって今はいないですよね。

石川　でしょ？　中堅クラスがいっぱいに

久々の再会となるカブキさんを前に緊張気味の小路だったが「アポロさんはバスでも控室でもいつもソーセージを食べてるんですよ（微笑）」との発言から、アポロ話で大いに盛りあがった。

なってきてるよね。その中でひょっとしたら生き残れなくなっちゃうのかもしれない。つまんないことなんだけど、むしろ自分はそっちで生き残りたいね。そういう形で生き残れるだけのヒーロー像というかカリスマ性っていうのもみんな持ち合わせなくなってしまったよね。

小路　そうですよね。プロ野球でもイチローとかはあれだけ凄いのにカリスマ性がないとか言われてますよね。……でもカリスマって何なんでしょうね。

石川　俺は最近思うんだよね。大仁田さんがカリスマって言われるけども、俺は違うと思う。これは決して悪口じゃないよ。あの人はカリスマじゃなくてスーパーエンターティナーだと思う。というのは、人によって違うと思うけども俺達は猪木さんとかを祈るように応援してたんです。祈ってたんですよ！　確かに大仁田さんは最初は凄かったと思う。お客さんも感動してリングをバンバン叩いたりね。でもそれがお決まりになってしまって、それをやらずにはいられない。つまんないコンサートでも必ずアンコールをやるようなね、そんなお決まりになった時点でエンターティナーになったような気がするんだよね。

小路は今、『PRIDE』という世界で陰を描き続けていると思う（石川）

──石川社長も、決まり切った事はやりたくないって常々言ってますからね。

石川　絶っ対やりたくない！　猪木さんの「ダーッ！」は「イチ、ニ、サン」じゃないよ。それは猪木イズムの本質じゃないよ。あれはインタビューの途中で「どうですか、猪木さん？」って聞かれて（猪木のマネをして）「いやぁ〜、私はね、今度の相手は……いつ何時誰の挑戦でも受ける、ダーッ！」って絶叫するね（笑）。魂の叫びが言葉に出来なくなる、飽和状態が弾けた時に起こる「ダーッ！」なんです。だからみんな感動するんです！　だからみんな祈るように見るんです！　祈るように応援するっていうのがカリスマだと思う。ただ騒ぐだけとか、盛り上がってフィーバーするとか、そういうのはカリスマじゃない。ただの流行だと思うんだよね。

──小路さんにとってのカリスマっていうと誰になるわけですか？

小路　僕は尾崎豊が好きでしたし、あと猪木さんも好きでしたね。やっぱ自分は、最初のＩＷＧＰの時に舌を出して失神した猪木さんを見て、「ホントに死んじゃった」と思って泣きましたからね。

石川　俺と同じだよ。あれを見てなおさら猪木さんを好きになったね。感動したね。古館（伊知郎）さんの「猪木3年の野望破れる」っていう実況と一緒にね。

小路　陰があるから光るんですよね。

石川　そうそうそう、いいねぇ〜（笑）。陰を描き続ける。小路君は今は一生懸命『ＰＲＩＤＥ』という世界で陰を描き続けてると思うんだよね。きっと何か次はね、見えてくると思うよ。

小路　光になれるように頑張ります。

石川　ねっ。ピカーッと輝けるよ。今はいったい小路君が何と闘ってるのかっていうのが、まだ分からない人が多いかもしれない。俺も分からないかもしれない。でも彼の中にはあると思う。それがいつか形になる時が来ると思うよ。外から見たら、小路君は判定も多かったりとか、全く上辺しか見てない人間はそういうことを言うけど、最後に心が勝てばいいんだよ。自分が何と闘ってるのかなんて、そんな素人になんて分かりゃしない。きっとそういうものがあるから、何か燃えてくるんじゃないかなと思うしね。それにね、小路君が凄いのはね、「勝とうとしないで負けない」そういうことは簡単なんだよ。だけど彼は「勝とうとして負けない」だから凄いんですよ！

小路　ありがとうございます（微笑）。（日本酒を一気に飲み干し）アーッ、おいしいッスね、これ（笑）。

石川　アーッ、ホントにウマイねぇ。次の

青柳館長率いる誠軍団の１号として、東京プロレス、大日本プロレスで活躍した小路晃。写真を見ての通り、大黒坊弁慶にしなやかなニールキックを放ったり、ブラッディブルースＡ（もしくはＢ）に弓矢固めを仕掛けるなど、天性の運動神経でキャリアの少なさをカバーしていた。小路が石川社長と出会ったのも丁度この頃である。

W記念対談

小路晃 石川雄規

仕事とばそうかな（笑）。

小路　でも、僕がファンの眼で見た感性で、今の若い平成世代のプロレスラーの中では石川さんが一番カリスマ性がある数少ない選手のひとりだと思います。「次はなにをやるんだろう」って追いかけたくなりますから。そういうのを見せれる人って凄く少ないと思うんですよ。

石川　今は全く逆になってるもんね。お客さんがこれを望むからこれをやろうと、そうすれば客が来るだろうと。違うんだよ！　それは当然の事なんですよ。それを超えた何かをやって「お前は分からんのか」と問いかける。それをみんながやっと理解してきた時に振り切ると。闘いは常に少数派でありたいね。あ、そうだ！　小路君には、きっと分かってもらえると思うからこの一章だけでもこの場で読んで感じて欲しいな（と、そのページを開き手渡す）。

小路　（じっとその部分を読みふけり、しばらくして読み終え）あぁ～、僕もホントにそう思います。

石川　わかるでしょ？

——どういう話か気になる方は書店まで足を運んで下さい（笑）。

小路　やっぱりコンプレックスがあるから頑張れるんですよね。よくわかります。コンプレックスは才能なんですよね。

石川　そう。今の見出しに使えるじゃん。「コンプレックスは才能なんです」って。

小路　練習をやってても、キツイ時とか、「今に見てろ今に見てろ」と思ってると力が湧いてきますよね。

石川　逆に小路君なんかは、いわゆるカテゴリーの中で、プロレスラーとしてそれを背負う形で出ていったらお客さんの見方としては分かりやすいかもしれないね。なんか心はしっかりいい意味でプロレスラーだから。そうじゃなくて、総合格闘家・小路晃、それしか見れない人が多いかもしれない。もったいないよね。なんか凄いモノを持ってるよ。感性とか面白いモノを持ってるよ。

よくわかります。コンプレックスは才能なんですよね（小路）

今考えると実に幅広い相手と対戦している小路。アポロ菅原、ケンドーナガサキ、山川征二（現・竜司）、石川敬士、栗栖正伸、奥村茂雄、ザ・グレート・カブキ、ブラッディブルースA&B……錚々たるメンバーである。そんなある日、会場に行くと誠軍団1号からマスクド1号にリングネームが変わっているのを発見。それから間もなくして小路はリング上から姿を消したのだった。

小路　いやいや、それは石川さんから受け継いだんです（照笑）。僕は石川さんの試合は好きで、ビデオを借りて見たりするんですけど、ホントに凄いですよね。相手の攻撃を飲み込む力というか、全て受けますからね。試合見てて心配になりますよ。ここまで受けて大丈夫かなって（微笑）。そこから石川さんが這い上がってくるのを見ると力が湧いてきますからね。

石川　どこまで自分は見切れるかっていうね。寒気がするような感じだよね。やっぱりザックリ斬れる刀で斬り合うようなね。ホントに今はアルミニウムで出来た刀でのチャンバラごっこが多いから。あえて言うなら、いわゆるみんなが分けて言うプロレスと総合格闘技っていうのは、そういう意味で言うと、どこまで肉は斬らせて骨は切らせないかっていう極限はさじ加減なんですよ。ただ単に見合ってるだけでもいいのに、あえてそこから切り込む世界。そう例えても面白いかもしれないね。両方そういう世界だし。

小路　そうですね。見てて、ここまでやったら危ないんじゃないかっていうところに、石川さんはあえて踏み出しているのが見てて心に響きますね。

石川　それをしないと闘いじゃないしね。そうじゃないところで「キャーキャー」言ってるのが多すぎるから、それがシャクなんだよ。俺はそれをしたくない。この身が滅びるか、人を納得させるかの境界線だよね。いわゆる総合格闘技と言われるものは、ずっと見合っててもいいわけなんだよ。そういうことなんだから。見合ってても、いつかは斬り込むんだから。だけど、お客がそれを許さないってことは何か違うよね。それは納得するべきでしょ。もし自分達がそういう意味で差別化して見てるんだったら、それを納得しないで自分で分かったような振りをするファンが俺は嫌いなんだよ。そういうのを俺は馬鹿なファンだって言うの！

小路　あぁ～、ホントにそうですよね。

5・1『PRIDE.GP決勝トーナメント』でM・コールマンと激突する小路。コールマンとは『SRS・藤原紀香FINAL』でエキシビジョンながら対戦経験のある小路。果たして小路は筋肉オバケを退治することができるのか？　注目！

——そういえば石川社長、この間のアルシオンとのミックスドマッチの合同練習では凄い技を開発してましたね（笑）。

石川　「江戸川橋崩壊」とか「花満開」とかね。ほとんど変態だよ（笑）。俺がコーナーに振って残りの女の子ふたりが、相手の女の子にダブルのビクトル膝十字をかけて、俺のところに転がってきて大開脚したら俺が跪いて鑑賞するという（笑）。凄い羞恥攻め！　ムフフフフ（笑）。

小路　おぉ～、それが「花満開」っていう技なんですか？（笑）。

石川　そうそう（笑）。ただ知らない人は「セクハラセクハラ」って言うけど、そんな簡単なものじゃない。何がそんなにイヤらしくて、面白くて、強さが伝わってっていうそのさじ加減が凄い微妙なの。ただ単に無理矢理キスしようとしたりするのは馬鹿でも出来るよ。そういうのはダメなんだよ！　ホントの意味で可愛いイヤらしさ（笑）。見る人をホントに羨ましがらせる、そして全てが理にかなっている。例えばひーちゃんの金的を蹴り返して膝十字を取ったりね（笑）。やっぱり知恵を使わないと面白くないから。まあミックスドマッチに関しては俺は他の追随を許しませんよ（キッパリ）。

——それについては誰も反論する人はいないと思います（笑）。

石川　全てがシャレ。見事なシャレを作り上げる。そこには芯がなきゃダメなんですよ。お客に媚びてやるんじゃない。いかにして唸らせるかだよね。

小路　やってみたいですね、僕も（微笑）。

——よく小路さんは、プロレスをやるとしたら新日本のジュニアでやってみたいっていうことを言ってますよね。

小路　僕は身体が小さいんで。それがコンプレックスなんで。やっぱりそれを理由に負けたくないってのがあるんで。

——小路さんの今度の相手は体格差もかなりあるマーク・コールマンですよね。

すべてがシャレ!!
見事なシャレを作り上げる!!
そこには芯がなきゃダメ!!（石川）

小路　コールマン戦は、僕にとって人生の別れ道になると思ってるんで、頑張ります。

——ズバリ言って勝算はありますか？

小路　勝算はあります（キッパリ）。絶対に負けないッス！　でも、普通に見たら体格差も凄いあるし……。

石川　記録に出てるキャリアとか実績も向こうが上だからね。ただ勝負ばっかりは何があるか分からないからね。完全な人間なんかいないんだから。

小路　だから、逆に自分自身が凄く楽しみなんです。

——コールマンを倒せば、藤田（和之）戦の可能性も十分ありますよね。この間のブラガ戦の後に、「僕は新日本のファンなんで、藤田選手の代わりに新日本に上がりたいです」って言ってましたけど（笑）。

小路　アハハハハ。でも藤田選手とはホントにやってみたいッスね。

石川　藤田選手はゴリラみたいだもんね。ある意味、毎日が異種格闘技戦だよ（笑）。あれは人間じゃないもん。でも彼は次は霊長類最強の男とやるんでしょ？　じゃあそれに勝って次は小路君とだね。この対決はイルカ対霊長類の哺乳類最強対決（笑）。「どっちが哺乳類最強か？」って決めればいいじゃん！

小路　藤田選手と闘えるように、その前の筋肉オバケには絶対負けないです！

——それは頼もしい発言ですね（笑）。

小路　日本人の力を見せてやりたいッスね。自分には和式便所で培った足腰があるんで！　小さい頃から鍛えてますから。

石川　和式をなめるなよ！（笑）。いいねぇいいねぇ（笑）。

——石川社長も負けてられないですね。

石川　次はキャバクラを経営したいね。僕はそっちの方を目指します（笑）。

——ガクッ！　そんなこと言わず、リング上で大暴れして下さい（笑）。

【2000年3月6日、東京・飯田橋「串焼きとちゃんこ『かぶき』」にて収録】

『紙プロＲ』読者３名様にプレゼント！
『情念～夢一途なり～』

『紙のプロレスRADICAL』誌上で好評連載を続けた自叙伝的エッセイ「闘いの美術館」に大幅加筆、さらに書き下ろし、その上、創作劇場、歴史的インタビューも盛り込んで発売前から話題沸騰のこの一冊！　読め読め読めコノヤローッ！　そんな名著を『紙プロ』読者３名にプレゼントいたします。応募方法はＰ159参照。

石川社長の出版記念サイン会開催決定!!この2店に6万人の行列を作れ!!　3/24　北海道・札幌リングパレス（18：00）3/26　東京・チャンピオン東京店（18：00）

空前絶後!!

トルコから北朝鮮、そして猪木まで……

ある意味"RADICAL"以上にラジカルな雑誌

威風堂々

強烈無比!!

紙のプロレス 本誌は

宇宙でいちばん幅広い雑誌です!!

バックナンバーの告知です

第5号

★特集「たたかいグランプリ」

特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男/ロングインタビュー馳浩/デビル雅美vs氏神一番/脅威の連載陣! 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド

第8号

★特集「さらば新日本プロレス」

ワイド座談会/初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー/セメントインタビュー関根勤/恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

第11号

★特集「狂気とは何か?」

怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里/プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記

第12号

★特集「色気とは何か?」

村松友視が前田日明を語る!/「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会/蝶野正洋も登場!/色気王A・猪木も登場

第13号

★特集「道場破りとは何か?」

安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画 山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー/サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場

第14号

★特集「神秘とは何か?」

佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!/遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

第15号

★特集「インディペンデントの逆襲」

インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二/巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

第16号

★特集「新日本凸凹大学校」

『紙プロ』的昭和新日総力検証 マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー/ユセフ・トルコvs由利徹対談

第17号

★特集「実況パワフル北朝鮮」

猪木×永島のナマハゲ対談(© 大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場/巻末特集「藤原組の逆襲」

第18号

★特集「高田延彦さんへ愛をこめて」

引退宣言の読み方座談会/サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!/新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!

第19号

★特集「さようなら紙のプロレス」

『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!/サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

第20号

★特集「劇的格闘技」

真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー/山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場

第21号

★特集「幻的格闘技」

古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!/高田文夫、ユセフ・トルコが登場

第22号

★特集「この人が喝っ!!」

巻頭インタビュー・ジョージ高野/プロレス雑誌を斬る!!/高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー/M・マスカラス宣言号

★猪木とは何か?

スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃! どうってことねえよ!/村松友視、立川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場! 新間のPKO発言を誌上再録

★パンクラス公式読本

〜矛〜

97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!/なぜか突然、佐山聡が登場!/故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

★パンクラス公式読本

〜盾〜

97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?/故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

★極真とは何か?

不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!/松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

★紙の前田日明

〜インタビューという名のエネルギー史〜

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!/引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!/完全保存版

紙プロ 本誌が欲しいアミーゴのための申込み方法

●現在は1号〜4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!!●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号〜22号は780円となります。●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。●送料は1冊=310円、2冊=340円、3冊〜4冊=450円、5冊=520円、6冊以上=700円となります。●10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

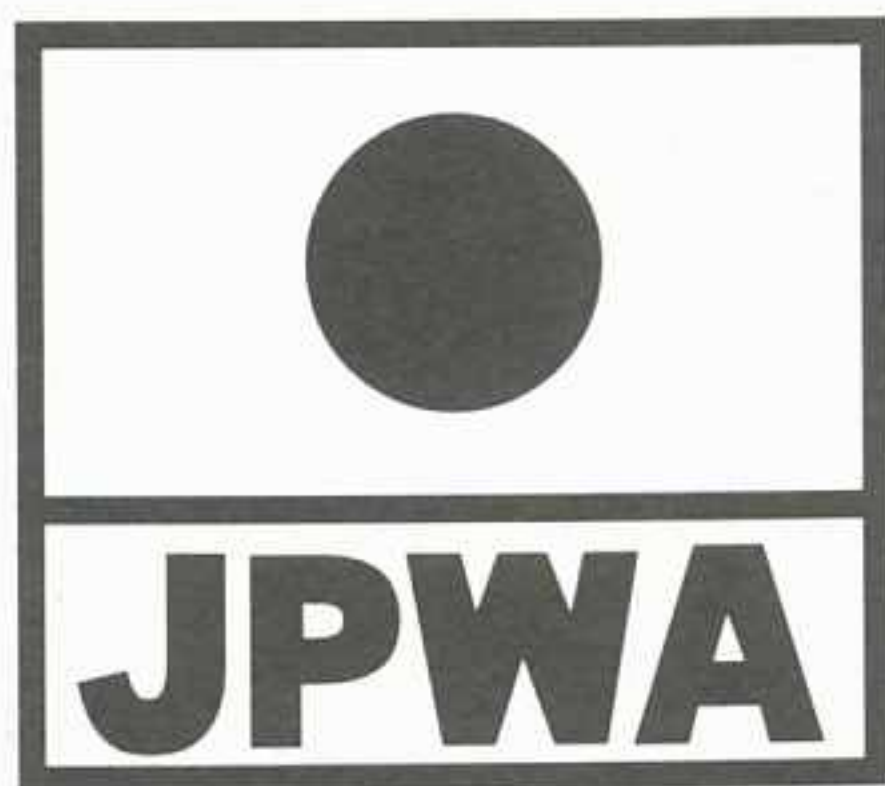
【郵便振替振込先】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス

※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。絶対おつりのないようにお願いします!

上の写真はすべて『紙プロ』本誌に登場していただいた方たちです。

JPWA

金はないけど信念はある！

JPWA
日本プロ・レスリング協会
旗揚げ！

プロレスリング復興ーーッ!!

聞き手&撮影／チョロ
interview & photographs by Choro

もう茶番はやめましょう！　高い入場料を払うファンは泣いてますよ。
笑いたかったら寄席に行けばいい！
アクロバットが見たかったらサーカスを見に行けばいい！
泣きたかったら映画を見ろ！
我々は計算された感動ではなく、強さを元にした勝負
そして感動をお見せします!!　(by髙橋代表)

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

我々はプロレスの土壌で本物の格闘技をやる！

コイツら、ホントにいいもん持ってるよ！

フジワラ・ジャパン発進！

2000年を迎えても変わらぬ他団体時代の中、あらたに『日本プロ・レスリング協会【JPWA】』が設立された。仕掛人は元FMW取締役営業本部長・高橋英樹氏である。元FMWということで意外に思う人もいるかもしれないが、高橋代表がやろうとしているのはエンターテインメントプロレスではなく、ガチガチの格闘技路線のプロレスリングなのだ。

JPWAの日本人メンバーは、監督兼コーチとして藤原組長、『紙プロ』にも度々登場の木村浩一郎、『紙プロ』でTシャツまで作ってしまった元バトラーツ岡本魂こと岡本衛、さらに他誌に先駆けて取り上げた佐藤耕平まで参加するというから目が離せない。『紙プロ』読者的にも実に気になる団体であろう。

旗揚げ戦の行われる4月14日には、UFC－Jの開催が決定しており、動員は苦戦が予想されるが、JPWAのポリシーである『我々は考える　我々は戦う　我々は挑戦する』精神で突き進んでもらいたい。プロレスリング復興ーッ！

元FMW営業部長
髙橋代表

を聞きなさい！

我々は考える
我々は戦う
我々は挑戦する

（JPWA旗揚げ戦キャッチコピーより）

「ファンにキャーキャー言われたいがためのデビュー、過剰なマイクアピール、格闘技者としての下地の無いプロレスラー、そのような秩序のない現在のプロレスをブッタ斬るつもりで、この団体を設立いたしました。我々は強さと勝負を重んじたプロレスを目指します！」JPWA設立会見で、一番のインパクトを残したのが高橋代表の熱すぎる所信表明であった。あなたも高橋代表の話を聞きなさい！

ガラスに頭突っ込んで血を流しながらしゃべるなんて僕でも出来る

―高橋さんはプロレス界の現状には相当不満があるんですよね。

高橋　ありますよ！　自分達のようにプロレス団体の営業として数字を追ってる人間というのは、いくら雑誌とか試合会場とかで盛り上がっていても、ホントの数字っていうものを知ってますから。「何だこりゃ、自己満足だろ」っていうのがありましたからね。プロレスというビジネスはこれじゃいけないなと。あるいはプロレスリングという格闘技はこれじゃいけないなと。実際、ショービジネスの中でプロレスっていう分野の今のやり方はビジネスになってませんから。ビデオ、グッズ、プロレスショップなんかも厳しいと思いますよ。それは何故かと言ったらリング上の事情が悪いからだと思うんですよ！

―それでも団体を興そうと思ったのはやり方次第でビジネスになりうる世界だと思ったからですか？

高橋　というか僕らの考え方は絶対支持されると思う信念だけなんですよ！　お金もないし、あるのは信念と自分の社会的なツテとか、営業的なチケットを売るルートだけですから。それがあればなんとかなるっていう部分でやってるんですけど、ホントに厳しい船出というのは間違いないですよ（苦笑）。

―高橋さんが考えるプロレスリングの一番いい時期っていうか、理想とするものはどういった団体になるんですか？

高橋　自分は単純にプロレスファンとして面白いなと思ったのは、UWFであったり、新日本対UWFであるとか、全日本対ジャパンプロレスであったり、ああいうものは凄く良かったですよ。

―会見の時には、「日本の野球のように送りバントなどではなくて、メジャーリーグのベースボールのような力対力の真っ向勝負をしていきたい」と言ってましたけど。

高橋　自分もそう思うし、他の選手もその部分では一致してると思うんですよね。ただ言えるのは旗揚げ戦は完成形じゃありませんから。もし悪いところがあったら、変えていくというのは、それはありだと思うんですよ。だけど、そのやってることの汗とか真剣さというのはやっぱり本物じゃないとダメだと思うんですよね。ガラスかなんかに頭からガーンと突っ込んで血を流しながら、「これでもプロレスは真剣勝負じゃないと言えますか！」って言っても、まあ気持ちは分かるけど、でも違うでしょって。やってる人には悪いんですけどね、レスラーの得意な分野なんですよ。試合が終わって血を流して汗流して「ハァハァ」言って、「これでも嘘か！」とか言ってますけど、よく言えると思いますね。バカだと思いますよ、ハッキリ言って！　ガラスに頭突っ込んで血を流してしゃべるなんて僕でも出来ますよ、我慢すれば（笑）。

―我慢すればですか（笑）。パンクラスとかリングスも時代の流れでグローブ着用したりルールも変化してきてますけど、基本的にJPWAでは顔面攻撃はなしという方向なんですよね。

高橋　そうですね。でもあれはあれで僕は一つの進化形でもあると思うんですよね。ただ自分が思うにはやっぱりでっかいヤツが少しぐらいぜい肉があっても（笑）、素手でパンツ一丁で向かい合うっていうのがプロレスラーだなっていうのがありますんで。野球でもサッカーでもでかいヤツじゃなきゃダメですよ。馬場さんの考えるプロレスってそこですよね。レスラーとしては小さくてもいいんですけども、プロという名前が付いたら、やっぱり常人じゃない人がやんなきゃダメですよ。ウチもまだまだ小さいですけどね。もう相撲取りとかと並んでも見栄えするようにしなきゃならないですよね。

―他のスポーツ界と逆行してプロレス界は小型化してますからね。やっぱりJPWAのような理念を持った団体だとどうしても道場は必要になってくると思うんですけど。

高橋　絶対必要です！　ホントにお金があったら真っ先に道場は作りたいですよね。やっぱり合宿所に入って、もう毎日練習をやって、プロレスラー的な、計算されたカロリーとか食事でもいいとは思うんですけど、人前で意味もなくブッ叩かれるとか（笑）、「メシ十合食え！」とか言われて食っちゃうような世界がいいですよね。

―アハハハ！　いいですねぇ

髙橋代表の話

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

お客さんを熱くしたい　ある意味　暴動もオッケー！

（笑）。それこそ日プロや昭和新日の世界ですね。そういう意味では藤原組長は適任ですよね。米国以外の監督は現段階では正式には決まってないと思うんですけど、候補としてはどのようなビッグネームが挙がってるんですか？

高橋　現段階では希望でしかないんですが、例えば往年の名選手が背広を着て激を飛ばしているシーン、そういうシーンの中でニックさんであるとか、あるいはタイガー・ジェットシンであるとか。あるいは大木金太郎さんであるとか。あるいはアイアン・シークがイランチームの監督だったりですね（笑）。

――それは素晴らしい！（笑）。

高橋　逆に悪役だった人がキチッと背広を着て真面目にやるっていうのもカッコいいと思うんですよね。往年の名選手は、実際今とは違って格闘技者としての下地を持ってたと思うんですよ。そういった部分では僕は信用してるんですけどね。

――往年の名レスラーは現状のマット界を見てだいたいが苦言を呈しますからね。

高橋　そうですよね。まあミル・マスカラス監督とかが来てメキシコチームとかも有りだと思うんですよ。

――格闘技系の団体でマスクマンが上がるっていう可能性もありますよね。

高橋　覆面っていうのは、別に悪いことではないと思うんですよ。まあアントニオ猪木対ミスターXなんて試合もありましたしね。ただ逆に覆面ってなんで悪いのかなって思いますよね。ホントに素顔を隠したい人もいるわけですよ。他に職業を持ってたりとか。ホントに出せない人は僕はそれはありだと思ってるんですよ（笑）。ただその条件はホントに強い選手という部分ですよね。ウケ狙いでマスクを被っちゃったらそれは違うと思いますから。

――話しだけ聞いてるといろんな可能性がありそうですね。

高橋　ただお金がないんでね（苦笑）。この熱いハートをプロレスファンの人はどれだけ感じ取ってくれるか。でも、お金がないからっていって妥協はしたくないッスね！　妥協するんだったら辞めますよ!!

――高橋さんの話を聞いてるとそんな気はしますけどね（笑）。ＪＰＷＡはどういった客層をターゲットとして考えているんですか？

高橋　自分はプロレス好きのファン、空手ファン、レスリングファン、修斗ファン、柔道ファンの人達が見に来れるような世界にしたいなと思ってるんですよ。ただ、そこに興行としての原風景としてお客様を煽るとか、盛り上げるという部分では、今までは選手にだけ一任してきましたよね。そうではなくて、野球とかサッカーみたいに、国旗を持たせるとか、笛を売るとかして、メガホンを売るとか、客も黙って見るんじゃなくてね。野球を何で見に行くかっていったら、やっぱりビールかなんかを飲んで、「行け行け！」ってこれもんですよ！　酒飲んで酔っ払って（笑）。それがホントのプロスポーツの観戦の仕方だと俺は思いますね。

――ひどい試合だったら暴動起こすぐらいの熱は欲しいですよね。

高橋　ホントにそう！　暴動も有りですよ（笑）。暴動オッケー!!

――アハハハハ！　暴動オッケーですか（笑）。やっぱりそれぐらい選手もファンも熱くなって欲しいですよね。乱闘、乱入とかそういった部分は排除するって言ってましたけど、勢い余って藤原監督とニック監督が掴み合いになったら、それはそれで面白いですけどね（笑）。

高橋　それは面白いですねぇ（笑）。それもなんで面白いかっていったら、厳しく規制してる中でそれがあるから面白いと思うんですよ。でもそれは計算してやったらつまらないと思うんですよ。やっぱり自然に出るもんじゃないと。

――計算が見えちゃうのが最近のプロレス界には多いんですよね。

高橋　実際計算してますしね。バカな頭で（笑）。話は変わりますけど、世界にはもっともっと強いヤツがいっぱいいますから。だってグレイシーなんとかいう人は、ただ宣伝がうまかっただけですよ。

――今になってあちこちで言われてますからね。

高橋　だけど芦原英幸とかは始球式には出ませんからね（笑）。やっぱり彼は芸能人ですよ。ホント強いヤツはもっといますよ。まだ世に出

これが監督兼コーチを藤原の元に集まった、『フジワラ・ジャパン』の５人である。左から
岡本衛（空手）180cm、95kg。極真空手『'94全日本大会』出場。元バトラーツ。空手初段。本人から一言「俺はファイティングマシーンになる！　岡本魂ではなく本名の衛でいきます！」
橋本友彦（柔道）183cm、105kg。『'94高校柔道金鷲旗』団体ベスト16、『'95近畿高校柔道大会』優勝。『インターハイ予選95…以下級個人優勝』。柔道３段。本人から一言「早く闘いたい！」
木村浩一郎（プロレス）183cm、100kg。アマレス。インターハイ団体２位。ＳＡＷ３連覇。『バーリ・トゥードジャパン '95』でヒクソンと闘う。元ＤＤＴ。
佐藤耕平（修斗・柔術）191cm、100kg。『'98アマ修斗ヘビー級』優勝。柔道３段。Ｊ．Ｊ．Ａ所属。本人から一言「一日でも早く試合がしたい！　あとヤマケンと闘わせて下さい！」
前川烈（レスリング）184cm、100kg。『'96レスリング全日本社会人』90kg級優勝。『'97コマンドサンボ』80kg級優勝。レスリング３段、柔道２段。本人から一言「ボクはプロとしても試合をしますけど、アマチュアの試合にもドンドン出ていきたいです。頑張ります！」

レスラーの私服は背広の胸元を開けて大きな襟のシャツを着るべし

てない格闘技なんていっぱいありますもん。あぁ、こういう話してると熱くなっちゃうんですよ（笑）。

――聞くところによると、高橋さんは永ちゃんが好きみたいですね。

高橋　やっぱりプロレスファンってみんなハードボイルド好きだと思うんですよ。ハードボイルド好きとか、ウルトラマン好きとか、完全懲悪好きとか、あるいは怪獣好きであるとか、あるいは巨人の星好きであるとか、このビジネスのポイントはそこにあるかなと自分では思ってるんですよ。巨人の星とか空バカ（空手バカ一代）とか、ああいう梶原一騎作品がなんでファンの支持を得たかっていうと、やっぱり一生懸命さであるとか、真剣さとか、笑いはなかったですよね。そういう部分だと思うんですよ。本物であるとかね。まあ大リーグボール3号が本物かどうかはわかんないですけど（笑）。

――練習すれば投げられるもんだと思ってましたけどね（笑）。

高橋　夢があるとかね。プロレスっていう商売は、まあ商売って言い方したら全然夢は壊れちゃうけど、それでも無頼さであるとか、人の道を外れてるとか（笑）、ハードボイルドであるとかっていう部分は絶対必要だと思うんですよ。

――それは必要ですよね。レスラーたるもの道はドンドン外れて欲しいですよね（笑）。プロレスラーが常識人の集まりになっちゃったら夢も何もなくなっちゃますからね。

高橋　そうなんですよ！　つまんないんですよ。その部分でウチは形をスポーツにしてますけども、その無頼さを表現するにはブサイクな連中がいるとかですね。ブサイクだけども、でっかくてホントに強いっていうのがいいですね。あと試合もハードだっていう部分で表現できるんではないかなって思ってるんですよ。プロレスっていうのは、いかがわしさであるとか絶対に必要ですよ。やっぱり一般生活が出来ないようなバケモノの集まりが理想ですよね。「よくコイツ結婚できたな」みたいなね（笑）。

――いちいち素晴らしいですよ！

高橋　まあいくら何度言葉で言ってもやっぱりリング上ですから。その日の大会がどうなるかですからね。それでウチは大会名の「スーパーレッスル」っていう名前がK－1みたいに定着していけばいいと思ってるんですよ。大会名も何とかシリーズとか付けてもなんの意味もないですよ！　それを作るのに頭悩ませてるんですから、くだらんですよ（笑）。時間の無駄！

――時間の無駄ですか（笑）。

高橋　ただ、プロレスのいいところは僕は使った方がいいと思ってるんですよ。我々は格闘技の土壌でやってるんじゃないんで、プロレスの土壌で格闘技をやってるっていう部分ですから。やっぱり時代は本物を求めてますよ。

――ＪＰＷＡでは本物をとことん追求していくと？

高橋　そういった意味でターザン後藤クンなんていいですよね。あのファッションこそ本物のプロレスラーですよ。あれがレスラーの制服ですよ！　インタビューとかもウチの団体は私服は背広を着て胸元は開けて大きな襟のシャツを着ると（笑）。

――ベルトはでかいバックルですね。それは素晴らしいです！　そのまま突っ走って下さい（笑）。

高橋　しゃべり方もちゃんと社会人ぽくしたいんですよ。「なんとかでさぁ」とかダメですよ！　大阪弁もダメ!!　大阪弁を使って活きるレスラーってリングスの総帥ぐらいなもんですよね（笑）。

――前田さんはオッケーと（笑）。

高橋　前田さんはドスが効いてますからいいんです。でもやっぱり世界に発信してるんですから共通語を使わないとダメですよ。まあ、欲を言えば自分のことはワシとか言って欲しいッスよ（笑）。

――アハハハ！　清原さんじゃないんですから（笑）。でもやるからにはそこまで徹底して欲しいですね。旗揚げ戦はワシも大いに期待してますんで頑張って下さい（笑）。

【2000年3月3日、ホテルＪＡＬシティ四谷にて収録】

3月2日、某団体の道場で藤原監督とフジワラ・ジャパンの5選手による合同練習が公開された。全員が揃うのはこの日が初めてだったが、それを感じさせない熱のこもったスパーリングが繰り広げられた。藤原監督も鋭い眼差しで各選手に激を飛ばしていた。

アメリカ監督 ニック・ボックウィンクル

現時点でアメリカチームは、監督がニック・ボックウィンクルということしか決まっていないが、アメリカはプロレス大国だけに、Bチーム、Cチームと増殖していく構想もあるという。

メキシコ監督 ミル・マスカラス？

メキシコ監督にはぜひマスカラスに就いてもらいたい。リングサイドで選手に激を飛ばすマスカラスが見たい。

イラン監督 アイアン・シーク？

アマレスで2度もオリンピック出場したほどの実力者アイアン・シークがイランチームの監督になれば面白い。

インド監督 タイガー・ジェット・シン？

インドの監督はシンがベストだろう。熱くなって対戦相手に手を出しかねないが、それはそれで売りになるはず。

ヨルダン監督？ アラブ監督？ ザ・シーク？

ヨルダンか？　アラブか？　どこの国かは不明だが、往年の名選手という意味ではシーク監督というのも期待したい。

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

木村浩一郎

やっぱり日本では“闘い”という部分を見せなきゃダメでしょ

エンターテインメント路線が評価され、注目を集めているDDT。その中で飛び抜けた強さを見せつけてきた木村浩一郎。木村はエンターテインメント路線にも抜群の対応力を見せていたが、ここにきて遂に動いた。新団体JPWA参戦が決定したのだ。木村はJPWAでどんなプロレスをしようとしているのか？　話を聞いてみた。

――ＪＰＷＡは、この間の会見での高橋代表の演説を聞く限り、かなり硬派なイメージですよね（笑）。

木村　そうでしょ（苦笑）。でもボクの中ではありのままを出せればいいかなぁというか、自然体がボクは好きなんで、偉ぶったりカッコつけるのは得意じゃないんで。

――今まであった団体の中で、スタイル的に近そうなのはどの団体になりますかね？

木村　いや全くないですよね。例えばチーム的なものでプロレスをやってるところは今までないですし、ウチがやろうとしてるのは何とか軍対何とか軍とか、イルミネーションマッチとかそういうのでもないんで。ホントに一対一の闘いが軸なんでね。あとは個人がどれだけ力をつけて、いろんなところに出ていくかだけなんで。

――会見での発言とかを聞くと、いわゆるU系団体に近いのかなと思うんですけどね。

木村　藤原さんもいますからね（笑）。あとは、みんな格闘技出身ですから、U系と言われればU系なのかもしれませんね。

――それとは違う色を出していければと思ってるんですよね。

木村　もちろんです。まぁルール的なものは代表を含めてこれからやっていきますけど、プロレスリングで反則有りはやっぱりおかしいですしね。それに顔面は殴らないというのがプロレスリングの基本にあったわけですから。それに則るのはプロレスリングでは当たり前ですし。

――木村さんは現状のマット界に対して不満はあるんですか？

木村　う〜ん、まあプロレスは闘いだから、闘いがなくなったらそれはショーでしか有り得ないし。そういう部分でプロレスというものには否定はないですよ。ただ闘いという言葉を当てはめるんであれば、やっぱデスマッチ系はちょっとどうかなっていうのはありますね。まあでも彼らは彼らで体を張ってるわけですから、「じゃあアレやれる？」って言われてもボクには出来ませんから。

――最近はＷＷＦのようなエンターテインメントプロレスというのも確立されてきてますよね。よく言われるのは、基礎がしっかりしていて、本当に強い選手がエンターテインメントプロレスをやるのはオッケーっていう意見ですけど。

木村　でもＷＷＦに関して言えば、ＷＷＦの選手を見て正直言ってお客さんは「コイツは強いんだ」って思ってないと思うんですよ。

――でも、トップ選手は間違いなく強さを持ってると思いますよ。

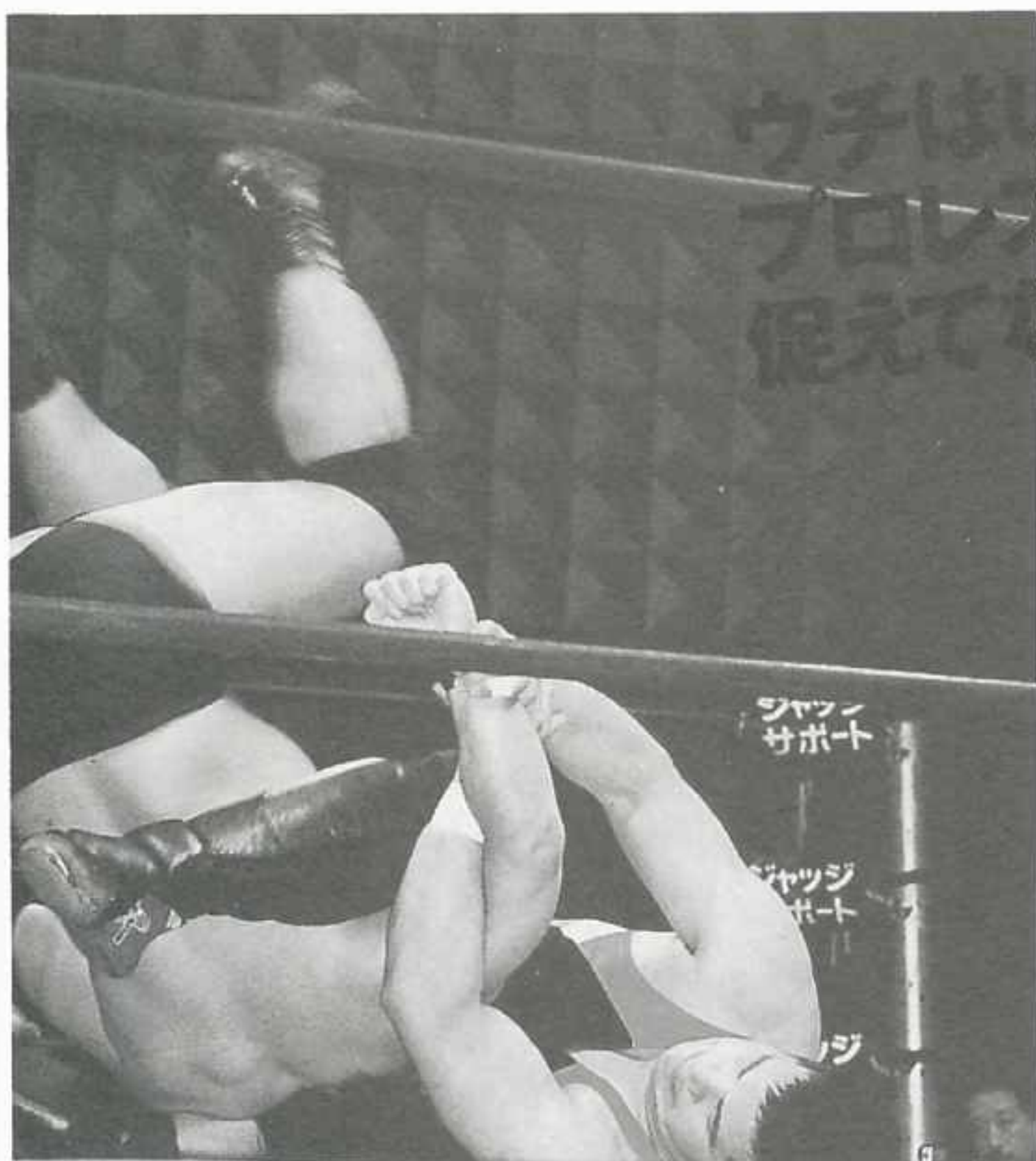
木村　で〜もそれは一部じゃないですか。全部が全部じゃないでしょ。格闘技系の選手からすればああいうのは、やっぱり「なんだ？」ってなると思うんですよね。

――そういう声も想定してケン・シャムロックであったり、オリンピック選手のカート・アングルとかを上げて説得力を持たせてると思うんですよ。

木村　そうだよね。でもだから、ホントの意味でのエンターテインメントというかね、そういう部分は凄いと思うんですよね。でもボクはそれが嫌とかそういうんじゃないんですけど、やっぱり闘いが好きなんで。まあそれはＤＤＴでも出来たかもしれないですけど、でもやっぱりＤＤＴは高木の色が濃いんで、高木の方もいい調子で来てますから、それはボクは否定しませんし壊す気もないんで。ただ今のままではＤＤＴはダメだと思うんですよ、日本では特に。やっぱり日本では闘いという部分がクローズアップされるからね。

――日本のファンは特に強さというものを最重視しますからね。

木村　でしょ？　強さという言葉が凄い重要視されますから。あえて言いたいんだけど、ネット上で「高木はレスリングできないクセになに言ってんだ！」とか「ＤＤＴはレスリングできねえじゃねえか？」とかよく書き込まれてるんだけど、それで、この間のオレと高木がちょっとグラウンドやったら次の日には「高木はグラウンドもできるんじゃないか」とかあるんですよ（苦笑）。じゃあ、「ガチの選手はプロレスリングできるの？」ってことになっちゃうから。逆に言えば、みちのくとかＣＩＭＡＸとか四代目タイガーとかは、まあタイガーは別だけど、彼

ＪＰＷＡ設立会見後に行われた2・28ＤＤＴ北沢大会。突然のＴＡＫＡみちのく登場によりリング上は大混乱。浩一郎は「ＤＤＴとの関係がハッキリするのはＴＡＫＡの件が綺麗になってからだね」と語った。どうする木村？　どうなるＤＤＴ？

ウチはいい意味でしかプロレスという言葉を捉えてないんで

らはそういうの出来るのって言ったら、それはクエスチョンでしょ。そういう意味でDDTっていうのはどっちつかずになっちゃってるから、それがいいのかよくないのかわかんないですけどね。基本的に強さを持ってる人間がそういうことをやっているっていう、じゃあそのWWFの選手の根本にそういうのがあるんであれば、その部分はDDTは同じだと思うんですよね。

——JPWAにおいては、やっぱり強さが大前提になるわけですね。

木村 ていうか、進行形にしたいと思うんで。ここはここで個人がレベルアップして、例えば『PRIDE』であるとか、UFCに出ていったり、あとはアマチュアの選手がプロで頑張りたいというのがあれば、とりあえず、ボクら5人を倒すぐらいの気持ちで入ってくれれば、それはそれでいいと思いますんで。

——前川さんも、ここの試合に出ながらアマチュアの大会にも出たいって言ってましたね。

木村 ウチは個々の活動は否定はしませんけど、それなりの覚悟で練習に励まないとこれからアマチュアの試合には出れないと思いますね。アマチュアは負けても個人だけでしょ。「あぁ、負けちゃった」でいいけど、プロレスラーは団体を背負っちゃうから、負けちゃうと「なんだあの団体は」って言われますからね。まあその辺がプロとアマチュアの違いですよね。

——JPWAでは「プロレスリング」ということを強調してますけど、木村さん自身もプロレスという4文字とは一線を引きたい部分があるんですか？

木村 じゃあウチは格闘技を見せますよって言ったって、じゃあこの間の高田対ホイス戦とか、ああいう試合を見せちゃったら、どうなるのっていうのがありますから。だから基本的にはプロレスリングという言葉があれば、いろんな可能性が広がると思うんで。ウチはいい意味でしかプロレスという言葉を捉えてないんで（笑）。悪い意味でのプロレスということは考えてないですから。あとは知らないんですよね、ボク以外の選手が。プロレスという言葉の奥深さがわかってないんですよ。

——プロレスの奥深さか（笑）。

木村 奥深さを知らないし、どういうのがプロレスでどういうのが格闘技でどういうのが他のことかっていうのをまだ知らないんでね。逆に言えばその辺がまだ救いであって。だからプロレスリングの良かった頃、いいとこばっかりを詰め込みたいなというのがありますからね。だからホント可能性だけなんですよね。成功する保証もないですし、絶対に客が入るともボクは思ってないんで（笑）。

——旗揚げ前からそんな弱気でどうするんですか！（笑）。

木村 だって現状ではまだ全然ダメだと思いますよ（苦笑）。でも、とりあえず代表は客を入れそうな雰囲気は持ってるんでね。だからいつもボクが言ってるのは「ソフトを作るのはボクらです」と。あとは代表がハードをいかに売る、営業力というか、それに懸かってますんで。だからとりあえずソフトの部分をボクと組長で作っていこうと思ってるんですよ。ボクはDDTを3年間やってきて自信を持って試合は作ってきたつもりなんで。それが今の高木に現れてきたと思うしね。初めは「なんだお前！」っていう感じだったのが3年で高木になったわけだから。まあボクは自分が自分がっていうのはないんで。実際ボクは弱いんで（笑）。

——弱かったんですか（笑）。

木村 ボクは弱いですよ（笑）。自分で強いって言う人がいたら凄いなって思いますね。ボクより強いヤツは山ほどいますし。その辺は自分がやっぱ一番わかってますからね。だからとりあえず今は下の者にどういう風に光を当てて、JPWAの中での高木三四郎を作っていくかですよね。でもホンットにやってみないとわかんないんですよね。彼らはプロレスリングが初めてだから、まあ前川と岡本はちょっとはありますけど、ホントの意味でプロレスリングは初めてじゃないですか？ でも、みんな素材はいいものがあるんで、あとは組長がどういう風に料理してくれるかって感じですよね。あとはオレとか代表が味付けして調味料になればいいかなぁと。自分もまだ身体も戻ってないんで。ヒクソン戦以来4年半なにもやってないですから。

——なにもやってないってことないじゃないですか（笑）。確かにプロレスの身体と格闘技の身体は違うって言いますけど、同じプロレスリングではあるんですから。

木村 そういう線引きはいけないんでしょうけどね（笑）。ボクもプロレスがニセモノとは言わないですけどぉ（笑）、でも昔のプロレスリングに戻らなきゃいけないと思いますよ。旗揚げまでは進化しますから！

——とにかく試合を見てくれということですね？（笑）。

木村 闘いしかない！（笑）。だってさぁ、アイドルみたいな顔はいないしさぁ。だからホントにウチの団体のアピール度は可能性だけになっちゃいますよね。で～もやっぱり厳しいですけどねぇ、金ないし（苦笑）。まあ旗揚げ戦は期待して見に来て下さい！（キッパリ）。

【3月2日、某団体道場にて収録】

「紙プロR、NO22」でのインタビューで浩一郎は、「近いうちに面白い話がお伝えできるかと思います。それ聞いたらビックリするよ！」と言っていたのだが、それが今回のJPWA設立の話だったのだろう。

FSR主催興行

PROFESSIONAL WRESTLING

キングダム・エルガイツ

KINGDOM EHRGAIZ

U.W.F. SOUTHERN CLOSS

集結せよ。

様々な格闘技のバックボーンを持つ戦士達が九州に集結。この日、確実に何かが起きる!

UWFの父
関節技の父
藤原喜明
岩手県出身

THE LAST OF KINGDOM
プロデビュー以来10連勝無敗
オールギブアップ勝ち!!
入江秀忠
95全日本アマ修斗ヘビー級優勝
97全日本総合格闘技大会無差別級優勝
97コンバットレスリング85kg超級優勝
長崎県対馬出身

FSR ザ・コブラ
ジョージ高野
北九州出身

元K－1
フェザー級王者
村浜武洋
石川県出身

野武士
中野巽耀
茨城県出身

U.W.F.

[リングアナ]
服巻浩司
[公認レフリー]
籠ヶ崎五郎
[その他出場予定選手]
内藤恒仁／幸村ケンシロウ
タノムサク鳥羽／ビクター・ルイス
その他、強豪選手

[キングダムルール]
●打撃・投げ・関節技・絞め技全てOK
●マウントパンチOK
●オープンフィンガーグローブ着用
●勝敗はKO・TKO若しくはギブアップのみ

THE ROAD OF KINGDOM
アマチュアバウト
キングダム公式ウェイト制マッチ
同時開催!!

キングダム
エルガイツの若武者
布施智治
千葉県出身

カーウソン・グレイシー柔術
稲野岳
マーカス・コナン道場OB
98ジョー・モレイラ杯ライト級優勝
広島県出身

4月22日(土) 開場16:30 開始18:00
[チケット料金]リングサイド¥7000／指定席¥5000／自由席¥3500(当日¥500増)

[チケット販売所]
博多スターレーン(TEL.092・451・0016)、ローソンチケット、チケットぴあ、小倉井筒屋、プレイガイド別館6F、小倉そごう1F、黒崎井筒屋、黒崎そごう7F、ジョイロード小倉支店、東秀苑、POWER、ミロワール、くいしんぼ、WATER CLUB

4.22(土) 小倉市西日本総合展示場新館
(JR小倉駅徒歩5分、駐車場有り)

[主催](株)FSR事務局【TEL.093・581・6198 (担当:織田 TEL.090・3325・5587)】

Produced by U.W.F. (United World Fight)

ジョージ高野、藤原喜明、中野、村浜武洋など大物が集結し、不思議なパワーを発している団体、それがキングダムである。この団体のエースは入江秀忠。少年時代、アウトローでならした入江が最初に始めた格闘技は相撲。土俵の上でもアウトロー全開の入江は対戦力士に飛び蹴りを喰らわし新聞沙汰に。その後、修斗を始めた入江はアマ修斗ヘビー級優勝など次々と結果を残し、満を持してキングダムに参戦。しかし、当時のキングダムは……１人抜け、２人抜け状態。その後、必死にキングダム守りを続けてきた入江に、今ようやく光があたりつつある。試合後恒例の絶叫マイクパフォーマンスの入江劇場も今やすっかり下北名物。今回は入江劇場『紙プロ』版をお届けする！

“U”の砦を守り続ける孤高のエース

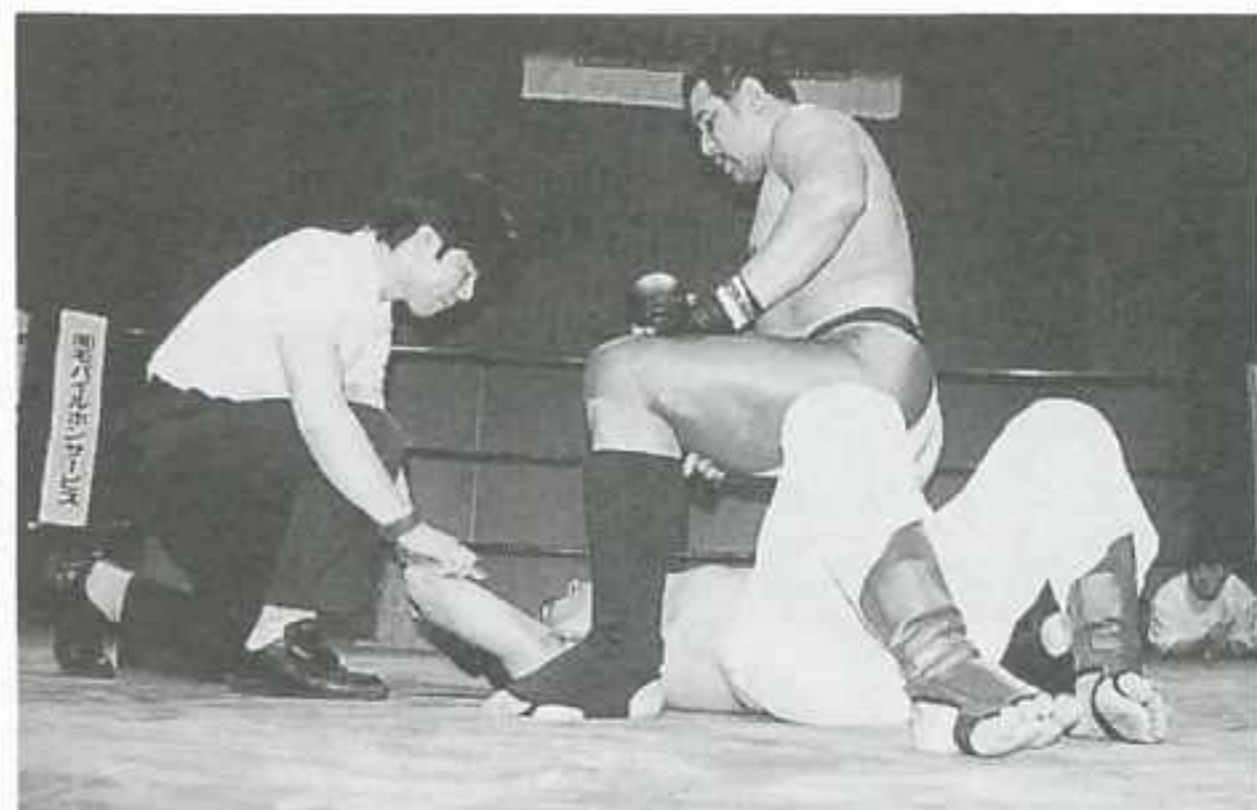
入江秀忠

キングダム・エルガイツ

エスケープがない団体は、思い切った攻防をしづらい部分があると思うんです

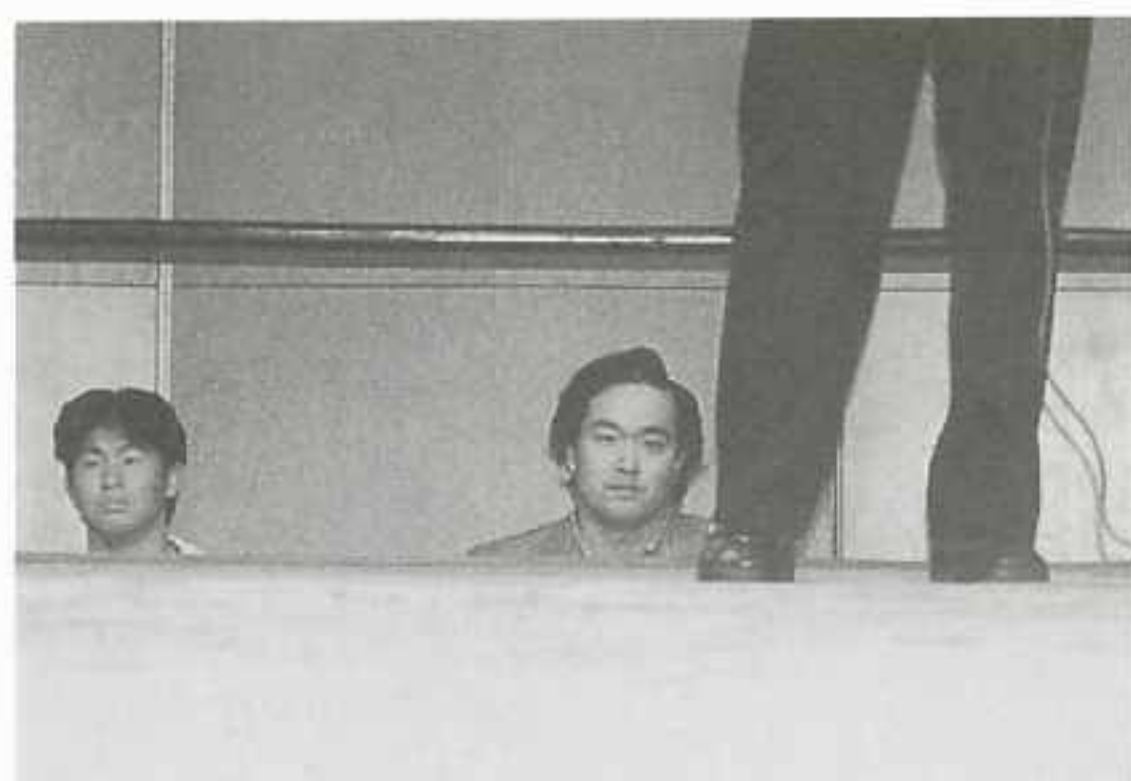
今、桜庭さんや、金原さん、ヤマケンさんの活躍で、またキングダムが再評価されてるみたいですけど、キングダムはなくなったわけじゃないですからね（苦笑）。キングダム・エルガイツとして頑張ってますから。ただ興行面的に言えば、以前の十分の一のところでやってるんで（苦笑）。まあ一度死にかけてるっていうか、潰れかけて浸水しながらやってるっていうかぁ（微笑）。

キングダムのルールは、他の競技と比べて、ルール自体が博打ができるルールだと思いますね。いまウチのルールに一番近いのはリングスのＫＯＫルールだと思うんですけど、ウチとの違いはエスケープを残してるってことですね。やっぱりエスケープがない団体は、思い切った攻防をしづらい部分があると思うんですよ。昔のＵＷＦがそうであったように、お客さんへのアピールとして、真剣勝負の中でも、ドロップキックであったり、そういうことをして不利な状況になったとしても、キングダムルールはポジションがしっかりしてて、なおかつガードがしっかりしてる選手だったら博打が打てるんですよ。それが面白いと思うんですよね。例えば、僕がシューティングをまだ続けてて「浴びせ蹴りやれ！」って言われても、できないですからね。失敗したら殴られるじゃないですか。ウチはマウントポジションのキープができてからじゃないとパンチは認められないんで。それに僕は寝技には絶対的な自信があるんで、不利な体勢になってもマウントまで行かせない自信があるんですよ。

僕はスポーツとバーリ・トゥードは分けてるんですけど、ウチはバーリ・トゥードにも対応できるルールではあるけどども、それとは別に、キングダムっていう最高峰のスポーツを確立しようと目指してるわけですよ。でも僕はバーリ・トゥードは下火になっても残ると思うんですよ。なぜかと言うと、最強の概念がどうしてもあると思うんですよ、ある程度は。だからウチはバーリ・トゥードにも出ますけど、キングダムっていうものを残して行きますよっていうスタンスなんで。ルールがなくなったら、キングダムじゃなくなりますから。キングダムル

2・23キングダム。久々の試合出場のとなるジョージが選択したのはキングダムだった。コブラマスクで入場し大歓声で迎えられたジョージはイラン人ボクサー・マスド・メラッカを相手に危なげなく勝利を収めた。ちなみに試合用ニータイツには「ＳＷＳ」の文字が……。

成瀬さん、もう一回、中量級トーナメントを呼びかけて下さい！

ールっていう最低限のものがある今は、いつまでもU系の団体であり、キングダムですから。
　ウチがUを守るって言ってるのは、結局、リングスもパンクラスもU系の団体ではありますけど、ハッキリ言って逸脱してると思うんですよ。昔のUWFっていうのは、そうじゃなかったですから。UWFのスタイルっていうのは、ジャーマンであったり、見せる大技が出せてたと思うんですよ。僕はそれを真剣勝負で、さらに進化したUWFをやりたいんですよ。もしかしたらキングダムルールがファンが望む形かもしれないなって考えたんですよね、最終的にバーリ・トゥードじゃないなって。
　だからといって僕は逃げてるわけじゃなくて、本当にいろんな団体に何回も「出させて下さい！」って頼んでるんですよ。でも「無名だから」とかいう理由で断られたことも実際ありましたけど、その団体には僕以上に無名の選手も出てる場合がありますから。そういうことを考えると、真剣勝負を名乗ってる団体が、たとえ無名でもね、挑戦してきた人間を使いもしないっていうのは何か問題があると思うんですよ。
　だから今まで僕を出してくれた掣圏道であり、DDTであり、そういうところには、僕の名前が上がったとしても弁当と交通費だけで出ますけど、他は名前が上がったあとで「出てくれ」って言われてもそれは出ないですよ！
　それと言っておきたいのは去年リングスの成瀬選手が中量級トーナメントを呼びかけましたよね、僕はすぐに名乗りを上げたんですよ。僕が成瀬さんの言葉になぜ共感できたかというと、成瀬さんは、「俺は強いからやろう」っていうんじゃなかったじゃないですか。「名前がなくても、実力のある選手でやりましょう」って言ってくれたんで、僕は協力しようと思ったんですよ。あとはバトラーツの日高選手だけでしたけど、僕は巴戦でもなんでもいいから、3人だろうとやってくれればと思ったんですけどね（笑）。だから、成瀬さんには、もう一回呼びかけて欲しいんですよ。そろそろ復帰されるんですよね？　僕は成瀬選手は強い方だと思ってますし、もう一度呼びかけるんだったら、よろしくお願いします（笑）。自分は団体を背負ってるんで、もちろん優勝を目指しますよ！
　これからのウチの団体は形式ばった団体ではありえないことをやって行こうと思ってるんですよ。僕のマイクアピールもあれは地なんで（笑）、ホントはもっともっと言いたいことがあるんですけどねぇ（笑）。
　自分は長いものには巻かれないとか、そういう人間なんで、一本筋通して損得勘定抜きで生きてるつもりなんで、これからもマイナスになる部分が多いと思うんですよ。だけど自分の中の意思は絶対に変えるつもりはないんで、それで反感を買ったとしても、いまついてきてくれてる人のために闘ってるだけなんですよ。結構裏切られたりしてるんで（苦笑）、何度もやめようと思いましたけど、今は我慢してるし、今まで圧力かけたり、「入江を出すな」とか言ってきた連中に対してはブチ切れてるんで、もしキングダムがなくなったら僕は行く場所も帰る場所もないんで、一人ずつ●●●●して、●●●入るつもりでいます（キッパリ）。それぐらい覚悟して潰しに来いと。ホントに自分はここしかないんですよ！　だから僕はキングダムを代々木第二体育館までは必ず持って行きます！　代々木まで戻って、なにがあるかっていったら、行ってみないとわからないけど、ただ納得できるまでやってから次のステップに行きたいんで。それがキングダムに対する恩返しですね。
　キングダムって別に人じゃないんですけど、死にそうになりながら生きてる気がするんですよね。これがホントにポッと出の団体だったらなくなってもしょうがないと思うんですけど、長い歴史があって、UWFの最後の一本柱ですよ。もしかしたら第三次UWFになるかもしれないしじゃないですか（笑）。
　僕はデビューしてから10連勝でまだ一度も負けてないんで、いけるとこまでいきたいですね（笑）。

僕は真剣勝負で、さらに進化したUWFをやりたいんです

2・23キングダム北沢大会には大阪プロレスで活躍中の村浜武洋が顔を見せ、さらに3・9UNW後楽園大会でジョージ高野と闘う"悲しき天才"セッド・ジニアスまでもが来場した。リング下の本部席には、なんとも不思議な2ショットが実現。こんな異色の顔合わせが見られるのもキングダムの魅力である。

ザ・検証

プロレス点と線

河口仁が親戚の子かなんかの合格発表を代わりに見に行った心境に例えてVTを語っていたことは記憶に新しいが、なんかそういうこじつけに近い感じで、マット界のあらゆることを検証するページ！　今回のテーマは維震軍のその後。新幹線の食堂車廃止のニュースに代表されるように、維震ゆかりのものがどんどん失われていく昨今、あの侍たちは今どうなっているのかを検証していきたい。維震 NOT DEAD！

ザ・検証

【今月の検証】

維震以後～名古屋に南国はあるのか!?

byせき詩郎

そのとき私は静岡県の菊川という場所に居た。目的地は名古屋であった。予定ではすでに名古屋に着いているはずだった。しかし、そのとき居た場所は菊川とかいう場所だった。

なぜ私が名古屋を目指していたのか、その理由を説明しなければならないだろう。始まりは極秘入手した一枚の名刺であった。その名刺には「Light Bar」の文字と「AKITOSHI SAITO」の名前。アキトシサイトウ、そう、斎藤彰俊である。維震軍解散後、唯一その消息がわからなかった斎藤彰俊の名前がそこにあった。

維震軍解散から約一年。当初は解散という悪夢から抜け出せなかった全国の維震軍ファンたち。私もその一人である。解散が発表されてからというもの、毎日が空虚であった。解散が悲しくて枕を濡らした夜もあった。解散が信じられなくて自暴自棄になって他人を傷つけたときもあった。時には自分をも傷つけた。解散を受け入れたくないばかりに酒に溺れた人もいれば、産まれてきた子供に「維震」と名付けてしまい、どうしようかと悩む維震ファン夫婦もいた。しかし維震ファンを責める者は誰もいなかった。みんな、維震ファンの哀しみを知っていたから……。

やがて時は流れ、維震ファンは大人になった。維震の代わりを見つけた者、維震ファンだったことを隠し他のファンへと代わることで自分を納得させた者、維震ファンとは逆の立場になった者、維震ファンだった過去を正当化しようと努力する者、維震ファン以外の集団へ溶けこんでしまった者……。昇華、補償、反動形成、合理化、同一化、と方法は違えども、維震ファンは解散という事実を受け止められるまでに成長した。それぞれの道を歩き出していた。ゲストの「〇〇年生まれです」というセリフに驚くタモリの様に、いつの日か維震を知らないというファンに維震ファンだったものが驚く日もそう遠い未来ではないような気がしていた。

がしかし、維震ファンの心にはひとつの共通した思いがあった。その思いとは「斎藤彰俊はどうしたのだろ？」という疑問に他ならない。本隊に戻った越中、T—2000入りした野上、後藤、小原、引退を決めた小林……。が、彰俊のその後は誰も知らない。

それは突然であった。昨年の秋過ぎ、維震ファンが他の人達と同様に冬支度を始めた頃、あるニュースが私の耳に入ってきた。〝彰俊選手は名古屋で南国風の飲食店を始めたらしい〟というもの。そのニュースには証拠が無く、ガセネタの可能性があった。根も葉もない噂かもしれないし、維震ファンをからかって楽しんでいる愉快犯の仕業かもしれなかった。しかし我々の維震魂を再び呼び戻すには十分過ぎるものであったし、維震ファンはそのニュースを決して疑うことなく受け入れた。維震ファンはそのニュースが本物であるという確固たる自信があったのだ。なぜならば〝南国風〟というその三文字がそこにあったからである。彰俊と南国、両者には切っても切れないある繋がりがあったのだ。それを維震ファンは知っていたのだ。

みなさんは憶えているだろうか。維震軍の合宿を。藤波を排除し、天龍を受け入れたニュー維震軍が行ったサイパン合宿のことを。越中のベルト総なめ発言と彰俊をジュニアに転向させる発言、はたまた小原&後藤の地元警察による職務質問（無罪）などなど、お家騒動で沈静化してしまった維震軍が、やっといつもの維震軍らしさを取り戻したあのサイパン合宿に、彰俊選手は不参加であったのだ。理由はパスポートの期限切れ……。

パスポートがなければ、たとえ維震軍といえども海外へ行くことは出来ない。そのため彰俊選手は一人、日本で留守番となったのである。合宿を終えパワーアップ（後藤が日焼けして体が真っ赤になったりとか）してきた仲間をみて、維震軍メンバーだって人の子だ、彰俊は「俺も行きたかった」と悔しがったに違いない。その後悔の念は日に日に強くなり、きっと夢にまでサイパンが出てきたのではなかろうか。一種のトラウマにさえなったことだろう。これは仕方ない。楽しいサイパン合宿にいけなかったのだから。そう考えると、この時の体験が店を〝南国風〟へ変えたに違いない。サイパンへ行けなかった後悔とジェラシー、そしてサイパンへ強い憧れが、店内を南国風に統一するきっかけになったといっても過言ではないのではないか。自分だけのサイパンが欲しかったのだろう。多分〝南国風〟と名乗ってはいるが、実際には自分の中では〝サイパン風〟を名乗っていることであろう。妄想は尽きない。

つまり〝南国風〟、この3文字の言葉がある限

◀これが極秘入手した名刺。一応店名や住所、HPのアドレス等は消しておくが、ヤシの木の絵が南国を連想させるのでは？

暴走族を近くで撮るのは少々勇気がいるので、遠く離れた安全なところから、ピントとかそういうことは一切無視してコソコソ撮りました。

◀名古屋と言えばしゃちほこ。しゃちほこ型の浮き輪に乗ってサイパンの海を泳ぐのが我々維震ファンの夢だよね！

▼良い成績を残した選手も、そうでない選手も、みんな集まって今夜は彰俊選手の店で打ち上げパーティ！

パスポートの期限切れによるサイパン合宿不参加が、ひとつのパラダイスを作った……

り、先のニュースは本物であると維震ファンは感じたのだ。

それからの私は、「勉強もそれくらい一生懸命やっていれば」と親に言われるくらい必死で彰俊の店の情報を集め、調査しまくる毎日になった。

〝南国風〟の見出しがある雑誌、新聞は全て買ったし、電車の中で他人が南国風の話題をしていた時にはなりふり構わず会話に加わったりもした。そういった無駄な努力の積み重ねとは別に、このたび、一枚の名刺に出会ったわけである。南国を連想させるヤシの木のイラスト入り「AKITOSHI SAITO」と名前の入った名刺に。

私はその名刺を見た瞬間、いても立ってもいられなくなった。その店を訪れたくなったのだ。維震ファンなら当然のことであろう。とりあえず私は鞄に必要な物（維震軍の旗、維震軍のTシャツ、少しでも南国気分を味わうためのアロハシャツ等）を詰め込み、車に飛び乗った。もちろん彰俊の店へと向かうためだ。でも、私は運転できないので運転ができる知人にも乗ってもらった。「彰俊の店に行きたいから名古屋まで連れてって！」と言うと絶対運転を断られるはずなので、嘘をつき、その嘘がばれそうになると、それより大きい嘘で隠しながら、騙し騙し知人に運転を了承させ、ついに出発させた。掌の中には一枚の名刺。南国（名古屋）行きの片道切符を握りしめながら……。

順調にいけば名古屋に着いているはずの時間であったが、私は菊川とかいう場所に居た今自分が日本のどの辺りにいて、どこへ向かおうとしているのか、全く見当もつかない場所。それが菊川だった。

東名高速を走り、牧の原PAにさしかかった時、車が故障したのだ。とりあえずPAに車を停め、JAFを呼んだ。JAFにけん引してもらい、高速を降り、民間の修理工場の前まで運んでもらった。が、その日は土曜。しかもすでに夜。工場は閉まっている。おまけに月曜になるまで開かないという。仕方ないので車をその工場に預け、JAFの人に大まかな道を聞き、私は菊川の中心地と思われる、比較的明るい方へと歩き始めた。初めて訪れる土地、しかも地図は無い。あるのは名刺だけ。不安で一杯であった。しかし私は維震ファン。どんな時でも維震し続けなければいけない。駅に向かって歩くことが維震することかどうかは疑問だが、その辺の曖昧さも維震ファンの持ち味。そんなことを考えて歩いているうちになんとか菊川駅へと辿り着いた。

どうやら掛川まで普通電車で行けば、南国（名古屋）行きの最終の新幹線に間に合うらしい。少しずつだが南国には近づいている。天国に一番近い店に私は近づいている、私は実感した。掛川で飛び乗った新幹線の中で、私はかすかに南国の臭いを感じたような気がした……。

名古屋駅に降り立った私は、改札を抜け、彰俊の店に早く行きたいとはやる気持ちを抑え、まずはホテルを探した。面倒なので駅から一番近いホテルに飛び込み、宿泊場所を確保した。一服し、鞄から一枚の紙を取り出した。その紙には店の大まかな地図が載っている。名刺には店のホームページのアドレスも記載されており、出発前にアクセスし、プリントアウトしたものを持ってきていたのだ。営業時間は20時～翌朝2時。〝ところにより3時～4時になるでしょう〟と但し書きがしてある。時計を見ると0時ちょい過ぎ。まだ間に合う時間だ。とはいってもゆっくりはしていられない。私は出発を決めた。

『手軽で気軽なライトバー』

そこは南国風パラダイス。階段を上がれば、トロピカルなムードを満喫しながらゆったりと大人のリゾート気分を味わってください』

店のうたい文句としてそう書かれている。春が近いとはいえ、まだまだ肌寒い名古屋に南国がある。常夏がある。サイパン合宿の腹違いの息子達（トラウマ）は、ここ尾張名古屋に南国を注入したようだ。階段を上がるだけでパラダイスに直結している店。Iの遺伝子（維震の遺伝子）を受け継いだ店。維震によく似合う健康ランドのジャングル風呂とはまた別物の南国感がそこにはある。なにせトロピカルなムードだけではなく、大人のリゾート気分が手軽に味わえる場所。そこに私は少しずつ近づきつつあるのだ。

が、ここでまた事件が起きる。私が駅前でタクシーに乗ったその時、爆音と共に大量の暴走族がやってきたのだ！　次から次へと現れる暴走族はみるみるうちに増殖し、駅前のロータリーを占拠してしまった。土曜の夜の天使達の集会に、私を乗せたタクシーは足止めをくらってしまったのだ。

一向に去る気配のない暴走族。若者の無軌道な行動の向こう側に南国はある。おそらく店の窓から外へと飛び出したサイパンを思わせる暖かい風は、駅前まで流れ、私の案内役になってくれるはずであったのだが、若者の暴走行為がその風を止めてしまった。時計を見ると午前1時過ぎ。閉店までもう間も無い。着いたところでラストオーダー後であろう。私はきっぱりと諦めた。睡魔がその決断を頑固なものに変えた。タクシーを降り、この辺の諦めの早さも維震ファンならではだなあ、そんなことを考えながら私はホテルに戻った。

（つづく）

【写真左下】これが彰俊選手の店と思われる南国風バー。サイパン空港の入場ゲートを彷彿させなくも無いかもしれない。
【写真右上】トロピカルな絵が一面に描かれた手作り感覚抜群の壁（入り口部分）。お酒も各種揃っているようだ。
【写真左上】看板と言えば思い出されるのが新日対誠心会館の抗争。このトロピカルな店名の入った看板を巡って再び抗争が起こることを少し期待。
【写真右下】南国に降雪!?近くの駅にはこんな張り紙もありました。

次号予告

次の日、目を覚ました私は重大なことに気づく。なんと彰俊選手の店は日曜日は定休日だったのである！「しまった！」と思った頃には時すでに遅し。「まあ、仕方ないや」と驚くほどの早さで気持ちを切り替え、とりあえず写真だけでもと思い、店へと向かう。うなぎのお茶漬けみたいなのを食べて、名古屋城とか行ったり、偶然出くわした『名古屋国際女子マラソン』の観戦をしたりしながら、のらりくらりと目的地である店へと辿り着く。しかし、そこにあったのは想像していたような南国ではなく……。次回『ザ検証・維震以後2～南国は遠きにありて想うもの』をお楽しみに！

比人

UITO

巨匠入魂第21回 真樹日佐夫

Illustration 中川雅博

(45)

前回までのあらすじ

天性の格闘技センスを持つ男、万無比人。その素質を見抜き、プロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスでは連勝街道を突き進み、そして異種格闘技戦でも、ある程度の成果を収めた無比人は標的をヒクソン・グレイシーに定めた。対戦交渉は難航したものの、道場での非公開試合という形で無比人はヒクソンと運命の対峙を果たした。そこで無比人はヒクソン相手に互角の闘いを繰り広げたのだった——。しばらくして、ヒクソン対船木戦が正式決定したとの報が飛び込んできた。とある昼下がり、無比人はパンクラス道場へ姿を現した。

氷見子は生きた空もなかった。

一月三十日。この日、東京ドームでは〝プライドGP2000・世界最強トーナメント開幕戦〟の火蓋が切られ、氷見子は、SRS席の前より二列目中程に無比人と肩を並べていた。

同じ側の一つ前、二人から見て少しばかり右寄りの最前列には隣り合って坐る千堂と真澄の背中が眺められた。

トーナメント一回戦・第一試合のゲーリー・グッドリッジvs大刀光戦は、1R0分51秒、グッドリッジがギロチンチョークを極めて快勝し、続く第二試合の小路晃とエベンゼール・フォンテス・ブラガをいまリング上に迎えたところだ。このトーナメント一回戦はメーンイベントの高田延彦vsホイス・グレイシー戦まで全八試合いずれも15分1Rとされ、ここで勝ち上がった八選手が五月一日、同じくドームで行われる予定の決勝戦へと駒を進めることになるのであった。

朝起きたところで、無比人が突然、

——日曜だし、練習のことは忘れて観戦する側に回るとするかな。チケットも二枚あることだし。

と言い出したのには、氷見子としても少なからず慌てさせられた。眠りに就く前には、改まって出かける話などはしていなかった。

——というと、プライドの開幕戦。

——ああ。東京ドームだけど、一緒に行くよね。

——構わないけれど、でも

——でも? でも、なんだい。

——いえ、いいの。千堂さんたちは今日は。

——さて、部長とはここんとこ顔が合ってないし、聞いちゃいないが当然現れるんじゃないの。仕事絡みってことでもあろうし、いつもの如く氏家女史同伴で。

偶々顔が合わなかったのではなく、合わさないよう氷見子の方で密かに按配してきたのである。

マネージャーの立場をフルに活用し、千堂がジムへ現れる予定の曜日にはロードワークを提案したり、友好関係にある団体のトップとの会合をセッティングするなどして早々と無比人を連れ出す。

そうしてぎりぎりまで長引かせ、ジムに電話を入れ千堂の引き揚げたのを確認してから戻る。また夜は夜で店でずっと遊んでいてもらい——と極力目を放さないように心懸けたものの、無比人の了解を取り付けた上のことではなく、こんな姑息な手段でカバーしきれるとも思えなかったが。

できることなら無比人を千堂に近づけたくない、というのは氷見子にすれば危険回避への祈りにも似た切なる願いゆえでもあろうか。前々週の半ばに大森のマンションを一緒に出、蒲田に向かうと思いきや無比人は、ミスタープロレスリングとショッキングピンクの車体に黒の横文字の躍るベンツ600を環七から国道一号線へ乗せ、白金トンネルを経て広尾のパンクラス道場に横付けした。

——パンクラス、船木誠勝のところじゃないの。ねえ、ここに一体何の用があるっていうのよ。

無比人は取り合わず、さっさと先に車を降りた。道場へと歩を踏み出した。

——待って。教えてよ、ね!

氷見子は追い縋る格好になった。

——心配ないって。適当に調子を合わせててくれりゃいいんだ。

距離が開いた。

平素は至極居心地の好いやさしさで包んでくれる無比人だが、こうと決めたら傍がなにを言おうと聞く耳を持たぬ、それはニューヨーク時代にも厭というほど思い知らされていた。諦めるよりなかった。

道場には試合用のパンツやタイツの若者十人ばかりがいて、サンドバッグ蹴り、ウエートトレーニング、スクワットなどに取り組んでいた。躰の出来具合からして一般

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン

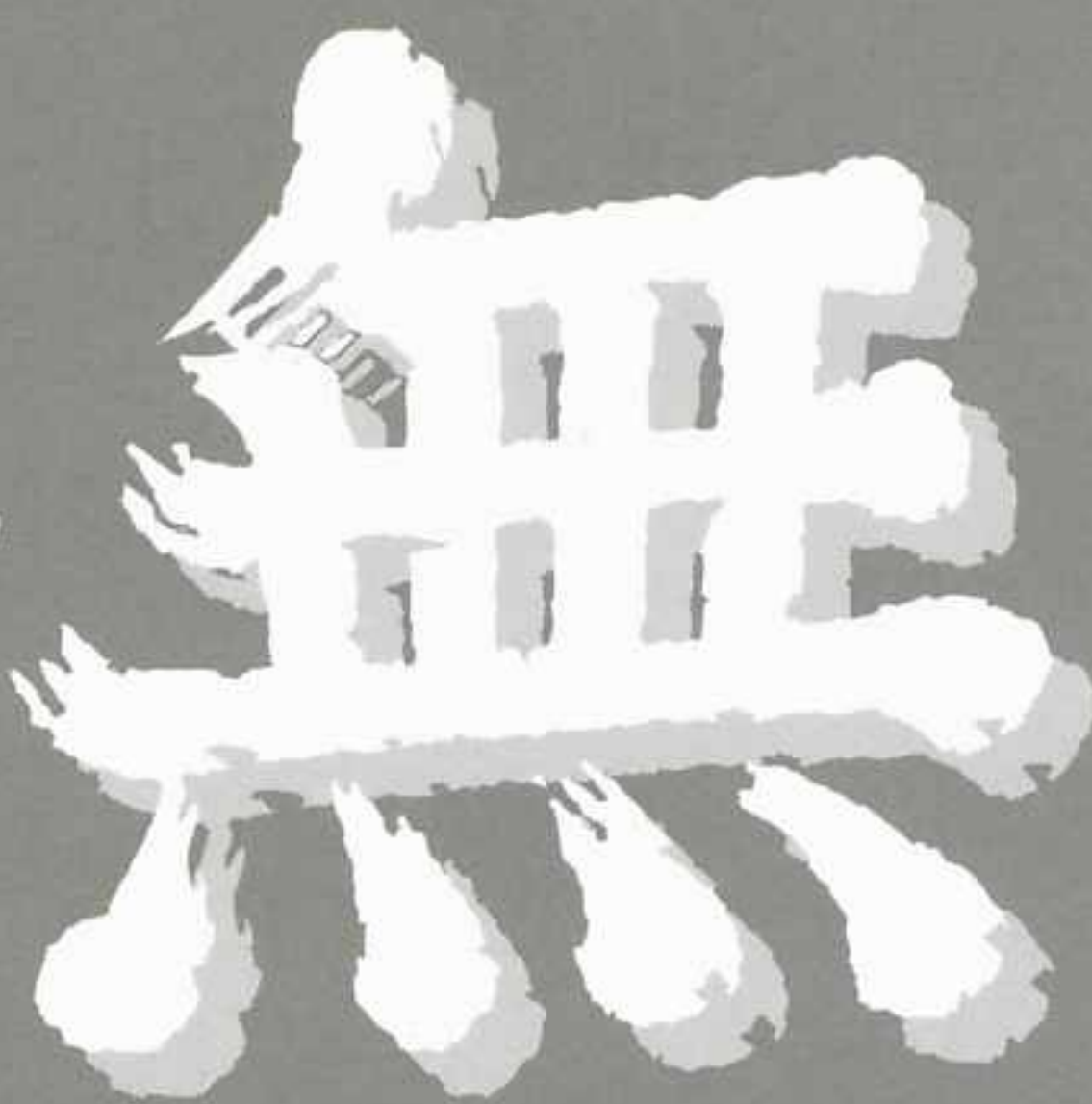
本格格闘プロレス小説

無比人

MUHITO

ほかの者たちもトレーニングを中断し、気色ばんで無比人へと詰め寄った

本格格闘
プロレス小説

無比人

練習生ではなさそうだが、氷見子はパンクラスの選手では船木しか知らず、彼はどこかと無比人の後ろできょろきょろした。

——ニュー東都プロレスリングの万だが、船木さんは？

無比人が何歩か踏み入ったところで立ち止まり、高声を放った。

——二時には着くとの電話が、さっき。

奥寄りのリング上、ジャンピング・スクワットの動きを止めたタイツの若者が応じた。

壁の時計は十分前を指していた。

サンドバッグを前にしたパンツを着けたのが、

——万無比人さんね。お名前は存じあげてますが、船木になにか？

と問うてきた。

無比人は見事に肩から力が抜け、語調も礼を失するというほどではなかったが、それでもなお相手に警戒心を抱かせたのは四つ肢の獣が獲物に対して牙を研ぐ、といった威圧感のせいではと氷見子には受け取れた。どことなく豹や狼を思わすというような話は、前に千堂ともした憶えがあった。

——当方のマネージャーで北海っていうが、どうしてもこちらへ入門したいって。

と氷見子を見返って無比人。

——うちでこれまで、みんなと一緒に練習だけでもしたらっていくら勧めても生返事だったのが、船木対ヒクソン戦が決まった途端にパンクラス、パンクラスなんだから厭になるよな、まったく。

調子を合わせろというのはこれだったか、と氷見子が半分得心し、けれどもなにゆえにとその先が見通せずに眉を寄せるうち、

——入門希望なら船木を待たずとも、いつでも受け付けるよ。

パンツの若者はサンドバッグに背を向け、足早に近づいてきた。

——いいの、いいの。

無比人がかぶりを振った。

——入門した序でに船木の顔を見て行きたいってわけ？

——違うんだなあ。

また歩きだした。

——違う、か。それじゃ……。

——テストさせてもらおうと思って。

——テスト？

相手の足が止まった。

——テストって、まさか船木を。

——それ。ニュー東都はインディーズでも弱小で後発ながら、まあそこそこの実績は上げている。社長としての立場上、小飼いのマネージャーが余所で習いたいというんであれば、そこが通わせるに足るかどうか、またトップの実力がどれほどのものか確かめて置きたいってのは理解してもらえるんじゃないかな。面子もあるわけだし。

そうか、ヒクソンを過去の人と口では言っても内心は五月のカードが決定したことが面白くなく、船木に対し敵愾心を掻き立てられてこんな当て付けがましい言動を、と聞いていて氷見子は、胸の痞えが下りでもしたように無比人の真意の総てが読み取れた思いがした。

彼にすでにヒクソンと戦う意志がないのを千堂より告げられ、三億円を返還しようかと言われて利息が付けられる展開になるまでプールしといて、ということにしたのが前の年の十一月も末。金銭面での執着心が嘘のように失せてしまっている事実に改めて直面させられ、我ながら一驚させられたことであった。

——御託を並べて理解しろだと？

——船木さんの実力を疑うのか、おい！

——ヒクソン・グレイシーが数ある次期挑戦者候補のなかから船木誠勝を選んだ、このこと以外に一体なにが必要だというのか。

ほかの者たちもトレーニングを中断し、気色ばんで無比人へと詰め寄った。

——では言わせてもらうが、ヒクソンが百パーセント勝てると見做した相手としか

対戦しないってのはすでに定説じゃないのかい。だから無敗を堅持してこられたのだ、と。そんな奴に指名されたからって、どうして実力が証明されたことになるのかねえ。

平然と言い放ったのが引き金となったか、ぐるり取り囲む形に一同は布陣した。氷見子は、陣形の外に置かれた。

——事実を述べただけだというのに、なんでこうなるんだろう。相手にとって不足ありだが、そこはまあ束になってかかってもらえりゃ。

無比人は饒舌を弄し、氷見子の心胆を寒からしめた。静観を余儀なくされながら、なんとかならぬかとやきもきするうち、背後から足音が近づいてきた。振り返ったら、トレーナー姿の船木だった。

——万無比人くんじゃないか、ニュー東都の。

船木は穏やかな表情で氷見子に会釈した後、脇を通り輪のなかへ踏み入った。

——憶えてもらってるんだ。いやー、光栄だねえ。

無比人も面映げな笑顔で応じた。

——僕はね、万くん、きみと桜庭和志とアレクサンダー大塚。この三人をプロレス界の明日を担う存在として注目してるんだよ。

アレクサンダーと聞いて、一年前の記憶が勃然と氷見子の裡に甦った。真澄に手指二本によって鼻フックを噛まされたときの、泣きたくなるような絶望感。絹子にグリセリン液の入った広口壜を突きつけられ、総毛立ったこと。アヌスを割って押し込まれた浣腸器の、冷たくもおぞましい感触。

——ところでみんな、どうしたというんだ。お客さんを迎えるにしては、随分と物々しげだが。

と視線を一巡させて船木。

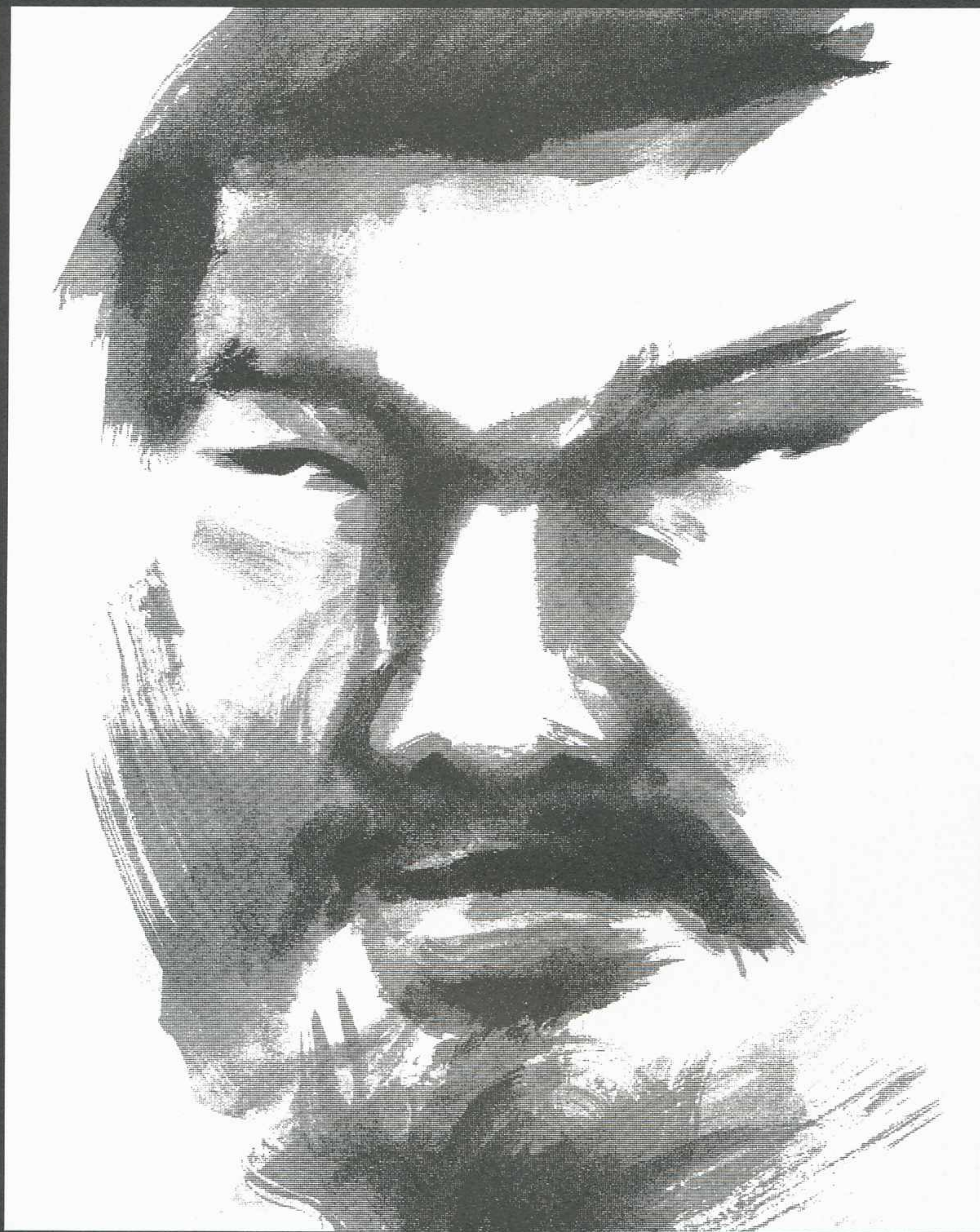
何人かが意を決した様子で事の次第を訴えた。彼らにしてもテスト云々、に言い及ぶのは躊躇われたのだろう。

当然拒否するはず、と氷見子は固唾を呑んで船木の後ろ姿を見入ったが、

——なるほど、尤もな話だ。ではどうぞ。

あっさり言うと、さっさとリングへ向かいロープを跨いで入った。

無比人もジャンパーを脱ぎ、氷見子に投

本格格闘プロレス小説

無比人

当然拒否するはず、と氷見子は固唾を呑んで船木の後ろ姿を見入った

げて寄こすと続いてリングインし、二人は中央で相対峙した。

いきなり船木が右の回し蹴りを放った。顔を狙って迫るそれを見切ったまま、無比人は左の跳び膝蹴りで応戦。顎を捉えるかにみえたが、寸前で左の肘によって膝はブロックされた。

回し蹴りも、無比人が跳んだため、その肩先を擦るという中途半端な結果に終わっていた。が、直後にストレート気味の右の拳が受けに用いた左肘のフォローの感じで伸びていき、これは着地を決めたばかりの無比人の胸板にクリーンヒット。がくん、と腰から落ちて尻餅を突かせた。

リングの周りに移動し、見物に回っていたパンクラスの一同の間に歓声が上がった。

無比人は薄笑いの顔で、じきに身を起こした。見ていて氷見子は、不安が胸を圧するのを如何んともしかねた。ダメージを案じたのではない。彼がこういう顔をするとき、それは憤りを抑えられない状態にあるのだということをほかの誰よりもよく知っていたからだ。

起った無比人は矢庭に後ろ走りし、ロープへ背中から体を浴びせた。そして反動を利しての超低空ドロップキックを敢行。もっと上へくると踏んでか、胸を突き出し腰を割りして迎撃体勢をかためる船木の膝関節の辺りを襲う。これにはさすがに反射神経が付いていきかねる様子で、とっさにジャンプしてかわさんとするも足首に当てられ、膝を突いた。

——関節蹴りは反則だぞ！

怒声が弾けた。

無比人は跳ね起きると、すかさずヘッドロックに巻いた。空手の攻防を見る趣だったのが、俄然プロレスらしくなってきたものの氷見子には最早限界で、

——止めて下さい！

自分の声ではないような声で、おぼえず叫んでしまっていた。無比人が詰るかのような視線を向けてきた。

——気が変わったんです！　入門を取り止めます！　だからもう、そこまでにして！　船木さんも！

構いなしに氷見子は続けた。一年前の記憶が、またぞろ躰の深奥を疼かせつつあった。

無比人は露骨に渋面をつくったが、とにかくヘッドロックを解き、ここにテストは尻切れ蜻蛉で終わりを告げた。

その夜、マンションの寝室のベッドで氷見子は無比人にチョークスリーパーを極められ、死の恐怖を味わった。そして問われるままに、千堂とのSM関係について洗いざらい告白する羽目になった。

普段はノーマルなセックスでフィニッシュしてくれるのが、口とアヌスもそれぞれ一方的に犯され、それでようやく無比人も機嫌を直したように見受けられた。

氷見子にすればアレクサンダー大塚とのニアミスの後、マネージャーとしての監督不行届きを言われて千堂と真澄、絹子の三人に浣腸プレイの洗礼を受けさせられたことから、もし船木とのことが知れたらさらにひどくされるのではと怯気づき、堪えかねて無比人に弓を引いたのだったが、機嫌が直ったからといってしかしぶり返さぬという保証はない。

で、しばらく無比人と千堂を一緒にさせないことだと、ない知恵を絞りなんとか遣り繰りしてきた。ところが偶然同じ側のSRS席に行き合わせることとなり、試合直前で挨拶を交わしただけであるにせよ、とにかく二人は十数日振りに限りなく接近。

その間、氷見子自身もあれこれ口実を設けてプレイの出前に応じておらず、パンクラスの件も伏せたままだが、千堂の顔を目の当たりにしたことで無比人がまた憤りを剥き出しにしないか、起って行ってあの薄笑いを向けはせぬか、それを考えると試合どころではなかった。

小路は、船木を苦しめ桜庭にも善戦しているブラガの執拗なパンチと蹴りに手古ずりはしたが、2－0の判定で勝利し〝プライド〟出場を最多の七回とするとともに、そこでの戦績も四勝一敗二引き分けとした。

氷見子は会場入りしたところで無比人に聞かされて初めて知ったのだが、彼と小路とは富山県魚津市と郷里が同じで、この日のチケットもリングサイドで応援して欲しいとのことでプレゼントされていたそうな。

リング上、勝ち名乗りを受ける小路へ惜しみない拍手を送る無比人の底抜けに明るい横顔を盗み見て、ひとまず氷見子は安堵の胸を撫で下ろしたが……。

(46)

「社長と部長の間で隠し事があっちゃいけないよね、ね」

唐突に無比人が千堂を見て言った。隣にいて氷見子は、心臓を手掴みにされたような衝撃に見舞われた。

東京ドームからの帰途、食事を一緒にと真澄が言い出して寄ったJR水道橋駅の近くの焼肉店。氷見子としては一刻も早く別れたかったが、無比人が二つ返事で応じてしまったのだ。

「社長がきみで部長が私なのはわかるとして、隠し事とは？」

千堂が箸を止めた。真澄も訝しげである。

「出前のプレイの件さ。もっと言わせたいかい」

瞬間、座の空気は凍り付いたようだった。

無比人が薄笑いの顔でこう続けた。

「氏家さんを今夜ひと晩借り受ける。それでちゃらだ」

〈以下次号〉

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン

Champion

【広告のページです】

レレレのwDcがお届けする!! ワールド・メガバトル 在庫一掃セールのお知らせです!!

◆◆◆アメプロTシャツ大値引!!◆◆◆

アメプロTシャツがすべて ¥3000

WWF　オースチン Tシャツ ~~¥4500~~
人気爆発中のWWFのTシャツが、他店では有り得ない価格で放出！　激レアTシャツ多数！

WCW　LWO Tシャツ ~~¥4200~~
WCWのTシャツもすべて値引き！　ゴールドバーグものなど、多数あります！　早い者勝ち！

◆◆◆ルッテングッズも大放出◆◆◆

最強価格 ¥3000

ビバリーヒルズ柔術クラブ Tシャツ ~~¥3500~~
サイのイラストが素敵なビバリーTシャツ！　日本ではチャンピオンだけが独占入荷だ！

バス・ルッテン超技ビデオ ~~¥4500~~
これを見て、鍛錬を積み、キミもキング・オブ・パンクラシストになろう！

すばらしい値段 ¥4000

お出かけですか～？　レレレのレ～！　暖かくなってきた今日この頃。お出かけ先は、もちろん『Champion』だよね？　いま、『Champion』は在庫一斉セールを実施中！　とにかく、あらゆる商品が値下の嵐！　こんなチャンスは、メッタに来ないですよ！　買いのがしちゃダメ！　ボクも、お店の掃除をしながら、皆さんが来るのを待っています！　よろしく～！

モデル
チャンピオンのカリスマ店員
wDc

選手入場テーマ曲新作CDも続々入荷中!!

大好評のプロレスQシリーズも大量入荷中！　買い逃すな！

プロレスQシリーズ最新作の〝ピーチ〟（¥2300）も入荷しました

佐々木健介のテーマ曲CD〝TAKE THE DREAM MUGEN〟（¥3500）も入荷！

いま、プロレスのテーマ曲が熱い！　チャンピオンでは、様々なテーマ曲CDを揃えております。人気の高い新日モノや、アレクの入場曲も大量入荷! とにかく気になるテーマ曲があったら寄ってみてください。

店がどんなに遠くても、笑いながら歩こうぜ！　いつ何時、誰の注文でも受ける通販方法！

＜グッズ通信販売＞

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号&バックナンバー、単行本、Tシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!!　もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Tシャツも、ここなら買える！　プロレスファンよ、いますぐ来い！

通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話・2ハガキ・3FAXいずれかの方法にてご注文ください。代金引換になりますので、代金＋送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

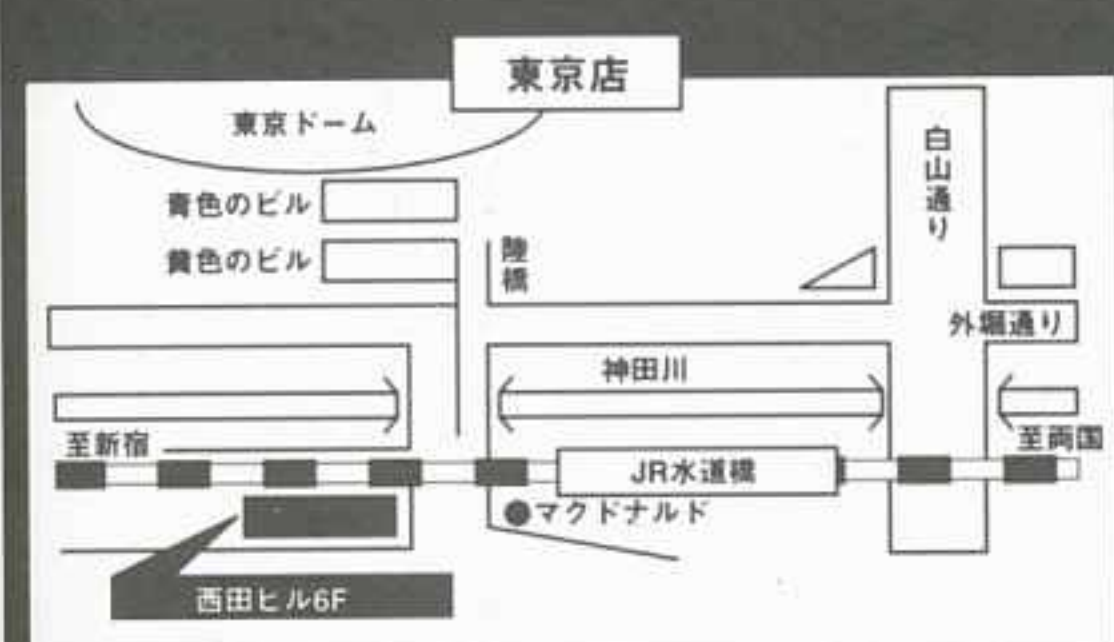
＜ビデオのレンタル方法＞

地方からも利用可能なチャンピオン独自の便利なビデオ・レンタルシステムの妙技を味わいやがれ!!　レンタル方法は以下の3通り！　どう借りるかは、あなたの都合に合わせてくれ！

1　店頭にてレンタル、店頭へのご返却
2　店頭にてレンタル、宅配便でのご返送
3　TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル

いずれかの方法で注文をお願いします！　東日本地区に住んでいる方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店を利用してください。また、通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまで郵送してください。

Champion東京店

東京店　東京ドーム　白山通り　青色のビル　黄色のビル　陸橋　外堀通り　神田川　至新宿　JR水道橋　至両国　マクドナルド　西田ビル6F

〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237　FAX.03-3221-6267
営業時間　11:00～22:20（年中無休）

Champion大阪店

大阪店　ホテル南海　南海難波駅　パチンコサンサン　マクドナルド　パチンコプラザ　大阪府立体育館　阪神高速道路　大阪球場跡地　桧ビル4F

〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186　FAX.06-6645-5187
営業時間　11:00～22:00（年中無休）

オフィシャルビデオランキング

こんな広告ばっかりだとビデオ・レンタルが本業だということが忘れられそうなので、人気のビデオ・ランキングをつけました。借りるときの参考にしてください！

1位『PRIDE.8』（発売／メディア・ファクトリー）
2位『FMW11・23横浜アリーナ大会 ジャッジメント・デイ』（発売／東芝EMI）
3位『踊るFMW大激戦！』（発売／東芝EMI）
4位『実録　ハヤブサ最後の日』（発売／東芝EMI）
5位『PRIDE.7』（発売／メディア・ファクトリー）

Championホームページアドレス：http://www.champion-j.com

グレート・チョロのハガキ劇場

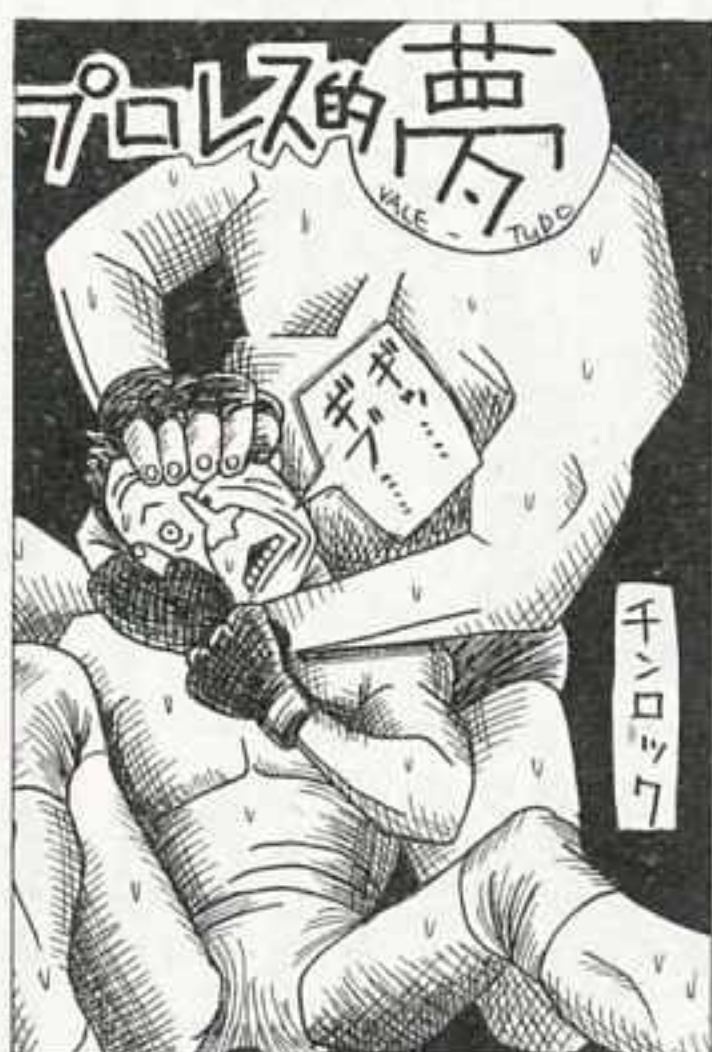
（三重県／宮崎文子）５点　★前号のポートレートを忠実に再現してくれた文子ちゃん。ファイヤーコンビ片割れの大仁田イラストも抜群だったが、今回の『ハガキ劇場』は内舘先生の「キュー!!」でスタート邪！

「『トゥナイト２』出演おめでとう、チョロさん。キャットファイターな一面は微塵も感じず…。まさに猫かぶりですね」（仙台市／紺野絵理）５点 ★猫かぶりならまだしも、俺は、俺は、皮……んなこたぁ、どーでもいいんだよ!（ガシャーン）ファイター!（キャットor新宿）。キャットファイト出場、リングアナ体験、トゥナイト２出演と、本業が何だか訳が分からなくなってしまった（どれも中途半端）。「ゲーテが人生について語った名言に、こういうのがある。『人生はすべてつぎのふたつから成り立っている。したいけど、できない。できるけど、したくない』どうです。含蓄のあるいい言葉でしょう」byはらたいら（『愛を旅する人へ』より）。俺は初めて性病で「したいけど、できない」を味わった。そしてオカマに騙され「できるけど、したくない」だったはずの男性相手にロックばりにケツの穴にブチ込んでしまった。俺はいったい何をやってるん邪!

（青森県／青木雄大）５点★オイ、オイ、オイ、俺は２回目の『トゥナイト２』出演をはたしたんじゃあ！　それを見た読者から「もっとプロレスマスコミらしく揚足を伸ばせ」というアドバイスもあったが、それは勘弁邪！

しょっぱいリングアナですんまそん

３・９後楽園ホールで久々のＵＮＷ興行が行われた。タイトルマッチや最後のコブラ登場など話題満載のこの大会、リングアナを務めたのがチョロ（こと俺）。「５分経過」など基本的なコールをすっかり忘れ、気がつけば時計の針は12分を経過。思い切って「15分経過」とコールすると場内は失笑の渦。しょっぱいリングアナですんまそん、ジニアスさん。

今回はイラストが「柔術で充実」（by平直行）していたので イラスタンラリアットの乱れ打ちじゃあ!………（弱火全開）

（大阪府／英加直純）４点★相変わらず冴えまくる英加さん。確かにチンロックでフィニッシュを決めてくれたら痛快邪！　この夢を叶えてくれそうなのは藤田か、それとも長州？

（埼玉県／中川雅博）４点★「打倒！細井つき子（50）さん。『タマリン』とはカリブ語で『リスザル』っていう意味だったのですね。知りませんでした」。そういうことなん邪！

（東京都／キャプテン名倉）４点★アニマルの顔といえば、モヒカン、蜘蛛、ペイント、ヒゲ、タバスコ…立派な履歴書の完成邪！　どこでもいいから日本マットに上がってくれ！

（熊本県／塩本祐介）５点★日本のＧ・オブライトこと守山代表。言われてみれば守山代表はヒクソンよりも若い！　そしてデカイ！　きっと強い！　俺も見たいんじゃあ！ダメ？

（大阪府／英加直純）５点★俺たち、俺たち、の…脳～～不以亜～。これは似てる！　本物より似ている！　しかしモノ凄い横顔じゃな。来月はホーリー５の貼り絵が見たいん邪！

プレゼント プレゼント プレゼント三昧なんじゃあ!!

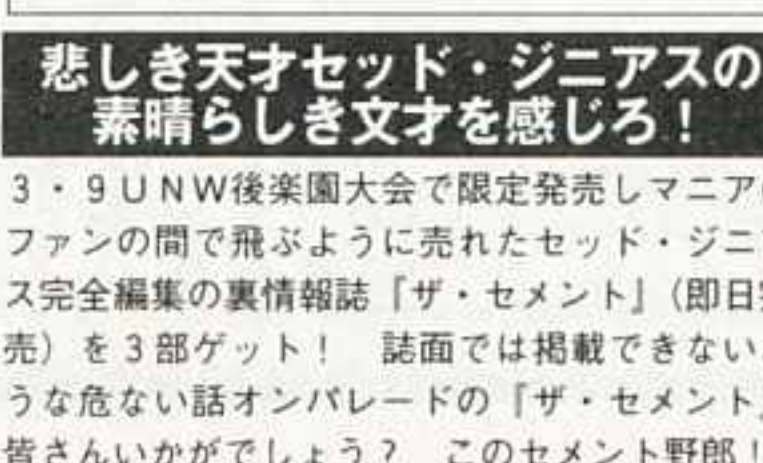
中川画伯デザイン ギルバート・アイブル&ブラッド・ド・コーラーTシャツ邪!

２・26リングス日本武道館大会でアイブル＆コーラーが着ていたＴシャツを見て気づいた人も多いだろう。そう、あれは中川画伯デザインＴシャツなん邪！　必要以上に喜んでくれたアイブルと、パーカーの上に無理矢理着込んだコーラー。このＴシャツ（Ｍ）を各２名にプレゼント。

カリスマ司会者・タコヤキ君も大絶賛! チョロのプロ魂をとくと見やがれ!

オイ、オイ、オイ、ついにチョロ主演のキャットファイトビデオが出来たんじゃあ！（カタブツ君モノはモザイクに手こずりまだ出来てないん邪！）。今回は日本唯一女闘美ワールド！　キャットファイト（スムーザー、ドミネーション、レズ）バトル専門店『ＢＡＴＴＬＥ』さんのご厚意により『ＲＩＣＯVSチョロ』ビデオを２名様にプレゼントするんじゃあ！　キャットファイトは女性読者には評判が悪いが、「キャットファイトとは何か？」俺のファイトを一度見てから判断しろって言うんじゃあ！

【問い合わせ】バトル上野本店　〒110−0005東京都台東区上野2−8−7永谷ビル1001

●営業時間12：00〜23：00●ＴＥＬ03−3834−3869

悲しき天才セッド・ジニアスの素晴らしき文才を感じろ！

３・９ＵＮＷ後楽園大会で限定発売しマニアのファンの間で飛ぶように売れたセッド・ジニアス完全編集の裏情報誌『ザ・セメント』（即日完売）を３部ゲット！　誌面では掲載できないような危ない話オンパレードの『ザ・セメント』。皆さんいかがでしょう？　このセメント野郎！

（東京都／キャプテン名倉）４点★俺はキャットファイトをやってみて勉強になったことがある。たくさんある。「俺も出たい」と言ってくるヤツも多いが、そうは問屋が卸さないっていうん邪。キャットファイトは奥が深いぞ！

（愛知県／たっつあん）５点★男も惚れる背中の持ち主の御両人。どんなトレーニングをすればあんな背中になるん邪！　やっぱカルピスか？

（熊本県／塩本祐介）４点★近々、日本襲撃が予想される天下一の道楽者シェイク・タハヌ～ン王子。アブダビ帰りの人に聞くとアブダビはみんながみんな王子顔らしいん邪！　王子がいっぱい。王子の自家製UFOに捕獲されるのはいったい誰なん邪？

グレート・チョロのハガキ劇場

■前号の感想邪！ おもろいもの

●CIMAフォトギャラリー。CIMAのファンなん邪。『週プロ』で初めて見た時（ホッペがりんごちゃんでしたねェ）から好きなん邪。大島クンちゃんと映画を語るん邪。（山口県／ゆずっ子／ピュアハート練習生後、ビジュアルファイター目指すも、あえなく撃沈……）5点

★今回もCIMAの原稿を見てビックリクリクリクリクリッ！ またもや映画についてほとんど語られていないん邪。※私信：オイ、オイ、ゆずっ子ちゃんよぉ、キャットファイトに出てくれんか？

●サスケ×矢追純一対談。プロレス誌でテーマが宇宙人！ 最高！ 神秘的すぎる!!（静岡県／山田純一／17歳）3点

★サスケ&矢追のUFO対談に次ぐ、あなたが見たい超大型対談企画を『ハガキ劇場』まで送ってくれ！ 例「高野兄弟と叶姉妹のスクランブルトーク」「キッスの世界VSはりMON！ 綱引きマッチ！」「ダン・ヘンダーソン&はらたいらの似た者勝負！」「デビル雅美&デビィ夫人のデビデビ対談！」等々、何でもいいから、とにかくにも待ってるん邪！

●『新プロレス』とは何か？ オレの言いたい事、知りたい事、君たちが語ってた（福島県／森拓介／33歳）2点

★するってーと、俺たちは代弁者ってか？ 何だか汚ねえじゃねえか！ オイ、オイ、それは大便邪！（弱火）。だっふんだぁ。ミック・クータじゃあ！

●堀辺先生のインタビュー。毎回やってほしいくらいなインパクトがあり、出場はしていないから冷静な意見が言えるからである（京都府／河井正樹／31歳）3点

★賛否両論渦巻いた堀辺先生インタビュー。ド素人的にはやっぱり堀辺先生の試合が見たいん邪！ 誰かシニア部門の大会を開催してくれ！ 骨法骨法骨法！

●最狂プロレスファン列伝。私の友達のバンドの人も同じよーなコトをいうから。小学生最強説は私も友人も思ってたから（埼玉県／浜野真理子／24歳／ピュアブレッド大宮事務員）4点

★キッズ元気！ エンセン元気？ 確かに小学生の勢いには誰もかなわないよな。これからは間違いなくキッズの時代邪！ 誰かキッズ部門の大会を開催してくれ！「キッズの世界」もバカ売れ間違いなしじゃあ！（弱火）。

●プレゼントで欲しい物はも♥ち♥ろ♥ん♥田村さんのサイン入りポラロイド♥♥だってだってこの写真でかぶってる帽子、私がプレゼントしたモノなんですよぉ。だから記念にください。NO249『格通』の表紙の上に「プロレスラー始めました」リングス田村潔司に密着！と書いてありましたが何かちょっとバカにしてるような気がするのは私だけ…？（宮城県／佐々満子／23歳）3点

★『格通』さんよぉ「プロレスラー始めました」って、冷やし中華じゃねえんだからな♥ まあ、中華、中華って言っても中華も伸びてるっちゅうか……♥（弱火）。中華は強火じゃろうが！

●嵐インタビュー。友達だから（東京都／小坪弘良／24歳／詩人）4点

★嵐と友達の詩人？ よく見たらバーミヤンスタンピストの小坪さんじゃねえか！ オイ、オイ、オイ、24歳って、いつからそんなにヤングになったんじゃあ！ だがしかし「購読してる雑誌は？」との問いに「『エロトピア』最高！」と答えているのは素直でよろしい！

(岡山県／渡邊茂) 5点★2・26武道館大会終了後、前田社長は田村について「今回はヘンゾに勝ったんで、花マルじゃないですか」と語った。田村に続き前田社長の『はなまるマーケット』登場はあるん邪ろうか？ 邪ろってなん邪ろ？

(埼玉県／中川雅博) 5点★「自分は『プライド2』を観に行ったのでみんなが言う程『プライドGP』はつまらなく感じなかったです」という中川画伯。オイ、オイ、お前らは田村の坊主頭が見たいのか!? それは、ないモノねだりのアイウォンチュー邪！

(三重県／宮崎文子／20歳) プリクラとイラスト合わせて10点★「♪出会いは（早口で）八億七千万の胸騒ぎぃ～（中略）エキゾティック、エキゾティィ～ック、オールジャペ～ン」（意味不明）。全日育ちの俺は、今でも瞳を閉じれば馬場さんの勇姿が甦ってくるのじゃあ！（号泣）。オイ、オイ、文子ちゃんよぉ、アンタのイラストはいいよ！

ハガキ劇場の四番バッター
青木雄大じゃあ！

(青森県／青木雄大) 各4点・計16点★「PS1倉掛さんに褒めて頂けるようなイラストを描きたいで～す」。どうなんじゃ倉掛さんよぉ？「PS2あの堀辺先生が危険とおっしゃった肘＋後頭部を繰り出したアイブルが僕の中でのKOK、MVPです」。確かにアイブル対ダンがベストバウト邪ったな。それにしても毎回ゼニの取れるハガキを書きまくる男・青木雄大さん。だがな、だからといって俺はゼニは出さん！ 出せるゼニがあったら、とっくに田村潔司に10万円払ってるんじゃあ！

(長野県／大石剛) 4点★前号で彗星の如く現れた『ハガキ劇場』の超新星（滑川級）大石さんよぉ、んむはぁ一家勢揃いのアレクインタビューは前号の人気投票で見事1位に輝いたん邪！ ピカッ♥

スモー・ノブのごっつあん部屋

『SRS―DX』ごっつあん銀座担当・井上きびだんご兄さんにパスタをごっつあんになったでごわす！

はぁ～、どすこ～い！ どすこい！ ワシ、今回は出番がなかったでごわすが、今回もごっつあん部屋はやるでごわす。まずは常連タニマチの原タコヤキ兄さんから、大阪場所の番付表をごっつあんしたでごわす。編集部に貼っとるばい。前号に登場してくれたEL・MALO・柚木隆一郎さんからは、NEWアルバム『MALOLe THE HARDWAY』（ワーナー・インディーズ・ネットワーク）のサンプル盤をごっつあん。ムチャクチャかっこいい男気溢れる全11曲、『紙プロ』読者も必ず聞いてほしいでごわすな。というわけで、引き続き、読者の皆さんもワシのタニマチになってほしいでごわす。食物、宣伝したい商品、プラモデル、飼えなくなった子犬etc……何でも送ってほしいばい。待っとるけん。

(大阪府　宮脇博司) 3点★二代目グレート草津の対戦相手に名前が挙がった嵐関。タッキーが猪木さんと闘ったいまこそ、5vs1で闘ってみてほしいでごわす。

(長野県　大石剛) 5点★タチ関がPRIDE. GPで敗れた直後、相撲幻想を守るべく立ち上がった嵐関。じつにカッコよかったでごわすな。そんな2人の微妙な関係を繊細なタッチで描ききった大石先生の画力に脱帽でごわす。

(東京都　小野秀弥) 4点★最強説がいまだに根強いミングに会いたいばい！ どっかの団体でテンタ招聘を熱望ばい！ ガイジンリキシって、ムチャクチャかっこいいでごわす！

ハガキ劇場にて
買収成功!!

『PRIDE.0』二代目殿堂夫人
（真下家の）キッチンナビゲーター
真下純子の

ちょっと、昼ごはん食べにこない？（残り物）

バトラーツと冬のなわとび

春の足音がペタシペタシと聞こえてくる今日この頃。唐突ですが皆様、小学校の時なわとび好きでした？　私は大キライでした。いや、運動自体がキライでした。学校で体育というものを課せられてる間、運動を全く楽しむことなく、そして今、運動の「う」の字もない暮らしをしています。体育の中でもとりわけ冬場必ずやらされるなわとびを呪っていました。周りのみんなはヒュルヒュルと二重とびや交差とびをこなし、放課後になればなわとびを手に校庭へとび出していきました。私はストーブの前で丸くなって窓からとび狂う友達を眺めていました。とべなくて悔しい、恥ずかしいという感情もあるにはありましたが、どうしても上手くとべず、しまいには「あっしにはかかわりねえことでござんす」と木枯らし紋次郎チックになわとびを避けて過ごしてきました。

チョコボールKOBEさんの左上にエクトプラズムが発生中。その影響かなんなのか、チョコさんが大仁田さんに見えるん邪！

で、今、私には小学生の娘がおります。やはり冬場の体育になわとびをやります。姿形はオットにそっくりな娘ですが、私の運動能力の無さをしっかり受け継いでしまったようです。通知票をもらってきても、やはり体育の成績は芳しくありません。「つまらないとこ似せちゃってすまないねぇ」と寝顔に涙です（誇張）。「冬休みには毎日なわとびをやる」という宿題があり娘はイヤイヤながらも練習しておりました。何度も足にビチッとなわが引っ掛かりかなり痛そうです。そう、私はこの「ビチッ」がイヤでなわとびがキライだったのです。自分の振り回すなわに引っ掛かってビチッとなるのが悔しく、恥ずかしく、ホントにイヤでした。なわとびのことなどすっかり忘れて生きてきた私ですが親心として（親エゴとして）娘にはなわとびを・体育を苦痛と思わない生き方をなるべくならしてほしいなぁ、と弱く思います。

●2月26日、バトラーツを見てきました。実はバトを生で見るのはこれが初めてでした。広くない会場なので蹴り音・殴り音・投げ音・投げられ音が響き、その迫力にただひたすら度肝を抜かれ続けました。バトの選手のみなさんはきっと私と違って体育の時間が好きだった人たちなんだろうなぁと思います。いくらなわとびがビチビチと自分の足に引っ掛かっても、痛さに負けずにガンガンとび続けたのでしょう。ビッチンビッチンキックを放つ足、いくらレガースをしてても蹴る方だってちょっとは痛いはずです。子供の頃の私・今の私に足りないものの多くを学習させていただきました。

さて、体育でなわとびをやらなくなったので娘はもうすっかり練習をしていません。喉元過ぎて熱さを忘れるところも私そっくりです。今度バトが名古屋に来たら娘を連れて行きます。

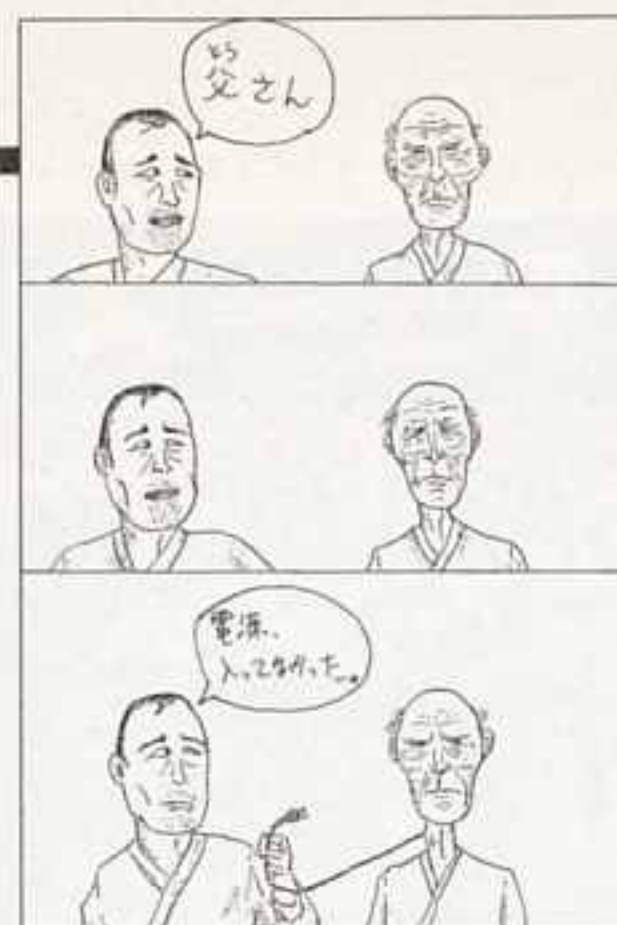
なろうなろう明日にはなろう明日は檜の木になろう。そしてJ-ロープも買おう。

PS.バトの会場で声を掛けてくれたお嬢さん、私と一緒にいたおっさん（あだ名・アニキ）はオットじゃないです。これだけは言いたかったっす。

真下純子【主婦（野良）】

■前号の感想邪！　つまらんもの

●妖怪通信。あれだけ不快だったのに、いなくなってみると、心にポッカリと穴が空いたようだ（東京都／片岡健太郎／24歳）2点

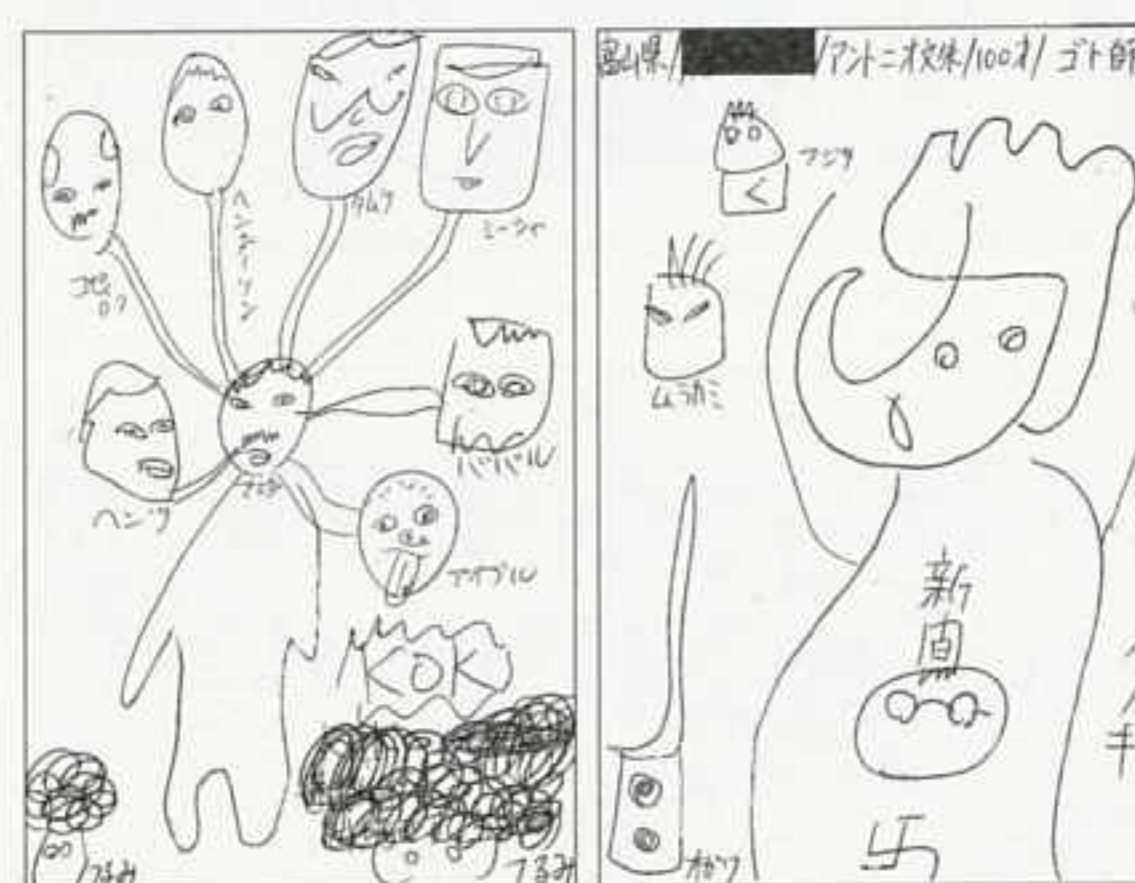
★あるネット上に「ジャイ子はある選手と付き合ってるのは事実だけど、まだ独身」「池袋の大戸屋でジャイ子を見ました」「ジャイ子って社内恋愛してたんじゃなかったっけ？　それに破れて逃亡って話を聞いた」など、ジャイ子ネタが乱発されていたん邪！　お前らな、ジャイ子は今は人よりちょっとデカイだけのお嬢さんなんだからそっとしといてやれよ！……というわけで『ハガキ劇場』では、「ジャイ子が付き合ってるプロレスラーは誰？」「街で見かけたジャイ子」を大募集するんじゃあ！　合い言葉は「ジャイ子は2度死ぬ！」まで邪い邪い！

（奈良県／藤崎健【ジャイ子ファン】／30歳）3点★エリオにそんな秘密があったとは知らなかったんぜよ。まさに柔術で充電!!

●グレート・チョロのハガキ劇場。今でも、こういう昔の椎名誠一味の様な文面作りがウケると本気で思っているのだろうか。プロレスファンというのは割と硬質で「情報」の無いものは受け付けないと思うのだが（岐阜県／斎藤豊／36歳）5点

★オイ、オイ、オイ、『ハガキ劇場』がつまらんだと！　だがな、斎藤さんよぉ、残念じゃったな。椎名誠一味なんて嬉しい例えをしてくれてありがとよ！　俺は椎名誠も野田知佑も大好きなんよ！　俺には誉め言葉にしか聞こえんの邪!!

●「購読している雑誌は？」って、やな事きくなよ。悪かったね、『格通』買ってるよ。しゃあないやん、カオルコやねんもん。その他、宇野さん載ってたら『ゴン格』とかな。いろいろ邪（兵庫県／ナナジ／20歳／日本一のスネかじり）3点

★オイ、オイ、もうひとつオマケにオイ、ナナジさんよぉ、カオルコは最後にカオカオを必ず付けること。それがカオルコの鉄則なん邪！　カオカオカオ。

トリを飾るのはやっぱりこの男
アントニオ文朱じゃあ！

（富山県／アントニオ文朱／100歳／ＡＶ女優＆キムチ職人＆コック【ノットチンポ】＆農民＆女性タレント＆懲役８年＆手配師）各３点・計12点★ＡＶ女優から手配師まで様々な顔を持ちながらもハイテンションで狂い咲き続ける文朱君。薬物検査をすれば一発で引っかかること間違いなし邪！　そんな彼の作品で登場頻度ブッチ切りＮＯ１が鶴見五郎なのである。ＫＯＫと鶴見五郎、ボボ・ブラジルと鶴見五郎、藤原ヒロシと鶴見五郎ｅｔｃ。振り向けば鶴見五郎……ＳＯＳ邪！

★ハガキ劇場★
オフィシャルランキング2000

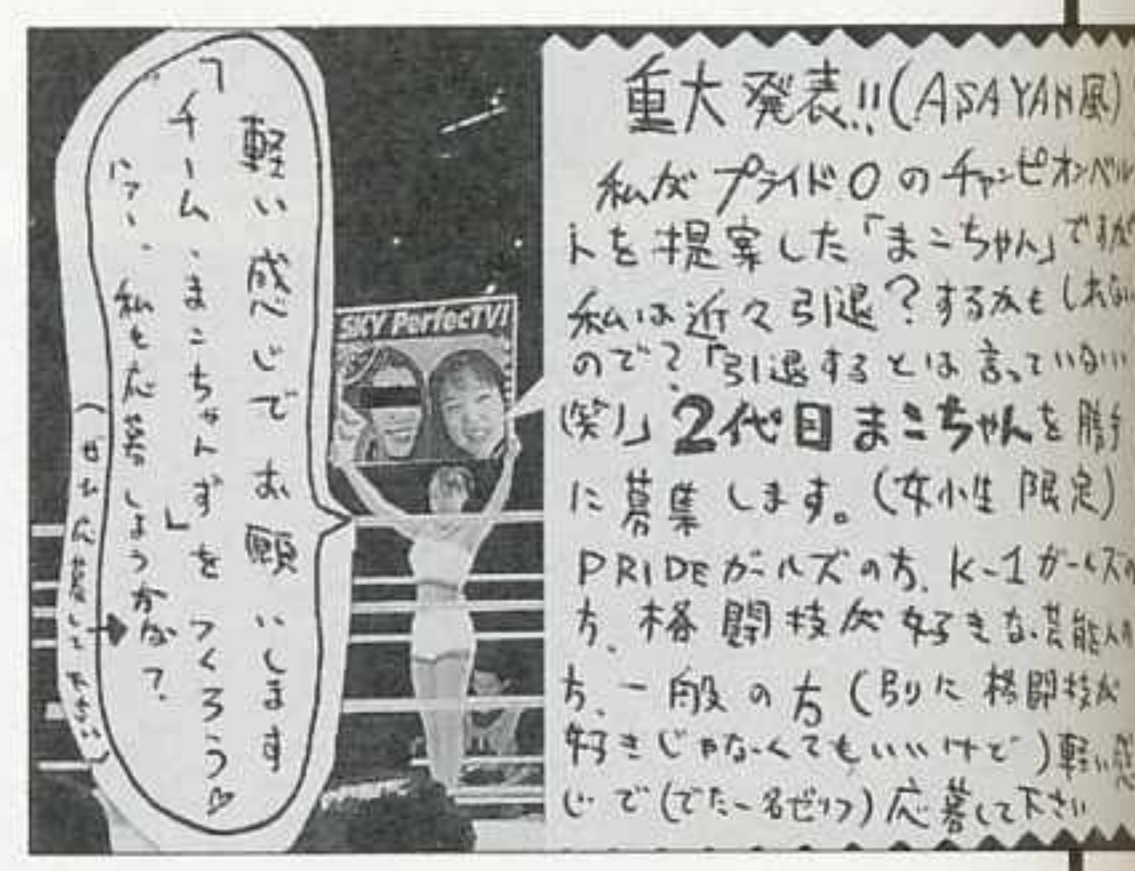
順位	名前	点数
1位	青木雄大	75点
2位	塩本祐介	32点
3位	たっつあん	29点
3位	アントニオ文朱	29点
5位	中川雅博	27点
6位	キャプテン名倉	26点
7位	英加直純	24点
8位	大石剛	22点
9位	宮崎文子	20点
10位	神子佳世	13点

募集要項

『ハガキ劇場』では、皆様のご意見、ご感想、イラスト、投稿写真DX、俳句劇場、チョロプレ等々、読者からの爆裂投稿を待ってるんじゃあ！　すべての宛先は……

**〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『ハガキ劇場』係まで。
合い言葉は、「立ちんぼでチョンボ」邪!!**

PRIDE.0からのお知らせ！

武田いづみちゃん、真下純子さんに続いて、男性読者初の『紙プロ』殿堂入りか!? と期待された森下潤一さん（ノットＤＳＥ社長）。はたして結果は如何に？　んなこたぁ、どーでもいい……わけないんだよ！（ガシャーン）すんまそん。ページの関係上、次号で結果を発表することになりました。森下さん、ちっとの間お待ち下さい。というか『ＰＲＩＤＥ.０』もあまりの投稿数の少なさから「そろそろやめたらどうだい？」との意見もチラホラ出ており、「そうだよなぁ」と思ってた矢先に投稿が続々と送られてくるという閉店セール状態。これも、ひとえにチャンピオンベルト設立を提案してくれた“まこちゃん”のおかげです。ありがとうまこちゃん。俺が立会人だァ！『ＰＲＩＤＥ.０』続行ッ!?

バトラーツ・プロデュース　たまに住むならこんな家!

本誌NO.11を最後に休眠状態にあった“プロレス界の名所探索企画”が帰ってきた！　今回のツアー先は、バトラーツの本拠地・埼玉県に新たに誕生した21世紀型下宿屋『B―FLAT』だ！　4月1日のオープンを目前に控え、この建物の素敵な全貌に迫ってみたいと思います。案内人は、『B―FLAT』の管理&運営を行う共立メンテナンスのパール鈴木さんとモハメド・ヨネだ！　さあ、キミもこの誌上ツアーに参加していますぐ入居しよう！

取材・構成／坂井ノブ（亡霊）

復活

RADICAL MYSTERY TOUR

バトラーツがプロデュースした21世紀型の下宿屋に潜入!!

家具もこんなに付いてくる!!

ワンルームマンションのような設備で、しかも、イス、机、タンスなどの家具も付いてくる！

なんと！　エアコン&電話も各部屋に備え付け！　電話基本料金&水道光熱費も月々の料金に含まれている。

各部屋に洗面台が付いているので、身だしなみは各部屋でセットできるぞ！　女性には嬉しい環境だ。

ランドリーで乱取りいいい!?

乱取りで負けたケニーが、なぜか服を次々洗濯機に放り込む。しまいには、全裸になってしまった。これって何かの罰ゲーム？

デカいランドリー室があるので洗濯もガンガン出来る！　あれっ、ヨネが、なぜかケニーと取っ組み合いをはじめたぞ……？

共立メンテナンス
パール鈴木

入寮生第1号
モハメド・ヨネ

左の謎の人物は、B―FLATの管理・運営をする共立メンテナンスのパール鈴木氏（パールの由来は体内に真珠を埋め込んだからとの説アリ!?）。憧れの選手も住むので、ファン的にも嬉しいはず！　この2人がB―FLATを案内します！

バトラーツの新人といえば、リング下や道場の屋根裏という浮き世離れした壮絶な環境で暮らしていることで有名だ。そんなバトラーツが下宿をオープンすると聞いたときには、「どんなもの凄いところだろう？」と思ってしまったことを最初に書いておこう。だが、そんなゲスな勘ぐりはいい意味で裏切られた。凄いぞ、ここは!!

そもそも、「なぜバトラーツが下宿屋をやるの？」と思った方も多いと思うので、そのへんの経緯をパールさんに聞いてみた。「ボクらの世代が子供の頃に見ていた古き良き時代のプロレスをバトラーツが蘇らせてくれた。それが『蘇れ！　ゴールデンタイム伝説』でしたよね。B―FLATは昔ながらの下宿屋の良い面をワンルームマンションのような最新設備で蘇らせました。だから『蘇れ！　ゴールデン下宿伝説』というキャッチコピーなんです」なるほど、バトラーツ両国大会のような、どこか懐かしくあたたかい空間が、ここにはあるわけなのである。

では、実際にB―FLATとはどんな下宿屋なのか？　昔から下宿屋といえば管理人さんがつきもの。このB―FLATにもライフサポーターの夫妻が常駐して、様々な面倒を見てくれる。朝夕の食事も出るし（オプションによってはナシ）、宅急便の配達も問題なし。だ

広い屋上は見晴らし抜群！　暖かい季節になれば、ひなたぼっこやバーベキュー大会やトレーニングなどもできちゃうぞ！　ヨネもここで隠れトレーニングをしてる模様。

21世紀の下宿屋

B-FLAT takesato

4月1日オープン

●朝夕2食付き
●ご飯食べ放題
●牛乳飲み放題

●インターネット接続料
●使い放題

●格闘技・プロレスファンにはこたえられないプレミア満載!!

●水道光熱費
※電気利用料別

●電話基本料金
●通話料金別

●共益費

●B―CLUB会員すべてのコース使い放題

★この他にも
●パソコン本体&プリンタを格安で購入可能
●ドリームキャスト本体も格安で購入可能
といった特典アリ

石川社長の英断によって
大幅値下げ!!

3月いっぱいに申し込めばこのお値段!!

上記の料金が含まれて、たったの
¥79,800(税込)

オプション

朝メシ&晩メシなし ¥59,800(税込)
1ヶ月からの短期滞在 ¥99,800(寝具&テレビ付 税込)

残室わずか! 早いモノ勝ちだ!
【B-FLAT takesatoお申し込み&お問い合わせ先】
株式会社 共立メンテナンスB-FLAT事務局(安永・横山・丹羽)
TEL.03-5295-7815
ホームページアドレス
http://www.kyoritsugroup.co.jp/b-flat/

武里 東武伊勢崎線 越谷 南越谷 北千住 地下鉄日比谷線 秋葉原 至春日部 武蔵野線 地下鉄千代田線 総武線 西日暮里 水道橋 山手線 B-FLAT B-CLUB 後楽園ホール 新宿

★武里駅まで徒歩4分
★B-CLUBまで16分
★後楽園ホールまで46分

【B-FLAT takesato住所】
埼玉県春日部市大畑7-3-6

ライフサポーター夫妻常駐で暮らし安心クラシア～ン!!

専門の栄養士が長期的に献立を考えてくれるので、朝夕の食事は超ヘルシーだ! ご飯と牛乳は、いくらおかわりしても大丈夫! 健康志向の中高年の方でもどうぞ! もちろん、プロレスラーになりたいキミも大歓迎だ!!

管理人さん夫妻が、入居者の生活をサポートしてくれます。似合っていますが石川社長と宮内美穂ちゃんは管理人ではありませんのであしからず。

裸のつきあいが人を育む!!

24時間使用可能なプライベートシャワー室もあるので、各自のライフスタイルに合わせた生活を出来るのも大きな魅力だ。

憧れの選手と裸のお付き合いが出来るかもしれないのだ。プロレスファンなら垂涎この上ない環境である。

これだけ広いといっぺんに大人数で入っても大丈夫だ! ちなみに大浴場は24:00まで使用可能。

全裸になったら大浴場へ行け!!

♪いい湯だな～
アハハン～

全裸になったケニーは、そのまま隣にある風呂までダッシュ! そのまま大浴場へドボ～ン! 「こんなにでかい風呂だとホントに気持ちいいっスよ!」とヨネ。時間帯や曜日によって、男女は分けてお風呂に入れるのだ。

が門限はないので、夜遊びしようが、酒を飲んで遅く帰ろうが、野菜スティックを突っ込もうが、周りに迷惑をかけなければすべての行動は自己責任のもと、自由なのである。まあ、犯罪行為をすれば、当然ここの住人であるモハメド・ヨネも黙っていない。物騒な事件が多発しているこのご時世だが、防犯管理や防災設備もバッチリ整っているので、女性のひとり暮らしも安心である。

石川社長は自分の自伝を「読まないヤツがバカなんだッ!」と言い切ったが、このB―FLATはモハメド・ヨネが「住まないヤツがバカなんだッ!」と言うのも納得できる、素晴らしい下宿屋である。いまなら、まだ間に合う! さあ、急いで申し込め!

みんなで入ろうB―FLAT! バトラーツの世界征服計画の一環だけあって、B―FLAT入居者は"バトジム"B―CLUBを無料で利用できる! カモン!

闘いか？ 芸術か？ 男も勃つ！ 女も濡れる！ 世間も騒ぐ！

天才・アラーキーとプロレスラーが
サシで勝負したフォトセッションが、
遂に5月中旬、写真集として昇華!!

去る2月29日に発表された仮題『格闘芸術』は、アラーキー裁定により、

格闘男

となりました！

超豪華な内容は、今月は文字だけで見せます!!（想像、続行ーッ!!）

■夢の顔合わせ！　桜庭和志vs藤田和之の壮絶スパーリング超熱写
■サクがアッと驚くファッションで登場！　■野獣・藤田和之の躍動する筋肉芸術を接写！
■アレクがヘアヌード！　衝撃の本邦初公開！　■UFO・村上一成が男っぷり全開で肉体美を披露！
■驚愕！　ザ・グレート・サスケがあんな格好に？　■仰天！　タイガーマスクがこんな格好に？
■田中稔が色男っぷり全開のショットで飛ぶ！
■石川雄規の情念を丸撮り！
■Hが脱ぐ！　縛る！　感じる！
■見てみ、この艶！　モハメド・ヨネの秘ショット
■藤田穣がファッション誌的カットにチャレンジ

一体この写真集は何だ？

撮影：荒木経惟

団体の垣根を超えて、プロレスラー11人が集結したこの写真集の詳報は、次号を待て！

5月1日、後楽園ホール・プリズムホールにて行われる『紙プロ』&『SRS・DX』共催の「プロレス&格闘技祭り」にて先行発売予定！　現在のところ問い合わせ不可！　以上！

5・1「PRIDE・GP2000」に激震!!
ホイスのルール変更要求に桜庭、
オムツ姿で反撃

サクよ!! オムツとオツムでホイスァッサァーだ!!

取材協力／佐藤エミリン
文／中村カタブツ君

皆さんももうご存じであろうが、3月13日、突如、ホイス・グレイシーが兄のホリオンとともに来日し記者会見を開いた。

内容はとっても簡単。

●2回戦及び準決勝は1ラウンド15分の無制限ラウンド、判定決着無し

●決勝戦は1ラウンド20分の無制限ラウンド、判定決着無し

●試合が中断されるのはホイス自身のタップ、あるいはセコンドがタオルを投入した場合のみ。ただし、ホイス以外の選手はこれまで通りTKOやドクターストップを認める。この要求が満たされない場合は試合に出ない。

簡単な内容でしょ？　オレたちにはオレたちのルールがあるんだから、オレたちと試合する時にはオレたちのルールで闘え！ってわけだ。

記者陣からは当然「今更、判定なしの要求など筋違いではないか」との質問が飛ぶが、「もし砂漠の中で闘った」ら判定などなく、逆に判定があったら「パニックになる」とまでホリオンは言い切るのだ。

この後、ホリオンは「格闘技者とはリングに入れば勝つために闘うもので、第三者が判断を下すべきではない」といつものグレイシー節を爆発。しかも桜庭に向けてはこんなメッセージまで残している。

「桜庭もレフェリーの陰にばかり隠れていないで出てこい！」（BYホリオン）と。

さあ、そういうことで翌日、ハナから逃げ隠れする必要のない桜庭和志はさっそく出てまいりました。

高田道場で行われた、この緊急記者会見で彼は「向こうがそれじゃないと出ないって言うなら僕はそれでいいです。野球のルールでもバスケのルールでも何でもいいです」と、あっさり受諾して気持ちいい。その上で「無制限ラウンドっていうなら一週間引っ張ります。6日間は痛めつけるだけで最後の1日で極めます」と抜群なコメントを出す。

さらに「一週間あるんで先にトイレに行った方が負けです。僕はトイレが近いんでオムツを着用してインターバル中に松井（大二郎）に替えてもらいます」とたたみかけるから素晴らしすぎる。

写真撮影ではジャージの上にオムツを着用して笑顔でガッツポーズと、遊ぶだけ遊んで会見は終了した。

実は会見前、記者陣は高田陣営がどう出てくるかと気を揉み、ちょっと様子をうかがうような状態であったのだが、結局フタを開ければ終始にこやかムード。

中でも秀逸だったのが佐野なおきで、会見の間中、Jカップに向けて筋トレにいそしんでいたのだから、高田道場はイイ意味でバラバラ。

「ホイスをホウキでホイスァッサァ」

高田延彦がホイス戦前に記した言葉を体言するかのように、グレイシー側のチンケな要求を高田道場全体で掃いて捨ててしまったというわけだ。

それぞれが独自の方向を見ながら、闘いの芯だけは貫く高田道場。

ダジャレもあれば、オムツもある。

これぞ、なんでもありだ。

2・27 EWF後楽園大会　タチ関の再起戦リポートでごわす

どすこい紙スモー

文・スモーノブ

1月30日、夢にまで見た東京ドームで、無残にも秒殺されてしまったvsゲーリー・グッドリッジ戦。大刀光最強幻想、ひいては相撲最強幻想までもが音を立てて崩れさった悪夢の『PRIDE GP』から約1ヶ月後、後楽園ホールでタチ関が再起戦に挑んだでごわす。

Neoの篠社長率いるEWFのリングで行われたインディー界最強決定戦『誇りグランプリ2000』にタチ関が出場したばい。いわゆる『PRIDE GP』のインディー版でごわすが、出場した選手は実力者揃いで、見応えもたっぷりでごわした。ムエタイのタノムサク鳥羽、アマレス出身の折原昌夫、木人拳（?）の木人ケンといったインディー界でも腕が立つバリバリの実力者と埼玉プロレスのサバイバル飛田、DDTの高木三四郎、ニセ大仁田こと森谷さんなどの強烈なキャラクターの持ち主がズラリと揃ったばい。

そげん中で開幕したグランプリ1回戦。T.A.M.A.で活躍するエドワード・セクストン選手がタチ関の相手でごわす。ガイジン選手……タチ関の鬼門でごわすな。

インディー界総出演のロイヤルランブルに、タチ関も登場！　リング上の大掃除をして、ご覧のニコニコ顔ばい。

緊張感漂う入場シーン……のはずが、やっぱりというか、当然、相撲甚句！しかも、サンダルに裸足に素手という出で立ちは、目眩がするほどカッコよかね。歓声は横綱級にデカいでごわす！　この日の後楽園に集まったプロレスマニアたちも、あのタチ関の世紀の一戦を忘れてはいなかったばい。

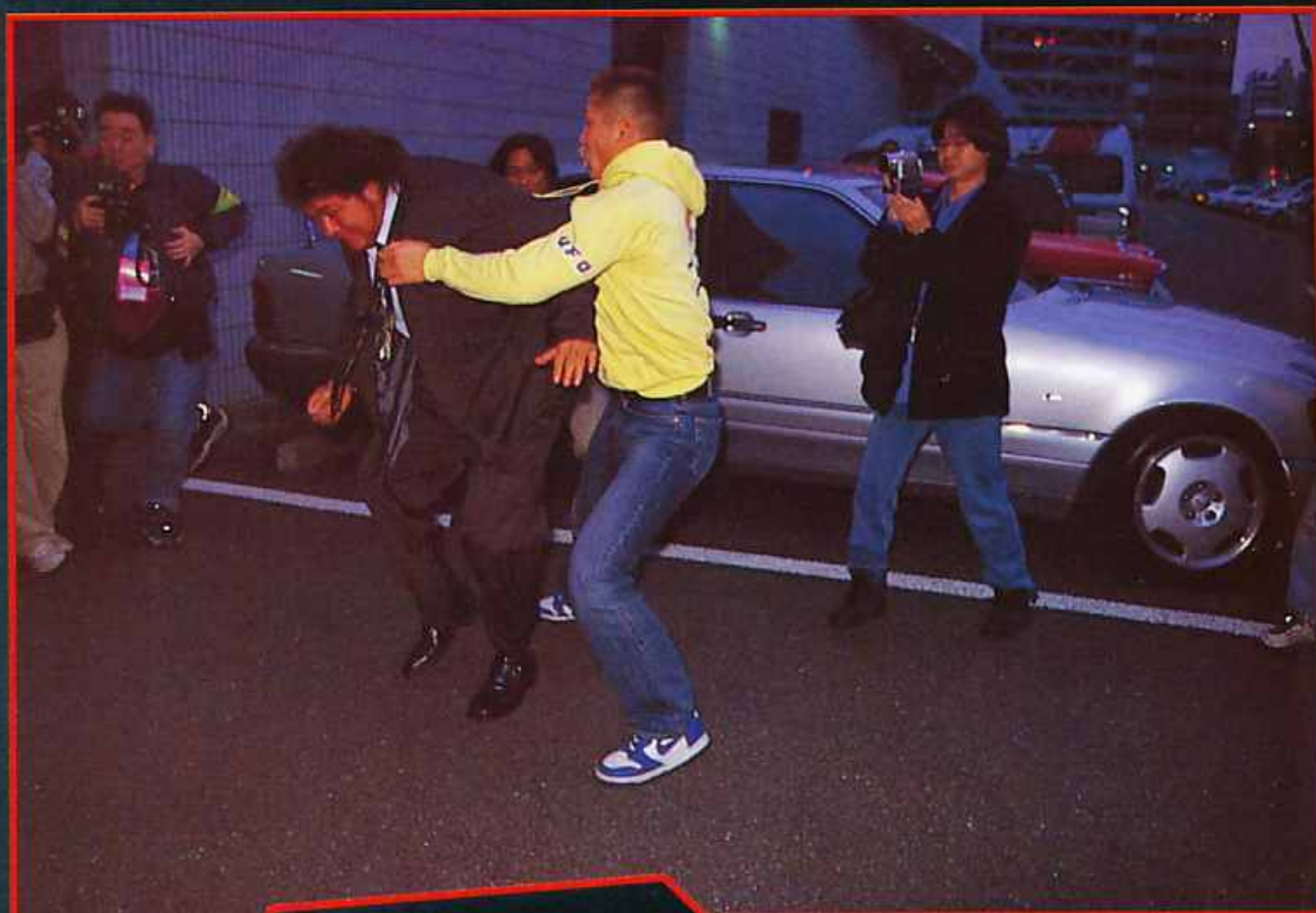
試合は一方的でごわした。強烈な張り手からのギロチン・チョークで、見事に白星ごっつぁんです！　自分がやられたことをそのまんまやり返すという心憎いテクニックで勝利を挙げたばい！　タチ関の格闘技に取り組むアティテュードが感じられたばい！

この勝利で勢いづいたタチ関は、立て続けに決勝まで勝ち進み、怒涛の勢いで優勝を成し遂げたでごわす。やはりインディーでは無類の強さを発揮したタチ関だったばい。

はぁ～、どすこ～い！　どすこ～い！　リベンジ開始！　試合後、タチ関は「『PRIDE』でリベンジしたい」と語ったばい。北尾関のように、フェードアウトせず、じっくりバーリ・トゥードに取り組んでいただきたいでごわす！　DSEもホイスのごり押し要求を呑むぐらいなら、タチ関の参戦要求を呑むでごわす！

この調子で、格闘ロマンの電車道を突き進むでごわすーッ!!

小川ァァァァ!!
なぜ村上に俺を
襲わせたァァ!!
何考えてんだ、
コラァー!!

小川ァァァァ!!
4月7日は引退を
賭けて闘う!
それでどうだァァ!!

3.11衝撃の事件ぼっ発!!

小川直也　村上一成インタビュー　次のページより続行ーッ!!

村上一成 UFO またも襲撃三昧!!

「おいおいおいおい!　冗談じゃねえよ!!」と思う余裕もないほどに橋本真也が大流血!　試合開始約4時間前に血ダルマとなってしまった。3・11横浜アリーナ「第2回メモリアル力道山」――。この日、会場裏の駐車場で待ち構えていたUFOの核弾頭・村上一成が、会場入りする破壊王に突如マーズ・アタックを仕掛けた!　まさに凶行である。　メインで小川直也と超党派タッグを組む破壊王は一度道場に戻り止血し、青息吐息のままリングへと向かった。が、アントン総帥が連れ帰ってきた"新宇宙巨人"B・B・ジョーンズにあえなくフォール負け。試合後、破壊王は、この事件の背後には「黒幕がいる」と怒りをぶちまけ、「小川戦は引退を賭ける」とまで言い切った。この事件を挟んだ、「4・7」は一体どーなる!?

はたして
オーちゃんは3・11襲撃事件の黒幕なのか?

小川直也

橋本戦、長州力、ヒクソン、全日本出撃!? 人間UFO語りまくる!!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

試合写真／黒田文夫（望遠&凶行）
photographs by Fumio Kuroda

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

『週刊・新日本』という言い方はよくない。だから、これからは『週刊・長州力』だね

3・11横浜アリーナで行われた「第2回メモリアル力道山」。メインは、「小川直也&橋本真也vs天龍源一郎&ビッグバン・ジョーンズ」戦——テーマ曲が鳴り響いても、なかなか花道に姿を現さなかった橋本が出てきたとき、セコンドの肩を借りた破壊王の頭部には包帯が巻かれ、さらにそれは真っ赤な血で染まっていた！ 何が起こったかわからない場内は、まさに騒然唖然ボー然。そして、リングインすると、いきなりオーちゃんに蹴りとケサ斬りチョップをブチ込んでいく！ さらに怒りの表情でマイクを握った破壊王は「小川ァァァ!! 試合前に、村上になぜ俺を襲わせたァァァ！ 何考えてるんだテメェ、コラァ!!」と絶叫したのである。

——前ページにある通り、UFOが、またもや周辺の木々をブッ倒すような荒々しい離陸ぶりを見せた。UFOの核弾頭・村上一成が、会場入りする破壊王を突如、暗闇から襲撃！ 路上テロを敢行したのだ。

4・7ドーム、待望のゴールデン・タイム特番という贅沢なオマケを付け一騎打ちを行うオーちゃんと破壊王。その二人が超党派タッグを組むという、アントン総帥の謎かけだけでもお腹一杯なのに、こういう事件が加わると、もう、ズバリ言って 非常にわけがわからない！

試合はオーちゃんと破壊王の凄絶な仲間割れのまま不成立かと思われたが、大いなる謎を残しつつギクシャクしながらも、続行ーッ!! オーちゃんと天龍の緊張感あるせめぎ合いなど見るべきところも多かったが、最後は負傷している橋本が〝新皇帝戦士〟の超宇宙的ステップからのエルボードロップの前にあっけなく沈んでしまい、不完全燃焼この上なし！ 館内はまたもや釈然としない空気に包まれた。

憤怒の表情で再びマイクを握った破壊王は、「小川ァァァ！ 4月7日は引退をかけて闘う！ それでどうだァァァ！」とまたもや絶叫!! 試合後、オーちゃんは、柳に風の如く、「俺は村上が襲撃したことなんて一切知らなかった」と黒幕説を否定。さらに「引退したいならさっさとしろ」とあしらった。

風雲急を告げる4・7東京ドーム、〝最後〟の橋本真也戦——。

さて、とーゆーわけで、ここでは敢えて、急展開を見せた3・11前の、暴言を混ぜつつも元気よく語ってくれたオーちゃんインタビューを掲載したいと思う。

橋本戦のこと、長州力監督に「頭の中が軽く見えちゃって仕方がない」と言われたことに対する逆襲、ヒクソンへの本音、そしてなんと全日本出撃(?)宣言！——時代を浮き彫りにする発言満載のオーちゃん節、炸裂三昧で〜す。

——小川さん、遂に初の単行本『反則ですか?』（アミューズブックス刊）が出ましたね！

小川 はい！ ぶっちゃけた話、最初はどんな本になるのかなぁって。ただ自分の試合のビデオを見て喋ってただけなんですよ、ざっくばらんに。適当に質問されるがままに答えてたら、なんか読んだら面白かった。ただ、試合を見た人じゃないとわからないのが残念といえば残念かなぁと。

——個人的には（ゲーリー・）グッドリッジ戦とか、小川さんの他の試合も語ってもらいたかったですね。

小川 そこを敢えて、今回は一連の橋本（真也）戦だけに絞って作った。だから、じきに他の試合にも波及していけばいいと。今回、これで試してもらってね（笑）。ところで、前号ではインタビューがなかったんで、遂に裏切られたか！ と思いましたよ〜。

——な、なぜだ！（笑）。

小川 唯一のUFO専門誌なんですから。お願いしますよぉ！

——やめてください、ホントに。せっかく、新日本さんと仲良くなろうとしてるのに(笑)。

小川 は？ そんな、どっかの雑誌と一体化したら困るよ！

——ガハハハ。そういえば、見ました？ 長州力監督のインタビュー（『週刊ゴング』2／24号）。

小川 ああ、『週刊・長州力』ね。

——『週刊・長州力』！（笑）。

小川 この雑誌は、『週刊・新日本』だよってみんなに言ってたんだけど、藤波（辰爾）社長に怒られちゃうなぁ〜、と（笑）。藤波さんは猪木推進派で、絶賛派だから。そう考えると『週刊・新日本』という言い方よくないなぁと。だから、これからは、『週刊・長州力』という名前に変えたほうがいいんじゃないかということを進言したい！

——その話をする前に、4・7の橋本戦をズバリ語っていただきたいです！

小川 あのね、ここだけは間違ってもらっちゃ困るのは、IWGPとNWAのダブルタイ

小川直也

トルマッチ！　それ以外にないということ。今度は久しぶりにゴールデンタイムでの放送があるらしいんでね。プロレスファンならまず見てくれると思う。でもゴールデンタイムの定義づけから考えると、それ以外の人に見てもらいたいっていうのがある。要するに、プロレス界というものに一般視聴者の目を向けさせるには、「この闘いがなぜゴールデンタイムなの？」っていう意味づけがないと見てくれない。じゃないと、それ以外の人に見てもらうのに説明つかないでしょ！　いくら向こうが練習やってるだなんだと言ってもね。同じ試合やるんでも、わかりやすく、相手の団体のチャンピオンと、こっちの団体のチャンピオン。チャンピオン同士がやるっていう意味づけが、絶対必要なんじゃないかなと。

―すでに橋本戦は、小川さんがワンサイドでシングル2連勝してるわけですからね。IWGPを取るくらいの実績を作り直してから挑戦してこいということですか。

小川　どっちが挑戦とか抜きにして、闘いなら、お互いの誇りを賭けたものにしたい。UFO＝NWAのベルトじゃないけども、いま俺は幸いにしてNWAのベルトを持ってるんで、それを賭けて闘いたいしね。橋本選手も出来ることなら、そういうハクというか理由をつけてから闘いに出てきてほしいと思うね。ぜひプロレス界のためにIWGPを獲ってくれよ、と。

―その橋本選手とは、3・11の『力道山メモリアル』でタッグを組むことになりましたね。これまた急展開なんですが、これは小川選手的にはどういう意味があると考えてるんですか？

小川　難しいよね。どうなっちゃうんだ？って自分が自分で迷っちゃってる。当たり前の話、タッグでやるなら、タッグチームだから。でも〝チーム〟というのは組めないしね。だから、俺自身もわからない。まぁ、それが面白いのかもしれないけどね、逆に（笑）。

―今回のタッグは、猪木さんの〝謎かけ〟に近い形で実現したわけですけど、きっと終わってから何かが見えてくるんでしょうね。橋本選手は2・20の両国で「小川、俺はお前を追い込むぞ」と言ってましたけど、これはどういう風に捉えてます？

小川　いや、いつも追い込むぞって言ってるけど、いつ追い込むんだろう？「俺は全てを賭ける」って前回も言ってたような気もしたなぁ。一つハッキリ言えるのは、こうなると麻雀の勝ち負けだよ。何回やっても、「もう一丁もう一丁」って言うなら1回出直してこいと。麻雀でズーッと負け続けてるのに、「もう一丁もう一丁」って言われても、誰も相手にしなくなるでしょ。

―その出直しの象徴が、IWGPを獲ってこいということなわけですね。でも、その橋本選手に成田空港で一発、張られてしまいましたね（2月23日）。

小川　猪木会長がロスに帰るんで見送りに行った時ね。よくわからないけど、一応、俺も前蹴り入れときました。足型をスーツにうまくつけとけた。だから、俺はクリーニング代、セーフ！（笑）。

―ガハハハ！　そういう話（笑）。

小川　何をセコいこと言ってんだ、俺はって（笑）。橋本選手の発言や行動もね、意気込みがある時もあればスカされることもあるし、統一性がないって言うのかな。

―3月シリーズも全休ということらしいですからね。それに対しては、（佐々木）健介選手あたりからも「なに考えてるかわからない」という声が上がってますけど、IWGPを獲るチャンスもないですよ、全休じゃ。

小川　そう！　だから、何がなんだかわからないよ！　陽動作戦かな？と思ってね。

―撹乱してるのかもしれないですよ。

小川　ダーハッハッハ！　こっちは〝何やってんだろう〟ぐらいにしか思ってないけどね（笑）。

―でも、水面化の綱引きという部分も含めて、橋本選手が崖っぷちからどうやって這いあがってくるのかっていう、非常に人間臭いドラマには期待したいんですよ。

小川　いや、こっちは勝ったって何もないんだから。だから、全休だろうが何だろうが、こっちの知ったこっちゃねえんでね。とにかくIWGPを獲ってこいと！

―そういえば、橋本選手とのタッグが決まったと思えば、逆に待望の高田（延彦）選手との対戦が流れてしまいましたね。

※当初、小川&橋本組の相手に予定されていたのは、天龍源一郎&高田組だった。

小川　あっちを立てればこっちが立たずみたいなね。なんかしっくりこない。歯がゆいよね（笑）。

―歯がゆいといえば、こないだ新日本キッ

この闘いが、なぜゴールデンタイムなの？っていう意味づけがないとね

THIS IS A PEN

THIS IS MY STYLE 2000

クのリングでミット打ちも披露したし、TVにも積極的に出てるし、マット界を盛り上げる発言もしてるし、小川さんは凄く勢力的な活動をしてますよね。試合がなくても。

小川　そうでしょ（笑）。それをわかってくれるのは、『紙プロ』さんしかいないから。唯一のUFOの機関誌ですから！

——ガハハハ。そのネタやめてください（笑）。でも1月の『PRIDE』以降は、藤田（和之）選手に持っていかれて、歯がゆくないですか（笑）。

小川　いや、あれは、藤田選手が持っていくべき！（キッパリ）。せっかく藤田選手が踏み出した第一歩なんだから。そりゃあもう最高の形で出れたんだからいいんじゃない？　おまけに会長のもとだから、同じ同僚として、〝いいんじゃない〟ってとこですね。

——猪木さんは「みんながジェラシーを燃やすような闘いをして欲しい」と、藤田選手が『PRIDE・GP』に出陣する際に言ってたんだけど、これは小川さんに対しての追い込みじゃないかという見方もありますよね。ズバリ言って小川さんは、ジェラシーは感じましたか？

小川　全然！（キッパリ）。というか、要するに同じ場所に来たから、これからじゃない？　だって、いずれはライバルになるんだし、対戦せざるをえなくなるかもしれないしね、この先。新日本という枠よりも、あくまでもフリーとしての同じ立場だから、これからが一番面白いんじゃないかなぁ。

——じゃあ、『PRIDE・GP』全体に関する感想は？

小川　見てない！（笑）。

——もはや見てもいない!!（笑）。

小川　もう、目を閉じると浮かんできますもん。この試合はこうだろうなぁって、写真が撮れますよ、自分で！

——ガハハハハ。念写！

小川　念写しちゃったもん（笑）。浮かんできたよ、いろんなシーンが。

——じゃあ、だいたい勝敗は予想通り？

小川　そうだねぇ。

——『PRIDE』の評判とかは聞いてます？

小川　ジェラシー燃やせない！（キッパリ）。

——ガハハハ！　燃やしてくださいよ！

小川　燃やせそうな試合だったら見るけど、見ないってことは燃やしてないのかなぁと。

——じゃあ、ジェラシーとは違いますけど、さっきちょっと話に出た長州発言は怒りの対象にはならないんですか？

小川　（インタビュー記事を見ながら）う〜ん、サークルが違うからね。立ってるサークルが。選手じゃない人と、こっちは選手なんだから。だから、もし選手に戻った時はヒットしますよ！

——これは多分、ウチの「小川&村上（一成）インタビュー」（NO23）を読んでのことだと思うんですけど、「もうちょっとものを考えて喋れ」としきりに言ってるんですよ。「俺は村上っていうのはもうちょっと頭がまともかなと思ったけど、軽い。2人とも頭の中が軽く見えちゃって仕方がないな、俺は」と言ってます（笑）。

小川　………。俺たちはバカなのかなぁ？　でも、「UFOはバカで〜す」ってことでいいんじゃない？

——いいんですか！（笑）。

小川　じゃあ、新日本は天才だ、みんな！　いいなぁ〜。

——いいなぁって（笑）。

小川　でも、バカの方が気がラク！「あいつバカなんだもん」って言われてる方が絶対に得！　何やっても許されちゃうじゃん。

——頭がいい振りするのは難しいですからね。

小川　頭いい振りするっていうのは、お化粧が取れたらバレちゃうってことだから、余計辛いよねぇ。

——日刊紙での日々のやりとりも含んで、小川さんの発言は、長州さんには「プロレスラーの発言ともあるまじきような、軽いノリでものをいろいろ喋ってる」ように聞こえてるようだし、中西（学）、（佐々木）健介選手とも、「やりゃしねぇよ、小川は」とも言ってますね。

小川　やりゃしねぇも何も、あっちが出てこねえんだろ（笑）。新日本の選手が1度でも他団体に出たことがあんのかって聞きたいよ。

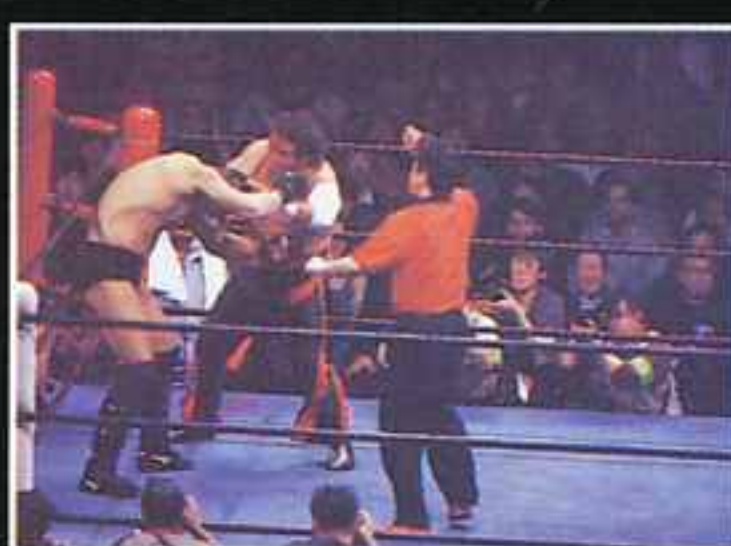
——小川さんはやってもいいわけですか。

小川　全然問題ない！　面白けりゃいいんです！

——面白けりゃいいんです（笑）。

小川　つまんなかったら最悪だけどね。プロである以上は、もしそれが面白そうだとファンに求められたら、ニーズに答えていかないといけないんですよ。だから、そんなに文句があるなら4・7にやればいいじゃねえかって言いたくなるよね。

——長州力さんという人は、もの凄く「プロレス」にこだわりがある人ですよね。

—3・11PUTIT REVIEW

額を真っ赤に染めリングインした破壊王はオーちゃんを乱打。混乱のうちに試合開始。オーちゃんと天龍の初の絡みは緊張感漂う立ち上がり。首をヒョイと突き出し、小バカにしたような挑発を繰り返す人間UFO。的確な張り手2発をブチ込んだ後は、抱え式ながら垂直落下のバックドロップまで見せた。天龍も突っ張り、力道山メモリアルに相応しい強烈な水平チョップ、延髄斬りなどで反撃。一瞬の劣勢を高速＆豪快な払い腰で挽回したオーちゃんは、「お前やれよ、代われ、コラ！」と橋本にバトンタッチ。が、すでに虫の息の橋本は、天龍との攻防をなんとか凌いだものの、デカくて迫力のある（かつドタバタな）ジョーンズにピンを取られてしまった

小川　それは長州力さんのプロレス観でしゃべってるから、それでいいんじゃないですか？（微笑）。

——ボクが想像するに、"プロレスというものを小川直也はナメてるんじゃないか"ってことを言いたいんじゃないですかね。もっと厳しくプロレスというものに接しろっていうね。

小川　でも、向こうも「プロレスを守る」とかなんとか言ってるけども、『K―1』とかバーリ・トゥードとかいろんなものに荒らされてる現状があるわけでしょ。

——そういった現状を直視した上での小川さんたちの行動なわけですよね。

小川　そういうこと！

——それと、長州さんの発言は、昔ながらの「プロレスラー言語」でものを喋れっていうことも含んでると思うんですよ。

小川　は？　いや〜、それだったら、実に重いですね〜。でも！　俺に言わせると「プロレスラー言語」ってこと自体おかしいなぁ。時代が変わってるのに、「プロレス、プロレス」って言ったって、長州さんのプロレス観だけで言ってるわけだし。もともとプロレスは自由なものでしょ！　師匠であるアントニオ猪木は「自由にやっていい」「いいんだよ、面白けりゃ」って言ってるわけだから。

——だから長州さんは、そういった猪木さんのプロレス観に対して、今年はもう一度チャレンジすると言ってますね。

小川　だから「面白いんですか？　そういった発言してて」ってことですよ！　だからいいよ！　生意気だって思われても、それだけ言った分のことはこっちだってやってるんだから。言いっ放しじゃないんだからさ。

——実際に、去年の"1・4事変"に刺激されて藤田選手の今回の行動に繋がったのかもしれないですからね。

小川　それは藤田選手にしかわかんないけどね。でも、なんで飛び出したのか？っていうね。現場監督ならなおさらそれを考えてほしいですね。まるで自分が気持ちよく送り出したって言い方してるけど、時代は確実に変わってるんだよ〜って。

——その新日本には、永田（裕志）選手が「バーリ・トゥードの別働隊を作る」とか、「2部制にする」という話も出てますね。

小川　分けなくてもいいでしょ？　そもそも、分けちゃいけないっていうところで、俺たちがあるわけじゃない。いちいち分けるっていう考えがあるのがいけない。永田選手の行動がいけないって言うんじゃなくて、要は俺たちは、「プロレス」だ「格闘技」だの草分けをなくすっていうことを前から言ってるわけだよね。

——小川さんは「プロレスは史上最大の格闘技」という言い方をしてますよね。

小川　自分の思ったように行動して、「あれもプロレスだ、これもプロレスだ」って言えばいいだけだと思うんだよね。普通はそう思うじゃない。だから、俺も（ゲーリー・）グッドリッジとやった後も、「これもプロレス」って言ったわけでしょ。プロレスにはいろんなものがある。それはそれでいいと思うんですよ。こっちが、まるであっちを否定してるみたいに取ってもらっちゃ困るよね。間違ってもらいたくないのは、俺たちは一生他は否定しないし、文句を言ったこともない。ただ、俺たちのプロレス観を訴えてるだけだから。"こういうプロレスがあったっていいんじゃないですか？"っていうね。別に「それは違う」って言われてたっていいけど、でも歌の世界だってそうでしょ？「あんなの歌じゃねえ」って言ったところで、実際、歌にはいろんな種類があるじゃない。ジャズだとかラップとか。

——民謡もありますね（笑）。

小川　みんな「歌」でしょ、演歌だって。

——ロックの世界とかでは、「あんなのロックじゃない」とかの意見はよく出ますよね（笑）。

小川　それは、それぞれのロック観があるから。でも、要はその時代にマッチしていけるようなものが一番いいんじゃない？

——なるほど。ところで、橋本戦が終わってからは、どんな飛びっぷりをUFOは見せてくれるわけですか？

小川　4・7は、自分らだけの問題じゃないし、プロレス界全体のものだと思って闘うしね。それ以降も、常に新しいものを出していかないといけないと思うよね。やっぱ4・7は、テレビ局もそれだけプロレスに賭けるっていう意気込みがあるんだから、ボク個人よりもプロレス界全体のことと捉えて、その意気込みに対して応えていかなきゃいけないかなぁと。

——小川さんの不幸なところは、プロレス界全体のことを考えてるにも関わらず、「アイツは自分のことしか考えてない」と受けとめられがちなところですよね（笑）。

小川　だったら、他の奴がやれよ！　と言いたいんだけど、他の奴がやらないから、俺らはこうなってるんじゃない？

小川直也

俺たちは一生他は否定しない
俺たちのプロレス観を訴えてるだけだから

THIS IS A PEN
THIS IS MY STYLE 2000

——ごく少数しか、新しい時代に向かって一足踏み出してないんですよ。

小川　ということでしょ。みんな思ってることを言えばいいじゃない。言いたくない奴はなんで言わないの?って話。こっちだって、言った分はやんなきゃいけないと思うと、逆にそれが励みになってるわけだし。その道を通る必要があるならば、避けては通れないわけだしね。要は、どんなに厳しくとも、笑いながら歩こうゼ！ってことですよ。

——新日本プロレスが、小川直也にとって、これから面白い〝場〟になっていく予感はありますか?

小川　いや、俺としては、いつでもどこでも出ていく体勢があるから！　例えば全日本さんに出てみたっていいじゃない。

——ゲ！　ぜ、全日本ですか！

小川　実現できるかできないかはわからないけど、ぜひ行きたいね。別に新日本だけにこだわってるわけでもないし。全日本プロレスという素晴らしい場も実際にあるわけだから。

——小川さんが全日本に上がったら、もの凄い衝撃が走りますよ！

小川　いいんですよ、それで！　三沢（光晴）選手が「プロレスラーは強くなきゃいけない。その場に対応していかなくちゃいけない」というようなことをよく発言してるでしょ。ちゃんとわかってるんじゃないかなという気がするんですよ。だから、まだ凄いんじゃない?（笑）。

——どこと比べてるんですか?（笑）。

小川　どっかの団体じゃないけど、「裏切られた」とかなんとか言ってるとこよりね。ダーッハッハッハ。だから、俺はなんにもこだわってない。もし俺が、こだわりがあるとしたら……。

——「言いますかーッ!!」（アントン調）。

小川　ヒクソン（・グレイシー）とやりたいっていうのがある！

——やっぱりヒクソンですか！

小川　ただ今度、船木（誠勝）選手がやるから、船木選手に持っていかれたら残念かなぁと。プロである以上、チャンスが巡って来ないかなぁってヒシヒシと思ってますから。本当は試合を組まざるをえない状態にしないといけないんだけどね。

——ヒクソンは歳も歳だし、チャンスはそうないでしょうしね。

小川　船木戦でさらに荒らされたら、たまんないからね。「日本はおいしいおいしい」って。「日本＝お金の国」みたいに思われてるからね（笑）。そういうのは断ち切らないと。

——例えば、『コロシアム２０００』に出場することもありえるわけですね。

小川　あ！『コロシアム２０００』っていうのがあったんだ。そうか。船木vsヒクソン戦は『ＰＲＩＤＥ』でやると思ってた。

——ガハハハハ！　そんなバカな（笑）。主催はテレビ東京ですよ。

小川　だって、どこがどこだってわからないもん。やってるチャンネルだってわからない。ヒクソン＝フジテレビだと思ってましたから。ああ、ヒクソン賢いなぁ〜。いろんなチャンネルに出て。

——なんか、ＵＦＯチックではありますね（笑）。

小川　いや、彼の方がうまいかもしれないなぁ。くっそぉ〜、くやしいなぁ〜（笑）。

——ガハハハ。ヒクソンが次に上がるリングがＵＦＯだったらバッグンですけどね。

小川　でも、いまはホント、４・７の重要性っていうのを考える。全力でやりますよ、決まった以上はね。でも、さっきも言ったけど、橋本戦にこだわっているというわけじゃない。この一戦の意味づけはプロレス界待望のゴールデンタイムというところですよ。

——そこで、何を突き刺せるかですね。

小川　だから、そう言った意味じゃ、さらにいままで以上のものを出していかないといけないと思うしね。コケたら一生ゴールデン上がれないかもしれないし（笑）。一生、ライジング・サンって言うの?　もう、見終わったら明るいよ、みたいな時間帯になっちゃうからねぇ（笑）。だから、橋本選手は勝てば大きいけど、俺は勝っても「またか」って言われて、負ければ何を言われるかわからない。でも、プロレス界の将来のためなんて言ったらカッコよすぎるけど、ゴールデン・タイムでプロレスの凄みを見せつけたいよね。そのためには、互いの誇り＝タイトルを賭けてやりましょうと。だから、ＩＷＧＰを穫ってこいよ、ということで〜す。

——他団体の選手が小川さんたちの一連の行動に対して、どう思ってるのか知りたくないですか?

小川　そんなことは知る必要もないし、俺は行くだけ行くぜ！　みたいな感じでやってるから。

小川VS橋本戦PUTIT REVIEW

【97・4・17東京ドーム】オーちゃんのプロレスデビュー戦。当時エースだった破壊王から裸絞めでＴＫＯを奪い取った！　猪木という参謀を付け、大方の予想を裏切った歴史的勝利だった

【97・5・3大阪ドーム】「柔道上がりの小川に橋本が負けた」落胆の新日ファンの“リベンジ”への期待を一身に背負った破壊王は、掟破りスレスレの顔面蹴りをブチ込み、執念で借りを返す

【99・1・4東京ドーム】“1・4事変”勃発！　記録は無効試合ながらオーちゃんが一方的に攻めまくった。「目を覚ましてくださ〜い」というマイクとともに、この一戦を機に歴史は転換！

【99・10・11東京ドーム】97＆98年は、高田vsヒクソンが続けて行われた「10・11ドーム」。99年は、オーちゃんが破壊王を返り討ち！　久々に立ち昇った怖い「プロレス」にドームは戦慄＆熱狂！

ただ、いま俺は〝照準〟という意味ではヒクソンしか目に入ってないからね

——なぜこんなことを聞くかというと、長州監督が、「多分、（小川＆村上の軽く見える発言は）よその団体から見たらいい笑い者になってるよ」って言ってるからなんですよ（笑）。

小川　いや、いい笑い者になっててもいいと思いま～す。いい笑い者っていうことは見てくれてるってことだから。見てなかったらウンともスンとも相手にされないよ。だから長州さんが言ってることも、全て俺たちを褒めてくれてるんだよ。そういう言葉の裏返しです、きっと（笑）。

——また、これ見られたら怒られそうだなぁ（笑）。最近、猪木さんとはどんな話をしたんですか？

小川　時代は常に進んでるんだからって。ちゃんとわかってれば、なにをやってもいいからって。だから俺ね、悪いけど、何を訴えてるのかが、長州さんの言い方だとわかんないんですよ。言いたいことは何なのかって。一つ一つ人のアラ探ししてる、添削先生じゃないんだからさぁ。そんなにダメダメ言われてもね。じゃあ、あなたは何がしたいんですか？ってなるでしょ。答えは（『ゴング』の）インタビューに書いてあるんですか？

——全体的には、新日本の選手は凄いぞってことですね。

小川　…………（絶句）。

——「じゃあ本当に中西と健介が行って『やるのか？』」って言ったら、オマエラどうするんだ？って」「ここでよく考えてものをしゃべんないと、軽いノリで喋っちゃうと、オマエたちはホントに追い込んじゃうよ」と小川さんたちに言ってますね。

小川　怖いですねぇ～。やんない方がいいのかなぁ？（笑）。

——ガハハ。そういう発言がまた「プロレスラー言語」になってないから怒るんですよ、きっと（笑）。

小川　なんで！「凄いですねぇ～」って褒めてるじゃん。なんで軽いの？「これは恐ろしくて、怖いなぁ～身震いしちゃうなぁ～」って、凄く熱く話してるのにダメかなあ？（笑）。

——火に油を注ぎたいわけですか？

小川　ダーハッハッハ！

——でも小川さんも、前から新日本の選手はやる気になったら凄いものを持ってるってズッと言ってますよね。

小川　否定はしてないからね。「長州力がバーリ・トゥードを語る」って書いてあるけど、俺は『ＰＲＩＤＥ』に出てもプロレスの一つのカテゴリーだとしか思ってないから。「バーリ・トゥードって何だい？」って話だよね。（そのインタビューの見出しを指さし）「中西や永田がホイスとやれば軽くいっちゃうんじゃないか」って？　あのね、こっちの方が、ズバリ言って軽いよ！　言葉が！　俺はいつも言ってるけど、どんな人間でも1対1で闘ったら、当日のコンディションっていうものがある。だからやらないとわからない、どっちが強いかなんて。それはいつも言ってるでしょ？

——ズバリ言って、非常に言ってますね。

小川　「勝負に絶対はない」っていつも俺は言ってるからね。俺の持論は、100ｍを8秒台で走れば絶対オリンピックで金メダルを取れる。でも、1vs1の勝負に関しては、いくら強くても、その日に体調悪かったり、ケガしてれば負けることもあるんだから。

——いや、だから長州さんの言い方は、ある種伝統的な、昔からプロレスラーが身につけてる〝鎧〟なんですよ。ボクもこういう発言にはシビれる性質だったんだけど、要は時代は動いてるっていうことですね。

小川　俺自身に置き換えたら、この言葉の方が軽いね。じゃあ、ホイスとやって、軽くいかなかったらどうなるの？　全てはやってみて、軽くいってからだよね。俺はどんな相手でも全力を尽くします！

——ところで今度のドームでは、村上vs飯塚高史戦も組まれましたね。その飯塚選手といえば、長州監督は、「ホイスなんて、ウチで飯塚なんかとやらせたいくらいだよ」って言ってますね。「いまは高校生に毛が生えたぐらいはやる」飯塚選手は、「飯塚なんてベースは何もなかったんだよ。でも取り組んでる姿勢が全然違う」ということも言ってます。

小川　軽いねぇ～～。実に軽い！

——だから、それを重く見せるような雰囲気作りをマスコミにしろっていうことも含んでの発言なんでしょうね。

小川　でも、時代が時代なんだからさ。

——逆にこういう時代だからこそ、シンドイとは感じない？

小川　シンドくはありません！　こういう行動が取れるのは、俺たちの時代の特権だと思ってるから。

——そういえば、蝶野（正洋）は「小川vs橋本戦」は、新日本の幹になりえないと言ってますね（『週刊ゴング3／16号』）。

小川　ヘェ～。じゃあチーム2000が幹になるのかもね（微笑）。

——小川さんは、こういう時代でしかできないような「プロレス」をやっているということですか。

小川　これからの時代もそうなっていくでしょう。

——ズバリ言って、いまのは非常にいい問題提起だと思うんですけど、また怒られそうですね（笑）。

小川　おいおいおい、冗談じゃねぇよ。『紙プロ』が、いまさら新日本に媚び売った

小川直也

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

ってしょうがないでしょ！

――ガハハハ！　媚びを売るつもりはないけど、早くUFOの自主興行やってください(笑)。

小川　ダーハッハッハ！　ねえ？　これだけ自主興行がない団体も珍しいからね（笑）。でも、UFOが自主興行やったら『週刊・紙のプロレス』にしてくださいよ。

――は？　いつやってくれるんですか(笑)。

小川　そっちの方がハラハラしちゃったりしてね（笑）。

――ファンもハラハラしてますよ（笑）。2月から3月にかけて予定されてたNWAのアジアサーキットは中止になるわ、北朝鮮は延期になるわ、どーするんだよって（笑）。

小川　困っちゃってますよ、こっちも！　でも、UFO自体も、4・7が終わってから、また加速して飛行していきますよ。

――UFOは、夏に向けてなんか面白いことが起こりそうだっていう噂も入ってきてますけど。

小川　最初、佐竹（雅昭）選手にいこうと思ったんですけどね。ああなってしまったからにはいけないかなと。まず、なんせ、戦力を厚くしてからだね。

――それはどこの団体から来てもいいってことですよね。

小川　もちろん！　来るものは拒まずですから。でもウチは、「どこにでも出て行く」っていう姿勢があるから、中途半端な気持ちで来られても困るんでね。あくまでも、ウチはプロだから、「いつ何時」っていう気持ちを持ってもらわないと。それさえあればUFOにはいつでも出場OK！　ただ、あくまでもウチはいま戦力が少ないから、言い方は悪いけど、また『PRIDE』さんとかにお邪魔して、やらせてもらおうかなぁと。

――じゃあ、まだ『PRIDE』も照準に入ってるわけですね。

小川　照準というか、UFOが上がれる団体の一つとして捉えてますから。ただ、いま俺は、照準という意味では、ヒクソンしか目に入ってないから！

――実に力強いですね！　では最後に読者にメッセージをください。

小川　4月7日は、みなさん会場で見てください！　会場で見れない場合はテレビで見てください！　そして最後に!!

――何でしょう？

小川　『紙プロ』はUFOの機関誌ですから、これからもよろしくお願いしま～す。

――ズコッ！（笑）。

【3月3日／東京・白金台・UFO事務所にて収録】

このインタビューでは、盛んに「ダブルタイトルマッチ」を主張していたオーちゃんだったが、3・11翌日にも東スポ紙上で、黒幕説を断固として否定しつつ、「もともとIWGPなんて興味ねーよ！」と、その人間UFOっぷりを存分に発揮。

「4・7は『橋本真也引退試合』ということで受けてやる」とダメ押しをした。一応は、「引退を賭けて、それで不服か小川！不服かよ小川ァア」と3・11後の控室で絞るような声で呟いた破壊王の意気込みに応える形となったが、村上の襲撃が、タイトルではなく、引退を懸けるようにしむけた罠だったとしたら、人間UFOの考えてることは恐ろしいことこの上なし！

4・7――人間UFOの完璧なマーズ・アタックが仕掛けられるのか、それとも本当に崖っぷちに立たされた破壊王が「勝ちゃあいいんだろ」と吐き捨てた気迫で這いあがるのか、まさに興奮の〝ゴールデン・タイム〟がやってくるというわけである。

アントン総師、3・11試合後のコメント（抜粋）

「俺は久しぶりに怒ってる!!」

●全試合終了後、控室から駐車場に向かう通路で●

〈今日の結果についてはどうですか？〉

猪木　俺は久しぶりに怒ってる！　あんな半チクな試合をするなって！　俺らがやってる時は怒ってるんだったら怒ってるでブッ殺す!!　俺は事件のことは後で聞いたんでね、なんとも言えないけどさ。さっき藤波もモヤモヤしてるから、「やるんだったら警察にでも訴えてやればいいじゃないか」と。小川がいま来て「私は知りません」と言ってたんで、「俺は信じるよ」と。信じるかわりに「お前らはここで決着を付けろや」と。ドームの煽りみたいな話はいらねぇよと。各団体が来て（力道山の）メモリアルという大事なお祭りには違いないかもしれないけど、それこそそんな気分じゃないんだから。やっぱりリングに上がるその時は、その時その時が彼らにとっては勝負なんだからね。ましてや『闘魂』という、みんながそれを見に来てるんだから。それを見せてもらいたかったというか。だから、久しぶりに俺は怒ってるっていうね。あんまり感情を表に出さないけどよ。俺が出ていってブッ殺してやろうか！　と思ったよ。

〈橋本とは全く話もしてないんですか？〉

猪木　してない！　男を見せろって。あんなに傷が重いんなら出てくるなって。

〈4・7は橋本が引退を賭けるという風に宣言してるんですが？〉

猪木　命を懸ければいいじゃない。ズバリ言って、引退なんて賭けたって、この世界は引退してから出てくるやつはいっぱいいるんだから。ホントに俺は怒ってるよ！　小川もブッ飛ばしてやろうかなと思ったけど……まあ、俺らが見たいのはあんな試合じゃねぇよ、ということで、すいません。

●駐車場にまで追いかけてくる報道陣を前にして●

猪木　まあ、プロレスという火を消したくないっていうのは、（力道山や他団体との）縁とは別なものがありますからね。

〈誰に対する怒りが一番大きいですか？〉

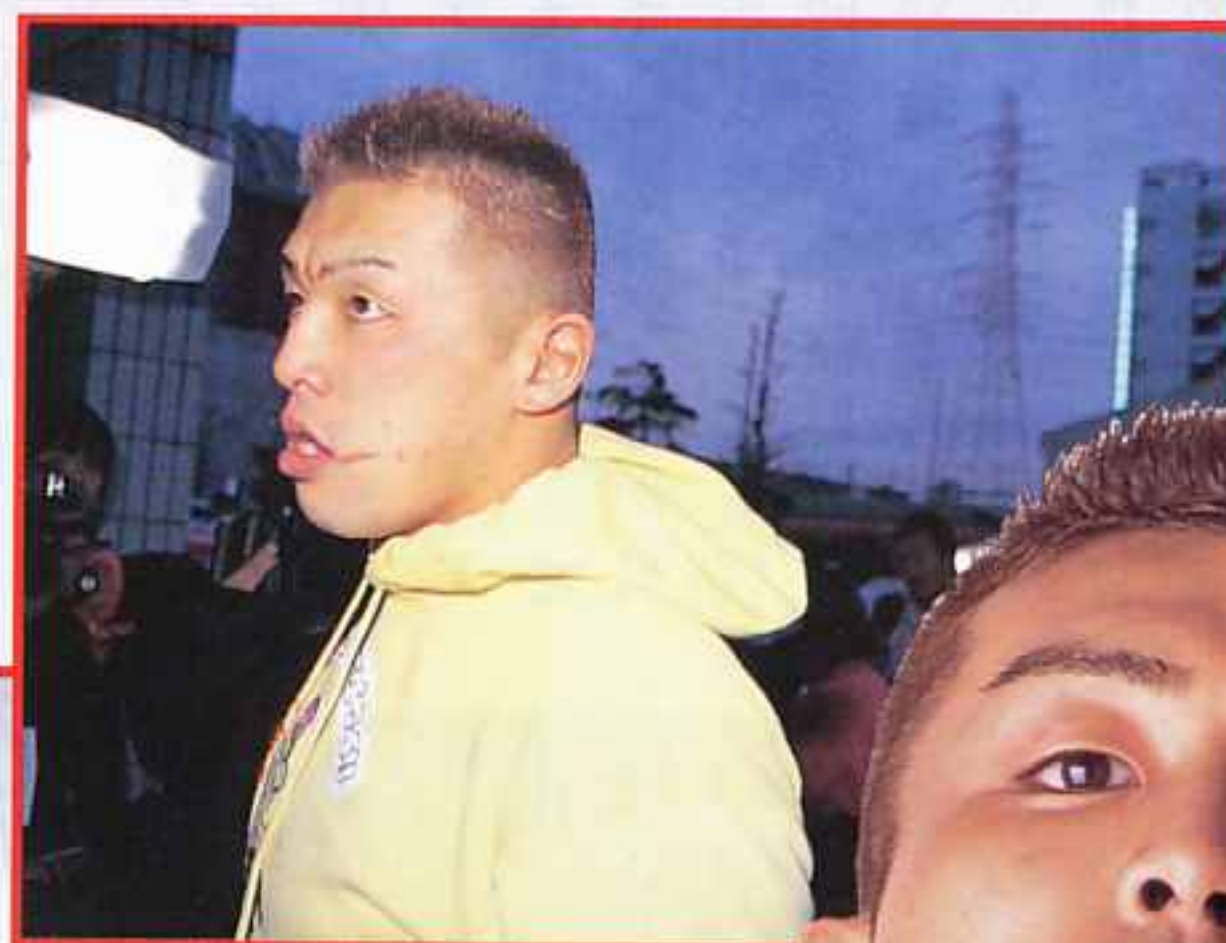
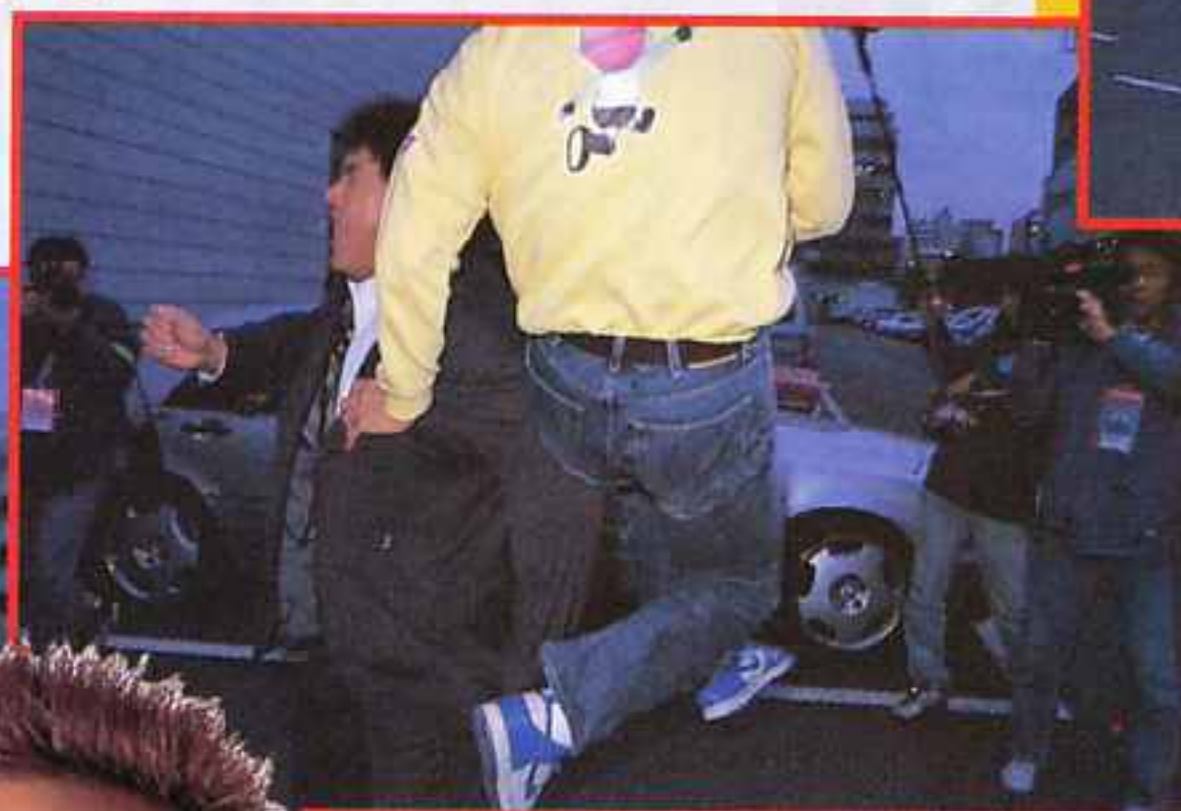
猪木　誰でもないけどさ。いま一番欠けてることは命を懸けてやるということがなかなか出来ない。俺は本当にそういう試合をやってきてるからさ。逆にこんな甘っちょろい時代になってるから、俺たちが本気で「コノヤロー！」と。もし何かあって、彼らがエスカレートしたら俺が飛び出して行ってもって思ってたけどさ、出る幕もなかったっていうか。ズバリ言って「ホントの試合」を見せてもらいたいという気がします！　ということですいません。

この日、ジャニーズ・Jrのタッキー相手に、エキジビションながらベストバウトを演じ、プロレスにとって重要なのは、リング上と観客席のエネルギーの交換ということを改めて我々に叩き込んでくれたアントン総師。その怒りの本質は、はたしてオーちゃんと破壊王に届くのか。

ズバリ言って、4・7までの伏線なんて関係ねえんです！　というくらい、もんの凄ェ「闘い」を見せてもらいたいというか。行きますかーッ!!　4・7・ゴールデン・タイム、ダーッ!!

なぜだ!? 3·11破壊王を暗闇から襲撃!!

村上一成

Kazunari Murakami.

「中途半端はよくない!
ブチ殺しますよ!!」

“猪木イズム”
VS
“長州イズム”
の先鋒戦!!

4·7因縁の飯塚高史戦、遂に実現!!

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito
構成／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie

破壊王襲撃事件勃発！

その実行犯・村上一成は悪びれることなく無差別襲撃予告をしたのを最後に雲隠れ（3／15現在）。その後は不気味な沈黙を続けている。

なぜ村上は橋本を狙ったのか、一向に姿を現さない現在ではその真意を知ることはできないが、本誌では事前に〝狙撃犯〟のインタビューを収録。その素顔は〝犯人〟と言うにはあまりに明るく元気！　古き良き時代の「昭和のプロレスラー」の残り香と、新しい時代を予感させる、いい意味でのトンパチぶりが同居しているのだ。

破壊王襲撃事件の謎を紐解くにも、4・7の飯塚戦のテーマを読み解くにも、笑いながら読み倒そうゼーーッ！

破壊王がオーちゃんを張った成田で、村上も「顔見ただけで殴りたくなる」飯塚と遭遇。3・11で破壊王を襲った村上が次に狙うのは当然この男か。

――村上さんはまさに「元気が一番」という感じなんですが、猪木さんがロスに帰った2月23日、またもや飯塚選手と大乱闘したそうですね。空港乱闘事件ぼっ発！

村上　……はい。生理的に合わないみたいですね。顔が嫌いみたい。

――ガハハハ！　飯塚選手の？

村上　いるじゃないですか、別に嫌いじゃないんだけど、顔見ただけでいじらしくなっていじめちゃうとか。

――「いじらしくなって」（笑）。言いますねぇ、向こうは新日本の道場長ですよ。

村上　道場長。同情しちゃいますね。アーーッッ!!　オヤジだぁ～っ!!　いまオヤジ入っちゃいましたよ（笑）。

――（無視して）ちょっと、空港での状況を教えてください。

村上　とりあえず、会長がロスに帰られるんで見送りに行って、会長から「オマエら、頑張れよ」とか言われてるときに、背後から「会長―!!」っていう風呂ん中で屁ェこいたみたいな声が聞こえたんで……。

――ガハハハ!!　もしかしたら橋本選手の声ですか？

村上　そう、「誰かな？」って思って見たら橋本選手で、俺の中では「力道山メモリアルのことだろうな」って思いながらも「なにしに来たの？」っていうのはあったんですよ。で、その後ろに「オマエ、本当になにしに来やがったんだ、コノヤロー!!」っていうヤツがいた。それが飯塚選手だったんですよ。喉のあたりまで「オマエ、なにしに来たの？」っていうのが出て来てて、口に出したときにはもう、掴みに行ってましたんで。

――口より先に手が出てたという。

村上　僕、そうなるときは、ホントに嫌いみたいですね。ホントに嫌いなヤツにはそうなんですよね。

生理的に合わないみたいですね（飯塚の）顔が嫌いみたい

――昔から、そういう一本気な性格？

村上　そうですね。

――女性にもそうなんですか？　口よりも先に手が出るっていう（笑）。

村上　ガハハハ！　とりあえず電気は消したりして（笑）。

――ズコッ！（笑）。つまり、こういう軽口を叩いてると、長州力さんに怒られるわけですよ。

村上　怒られるんですよねぇ。

――ここ、ちょっと見てくださいよ、長州さんのインタビュー（『週刊ゴング』2／24号）。「俺は村上っていうのは、もうちょっと頭がまともかなって思ったけど、軽い。なんか二人とも軽く見えちゃってしょうがねぇな、頭の中が、ホントに」この「二人」っていうのは、小川さんと村上さんを指してるんですよ。実は、これはウチのインタビューを読んで思ったらしいんです。これ見たときには、頭に来なかったですか？

村上　「あなたに言われる筋合いはない」って思いましたね（キッパリ）。っていうか「あなたは僕を殴ったことを忘れてるの？」って。

――あぁ、去年の1・4で2発殴られたんでしたっけ？

村上　2発ですよ。それは「レッツ・ゴー」っていう合図を出したのと同じですからね。「オマエも一緒か!!」って言われつつ。

村上　よそ見しながら言ってるから、「なんなのかなぁ？」って思ったら、ボコッって来たんですよ。それで「なんで、いま殴られたの？」って思ってたら、また殴られて、「行くべきなのかなぁ？」って思ったんですけど、やっぱり、〝長州力〟っていうブランドがありますからね。「俺がこの人に手を出したらマズいべな」って思って。

――マズイべな（笑）。富山弁だ。

村上　そのときはちょっと理性あったんですけど、2発殴られたから、後々考えたら「10発ぐらい殴ったほうが良かったのかなぁ？」って。

――ガハハハ！　気後れまったくナシ！

村上　はい。「やられたら、やり返せ」ですから！

――空港で、大乱闘したときに飯塚選手はなにか言ってましたか？

村上　「やってやるよ、ここで」って言ってましたね。

――それを猪木会長と小川さんが止めたんですよね。

村上　そうですね、会長まで中に入っていただいて迷惑をかけてしまいましたね。それでワーッと乱闘になって。そのときは、ギャラリーも凄かったんで、それでパッと見たら警備の人もボンボンいるし（笑）。

――ボンボン（笑）。正真正銘の場外乱闘になっちゃうとこでしたね。

村上　「会長が、これで帰れなくなっちゃったらマズイだろう」と思って（笑）。

【98・1・4ドーム】小川vs橋本戦の試合後の乱闘で大立ち回りを演じる村上に、新日勢は集団リンチ。村上と飯塚の因縁はここから始まった。

Kazunari Murakami

—国外追放になっちゃったりして（笑）。

村上　マズイッスよ（笑）。

—では今日は、4・7の飯塚戦へ向けての意気込みを中心に聞きたいと思うんですけど、去年の1・4を振り返りつつ、「なぜ飯塚高史との因縁ができたのか？」ということを振り返ってみます。去年は『1・4事変』と言われて、小川vs橋本戦が行われたわけだけど、そのときは飯塚選手のことは名前も知らなかったわけですよね。

村上　っていうか、僕、ホントに選手の名前とか知らなかったんですよ。飯塚選手も知らないし、安田選手も知らなかったですから。僕、知ってたのは、藤田選手とカシン選手ぐらいだったんですよね。あとは藤波社長とか、長州力選手とかは知ってたんですけど。

—選手じゃないですよ（笑）。

村上　あ、そうか。選手じゃなかったんですね。でも、いずれ……（笑）。

—でも、あの小川vs橋本戦は、小川さんのセコンドに村上選手がいたわけだけど、プロレスのセオリーを超えた大乱闘になった。で、最終的に飯塚選手に踏んづけられた形で病院送りになって、そこから始まった因縁ですよね。

村上　そうですね（ブ然）。

—非常に物騒な雰囲気の試合だったんだけど、試合中、徐々に新日本のセコンドが増えていった。そのときはどういう気持ちだったんですか？

村上　そのときは、別に人数がどうのこうのっていうのは、ないですね。「来るなら来いや！」っていう気持ちでしかなかったです。「喧嘩上等」って気持ちでいますからね、いつも。

—それは、UFOの特攻隊長の役割っていう意味で？

村上　いや、僕、もともと気持ちがそうなんですよね。

—昔っから、そういう性格だったわけですか？

村上　ガンガンですね！

—ガハハハ!!　擬音でくる。軽いなぁ、発言が。また怒られるなぁ（笑）。

村上　たぶん、軽い発言を「正」の字で数えられますよ。20個になった瞬間にブチ切れられますね（笑）。

—ガハハハ！　飯塚選手の話に戻すと、さっきは「生理的に嫌い」って言ってましたけど、〝優等生〟ってイメージがあるんですか？

村上　っていうか、「オマエ一人でできんのかよ！」というひと言ですね。「人の車に便乗してんじゃねぇよ」「自分で車を運転して来いよ」と。先に来た選手が俺を押さえてるのを見てから来るっていうのがイヤだったんですよ。そういうのを振り返ったときに、顔面蹴ってんのもそうなんですけど、顔面蹴ったのはあの人だけじゃないですから。それより僕が押さえられて、よそを向いてるときにバンバン来てるっていうことは、「オマエ、実はションベン垂れだ！」って言いたいですね。

—ションベン垂れ！　言葉が悪いですねぇ、ホントに（笑）。

村上　軽い上に悪い！　下品だし（笑）。

—自分で言う（笑）。じゃあ飯塚選手とは、闘いに出向く意気込みの質が違うと。

村上　だから「人に尻を叩かれて行ってんじゃないの？」っていう感じはありますよね。僕はそういうのは大っ嫌いなんで。そういう精神が嫌い。逆に、バンバン来たほうが、僕は納得できますからね。

—そういう村上選手の一本気で一直線なところは、長州さんも意気に感じてるんだと思いますよ。だからこそ、さっきの「村上っていうのは、もうちょっと頭がまともだと思った」っていう発言が出て来るんでしょうね。ただ、ここまで軽いというのは、長州さんにもわからなかったと（笑）。

村上　フワフワとタンポポのように（笑）。

—『1・4事変』のあとは、「病院送りになった」という新聞報道を見て、実家のお母さんが電話してきたらしいじゃないですか。

村上　来ましたよ！　ウチの親も、買わない新聞を買うからですよねぇ。

—そこで「これからどうすんの？」と聞かれて「頑張るぜ！」と言ったらしいですね（笑）。そのひと言が素敵ですよ。

村上　「頑張るぜ！」って言ったら、呆れてものも言えずに「はいはい」って言われました。

—去年の小川vs橋本戦では、試合のあとに小川選手が「新日本プロレスのファンの皆様、目を覚ましてください!!」というプロレス界発、世間に向けての歴史的な言葉が出ましたけど。新日本というのは目が覚めたと思いますか？

村上　いやぁ、覚めてないでしょ！

—「覚めてない」！

村上　まだまだ。覚めてない人、いっぱいいますから！

—じゃあ、あの『1・4事変』を振り返ってみると、村上選手にとっては一体どういうことだったんですか？

村上　あれは、小川さんの印象が強いと思うんですよね。だけど、僕から見たときに、小川直也という人間を必要としてる、人のフンドシで相撲を取ってる新日本っていうイメージが強いんです。あれだけのブランドで、あれだけのキャラがいて、なんで自分のところで活かせるカードが組めないのかなって思いましたね。藤田和之さんとかとも面識ありましたし、「なんで、こういう人をもっと活かせないのかな？」って。ドン・フライとか、凄いわけじゃないですか。経歴といい、実績といい。それが活かしきれてないっていうのは、もったいないというか。せっかくダイヤモンドを貰ったのに、それを埃かぶらして、石ころのように扱ってるだけって感じがしましたよ。フルに磨けば2ヶ月に1回ドームやっても、みんなが納得するぐらいのものができるんじゃないかと思いますけどね。

—なるほど。気後れナシ！

村上　僕らを必要としてくれてる新日本も、僕らにとってはありがたいんですけど、僕が上がる以上は一番光りたいですから。そういう部分では、新日本はまだ目が覚めてないんじゃないかなって思いますけどね。

—いいですねぇ、素晴らしい発言だなぁ。でも、今年のタッグマッチは村上さん、負けちゃったんですよ（笑）。

村上　失神しちゃいました。リングの中で。

僕はプロレスは大っ嫌いでしたね！ ズバリ言って八百長だと思ってたし

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

——ガハハハ！ 去年の1・4はリング外で伸ばされて。

村上 今年はリングの中央で！

——しかも飯塚選手に返り討ちにあいましたからねぇ。

村上 返り討ちでしたね。

——それは新日本からしてみると、「負けたくせに大口を叩くな！」ということになりますよね。

村上 終わったことは忘れるんですよ。

——ガハハハ！

村上 みんな、前を見て歩こうぜ！

——「忘れながら歩こうぜ！」（笑）。

村上 振り向くな！

——凄いなぁ（笑）。ズバリ言って飯塚選手は選手としてはどういう印象を持ってるんですか？

村上 選手としては、ちょっとしたタイミングっていうか、チャンスを逃さない選手なんだなって思いますけどね。……

——なぜ黙るんですか（笑）。でも、いま村上さんが言ったように、新日本ってキャラ的にも、実績的にも凄い選手がたくさんいるわけじゃないですか。団体としては日本一ですよね。そういった大きなブランドである新日本との大乱闘も辞さない、その一直線な性格っていうのは「自分は格闘家だ」っていう自負があるからなんですか？

村上 いや、生まれつきッスね！

——「生まれつき」（笑）。

村上 そういう環境の中に生きてきたから、しょうがないんでしょうね。昔っから、自分から喧嘩売ることも、しばしばありますけど……。

——しばしあるんですか!?（笑）。

村上 でも、人を助けるっていうか、誰かのためにっていうのは多いですね、やっぱり。

【99・1・4ドーム】飯塚がブレイクしたと言われる今年の1・4だが、内容的には村上が圧倒。シングル戦に自信があるのもうなずける。

——子分を助けるとか、そういうこと？

村上 そうですね。多いですね。鉄砲玉みたいなもんですね、僕は。

——ある意味〝任侠道〟ですねぇ。だから、長州監督は「軽く見えちゃう」って言うけど、村上選手は昭和の古きよき時代のプロレスラーの残り香がありますよ。

村上 そう言っていただけると、嬉しいですね。僕はよくわかんないんですけど〝昭和〟っていうとプロレス人気が凄いじゃないですか。その頃の人たちと同じものが感じられるっていうのは嬉しいことですよ。僕自身、プロレス見なかった人なんで。

——プロレス大っ嫌いだったらしいですね。

村上 大っ嫌いでしたね！

——それは、読者にわかりやすく言うと、なんでですか？

村上 わかりやすく言うと……。

——ズバリ言って八百長だと思ってたんですか？

村上 ズバリ言っちゃうと、そうですね。八百長だと思ってたし、その前に興味がないから楽しくないし。唯一見たことあるのが会長の試合だけなんですよね。会長の試合は面白かったんです。あとは佐山さんのタイガーマスクとか、そういうのは見たんですけど、「そんな技、効くの？」とか言ってる否定派でしたね。

——「早く立てよ」とか（笑）。

村上 「プロレスってなんなの？」っていうのがあったんですよね。

——その「プロレスってなんなの？」って思ったときに、深く考えこむほどの興味がなかったんですね。

村上 はい。それだったらNHK見てたほうがいいかなって。あと『演歌の花道』とか（笑）。

——ガハハハ！『演歌の花道』見てる中学生がどこにいるんだ（笑）。じゃあ、猪木さんの試合が面白かったっていうのは、いま考えると、どういうことなんですかね？

村上 最近接することが多いんで、いろんな話を聞く中で、そういうのを照らし合わせることもあるんですけどね。自分の闘いかたを持っている中で、相手によって闘いかたを変える。結局「こういったら、こうなんだよ」っていう固定的な流れのパターンを変えたりだとか、あとはオーラを感じられたのかなって思いますけど。

——プロレスを嫌いな格闘家でも、猪木さんの試合だけは見てたって人、凄く多いんですよね。

村上 僕がUFOに来たのも、縁があったわけですけど、多分、ほかの団体に誘われてたら「ノー」って言ってますよ。

——「飼い慣らされるのは嫌だぜ！」（笑）。

村上 嫌ですね。僕は会長の言葉とか、小川さんと接して、UFOには僕が望んでたことが120パーセントぐらいありましたから。

——120パーセント！

村上 はい。マックス超えてましたね。だから、二つ返事で「こちらこそ、お願いします」という感じでした。逆に「僕なんかでいいんですか？」って言うぐらいでしたから。だから、いま楽しくてしょうがないですね。

——「プロレスと格闘技のボーダレスな時代」と言われてますけど、全ての根源はアントニオ猪木にある気がしますよね。

村上 そうですね。最初は僕は区別派だったんですけど、僕が〝格闘技〟と呼ばれる世界から〝プロレス〟と呼ばれる世界に来て、両方を見て、なにが違うかって言ったら余裕ですよね。心の余裕、考える余裕、全てに余裕があって試合をするっていうことですよね、僕が感じるのは。人の目を気にしないで、なにもかもいっぺんに飲み込んでから吐くことができるんです。最初から

「オマエはキャンバスに絵を描いたことがあるか？」って会長に言われたんです

自分のラインを引かないで、いろんなものの見方ができるようになったし。

――小さい枠にはめないっていうことですね。

村上　僕、思うんですけど、アレクさんとかの試合でも、「なんで一日に2試合もできるの？」ってみんな言いますけど、それは、その人が「過程にしかすぎない」って思ってるからですよ。「こうだから、ああだから」っていうんじゃないんですよ。そのとき、そのときを全て一生懸命やってるんですよ。逆に言えば、楽しんでるんですよ。「さぁ、次行くぜ！」っていう感覚でしかないんですよね。「次、やらなきゃ」「これに勝たなきゃ」とか、そういうものに囚われてるわけじゃないんですよ。ファンとの集いっていうか、ファンも楽しむっていうか。

――ファンとの集い（笑）。

村上　ファンとのキャッチボールだと思うんですよ。そういうところが違うのかな。格闘技ファンでプロレスが嫌いっていう人もいるけど、じゃあ「なんで藤田さんとかアレクさんに、あんなに歓声が沸くの？」ってなるじゃないですか。だから、そういう人たちには「あなたたちの意見は間違ってるよ」って言いたいです。僕も最初は否定してたけど、会長とか見て「いいな」って思ったりしたってことは、どっかで「好き」っていうのがあるんですよね、全体的なイメージじゃなくて。だから、「村上さんって格闘家ですよね？」とか、よく言われるんですけど、「格闘家だろうがプロレスラーだろうが、どっちだっていいんじゃねえか！　俺は村上一成って人間なんだから」って答えると、「プロレスラー」って呼ばれるの、嫌じゃないですか？」って言われるんですよ。昔だったら嫌でしたけど。

――いまとなっては、どうってことねぇよ、と（笑）。それまでは、格闘家っていう軸があるから、"勝つ"ということにまっしぐらだったわけですよね。

村上　はい。どんな汚い試合しようが、誰がどう見ようが、相手には"勝つ"ということしか見えてないですから。それを考えたときに「小っちゃい枠にはまってたんだなぁ」と思いますよね。夢がないと思ったし。そう考えると、自分で自分に酔ってたなって。

――それは、ある意味アマチュア格闘家を言い表してますよね、「自分で自分に酔ってる」っていうのは。

村上　そうですね。だから僕が会長に「まだアマチュアだな」って言われたときに、「そうだよな」って思いましたからね。当時はアルバイトって感じでしたよね。

――他人に何かを与えないとプロとしてはやっていけないですよね。そこらへんが、"純粋な格闘家"と言われている人たちには理解不能なところなんでしょうね。

村上　そうでしょうね。僕がそうでしたから、そうだと思いますね。だけど、タイミングもあるし、まず自分が心を開かないとダメですね。

――心を開く！

村上　はい。やっぱり怖いですよ。自分に酔ってる自分がいるし、自分に自信がある自分もいるし。他人の意見を聞くときには「テメエ、なに言ってるんだよ」って感覚が強かったですから。それをいかに崩して「この人はどういう人なのかな？」って、自分から入り込んで広げていく、求めるっていう気持ちを持っていくと。でも、日本で言われてたら僕もわからなかったでしょうね。たまたまアメリカで会長と小川さんと三人で、高台にある喫茶店の丸テーブルで、デカい男三人が、足ブラブラさせながら囲んでるんですよ。

――実にいい光景ですね。

村上　そこで会長に「リングというキャンバスに絵を描いたことあるか？」って聞かれたんです。

――いきなり。

村上　はい。自分も、心が寛大になってますから。

――それは劇的な場面ですね。

村上　「キャンバスに絵を描くっていうのは、どういうことか、言ってみろ」って聞かれて、「勝つことです」って答えたんです。そうしたら「じゃあ、オマエはプロじゃないな、オマエは飯食えてるのか」「オマエはアマチュアだよ」って言われたんです。そして「キャンバスに絵を描くっていうことは、ファンとのキャッチボールだし、画面を通して見た人とのキャッチボールだ。いろんな人の視点があるから、必ず自分が観客になって試合をやれ」って言われたんですよ。でも、それはできませんね、いまだに。僕は一生かかっても、それはできないと思いますよ。見てる人のことは考えながら試合はしますけど、自分の試合の中で、それを組み立てていけるかな、と。

――猪木さんはよく、「真っ白になるぐらい試合に集中する自分と、二階席の一番うしろにいる自分と、二通りの自分を持ってなくちゃいけない」って言いますよね。

村上　ああ、どっちか片っぽだけじゃいけないのかなぁ？

――猪木さんは難しいことばっか言うんですよね（笑）。

村上　ホントですよ！　だから僕は一本橋を渡ってるようなもんですよね、ギリギリのラインを。

――どっちかに落ちたほうが楽なんでしょうけどね。

村上　そうでしょうね。だけど、落ちちゃダメなんですよ。右からもすくい上げて、左からもすくい上げて、自分の餌にしなきゃいけないんでしょうね。

――でも村上さんが、猪木さんの考えとかを吸収できるタイプだとは思ってませんでしたね、ズバリ言っちゃうと（笑）。

村上　ガハハハ！

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

Kazunari Murakami

―だって、見てくれは眉毛細いし、よくいる街のチンピラっぽいし（笑）。

村上 よく「チーマー」とか言われましたね。ウハハハハァ。

―ただ、『PRIDE・1』の闘いを見て、「この選手はプロ向きだな」って思ったんですよ。そのあとの一連の闘いぶりを見ても「やっぱりプロ向きだな」「闘いを通してなにかを表現したいんだろうな」っていうのは思いましたよ。

村上 やろうと思ってやってるんじゃないんだけど、やるからには一番その会場で目立ちたいと思いますから。でも本当にそれを考え始めたのは、UFOに来てからですね。どう考えても小川さんより目立てるわけないし、他にも有名な選手はいっぱいいるわけですよね、その中で自分の試合がズバ抜けるには、どうしなきゃいけないかって考えますよ。

―いま村上さんの話を聞いて、改めて思ったんですけど、プロレスってやっぱり〝思考する格闘技〟ですね。

村上 ア～、そうですね。だから、勝ち負けにこだわってたら、考えられないですね。「負けてもいいから行くぜ!」っていうぐらいの勢いじゃないといけないのかなって思いますね。

―なにかを「突き刺すぜ!」っていう。

村上 ブチ込むぜ!

―ガハハハ! そういう言葉にはすぐ反応しますね。そうすると、今度の飯塚戦では、なにをブチ込んで、なにを突き刺してくれるんですか?

村上 う～ん、グゥウゥ～ッと。

―なんでそこで擬音になる! せっかくいい話してきたのに（笑）。

村上 僕が求めているものを飯塚選手にもわかってもらいたいから。それをファンにも受け取って欲しいし、いままでのことを忘れないでもらいたいっていうか。いままでの流れの中でこういう試合が組まれたっていう、それまでの僕の気持ちっていうのを全部入れて試合をしたいなと。去年の1・4から始まって、今回はシングルで当たるわけじゃないですか。それまでの僕の葛藤とか、消化してきた試合とかを踏まえて、そこまで持っていきたいですね。そこで僕がお客さんの気持ちを掴めば、僕はお客さんの気持ちになれたのかなって思えるし、飯塚さん自身も、それをわかってくれればいいかなって思いますね。それにはヘシ折るしかないかな、と。

元々柔道家の村上であるが、VTで初めてM・スミスをダウンさせた打撃は大きな武器。1・4も「続行ーッ!」がなければKO勝ちだったとの声もある。

―ヘシ折りますか!

村上 「コイツはホントにこういう気持ちがあるんだな」というところまで、追い込めるだけ追い込むと。

―飯塚選手って、長州力さんに「よく頑張ってる」って言われてるじゃないですか。だから、ある意味〝猪木イズム〟vs〝長州イズム〟の闘いですよね。そう見たらファンも面白いと思うし。逆に村上さんが〝猪木イズムを見せられるか〟っていう命題も突きつけられてるわけですよね。

村上 ウワァ～ッッ!! 厳しいですねぇ～、お、重いっっ!!

―ガハハハ! 重いですか（笑）。

村上 いま言われた瞬間、一杯いっぱいになったんで。いやぁ～、重い!

―その重圧をハネのけるには、ヘシ折るしかないですね（笑）。

村上 ブチ殺すしかないです!! 殺るか殺られるかだと思うんですよね。僕の会長のイメージはそうなんですよ。中途半端はよくないっていう。僕はそう捉えてるんですよ。言ったからにはブチ上げよう、出た結果は結果だと思うんですよ。だから、それでいいのかなって思うんですよね。

―ズバリ、それでいいと思いますよ。

村上 いまの僕にできることは、会長が訴えてることの、まだまだ出だしだと思うんですよ。それはいま僕が感じてることなんで、それは出したいなと思うんですけど。向こうはどうなのかなぁ?

―飯塚選手が猪木イズムを感じたと思えるような試合になれば面白いですね。

村上 そうですね、僕も長州イズムを感じさせてほしいですね。1・4からいけば、そういうことですよね。なんで殴ったのかとか、いろいろありますから!

―そうですね、殴られた意味も知りたいですしね。

村上 そうですよ!

―長州さんには長州さんの哲学があるんでしょうし。

村上 僕は、それを理解するというより、闘いを通して聞きたいですね。「俺はこういう考えを持ってるんだよ」と。否定はしませんから。

―長州イズムと対峙する村上一成が非常に楽しみなことこの上ないですね。

村上 とにかく、全員ブチ殺しに行きます。それだけです!!

【3月10日／東京白金台・UFO秘密基地にて収録】

どーですか、この元気さ! 軽さ! 破壊王襲撃事件の真相はわからないが、この村上の天真爛漫な鉄砲玉ぶりは、今後マット界に必ずや活力を与えることだろう。「どんなに道が血まみれでも、笑いながら襲おうぜ!」というくらいの勢いで突っ走る村上一成の4・7は要注目である!

ザ・グレート・サスケ

「J―CUP」は最後のひと花。
ガーッと咲き乱れて散るよ。

聞き手／大西タマリン
interview by Tamarin Onishi

撮影／NAHOMIX
photographs by Nahomix

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

前号のUFO対談で、矢追純一氏の話に聞き入るサスケ社長はまさに、マスク・ド・少年。いつもとは違う顔（マスク越し）をチラリと覗かせ大興奮であった。そして、今回、みちのくプロレスが『J―CUP』を主催するということで、6年前の思い出すだけで涙がポロリとくる第1回を含め、レスラー生活10年を大いに語ってもらおう！　と〝サスケレスラー生活10周年＆石川雄規『情念～夢一途なり～』出版記念パーティー〟というめでたい日にインタビューを決行したのだが……。

サスケ社長の口から出てくる言葉と言えば、結婚前のマリッジブルー？　というような心にしみ渡りまくる寂しさが……。これは大問題！　レスラー生活10周年、ここへきて社長の2000年問題勃発である。だがしかし、こんなところでくたばってもらっちゃ困る。いつも、チビッコから大人まで老若男女問わず、試合を見れば「すげぇ～」と共感させ、リングを降りれば「サスケ、面白いなぁ～」と笑いの渦に巻き込むのだから。

「サスケがやらねば誰がやる！」がワタシの持論である。

でも、そこはサスケ社長！　さすが、タダでは転ばないマスクマンなのだ。インタビュー中に突如として、神の啓示が舞い降り、恐ろしい破壊力を見せつけた。

社長！　そ～んな悩むことなんてねぇんです。そのままサスケロマンを突き進めば、ノー問題！　スーダラ社長は永遠に不滅です!!

サスケ　（じぃ～～っと湯飲みに入ったお茶を眺めて）あのさぁ～、ポットに入っている麦茶ってなんでこんなに熱いんだろうね？

――うっ、何を思いつめてるのかと思ったら（笑）。タイガー（マスク）さんの大阪プロレス発言の方が2億倍くらい熱いと思います（笑）。

サスケ　（激熱麦茶にむせて）グヘッ、あ、熱いよ！　タイガー？　はいはいはい、タイガーが素直に見て「デパートの上の屋上ショーみたい」って思ったんだから、それについてはとやかく言われる筋合いはねぇよな。

――いやぁ～、今日タイガーさんに『J―CUP』のことを聞いたんですけど、あまり答えてくれなくて、相変わらず大阪批判大勃発でしたよ。

サスケ　そりゃそうだよォ～！　だってオレは謝ったんだよ!!　ちゃんと、「ど～もすいません」ってさ。（突然）あぁあああああ！　そういえば、オレ、（ファイティングTV）サムライの取材で大阪行ったんだよ。

――えっ!?　大阪プロレスにも『J―CUP』選考委員会で視察に行ったんですか？

サスケ　（人差し指を振りながら）ノンノンノン。と～～んでもない！　なんか大阪のひっかけ橋（戎橋）を歩きながらの取材だったんだけどさ。そこで、「サスケさん、大ファンです！」とか、大阪の人々は嬉しいことに言ってくれるんですよ。だから、ついつい「デルフィンって知ってる？」って聞いたら「知りまへん」だって（笑）。オレ、大阪人は全員大阪プロレスのこと知ってると思ってたよ。

――一応、敵地に乗り込んだつもりだったんですね（笑）。っていうか今日はみちプロ主催の『J―CUP』について聞きたいんですけども。

サスケ　オレ、なにがなんだか全然わからないんですよォ～！

――アハハハ。主催者なのに何言ってるんですかもう、頭打ちすぎですよ！

サスケ　でも、第1回にも負けないくらい今回は凄いんだよ。

――ワタシは死んだら、棺桶に5年前の第1回のビデオは入れてもらいますよ（笑）。

サスケ　（何かを思い出しながら、急に暗くなって）まぁ、とにかくあの頃っていうのはみちのくプロレスもまだ2年目であり、（獣神サンダー）ライガーさんの一言で「やろう！」ってなったんだよねぇ。ボクらはとにかく周りを見る余裕がなかったし、考える余裕もなくて、時間はかかるけども、なんとかみちのくプロレスは今後もやっていけるかなっていう期待と不安が入り交じってたよねぇ～。

――有名な話ですけど、長州力さんの「TAKAみちのくって宇宙人か？」という驚きの発言があって、ポーンと大入り袋をもらったみたいですけど、もしかして、社長と長州さんは宇宙人好きつながりでしたか？（笑）。

ボクらはとにかく周りを見る余裕がなかったよね。

THE GREAT SASUKE

サスケ　実はそうなんですよォ～。腕ブンブン廻しながらね（笑）。って冗談、冗談、ガハハハハハ！　そういえば1回目の時、入場式があったじゃない？　その時（スペル・）デルフィンの入場の声援が凄かったんですよ。声援で新日本の選手食ってたんだよね。

――やっぱり、デルフィンさんは人気あるじゃないですか！

サスケ　ねっ、そうなんだよねぇ～。でさ、「オッ！　これはみちのくのファンが結構いるなぁ」ってパワーが沸きましたよ。入場式の時点で。そういう不思議なパワーによって、オレとかTAKAとかデルフィンは持ってる力以上のパワーが出たんじゃないかなぁ～。

――あっ、思い出しました！　（準決勝の）ライガー戦が終わった後、実況の辻さんが「ヒャッツホォー―――！」って叫びましたからね。あの語尾の伸び具合は最長でしたよ（笑）。

サスケ　えっ!?　ホントォ～？　ガハハハハ！　くそぉ～オレ見逃してた。今、考えると辻さんってみちのく寄りだなぁ～（笑）。

――実はその試合後に「次はみちのくで」って言ってましたけど、第2回目はWAR主催だったんですよね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　そうそう、6年は遅すぎた（笑）。でもさ、やっぱり1回目の印象ってファンのみんなも記憶に残ってるんじゃないのかなぁ？

――新日本が主催ということでメジャー感も漂ってましたからね。今回は、途中加入で実行委員会にプチ参入したサスケ社長なんですけど、選考には苦労したんじゃないんですか？

サスケ　ホント、オレは何にも知らないん

みちのく勢で優勝しないとしゃれになんないよ。

だよ。オレがドン・キングじゃないよ（笑）。
——今日は黒幕じゃないんですね（笑）。でも、なんだか、みちのくにゆかりのある選手ばっかりのような気がするんですけど……。
サスケ　いやいやいや、それはね、まやかしですよォ～！　でも人選で言うと、メジャーとインディーの選手の比率って、1回目とはなんら代わりはないと思うよ。
——やっぱり、何でも一番最初にやるというインパクトはデカイですからね。
サスケ　まぁ、あの時はみちのくと新日本が初めて交わったんだからね。だから、今回はそんなにインパクトはでないんだよね。第3回だもん。だから、ズラ～っと面子みても新鮮味がナイナイナイ！　これが、1回目が与えた功績でもあり、罪だよ。
——今回の組み合わせを見ると（現段階ではバトラーツJJCトーナメントの優勝者は決定していない）なんとも抽選で選ばれたとは思えないような素晴らしいマッチメークですよね（笑）。
サスケ　ガハハハハ！　厳選なる抽選の結果、インパクトがない分、組み合わせで勝負！　ホント、妙でいいでしょ。
——社長の中で、この選手は要チェックだと睨んでるのは誰でしょうか？
サスケ（すかさず）タイガー、ライガーの2人だよね。
——うまい具合に1回戦であたってしまうじゃないですか⁉
サスケ　オレとしてはどっちかが死んでくれるから、よかったよね（笑）。あとはキャリアで佐野（なおき）さんかな？　（突然大声で）大穴で怨霊！
——怨霊選手は『J—CUP』のトーナメントに出場したわけでもなく決定したんですけども、それは一体なぜでしょうか？（笑）。
サスケ　ガハハハハ！　ズバリお答えしましょう。怨霊の生霊がそうさせたんですよォ～。選考委員会も、彼の体重がわからなくて量らせたら、なんと体重0kgだよ！　信じれる？　怖いよねぇ～（笑）。ムフフフフ。
——ギャハハハハ！　人間じゃないですからね。やはり、社長はもちろん、優勝宣言してくれますよね。
サスケ　モチのロンですよ！　でもねぇ～、オレがダメでもタイガーもいるし、いずれにせよ、みちのく勢で優勝しないとしゃれになんないよ。断言しますよ、今回、みちのく勢が優勝しなかったら『J—CUP』から撤退します！
——こ、これは毎回おなじみの『紙プロ』スクープですか？
サスケ　ゴメンゴメンみんなに言っちゃった（笑）。だからこそ、ん～～～～っ、やっぱり、タイガーに頑張って欲しいな。
——ガックシ（笑）。ま、またですか！す～ぐそうやってバトンを渡そうとするんですねぇ、社長は。
サスケ（もの凄い勢いで）そりゃそうだよ！　バトンタッチはルールだから。ムフフフ。（ボソッと）いつまでもオレじゃないんだよな。だからこそ、最後のひと花でさ、オレが優勝したいな♡
——そんな可愛い言い方してもダメですよ（笑）。
サスケ（さみしげに）……フフフ。今年4月でバーッと、咲き乱れて散るよ。
——桜のように（笑）。って散ってどうするんですか！　今日、「グラン浜田さんを見て、オレよりも30年以上のキャリアでがんばってるんだから（笑）」って言ってたばっかりなんですけどねぇ。
サスケ　……忘れてた（笑）。だからオレも頑張りますよォ～！
——一体、どっちなんですか！（笑）。やっぱり、どーしても社長業が急がし過ぎて首が回らないってことですか？
サスケ　……もう、社長業にも専念できないんだよ。結局はさ、なんかもっとオレじゃない誰かに任せたいんだよね。
——全部放棄して何するつもりなんですか⁉
サスケ　……昨日、頭打っちゃったんだよねぇ～。

※ここで、サスケ社長の後ろ向き過ぎる発言がこれみよがしに続くため省略

——なんかホント今日はとことん淋しい発言をフル稼働しますね（笑）。
サスケ　へ、へ、ヘクション！（自他ともに認める花粉症）。でもさ、東北のファンはそろそろわかってると思うよ。
——いやぁ～、今、社長が他の人にバトン渡しちゃったら間違いなく暴動起きますよ！
サスケ　もう、『J—CUP』で優勝して金字塔を打ち建てておいたら、大丈夫でしょう！
——今日はサスケ10周年記念パーティーという、とてもめでたい席だったんですけ

サスケ10周年&石川自伝出版記念パーティーに潜入！

時は3月5日。東京大飯店にて盛大に2人を祝うパーティーが催された。かけつけたメンバーは、バトラーツ所属選手（アレクは海外遠征中）、タイガーマスク、愚乱・浪花、藤田穣、グレート小鹿、山川竜司、マグナムTOKYO、望月成晃、つぼ原人、村上一成、極秘（？）帰国中のTAKAみちのく、南部虎弾、真樹比佐夫そして、司会はみちのく大賞主演女優賞受賞の三田佐代子という豪華ラインナップ。

まずは両社長が壇上へ。サスケ社長は期待を裏切ることなくズッコケつかみはOK！　一方、石川社長と言えば、『情念』を胸に抱き終始ニコニコ。そこで、突然ケニーが一張羅のスーツをズリ落としながら血相を変えて「大変ですぅうう！」と走り込んできた。どうしたんだケニー⁉　その瞬間、〝世界のスーパースター〟ではなく〝新宿のスーパースター〟コマイケルが登場！　モチのロン、コマイケルのモノマネ芸を世界一愛するサスケ社長のツッコミがあるからこそ、二人三脚で会場を大爆笑の渦に巻き込んだのは言うまでもない。このショーの途中で会場に我らが真樹先生登場！　真樹先生はジーッとコマイケルを見つめた後「私も本物のマイケルとは親交がありまして、横にいると化粧が臭くて、コマイケルでよかったです。ガハハハ！」とステキなご挨拶。さすが男ットコ前です！

あっという間にこの宴も終焉を迎え、各選手たちもホロ酔い加減で石川本&サスケミニミニソフビのお土産を持って家路についたのであった。

ザ・グレート・サスケ　デビュー10周年
&石川雄規　自伝出版　記念パーティー

THIS IS MY STYLE 2000

THIS IS A PEN

どね（笑）。まぁ、「何年とかって区切るのは好きじゃない」って言ってましたけども。

サスケ　先輩方に怒られちゃうよね。10年ごときで区切ってちゃ。でもね、あんまり周りの人間が「やろうやろう！」って言うからさ。ついついお披露目やっちゃった（笑）。

――好きでもないのに（笑）。でも社長はパーティーとかが大好きみたいですから、10周年の社長を祝うはずなのに今日は疲れちゃったんじゃないですか？

サスケ　いやいやいや、そんなことはないけどさ、受け身をとって10年でやっと一人前ですよォ〜。やっぱり、プロレスっていうのは奥が深いんだよね。そう考えると、オレは生涯現役ですよォ〜！

――モチのロンです！　では、『J―CUP』が終わってのビジョンっていうのはどうなんでしょうか？

サスケ　いやぁ〜、『J―CUP』が成功しないとなんとも言えないよね。身動きできないよ。資金的にも（笑）。

――懐までも淋しい発言をしますねぇ（笑）。

サスケ　コケちゃうとアウトだよ。先が見えないねぇ〜。話は変わるけどさ、バトラーツさんの下宿伝説は凄いね（笑）。

――『B―FLAT』経営したいんですか？　蘇れ、青年実業家伝説ですね（笑）。

サスケ　いいですねぇ〜、オレ、羽賀健二みたいになったら困るけどさ（笑）。グフフフ。でも、バトラーツさんはリングの上ではアレクが、ああやって『PRIDE』出てさ。ボブ●ン●ンだっけ？

――アハハハ。いい加減に名前くらい覚えてください！

サスケ　オレからしたら、あんなのアレクの勝ちですよォ〜。ホント、あの試合はオレも一緒に闘ってたからね。

――「アレク、パンチ効いてないよォ〜」はナイスアドバイスですよ（笑）。

サスケ　いやいやいや、ホント、効いてないですしね（キッパリ）。もうちょっと時間が欲しかったね。あんなのアレクだったらチョチョイのチョイですよォ〜！　ところでさ、タマリンちゃんはここ最近のみちのくプロレスってどう思ってるのか聞かせてよ。

――あの〜、正直に言ってワタシはみちのくプロレスをず〜っと見てきて興奮冷めやらぬっていうくらいの、ドキドキ感って薄れてきたと思うんですよ。

サスケ　（すかさず）そう！　ホントそうなんだよね。前は多少なりともあったと思うんだよね……。ここ数年とんとご無沙汰なんだよね。（頭を抱えて）う〜ん。常に後ろばっかり見てるんですワタシ。みちのくプロレスは立ち止まってる状態なんだよ。

※またもや、ここで東北のダークヒーローに変身したため大幅に省略。

――そんな、社長がマット界を燃え上がらせさないでどうするんですか！

サスケ　カモン！　♪ア〜チチアチッ〜♪（ヒロミ・ゴー大熱唱！）

――ギャハハハハハ！　格好良すぎて、ひきつけおこしそうです（笑）。

サスケ　よ〜し！　『J―CUP』を機会にもう1回みちのくプロレスは攻めにでないと、ん〜〜ねっ？

――モチのロン、そうですよ！　あっ、そういえばMEN'Sテイオーさんも出るんですよね。

サスケ　アレレレレ？　結局みちのく多いな。やばいぞ、これ！（笑）。

――だからみちのくにゆかりがあるって言ってたじゃないですか（笑）。でもそれだけジュニアはみちプロが引っ張っているっていう証拠なんですよ。

サスケ　モチのロン！　そういうことだな。こうなったらオレはタイガー連れて山篭りするよ！　ちまたではさ、なんかライガー秒殺とかって騒いでるらしいけど、うちのタイガーにはライガーさんはとんだとばっちりを受けるんですよォ〜。ガハハハハ！

――シューティング出身ですから、佐藤ルミナのごとくタイガーさんが逆秒殺！

サスケ　ルミナ？　し、知ってますよォ〜（推測すると知らないご様子）。そう、タイガーの秒殺ですよォ〜！　オレね、今わかった！　ど〜〜う予測してもオレの優勝だよ！

――おぉおおおお！　今日1番の力強さを感じます（笑）。

サスケ　もうね、ライガーでもタイガーでもカモン！　（こそっと）タマリンちゃ

みちのくプロレスは立ち止まってる状態なんだよォ〜!!

THE GREAT SASUKE

3・25頃「情念」発売

「これは猪木さんへのラブレターもあるんだよ」という石川社長。社長がお子さまにワープロの電源を抜かれまくっても情念で書き上げた素晴らしい本です。

J―CUP抽選会

『J―CUP』選考委員会によるカード抽選会も同時に行われ、パーティー参加者はトーナメント表を前に各自決意表明を発表した。

（写真左）真樹先生も颯爽と参上！　「今、新宿でビデオの撮影してたらパトカー来ちゃって遅れたんだよ！」など、カッコイイ発言目白押しでした。（右下）「プロレスに入って成長したのはバトラーツさんのおかげです！　これからもお世話になります!!」とバトに継続参戦表明した場外乱闘王、村上一成は会場にいるレスラーたちから「よっ、変態！」と呼ばれてました（笑）。（下）「来ちゃった」とフラリ現れたＴＡＫＡの号令で、サスケの前にズラ〜ッとレスラーたちがビールを注ぎに並び、サスケをホロ酔いにさせて「カッカッカ！　これぐらいしねぇとな」との一言。この後、浪花のマスクを剥いでみたり……たいへんな暴れん坊でございました。

ザ・グレート・サスケ　デビュー10周年
&石川雄規　自伝出版　記念パーティ

オレがやらないとマット界は動いていかないんだよ！

ん、これは内緒だよ。実はオレが優勝したらUFO降りてくるから！

——ギャハハハハ！ 両国でドキドキどころか、連れ去られるかもしれないんですね（笑）。

サスケ 未知との遭遇ですよ！ それこそが聖書の予言だぁああああ‼ 聖書の最後の最後に、獣と神の闘いがあるんだよ！

——獣と神といえば対戦相手は？

サスケ モチのロン、獣神サンダーライガーですよォ～‼ それがライガーとオレの最後の闘いになるわけ。これがハルマゲドンですよォ～！

——ギャハハハハ！ ハ、ハルマゲドン‼ でもおかしいなぁ～、さっきまでタイガーが勝利と言ってましたよね？

サスケ （全然聞く耳持たず）２０００年4月ですよォ～！ ハルマゲドンはオレの予言通りに起こります（キッパリ）。そしたら、両国は矢追純一さんが立ち会い人ですよォ～。高田ノブ兄さんにも見ててもらわなくちゃ。ん～ねっ。ムフフフフフフフフ。

——でも、ライガーさん佐野さんのベテラン勢からカレー・マンまで……ということは社長のキャリアってちょうど真ん中……あっ、なんだぁ～、会社でいう中間管理職の悩みなんですね。

サスケ ガハハハハ！ プロレスラーがサラリーマンになっちゃイカン！ ホント、サイクル早すぎるよ～。ちょっと待ってよ、プロレス界‼

——やっぱり、蘇れ、サスケ伝説を！ そして辻さんにもヒャッホーをもう1度（笑）。

サスケ ヒャッホーーーー！ そうだよ。やっぱり、オレだよ。オレがやらないとマット界は動いていかないんだよ！ 少なくてもジュニアはそうだよな。これは、忙しいとか言ってる場合じゃないな。オレがやらないと始まらないんだからさ‼

——アチチ（笑）。モチのロンです！

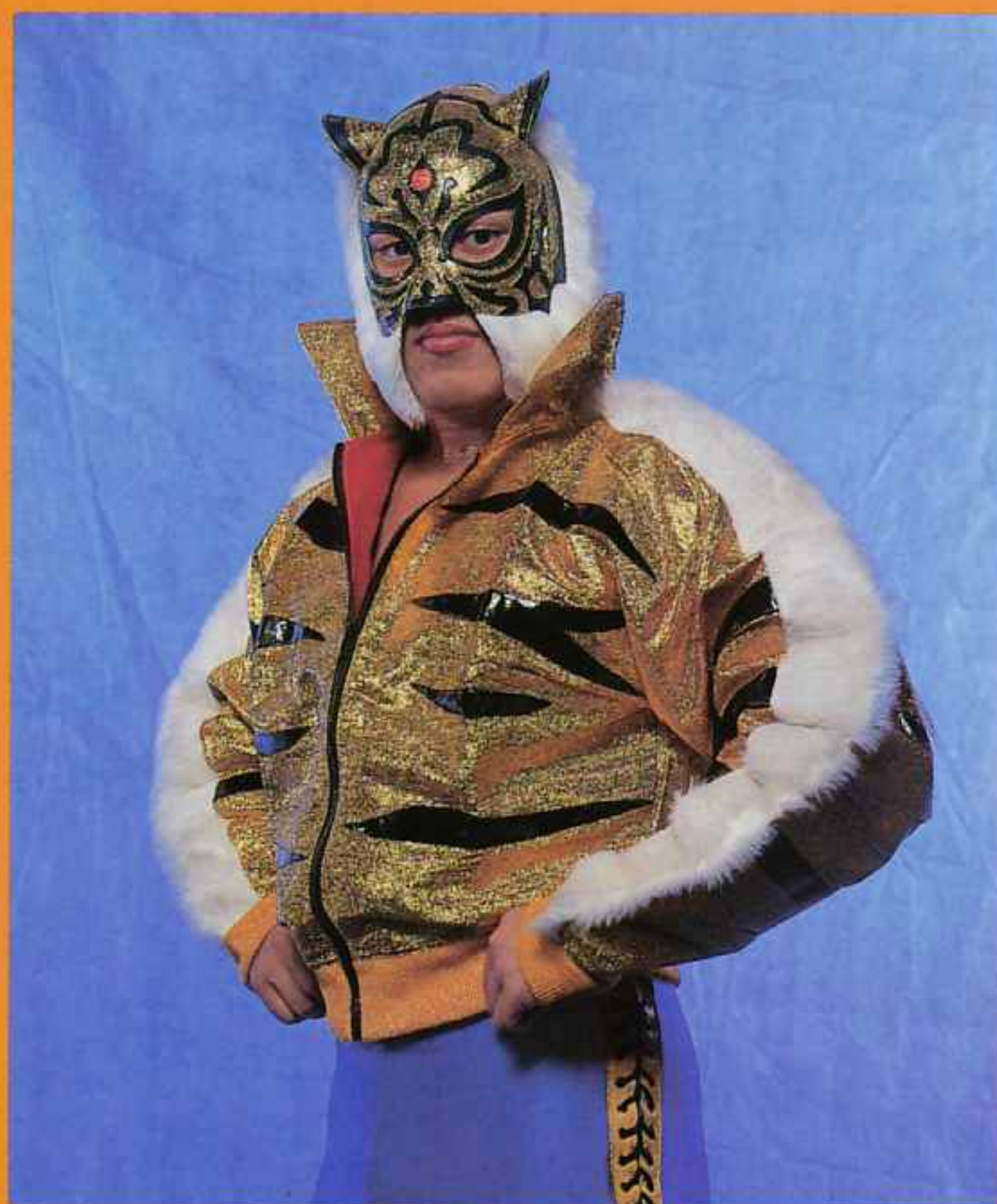
【3月5日、ドーミーヴァラ浅草1Fの食堂にて収録】

このインタビュー中にもいつもに増してパワーアップ！ すっかり、元気を取り戻したサスケ社長。これで、俄然『J—CUP』が盛り上がりを見せることは間違いなし！ その言葉通り、獣と神との最後の闘いが勃発するのか？

両国に神が舞い降りるか？

それはサスケのみぞ知るハルマゲドンである。

※3月12日入稿直前にバトラーツJJC代表枠が決定！ 出場選手はバトから田中稔、臼田勝美、日高郁人、武輝道場から望月成晃、闘龍門からSAITO、チヨコボールKOBE、DDTから佐々木貴、そしてフリーのアジアン・クーガーの8選手によるトーナメント。ここで、まさに伝説が生まれた‼ 優勝最有力候補であり、新日本プロレスを湧かしている田中稔が敗退し、決勝戦は日高郁人vs臼田勝美という純粋バチバチファイトで行われ、本誌23号でバーリ・トゥード出撃宣言！を吠えまくった臼田勝美がいぶし銀ぶりを発揮し、最後の『J—CUP』枠をGETした！

THE GREAT SASUKE

タイガーマスク

大阪プロレスはバ～カ！ あっ、また言っちゃった（笑）。サスケさんは謝りましたけど、ボクは謝らないよ～ん。（週刊ファイト誌上でタイガーが大阪プロレスについて辛辣な発言をし、それを受けてデルフィンも反論。誌上バトルとなった）『J—CUP』前になんか問題起こしちゃってね（笑）。余計なことをボクが言ったばかりにドロドロしたものを見せちゃって、みちのくプロレスのファンの皆さまには申し分けないと思ってます。でもさぁ～、大阪プロレスは、向こうが謝らない限りなんでオレらが頭下げなといけないの？ な～んにも悪いことしてないのにさ。あんな怒ることってないよね。怒るんなら、リングの上で勝負しろ！ってことだよね。『J—CUP』に出ればいいのにさ。オレはね、ファンの代わりに言ったまでだよ。そういう風に思うファンの代弁者！ でも、『J—CUP』っていう大きな闘いに気合いも入ってますから、初出場でこんな大きな闘いだからね。挑むからには、普段みちのくでやってる力以上ってことは絶対ないですけど、みちのくと同じように出せればOKですよ！ ノー問題。（1回戦でライガー選手が決まりましたけど）ライガーさんとは早かれ遅かれ当たる機会がきたんですよ。ってライガー、タイガーってうまくいきすぎだよ（笑）。ボクは個人的には佐野さんが第一希望だったんですけど……。まぁ、とにかくライガーさん乗り切っちゃえば、トントント～ンと優勝しますよ！ だからその時は『紙プロ』誌上初、なんと30ページタイガーロングインタビュー決定！ ヨロシクお願いしま～す!!（佐山先生口調）

…………。

オレが出るのは当然だよなぁ～。マネージャーがJカップなんだから。

サスケ・ザ・グレート

『紙プロ』太鼓判！ 『J―CUP』を引っかきまわすのはこの3人だ！

モチのロン、去年に開催された『ふく面ワールドリーグ』覇者タイガーマスク。とにかくタイガーの話は聞きたい‼ とコメントをお願いすると、のっけから大阪批判大噴火！ その勢いを『J－CUP』で見せてくれ、タイガー！ そして、初出場の闘龍門2選手。マグナムは『J－CUP』開催が決定した時、一番最初に出場を名乗り出た男である。さぞかし、威勢のいい言葉も飛び出るのか!? と期待に胸を膨らませたのだが、マグナム流の謎かけ返答。だが、心の奥底にはひしひしと熱いものがみなぎっていることは確かである。最後の1人CIMAは当初、『J－CUP』に関してはノーコメントを貫き、「何も語らないことで汲み取ってくれ」と宣言されたが、マグナムのコメントを報告すると本誌連載原稿の片隅にメッセージを添えてくれた。とにかくこの3選手は今年もジュニアマットの台風の目になることは間違いナシ！

CIMA

マグナムはホンマ、なに言うとんねん！ オエェ～～～、気色わるぅ。えーっと、『J-CUP』のことやったな。両国にはクレイジーMAX全員で乗り込むから。えっ!? 試合に関して？ この闘いが終わったら勝っても負けても、今まで生きてきた22年間全てを話す！ 何もかもぶちまけたるから、世紀末の特急列車クレイジーMAX・CIMAの発言をよ～～く、聞け！ ほんで、オレの連載を見ろ！（ゴメンゴメン見てな）

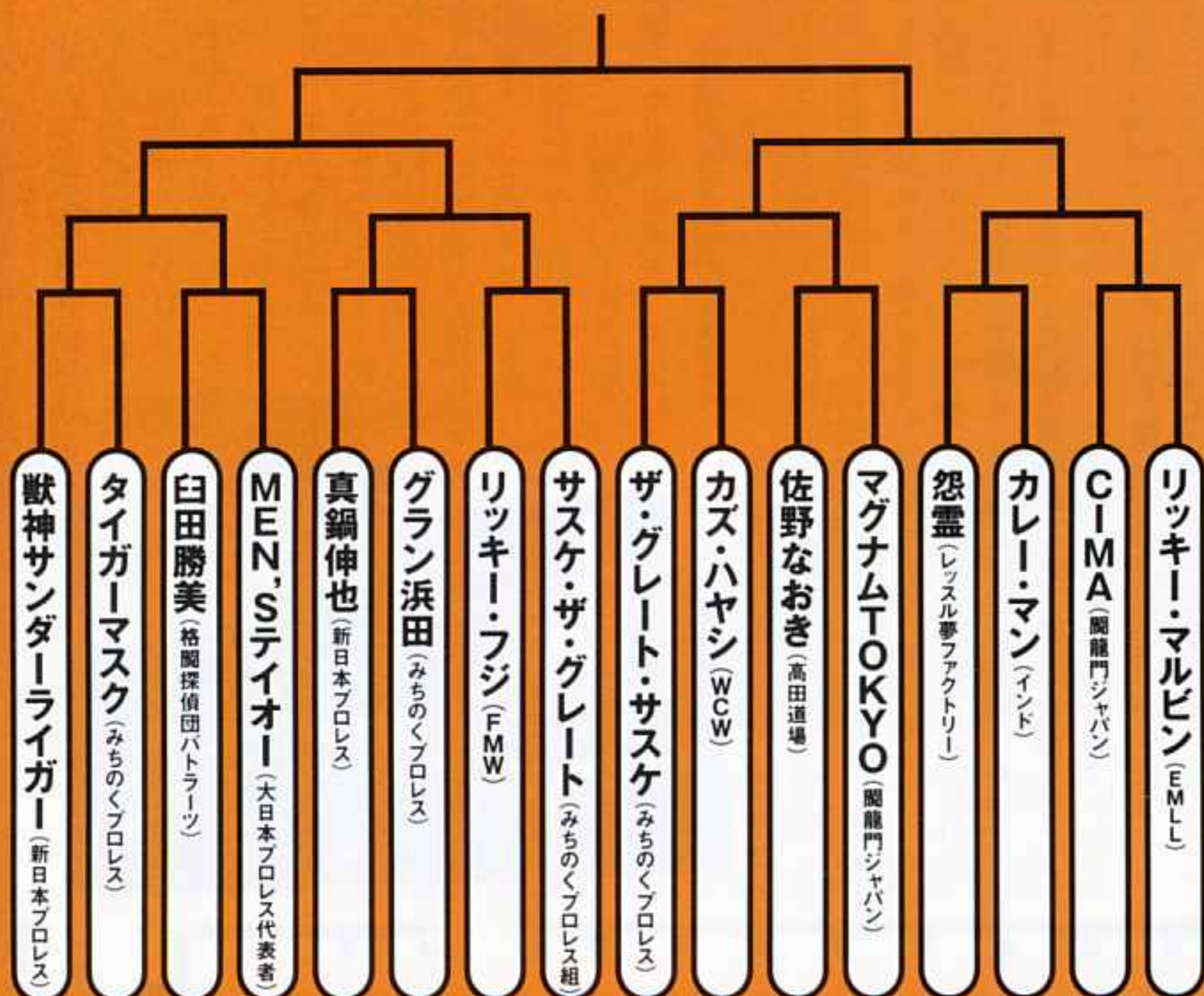
マグナムTOKYO

大阪プロレスはねぇ、ってオレはタイガーかい!? ボクはTOKYOだからね。あ～、『J-CUP』ねぇ～。『J-CUP』に出るって、念願叶ったら別にどーでもよくなっちゃいました（笑）。ガハハハハハ！ まぁ、闘龍門からはCIMAも出るんでアイツに頑張ってもらって（笑）。マグナムTOKYOはお祭り男だから、出ることに意義がある！ だから、よく飲み会の時は「アイツが必要だ」って言われるのよねぇ～。なんでも、盛り上げる人間が必要なんだよ。だから、合コンにはオレを呼べ！ ガハハハハ。オレは『J-CUP』でもガンガン踊りまくりですよ！ （1戦目は佐野選手に決まりましたけど）なんでなの？ オレくじ運悪りぃ、ガハハハハハハ！

『紙プロ』推薦！ 『J―CUP』に異風を吹かすのはこの4人だ！

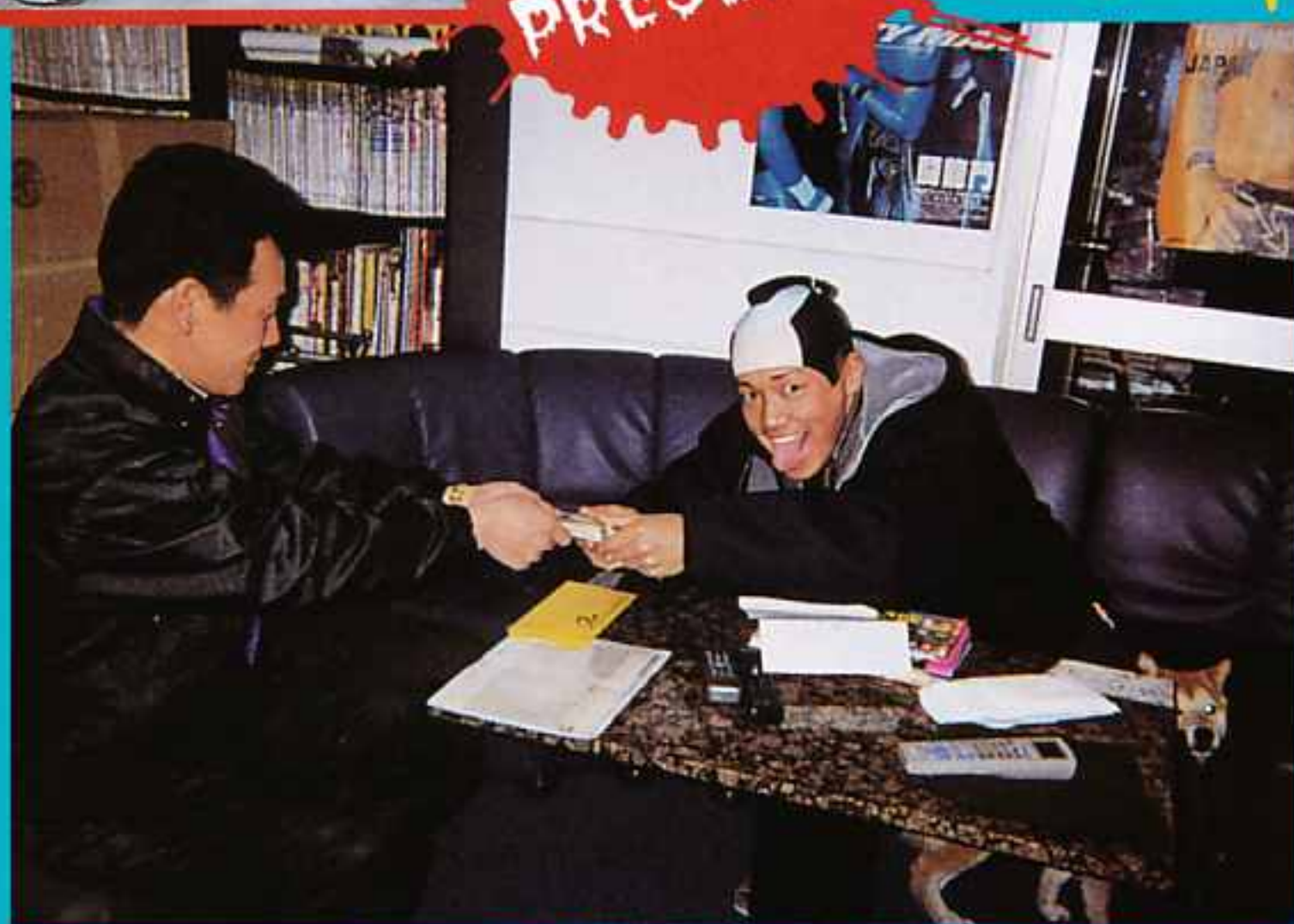
去年みちのくプロレス大量離脱の後、ニセ者軍団を結成し暴れまくったサスケ・ザ・グレート。誰も知らない間に記者会見会場をフラリと散歩する謎多き怨霊。ミスターロックンロール、リッキーフジ。そして、久しぶりにみちのくプロレスに登場するMEN'Sテイオー。個性大爆発&複雑怪奇なこの選手を注目せずには『J－CUP』は見れないのだ！

[SUPER J-CUPトーナメント表]

- 獣神サンダーライガー（新日本プロレス）
- タイガーマスク（みちのくプロレス）
- 臼田勝美（格闘探偵団バトラーツ）
- MEN'Sテイオー（大日本プロレス代表者）
- 真鍋伸也（新日本プロレス）
- グラン浜田（みちのくプロレス）
- リッキー・フジ（FMW）
- サスケ・ザ・グレート（みちのくプロレス組）
- ザ・グレート・サスケ（みちのくプロレス）
- カズ・ハヤシ（WCW）
- 佐野なおき（高田道場）
- マグナムTOKYO（闘龍門ジャパン）
- 怨霊（レッスル夢ファクトリー）
- カレー・マン（インド）
- CIMA（闘龍門ジャパン）
- リッキー・マルビン（EMLL）

強力連載第2弾！ CIMAです。私にダマされなさい。

MAD SPLUSH POWER

CIMA（クレイジーMAX）PRESENTS

前回、始める前から増ページを宣言したにも関わらずそのままですんまそん。
で、次こそは装いも新らたに増ページいたします！ 乞うご期待！

オレ様はマイ車を購入したんや！ もちろん現ナマやでぇ〜。凄いやろ！ えらなったもんやな。ガハハハハハハ。うっとりするわ。

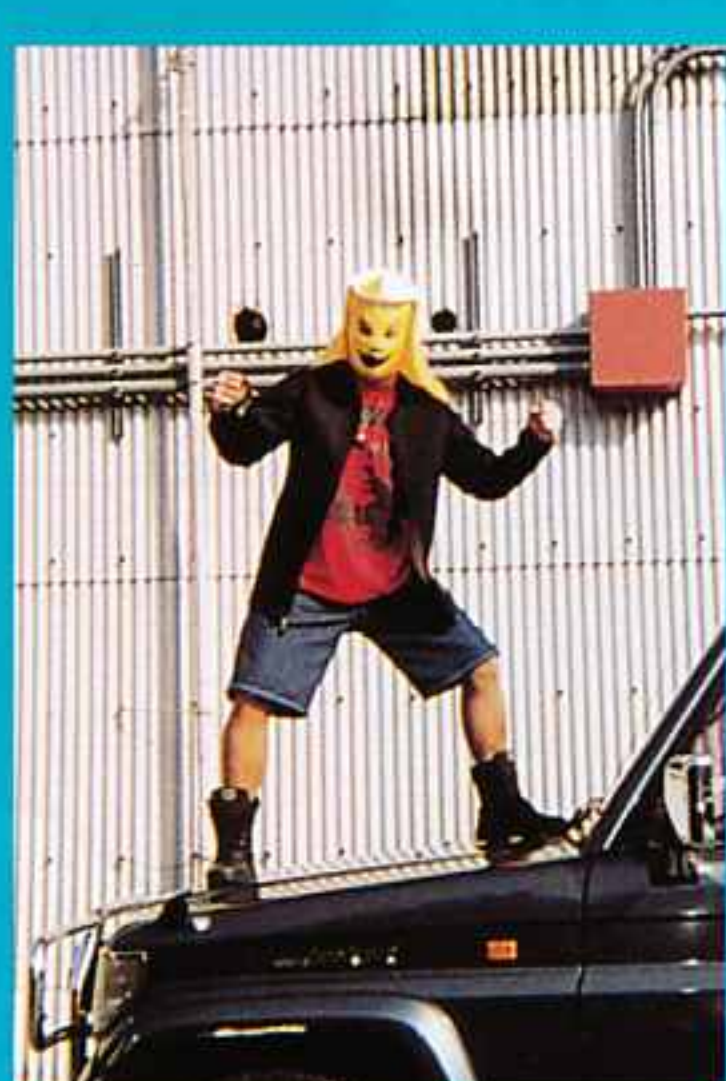
で、でも下の作文でも書いたように翌日にぶつけてもうたんや（泣）。ちなみに、昨日も車庫いれ失敗してもうてボロボロになってもうた、もうアカンわ。

オレ、久々にひらめいて漫画をかいた オレの漫画はよ〜く読むと奥が深いんや！

真樹先生、クレイジーMAX入り!?

行ってきました沖縄！ なにわのオレが南国やで。2/13『KASSIN〜合戦〜』を見てんけど、オレの席は真樹先生の真後ろやったんや！ めっちゃ緊張したで。ホンマ、ムエタイは感動したわ。そして試合後は夜の街へククククッ。

だから、腹いせに（合宿所のアイドル）モモにデスバレーボム狙ってやった！ モモは今、発情期でメシ食うててもさかってくる……かわいいやつや。

オレは悩んだ。そしてキラッとひらめいた！

カレー・マンに大変身や！ カレーの腕には『食べてぇ〜』って書いてあるのを知ってるか？ あれ、オレ様が書いてるんやで！ 年末のバトラーツ後楽園ホールにもわざわざ神戸からそれだけのために行ってやったんや。オレってなんて友達思い♥

『CIMAのCINEMAにヴィーナス』

※またもや、今回も何ごともなかったかのように、映画のことに関してはシカトを決め込んでくれたCIMA先生（自称映画評論家）。これはCINEMAじゃない!? けど今回はお兄さんにお子さま誕生ということで許す！

え〜っと、第2回目を無事迎えました『CIMAのCINEMAにヴィーナス』なんや！（アレ？ タイトルがなんかちゃうかも） 今回はスゴイ!! 久々にいい映画観てきたでぇ。その作品とは『シュリ』。これはエエでぇ！ 前回詳し〜く説明した（？）『男たちの挽歌』に勝るとも劣らない名作や！ ズバリ!! どれくらい感動したかって言うとやなぁ〜……この間久しぶりに実家に帰ったらナナナナ、ナント！ 兄貴に赤ん坊ができてたんや!! はぁ〜、ビックリしたでぇ〜。これで、オレも押しも押されぬ立派な〝叔父〟ってやつ（大阪弁でオッサン）になったわけでございます。もう、これからは子供みたいなことをしないように心がけま〜す。（兄貴（次男）おめでとう！ 今度からは頼むから教えてくれよ。あっ、でもオレ、兄貴のお嫁さんの顔知らんねんやった!?）

そうそうそう、去年からの大目標やった〝酒〟を覚えることに成功したで！ ふぅ〜、これにはホンマ苦労したわ。いっぱいある酒の中で、このオレ様が選んだのはちょっぴりキュートな〝カシスオレンジ〟。これは惚れた！ いや、惚れ直した！ も〜う、ベタ惚れ!! オレの酒はこれしかないわ。これから居酒屋&ラウンジ&カラオケBOX&文房具店……（ってなんでやねん！）などなど、どこへ行ってもこの〝カシスオレンジちゃん〟で勝負かけるで。ホンマこれ以上はナイ！ CIMAの勇気を持って初めての告白「大好き♥カシスちゃん（照）」。でも、ぞうさんの方がもっと好きです。これはTARUさんのネタでしたぁ〜、スイマセン。（TARUさんが、闘龍門のHPで松本引っ越しセンターのCM「きりんさんが好きです。もっとぞうさんのほうが好きです」っていうのパロったやつ。知ってる？ オレらの中ではかなり流行ったんやけどなぁ）

ほんで、スイマセンと言えばやなぁ、この前、友人の田宮くん（小学校3年生の時からの付き合い。今は2人とも大人になったからサウナで裸の付き合いなんや）のマンションに行った時のことや。車でビシーッと乗り付けたオレは駐車しようと思ったら車間が全然つかまれへんかって、バックしたら後ろにあった駐車止めの銀棒（鉄のやつって分かる？）にドカーンとぶつかり棒が無惨にも壊れてしまった。……ゴメンナサイ。やっぱり、駐車違反はアカン（って当たり前やっちゅうねん！）。「もう、2度とやりません（ペコっとおじぎ）」と心に誓った1日でした。

あっ、このコーナー『CIMAのCINEMAにヴィーナス』やった!? まぁ、とにかく映画はマジで面白いよなぁ〜、なっテッド（田辺）。

『シュリ』
監督：カン・ジェギュ
主演：ハン・ソッキュ
＊シュリ……朝鮮半島に棲息する魚の名前

しーま■本名・大島伸彦。大島家の三男。おとんの名前は孝。長男は康之、次男は健一って兄貴らは2人そろって健康やのに、なんでオレだけ伸びてるねん！ ▲沖縄土産『さとうきび』をこのコーナーの読者にプレゼントする！ 応募方法はP159を参照してくれ!!

お知らせ
クレイジーMAXと行く”メキシコ&アメリカツアー”開催！
異国で5ヶ月遅れのカウントダウン&新年会!? 日時：5月11〜16日（※締め切りは4月10日）お問い合わせ闘龍門JAPAN☎078-362-0707

春だ一番！

紙プロTシャツ スーダラ祭り開催！

スーダラとは？

アントニオ猪木に「闘魂」、石川雄規に「情念」があるように、「スーダラ」とは本誌鬼畜編集長・山口日昇の人生そのものである。どん底からの『紙プロ』旗揚げ、締め切り前の失踪、キャバクラ通い……その、周りのことは考えず、ただ刹那、刹那を燃やし続ければよいという生き様。それらを称していつしか人々は山口日昇をスーダラと呼ぶようになった。……スーダラは連鎖する！　いまこそ、スーダラで生きようぜ！　いきますか――ッ！　それ、スイスイス～ダララッタ、スラスラスイスイス～イっと。あれ？　お呼びでない？　こりゃまた失礼しました～！

FRONT / BACK

KING of MAGAZINE / KAMI-NO PRO-WRESTLING

KING OF MAGAZINE / SS ÜDARA TYLE

キング・オブ・長ソデ
スーダラ・スタイル 長ソデTシャツ
イラストby花くまゆうさく

¥4,500
◆サイズ／SorMorL
◆カラー／赤×白or紺×白
※この長ソデTシャツをお買い上げの方には、『紙プロ』特製ネックピースを全員プレゼント！

サイズ＼カラー	赤	紺
S	○	○
M	△	△
L	×	×

FRONT / BACK

新製品

燃える新製品
スーダラ・スタイル 半ソデTシャツ
イラストby花くまゆうさく

¥3,500
◆サイズ／SorMorL
◆カラー／赤×白or紺×白

お客様お問い合わせダイアル
(株)ダブルクロス
TEL.03-3403-5188

花くまゆうさく先生書き下ろし！
リングおじさん トレーナー
イラストby花くまゆうさく

カミノプロレスリング

¥5,500
◆サイズ／MorL
◆カラー／赤×白のみ

スタイリスト伊賀大介さんもお気に入り！
ジャイ子Tシャツ
イラストby中川雅博

¥3,000
◆サイズ／MorL
◆カラー／白orアッシュ・グレー

本誌の読者なら必携！
『紙プロ』ネックピース

¥1,200

スーダラな通販方法

希望商品の代金＋送料¥500（何枚でも：ネックピースだけなら¥300）を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）を明記したメモを必ず同封すること！　これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。通販以外では『チャンピオン東京店&大阪店』と札幌『リングパレス』で販売中なので、こちらもヨロシク！　こちらで買っても長ソデTシャツにネックピースがついてきますので、ご安心あれ。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
株式会社ダブルクロス
「スーダラスタイル」係まで

●先々月号に掲載したU.M.F.パーカー&Tシャツは大好評につき、通販での取扱は終了しました。両商品とも、チャンピオン東京店&大阪店で絶賛発売中です。

マットの界の1ヶ月丸わかり

紙の新聞

KAMI NO NEWS PAPER

(毎月22日発行)
発行所:(株)ダブルクロス

2/11 ↓ 3/10

創刊号

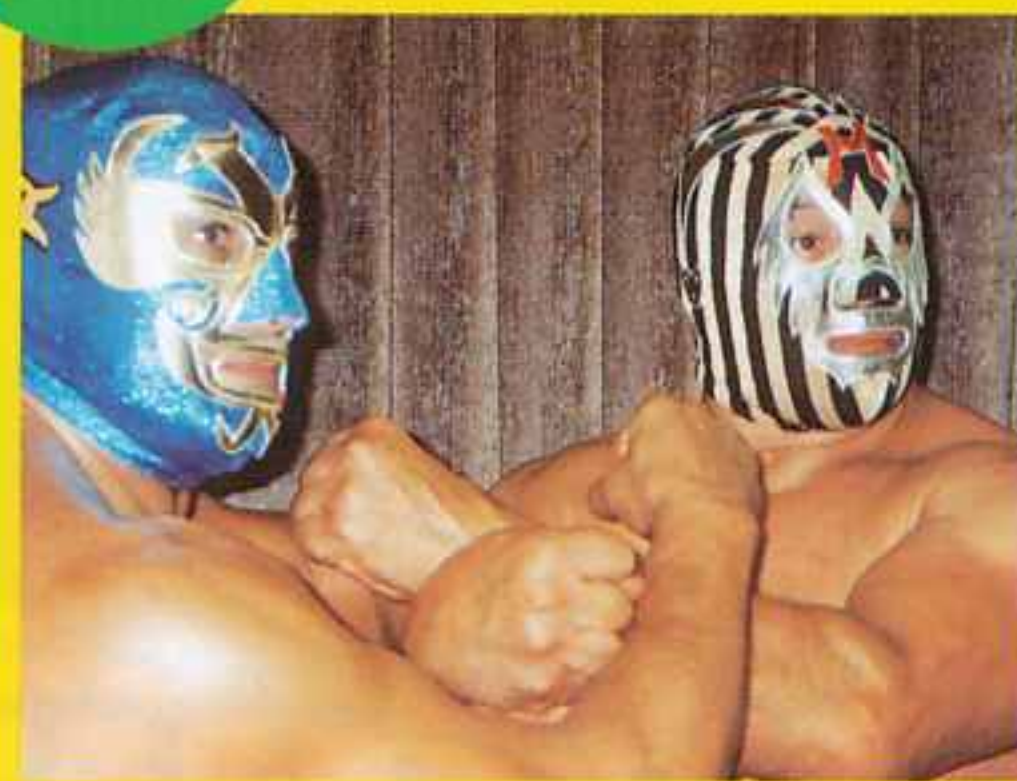
未曾有の他団体時代を迎えて久しいマット界。もはや情報をカバーするのは不可能とお嘆きのアナタに朗報！ 1か月の出来事が、ひとめで詳しくわかる『紙の新聞』がカラーで見やすく遂に新創刊！

編集長／堀江ガンツ

2/12 【新日本プロレス】
犬よさらば、「ブラックウルブズ」発進！

1・4ドームで蝶野が武藤に勝ったことに端を発する“黒の統一”。そのムーブメントはT2000がnWoジャパンだけでなく、あの”犬コンビ”までも吸収するに至った。このチーム再編成、2・20両国で本隊との10vs10マッチを行うためだけような気もしないでもないが、蝶野はすっかり乗り気。これまでの言動を棚に上げて後藤、小原に対し「“犬”だなんて失礼。彼らは狼に昇格」と勝手に「ブラックウルブス」と命名。しかし彼ら、2・6札幌で“狂犬隊”という後援会ができたばかりなのに……。

【全日】後楽園ホール、ベイダー&ウイリアムス組がノーフィアーを破り世界タッグの挑戦権を奪取。【バト】名古屋総合体育館第3・アレクがマスカラス・ブラザースとトリオを結成。

2/11 【格闘探偵団バトラーツ】クラブチッタ川崎
蘇れ！ 土曜ゴールデンタイム伝説！

蘇れ！ゴールデンタイム伝説！……とは銘打たれてないものの、バトバトマットに昭和の超大物マスカラス・ブラザースが初登場をはたした。マスカラスはこの日も昼のCMLLとダブルヘッダーを闘うなど元気いっぱい。池田、日高組を相手にマスカラスとドス・カラスが何を見せるか注目されたが、予想通り「ディス・イズ・マスカラス・スタイル！」とでも言うべき超マイペース・ファイト。お約束の“編隊飛行”を見せ、最後はフライング・ボディアタックでマスカラスが日高をフォールした。

【IWA】後楽園・浅野社長がデビュー、腕ひしぎ逆十字でフレディに勝利！ 【全女】後楽園・全女とJWP業務提携第2弾。提携に反対する堀田が造反、Jのヤマモ代表と乱闘。

2/14 【格闘女神ATHENA】お台場・フジテレビ7階屋上庭園
「キッスの世界」5月24日、CDデビュー

“進化する女子プロレス番組”（別名・拒絶反応のない「ギブUPアップまで待てない」）「格闘女神ATHENA」の極秘プロジェクトが、この日遂に公開された。ナナモモ&ミホカヨのCDデビュー！プロデューサーはつんく！ユニット名は「キッスの世界」！いやはやそれにしても、全女ファンには「ジャイアン級の歌唱力の持ち主」として有名なワッキーが、CDデビューするのだから驚きだ。ワッキーのパートの歌詞が「ほげ～」でないことを祈る！

2/13 【真樹ジム】沖縄・ダンスホール松下
青柳館長またもや「打倒プロレス」ならず！

「カキダミシ」に続いて沖縄で2度目となる真樹ジム主催興行「KASSIN～合戦～」がダンスホール松下で行われた。注目はカール・マレンコのVT戦。対戦相手は当初、外国人空手家を予定していたが、急遽、誠心会館青柳館長に変更。「打倒プロレス」に飽くなき執念をひたすら燃やし続ける館長が、43歳にして遂にVTでプロレスラーに挑むこととなった。が、両足タックルからの十字でわずか20秒で敗退。結局またもや打倒プロレスはならなかったが、悲願達成のその日まで今日も館長はのぼりを振り続けるのであった。

2/15 【FMW】熊本・八代市総合体育館
FMWの危機に、荒井社長立ち上がる

昨年11・23横アリでＦＭＷを追放になりながらも、大方の予想通り今年になってＥＣＷ－Ｊの一員として復帰した冬木。その勢いは昨年同様すさまじく、いまやＦＭＷは冬木、井上京子を中心としたＥＣＷ－Ｊに制圧されようとしてる。このポーゴ軍、プエルトリコ軍の驚異から脈々と続く、お馴染みのＦＭＷ本隊壊滅寸前という非常（日常？）事態に、荒井社長は急遽ＦＭＷ、ＴＮＲの全選手を召集。この危機を乗り切るために、両軍が大同団結するよう社長として強権を発動した。しかし、正直な話ディレクTVの総合こそ本当の危機だろう。FMWは大丈夫か？　ガンバレ荒井社長！

2/16 【PRIDE・GP】東京プリンスホテル11階「高砂」
サクvsホイス、藤田vsケアー決定！

『PRIDE.GP2000』決勝ラウンドの組み合わせが早くも発表された。今回は１・30ドームで行ったアンケートを元にカードを編成。注目のホイスの相手は当初は藤田が有力視されていたが、全体の過半数という圧倒的なファンの希望によりサクに決定した。ホイスが高田戦で道着で首を絞めたことが気に入らないサクは、この日の会見で「ホイスの道着をひっぱがして、パンツ一丁にする」と『週プロ』で対談した、ＴＮＲばりの陵辱処刑を予告。５・１ドームでキラー・サクが見られるか!?　またアンダーカードもアレク、佐竹、ケン・シャム絡みで豪華カードが噂されており、発表が待たれる。

2/17 【全日本プロレス】北海道立総合体育センター（きたえ〜る）
全日本が"新・北の聖地"こけら落とし

昨年惜しまれつつ閉館した札幌中島体育センターに変わって"新・北の聖地"となる「きたえ〜る」に全日本が一番乗りをはたした。１万人規模の大会場とあって全日側も気合いが入っており、小橋vsウイリアムス、川田vsベイダー、三沢vs田上、小川vs池田（Ｊｒ戦）という武道館以上とも思える好カードを惜しげもなく投入。8800人の大観衆を動員した。三沢社長は札止めにしたかったようだが、つい２週間前に新日本の札幌２連戦があったことを思えば、大健闘の数字と言っていいだろう。試合はベイダー、小橋、三沢、小川が勝利。これによって武道館はベイダーvs小橋（３冠戦）、三沢vs秋山に決定した。

2/18 【アルシオン】後楽園ホール
"メス犬軍団"矢樹広弓がJ－CUP参戦を希望

フリーの矢樹広弓が「ＳＵＰＥＲ　Ｊ-ＣＵＰ　３ｒｄ.ＳＴＡＧＥ」への出場を実行委員会に要請した。既に参戦を表明しているチャパリータＡＳＡＲＩとの対戦を希望しており、これは実現する方向で話が進んでいるようだ。ところでこの日の矢樹は、Ｃ・奥津と組んで玉田＆ＧＡＭＩの"メス犬コンビ（とホントに呼ばれているらしい）"と対戦したが、試合終盤で寝返り、まさかの"メス犬軍団"入り。衝撃のヒール転向を果たした。このように現在のアルシオンマットはチーム再編成の真っ直中。しかし、あの長い長〜いマイクアピールはなんとかならないものか。

2/19 【社会人レスリング】新宿・スポーツ会館
オープンやで、オープン！

この日行われた「全日本社会人オープンレスリング選手権」で、イーグル・プロモーションの島田宏（ちなみに第２代ＰＷＣ王者）が97キロ+級に出場。なんとグレコ、フリーともに優勝をはたした。最近はプロでは目立った活動のない島田だが、"アマレス幻想"を持って、ここは是非『ＰＲＩＤＥ』や『コロシアム2000』に出場してもらいたいものだ。またバトラーツ「Ｂ－ＣＵＬＢ」の井口摂コーチもグレコ54kg級で見事優勝。ちなみに、この強い井口コーチが熱血指導する「Ｂ－ＣＬＵＢ」では只今会員大募集中です。

2/20 【新日本プロレス】両国国技館
蘇る？　イヤーエンド・イン・国技館伝説

４・７ドームが金曜夜８時に生中継されることが発表され、わき返る館内。そこへ登場したのが我らがアントン。小川vs破壊王の正式発表を観客が望む中「小川と橋本のタッグ実現させたいと思いますが、いかがですか――ッ！」と伝説の「お客さんどうですか！」ばりのズレを見事に見せてくれた。そこへ辻アナが生意気にも「ファンは橋本vs小川戦が見たいんです」と猪木に意見。いくら正論でも「お前が言うな」である。ともあれ、こうしてオーちゃん＆破壊王の不思議タッグは動き出したのであった。

【全日】神戸ワールド記念ホール・ベイダー、ウイリアムス組が小橋、秋山組を破り第41代世界タッグ王者となる。

2/21 【力道山OB会&プロレス】
闘魂はジャニーズにまで連鎖する！

連日アントンが『東スポ』紙上を賑わせまくり、力道山というよりも、順調に「猪木祭り」への道を歩んでいる３・11「メモリアル力道山」。この日は大会オープニングでジャニーズＪｒ滝沢秀明が「国家斉唱」をつとめることを発表。この席上でタッキーは「ボクも試合に出たい」と仰天発言。単なるリップサービスかと思いきや、アントンは「お前がその気ならオレは受けて立つぜ」とばかりに、対戦をあっさり受諾。やれんのか――ッ！　ここまできたら大会名も「突然卍固めＬＩＶＥ」に変更すべきだろう。タッキーよ、猪木を愛で殺せ！（古舘アナ風）

2/22 【大日本プロレス】後楽園ホール
後楽園炎上「消防車呼んで！消防車！」

アーッチーチー、アーチーッ！　燃えてるんだろうか〜。なんて呑気に歌ってる場合じゃない！　シャドウＷＸがあわやＳｈｏｗ氏、もとい焼死寸前の事件が起こってしまったのだ。大日本・後楽園大会でＢＪグランプリの決勝戦として行われたシャドウＷＸvsＭ・サンプラス戦で、ＷＸが"ファイアーシャツ"着用でボディープレスを敢行したところ、火が消えず、ＷＸの上半身が20秒以上火に包まれ、消防隊、救急隊、警察が駆けつける事件が発生。ＷＸは幸い火傷だけですんだものの、デスマッチの問題点をさらけ出してしまった。

【新宿２丁目劇場】浅野社長がフレディにホースで水をかけられ、びしょ濡れ。

2/23

【島田裕二イベント】「場外乱闘とは何か?」ロックウエスト

場外乱闘王・村上　大ブレイクの予感

すっかりお馴染みになった、ロックウエストでの島田裕二プロデュースイベント。この日のゲストはＵＦＯの村上一成。本誌編集長・山口日昇もゲスト出演した。村上は慧舟會時代の話や、ＵＦＯ入りするまでプロレス嫌いだった話、「チンポ丸だし失踪事件」の話などを大公開して、大いに盛り上がった。リング上では恐いイメージの“テロリスト”村上だが、その愛すべきトンパチな素顔が知れ渡れば、大ブレイク間違いなしの逸材である。Ｐ137からのインタビューを読めぇぇぇぇ！

【大日本】小田原大会の試合前、前夜の“消防車出動事件”に関する緊急記者会見を行い、シャドウＷＸの１ヶ月の出場停止、小鹿社長の半年間給料50%カットの処分を発表。

【アントン劇場】新東京国際空港

破壊王、成田で大暴れ!

猪木がロスに“帰国”する度に成田空港で行われる恒例の記者会見、通称「アントン劇場」。この日の主役は破壊王。いつもどおり小川、村上が見送りに来たところに、破壊王が飯塚を引き連れ突如出現。猪木に「メモリアル力道山」での小川とのタッグ了承を報告。小川とも握手を交わし、すべてが丸く収まった。…と思った瞬間、破壊王は小川の頬に張り手！　「今のは挨拶だ、小川！」と絶叫してその場を立ち去った。どうなる３・11横浜！　となったところで今日のアントン劇場は幕。

【キングダム・エルガイツ】北沢タウンホール・初参戦のジョージ高野をＵＮＷ３・９後楽園で対戦するＳ・ジニアスが挑発。【浜口ジム】アニマル浜口ジム、ジム開き

2/24

【リングス】京王プラザホテル

KOKグランドファイナル前々夜祭

大興奮のＫＯＫグランドファイナル。その前々日に決勝トーナメント出場８選手を集めた、大会直前記者会見が行われた。会見では、『ゴン格』のクマクマンボ熊久保氏が代表質問する形をとった。その中で「賞金は何に使うか」という質問に対して、アイブルが「プレイステーション２を買う」と日本通をアピールすれば、コピィロフは「オランダの友達にプレイステーション２をプレゼントしたい」掛け合いで答え、こんなところでも“プロコン”を発揮する２人はやっぱり最高なのであった。

【ＪＰＷＡ】元ＦＭＷ営業本部長・高橋英樹氏が新団体「日本プロ・レスリング協会」設立を発表。

【パンクラス】ディレク・ティービー本社「ボードルーム」

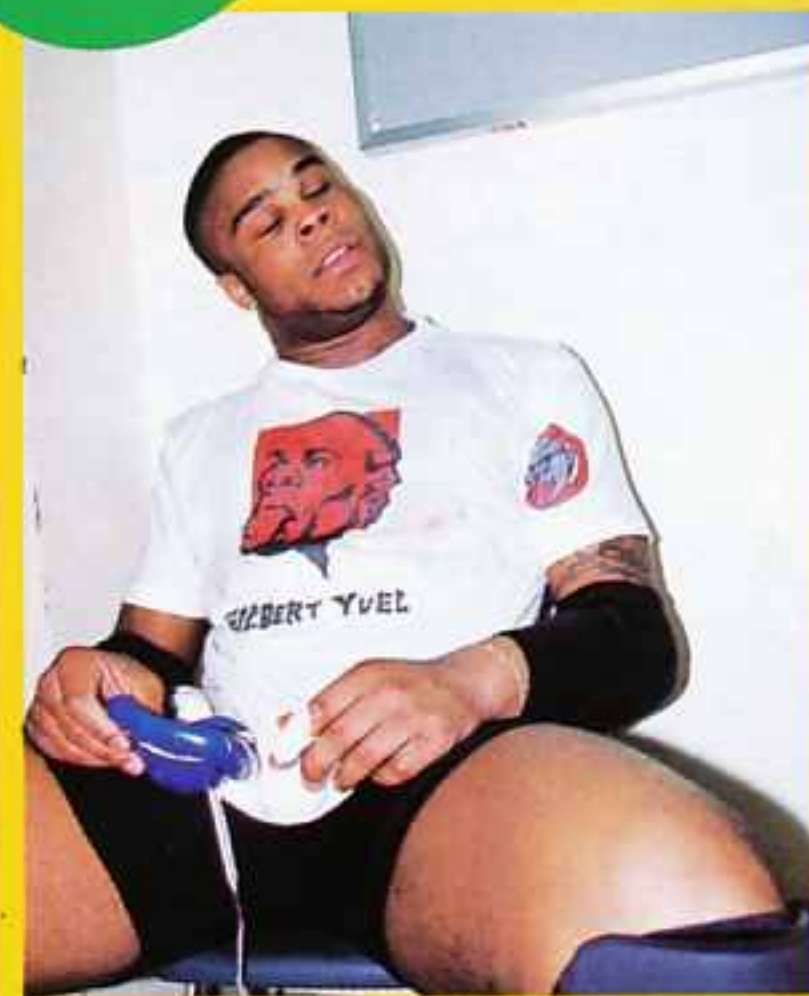
どうなるパンクラスとディレクTV

パンクラスとディレクＴＶの共同記者会見が、渋谷区恵比寿のディレクＴＶ本社で行われ、パンクラス４・30横浜から10大会をＰＰＶで生中継することが発表された。パンクラスファンには朗報……と思いきや、この会見の４日後にディレクＴＶがスカパーに合併されることが発覚。パンクラスの中継もどうなるか未定である。統合時期である年末をもって終了するのか、スカパーで再度放映されるのか、どうなる、どうなる、どうなる！　世の中どうなるだらけだ！（なつかしの拳磁調）

【バト&アルシオン】「Ｂ－ＣＬＵＢ」でアレク、府川、吉田の「チームいっこく堂」が合同特訓。

2/26

【リングス】日本武道館

ナチュラル・ボーン・アイブル

田村の歴史的勝利に沸く武道館に、ストーンコールドの入場を思わせるガラスの破壊音が鳴り響いた。そこにいたのはご存知Ｇ・アイブル。試合に負けた腹いせに武道館の一枚ガラスを正拳で叩き割り、手を切ってしまったのだ。相当悔しがっているのかと思いきや、試合後に話しかけてみるとケロッとしたもので「見てくれよ、さっきくれたＴシャツに血が付いちゃったんだ。凄く気に入ってたのに残念だよ」と試合前にプレゼントした中川画伯制作のアイブルＴシャツが血で汚れてしまったことに悔やむだけなのだ。そしてその後はリングサイドでラウンドガールのナンパに励むアイブル。やっぱりキミは最高だ。

2/25

【FMW】後楽園ホール

“ニッポンのチャイナ”井上京子、遂に王者に!

井上京子が冬木と組んでＨ＆雁之助を破りＷＥＷタッグのベルトを奪ってしまった。普通なら女が男のベルトを奪えば良識あるファンから、叩かれてもおかしくないことだが、男と比べても遜色のない肉体を持ち、“パンクラス越え”をはたした飲みっぷりを誇る京子に文句なんかあるわけもないのである。「強さ」に関しても、オカマとはいえ現役バリバリのムエタイ選手とＳＢルールでガチンコをやってしまうのだからノー問題！　強くて、凄くて、面白い井上京子をボクは断然支持したい。

【「紙プロ」イベント】暗闇プロレス道場開催。ゲストはＴＫと坂田。140人（超満員）【ＦＭＷ】吾作改め工藤あずさ、お寒いデビュー

2/27

【全日本プロレス】日本武道館

全日本に小橋、秋山時代到来!

“分裂騒動”に揺れた今シリーズの全日マット。結局表面上は何事もなくシリーズが終了したわけだが、リング上は極めてゆるやかながら確実に風景が変わり始めている。メインでは昨年１月にベイダーに敗れて以来、ヒゲを伸ばしている小橋が悲願のベイダー越えをはたし、新時代到来を告げたが、ある意味その小橋以上に強烈なインパクトを残したのが秋山準。セミに登場しシングルで三沢を破ったという事実だけにとどまらず、試合内容、醸し出すムード、どれをとってもこの日群を抜いていた。ハッキリ言ってもう、秋山は王者になる資格が十分ある。

【パンクラス】梅田ステラホールにて菊田早苗が柳澤龍志に勝ちランキング入り。

【大仁田厚卒業記念プロレス】駿台学園高等学校体育館

邪道の高校生活はプロレスで幕

“邪道・高校生”として入試、高校生クイズ、修学旅行、ブレザー姿、数学のテストで90点など、数々の話題を提供してきた大仁田厚が１年間の高校生活を終えて、この日史上初「卒業記念プロレス」を行った。大仁田は２試合出場し、１試合目は担任の藤江先生と文字どおり師弟コンビを組んで、タニグチ＆クラスメイトの鈴木太一君と対戦。最後は鈴木君が寝返ったため、先生と高校生２人が寄ってたかって小学生（タニグチ）を痛ぶるという、シャレにならないシュチュエーションで幕を閉じた。

【ＥＷＦ】後楽園　大刀光「誇りＧＰ2000」で優勝。『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ』での汚名を見事返上……したのか？

2/29 【プロレスを面白がる会】
アラーキーが撮る、サクと藤田の夢スパー

天才アラーキーがプロレスラーを撮影した噂の写真集の制作発表記者会見がアラーキー、南部虎弾、サク、藤田、アレク、田中稔出席のもと行われた。会見の直前まで被写体となっていたアラーキーお気に入りのアレクは、会見中もヘア露出の大サービス。さすがはホモ雑誌掲載経験者である。注目の内容はヘアヌードあり、コスプレあり、と「神取忍写真集」や「藤波戦争」を超えるコクが期待できそうだ。それにしてもアラーキーを見ていると、つくづく「元気が一番」と思う次第なのである。

この日、写真集のタイトルは「格闘芸術」と発表されたが、アラーキーにより「格闘男」に変更になった。

2/28 【DDT】北沢タウンホール
TAKAみちのく"DDTの聖地"に登場!

ＴＡＫＡみちのくが『週プロ』インタビューでＤＤＴを罵倒したことから端を発し、ネット上での大論争に発展したＴＡＫＡとDDTの抗争。このネット上というあくまでヴァーチャルな抗争でしかなかったものが、三上恭平のプエルトリコでのＴＡＫＡとのノーピープルマッチを境に、現実の世界で動き出した。そしてこの日、遂にＴＡＫＡがＤＤＴの会場に出現、何も言わずに立ち去ったが、高木三四郎は「三四郎といくレッスルマニア・ツアー」でＴＡＫＡを追いつめると宣言。抗争の舞台はなんとロスへ移ることになった！

【大仁田】読売新聞に「大仁田卒業プロレス」掲載。

3/1 【新日本プロレス】
破壊王「いいとも」出演!

「時は来た！」破壊王が10年ぶりに「笑っていいとも！」のテレフォンショッキングに出演（ちなみに前回はアントン、破壊王、蝶野と３日連続でプロレスラーにつなぐという掟破りの友達の輪）。破壊王は期待通り、伝説の名盤「橋本元年」のジャケを彷彿させる超絶ファッションで登場。破壊王ファンはこれだけでお腹いっぱいだろう。話題は４・７ドームの小川戦が中心だったため、客席の反応はイマイチだったが、そこはさすがタモさん。誰もが密かに気になっていた破壊王の豊かな腕毛ネタ等で盛り上げてくれた。

【みちのく】名古屋市中村スポーツセンター・サスケ、デビュー10周年試合で師匠グラン浜田に敗れる。。

ここから3月だ
わかったか
コノヤローッ!!

3/3 【格闘探偵団バトラーツ】「B－CLUB」
「倒してない熊の毛皮を分けるな」ロシアの諺より

全日本３・11後楽園大会への出場が決まった池田大輔＆モハメド・ヨネの"モハメド・ボンバーズ"がアジアタッグ奪取に向けての公開練習を行った。ここでは「ふたりＳＴＦ」を始めとするオリジナル合体殺法を次々と披露。その破壊力は実験台のケニーのヘロヘロぶりが物語っている。ふたりはこの勢いにまかせて、アジアを奪ったあとの打倒ノーフィアーまでブチ上げた。……しかし、３・11は惜しくも敗戦。ノーフィアーへの道は険しい。

【バト＆アルシオン】石川社長、奥津、藤田愛（チーム・エロ三昧）合同特訓。

3/2 【日本プロ・レスリング協会】LLPW道場
甦る道場幻想　JPWA発進!

超硬派団体ＪＰＷＡが遂に動き出した。この日は初の公開練習として、埼玉県川口市のＬＬＰＷ道場に木村浩一郎ら「フジワラ・ジャパン」の５人が集結した。この５人は４・14後楽園の旗揚げ戦でアメリカとの全面対抗戦に出場するメンバー。練習は伝説の昭和新日道場、旧ＵＷＦ道場の流れをくむ藤原教室の厳しさそのもので、激しいグラウンドのスパー中心。本物のプロ・レスリングを見せてくれる期待を抱かせる内容であった。詳しくはＰ110からのチョロ入魂のレポートをどうぞ。

【コロシアム2000】船木がヒクソン戦に向けて高知県宿毛市で１ヶ月間の強化合宿スタート。

3/5 【みちプロ&バト】新宿・東京大飯店
石川雄規自伝ようやく発売(間近)!

サスケ社長デビュー10周年＆石川社長自伝出版記念パーティーが合同で、両社長に縁のある選手、関係者、ファンを集めて盛大に行われた。この席上で「ＳＵＰＥＲ Ｊ－ＣＵＰ ３rd ＳＴＡＧＥ」の組み合わせが、Ｊ－ＣＵＰ実行委員会の抽選にて決定。ライガーvsタイガー、サスケvsカズ・ハヤシが組まれるなど、１回戦の仙台から見逃せない。ところで石川社長の自伝「情念～夢一途なり～」はマジで素晴らしい出来なので必読。ワニマガジン社より1619円（税抜き）で3月下旬発売。

3/4 【全日本女子プロレス】横浜文化体育館
今なぜか堀田祐美子人気爆発!

噂の新ユニット「キッスの世界」がこの日、ついにデビュー曲「バクバクＫｉｓｓ」を初披露。プロデューサーのつんくがビジョンを通じてメッセージを贈り、「太陽とシスコムーン」が応援に駆けつけた。これを例に出すまでもなく、全女のビッグマッチを見ると「格闘女神ＡＴＨＥＮＡ」効果は絶大だとつくづく感じる。一言で言えば新しいファンが増えているのだが、特に女の子に絶大な人気を誇るのが、なんと堀田祐美子。選挙に出たときも、これぐらい人気があればねえ。

3・7 【K−1】3・19横浜アリーナ情報
松永、K−1で有刺鉄線デスマッチを要求！

オクタゴンに有刺鉄線バットを持ち込んだ男が、ただでＫ－１のリングに上がるはずがなかった。グレート草津Ｊｒの再デビュー戦（3・19横アリ）の相手に決定した松永光弘が、「草津もプロなら有刺鉄線デスマッチを受けろ」と無法要求。Ｋ－１ルールでの有刺鉄線デスマッチ実現が濃厚となった。Ｋ－１では以前、キモvsパトスミの金網戦（アルティメット）こそあるものの、有刺鉄線となると前代未聞。最初で最後となる可能性も極めて高く、これは見逃せない。松永よＫのリングを赤く染めろ！

●ロックウエストで"Ｓｈｏｗプレゼンツ"桜庭和志トークショー開催。

3・6 【WCW】
武藤、ムタとなってWCW入り

1・4ドームで蝶野の敗れて以来、欠場を続けていた武藤がアメリカに渡り、ＷＣＷと電撃契約。4・7ドームでＷＣＷのムタとして蝶野にリベンジマッチを挑むことが濃厚となった。ＷＣＷ入りした武藤は、早速Ｔ2000に対抗し新軍団作りに着手。まずは「チームＯＢＡＫＥ」に出向き、ＷＣＷ人気ナンバー1のゴールドバーグ、『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ』を控えたＭ・コールマンと手を組み、さらには闘病のため欠場中の"無我"西村修ともコンタクトを取り、新日逆上陸の準備を着々と進めている。

【新日本】後楽園　Ｐ・アグアヨ日本引退試合

3・8 【リングス】新東京国際空港
前田日明アブダビから帰国

「アブダビコンバット」を視察にＵＡＥに飛んでいたリングスＣＥＯ・前田日明がこの日、帰国した。アブダビではザ・シークばりのアラビアン・スタイルの装いで、王子の横で王家のイスに座り観戦するＶＩＰ待遇を受けた前田。まさに前田こそがキング・オブ・キングスである。肝心の選手発掘の方も、アブダビのトーナメントを制した大物のリングス参戦が早くも決定したという話もあり、王子との仲良しぶりを含め、これからのアブダビ効果に期待は高まるばかりなのである。

【力道山OB会&プロレス】新東京国際空港
Mr.ウォーリー、B・B・ジョーンズを引き連れ来日！

成田に降り立ったケイン風の覆面姿の2ｍを超える大男。「ビッグバン・ジョーンズ、略してＢ・Ｂジョーンズ」。3・11横浜で小川、橋本組と闘う天龍のパートナー、アントンが「あいつら（小川、橋本）がビックリするような奴を連れてくる」と言っていた「ビックリする奴」がこの男なのだ。覆面の大男が空港に出現したら、小川や橋本ならずともそりゃビックリするに違いないが、ホントにビックリしたのは、同じく覆面を被りＭｒ．ウォーリールックで登場してしまうアントンの姿なのだ。

【ボクシング】モハメド・アリの娘、デビュー以来4連勝をかざる。

3・10 【読売巨人軍】
清原戦線離脱、イッツ・オーケー!?

この日発行（3月11日付）の『東京スポーツ』のカラー最終面に「ケビンのせいだ」の大見出しを発見。このケビンとは、もちろん我らが「ケビンさん」ことケビン・ヤマザキのこと。記事の内容は、清原がオーバーワークで故障したのはケビンさんのせいだ、と巨人のコーチ陣が言っているというものだが、驚くべきはケビンさんの名前の浸透ぶり。スポーツ新聞やニュースでいまやすっかり有名人である。まあ、それもケビンさんにしてみたら、「ワカラナイ、ワカラナイ」でしかないんだろうけど。

3・9 【UNW】後楽園ホール
蘇れ！アーリーPWC伝説

本誌・チョロの迷リングアナぶりに沸いたこの日のＵＮＷ。メインではジニアスが自身がもつリアルワールド・ヘビー級、バージニア・ヘビー級という大袈裟な名前の2本のベルトを懸けて、ザ・コブラ（チョロは「ジョージ高野」とコール、なぜだ!?）と対戦。以前はＵＮＷの会場入口に「高野兄弟の入場を禁ず」という張り紙がだされたほど根深い因縁の両者であったが、この日は正統派レスリングで真っ向勝負。闘いを通じて遺恨を精算した。ちなみに結果はコブラのエプロン・カウントアウト勝ち（ルールによりタイトル移動なし）というNWA幻想あふれるものだった。は〜カックン。

3・11 3月11日【メモリアル力道山】横浜アリーナ
黒幕は誰だ!? 破壊王襲撃事件

前田日明狙撃犯・安生洋二が復帰したこの日、あの忌々しい事件を彷彿させるようなしないような事件が勃発した。村上による破壊王襲撃事件。この日村上は、破壊王が会場入りする際、後ろから不意打ち暴行。ナウマン象のように倒れた破壊王にＢ・キャットがすぐさま駆け寄ったが、気付けば額から大流血。なぜか3時間以上後のメイン開始時刻になっても血は止まらず、流血のまま入場。いい所なくＢＢ・ジョーンズに敗れてしまった。謎が多い今回の事件、黒幕は誰だ!?

【ガイア】後楽園・卑弥呼（北斗、尾崎、デビル）の横暴に、飛鳥が遂にクラッシュ再結成を決意。5・14有コロで実現濃厚。

番外情報 【G・O・D】活動第4段！（ママ）
矢口、愛の力で音楽業界に挑戦状！

矢口のバンド「スーパーラビット」が、矢口作曲のオリジナル曲で音楽コンテスト「ＡＸＩＡアーティストオーディション2000」の第1次、第2次審査を勝ち進み、遂に決勝まで進んだ！　決勝は3月25日。優勝すれば100万円！　これはまさに矢口GODのコンセプトであるところの「プロレスラーとして他のジャンルや一般社会への挑戦」である！　矢口ははたしてこの闘いを勝ち抜くことができるか!?　いくぞーッ！　イーチ、ニーッ、サン、愛ダー！

WORLD MEGA-PRESENT
OPEN TOURNAMENT

PRESENT of KINGS

「20万ドルやで、20万ドル！」今回はその名に恥じることはないPRESENT of KINGS。20万ドルプレゼントの謎が知りたければ、次のページがPRESENT of RINGSになっとります。

1名様 SIZE M

岡元あつこ着用『PRIDE』Tシャツ
ステキなフレグラが……。前号で杉作J太郎先生と対談してくれた岡元あつこお姉さま着用Tシャツ。当選者にはもちろん香りもお届けします!

世界最強のプレゼント伝説

各3名様

『PRIDE GP2000』Tシャツ SIZE L
『マーク・ケアー』Tシャツ SIZE L

各3名様

『殺りたい』Tシャツ SIZE L
『喧嘩世界一』Tシャツ SIZE L

各2名様

『PRIDE GP2000』ステッカー
開運桜庭ステッカー
桜庭和志応援タオル

『PRIDE GP2000』大会限定グッズをドカ～ンとプレゼント! さすがドリームさん素晴らしい国です。この中でも注目はサクグッズ。ホント! 開運をもたらしそうな笑顔の殿方じゃないですか? 5月1日、生サクから幸運をいただきにドームへ行きませう! お問い合わせ☎03-3552-6300
【ドリームステージエンターテインメント提供】

Dearアレク♥fromボブ

1名様 SIZE L

ボブがアレクへプレゼントしたボブチャンチンTシャツ
1・30『PRIDE GP』で熱～い友情が生まれ、お互いのTシャツを交換したアレク&ボブ。そのと～っても大切なアレクが貰ったボブTを(もちろんボブサイン入り)『紙プロ』読者のためにアレクが快くプレゼントしてくれました。と言うか、強行GET成功!
【アレクサンダー大塚提供】

KING of Dancing

各3名様 SIZE M

"ダイエットブッチャー&HINDU HURRICANE" Wネームアレク Tシャツ、『勝手にしやがれ!!』Tシャツ、『AO/DC』Tシャツ
イエローの『勝手に着やがれ!!』Tシャツは完全限定1000枚! どちらも(サイズSMLあり)通販オンリー。ということは世界最高速で売り切れ御免の可能性大デス! 〒101-0054東京都千代田区神田錦町3-14-12神田NSビル8F SRS・DX編集部『グッズ通販』係まで❶住所❷氏名❸電話番号❹希望サイズ❺アレクへのメッセージを必ず同封して現金書留で郵送してくださいまし。
【井上きびだんご提供】

PRESENT of RINGS

3名様

TK&坂田亘両選手サイン入り『KOK』ポスター

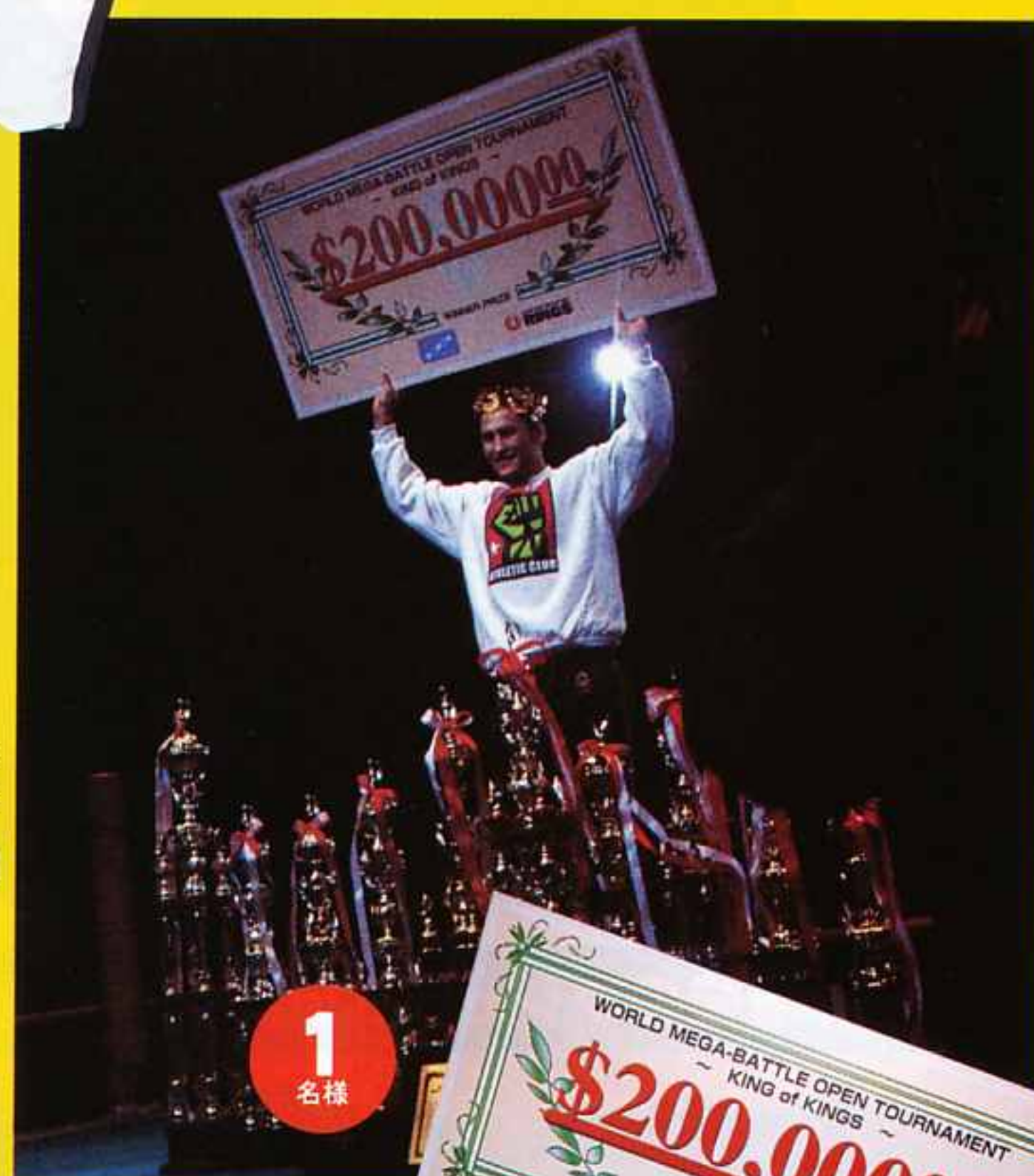
2月25日新宿ロフトプラスワンでの『紙プロ』イベント「暗闇プロレス道場」のスペシャルゲストとして登場してくれたお2人。この日はTKトークが大爆発で爆笑の渦でした。是非、ふみ様（TKのおかん）との親子出演を熱望します。

【リングス提供】

1名様

"ミスターKOK" ダン・ヘンダーソン サイン入りTシャツ

『KOK』覇者ダンが、なが〜い間着用していたTシャツをニコニコ顔でプレゼントしてくれました。ところで、東京ディズニーランドは楽しかったですか？

【ダン・ヘンダーソン提供】

1名様

$200000パネル

これは読者プレゼント始まって以来、最高の高額プレゼント!? ダンが掲げている20万$パネルをプレゼント！ 注意……決して20万ドルではありませんのであしからず。

【リングス提供】

各5名様

TKフィギュア、田村潔司フィギュア、山本宜久フィギュア

『KOK』で先行発売され、即ウレ大盛況だったこの3体のフィギュア。TKバージョンには手に取った人だけがわかる隠しキャラあり。ホント、3体ともニクイこだわりがあるのです。購入希望の方は数に限りがあるのでお早めに！ お問い合わせ☎03-5828-5243

【キャラプロ提供】

各1名様

ミック・クータジャーキャップ、RINGSキャップ、リングスネットワークキャップ

ミックと言えばヒジパットを忘れてきて、アキラ兄さんに怒鳴りチラされたことで有名な選手であります。そして、リングスネットワークキャップは我らがブラットコーラが、アメリカで勝手に作ってきたという、なんともステキな代物です。3つともレア過ぎます！

【リングス宮本さん提供】

MINORU of KINGS

3名様 SIZE L

藤田穣Tシャツ

3名様 SIZE L

田中稔Tシャツ

バトの稔&みちプロ権の両ミノル選手"ダブルみのT"がIVYGEARシリーズ最新作。今回特別に春一番ステッカーのオマケつき！ お問い合せ☎0568-31-0727

【IVYブックス提供】

KINGコブラ

1名様 SIZE M

ジョージ高野サイン入りコブラジムTシャツ

モデルのジョージもキメまくりのコブラジムTシャツ（¥3900サイズM、Lあり）。最新ジョージを知りたければ本誌コラムページでカルトな人気を誇る『THE・ジョージ秘宝館』を要チェック！ お問い合わせ☎03-3559-3358

【ムラトー・アーツ・ヒット提供】

OBAKE of KINGS

各2名様 SIZE L

チーム・オバケTシャツ

チーム・オバケTシャツが日本でも手に入る!? という情報を聞きつけ調査。するとなんと、バトラーツが独占輸入！ さすが、ステキすぎる探偵団です。お問い合わせ☎0489-63-0005

【バトラーツ提供】

邪道王

各3名様

大仁田厚卒業記念『邪道』Tシャツ&ネックピース

邪道Tシャツには"SUNDAI GAKUEN HIGH SCHOOL"の文字もバッチリ入っている卒業プロレス記念Tシャツ。藤江先生（大仁田くんの担任）の勇姿が今にもよみがえりそうです。そして新作邪道ネックピースは売れに売れまくり、残りわずかなところをGETしました。お問い合わせ☎03-5496-4900

【ダイプロデュース提供】

紙のプロレス RADICAL

No.25

2000年4月25日発行

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
スモーノブ
松澤チョロ
大西タマリン
堀江ガンツ
八木賢太郎(スノボ遠征中のため非番)

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
恒遠"おりこうさん"ツネ
中村愚乱
金田謙太郎
ジャイ子

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
ヒサくん
マツ
村松さん
セッキー
グッチー(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)

出前
出前持ち入江(TwoThree)

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
黒田史夫
戸成ぶつぞう
松本崇

試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定
林ヘックション一枝

日プロの社長って社長?
中村カタブツ君(37歳)

フィニッシュ
ツー・スリー/さおとめの事務所

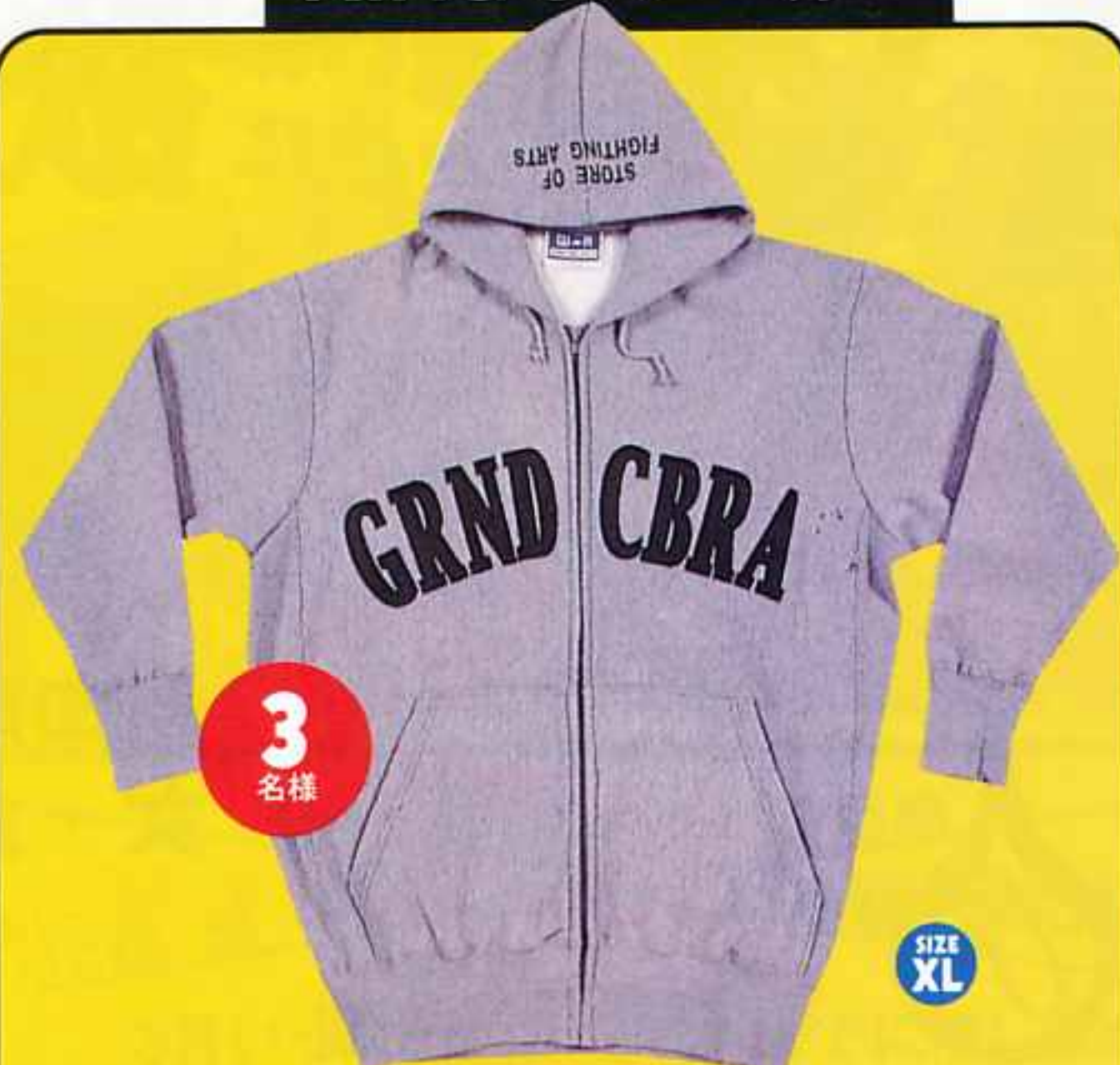
印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元
株式会社ワニマガジン社
〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911(販売・営業)

発行元
株式会社ダブルクロス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188(編集・制作)

編集内容等に関するお問い合せは
(株)ダブルクロスにするでごわす。はぁ〜、どすこい!!

KING of パーカー

3名様 SIZE XL

グランドコブラオリジナルパーカー

デカいスエットが爆発的に大人気! の今日この頃(らしい)、XL.XXLサイズ限定のオシャレなパーカー。ちなみに修斗リングアナの北森さんも購入されたそうです。お問い合わせ☎092-711-1021

【グランドコブラ提供】

スネイク of KINGS

1名様 SIZE M

UWFスネイク・ピットTシャツ

スーパーマンもビックリですが、やはり袖のUWFマークでしょ。これは泣かせます。もちろんビル・ロビンソン&宮戸先生も愛用されておりますす! お問い合わせ☎03-3337-1889 ジム生絶賛募集中!

【UWFスネイク・ピット提供】

KINGコング

1名様 SIZE L

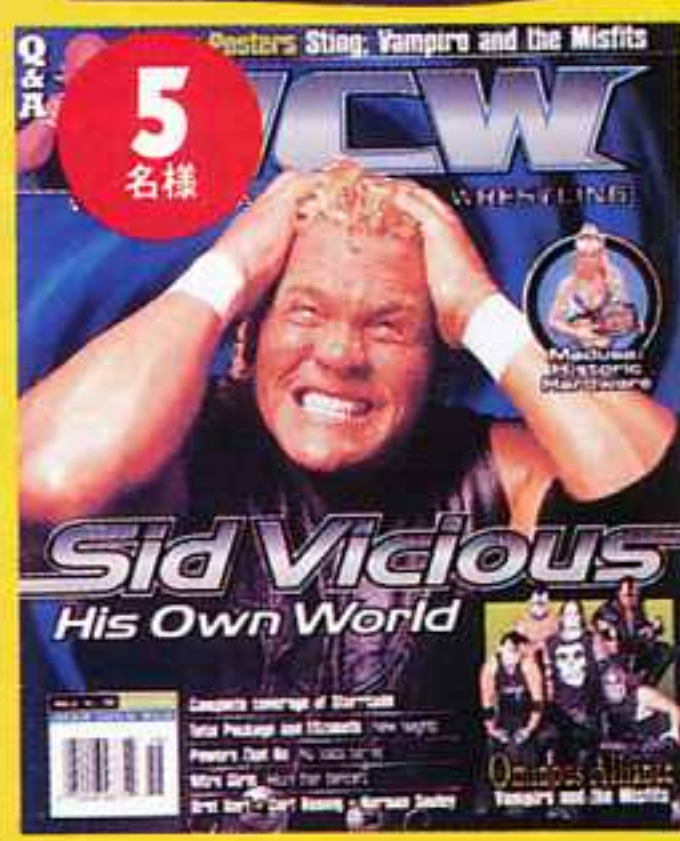
日高郁人パーカー

日高っちょパーカーを作っているお店『キングコング』は島根県益田市あけぼの東町8-1 ☎0850-23-7450※ZORLACのウエア多数あり! ちなみにこのパーカーは好評につき売り切れ、もう2度と手に入りません!

【日高郁人提供】

KING of Music

FRONT / BACK

1名様 SIZE M

ロードランナー&バウンティーハンターWネームミスフィッツTシャツ

5名様

WCWマガジン

Wネームシャツは本誌スーパーバイザー吉田豪の私物でしたが、今回おねだりしたら放出してくれました。心優しき金髪鬼ありがとうです。そして、そのミスフィッツが登場しているWCWマガジン。これは凄いです! もう、ミスフィッツに夢中になることは言うまでもありません。ちなみに音楽雑誌『DOLL』は読みましたか?

【吉田豪&ロードランナー・ジャパン提供】

KING of ステッカー

セットで3名様

バンバンビガロステッカー

キン肉マンTシャツも大好評! いつもいつもステキな洋服を展開しているバンバンビガロ。ホームページはhttp://www.bambam88.comです。お問い合わせ☎03-3460-1145 東京都世田谷区北沢2-33-11野崎ビル2F

【バンバンビガロ提供】

応募要項

希望商品が決まった方は、直ちにハガキに下記の要領で記入の上、送ってくださ〜い。

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼注目している団体(or興行)ってどこですか?

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「POK」係まで

※締切は4月10日です

Game of KINGS

3名様

任天堂64ソフト『バーチャルプロレス2〜王道継承〜』

「Fighting Game Of The Year」という格闘ゲーム最高峰の賞を2年連続受賞したバーチャルシリーズ待望の新作。全日選手が自分の手でひょいひょい技を繰り広げ王道が身近な物になったようなリアリティですよね。ネエネエ馬場さん♥

【アスミック・エースエンターテイメント提供】

大和魂グッズ、爆発!

5名様

大和魂ネックピース

首から大和魂。これはキーチェーン付きでとても重宝しそうな1品です。大和魂グッズ、まだまだ大爆発! 次回激レア格斗くんグッズ紹介しま〜す。お楽しみに。お問い合わせ☎047-378-6403

【イーフォース提供】

21世紀の下宿屋
B-FLATここに誕生!!!

バトラーツが生んだ夢のワンルームマンション

トゥナイト2で話題騒然
4・1オープン迫る

蘇るゴールデン下宿伝説!

~イカレ社長の『価格破壊宣言』~

驚きと感動のバチバチ価格
~~¥110,400(月額・税込)~~

3月いっぱいまでに申し込めば

月々¥79,800(税込)で
どーですかお客さん!?
いーち、にー、オープン記念 ダー???

コッ、社長!! それじゃ安すぎます!! byアレク

3/31までに申し込め!!

オプションとして朝メシ&夕メシ抜き? **¥59,800(税込)**タイプもあり!!

さらに、1ヶ月からの短期滞在も **¥99,800(寝具・テレビ・税込)**で可能だ!!

料金に含まれるもの

- ●朝夕2食付き ●ご飯食べ放題 ●牛乳飲み放題
- ●水道光熱費 ※電気利用料別
- ●電話基本料金 ●通話料金別
- ●共益費
- ●インターネット接続料 ●使い放題
- ●格闘技・プロレスファンにはこたえられないプレミア満載!!
- ●B-CLUB会員すべてのコース使い放題

バトラーツの世界征服計画進行中!!

B-CLUBとは?

◆プロレス界では最も早くアマチュアの育成に乗り出したバトラーツが、世界に誇るジム、それがB-CLUBです。越谷駅前徒歩30秒の理想的環境に新オープン!
◆第一線で活躍する田中稔、アレクサンダー大塚、日高郁人らが関節技や打撃技を親切に伝授する!
◆国体・オリンピック級のアマレス選手育成を目指す『情念クラブ』、現役選手が関節技や打撃技を直接指導する『グラップリング・クラス』、レスリングの動きで効率よく脂肪を燃焼させる『エアロレスリング』など、子供からお年寄り、もちろん女性も楽しく参加できるメニューが豊富!
◆入会金50%OFFキャンペーン実施中! まもなく終了、急げ!!
◆女性限定の『エアロレスリング』『スリムビューティーコース』無料モニターを随時募集中。モニターの方を対象に説明会&実践ダンスを行います。電話か、ハガキか、e-mailにてバトラーツ宛にお申し込みください。詳細は後日連絡。

【B-CLUB住所】埼玉県越谷市赤山町6-13—43
【TEL】0489-63-0005

田中稔をはじめ、所属選手が優しく指導します。女性でもバッチリ安全に関節技&護身術を学べるので大歓迎!

アレクをはじめ、実績と実力のあるアマチュア・レスリング経験者がレスリングを教えます。チビッコもカモン!

B-FLATとは?

◆世界で初めてプロレス団体がプロデュースした21世紀の下宿屋、それがB-FLATです。入寮生第1号のモハメド・ヨネも住みます! 憧れの選手と同じ空間で暮らそう!
◆ライフサポーター(マネージャー)夫婦が常駐しているので、女性の一人暮らしも安全です。さらに宅配便の取り次ぎなども安心!
◆B-FLATの大浴場で汗を流そう! 24時間使用可能なプライベート・シャワー室も自由に利用できます。大浴場は24:00まで使用可能。そして食事は23:30までOK!! さらに門限ナシ!!
◆月1回ビッグなゲストを招いて、ちゃんこパーティーなどのイベントを開催します。4月8日(土)には、B-FLAT内バトラーツ・ルームで入居者限定オリエンテーションを開催します。有名選手&有名人を多数ゲスト襲来!!

【B-FLAT takesato住所】埼玉県春日部市大畑7-3-6

選手と同じ環境に住める、世界で初めての下宿マンションだ! プロレスラーを目指すキミには最適!

大浴場で選手と一緒に汗を流そう! 憧れの選手と話し裸の付き合いが出来るファン垂涎の夢空間だ!

一人暮らしの住み替えや進学での上京にぴったりのワンルーム・マンションで、新生活を始めてみよう!

ゆったり6畳1間に家具・エアコン・電話・ベッドも備え付けです。パソコン本体やドリームキャストも格安で購入可能!

access

武里 東武伊勢崎線 越谷 南越谷 北千住 地下鉄日比谷線 秋葉原 至春日部 武蔵野線 地下鉄千代田線 西日暮里 水道橋 後楽園ホール 新宿 B-FLAT B-CLUB

★武里駅まで徒歩4分
★B-CLUBまで16分
★後楽園ホールまで46分

格闘探偵団バトラーツ 春一番の快進撃スケジュール!

『春の嵐~ミレニアム~』

3月25日(土)北海道・札幌テイセンホール(18:00)

モハメド・ヨネvs長井満也
石川雄規・佐野なおき vs A・大塚・村上一成
池田大輔vs臼田勝美
神取 忍・マッハ純二 vs 小野武志・KAW☆KAW

『情念シリーズ』

4月2日(日)埼玉・西武本川越ペペホール「アトラス」(17:00)
4月9日(日)神奈川・小田原川東タウンセンター・マロニエホール(17:00)
4月15日(土)静岡・アクトシティ浜松(18:00)

『MAY KING OF BATTLARTS』

5月11日(木)東京・後楽園ホール(18:30)
5月14日(日)新潟・新潟フェイズ(15:00)

●現地見学会を随時実施します!!

ご入居を検討中の方は、お気軽に共立メンテナンスまでお電話下さい

●B-FLATに関するお問い合せ、お申し込みは……
管理運営委託:株式会社共立メンテナンスB-FLAT事務局(安永・横山・丹羽)
TEL.03-5295-7815

●申込みも可能なB-FLATホームページも見ろ!
http://www.kyoritsugroup.co.jp/b-flat/

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 132
2000 NO.25
藤田和之、本誌初降臨！
前田日明プロデューサー本格デビュー!!
平成12年4月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体800円＋税

雑誌　69862-32
印刷：図書印刷株式会社
ISBN4-89829-613-0
C9476 ¥800E
9784898296134
1929476008008

TEL INDEX

団体名	電話番号	住所
全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町2-158-1
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
髙田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-50 K白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-362-0707	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505
世界のプロレス	093-203-5170	〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F-E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-244-8942	〒212-0055 神奈川県川崎市川崎区南町18-17 第5大昭ビル502
ZIPANG	0427-54-8851	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区4-4-5-311
日本プロ・レスリング協会(JPWA)	03-3351-2604	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-14-2F
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-3552-6300	〒104-0033 東京都中央区新川2-3-9 新川第二ビル
K-1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-3961-2704	〒173-0001 東京都板橋区本町34-4 石田コーポラス501
WK/Network(和術慧舟會、A^{3}GYM、RJW)	03-5200-3546	〒103-0021 東京都中央区日本橋石町3-3-11 山田ビル5F
シュートボクシング協会	03-3843-1212	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1～3F
UFC-J事務局	03-3343-2444	〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム2000	03-3482-1981	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd'	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	03-5759-1977	〒141-0013 東京都品川区五反田6-24-2-801

『紙プロ』(＝スモーノブ)はアナタしか知らない！

だから……

アナタ、ボコボコにするよ!!

(発売日当日の深夜、本誌スモーノブの携帯に電話をかけてきて)

エンセンが本誌の試合リポートに激高!!
ならば本誌は次号で
「エンセンvsマークケアー戦」が
〝単なるつまらない試合〟だったのか
〝非常にハイレベルな攻防〟だったのか
あらゆる角度から検証します!!

前号（NO.24）の発売当日の深夜、エンセン井上から、ボクに電話がかかってきた。

「もしもし？『紙プロ』のワタシの試合（PRIDE.GP、vsマーク・ケアー戦）の記事（P11）、書いたの誰？」

明らかに口調が怒っている。

「『紙プロ』のスタッフは、アナタしか知らないから、アナタをボコボコにするヨ－！」

ちょっと待ったぁ～！　冗談じゃない。何で、他人の書いた原稿でボコボコにされなきゃいけないいんだぁぁぁ!?

まず、エンセンが怒った試合レポートを振り返ってみよう。『紙プロ』読者でも読まないような小さなキャプションで「（前略）時間がない中で、猪木vsアリ状態に。誰もが、クートゥアー戦のときのように、エンセンが立ち上がって突っ込んでいくかと思ったが、エンセンはなぜか自ら立たなかった。大和魂、不発！」と書いてある。

後日、エンセンを取材する機会が最も多いボクがエンセンに会い、こちらの意図を説明するとともに何に怒ったのか聞いてみた。スペースの関係上、詳しくは次号でのインタビューに書くことにする。

そのやりとりの中で、「なぜか自ら立たなかった」という部分とファンのアンケート（P51）に対する反論は、こちらも考えさせられた。

「試合のリポートを書いた人、分かってないヨ！　ケアーはタックルに来るかも知れないし、あの状況じゃ立てないでしょ？」

たしかに一理ある。実際に闘っている現役選手のコメントを集めてみても「あの状況で頑張った」「エンセンは悪くない」といったコメントが多い。もちろん、そこには素人目にはわからない攻防があったからだ。

ただ、それがなぜ、観客に、本誌にも、そしてエンセン自身も「観客としたらつまらないと思うヨ」と言うほどの試合になってしまったのか？

バーリ・トゥードは、試合内容によって闘っている選手と観ている観客で大きな温度差が生じる場合がよくある。

現在のようなプロレスと格闘技がボーダレスな時代に突入すると、これまで本誌が一切扱ってこなかった「やる側」のための技術講座ではなく、「見る側」のための技術講座も必要なのではないだろうか？

というわけで、次号で「見る側のためのバーリ・トゥード技術講座」を開催します！　手始めに、賛否両論渦巻く、この一戦を多角的にブッた斬ります！（坂井ノブ）

PANCRASE

WRESTLING

"PUNK"RASE

NOT DEAD

"PUNK"RA" NOT DEAD

渡辺大介（わたなべ・だいすけ）
PROFILE■昭和52年1月5日、山梨県都留市出身。平成10年10月26日、東京・後楽園ホールにおけるvs山田学戦でデビュー。石井大輔、渡部謙吾らと共にパンクラス新世代を築くであろう期待のホープ。今後、リング上での暴れっぷりにも注目だ！

思えば半年ほど前、『紙プロ』20号のピンナップ用特写で実現したミスフィッツ（白塗りホラー・パンク・バンド）のジェリー・オンリーとAKIRA（ロビンメイクのムササビレスラー）という奇跡の"ツーショット"を、キミは覚えているだろうか？ 99年8月7日に富士急ハイランドで蝶野とメガデスが共演を果たした際、ビジュアル的なインパクトだけでバックステージで仕組んだこの強引なマッチメイク。そんなジェリー・オンリーがいまではWCWのリングに立ってスティーヴ・ウイリアムスと試合するまでになるのだから、つくづく世の中わからない。しかも雑誌『DOLL』では「プロレスには筋書きがある。しかしリング上では真剣勝負だ。なぜなら痛いし」という物騒なケーフェイ告白までブチかますようになるとは、決して誰も想像しなかったはずなのである。
さて、そんな彼らの来日公演では今年もやっぱり奇跡が勃発した模様。2月1日の渋谷クラブ・クワトロ公演にパンククラスの渡辺大介選手が来場していたのはボクも確認していたんだが、なんと翌日には渡辺選手が白塗りのミスフィッツ・メイクでステージへと登場！ さすが入場テーマにミスフィッツを選び、好きな有名人に鈴木あみと並べてミスフィッツを挙げる男なのだ。
まあ、『DOLL』でジェリーが「日本のレスラーで好きなのはハヤブサ。あと、名前は忘れたけど俺たちのライブに来てくれた選手」と発言し、名前すら覚えちゃいないことが発覚したのは非常に残念だが、そんなことはどうだっていい。おそらく美濃輪育久選手や渡部謙吾選手の影響なのだろうが、正直言ってまったくいただけなかったプロレスラーの音楽センスにオール・ザ・ヤング・パンククラスたちが革命を起こしていることだけは紛うことなき事実なのである。パンクラス・ノット・デッド！
（協力／ロードランナー・ジャパン、撮影／菊池"JONES"茂夫、文／吉田豪）

CAL CALENDAR

:30)

:30)

:30)

)

)

:00)

ス(17:00)

:00)

5 WED.

全日本■群馬・群馬県総合スポーツセンター(18:30)
FMW■北海道・虻田町洞爺湖文化センター(18:30)
大日本■愛知・名古屋市中村スポーツセンター(18:30)

6 THU.

全日本■群馬・前橋総合スポーツセンター(18:30)
FMW■北海道・岩見沢スポーツセンター(18:30)
Jd' ■東京・北沢タウンホール(19:00)

7 FRI.

全日本■長野・松本市総合体育館(18:30)
新日本■東京・東京ドーム(18:30)△
FMW■北海道・登別市総合体育館(18:30)
アルシオン■神奈川・川崎市体育館(18:30)
シュートボクシング■愛知・名古屋市公会堂(18:15)

8 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
FMW■北海道・函館市民体育館(18:00)
大阪■兵庫・神戸ファッションマート(19:00)
大仁田興行■三重・四日市オーストラリア記念館(18:30)
GAEA■埼玉・川越ペペホール(17:00)

9 SUN.

J－CUP■東京・両国国技館(18:30)🌀
全日本■宮城・宮城県スポーツセンター(17:00)
FMW■青森・黒石市中央スポーツ館(15:00)
バトラーツ■神奈川・川東タウンセンターマロニエホール(17:00)
大仁田興行■長野・上田市民体育館(18:30)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP&全女■東京・後楽園ホール(11:30)

10 MON.

LLPW■東京・大田区民プラザ(18:30)

11 TUE.

全日本■石川・石川県産業展示館(18:30)
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)

12 WED.

全日本■新潟・新津市民体育館(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:30)

13 THU.

全日本■千葉・船橋アリーナ(18:30)
夢ファク■東京・北沢タウンホール(19:00)

14 FRI.

JPWA■東京・後楽園ホール(18:00)♠
Jd' ■東京・板橋産文ホール(18:30)
●島田裕二プロデュースイベント■東京・渋谷ロックウエスト(19:00)　ゲスト　タノムサク鳥羽(二瓶組)　お問い合わせロックウエスト☎03-5459-7988

15 SAT.

全日本■東京・日本武道館(18:00)◎
バトラーツ■静岡・アクトシティー浜松(18:00)
大阪■大阪・なんばNGKスタジオ(19:00)
闘龍門■福岡・博多スターレーン(18:00)

16 SUN.

バトラーツ■埼玉・深谷市民体育館(14:00)
大阪■大阪・なんばNGKスタジオ(19:00)
闘龍門■大分・別府ビーコンプラザ(17:00)
LLPW■東京・ひばりが丘北口商店街(13:00)
Oz興行■東京・Zepp TOKYO(15:00)

17 MON.

闘龍門■熊本・グランメッセ熊本(19:00)
Jd' ■東京・大田区民プラザ(19:00)
(※予定)UFC－J■東京・代々木第2体育館(時間未定)♠

18 TUE.

闘龍門■鹿児島・鹿児島アリーナ(19:00)
JWP■東京・JWPホール(19:00)

19 WED.

DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)
LLPW■東京・後楽園ホール(19:00)

20 THU.

リングス■東京・代々木第2体育館　(時間未定)★△
DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)

21 FRI.

●島田裕二プロデュースイベント『PRIDEとは何か?』■東京・渋谷ロックウエスト(19:00)　本誌編集長、山口日昇も恒例出演イベントです。　お問い合わせロックウエスト☎03-5459-7988

22 SAT.

闘龍門■愛知・名古屋レインボーホール(15:00)
アルシオン■愛知・名古屋市総合体育館(18:00)

23 SUN.

バトラーツ■東京・TFMホール(18:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
K－1■大阪・大阪ドーム(13:00)

24 MON.

●紙のプロレスPRESENTS「暗闇プロレス道場」第2弾!
■東京・新宿ロフトプラスワン(19:00頃)
お問い合わせロフトプラスワン☎03-3205-6864

25 TUE.

闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)

29 SAT.

Jd' ■東京・後楽園ホール(12:00)

30 SUN.

パンクラス■神奈川・横浜文化体育館(16:30)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモー・ノブ
♠ 松澤チョロ記者
🌀 大西タマリン
△ ガンツ堀江

●はイベント情報です。

RADICAL CA

3 March

22 WED.

みちのく■山形・二川町町民体育館 (18:30)
闘龍門■福島・郡山市総合体育館 (18:30)
DDT■東京・板橋産文ホール (18:30)
大阪■福岡・アクロス福岡 (時間未定)
全女■福井・福井市体育館 (18:30)
シュートボクシング■東京・後楽園ホール (18:30)

23 THU.

みちのく■福島・原町市体育館 (18:30)
大阪■山口・海峡メッセ下関 (19:00)
全女■岡山・倉敷山陽ハイツ (18:30)

24 FRI.

全日本■東京・後楽園ホール (18:30)
新日本■新潟・苗場プリンスホテル (18:30)
みちのく■宮城・気仙沼市総合体育館サブアリーナ (18:30)
闘龍門■秋田・大館市民体育館 (18:30)
大阪■岡山・岡山武道館 (19:00)
全女■広島・広島県立総合体育館 (18:30)
アルシオン■和歌山・和歌山県立体育館 (18:30)

25 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール (18:30)
新日本■新潟・苗場プリンスホテル (18:30)
みちのく■秋田・秋田市立茨島体育館 (18:30)
バトラーツ■北海道・札幌テイセンホール (18:00)
闘龍門■盛岡・岩手県営体育館 (18:30)
大阪■大阪・なんばNGKホール (18:30)
大仁田興行■神奈川・茅ヶ崎青果市場 (18:00)
全女■広島・尾道市公会堂 (18:30)
Jd'■三重・四日市オーストラリア記念館 (18:00)
アルシオン■和歌山・白浜会館 (18:30)

26 SUN.

全日本■愛知・愛知県体育館 (17:00)
みちのく■青森・青森町民体育館サブアリーナ (13:00)
大日本■長野・三郷村文化公園体育館 (12:30)
闘龍門■宮城・仙台市体育館サブアリーナ (18:00)
アルシオン■和歌山・串本町立体育館 (18:30)
Jd'■大阪・なんばNGKホール (13:00) & (17:00)

27 MON.

FMW■東京・後楽園ホール (18:30) ◎
大日本■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール (18:30)
●CIMAトークショー■東京・渋谷ロックウエスト (19:00) ¥2000　特別ゲスト　スモウ・ダンディ・フジニ千　お問い合わせロックウエスト☎03-54559-7988

28 TUE.

FMW■長野・長野運動公園総合体育館 (18:30)
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ (19:00)

29 WED.

全日本■福井・福井市体育館 (18:30)
FMW■新潟・新潟フェイズ (18:30)
大日本■茨城・日立市池ノ川中央体育館 (18:30)

30 THU.

全日本■大阪・大阪府立体育会館 (18:30)
大日本■千葉・銚子市体育館 (18:30)
DDT■東京・北沢タウンホール (18:30)

31 FRI.

全日本■広島・広島サンプラザ (18:30)
FMW■福島・スポーツアリーナ相馬 (18:30)
大日本■岡山・卸センターオレンジホール (18:30)
全女■千葉・千葉公園体育館 (18:30)
LLPW■東京・板橋産文ホール (18:30)

4 April

1 SAT.

J―CUP■宮城・仙台市体育館 (18:30) ★
全日本■岡山・岡山武道館 (18:00)
FMW■神奈川・横須賀市総合体育館 (18:00)
大日本■神奈川・伊勢原食品市場 (18:30)
大阪■大阪・光明アムホール (19:00)
大仁田興行■静岡・アクトシティ浜松 (18:30)
全女■福島・会津若松市鶴ヶ城体育館 (18:30)

2 SUN.

全日本■和歌山・和歌山県立橋本体育館 (15:00)
大日本■茨城・鹿嶋市立体育館 (14:00)
バトラーツ■埼玉・西武川越ペペホールアトラス (17:00)
大阪■大阪・光明アムホール (15:00)
大仁田興行■石川・産業展示館 (17:00)
栗栖ジム■大阪・苅田土地改良記念会館 (13:00)
全女■岩手・二戸市体育館 (18:30)
修斗■大阪・大阪なみはやドーム (17:30)

3 MON.

FMW■北海道・Zepp Sapporo (18:30)

4 TUE.

FMW■北海道・Zepp Sapporo (18:30)

5 WED.

全日本■群馬・
FMW■北海道
大日本■愛知・

6 THU.

全日本■群馬・
FMW■北海道
Jd'■東京・北

7 FRI.

全日本■長野・
新日本■東京・
FMW■北海道・
アルシオン■神
シュートボクシン

8 SAT.

全日本■東京・後
FMW■北海道・
大阪■兵庫・神戸
大仁田興行■三
GAEA■埼玉・川

9 SUN.

J―CUP■東京・
全日本■宮城・宮
FMW■青森・黒
バトラーツ■神奈
大仁田興行■長野
IWA■東京・後楽
JWP&全女■東京

10 MON.

LLPW■東京・大

11 TUE.

全日本■石川・石
FMW■東京・後楽

12 WED.

全日本■新潟・新
修斗■東京・北沢

13 THU.

全日本■千葉・船橋
夢ファク■東京・北

14 FRI.

JPWA■東京・後楽
Jd'■東京・板橋産
●島田裕二プロデュー
ムサク鳥羽 (二瓶組)

15 SAT.

全日本■東京・日本